

StorageTek Enterprise Library Software

ELS コマンド、制御文、およびユーティリティー
リファレンス

バージョン 7.0



パート番号 : E28867-01
2011 年 12 月

このドキュメントに関するコメントは STP_FEEDBACK_US@ORACLE.COM に送信してください。

ELS コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス
E28867-01

Oracle は、このマニュアルを改善するためのコメントや提案を歓迎いたします。 STP_FEEDBACK_US@ORACLE.COM にご連絡ください。
タイトル、パート番号、発行日、およびリビジョンを含めてください。

Copyright © 2009, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。UNIXはX/Open Company, Ltd.からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

まえがき 31

このリリースの新機能 39

1. ELS コマンドのインタフェース 53

統合ユーザーインタフェース (UUI) のサポート 53

SMC コマンドのインタフェース 54

 コンソールからの SMC コマンドの発行 54

 SMCCMDS または SMCPARMS データセットでの SMC コマンドの指定 56

 JOBname、STEPname、PROCstep を指定する SMC コマンド 57

 ユーティリティーからの SMC コマンドの発行 57

HSC および VTCS コマンドのインタフェース 58

 コンソールからの HSC および VTCS コマンドの発行 58

 ユーティリティーからの HSC および VTCS コマンドの発行 60

 PARMLIB からの HSC および VTCS コマンドの発行 61

 HSC サービスレベル 63

2. SMC コマンドと制御文 65

ALLOCDef 66

 構文 66

 パラメータ 67

ALLOCJob 72

 構文 72

 パラメータ 73

CMDDef 76

 構文 76

パラメータ	76
COMMtest	77
構文	77
パラメータ	78
Display DRive	80
構文	80
パラメータ	81
Display RC	83
構文	83
パラメータ	83
Display Volume	85
構文	85
パラメータ	85
DRIVemap	86
構文	86
パラメータ	87
HTTP	88
構文	88
パラメータ	89
IDAX	91
構文	91
パラメータ	92
Llst	94
構文	94
パラメータ	94
LOG	96
構文	96
パラメータ	97
MONitor	99
構文	99
パラメータ	100
MOUNTDef	102
構文	103

パラメータ	104
MSGDef	107
構文	107
パラメータ	108
MSGJob	110
構文	110
パラメータ	111
POLicy	113
構文	115
パラメータ	116
READ	124
構文	124
パラメータ	124
RESYNChronize	126
構文	126
パラメータ	126
Route	127
構文	127
パラメータ	127
SERVer	128
構文	129
パラメータ	130
SIMulate	133
構文	133
パラメータ	134
出力	135
SMSDef	137
構文	138
パラメータ	138
STORMNGR	141
構文	141
パラメータ	142
TAPEPlex	143

構文	144
パラメータ	145
TCPip	147
構文	147
パラメータ	148
TRace	150
構文	151
パラメータ	152
TREQDef	155
構文	155
パラメータ	155
TAPEREQ 制御文	157
UEXit	164
構文	165
パラメータ	165
UNITAttr	167
構文	168
パラメータ	168
USERMsg	171
構文	171
パラメータ	171

3. HSC コマンド、VTCS コマンド、および制御文 173

ACTivities	174
構文	174
パラメータ	175
その他の JCL 必要条件	176
ACTMVCGN	177
構文	177
パラメータ	178
その他の JCL 必要条件	178
ARCHive	179
構文	179
パラメータ	179

ARCHive レポート	181
MOVEVTV レポート	184
AUDit	185
構文	186
パラメータ (実際のボリュームの AUDIT)	187
パラメータ (仮想ボリュームの AUDIT)	190
Audit レポート	191
BACKup	195
構文	195
パラメータ	196
その他の JCL 必要条件	196
CANcel	197
構文	197
パラメータ	197
CAPPref	198
構文	198
パラメータ	199
CDs	201
構文	201
パラメータ	201
CDSData	203
構文	203
パラメータ	203
CDSDEF	205
構文	205
パラメータ	205
CLean	207
構文	207
パラメータ	207
COMMPath	208
構文	209
パラメータ	210
CONFIg	212

構文	212
パラメータ	213
CONFIg GLOBAL 文	215
CONFIg RECLAIM 文	223
CONFIg VTVVOL 文	224
CONFIg MVCVOL 文	225
CONFIg VTSS 文	226
CONFIg RTD 文	229
CONFIg VTD 文	232
CONFIg CLUSTER 文	234
CONFIg CLINK 文	235
CONFIg HOST 文	238
CONFIg TAPEPLEX 文	239
CONSolid	241
構文	241
パラメータ	241
Consolidation レポート	242
DEComp	244
構文	244
パラメータ	244
出力	245
DELETSCR	247
構文	247
パラメータ	248
DELETSCRレポート	249
DIRBLD	250
構文	250
パラメータ	250
DISMount	251
構文	251
パラメータ	251
Display	252
Display Acs	254

Display ACTive	256
Display ALI	263
Display ALLOC	264
Display Cap	265
Display CDS	267
Display CLink	268
Display CLUster	271
Display CMD	274
Display COMMPath	275
Display CONFIG	276
Display DRives	280
Display EXceptns	283
Display FEATures	286
Display LMUPDEF	287
Display LOCKs	288
Display Lsm	290
Display Message	292
Display MGMTDEF	293
Display MIGrate	294
Display MNTD	299
Display MONitor	300
Display MVC	301
Display MVCPool	307
Display OPTion	310
Display Queue	311
Display REPlicat	312
Display Requests	314
Display RTD	315
Display SCRatch	319
Display SEN	323
Display SERVER	325
Display SRVlev	326
Display Status	327

Display STORCLas 328
Display STORMNgr 330
Display TASKs 331
Display THReshld 334
Display Volser 337
Display VSCRatch 339
Display VTD 341
Display VTSS 344
Display VTV 350
DRAin 354
 構文 354
 パラメータ 354
DRTEST 355
 DRTEST CREATE 356
 DRTEST PRIMEprd 361
 DRTEST RESET 363
 DRTEST START 364
 DRTEST STOP 365
EEXPORT 366
 パラメータ 367
EJect 369
 構文 370
 パラメータ 371
ENter 374
 構文 374
 パラメータ 374
EXECParm 376
 構文 376
 パラメータ 376
EXPORT 378
 構文 378
 パラメータ 379
 そのほかの JCL 必要条件 380

FEATures	381
構文	381
パラメータ	381
FMTLOG	382
構文	382
パラメータ	382
その他の JCL 必要条件	382
IMPORT	383
構文	383
パラメータ	384
その他の JCL 必要条件	385
INITialize	386
構文	386
パラメータ	387
その他の JCL 必要条件	388
INVENTORY	389
構文	389
パラメータ	390
リターンコード	391
Inventory レポート	392
LIBGen	393
構文	393
パラメータ	393
その他の JCL 必要条件	393
出力	394
LMUPDEF	395
構文	395
パラメータ	396
LMUPATH 制御文	397
LOGUTIL	399
構文	399
パラメータ	400
LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文	401

LOGUTIL GENAUDIT 文 403
LOGUTIL LOCATE_VTV 文 404
LOGUTIL UNDELETE 文 406
MERGEcds 407
 構文 407
 パラメータ 408
 そのほかの JCL 必要条件 409
 SLSMERGE 制御文 410
MERGMFST 413
 構文 413
 パラメータ 413
 そのほかの JCL 必要条件 413
MGMTDEF 414
 構文 414
 パラメータ 415
 MGMTclas 制御文 416
 MIGRSEL 制御文 427
 MIGRVTV 制御文 430
 MVCATTR 制御文 432
 STORclas 制御文 434
 STORLST 制御文 437
 STORSEL 制御文 438
 VTSSLST 制御文 440
 VTSSSEL 制御文 442
MIGrate 445
 構文 (形式 1) 445
 パラメータ (形式 1) 445
 構文 (形式 2) 447
 パラメータ (形式 2) 447
MNTD 448
 構文 448
 パラメータ 449
MODify 454

構文	455
パラメータ	455
Mount	458
構文	458
パラメータ	459
MOVE	462
構文	462
パラメータ	463
MVCDRain	465
構文	465
パラメータ	466
MVCMMAINT	468
構文	468
パラメータ	469
そのほかの JCL 必要条件	471
リターンコード	472
MVCMMAINT レポート	473
MVCPLRPT	474
構文	474
パラメータ	474
Named MVC プールのレポート	476
MVCRPt	482
構文	482
パラメータ	482
MVC レポート	484
OFFload	491
OFFload LOGFILE	492
OPTION TITLE 制御文	494
構文	494
パラメータ	494
OPTion	495
構文	495
パラメータ	496

PITCOPY	500
構文	500
パラメータ	500
そのほかの JCL 必要条件	501
RECall	502
構文	502
パラメータ	503
RECLaim	504
構文	504
パラメータ	504
RECONcil	506
構文	506
パラメータ	507
RECONcil レポート	509
RECOVer	513
構文	513
パラメータ	513
RELease	514
構文	514
パラメータ	514
REPLaceall	515
構文	515
パラメータ	515
RESTore	516
構文	516
パラメータ	516
そのほかの JCL 必要条件	517
SCRAtch	518
構文	518
パラメータ	518
SCREdist	519
構文	520
パラメータ	520

SENter	523
構文	523
パラメータ	523
SET	524
SET CLNPRFX	525
SET COMPRFX	527
SET DRVHOST	529
SET EJCTPAS	530
SET FREEZE	531
SET HOSTID	533
SET HSCLEVel	534
SET LOGFILE	535
SET MAJNAME	537
SET MIGOPT	538
SET NEWHOST	540
SET RMM	541
SET SCRLABL	542
SET SLIDRIVS	543
SET SLISTATN	548
SET SMF	550
SET TAPEPlex	551
SET TCHNIQE	552
SET VAULT	554
SET VAULTVOL	556
SET VOLPARM	557
SRVlev	567
構文	567
パラメータ	567
STOPMN	568
構文	568
パラメータ	568
SWitch	569
構文	569

パラメータ	570
例	571
TRace	572
構文	572
パラメータ	572
TRACELKP	574
構文	574
パラメータ	574
UEXIT	576
構文	577
パラメータ	577
UNSCratch	579
構文	579
パラメータ	579
UNSElect	580
構文	580
パラメータ	581
Vary	582
構文	583
パラメータ	584
Vlew	587
構文	587
パラメータ	588
VOLPCONV	592
構文	592
パラメータ	592
その他の JCL 必要条件	593
VOLRpt	594
構文	594
パラメータ	595
その他の JCL 必要条件	600
VTVMaint	601
構文	601

パラメータ	602
リターンコード	604
VTVMaintレポート	605
VTVRpt	606
VTVRpt BASIC	607
構文	607
パラメータ	607
VTV レポート (基本)	609
VTVRpt COPIES	612
構文	612
パラメータ	612
VTV Report (COPIES)	614
VVAUDIT	616
構文	616
パラメータ	616
Warn	617
構文	617
パラメータ	618
4. SMC ユーティリティ	621
SMC ユーティリティのリターンコードおよびメッセージ	622
統合ユーザーインタフェースユーティリティ (SMCUUI)	622
JCL 例	623
パラメータ	624
必要なデータセット定義 (DD) 文	626
JES3 構成レポートユーティリティ (SMCUPJS)	631
JCL 例	631
レポート例	632
POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティリティ (SMCUTRQ)	637
JCL 例	637
制御カード	638
入力例	640
出力例	641
Tape Management Extract (SMCUDBX テープ管理抽出) ユーティリティ	642

SMC スクラッチ抽出ユーティリティの実行	643
CA-1 リリース 4.9 以下での SMCUDBX の使用	644
CA-DYNAM/TLMS リリース 5.3 以下での SMCUDBX の使用	644
構文	645
パラメータ	646
JCLの必要条件	647
出力の説明	648
SMC UII シミュレーションユーティリティ (SMCUSIM)	649
フェーズ 1 での処理	649
フェーズ 2 での処理	650
JCL 例	651
パラメータ	651
必要なデータセット定義 (DD) 文	654
SMCUSIM ユーティリティの例 (CSV)	655
5. HSC の独立型ユーティリティ	657
ユーティリティ管理者 (SLUADMIN)	658
SLUADMIN の起動	658
SLUADMIN 出力の要求	663
SLUADMIN プログラムのリターンコード	668
ユーティリティコマンドによって作成されるレポート	668
SLICREAT	670
制御データセット初期設定 JCL の作成	671
SLICREATプログラムの実行	673
SLICREATプログラムの正常な完了の検証	673
SLICREAT のほかの使用方法	674
スクラッチ変換ユーティリティ (SLUCONDB)	675
構文	676
パラメータ	677
JCLの必要条件	679
JCL の例	680
出力の説明	682
6. VTCS 独立型ユーティリティ	683

RTVユーティリティー	683
構文	683
パラメータ	684
JCLの必要条件	687
RTV ユーティリティーレポートメッセージ	688
RTV LISTONLYの出力	692
RTV圧縮解除の出力	693

A. MEDia、RECtech および MODEl の値 695

メディアタイプ (MEDia)	695
記録方式 (RECtech)	700
MODEl タイプ (MODEl)	704

B. CAP、パネル、行、および列の値 707

CAP の値	707
パネルの値	709
行の値	710
列の値	711

C. テープ管理システムインタフェース (SLUDR*) のルーチン 713

SLUDRCA1	713
SLUDRRMM	714
SLUDRSMC	714
SLUDRTLm	715
SLUDRZAR	715

用語集 717

索引 741



図 1-1	PARMLIB の順次データセットを定義する JCL の例	61
図 1-2	PARMLIB の PDS を定義する JCL の例	62
図 2-1	ALLOCDf の構文	66
図 2-2	ALLOcJob の構文	72
図 2-3	CMDDef の構文	76
図 2-4	COMMtest の構文	77
図 2-5	Display DRive の構文	80
図 2-6	Display RC の構文	83
図 2-7	Display Volume の構文	85
図 2-8	DRIVemap の構文	86
図 2-9	HTTf の構文	88
図 2-10	IDAX の構文	91
図 2-11	LlSt の構文	94
図 2-12	LOG の構文	96
図 2-13	MONitor の構文	99
図 2-14	MOUNTDef の構文	103
図 2-15	MSGDef の構文	107
図 2-16	MSGJob の構文	110
図 2-17	POLicy の構文	115
図 2-18	READ の構文	124
図 2-19	RESYNChronize の構文	126
図 2-20	Route の構文	127
図 2-21	SERVer の構文	129
図 2-22	SIMulate の構文	133
図 2-23	SIMulate の出力 - テープポリシー未適用	135
図 2-24	SIMulate の出力 - IDAX 時のテープポリシー適用	136

図 2-25	SMSDef の構文	138
図 2-26	STORMNGR の構文	141
図 2-27	TAPEPlex の構文	144
図 2-28	TCPip の構文	147
図 2-29	TRace 構文	151
図 2-30	TREQDef の構文	155
図 2-31	TAPEREQ 制御文の構文	158
図 2-32	UEXit の構文	165
図 2-33	UNITAttr の構文	168
図 2-34	USERMsg の構文	171
図 3-1	ACTivities の構文	174
図 3-2	ACTMVCGN の構文	177
図 3-3	ARCHive の構文	179
図 3-4	ARCHive の出力例	181
図 3-5	ARCHive MOVEVTV の出力例	184
図 3-6	AUDit の構文	186
図 3-7	AUDIT ユーティリティーによるレポートの例	191
図 3-8	BACKup の構文	195
図 3-9	CANcel 構文	197
図 3-10	CAPPref の構文	198
図 3-11	CDs の構文	201
図 3-12	CDSData の構文	203
図 3-13	CDSDEF の構文	205
図 3-14	CLean の構文	207
図 3-15	COMMPath の構文	209
図 3-16	CONFig の構文	212
図 3-17	CONFig GLOBAL 文の構文	215
図 3-18	CONFig RECLAIM 文の構文	223
図 3-19	CONFig VTSS 文の構文	226
図 3-20	CONFig RTD 文の構文	229
図 3-21	CONFig VTD 文の構文	232
図 3-22	CONFig CLUSTER 文の構文	234
図 3-23	CONFig CLINK 文の構文	235
図 3-24	CONFig HOST 文の構文	238
図 3-25	CONFig TAPEPLEX 文の構文	239

図 3-26	CONSolid の構文	241
図 3-27	DEComp の構文	244
図 3-28	DEComp FLATDD 出力の例	245
図 3-29	DEComp SLSPRIN 出力の例	246
図 3-30	DELETSCR 構文	247
図 3-31	DELETSCR レポート	249
図 3-32	DIRBLD の構文	250
図 3-33	DISMount の構文	251
図 3-34	Display Acs の構文	254
図 3-35	Display ACTive の構文	256
図 3-36	Display Active と Display Queue の出力例 (詳細なし)	256
図 3-37	Display Active DETail の出力例	257
図 3-38	Display ALI の構文	263
図 3-39	Display ALLOC の構文	264
図 3-40	Display Cap の構文	265
図 3-41	Display CDS の構文	267
図 3-42	Display CLink の構文	268
図 3-43	Display CLink の出力例	268
図 3-44	Display CLUster の構文	271
図 3-45	Display CLUster の出力例	271
図 3-46	Display CMD の構文	274
図 3-47	Display COMMPath の構文	275
図 3-48	Display CONFIG の構文	276
図 3-49	Display CONFIG の出力例	277
図 3-50	Display DRives の構文	280
図 3-51	Display EXceptns の構文	283
図 3-52	Display FEATures の構文	286
図 3-53	Display LMUPDEF の構文	287
図 3-54	Display LOCKs の構文	288
図 3-55	Display LOCKs の出力例	288
図 3-56	Display Lsm の構文	290
図 3-57	Display Message の構文	292
図 3-58	Display MGMTDEF の構文	293
図 3-59	Display MIGrate の構文	294
図 3-60	Display MIGrate の出力例	296

図 3-61	Display MIGrate DETail の追加出力例	297
図 3-62	Display MIGrate AUTO の出力例	298
図 3-63	Display MIGrate DELAY の出力例	298
図 3-64	Display MNTD の構文	299
図 3-65	Display MONitor の構文	300
図 3-66	Display MVC の構文	301
図 3-67	Display MVC の出力例	301
図 3-68	Display MVCPool の構文	307
図 3-69	Display MVCPool の出力例 (名前 POOL1)	308
図 3-70	Display MVCPool の出力例 (名前を指定しない場合)	308
図 3-71	Display OPTion の構文	310
図 3-72	Display Queue の構文	311
図 3-73	Display REPLICat の構文	312
図 3-74	Display REPLICat の出力例	313
図 3-75	Display Requests の構文	314
図 3-76	Display RTD の構文	315
図 3-77	Display RTD の出力例	316
図 3-78	Display RTD Queued の出力例	318
図 3-79	Display SCRatch の構文	319
図 3-80	Display SEN	323
図 3-81	Display SERVER の構文	325
図 3-82	Display SERVER コマンドの出力例	325
図 3-83	Display SRVlev の構文	326
図 3-84	Display Status の構文	327
図 3-85	Display STORCLas の構文	328
図 3-86	Display STORCLas の出力例	329
図 3-87	Display STORMNgr の構文	330
図 3-88	Display TASKs の構文	331
図 3-89	Display TASKs の出力例	332
図 3-90	Display THReshld の構文	334
図 3-91	Display THReshld の出力例	336
図 3-92	Display Volser の構文	337
図 3-93	Display VSCRatch の構文	339
図 3-94	Display VTD の構文	341
図 3-95	Display VTD の出力例	342

図 3-96	Display VTSS の構文	344
図 3-97	Display VTSS の出力例	345
図 3-98	Display VTSS Detail の追加出力例	347
図 3-99	Display VTV の構文	350
図 3-100	Display VTV の出力例	351
図 3-101	DRAin の構文	354
図 3-102	DRTEST CREATE の構文	357
図 3-103	SLSSTATN ファイルの例	359
図 3-104	SLSVTSS ファイルの例	360
図 3-105	DRTEST PRIMEprd の構文	361
図 3-106	DRTEST RESET の構文	363
図 3-107	DRTEST START の構文	364
図 3-108	DRTEST STOP の構文	365
図 3-109	EEXPORT コマンドの構文	366
図 3-110	Eject の構文	370
図 3-111	ENter の構文	374
図 3-112	EXECParm の構文	376
図 3-113	EXPORT の構文	378
図 3-114	FEATures の構文	381
図 3-115	FMTLOG の構文	382
図 3-116	IMPORT の構文	383
図 3-117	INITialize の構文	386
図 3-118	INVENTORY の構文	389
図 3-119	INVENTORY レポートの例	392
図 3-120	LIBGen ユーティリティの構文	393
図 3-121	LMUPDEF の構文	395
図 3-122	LMUPATH 制御文の構文	397
図 3-123	LOGUTIL の構文	399
図 3-124	LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文の構文	401
図 3-125	LOGUTIL GENAUDIT 文の構文	403
図 3-126	LOGUTIL LOCATE_VTV 文の構文	404
図 3-127	LOGUTIL UNDELETE 文の構文	406
図 3-128	MERGEcds の構文	407
図 3-129	SLSMERGE DD 文の構文	410
図 3-130	MERGMFST の構文	413

図 3-131	MGMTDEF の構文	414
図 3-132	MGMTclas 制御文の構文 (基本)	416
図 3-133	MGMTclas 制御文の構文 (拡張)	422
図 3-134	MIGRSEL 制御文の構文	427
図 3-135	MIGRVTV 制御文の構文	430
図 3-136	MVCATTR 制御文の構文	432
図 3-137	STORclas 制御文の構文	434
図 3-138	STORLST 制御文の構文	437
図 3-139	STORSEL 制御文の構文	438
図 3-140	VTSSLST 制御文の構文	440
図 3-141	VTSSSEL 制御文の構文	442
図 3-142	MIGrate の構文 (形式 1)	445
図 3-143	MIGrate の構文 (形式 2)	447
図 3-144	MNTD の構文	448
図 3-145	MODify の構文	455
図 3-146	Mount の構文	458
図 3-147	MOVE の構文	462
図 3-148	MVCDRain の構文	465
図 3-149	MVCMAINT の構文	468
図 3-150	MVCMAINT レポートの例	473
図 3-151	MVCPLRPT 構文	474
図 3-152	MVCPLRPT レポートの出力例 (1)	476
図 3-153	MVCPLRPT レポートの出力例 (2)	477
図 3-154	MVCRPt の構文	482
図 3-155	MVC 要約レポートの例	484
図 3-156	MVC 詳細レポートの例 (追加フィールド)	489
図 3-157	OFFload LOGFILE の構文	492
図 3-158	OPTION TITLE の構文	494
図 3-159	OPTion の構文	495
図 3-160	PITCOPY の構文	500
図 3-161	RECall の構文	502
図 3-162	RECLaim の構文	504
図 3-163	RECONcil の構文	506
図 3-164	RECONcil レポートのみの出力例	509
図 3-165	RECONcil MOVEVTV の出力例	512

図 3-166	RECOVER の構文	513
図 3-167	RELease の構文	514
図 3-168	REPLaceall の構文	515
図 3-169	RESTore の構文	516
図 3-170	SCRAtch の構文	518
図 3-171	SCREdist の構文	520
図 3-172	SENter の構文	523
図 3-173	SET CLNPRFX の構文	525
図 3-174	SET COMPRFX の構文	527
図 3-175	SET DRVHOST の構文	529
図 3-176	SET EJCTPAS の構文	530
図 3-177	SET FREEZE の構文	531
図 3-178	SET HOSTID の構文	533
図 3-179	SET HSCLEVeL の構文	534
図 3-180	SET LOGFILE の構文	535
図 3-181	SET MAJNAME の構文	537
図 3-182	SET MIGOPT の構文	538
図 3-183	SET NEWHOST の構文	540
図 3-184	SET RMM の構文	541
図 3-185	SET SCRLABL の構文	542
図 3-186	SET SLIDRIVS の構文	543
図 3-187	SET SLISTATN の構文	548
図 3-188	SET SMF の構文	550
図 3-189	SET TAPEPlex の構文	551
図 3-190	SET TCHNIQE の構文	552
図 3-191	SET VAULT の構文	554
図 3-192	SET VAULTVOL の構文	556
図 3-193	SET VOLPARM の構文	557
図 3-194	POOLPARM 制御文の構文	559
図 3-195	VOLPARM の構文	564
図 3-196	SRVlev の構文	567
図 3-197	STOPMN の構文	568
図 3-198	SWitch の構文	569
図 3-199	TRace 構文	572
図 3-200	TRACELKP の構文	574

図 3-201	UEXIT の構文	577
図 3-202	UNSCratch の構文	579
図 3-203	UNSElect の構文	580
図 3-204	Vary の構文	583
図 3-205	Vlew の構文	587
図 3-206	VOLPCONV 制御文の構文	592
図 3-207	VOLRpt の構文	594
図 3-208	VTVMaint syntax	601
図 3-209	VTVMaint レポート	605
図 3-210	VTVRpt BASIC の構文	607
図 3-211	VTVRpt BASIC の出力例	609
図 3-212	VTVRpt COPIES の構文	612
図 3-213	VTVRpt COPIES の出力例	614
図 3-214	VVAUDIT の構文	616
図 3-215	Warn の構文	617
図 4-1	SMCUUUI ユーティリティを実行する JCL	623
図 4-2	JES3 構成レポートの作成用 JCL	631
図 4-3	SMCUTRQ ユーティリティを実行する JCL	637
図 4-4	SMCUTRQ ユーティリティの出力例	641
図 4-5	SMC クライアントホストと HSC CDS とのスクラッチ同期	642
図 4-6	SMCUDBX PARM パラメータの構文	645
図 4-7	スクラッチ抽出ユーティリティに使用する JCL 例	647
図 4-8	スクラッチ抽出ユーティリティの出力メッセージ例	648
図 4-9	SMCUSIM ユーティリティを実行する JCL	651
図 5-1	CSV コマンド	664
図 5-2	JCL の例 : MVCrpt コマンドの CSV 出力	667
図 5-3	SLICREAT の JCL の例	671
図 5-4	SLUCONDB PARM パラメータの構文	676
図 5-5	スクラッチ変換ユーティリティの出力例 - LIBONLY も TAPEPLEX もない場合	682
図 5-6	スクラッチ変換ユーティリティの出力例 - LIBONLY または TAPEPLEX がある場合	682
図 6-1	RTV ユーティリティの構文	683
図 6-2	RTV LISTONLY の出力例	692
図 6-3	RTV 圧縮解除の出力例	693

表

表 3-1	Display コマンドのオプション	252
表 3-2	HSC SEN イベント	324
表 3-3	VTCS SEN イベント	324
表 3-4	Display VSCRatch の出力例	340
表 3-5	DRTEST のオプション	355
表 3-6	INVENTORY リターンコード	391
表 3-7	出力 LIBGen によって生成されるデバイスのラベル	394
表 3-8	MGMTclas ACSlist/DUPlex 設定の組み合わせ	417
表 3-9	有効な MVC メディア名と互換性のある SWAPTO RTD 機器のタイプ	432
表 3-10	STORSEL 機能	438
表 3-11	VTSSSEL 機能	443
表 3-12	有効なワイルドカード	446
表 3-13	MVCMAINT のリターンコード	472
表 3-14	OFFload オプション	491
表 3-15	SET オプション	524
表 3-16	コマンドの接頭辞コードと文字の対応表	528
表 3-17	HSC の状態 /SET SLIDRIVS 処理	546
表 3-18	VTVMaint のリターンコード	604
表 3-19	VTVRPt のオプション	606
表 5-1	SLUADMIN のリターンコード	668
表 6-1	RTV ラベルの種類	685
表 A-1	メディアタイプ	696
表 A-2	デフォルトのメディアタイプ	698
表 A-3	記録方式	700
表 A-4	デフォルトの記録方式	703
表 A-5	モデルタイプ	704

まえがき

Oracle の StorageTek Enterprise Library Software (ELS) は、次の基本ソフトウェアで構成されるソリューションです。

- Oracle StorageTek Storage Management Component (SMC: ストレージ管理コンポーネント)
(StorageTek HTTP Server として知られていた製品を含みます)
- Oracle StorageTek Host Software Component (HSC: ホストソフトウェアコンポーネント)
- Oracle StorageTek Virtual Tape Control Software (VTCS: 仮想テープ制御ソフトウェア)
- Oracle StorageTek Concurrent Disaster Recovery Test (CDRT: 並行障害回復テスト)

また、ELS パッケージとともに次のソフトウェアが提供されます。

- Oracle StorageTek Library Content Manager (LCM) (旧 ExLM)。LCM 7.0 には、以前 Offsite Vault Feature として知られていた製品の拡張版が含まれます。
- Oracle StorageTek MVS 環境用クライアントシステムコンポーネント (MVS/CSC)
- Oracle StorageTek LibraryStation

このドキュメントでは ELS 基本ソフトウェア製品 (SMC、HSC、VTCS および CDRT) のコマンド、制御文、ユーティリティーについて説明します。このドキュメントは、ELS の構成および保守を行う記憶管理責任者、システムプログラマ、およびオペレータを対象としています。

このドキュメントで説明している作業を行うには、次の事項についての知識が必要です。

- z/OS オペレーティングシステム
- JES2 または JES3
- Enterprise Library Software (ELS)

関連ドキュメント

StorageTek Enterprise Library Software (ELS)

- *Introducing ELS*
- *ELS のインストール*
- *ELS Syntax Quick Reference*
- *ELS メッセージおよびコード解説書*
- *ELS Programming Reference*
- *ELS Legacy Interfaces Reference*
- *HSC および VTCS の構成*
- *HSC および VTCS の管理*
- *SMC の構成と管理*
- *ELS Disaster Recovery and Offsite Data Management Guide*

StorageTek Library Content Manager (LCM)

- *LCM User's Guide*
- *LCM Messages and Codes*
- *LCM Quick Reference*

StorageTek Client System Component for MVS Environments (MVS/CSC)

- *MVS/CSC Configuration Guide*
- *MVS/CSC Messages and Codes Guide*
- *MVS/CSC Operator's Guide*
- *MVS/CSC Syntax Quick Reference*
- *MVS/CSC System Programmer's Guide*

StorageTek LibraryStation

- *LibraryStation Configuration and Administration Guide*
- *LibraryStation Syntax Quick Reference*

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

機能	URL
Oracle ホーム	http://oracle.com
マニュアル	http://oracle.com/technetwork/indexes/documentation/index.html
サポート	http://www.oracle.com/us/support/044752.html
トレーニング	http://www.oracle.com/global/us/education/sun_select_country.html

追加情報

表記上の規則

表記法

このドキュメントの JCL 例の一部は、*斜体*フォントで表記されています。変数は斜体フォントで表記します。これらの変数には、実際に使用する値を入力する必要があります。

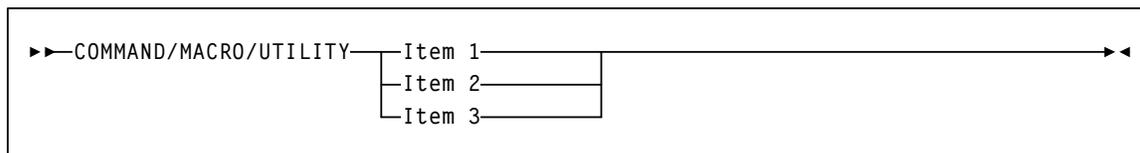
コマンド、制御文、パラメータにおいて大文字と小文字が混在している場合、省略形で省略できる文字が小文字で示されています。たとえば、POLicy コマンドを実行する場合は、単に POL と入力できます。

構文フローダイアグラム

構文フローダイアグラムでは、次の表記法を使用します。

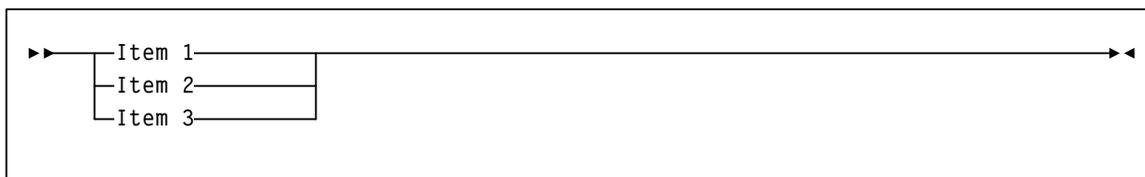
フロー線

構文ダイアグラムは、水平の基本線と、水平/垂直の分岐線、コマンドを表すテキスト、制御文、マクロ、またはユーティリティーで構成されます。ダイアグラムは、左から右、上から下へ読みます。矢印はフローと方向を示しています。



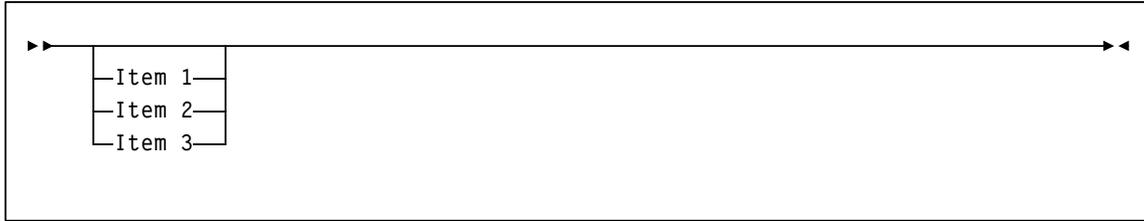
必須選択

繰り返し矢印のない分岐線は、1つの選択が必須であることを示しています。選択項目の1つが基線上にある場合は、選択項目をどれか1つ必ず選択してください。



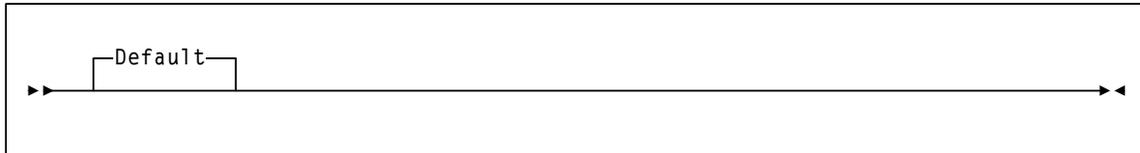
オプション選択

最初の選択項目が基線より下にある場合は、項目の1つをオプションとして選択できません。

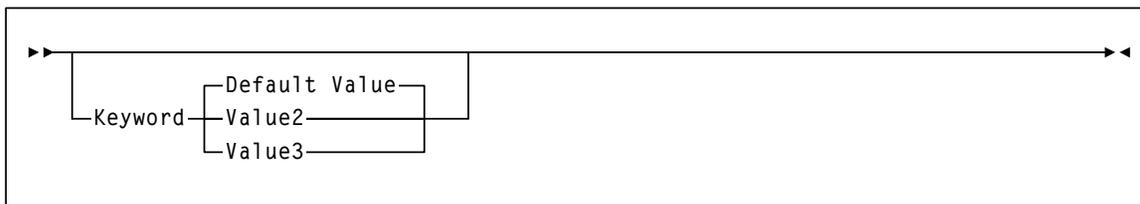


デフォルト

デフォルト値およびパラメータは、基本線より上に表示されます。

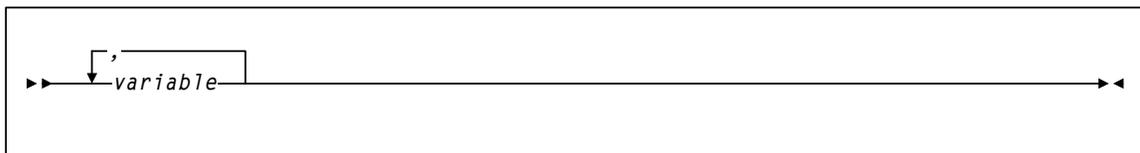


一部のキーワードパラメータには、スタックからの値を選択できます。スタックにデフォルト値が含まれている場合、選択対象のキーワードと値は基本線より下に表示され、これらのキーワードと値がオプションであることが示されます。デフォルト値は、キーワード線より上に表示されます。



繰り返し記号

繰り返し記号は、複数の選択が可能であること、または1つの選択を2回以上実行できることを示しています。次の例では、繰り返しを示す区切り文字としてカンマを使用する必要が示されています。



キーワード

コマンドキーワードは、すべて大文字で表記するか、大文字小文字混合で表記します。コマンドの大文字／小文字が区別されていない場合は、大文字／小文字混合表記が使用され、この場合には、小文字を省略して略字表記にできます。

変数

変数は斜体フォントで表記します。

代替値

パラメータの代替値は、垂直バー (|) で区切ります。

オプション

大括弧 [] で囲んだコマンドパラメータはオプションです。

区切り文字

構文図で、項目とともにカンマ (,) やセミコロン (;) などの区切り文字が示されている場合は、文の一部としてこれらの区切り文字を入力する必要があります。

範囲

範囲を表す場合は、同じ長さでデータタイプを有する 2 つの要素 (両要素も範囲内に含まれる) をダッシュで結んで表します。最初の要素は、絶対に 2 番目の要素より小さくなければなりません。

16 進数の範囲は、2 つの 16 進数で表します (例: 0A2-0AD または 000-0FC)。

10 進数の範囲は 2 つの 10 進数で表します (例: 1-9 または 010-094)。先行 0 は不要です。10 進数の部分を増分域と呼びます。増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。

数値による VOLSER 範囲 (*vol-range*) は、1 - 6 桁の 10 進数を伴う 2 つの VOLSER 要素で構成されます (例: ABC012-ABC025、または X123CB-X277CB)。10 進数の部分を増分域と呼びます。次の制限が適用されます。

- 増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。
- 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
- 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が 111AAA の場合、2 番目の要素で 112AAB と指定することはできません。

- VOLSER 範囲で 10 進数が 2 箇所以上使用されている場合は、あらゆる箇所が増分域として有効です。次に例を示します。

<u>A00B00</u>	指定可能な最大範囲は A00B00 - A99B99
<u>A0B0CC</u>	指定可能な最大範囲は A0B0CC - A9B9C
<u>000XXX</u>	指定可能な最大範囲は 000XXX - 999XXX

アルファベットによる VOLSER 範囲 (*vol-range*) は、増分する 1 - 6 文字のアルファベットを伴う 2 つの VOLSER 要素で構成されます (例: AAA-000ZZZ または 9AAA55-9ZZZ55)。この部分を増分域と呼びます。次の制限が適用されます。

- 増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。
- 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
- 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が 111AAA の場合、2 番目の要素で 112AAB と指定することはできません。
- VOLSER 範囲のアルファベット部分は、A - Z と定義されています。複数文字のシーケンスを増分する場合、個々の文字が Z まで増分します。たとえば、ACZ は AAA-AMM 範囲内にあります。次の例を参照してください。

<u>A00A0-A99A0</u>	VOLSER は A00A0 - A09A0 まで増分し、そのあと、A10A0 - A99A0 まで増分します。
<u>9AA9A-9ZZ9A</u>	VOLSER は 9AA9A - 9AZ9A まで増分し、そのあと 9BA9A - 9ZZ9A まで増分します。
<u>111AAA-111ZZZ</u>	VOLSER は 111AAA - 111AAZ まで増分し、そのあと 111ABA - 111ZZZ まで増分します。
<u>999AM8-999CM8</u>	VOLSER は 999AM8 - 999AZ8 まで増分し、そのあと 999BA8 - 999CM8 まで増分します。
<u>A3BZZ9-A3CDE9</u>	VOLSER は A3BZZ9 - A3CAA9 まで増分し、そのあと A3CAB9 - A3CDE9 まで増分します。
<u>AAAAAA-AAACCC</u>	VOLSER は AAAAAA - AAAAAZ まで増分し、そのあと AAAABA - AAACCC まで増分します。
<u>CCCN NN-DDDNNN</u>	VOLSER は CCCN NN - CCCN NZ まで増分し、そのあと CCCNOA - DDDNNN まで増分します。*

* 注意: これは非常に広い範囲になります。

アルファベットによる VOLSER 範囲のボリューム数は、VOLSER 範囲で使用する増分部分の要素数によって決定されます。各文字位置での A - Z 範囲のボリューム数は、増分対象のポジション数の 26 乗になります。

A-Z	26^1	26
AA-ZZ	26^2	676
AAA-ZZZ	26^3	17,576
AAAA-ZZZZ	26^4	456,976
AAAAA-ZZZZZ	26^5	11,881,376
AAAAAA-ZZZZZZ	26^6	308,915,776

リスト

リストは、1 つまたは複数の要素で構成されます。複数の要素を指定する場合は、各要素をカンマまたは空白スペースで区切り、リスト全体をカッコで囲みます。

空白スペース

キーワードパラメータおよび値の区切りには、任意の数の空白スペースを使用できません。

制御文

通常、制御文には、次の構文表記法が使用されます。

- 有効な制御文情報域は、列 1 - 列 72 のみです。列 73 - 80 は無視されます。
- パラメータの区切りには、1 つまたは複数の空白スペースまたはカンマを使用できません。
- パラメータと値の関連は、イコール (=) 記号で示すか、値をカッコで囲み、パラメータの直後に連結させて示します。
- 実際の制御文では、大文字／小文字は区別されません。
- 次行に続く文の場合は、プラス (+) 記号を前行の末尾に加えます。文が続かない場合、制御文は終了します。
- ジョブストリームにコメントを加える場合は、/* および */ で囲みます。コメントは複数行に渡って追加できますが、入れ子にはできません。

PARMLIB メンバー は /*...*/ という注釈を**最初の**制御文に含める必要があります。そうしないと、旧形式であるとみなされます。旧形式の注釈は、列 1 のアスタリスクから始まらなければなりません。

定義データセット (VOLATTR、UNITATTR、および TAPEREQ) の場合、注釈は新しい形式 (/...*/) でなければなりません。

- アスタリスク (*) の注釈は**使用できません**。
- 最初の行には /*...*/ という注釈は**必要ありません**。
- 制御文の最大長は 1024 文字です。

このリリースの新機能

このドキュメントには、次の ELS の機能拡張についての情報が含まれます。

リビジョン 04

- VTCS 内部での MVC スペースリクレイム動作の制御が改善されました。
 - POOLPARM 制御文にオプションの RECLaim パラメータが追加され、これは MVCPOOL スペースリクレイム動作を制御するために使用されます。
[559 ページの「POOLPARM 制御文」](#)を参照してください。
 - Display MVCPOOL 出力に RECLaim 状況フィールドが追加され、これは MVC プールのスペースリクレイム設定を指定します。
[307 ページの「Display MVCPOOL」](#)を参照してください。
- 同時テプリコール/マウント機能のサポートによって、VTSS 内に常駐しない VTV のマウント時間が改善されます。
 - CONFIg GLOBAL 文に FASTRECL パラメータが追加され、これは同時テプリコール/マウントをサポートするすべての VTSS に対して VTCS がこの機能を実行するかどうかを指定するために使用されます。
[215 ページの「CONFIg GLOBAL 文」](#)を参照してください。
 - CONFIg VTSS 文に NOERLYMT パラメータが追加され、これは VTSS の同時テプリコール/マウント機能を無効にするために使用されます。
[226 ページの「CONFIg VTSS 文」](#)を参照してください。
 - Display CONFIG 出力に GLOBAL FASTRECL フィールドが追加されました。
[276 ページの「Display CONFIG」](#)を参照してください。
 - Display VTSS DETail 出力に、同時テプリコール/マウント機能が追加されました。
[347 ページの「Display VTSS DETail 出力」](#)を参照してください。
 - Display VTV 出力に、AVOID EARLY MOUNT 状況フィールドが追加されました。
[350 ページの「Display VTV」](#)を参照してください。
- TRace コマンドコンポーネントリストが更新されました。
[572 ページの「TRace」](#)を参照してください。

- EXPORT コマンドのサブシステム要件が更新されました。
378 ページの「EXPORT」を参照してください。
- VOLRpt コマンドのサブプール情報が更新されました。
594 ページの「VOLRpt」を参照してください。
- SMC HTTP コマンドの MAXClients パラメータの最大値が 300 に増加しました。
88 ページの「HTTP」を参照してください。

リビジョン 03

- Cross Tapeplex Autorecall (CTA) のサポートにより、ローカル TapePlex でのマウント要求を満たす目的で、リモート TapePlex から電子的にエクスポートされた VTV の自動リコールが可能になります。
EEXPORT コマンドに TOVTSS パラメータが追加され、これは TOPlax パラメータによって指定されるターゲット TapePlex 内で受信側 VTSS として優先設定される VTSS 名を指定するために使用されます。
366 ページの「EEXPORT」を参照してください。
さらに、各種の Display コマンド出力が CTA 情報を含むように変更されました。
- CONFIg VTSS コマンドに NOERLYMT パラメータが追加され、これは VTSS の同時テープリコール/マウント機能を無効にするために使用されます。
226 ページの「CONFIg VTSS 文」を参照してください。
- Display DRives コマンドに SHOWSlot パラメータが追加され、これは SL3000 および SL8500 ライブラリのドライブについてドライブベイの位置 (スロット) を表示するために使用されます。
280 ページの「Display DRives」を参照してください。
- Mount コマンドに ForceRT パラメータが追加され、これによって記録方式の異なるデバイスにボリュームをマウントできます。
458 ページの「Mount」を参照してください。
- SMC MONitor コマンドに MISSedmnt パラメータが追加され、これは未処理マウントが遅延していることを示すメッセージを SMC が発行する間隔を指定するために使用されます。
99 ページの「MONitor」を参照してください。
- SMCUUI ユーティリティーに CSVOUTX 定義文が追加され、これは CSV 出力に関連する例外メッセージの報告に使用されます。
622 ページの「統合ユーザーインタフェースユーティリティー (SMCUUI)」を参照してください。
- SMCUSIM ユーティリティーに PLEXRC パラメータが追加され、これは自動的に発行された RESYNC コマンドから返される TapePlex の状態に基づいて SMC サブシステム初期設定を終了するかどうかを指定するために使用されます。
649 ページの「SMC UI シミュレーションユーティリティー (SMCUSIM)」を参照してください。

- SLUADMIN ユーティリティに、CSV 出力を要求するために使用される、変更された CSV コマンドフィールドパラメータ値が追加されました。
664 ページの「[CSV 出力の要求](#)」を参照してください。

リビジョン 02

- SMC Display RC コマンドは、SMC リターンコードまたは理由コード、あるいは HSC/VTCS UUI 理由コードの意味に関する情報を表示するために使用します。
83 ページの「[Display RC](#)」を参照してください。
- PITCOPY コマンドは、ユーティリティスナップショット機能を使用して、CDS のポイントインタイムコピーを生成します。
500 ページの「[PITCOPY](#)」を参照してください。
- VVAUDIT コマンドは、ボルト割り振りマップとボルトボリュームレコードを同期化します。
616 ページの「[VVAUDIT](#)」を参照してください。
- ACTMVCgn コマンドに ALL パラメータが追加され、これは READONLY(ON) および READONLY(OFF) 制御文が、空でないすべての MVC に対して生成されることを要求するために使用されます。
さらに、オプションの SLUSMAUD 定義文は、AUDIT ユーティリティ制御文が、EXPORT 状態のものを除く、空でないすべての MVC について生成されることを指定します。
177 ページの「[ACTMVCGN](#)」を参照してください。
- CONFIG GLOBAL コマンドに LOCKTOOUT パラメータが追加され、これは状況メッセージが発行される前にリソースがロックされる最小の分数を指定するために使用されます。
215 ページの「[CONFIG GLOBAL 文](#)」を参照してください。
- VOLRpt コマンドに NOVOL パラメータが追加され、これはボリュームの詳細を生成せずに、概要またはサブプール (あるいはその両方) の合計を表示することを指定するために使用されます。
594 ページの「[VOLRpt](#)」を参照してください。

リビジョン 01

- Oracle の StorageTek T10000C テープドライブのサポート。
付録 A 「[MEDia、RECTech および MODel の値](#)」を参照してください。

リビジョン AG

- Oracle の StorageTek 仮想ライブラリ拡張機能 (VLE) 1.0 のサポート
次の節を参照してください。
 - [77 ページの「COMMtest」](#)
 - [127 ページの「Route」](#)
 - [128 ページの「SERVer」](#)
 - [141 ページの「STORMNGR」](#)
 - [177 ページの「ACTMVCGN」](#)
 - [229 ページの「CONFIg RTD 文」](#)
 - [239 ページの「CONFIg TAPEPLEX 文」](#)
 - [330 ページの「Display STORMNgr」](#)
 - [356 ページの「DRTEST CREATE」](#)
 - [361 ページの「DRTEST PRIMEprd」](#)
 - [434 ページの「STORclas 制御文」](#)

- SMC MONitor コマンドは、SMC の監視に関連付けられたパラメータを定義します。
[99 ページの「MONitor」](#) を参照してください。
- SMC POLicy コマンドに SPLITvolref パラメータが追加され、これにより VOL=REF チェーンを切断するかどうかを制御できます。
[113 ページの「POLicy」](#) を参照してください。
- HSC CDSData コマンドに、変更された Type パラメータ値が追加されました。
[203 ページの「CDSData」](#) を参照してください。
- 特定の HSC/VTCS および SMC ユーティリティーでの XMLDATE 実行パラメータについての HEXSTCK (16 進文字の STCK 形式) サポート。
次の節を参照してください。
 - [622 ページの「統合ユーザーインタフェースユーティリティー \(SMCUUI\)」](#)
 - [649 ページの「SMC UUI シミュレーションユーティリティー \(SMCUSIM\)」](#)
 - [658 ページの「ユーティリティー管理者 \(SLUADMIN\)」](#)

- HSC/VTCS Display コマンドに SERVER オプションが追加されました。
[325 ページの「Display SERVER」](#) を参照してください。
- MVCRPt コマンドに STORclas パラメータが追加され、これはレポート対象の MVC を持つストレージクラスを指定するために使用されます。
[482 ページの「MVCRPt」](#) を参照してください。
- HSC/VTCS SET コマンドに TAPEplex オプションが追加され、これは TapePlex 名を設定するために使用されます。
[551 ページの「SET TAPEplex」](#) を参照してください。

- HSC/VTCS Vary コマンドに PATH パラメータが追加され、これは指定されたホストに対してパス (VTSS から RTD) をオンライン、オフライン、またはスタンバイに指定します。

582 ページの「Vary」を参照してください。

リビジョン AF

- SL8500 ライブラリの場合、冗長電子デバイス (RE) 機能によって、アクティブなライブラリコントローラ (LC) の障害に起因する制御経路のダウンタイムが最小限になります。RE 構成には、アクティブ LC のバックアップとして機能するスタンバイ LC が提供されています。

次の節を参照してください。

- 254 ページの「Display Acs」
- 397 ページの「LMUPATH 制御文」
- 569 ページの「SWitch」

- VTV レポートの例が追加されました。

次の節を参照してください。

- 609 ページの「VTV レポート (基本)」
- 614 ページの「VTV Report (COPIES)」

リビジョン AE

- LOGUTIL ユーティリティーコマンドに新しい LOCATE_VTV 制御ステートメントが含まれるようになりました。これは、最新バージョン以外の VTV を回復させるために使用されます。

404 ページの「LOGUTIL LOCATE_VTV 文」を参照してください。

- MERGEcds DELVirt パラメータと NOMSG パラメータの説明が加筆されました。

407 ページの「MERGEcds」を参照してください。

- (LPAR で) 稼働中のホストがないときに、更新される CDS を使用して、MVCMAINT をバッチ専用モードで実行できるようになりました。

468 ページの「MVCMAINT」を参照してください。

- 複数の HSC サブシステムがサーバーホストで実行される MULT モードをサポートするために、SMC SERVer コマンドと HSC SLUADMIN ユーティリティーの機能が拡張されました。

次の節を参照してください。

- 131 ページの「HSCSUB」
- 624 ページの「SSYS(subsystem-name)」

リビジョン AD

- Display MIGrate コマンドの機能が拡張され、機能拡張されたマイグレーションスケジューリングをサポートするようになりました。
[294 ページの「Display MIGrate」](#)を参照してください。
- Display RTD の出力に FAIL/OFFLINE 状態が追加されました。
[316 ページの「Status」](#)を参照してください。
- Display VTV の出力に MIGRATE PENDING 状態が追加されました。
[351 ページの「出力」](#)を参照してください。
- LOGUTIL ユーティリティーコマンドに新しい制御文 FOR_LOSTMVC および UNDELETE が追加されました。これらの文は VTV の回復処理に使用されます。次の節を参照してください。
 - [401 ページの「LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文」](#)
 - [406 ページの「LOGUTIL UNDELETE 文」](#)
- MGMTDEF VTSSSEL 制御文に MOVEVTVS 関数が追加されました。
[443 ページの「FUNCTION」](#)を参照してください。
- SMC MOUNTDef コマンドの VTVCompletemsg パラメータのデフォルトが OFF になりました。
[102 ページの「MOUNTDef」](#)を参照してください。
- MVCMAINT の構文とパラメータの説明が更新されて、デフォルトが削除されました。
[468 ページの「MVCMAINT」](#)を参照してください。
- RECONcil コマンドの処理の説明が加筆されました。
[506 ページの「RECONcil」](#)を参照してください。
- SLUADMIN 実行パラメータの項が加筆されました。
[658 ページの「ユーティリティー管理者 \(SLUADMIN\)」](#)を参照してください。
- SMCUSIM ユーティリティーに MAXRC パラメータが追加されました。このパラメーターは、指定したコマンドの戻りコードが最大許容値を超えたときに SMCUSIM の初期設定を終了させるかどうかを指定するために使用します。
[649 ページの「SMC UUI シミュレーションユーティリティー \(SMCUSIM\)」](#)を参照してください。

リビジョン AC

- SLUCONDB ユーティリティの機能が拡張されました。
 - SLUCONDB が SLUDRZAR をサポートするようになりました (Zara テープ管理システム)。
 - SLUCONDB PARM パラメータに、新しい TAPEPLEX オプションが追加されました。このオプションにより、CDS ボリュームを抽出してスクラッチコマンドを実行するために使用される SMC TapePlex を指定します。また、SLUCONDB PARM パラメータをリモートの SMC クライアントから実行できるようになりました。
[675 ページの「スクラッチ変換ユーティリティ \(SLUCONDB\)」](#) を参照してください。

- MERGEcds コマンドと SLSMERGE 制御文の項が加筆されました。
次の節を参照してください。
 - [407 ページの「MERGEcds」](#)
 - [410 ページの「SLSMERGE 制御文」](#)

- TMS インタフェース (SLUDR*) のルーチンについて、新しい付録で説明されています。これらのルーチンは、HSC SLUCONDB ユーティリティと SMC SMCUBX ユーティリティによって呼び出されます。
[付録 C 「テープ管理システムインタフェース \(SLUDR*\) のルーチン」](#) を参照してください。

- OFFLOAD LOGFILE コマンドに、新しい LOGDSN パラメータが追加されました。これは、CDS を使用したり更新したりしないでログファイルをオフロードするために使用されます。
[492 ページの「LOGDSN」](#) を参照してください。

- SET SLIDRIVS コマンドに、オプションの MODel パラメータが追加されました。これは、トランスポートモデル番号を指定するために使用されます。
[545 ページの「MODEL」](#) を参照してください。

- MVCRPT の詳細レポートに、新しいメッセージフィールドの記述が追加されました。
[489 ページの「MVC 詳細レポート」](#) を参照してください。

- VOLPCONV コマンドに、SLSVOLA 文使用時のマスク文字の要件が追加されました。
[593 ページの「SLSVOLA」](#) を参照してください。

- SMC MOUNTDef コマンドに、高度なスワップ処理を制御するための新しいパラメーターが追加されました。
[102 ページの「MOUNTDef」](#) を参照してください。

- 新しい CAPid 仕様で SL3000 ライブラリ AEM (Access Expansion Module) がサポートされるようになりました。
[707 ページの「CAP の値」](#) を参照してください。

- Display RTD の出力に PATH SUSPEND 状態が追加されました。

316 ページの「[Status](#)」を参照してください。

- Display Cap の出力が更新されて、SL3000 CAP サイズが追加されました。
266 ページの「[出力](#)」を参照してください。

リビジョン AB

- 新しい CAPid 仕様で SL3000 ライブラリ AEM (Access Expansion Module) がサポートされるようになりました。

707 ページの「[CAP の値](#)」を参照してください。

- 新しい VTCS INVENTORY ユーティリティコマンドにより、指定した MVC ですべての VTV が一覧表示されるようになりました。

389 ページの「[INVENTORY](#)」を参照してください。

- 新しい VTCS MVCATTR 制御文により、スワップ対象 RTD デバイスタイプが MVC メディア名に割り当てられるようになりました。

432 ページの「[MVCATTR 制御文](#)」を参照してください。

- CONFIG CLINK 文により、VTSS Native IP に対するサポートが追加されました。

次の節を参照してください。

- [235 ページの「CONFIG CLINK 文」](#)
- [268 ページの「出力」](#)

- CONFIG GLOBAL 文に、MAXVTVSZ パラメータが追加されました。これは、VTV を作成する際のデフォルトの最大 VTV サイズを指定するために使用されます。

221 ページの「[MAXVTVSZ](#)」を参照してください。

- Display コマンド出力の機能が拡張され、レポートが改良されました。

次の節を参照してください。

- [308 ページの「出力」](#)
- [316 ページの「Display RTD の出力」](#)

- MGMTclas 制御文と DELETSCR コマンドに新しいパラメータが追加され、Tapeless VSM 機能がサポートされるようになりました。

- [426 ページの「NOMIGRAT」](#)
- [248 ページの「VTSS」](#)

- Move コマンドに指定できるボリュームの最大制限値が 300 になりました。

464 ページの「[Volume](#)」を参照してください。

- MVCMAINT コマンドに REPLACED パラメータが追加されました。これは、MVC が物理的に置き換えられた後、MVC レコードのさまざまな MVC フィールドを更新するために使用されます。

470 ページの「[REPLACED](#)」を参照してください。

- POOLPARM 制御文により、外部プールに対するサポートが追加されました。

563 ページの「TYPE(EXTERNAL) のサブパラメータ」を参照してください。

- VOLRpt コマンドと Display Volser コマンドの機能が拡張され、SL3000 または SL8500 ライブラリにあるカートリッジのメディアの保証期限 (MWL) の比率を報告するようになりました。MWL の比率は、メディアの耐用年数の何パーセントが使用されたかを示します。

次の節を参照してください。

- 594 ページの「VOLRpt」
- 337 ページの「Display Volser」

- VOLRpt コマンドに VAULT パラメータが追加されました。これは、ボルト済みボリュームが詳細ボリュームレポートに含まれるように指定するために使用します。

599 ページの「VAULT」を参照してください。

- SMC POLicy コマンドと TAPEREQ 制御文に、従来の StorageTek ユーザー出口を置き換えるのに役立つ新しいパラメータが追加されました。

次の節を参照してください。

- 123 ページの「EXTVOLesot」
- 162 ページの「LABEL」
- 162 ページの「JCLESOT」
- 163 ページの「ACTRECT」
- 637 ページの「POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティリティー (SMCUTRQ)」

リビジョン AA

- すべての HSC、VTCS、および CDRT ユーティリティーを SLUADMIN ユーティリティープログラムを使用して実行できるようになりました。SWSADMIN と SWUADMIN は SLUADMIN の別名で、引き続き使用されています。

60 ページの「ユーティリティーからの HSC および VTCS コマンドの発行」を参照してください。

- VTCS コマンドで VT コマンドの接頭辞は必要なくなりました。入力しても、無視されます。

58 ページの「コンソールからの HSC および VTCS コマンドの発行」を参照してください。

- HSC の新しいボリューム/プール定義コマンドおよび制御文。

次の節を参照してください。

- 557 ページの「SET VOLPARM」
- 559 ページの「POOLPARM 制御文」
- 564 ページの「VOLPARM 制御文」
- 592 ページの「VOLPCONV」

- MVC のマウントのサポート
次の節を参照してください。
 - [277 ページの「出力」](#)
 - [215 ページの「CONFIg GLOBAL 文」](#)

- SMC HTTP サーバーコンポーネントのパッケージ化に関する新しい SMC コマンドと変更された SMC コマンド
次の節を参照してください。
 - [88 ページの「HTTP」](#)
 - [96 ページの「LOG」](#)
 - [150 ページの「TRace」](#)

- HSC コマンドの UI インタフェースへの変換
次の節を参照してください。
 - [251 ページの「DISMount」](#)
 - [458 ページの「Mount」](#)
 - [374 ページの「ENter」](#)
 - [462 ページの「MOVE」](#)
 - [203 ページの「CDSData」](#)

- MVC メディアレポートの改良。
 - [474 ページの「MVCPLRPT」](#) を参照してください。
- Display CMd の使いやすさの向上。
 - [274 ページの「Display CMD」](#) を参照してください。

- Display コマンドに VSCRatch オプションが追加されました。これは、以前のリリースの VTCS で提供されていた Display SCRatch DIAG 機能に代わるものです。
 - [339 ページの「Display VSCRatch」](#) を参照してください。
- AUDIT ALL コマンドは無効になりました。監査対象に特定のタイプの VTCS エンティティ (MVC または VTSS) を指定する必要があります。
 - [185 ページの「AUDit」](#) を参照してください。
- SMC POLicy コマンドに VALidate パラメータが追加されました。これは、現在の TAPEPLEX 環境に対して POLICY 情報を検証するために使用されます。
 - [117 ページの「VALidate」](#) を参照してください。
- SMC UNITAttr コマンドに ESOTeric パラメータが追加されました。これは、UNITAttr デバイス属性が割り当てられているエソテリックを指定するために使用されます。
 - [168 ページの「ESOTeric」](#) を参照してください。
- Set コマンドに、LCM VAULT 機能をサポートする VAULT オプションと VAULTVOL オプションが追加されました。
 - 次の節を参照してください。
 - [554 ページの「SET VAULT」](#)

- [556 ページの「SET VAULTVOL」](#)
- MERGECDS のボールドおよびボールドボリュームの仕様をサポートするための、SLSMERGE 制御文の変更
[410 ページの「SLSMERGE 制御文」](#) を参照してください。
- VSM 環境で CDRT 機能とともに使用される ACTMVCGN コマンドで、MVCMAINT 制御文が作成され、それらが 2 つの出力ファイルに配置されるようになりました。
[177 ページの「ACTMVCGN」](#) を参照してください。
- DRTEST コマンドに、次の新しいオプションが追加されました。
 - PRIMEprd オプションは、DRTEST CDS を作成せずに、本稼動用 CDS を更新します。
 - CREATE PRIMEprd オプションは、(複数定義されている場合でも) 1 つの入力 CDS コピーを作成します。これは、実際の CDS のミラーコピーやバックアップコピーにすることができます。[355 ページの「DRTEST」](#) を参照してください。
- SMC LOG コマンドに、新しい Type パラメータが追加されました。これは、SMCLOG ファイルに記録されるレコードタイプを指定するために使用されます。
[96 ページの「LOG」](#) を参照してください。
- SMC MOUNTDef コマンドに、新しい VTVCompletemsg パラメータが追加されました。これは、サーバーが実行されているホストで VTV マウント (SLS5075I) メッセージと VTV マウント解除 (SLS5076I) メッセージを表示するかどうかを指定するために使用されます。
[102 ページの「MOUNTDef」](#) を参照してください。
- SMC TRace SUBsys コマンドに新しい HTtp プロセスタイプが追加されました。これは、すべての SMC サブシステムの HTTP サーバータスクのトレースを有効にするために使用されます。
[150 ページの「TRace」](#) を参照してください。
- TRace JOBname コマンドに、次のプロセスタイプを指定できます。
 - REmote は、リモートの SMC サーバーで、指定したジョブ名、ステップ名、procstep 名から発信される要求のトレースを有効にします。
 - UTility は、イニシエータで実行されている、指定したジョブ名、ステップ名、procstep 名からのすべての SMC ユーティリティーコンポーネントタスクのトレースを有効にします。[150 ページの「TRace」](#) を参照してください。
- SMC POLicy コマンドに、新しい VALidate パラメータが追加されました。これは、定義されたポリシーオブジェクトのすべて、またはサブセットを検証するために使用されます。
[113 ページの「POLicy」](#) を参照してください。
- 新しい SMC UUI シミュレーションユーティリティー (SMCUSIM) によって、既存の SMC クライアントや HSC サーバーに影響を与えずに、コマンド設定、ポリシー、割り振りユーザー出口に対する変更をテストするために、SMC UUI コマンドを発行できます。
次の節を参照してください。
 - [649 ページの「SMC UUI シミュレーションユーティリティー \(SMCUSIM\)」](#)

- [133 ページの「SIMulate」](#)
- 新しい SIMulate コマンドによって、ジョブステップ特性を入力し、同じ特性を持つ 1 つの DD ジョブステップを SMC がどのように処理するかを確認することができます。
[133 ページの「SIMulate」](#) を参照してください。
- HSC と VTCS が競合するため、次のコマンドについてコマンドの省略形が変更されました。
 - Display Acs
 - Display ACTIVE
 - MODify CAP
 - MODify CONFIG
 - RECOVer
 次の節を参照してください。
 - [254 ページの「Display Acs」](#)
 - [256 ページの「Display ACTIVE」](#)
 - [454 ページの「MODify」](#)
 - [513 ページの「RECOVer」](#)
- MGMTDef コマンドに、新しい MIGRSEL 制御文と MIGRVTV 制御文が追加され、VTV のマイグレーションを強力に制御できるようになりました。
 新しい MGMTclas 制御文パラメータの DISCARD と IMMDELAY を使用して、VTV の破棄時間と即時マイグレーションの遅延時間を指定できるようになりました。
 次の節を参照してください。
 - [427 ページの「MIGRSEL 制御文」](#)
 - [430 ページの「MIGRVTV 制御文」](#)
 - [416 ページの「MGMTclas 制御文」](#)
- 拡張クラスタリングにより、「多対多」の VTSS クラスタ接続が可能になり、各クラスタに複数の VTSS を含めることができるようになりました。
 次の節を参照してください。
 - [235 ページの「CONFIg CLINK 文」](#)
 - [234 ページの「CONFIg CLUSTER 文」](#)
- 電子エクスポート (拡張クラスタリング) により、複数の TapePlex にわたって、ソースサイトからターゲットサイトに (MVC の代わりに) VTV を電子的にエクスポートできます。VTV は、ターゲットサイトに到達すると、MVC にマイグレーションされません。
 次の節を参照してください。
 - [366 ページの「EEXPORT」](#)
 - [239 ページの「CONFIg TAPEPLEX 文」](#)
 - [416 ページの「MGMTclas 制御文」](#)
 - [434 ページの「STORclas 制御文」](#)

- 235 ページの「CONFIg CLINK 文」
 - 601 ページの「VTVMaint」
 - 383 ページの「IMPORT」
- VTCS で MVC の初期設定が可能になりました。
215 ページの「CONFIg GLOBAL 文」を参照してください。
- RTD での MVC のマウントとマウント解除の改良
CONFIg GLOBAL 文に、新しい NLIBDRNR、NLIBMIGR、および NLIBRECL パラメーターが追加されました、これらは、ドレイン/リクレイム処理、マイグレーション処理、またはリコール処理でライブラリ外に常駐する MVC を選択するかどうかを指定するために使用します。
215 ページの「CONFIg GLOBAL 文」を参照してください。
- 影響を与えない、MVC/VTV の範囲の削除
- CONFIg コマンドに新しい NOUPDATE パラメータが追加されました。これは、構成はチェックされるが CDS に対して更新は行われなことを指定するために使用されます。
 - DEComp コマンドに新しい LISTDELR パラメータが追加され、これは「論理的に削除された」MVC と VTV の volser 範囲を一覧表示するために使用されます。
- 次の節を参照してください。
- 212 ページの「CONFIg」
 - 244 ページの「DEComp」
- 新しい VTCS ログ記録サービスにより、VTCS が論理トランザクションを記録できるようになりました。論理トランザクションでは、CDS を VSM サブシステムと同期するのに必要な時間が最小限で済みます。これは VTCS によって使用され、CDS の復元時にかかる回復時間を短縮できます。
- CONFIg GLOBAL文に、新しい LOGPOL パラメータが追加されました、これは、ログ記録をオプションにするか必須にするかを指定するために使用されます。
 - LOGUTIL コマンドにより、VTCS CDS の回復処理を開始できるようになりました。
 - 新しい LOGUTIL GENAUDIT 文により、CDS と VSM の再同期を開始できるようになりました。
- 次の節を参照してください。
- 382 ページの「FMTLOG」
 - 535 ページの「SET LOGFILE」
 - 491 ページの「OFFload」
 - 215 ページの「CONFIg GLOBAL 文」
 - 399 ページの「LOGUTIL」
 - 403 ページの「LOGUTIL GENAUDIT 文」
- 新しいライブラリとトランスポートのサポート (SL3000 ライブラリや T10000B と T9840D のトランスポートなど) このサポートは以前のリリースの NCS にも追加されています。
付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」を参照してください。

ELS コマンドのインタフェース

この章では、ELS コマンドの発行に使用できるさまざまなインタフェースについて説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 統合ユーザーインタフェース (UUI) のサポート
 - SMC コマンドのインタフェース
 - HSC および VTCS コマンドのインタフェース
-

統合ユーザーインタフェース (UUI) のサポート

このドキュメントで説明する特定の SMC、HSC、および VTCS コマンドは、UUI (統合ユーザーインタフェース) によってサポートされています。

ELS の UUI インタフェースは、SMC、HSC、および VTCS の機能の内部インタフェースと外部インタフェースの両方を標準化することを目的として設計されています。UUI を使用すると、次のことができます。

- ユーティリティーを介してコマンドを実行する。
- プログラム式インタフェースからコマンドを呼び出す。
- テキスト、XML、またはコンマ区切り (CSV) 形式の出力を要求する。
- リモートクライアントから HSC サーバーに対するコマンドを呼び出す。

ELS 7.0 では UUI インタフェースを介して使用できるコマンドが拡張され、以前は HSC PGMI インタフェースとバッチ API インタフェースによってサポートされていた機能がすべて含まれるようになりました。既存のインタフェースは今後のリリースのために (どのリリースまでなのかは不明) 引き続きサポートされますが、これらのインタフェースが新しいデータ項目を追加できるように拡張されることはありません。

注 -

- UUI の詳細については、『ELS Programming Reference』を参照してください。
 - UUI によってサポートされる SMC、HSC、および VTCS コマンドをバッチジョブから発行するために使用する SMCUUI ユーティリティーについては、[622 ページの「統合ユーザーインタフェースユーティリティー \(SMCUUI\)」](#)を参照してください。
-

SMC コマンドのインタフェース

この項は、次のトピックで構成されています。

- コンソールからの SMC コマンドの発行
- SMCCMDS または SMCPARMS データセットでの SMC コマンドの指定
- JOBname、STEPname、PROCstep を指定する SMC コマンド
- ユーティリティーからの SMC コマンドの発行

コンソールからの SMC コマンドの発行

SMC コマンドの接頭辞を用いたコマンドの発行

SMC コンソールからコマンドを発行するには、SMC のコマンドの接頭辞を使用します。

接頭辞を定義するには、SMCPARMS データセットで SMC CMDDef コマンドを PREFIX パラメータとともに指定します。

次の例で、コマンドの接頭辞は B@F\$ として定義されています。

```
CMDDEF PREFIX(B@F$)
```

注 – PREFIX パラメータは、SMCPARMS データセット内でのみ指定できます。CMDDef コマンドの詳細については、[76 ページの「CMDDef」](#)を参照してください。

コマンドの接頭辞を用いて SMC コマンドを発行するには、次の形式を使用します。

```
PREFIXcommand-name [parameter]
```

- PREFIX はコマンドの接頭辞です。
- *command-name* は SMC のオペレータコマンドを示します。
- *parameter* はオプションまたは必須のコマンドパラメータを示します。

コマンドは、接頭辞文字の直後に (続けて) 入力しなければなりません。

コマンドの接頭辞文字としてヌル文字を指定することができます。この場合は、MVS MODIFY コマンドを用いてコマンドを発行する必要があります。[55 ページの「MVS Modify コマンドを用いた SMC コマンドの発行」](#)を参照してください。

MVS Modify コマンドを用いた SMC コマンドの発行

MVS Modify (F) コマンドを用いて MVS コンソールから SMC コマンドを発行するには、次のコマンド形式を使用します。

```
F started-task-name,command-name [parameter]
```

- F は MVS Modify コマンドを示します。
- *started-task-name* は SMC によって開始されたタスクの名前を示します。
- *command-name* は SMC のオペレータコマンドを示します。
- *parameter* はオプションまたは必須のコマンドパラメータを示します。

注 -

- 開始されたタスク名およびコマンド名は、カンマで区切る必要があります。サブシステム名とコマンド名の間には、スペースを入れないでください。
- パラメータと値の区切りには、任意の数のスペース、またはイコール (=) 記号 (省略可能) を使用できます。カッコ内に値を入れることもできます。

以下は同等のコマンドです。

```
F SMC1MVS,MSGDEF LVL 4
F SMC1MVS,MSGDEF LVL=4
F SMC1MVS,MSGDEF LVL(4)
```

キーワードパラメータ

ユーザー入力値が必要なキーワードパラメータまたはユーザーが値を指定できるキーワードパラメータは、次のいずれかの形式で指定できます。

- 1 つまたは複数のユーザー入力値をカッコで囲み、キーワードのあとに続けます。次に例を示します。
MINLVL(*minlevel*)
- 1 つまたは複数のユーザー入力値を、等号によってキーワードに連結します。次に例を示します。
MINLVL=*minlevel*

注 -

- 特に指定のないかぎり、ユーザー入力値のリストはカッコで囲む必要があります。複数の値を並べて指定する場合の詳細については、[38 ページの「リスト」](#)を参照してください。
- 特に記載がないかぎり、パラメータはコンマまたはブランクで区切ることができます。これらのいずれかの区切り記号に続くブランクはすべて無視されます。
- コマンドおよびパラメータは、大文字と小文字を任意に組み合わせて入力することができます。

- コマンドに対応する応答は常にコマンドを出したコンソールに送られますが、マウントやマウント解除などの場合には、テープライブラリコンソールやテーププールコンソールに送られることもあります。
-

SMCCMDS または SMCPARMS データセットでの SMC コマンドの指定

SMCPARMS または SMCCMDS データセットで指定された SMC オペレータコマンドは、起動時に自動処理されます。

- **SMCCMDS** データセットには、SMC の稼働中に変更可能なユーザー構成の設定項目を指定します。コンソールから READ コマンドを発行して、いつでも SMCCMDS データセットを再処理できます。

SMCCMDS メンバーエントリの例を以下に示します。

```
MSGDEF CASE(MIXED) LVL(4)
TAPEPLEX NAME(HSCPLEX) LOCSUB(HSC0)
READ DSN('MY.PARMLIB(POL)')
TREQDEF DSN('MY.PARMLIB(TREQ)')
RESYNCHRONIZE
```

- **SMCPARMS** データセットには、SMC の稼働中に変更できないユーザー構成項目を指定します。SMCPARMS は、READ コマンドで再処理できません。

SMCPARMS メンバーエントリの例を以下に示します。

```
CMDDEF PREFIX(B@F$)
```

注 -

- SMCPARMS データセットには、CMDDEF PREFIX と USERMSG ID のパラメータ設定のみを入れることを推奨します。その他すべてのコマンドは、SMCCMDS データセットで指定します。
 - SMCPARMS または SMCCMDS データセットでのコマンド指定に使用する構文の表記法については、[38 ページの「制御文」](#)を参照してください。
-

JOBname、STEPname、PROCstep を指定する SMC コマンド

SMC ALLOCJOB、MSGJOB、および TRACE コマンドを使用すると、JOBname、STEPname、または PROCstep を指定できます。これらのコマンドは、特定のジョブ名から不特定のジョブ名の順に、SMC によって評価されます。したがって、コマンドは任意の順序で入力できます。次の例を参照してください。

次の 2 つの ALLOCJOB コマンドが入力されています。

```
ALLOCJOB JOBNAME=NOALLOC* MINLVL=4
ALLOCJOB JOBNAME=NOALLOC1 MINLVL=3
```

ジョブ名 NOALLOC* よりも、コマンドのジョブ名の方がより特定のものであるため、コマンドの入力順に関わらず、ジョブ名 NOALLOC1 が MINLVL 3 によって処理されます。

注 –

- JOBname、STEPname、または PROCstep のみを指定する SMC ALLOCJOB または MSGJOB コマンドを入力すると、入力したコマンドは LIST も指定されているものとして解釈されます。
 - 上記の動作は、TAPEREQ 文には適用されません。TAPEREQ 文は、常にTREQDEF DD に表示される順に評価されます。
-

ユーティリティーからの SMC コマンドの発行

UII によってサポートされる SMC、HSC、および VTCS コマンドをバッチジョブで発行するには、SMCUUI ユーティリティーを使用します。これらのコマンドは、ローカルまたはリモートの HSC TapePlex にルーティングできます。

SMCUUI ユーティリティーは、テキスト、構造化 XML、コンマ区切り (CSV) 形式など、いくつかの種類の実出力を生成できます。

SMCUUI ユーティリティーの詳細については、[622 ページの「統合ユーザーインタフェースユーティリティー \(SMCUUI\)」](#)を参照してください。

注 – SMC コマンドは、ユーティリティー管理者 (SLUADMIN) からは発行できません。

HSC および VTCS コマンドのインタフェース

この項は、次のトピックで構成されています。

- コンソールからの HSC および VTCS コマンドの発行
- ユーティリティーからの HSC および VTCS コマンドの発行
- PARMLIB からの HSC および VTCS コマンドの発行
- HSC サービスレベル

コンソールからの HSC および VTCS コマンドの発行

HSC および VTCS オペレータコマンドを発行するには、次のいずれかの方法を使用します。

- MVS Modify コマンドを用いてコマンドを発行する
- コマンドの接頭辞を用いてコマンドを発行する

コマンドの接頭辞を用いた HSC および VTCS コマンドの発行

コンソールから HSC または VTCS コマンドを発行するには、コマンドの接頭辞を使用します。この接頭辞は LIBGEN 処理中に割り当てられます。接頭辞には、「.」や「#」などがあります。

新しい接頭辞を定義するには、SET COMPREFX コマンドを使用します。このコマンドに、コマンドの接頭辞の 2 文字の 16 進数コードを指定します。

- コマンドの接頭辞は、HSC または VTCS システムが再起動されるまで有効になりません。
- 各コードに関連付けられている文字の一覧については、[528 ページの表 3-16](#)を参照してください。
- SET COMPREFX コマンドと接頭辞の制約事項の詳細については、[527 ページの「SET COMPREFX」](#)を参照してください。

コマンドの接頭辞を用いてコマンドを発行するには、次の形式を使用します。

```
PREFIXcommand-name [parameter]
```

- PREFIX はコマンドの接頭辞です。
- *command-name* は HSC または VTCS のオペレータコマンドを示します。
- *parameter* はオプションまたは必須のコマンドパラメータを示します。

コマンドは、接頭辞文字の直後に (続けて) 入力しなければなりません。

コマンドの接頭辞文字としてヌル文字を指定することができます。この場合は、MVS Modify コマンドを用いてコマンドを発行する必要があります。

注 – VTCS コマンドで VT コマンドの接頭辞は必要なくなりました。入力しても、無視されます。

MVS Modify コマンドを用いた HSC および VTCS コマンドの発行

MVS Modify (F) コマンドを用いてコンソールからコマンドを発行するには、次の形式を使用します。

```
F started-task-name,command-name [parameter]
```

- F は MVS Modify コマンドを示します。
- *started-task-name* は HSC のサブシステム名テーブル内のエントリを示します。
システムプログラマが、SYS1.PARMLIB の IEFSSNxx エントリに要素を追加することによって、この 1-4 文字の HSC サブシステム名 (例: SLS0) を指定します。
- *command-name* は HSC または VTCS のオペレータコマンドを示します。
- *parameter* はオプションまたは必須のコマンドパラメータを示します。

キーワードパラメータ

ユーザー入力値が必要なキーワードパラメータまたはユーザーが値を指定できるキーワードパラメータは、次のいずれかの形式で指定できます。

- 1 つまたは複数のユーザー入力値をカッコで囲み、キーワードのあとに続けます。次に例を示します。
HOSTID(host-id)
- 1 つまたは複数のユーザー入力値を、等号によってキーワードに連結します。次に例を示します。
HOSTID=host-id

注 –

- 特に指定のない限り、ユーザー入力値のリストはカッコで囲む必要があります。複数の値を並べて指定する場合の詳細については、[38 ページの「リスト」](#)を参照してください。
 - 特に記載がない限り、パラメータはコンマまたはブランクで区切ることができます。これらのいずれかの区切り記号に続くブランクはすべて無視されます。
 - コマンドおよびパラメータは、大文字と小文字を任意に組み合わせて入力することができます。
 - コマンドに対応する応答は常にコマンドを出したコンソールに送られますが、マウントやマウント解除などの場合には、テーブルライブラリコンソールやテーブルプールコンソールに送られることもあります。
-

ユーティリティーからの HSC および VTCS コマンドの発行

HSC および VTCS には、ライブラリリソースの管理を支援するいくつかのユーティリティー機能があります。これらのユーティリティーを起動するには、特定の HSC および VTCS コマンドを使用します。これらのコマンドは、ユーティリティー管理者 (SLUADMIN) を使用して指定します。

さらに、SMCUUUI ユーティリティーを使用して、UUI によってサポートされる SMC、HSC、および VTCS コマンドをバッチジョブで発行できます。これらのコマンドは、ローカルまたはリモートの HSC TapePlex にルーティングできます。

SLUADMIN と SMCUUUI の両方とも、テキスト、構造化 XML、コンマ区切り (CSV) 形式など、いくつかの種類 of 出力を生成できます。

注 -

- SWSADMIN と SWUADMIN は SLUADMIN の別名で、引き続き使用されています。
 - SLUADMIN ユーティリティーの詳細については、[658 ページ](#)の「[ユーティリティー管理者 \(SLUADMIN\)](#)」を参照してください。
 - SMCUUUI ユーティリティーの詳細については、[622 ページ](#)の「[統合ユーザーインタフェースユーティリティー \(SMCUUUI\)](#)」を参照してください。
-

PARMLIB からの HSC および VTCS コマンドの発行

HSC の初期設定時に処理されるユーザー定義の順次データセットまたは 1 つのパーティションに区分化されたデータセット (PDS) メンバーで、特定の HSC/VTCS コマンドを定義できます。これらのコマンドを使用すると、HSC の起動オプションを要件に合うように調整できます。

特に指定のないかぎり、このユーザー定義の PARMLIB データセットに定義されたオプションは、コンソールから該当するオペレータコマンドを発行することによって、通常の操作中に動的に変更できます。

PARMLIB コマンドは、起動手順の入力パラメータで MEMBER(xx) または M(xx) を指定することによって起動されます。接尾部「xx」が SLSSYS のあとに付いたものが名前になります。この名前は、起動手順の DD 名として使用されます。

- SLSSYSxx DD で示されたデータセットが PDS である場合は、PARMLIB コマンドが含まれるメンバー名を指定する必要があります。
- SLSSYSxx DD が順次データセットである場合は、データセット名 (DSN) のみを指定する必要があります。
- 起動手順で DD 名が指定されていない場合は、SYS1.PARMLIB データセットが動的に割り振られ、そのデータセットでメンバー名の検索が行われます。

HSC が初期設定されると、PARMLIB データセットが読み込まれ、その動作パラメータが取得されます。

注 – PARMLIB コマンドは SYS1.PARMLIB で定義できますが、SYS1.PARMLIB 以外のユーザー定義のデータセットを使用することをお勧めしています。

HSC を実行するための次の JCL の例には、PARMLIB コマンド定義が入っているデータセットとメンバーを定義する DD 文が含まれています。

```
//IEFPROC      EXEC PGM=SLSBINIT,
//              TIME=1440,
//              REGION=2000K,
//              DPRTY=(7,5),
//              PARM='E(E086) F(23) M(00)'
//*
//STEPLIB      DD DISP=SHR,DSN=your.sea.SEALINK
//*
//SLSSYS00     DD DISP=SHR,DSN=parmlib0data set
//SLSSYS01     DD DISP=SHR,DSN=parmlib1data set
//SLSSYS02     DD DISP=SHR,DSN=parmlib2data set
```

図 1-1 PARMLIB の順次データセットを定義する JCL の例

```
//IEFPROC      EXEC PGM=SLSBINIT,
//              TIME=1440,
//              REGION=2000K,
//              DPRTY=(7,5),
//              PARM='E(E086) F(23) M(00) '
//*
//STEPLIB      DD DISP=SHR,DSN=your.sea.SEALINK
//*
//SLSSYS00     DD DISP=SHR,DSN=parmlib0data set(member)
//SLSSYS01     DD DISP=SHR,DSN=parmlib1data set(member)
//SLSSYS02     DD DISP=SHR,DSN=parmlib2data set(member)
```

図 1-2 PARMLIB の PDS を定義する JCL の例

注 -

- HSC の起動時に、「M(nn)」起動パラメータを指定することにより、必要に応じて固有の parmlib メンバーを指定できます。
 - サンプルの SLSSYSxx コマンドストリームと PARMLIB コマンドが、ELS SAMPLIB のメンバー SLSSYS00 に含まれています。
-

HSC サービスレベル

HSC サブシステムは、基本サービスレベルまたは完全サービスレベルのいずれかで実行できます。

基本サービスレベルの機能

基本サービスレベルは、HSC サブシステムの核になるものです。オペレーティングシステムの拡張機能として必要な機能が使用でき、実行時に操作環境によって定義された要件に対応します。

HSC コマンドはすべて、基本サービスレベルで実行中の HSC に対して発行することができます。ただし、ライブラリハードウェアに関連するコマンドは、その機能を完全に実行することはできません。

VTCS コマンドは、基本サービスレベルで実行中の HSC に対して発行することはできません。

基本サービスレベル動作中に代行受信されたマウント要求

HSC が基本サービスレベルで動作している間に、SMCによって代行受信されたマウントメッセージは、HSC に送られず、HSC が完全サービスレベルに達するまで保留されます。

SMCは、HSC が完全サービスレベルに達したことを認識すると、マウントが再駆動されます。これらのマウントメッセージは、SMC の介入によって起こり、続いてHSC が完全サービスレベルに達すると再駆動され、サブプールの指定が受け入れられます。

完全サービスレベル機能

HSC の完全サービスレベルでは、ライブラリ運用の実行および維持に必要なすべての機能を使用できます。これらの機能には、次のものがあります。

- マウント/マウント解除処理
- CAP 処理
- カートリッジおよびセルの目録管理
- LMU へのアクセス
- ライブラリ資源の回復
- すべてのライブラリユーティリティーに対するサポート
- すべての HSC および VTCS コマンドに対するサポート

注 – すべての VTCS コマンドについて、HSC が完全サービスレベルで実行されている必要があります。

第2章

SMC コマンドと制御文

この章では、SMC のコマンドおよび制御文に関する参照情報を記載しています。

SMC のユーティリティーについては、[第4章「SMC ユーティリティー」](#)を参照してください。

ALLOCDef

ALLOCDef コマンドを用いて、SMC サブシステムのデフォルトの割り振り設定を指定します。

インタフェース :	UII: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

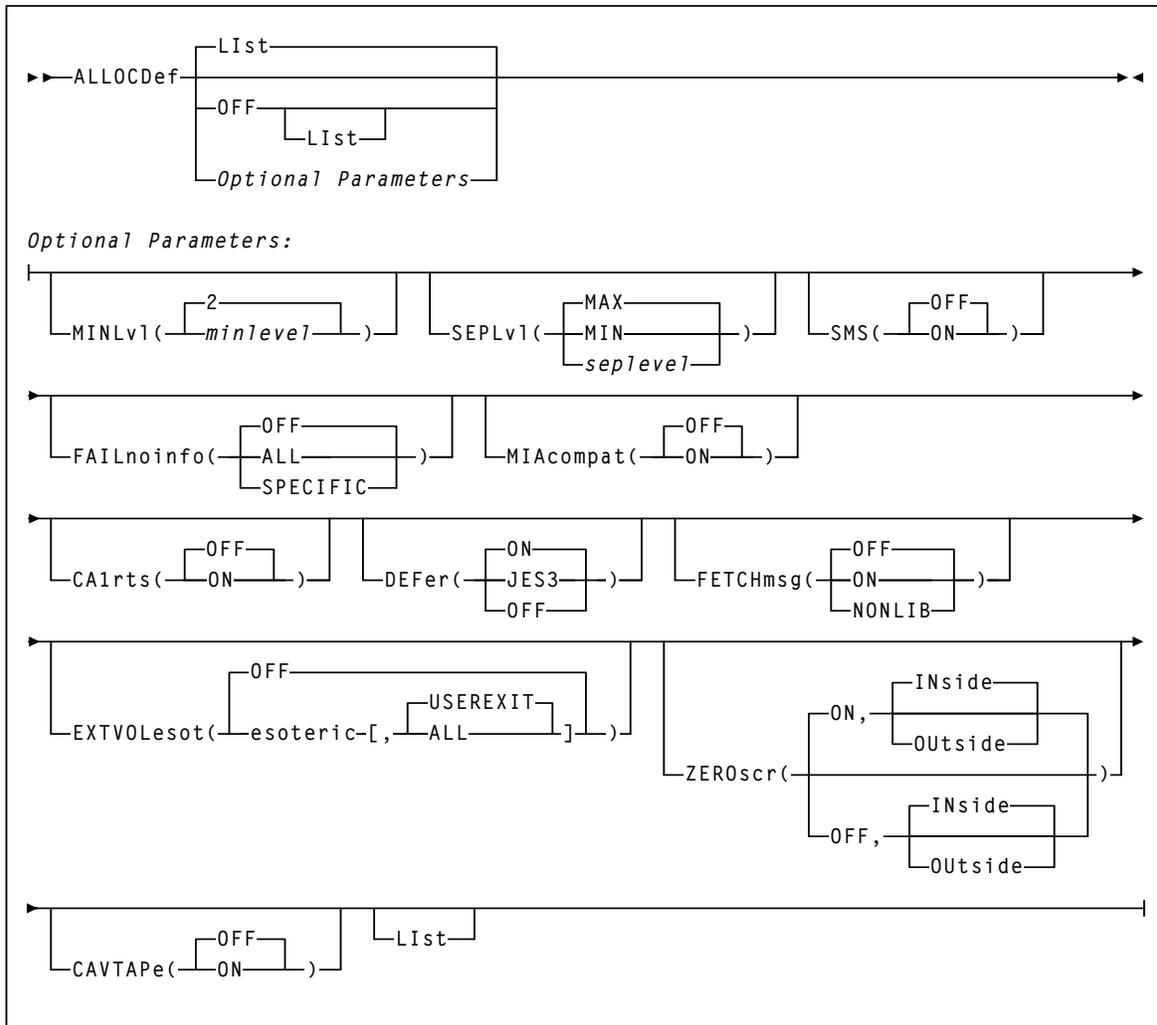


図 2-1 ALLOCDef の構文

パラメータ

LlSt

現在の割り振りに対応したデフォルト設定を一覧表示します (省略可能)。

- LlSt は、ALLOCDf コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- LlSt は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、LlSt は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

デフォルトの割り振り値をすべて、元の SMC デフォルト設定に戻します (省略可能)。これらの設定を一覧表示するために、このパラメータとともに LlSt を指定します。

MINLvl

ドライブ除外の最小レベルを指定します (省略可能)。最小除外レベルでジョブが割り振られない場合、SMC は最小レベルまでのドライブ除外を実行した後、ジョブを失敗させます。

minlevel

最小割り振り除外レベル。有効値は 0 - 8 です。デフォルト値は 2 です。

注 -

- MINLVL=0 に設定すると、デバイスと特定のボリュームに互換性がない場合でも、SMC によってジョブが失敗させられることはありません。MINLVL=0 と設定することにより、「外部」テープカートリッジのボリュームシリアル番号が、既存ライブラリまたは仮想ボリュームと同じ場合にも、SMC に割り振りを正常に実行させることができます。
 - *minlevel* の値を大きくすることによって効果が発生するためには、特定のジョブステップに対して、メッセージ SMC0045 または SMC0091 が発行されていなければなりません。
 - SMC の除外レベルの詳細については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。
-

SEPLvl

アフィニティおよび GDG チェーンの分離が実行される除外レベルを指定します (省略可能)。

seplevel

最小レベルと最大レベルの間の除外レベル。十分な数のドライブが存在する場合、SMC はこのレベルでチェーンの分離を試みます。この値は、*minlevel* 値よりも小さくすることはできません。

MAX

十分な数のドライブが利用可能な場合、矛盾する除外条件に応じて、アフィニティチェーンと GDG チェーンが分離されます。これはデフォルトです。

MIN

最小レベルを超過したアフィニティチェーンと GDG チェーンは分離されません。

注 -

- HSC または MVS/CSC 割り振りで UNITAFF(NOSEP) および GDGALL(NOSEP) と指定されていた場合、デフォルトの SMC 除外テーブルで SEPLvl=3 と指定することにより、異なるメディアタイプのスクラッチアフィニティーチェーンに対する現在の動作を維持できます。
 - SMC の除外レベルの詳細については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。
-

SMS

DFSMS インタフェースを有効化/無効化します (省略可能)。DFSMS インタフェースが有効化されている場合、SMC によって DFSMS ACS ルーチンが開始されます。戻り値は、データセットのデバイス割り振りに反映されます。特定の SMS 機能の使用法については、[137 ページの「SMSDef」](#)を参照してください。

OFF

DFSMS インタフェースを無効化します。これはデフォルトです。

ON

DFSMS インタフェースを有効化します。

FAILnoinfo

割り振り中に、通信の失敗が原因で TapePlex からボリューム情報を取得できなかった場合、あるいは利用可能な TapePlex が存在しない場合に、SMC がジョブステップを失敗させるかどうかを指定します (省略可能)。

OFF

SMC はジョブステップを失敗させません。

ALL

SMC はすべてのデバイスに不適合をマーク付けし、ジョブステップを失敗させます。

SPECIFIC

特定ボリュームの検索中に通信の失敗が発生した場合、または利用可能な TapePlex が存在せず、特定ボリュームの割り振りが必要な場合に、SMC はすべてのデバイスに不適合をマーク付けし、ジョブステップを失敗させます。

ジョブステップがスクラッチの割り振りのみの場合は続行が許可され、SMC のテープポリシーの指定にのみ基づいて割り振りが実行されます。

MICompat

z/OS および OS/390 製品に対応した、Computer Associates Unicenter CA-MIA Tape Sharing との互換用に、SSI24 時に EDL を更新するか否かを指定します (省略可能)。このパラメータは、JES3 環境の TAPE SETUP 処理では使用できません。

OFF

SSI24 時に EDL が更新されません。これはデフォルトです。

ON

SSI24 時に EDL が変更されます。Unicenter CA-MIA を使用している場合は、この値を指定します。

CA1rts

Computer Associates の CA-1 テープ管理システムの Computer Associates Real Time Stacking 機能との互換用に、SSI24 時に DEFER 処理を実行するかどうかを指定します (省略可能)。このパラメータは、JES3 環境の TAPE SETUP 処理では**使用できません**。

OFF

SSI24 時に DEFER 状態が更新されません。これはデフォルトです。

ON

SSI24 時に DEFER 状態が更新されます。CA-1 の Real Time Stacking 機能を使用する場合、この値を指定します。

DEFer

ライブラリマウントのマウント遅延処理を有効または無効にします (省略可能)。マウント遅延が有効になっている場合は、データセットのオープン時に、ライブラリ常駐ボリュームがマウントされます。データセットがオープンされると、カートリッジがマウントされるまで、ジョブが待機する場合は、データセットがオープンされないかぎりカートリッジはマウントされないため、ほかの作業用にロボットを解放できます。

ON

マウント遅延処理を有効にします。このパラメータはユーザーの JCL より優先され、データセットがオープンされるまで、すべての ACS マウントが遅延します。これがデフォルトです。

JES3

JES3 (SETUP を伴う) 環境では、ステップが開始されるまで、JES3 によってすべてのジョブが遅延されます。

OFF

マウント遅延処理を無効にし、ユーザーによる JCL 指定を適用します。

注 -

- 遅延マウントが必要なジョブが SDEPTH ジョブに含まれるよう、JES3 SETPARAM 初期化文で、DEFERCT パラメータを YES に設定します。
 - SETPARAM の詳細については、次の IBM JES3 関連文献を参照してください。
 - *JES3 Initialization and Tuning Reference*
 - *JES3 Command Reference Summary*
 - *JES3 Commands*
 - *JES3 メッセージ*
-

FETCHmsg

SETUP を伴う JES3 環境でボリューム取得を使用する場合は、ライブラリドライブに割り振られるテープボリュームの取得メッセージを発行するかどうかを指定します (省略可能)。

OFF

ライブラリドライブに割り振られるボリュームの取得メッセージは発行されません。ライブラリ外ドライブに割り振られるボリュームの取得メッセージは発行されます。これはデフォルトです。

ON

ライブラリ内またはライブラリ外ドライブのいずれかに割り振られるかに関わらず、すべてのボリュームの取得メッセージが発行されます。

NONLIB

ライブラリトランスポートに割り振られるライブラリ外ボリュームの取得メッセージは発行されます。

ドライブとボリュームの両方がライブラリ内に常駐している場合 (すなわち、ボリュームを自動マウントできる場合)、取得メッセージが抑止されます。ボリュームの位置を判断するには、ライブラリサブシステムに問い合わせる必要があります。これにより、性能に悪影響が及ぶ場合があります。

EXTVOLesot

指定のエソテリックを使用して、特定の外部ボリューム (TapePlex 外のボリューム) が割り振られるよう指定することもできます (省略可能)。このエソテリックがいつ使用されるかは、エソテリックの指定後に設定する修飾子の値、および指定のエソテリックが有効 (元のエソテリック指定と交差する) か否かによって異なります。

OFF

EXTVOLesot 処理が無効になります。特定の外部ボリュームの割り振り時、可能な場合は、ライブラリ外ドライブが選択されます。これはデフォルトです。

esoteric,USEREXIT

"use specvol"(UX08) または "use library drives"(UX13) 戻りコードが指定されている場合に、特定の外部ボリュームの割り振りに使用されるエソテリックを指定します。特定ボリュームのユーザー出口から、この DD の "use specvol"(UX08) または "use library drives"(UX13) 戻りコードが返されると、元のエソテリックと交差する指定のエソテリック内にある任意のドライブが割り振り対象として選択されます。エソテリックが指定されている場合のデフォルトです。

esoteric,ALL

外部ボリュームが割り振られる度に、指定のエソテリック内にあるドライブが選択されます。

ZEROscr

任意の TapePlex にスクラッチボリュームがないときの除外動作 (ON または OFF)、または複数の ACS 環境の TapePlex 内の 1 つまたは複数の ACS にスクラッチボリュームがないときの除外動作 (INside または OUTside) を指定します (省略可能)。

ON

これはデフォルトです。ON は、次のいずれかを示します。

- スクラッチサブプールを使用していない場合、1 つまたは複数の ACS にスクラッチボリュームが 1 つもない場合は、これらの ACS 内のドライブが適格デバイスリストから除外されます。
- (TAPEREQ またはユーザー出口 02/04 を介して) スクラッチサブプールが要求された場合、1 つまたは複数の ACS に要求対象のサブプール内のスクラッチボリュームが 1 つもない場合に、これらの ACS 内のドライブが適格デバイスリストから除外されます。
- SETUP を伴う JES3 環境にかぎり、利用可能なスクラッチボリューム数が一番多い ACS 内のドライブは、適格とみなされます。ほかのすべてのドライブは、選択対象から除外されます。

INside

どの ACS にもスクラッチボリュームが 1 つもなく、割り振り対象のライブラリデバイスがあるときに、すべてのライブラリ外ドライブが除外されます。これはデフォルトです。

OUtside

どの ACS にもスクラッチボリュームが 1 つもなく、割り振り対象のライブラリ外デバイスがあるときに、すべてのライブラリドライブが除外されます。

OFF

すべての ACS 内の全ドライブが、選択対象として適格とみなされます。

INside

どの ACS にもスクラッチボリュームが 1 つもなく、割り振り対象のライブラリデバイスがあるときに、すべてのライブラリ外ドライブが除外されます。これはデフォルトです。

OUtside

どの ACS にもスクラッチボリュームが 1 つもなく、割り振り対象のライブラリ外デバイスがあるときに、すべてのライブラリドライブが除外されます。

CAVTAPe

割り振りイベントに適用される SMC POLICY オブジェクトが見つかったときに、スクラッチユーザー出口 02 または特定のユーザー出口 08 を呼び出すかどうかを指定します (省略可能)。

OFF

SMC POLICY オブジェクトが割り振りイベントに適用される場合、ユーザー出口 02 とユーザー出口 08 は稼働中でも呼び出されません。SMC POLICY オブジェクトが SMC のテープポリシーのすべてを提供するのがそのような例です。これはデフォルトです。

オン

SMC POLICY オブジェクトが割り振りイベントに適用される場合、スクラッチユーザー出口 02 または特定のユーザー出口 08 が呼び出され、競合しないユーザー出口ポリシーが同じ割り振りイベントに適用されます。

注 -

- この設定は、CA-Vtape がインストールされていて、デフォルトの SMC POLICY オブジェクトを使用しているが CA-Vtape によって提供されたユーザー出口が必要なお客様に対してのみ、推奨されます。
- ユーザー出口の競合しないポリシーのみが適用されます。したがって、SMC POLICY で ESOTERIC 名または TAPEPLEX 名を指定し、ユーザー出口 02 またはユーザー出口 08 でも ESOTERIC 名または TAPEPLEX 名を指定する場合は、SMC POLICY の仕様が適用されます。SMC と CA-Vtape の相互作用の詳細については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。

ALLOCJob

ALLOCJob コマンドを用いて、SMC のデフォルト割り振りパラメータを、ジョブ名、ステップ名、および PROC ステップに置き換えます。

注 – SMS パラメータは、このコマンドでサポートされなくなりました。必要な場合は、ジョブ名を選択するように SMS ACS ルーチンを設定してください。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティーの入力として使用可能

構文

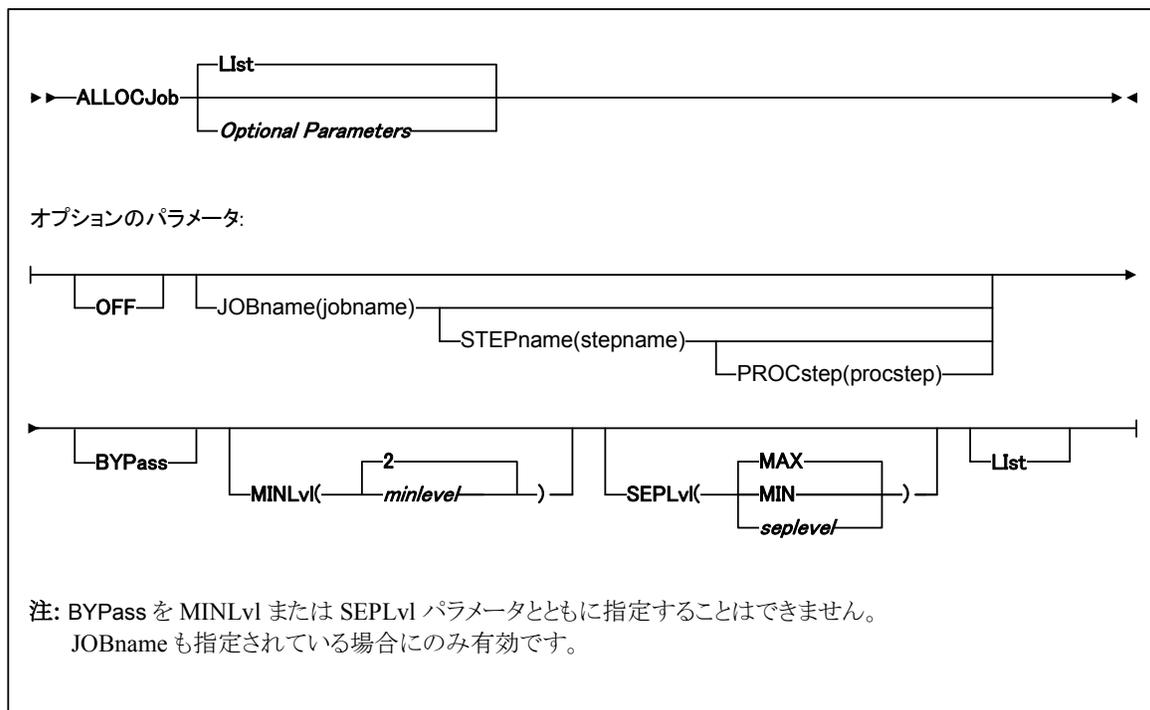


図 2-2 ALLOCJob の構文

パラメータ

Llist

現在の割り振りおよび置き換えのデフォルト設定 (処理順) を、ジョブ名、ステップ名および PROC ステップごとに一覧表示します (省略可能)。

- Llist は、ALLOCJob コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、Llist は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

割り振りのすべてのジョブ名、ステップ名および PROC ステップの置き換え値を削除します (省略可能)。

- ほかのパラメータが指定されていない場合、すべてのジョブの割り振り置き換え値が削除されます。
- JOBname のみが指定されている場合は、該当するジョブ名の ALL ALLOCJob エントリに対する割り振り置き換え値が削除されます。
- JOBname、STEPname、および PROCstep が指定されている場合、指定のエントリに対する割り振り置き換え値のみが削除されます。

このパラメータは、グローバル割り振り設定には反映されません。

JOBname

ジョブ名を指定します (省略可能)。

Llist または OFF が指定されていない場合、このパラメータは必須です。

jobname

ジョブ名です。入力値は、1 - 8 文字長でなければなりません。最後の文字にアスタリスク (*) を入力し、ワイルドカードとして使用できます。アスタリスクの先行文字に一致するジョブ名を持つすべてのジョブに対し、ALLOCJob が設定されます。

STEPname

ステップ名を指定します (省略可能)。このパラメータは、JOBname が指定されている場合にのみ有効です。JES3 環境の TAPE SETUP 処理では使用できません。

stepname

ステップ名です。入力値は、1 - 8 文字長にする必要があります。最後の文字にアスタリスク (*) を入力し、ワイルドカードとして使用できます。

PROCstep

PROC ステップを指定します (省略可能)。このパラメータは、JOBname および STEPname が指定されている場合にのみ有効です。JES3 環境の TAPE SETUP 処理では使用できません。

procstep

PROC ステップです。

入力値は、1 - 8 文字長にする必要があります。最後の文字にアスタリスク (*) を入力し、ワイルドカードとして使用できます。

BYPass

指定のジョブ (ジョブステップ、ステップ名、PROC ステップ) に対し、SMC 割り振りの影響を実行しないよう指定します (省略可能)。

このパラメータを MINLvl、SEPLvl、または SMS パラメータと共に指定することはできません。JOBname が指定されている場合にのみ有効です。

注 – マウントが実行されない場合 (IEFBR14 ジョブなど) を除き、BYPASS ではなく MINLV=0 を使用することを推奨します。

MINLvl

ドライブ除外の最小レベルを指定します (省略可能)。最小除外レベルでジョブが割り振られない場合、SMC は最小レベルまでのドライブ除外を実行した後、ジョブを失敗させます。

このパラメータを BYPass パラメータとともに指定することはできません。JOBname が指定されている場合にのみ有効です。

minlevel

適正な最小割り振り除外レベル。有効値は 0 - 8 です。0 に設定すると、レベル 1 の除外処理中にすべてのドライブが除外される場合でも、SMC によってドライブが除外されません。デフォルトは、ALLOCDEF MINLVL 設定の現在の値です。SMC の除外レベルの詳細については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。

注 –

- MINLVL=0 に設定すると、デバイスと特定のボリュームに互換性がない場合でも、SMC によってジョブが失敗させられることはありません。MINLVL=0 と設定することにより、「外部」テープカートリッジのボリュームシリアル番号が、既存ライブラリまたは仮想ボリュームと同じ場合にも、SMC に割り振りを正常に実行させることができます。
- *minlevel* の値を大きくすることによって効果が発生するためには、特定のジョブステップに対して、メッセージ SMC0045 または SMC0091 が発行されていなければなりません。

SEPLvl

アフィニティーおよび GDG チェーンの分離が実行される除外レベルを指定します (省略可能)。

このパラメータを BYPass パラメータとともに指定することはできません。JOBname が指定されている場合にのみ有効です。

MIN

最小レベルを超過したアフィニティチェーンと GDG チェーンは分離されません。

MAX

充分な数のドライブが利用可能な場合、矛盾する除外条件に応じて、アフィニティチェーンと GDG チェーンが分離されます。これはデフォルトです。

seplevel

最小レベルと最大レベルの間の除外レベル。十分な数のドライブが存在する場合、SMCはこのレベルでチェーンの分離を試みます。SMCの除外レベルの詳細については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。

注 – *seplevel* 値は、*minlevel* 値よりも大きくなければなりません。

CMDDef

CMDDef コマンドは、SMC コマンドの接頭辞の割り当てに使用します。

インタフェース :	UII: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である

構文

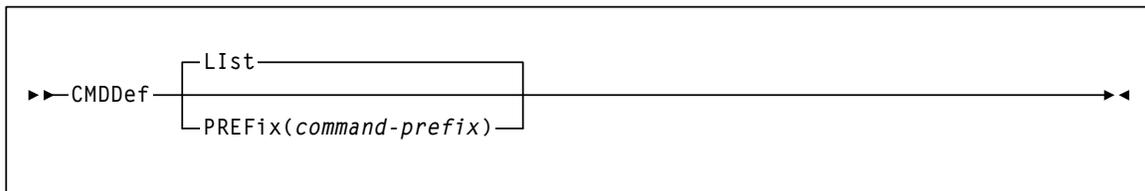


図 2-3 CMDDef の構文

パラメータ

LlSt

現在のコマンド接頭辞を一覧表示します (省略可能)。

パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。ほかのパラメータと共に指定することはできません。

PREFik

SMC サブシステムのコマンド接頭辞を指定します (省略可能)。

このパラメータは、SMCPARMS データセット内でのみ指定できます。

command-prefix

コマンド接頭辞です。入力値は、1 - 8 文字でなければなりません。また、次の条件も満たしていなければなりません。

- 次の文字を使用できます。
A-Z 0-9 @ ¢ \$ # , . / ' () < > * & + - = | ! ; : " % _ ?
- コマンド文字列、コマンド略字、またはコマンドを開始する文字列は、コマンドプレフィックスとして**使用できません**。
- 同じ文字で始まる既存のプレフィックスのサブセットまたはスーパーセットである文字列は、コマンドプレフィックスとして**使用できません**。

注 - MVS コマンド DISPLAY OPDATA を用いて、すべてのアクティブなコマンドプレフィックスと、該当するサブシステム名を表示できます。

COMMtest

COMMtest コマンドを用いて、SMC と定義済みの TapePlex または VLE の間でエンドツーエンドの通信テストを実行します。このコマンドは、状態にかかわらず、すべての TapePlex へのすべてのパスに対する要求を生成できます。COMMtest コマンドにより、エラー統計やパスの状態は更新されませんが、通信結果を示すメッセージが表示されます。

注 - HSC TapePlex または VLE だけが COMMtest コマンドに対応しています。

インタフェース :	UII: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

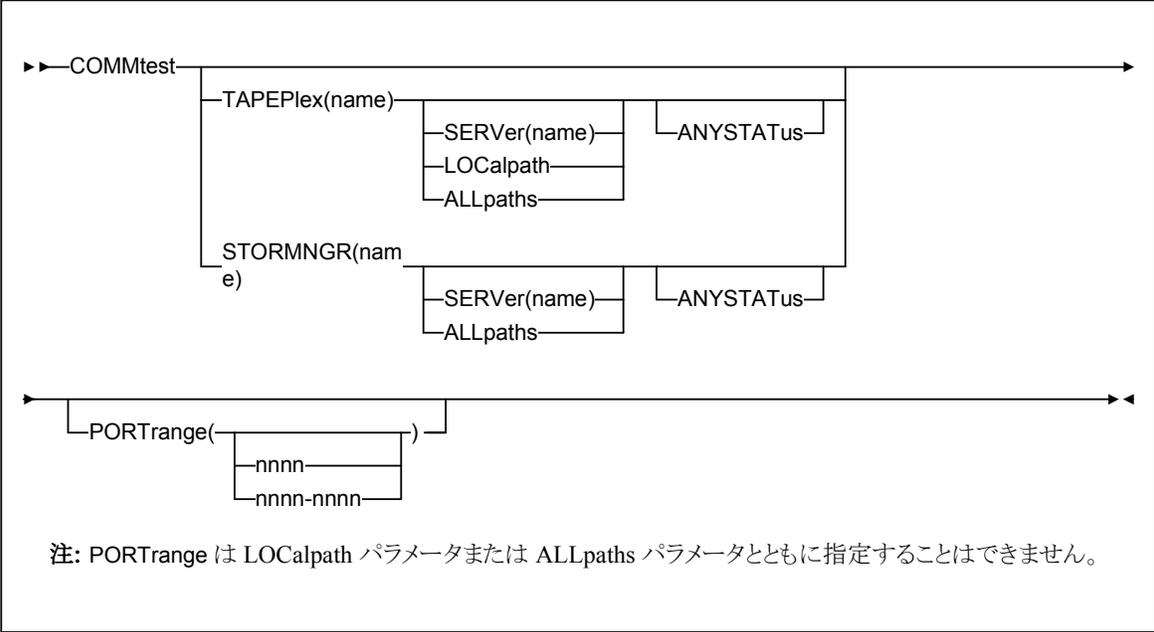


図 2-4 COMMtest の構文

パラメータ

TAPEPlex

指定された TapePlex への通信を制限します (省略可能)。デフォルトでは、すべての定義済みの TapePlex との通信が試行されます。

name

SMC TAPEPlex コマンドによって定義された TapePlex 名です。次の規則が適用されます。

- 値は 1 - 8 文字でなければなりません。
- 最初の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最後の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最初と最後の文字の間にある文字は、英字、数字、ハイフンのいずれかでなければなりません。

STORMNGR

指定された VLE への通信を制限します (省略可能)。デフォルトでは、すべての定義済みの VLE との通信が試行されます。

name

SMC STORMNGR コマンドによって定義された VLE 名です。

注 – TAPEPlex と STORMNGR は、いずれか一方しか指定できません。

SERVer

指定されたサーバーパスへの通信を制限します (省略可能)。このパラメータを指定するときは、TAPEPlex または STORMNGR も指定する必要があります。デフォルトでは、すべてのサーバーパスとの通信が試行されます。

name

SMC SERVer コマンドによって定義されたサーバーパス名です。次の規則が適用されます。

- 値は 1 - 8 文字でなければなりません。
- 最初の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最後の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最初と最後の文字の間にある文字は、英字、数字、ハイフンのいずれかでなければなりません。

LOCAlpath

ローカルサーバーパス (ある場合) がテストされます。デフォルトでは、定義済みのリモートサーバーパスのみがテストされます。

ALLpaths

ローカルとリモート両方のすべてのサーバーパスがテストされます。

ANYSTATus

オペレータコマンドまたは SMC によって無効にされたパスを含めて、すべての通信パスで通信が試行されます。デフォルトでは、有効、無効、または有効になったことのない任意の通信パスで、通信テストが実行されます。ANYSTATus の指定には、無効な通信パスも含まれます。

PORTrange

リモートサーバーパスへの通信を指定したポートまたは範囲からテストすることを指定します (省略可能)。指定した PORTrange では、TCPip PORTrange の指定とは異なり、ファイアウォール設定のテストが可能です。

注 – PORTrange は LOCALpath および ALLpaths と一緒には指定できません。

または #####-#####

通信に使用するポート番号またはポート番号の範囲です。

省略した場合、定義済みの TCPip PORTrange のポートが使用されます。ポートが定義されていない場合、一時的なポートが使用されます。ポート範囲が指定されている場合、各ポート番号で通信が試行されます。

Display DRIve

Display DRIve コマンドを用いて、SMC のドライブ属性情報と TapePlex 所有権情報を要求します。

注 - SMC Route コマンドを介して HSC Display DRIves コマンドを発行することによって、TapePlex のドライブ情報も取得できます。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力を含む)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティーの入力として使用可能

構文

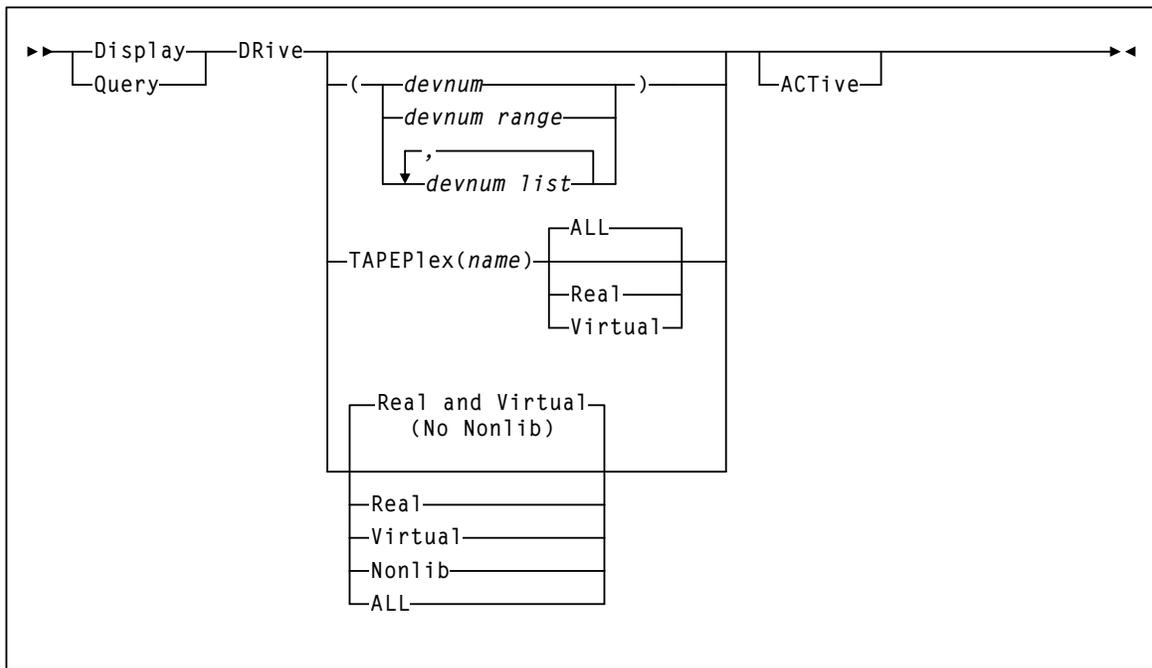


図 2-5 Display DRIve の構文

パラメータ

devnum、*devnum-range*、*devnum-list*

処理対象のデバイス番号を示します。指定すると、指定したすべてのデバイスアドレスが表示されます。Display DRive コマンドの *devnum* 形式は、TapePlex に属さない定義済みデバイス、または SMC UNITAttr コマンドによって定義されていない定義済みデバイスを表示する唯一の方法です。

TAPEPlex

指定された TapePlex に属するデバイスのみを一覧表示します (省略可能)。

name

TapePlex 名です。次の規則が適用されます。

- 値は 1 - 8 文字でなければなりません。
- 最初の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最後の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最初と最後の文字の間にある文字は、英字、数字、ハイフンのいずれかでなければなりません。

Real

指定された TapePlex に属する「実際の」(非仮想) デバイスのみを一覧表示します (省略可能)。

Virtual

指定された TapePlex に属する仮想デバイスのみを一覧表示します (省略可能)。

ALL

指定された TapePlex に属するすべてのデバイスを一覧表示します (省略可能)。パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

Real

SMC によって定義された TapePlex に属する「実際の」(非仮想) デバイスのみを一覧表示します (省略可能)。

Virtual

SMC によって定義された TapePlex に属する仮想デバイスのみを一覧表示します (省略可能)。

Nonlib

SMC によって定義された TapePlex に属さないが、UNITATTR 文が定義されている「実際の」デバイスのみを一覧表示します (省略可能)。

ALL

SMC によって定義された TapePlex に属するすべてのデバイスを一覧表示します (省略可能)。

ACTive

現在マウントされているドライブまたは SMC の内部データに従ってマウントを待機しているドライブのみを一覧表示します (省略可能)。

注 – Display DDrive コマンドがパラメータなしで発行された場合、デフォルトでは、SMC によって定義された TapePlex に属する実際のデバイスと仮想デバイスがすべて一覧表示されます。

Display RC

Display RC コマンドは、SMC リターンコードまたは理由コード、あるいは HSC/VTCS UUI 理由コードの意味に関する情報を表示するために使用します。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力を含む)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティーの入力として使用可能

構文

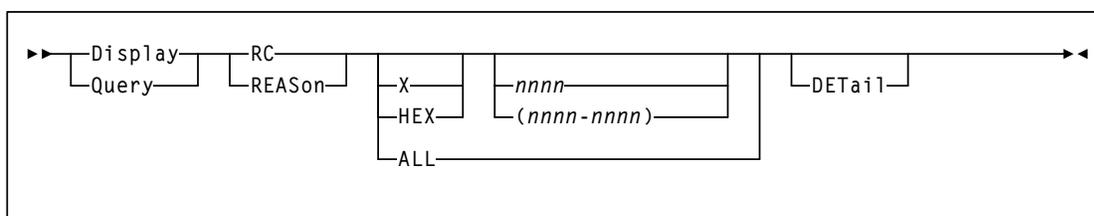


図 2-6 Display RC の構文

パラメータ

X または HEX

理由/リターンコード値または範囲が 16 進数で指定されることを指定します (省略可能)。

nnnn、nnnn-nnnn

説明が表示されるリターンコードを一覧表示します (省略可能)。

- X または HEX が指定された場合、値には 16 進数 0 - 9 および A - F を含めることができます。
- X または HEX が指定されない場合、値には数値のみを含めることができます。コンソールから指定される範囲には最大 16 の値を含めることができます。

ALL

定義されたすべてのリターンコードまたは理由コードを一覧表示することを示します (省略可能)。

ALL はユーティリティーからのみ許可されます。

注 - ALL と H/HEX は相互に排他的です。

DETail

要求されたコードの詳細情報を一覧表示することを示します (省略可能)。

Display Volume

Display Volume コマンドを用いて、ボリューム属性情報と TapePlex 所有権情報を要求します。

注 -

- SMC Route コマンドを介して HSC Display Volume コマンドを発行することによって、TapePlex のボリューム情報も利用可能になります。
- サーバーが ACSLS のとき、このコマンドは MEDIA および RECTECH に対して NONE を表示します。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力を含む)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

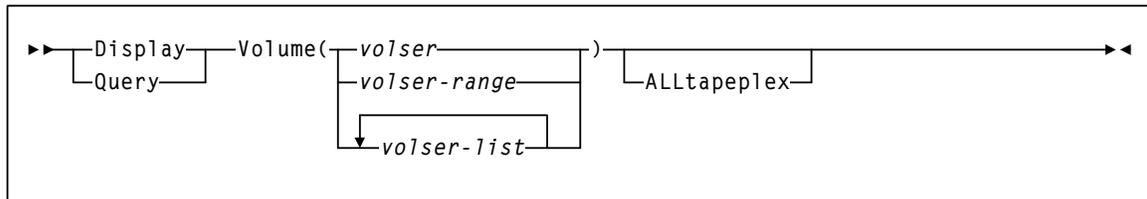


図 2-7 Display Volume の構文

パラメータ

volser、*volser-range*、*volser-list*

volser、*volser range*、または *volser list* が処理されることを示します。複数のボリュームを指定した場合は、最初の 100 件のみが問い合わせられます。

ALLtapeplex

指定した *volser* に対して、稼働中のすべての TapePlex が問い合わせられます (省略可能)。指定すると、1 つの *volser* が複数の TapePlex で定義されている場合に、その *volser* に対して複数の表示行を一覧表示できます。

このパラメータが指定されていないと、Display Volume コマンドにより、TapePlex が定義されている順に問い合わせられ、最初に出現したボリュームのみが一覧表示されます。

DRIVemap

DRIVemap コマンドを用いて、クライアントドライブのアドレスをサーバードライブのアドレスにマップします。このコマンドを使用すると、クライアント/サーバードで、同じ TapePlex または仮想ドライブの各ホストに、異なる MVS デバイスアドレスを指定できます。

注 - ドライブマッピング、およびクライアントとサーバのアドレスが異なるときの DRIVemap コマンドと HSC DRVHOST パラメータの使用法については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。

インタフェース :	UI: すべて (XML/CSV 形式の出力を含む)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

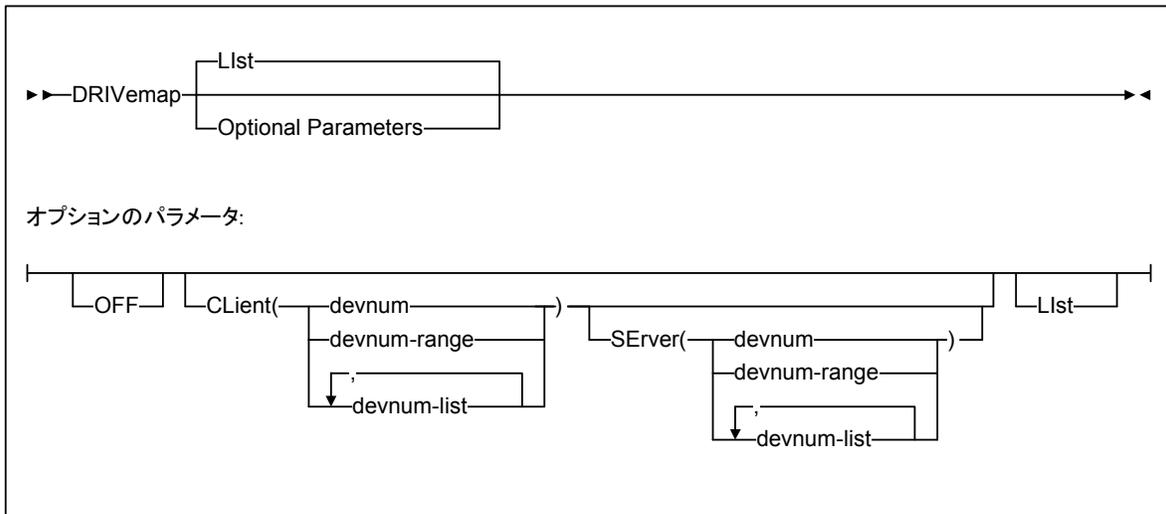


図 2-8 DRIVemap の構文

パラメータ

Llist

現在の DRIVemap マッピングをすべて一覧表示します (省略可能)。

- Llist は、DRIVemap コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。この場合、すべての DRIVemap エントリが一覧表示されます。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、Llist は、ほかのパラメータが処理されたあとに適用されます。

OFF

現在の DRIVemap マッピングをすべて削除します (省略可能)。CLient パラメータと併用すると、CLient パラメータで指定した DRIVemap の範囲が削除されます。

CLient

DRIVemap コマンドによってマップされるデバイス番号を指定します (省略可能)。

devnum、*devnum-range*、*devnum-list*

デバイス番号、デバイス番号の範囲、またはデバイス番号のリストです。

SERver

HSC サーバー上に定義されるデバイス番号を指定します (省略可能)。

devnum、*devnum-range*、*devnum-list*

デバイス番号、デバイス番号の範囲、またはデバイス番号のリストです。

範囲とリストが、CLient パラメータの範囲およびリストと一致していなければなりません。次に例を示します。

CL(AA0-AA2) SE(BA0-BA2) は有効ですが、
CL(AA0-AA2) SE(BA0, BA1, BA2) は無効です。

HTTP

HTTP コマンドを用いて、SMC を、ほかのホストで動作するほかの SMC システムの HTTP サーバーとして指定します。SMC HTTP コマンドは、稼働中の TapePlex があるホストでのみ実行する必要があります。そうでない場合、このコマンドは無効になります。

インタフェース :	UII: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である

構文

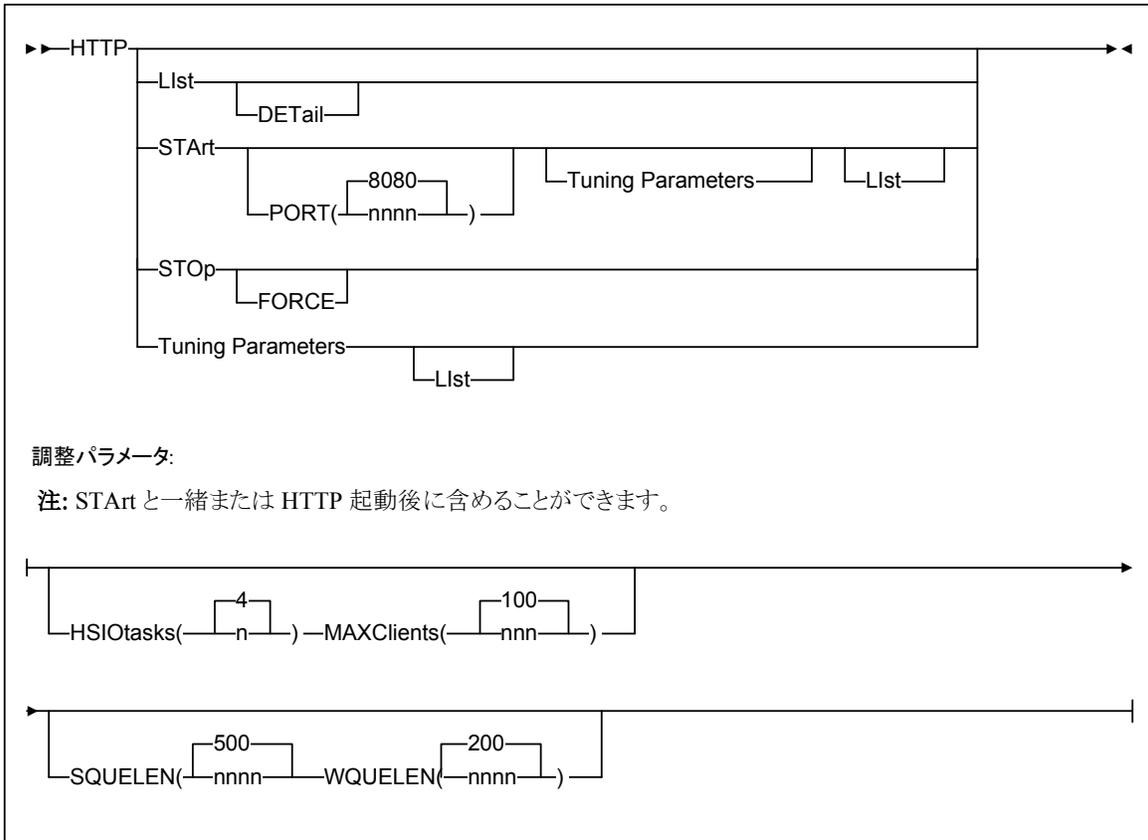


図 2-9 HTTP の構文

パラメータ

LlSt

HTTP サーバーの状態情報と間隔統計を表示します (省略可能)。

DETail

LlSt コマンドで表示される情報に加えて、I/O、エラー、許可および拒否カウント、CGI モジュール使用カウントの情報を一覧表示します (省略可能)。

STArT

SMC HTTP サーバーを起動します (省略可能)。

PORT

受信要求を待機するポート番号を指定します (省略可能)。

nnnn

TCP/IP ポート番号です。よく知られている TCP/IP ポート番号は指定しないことをお勧めしています。指定しない場合、デフォルトは 8080 です。

STOp

SMC HTTP サーバーを停止します (省略可能)。

FORCE

SMC HTTP サーバーの状態が稼働中でなくても、HTTP STOp コマンドを処理するよう SMC に指示します (省略可能)。このパラメータは、回復不能な HTTP サービスタスクの終了があった場合と、通常の SMC HTTP STOp コマンドが拒否された場合にのみ使用します。

オプションの調整パラメータ

注 - オラクルソフトウェアサポートから指示がないかぎり、これらのパラメータのデフォルト値を変更しないことを強くお勧めします。

HSIOtasks

開始する SMC HTTP ソケットの入出力タスクの最大数を指定します (省略可能)。

n

I/O タスクの数です。

注 - HTTP サーバーの起動後に HSIOtasks パラメータを指定することはできません。HSIOtasks パラメータは、HTTP START コマンドの一部として指定する必要があります。ただし、それ以外の調整パラメータ MAXClients、SQUELEN、および WQUELEN は、HTTP サーバーの起動が完了した後に変更できます。

MAXClients

一度に許可される接続された要求の最大数を指定します (省略可能)。

nnnn

要求の数です。この値は 1 から 300 までの範囲である必要があります。デフォルト値は 100 です。

SQUELEN(*nnn*)

タスクバランシングによってタスクを強制的に同期入出力モードにする前の HTTP サーバーの入出力キューの最大長を指定します (省略可能)。

nnnn

キューの長さです。デフォルト値は 500 です。

注 – 入出力キューの現在の長さおよび最大長は、SMC の HTTP LIST DETAIL コマンドを発行し、「Socket I/O reqs」で始まる行を参照することによって確認できます。「quecurr」には入出力キューの現在の長さが、「high」には I/O キューの最大長が表示されます。

WQUELEN(*nnn*)

入出力要求をキューに入れた後に選択されたタスクを強制的に待機させることによってタスクバランシングを試行する前の HTTP サーバーの入出力キューの最大長を指定します (省略可能)。

nnnn

キューの長さです。デフォルト値は 200 です。

入出力キューの現在の長さおよび最大長は、SMC の HTTP LIST DETAIL コマンドを発行し、「Socket I/O reqs」で始まる行を参照することによって確認できます。「quecurr」には入出力キューの現在の長さが、「high」には I/O キューの最大長が表示されます。

IDAX

IDAX コマンドは、IDAX (MVS インタプリタ/動的割り振り出口) 処理中に SMC の動作を制御するために使用されます。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティーの入力として使用可能

構文

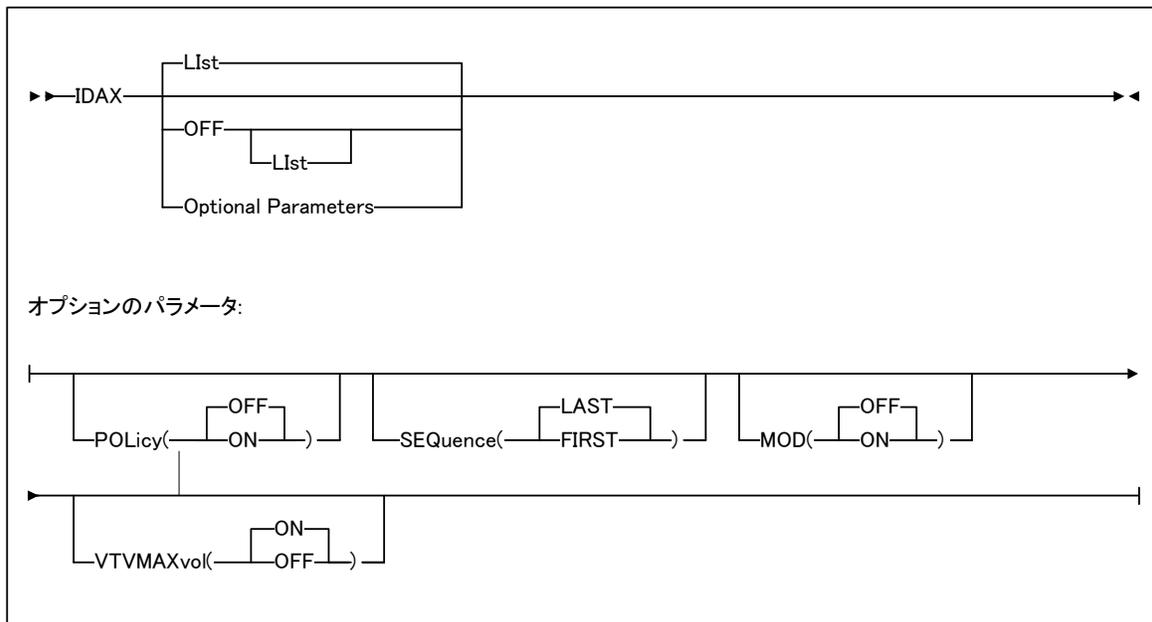


図 2-10 IDAX の構文

パラメータ

LlSt

現在の SMC IDAX 設定を一覧表示します (省略可能)。

- LlSt は、IDAX コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- LlSt は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、LlSt は、ほかのパラメータが処理されたあとに適用されます。

OFF

すべての IDAX 設定を元の SMC デフォルト設定に戻します (省略可能)。これらの設定を一覧表示するために、このパラメータとともに LlSt を指定します。

OFF は、ほかのパラメータとともに指定することはできません。

POLicy

SMC TAPEREQ/POLicy コマンドの処理が IDAX 処理中に実行されるかどうかを指定します (省略可能)。

OFF

TAPEREQ/POLicy コマンドの処理は、IDAX 処理中には実行されません。これはデフォルトです。

ON

TAPEREQ/POLicy コマンドの処理は IDAX 処理中に実行されます。

注 – DFSMS ACS ルーチン MGMTCLAS をポリシー名として使用した IDAX での SMC ポリシー処理は、SMSDef コマンドの MGMTPol パラメータによって制御されます。

SEQuence

IDAX (インタープリタ/動的割り振り出口) 処理中の SMC と IBM DFSMS ACS ルーチン呼び出しの相対的な順序を指定します (省略可能)。

LAST

SMC は、IBM のあとに DFSMS ACS ルーチンを開始します。これはデフォルトです。

FIRST

SMC は、IBM の前に DFSMS ルーチンを開始します。このパラメータを使用すると、SMC DFSMS ルーチンによって、指定エソテリックのないデータセットや、IBM が SMC の前に DFSMS ルーチンを開始する場合には SMS が管理するデータセットにテープエソテリックを割り振ることができます。

MOD

POLicy IDAXESOT パラメータまたは SMC DFSMS エソテリック置換が DISP=MOD データセットと DISP=NEW データセットに適用されるかどうかを指定します (省略可能)。

OFF

SMC POLicy IDAXESOT パラメータまたは SMC DFSMS エソテリック置換は、DISP=MOD データセットに適用されません。これはデフォルトです。

ON

SMC IDAX パラメータおよび SMC DFSMS エソテリック置換 (指定されている場合) は、ジョブの JCL 内で最初のデータセットへの参照が DISP=MOD または DISP=NEW のいずれかを指定している場合に、すべての DISP=MOD のデータセットに適用されます。

注 – SMS IDAX 置換中、SMC は、MOD データセットが存在するか否かを判断できません。

VTVMAXvol

派生エソテリックが少なくとも 1 つの仮想デバイスを含む場合に、新しい割り振りのボリュームカウントを 255 に設定するかどうかを指定します (省略可能)。派生エソテリックは、JCL 指定、POLicy コマンド IDAXESOTERIC 値、または SMC DFSMS ACS ルーチン値から取得されます。

OFF

ボリュームカウントは、仮想割り振りのために調整されません。これはデフォルトです。

ON

JCL (または IDAX 置換) エソテリックにスクラッチ割り振り用の仮想デバイスが含まれる場合に、ボリュームカウントを 255 に設定します。

Llst

SMC Llst コマンドを用いて、SMC 開始タスクのアドレス空間からアクセス可能なストレージを表示します。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティーの入力として使用可能

構文

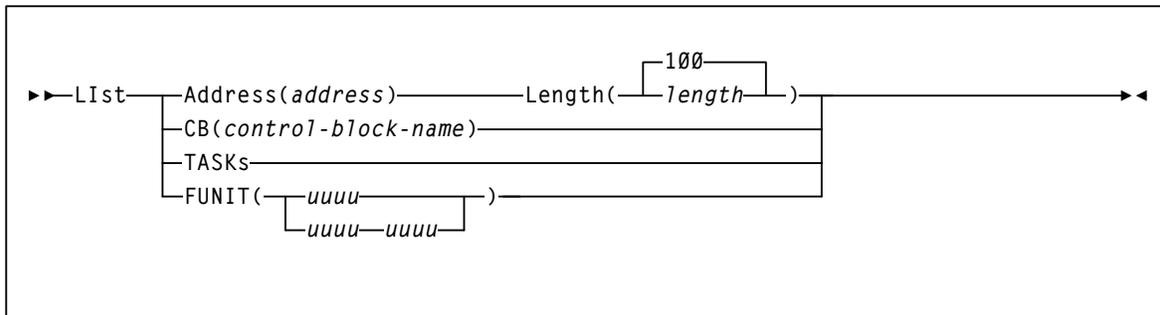


図 2-11 Llst の構文

パラメータ

Address

SMC メモリー内容の表示を開始するアドレスを指定します (省略可能)。

address

アドレス。入力値は、有効な 16 進数のアドレスでなければなりません。

Length

一覧表示される SMC メモリー (バイト) 長を指定します (省略可能)。Address が指定されている場合、Length は必須です。

length

長さ。入力値は、1 - FFFF の有効な 16 進数でなければなりません。Address パラメータで指定した位置から、メモリーが一覧表示されます。デフォルト値は 100 (10 進数の 256) です。

CB

表示対象の内部 SMC 制御ブロックを指定します (省略可能)。

control-block-name

制御ブロック名です。

SMC 制御ブロックは、診断目的で一覧表示されます。Oracle ソフトウェアサポートの指示に従い、*control-block-name* のみを指定します。

TASKs

SMC サブシステムアドレス空間内のタスクを一覧表示します (省略可能)。

FUNIT

指定されているユニットアドレスに関連付けられている SMC 制御ブロックを一覧表示します (省略可能)。

uuuu* または *uuuu-uuuu

ユニットアドレス。

LOG

SMC LOG コマンドは、次のいずれか (またはすべて) からのデータ通信をログに記録します。

- SMC ライブラリインタフェースコンポーネント
- SMC クライアント構成コンポーネント
- SMC HTTP サーバーコンポーネント
- SMC オペレータコマンドコンポーネント

これらの通信トランザクションは SMC のログファイルに記録されます。

このコマンドは、主として、オラクルソフトウェアサポートからの指示に従って、使用されるものです。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である

構文

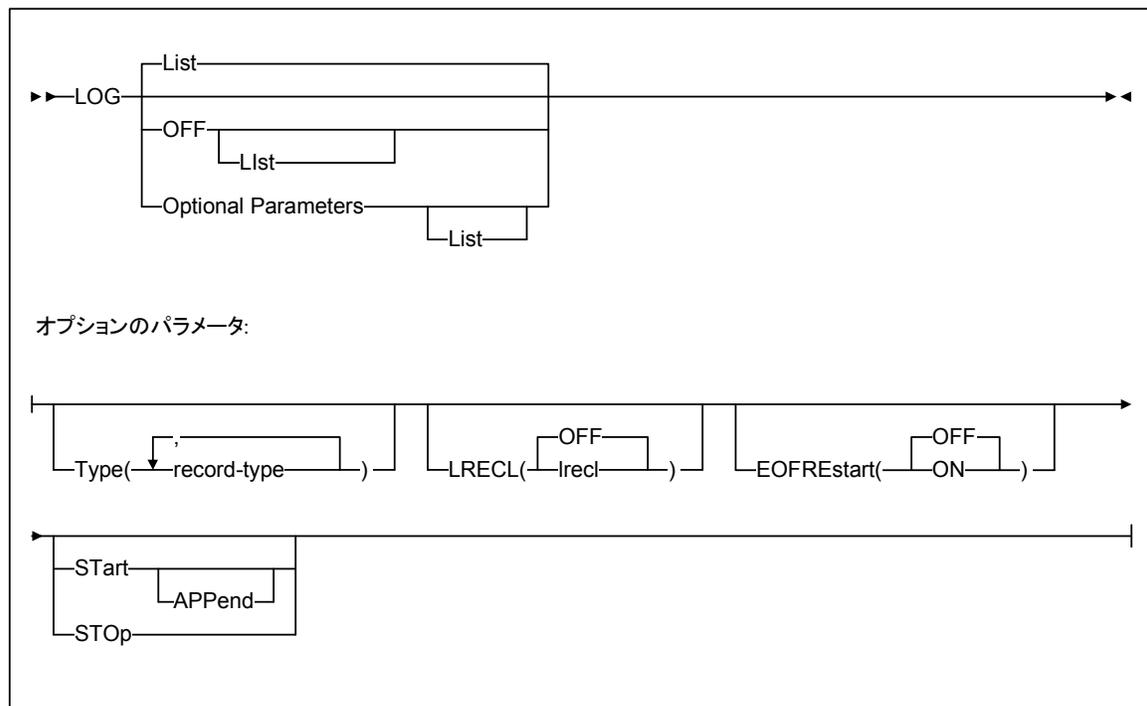


図 2-12 LOG の構文

パラメータ

Llist

HTTP サーバーの状態情報と間隔統計を表示します (省略可能)。

- Llist は、LOG コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、Llist は、ほかのパラメータが処理されたあとに適用されます。

OFF

すべての LOG 設定を元の SMC デフォルト設定に戻します (省略可能)。OFF は LOG を閉じ、すべてのレコード TYPE をオフにし、LRECL を 0 に設定します。OFF コマンドの後に後続の LOG START コマンドが発行された場合、特定の LOG TYPE が指定されるまでレコードはロギングされません。

TYPE

ログに記録するレコードのタイプを指定します (省略可能)。有効な値は、次のとおりです。

LLS	SMC ライブラリインタフェースコンポーネントから送信されたローカルの LIBTRANS XML トランザクション用
LLR	SMC ライブラリインタフェースコンポーネントによって受信されたローカルの LIBTRANS XML 応答用
CLS	SMC クライアント通信コンポーネントから送信されたリモートの LIBTRANS XML トランザクション用
CLR	SMC クライアント通信コンポーネントによって受信されたリモートの LIBTRANS XML 応答用
CUS	SMC クライアント通信コンポーネントから送信されたリモートの UUI トランザクション用
CUR	SMC クライアント通信コンポーネントによって受信された リモートの UUI 応答用
CER	SMC クライアント通信によって検出されたすべてのエラー用 コンポーネント
SAS	SMC HTTP サーバーコンポーネントによって送信されたすべてのデータ用
SAR	SMC HTTP サーバーコンポーネントによって受信されたすべてのデータ用
SER	SMC HTTP サーバーコンポーネントによって検出されたすべてのエラー用
CMD	SMC オペレータコマンドコンポーネントによって受信されたすべてのオペレータコマンド用
ALL	すべてのタイプをオンにする
OFF	すべてのタイプをオフにする

注 – LOG TYPE コマンドは累積されます。たとえば、LOG TYPE(CMD,UUI) のあとに LOGTYPE(CLS,CLR) を指定した場合、その結果の LOG TYPE 設定は LOG TYPE(CLS,CLR,CMD,UUI) となります。ログ記録からレコードタイプを選択解除するには、LOG TYPE(OFF) を入力してすべてのレコードタイプを選択解除し、LOG TYPE コマンドをもう 1 回入力してログに記録するログタイプレコードを指定します。

LRECL

ログ (LOG) ファイルに書き込まれる行の長さを指定します (省略可能)。

OFF

行の最大長が DCB LRECL によって制御されます。ログの日付およびタイムスタンプに LOG 記録が追加されますこれはデフォルトです。

nnnnn

80 - 32767 の値で、論理的な行の長さを制限します。

指定の LRECL を超えるデータを送受信した場合は、複数行に書き込まれます。LRECL が指定されている場合、長いフォーマットの日付とタイムスタンプが、別々の LOG 記録として書き込まれます。この値が DCB LRECL を超える場合は、DCB LRECL が使用されます。

EOFREstart

LOG ファイルが End of File (EOF: ファイル最後尾) に達した場合の対応方法を指定します (省略可能)。

OFF

EOF に達した時点でロギングが停止します。

ON

EOF に達した時点で LOG ファイルがいったん閉じ、再び開かれたあと、ロギングが続行します。

STArt

ロギングを開始します (省略可能)。

APPend

ロギングの開始時に現在の LOG ファイルの末尾にデータを追加します (省略可能)。指定されていない場合、データは LOG ファイルの冒頭に追加され、ログファイルの既存データは失われます。APPend を指定するには、STArt も指定されていなければなりません。

STOp

ロギングを停止します (省略可能)。現在の LOG 設定が保存されます。

MONitor

SMC MONitor コマンドは、SMC の監視に関連付けられたパラメータを定義します。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である SMCUSIM ユーティリティの入力として使用不可

構文

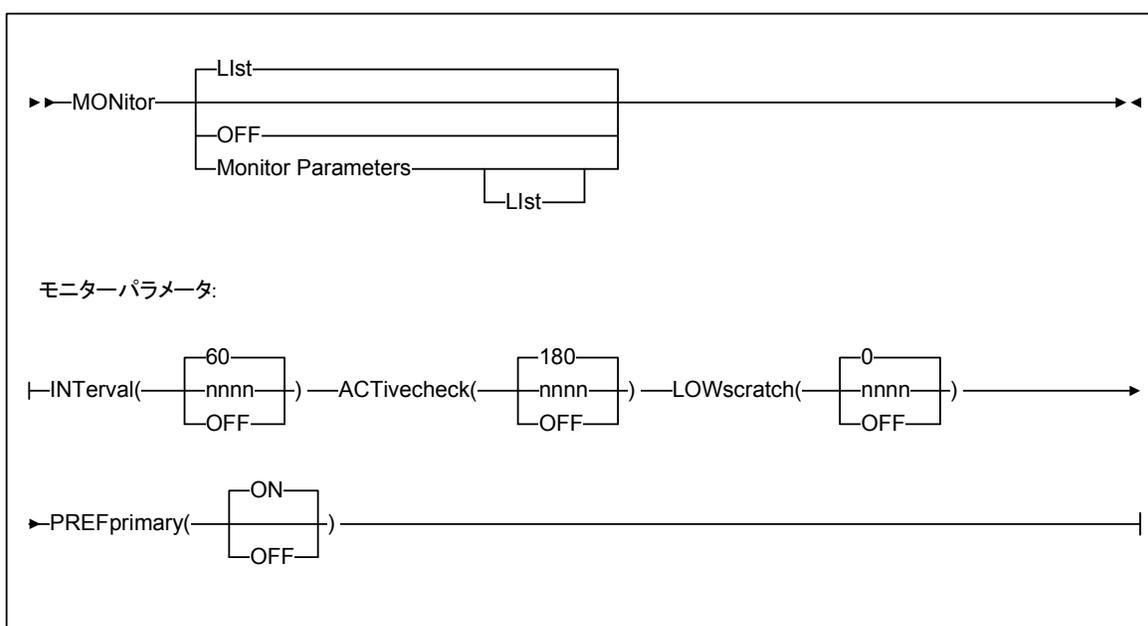


図 2-13 MONitor の構文

パラメータ

List

現在の MONitor コマンドの設定を一覧表示します (省略可能)。

OFF

すべての MONitor パラメータをデフォルト値にリセットします (省略可能)。

INterval

SMC の基本モニタースキャン間隔 (秒) を指定します (省略可能)。デフォルト値は 60 です。

モニターの間隔ごとに、SMC は次の処理を実行します。

1. 非アクティブな TapePlex または STORMNGR のためにアクティブな通信パスを見つけようとしています。
2. PREFprimary(ON) が設定されている場合は、非プライマリパスからプライマリサーバーに通信パスを変更しようとしています。
3. SMC IEFJFRQ 出口がアクティブになっていることを確認して、SMC がテープ割り振りに影響を与えるようにします。
4. 孤立したタスクトークンを消去します。
5. マウント遅延を再処理しようとしています。

注 – MONitor INterval を 0 または OFF に設定しないことを強くお勧めします。これらの値が設定されていると、SMC はマウント遅延を再処理する、PREFprimary 設定を自動的に受け入れる、IEFJFRQ 出口がアクティブであることを検証する、などの処理ができなくなります。

ACTivecheck

SMC が前回アクティブかどうかの検査をしてから一度も動作していないアクティブな通信パスで、通信が引き続きアクセス可能な状態にあるかどうかを検証する間隔 (秒) を指定します (省略可能)。デフォルト値は 180、つまり INterval 値の 3 倍です。

ACTivecheck が 0 または OFF に設定されていると、SMC はアクティブな通信パスの監視を行いません。ACTivecheck 間隔が基本 INterval の倍数でない場合は、秒数が INterval 値の倍数になるまで切り上げられます。

MISSedmnt

未処理マウントが遅延していることを示すメッセージを SMC が発行する間隔 (秒) を指定します (省略可能)。マウントが満たされないかぎり、メッセージは各間隔後に繰り返されます。デフォルト値は 0 で、メッセージが表示されないことを意味します。

MISSedmnt 間隔が基本 INterval の倍数でない場合は、秒数が INterval 値の倍数になるまで切り上げられます。SMC マウント監視処理で、欠落したマウントメッセージを定期的に生成する前に、失われたマウントを再処理するには、このパラメータの値を最低 600 (10 分) に設定することを推奨します。

LOWscratch

SMC が限界値を下回るサーバーのスクラッチサブプールについてレポートする間隔 (秒) を指定します (省略可能)。デフォルト値は 0 です。

LOWscratch が 0 または OFF に設定されていると、SMC はスクラッチ限界値の検査を行いません。LOWscratch 間隔が基本 INterval の倍数でない場合は、秒数が INterval 値の倍数になるまで切り上げられます。

PREFprimary

TapePlex のサーバーとして最初に定義したサーバーでないサーバーで通信が現在アクティブになっているときに、SMC がより優先度の高いサーバーパスで通信を確立しようとするかどうかを指定します (省略可能)。デフォルト値は ON で、MONitor INterval ごとに SMC が最初に定義されたサーバーパス (それが現在アクティブになっているパスでない場合) で通信を試みることを示します。

If PREFprimary が OFF に設定されていると、SMC は以前に定義されたパスが利用可能になった場合でも、アクティブなパスで通信を続行します。

また、PREFprimary 設定で RESYNChronize コマンドの動作も制御できます。PREFprimary(ON) が設定されている場合、RESYNChronize は最初に定義されたサーバーとの通信を試みます。PREFprimary(OFF) が設定されている場合、RESYNChronize は現在アクティブになっている通信パスがあれば、それを変更しません。

MOUNTDef

SMC MOUNTDef コマンドを用いて、以前、HSC MNTD コマンド、HSC 入力パラメータ、LIBGEN オプション、MVS/CSC ALTER コマンドおよび入力パラメータを用いて制御していたメッセージ処理(マウントとマウント解除) オプションを制御します。MOUNTDef コマンドは VTV にも適用されます。

これらのオプションにより、次のことを制御します。

- マウント遅延の自動処理
- マウント解除時の削除後処理
- マウントメッセージとマウント解除メッセージを発行するかどうか
- マウントメッセージをコンソール画面で非表示にするタイミング
- スワップ処理の動作

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

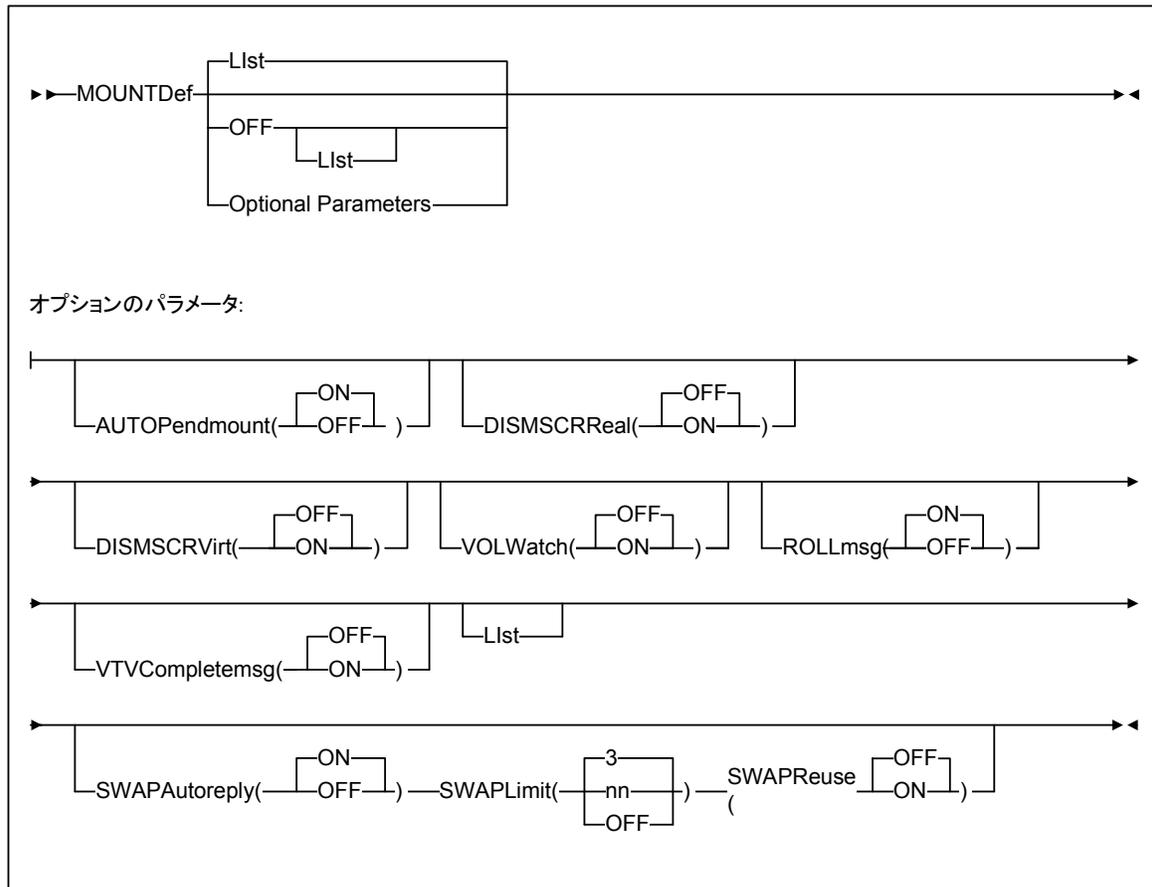


図 2-14 MOUNTDef の構文

パラメータ

Llist

現在の SMC MOUNTDef 設定を一覧表示します (省略可能)。

- Llist は、MOUNTDef コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、Llist は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

すべての MOUNTDef 設定を元の SMC デフォルト設定に戻します (省略可能)。これらの設定を一覧表示するために、このパラメータとともに Llist を指定します。

AUTOPendmount

SMC を初期化し、従属する TapePlex を初めて起動したときに検出されたライブラリドライブまたは仮想ドライブのマウント遅延を自動処理するかどうかを指定します (省略可能)。

ON

マウント遅延が自動化されますこれはデフォルトです。

OFF

マウント遅延が自動化されません。

注 – AUTOPendmount が OFF に設定されている場合は、HSC MOUNT コマンドを発行して、TapePlex を初めて起動したときに検出されたマウント遅延を完了させる必要があります。

DISMSCRReal

実際の (非仮想) ボリュームのマウント解除メッセージの削除後処理に対する SMC の処理方法を指定します (省略可能)。

注 – HSC LIBGEN SLIBRY マクロの DELDISP= パラメータに取って代わり、DISMSCRReal および DISMSCRVirt パラメータが新たに導入されています。

OFF

MVS のマウント解除メッセージに削除後処理が示されている場合、実際のカートリッジは非スクラッチ状態に保たれます。これはデフォルトです。CA-1 または CA-TLMS を使用している場合は、CA-1 および CA-TLMS 猶予期間中、ボリュームが一貫して非スクラッチ状態に保たれるよう、この設定を推奨します。

ON

MVS のマウント解除メッセージに削除後処理が示されている場合、実際のカートリッジはスクラッチ化されます。

DISMSCRVirt

VTV のマウント解除メッセージの削除後処理に対する SMC での処理方法を指定します (省略可能)。

注 – HSC LIBGEN SLILIBRY マクロの DELDISP= パラメータに取って代わり、DISMSCRReal および DISMSCRVirt パラメータが新たに導入されています。

OFF

MVS がマウント解除メッセージの削除後処理を示している場合に、VTV を非スクラッチとして保持します。これはデフォルトです。

ON

MVS のマウント解除メッセージに削除後処理が示されている場合、VTV はスクラッチ化されます。

VOLWatch

ライブラリ内ボリュームをライブラリ外ドライブにマウントする際、SMC によるメッセージを表示するかどうかを指定します (省略可能)。

OFF

ライブラリ内ボリュームをライブラリ外ドライブにマウントする際、メッセージが表示されません。

ON

ライブラリ内ボリュームをライブラリ外ドライブにマウントする際、コンソールメッセージが表示されます。

ROLLmsg

マウント処理が完了する前に、SMC によって処理されるマウントメッセージを、オペレータコンソール画面で非表示にするかどうかを指定します (省略可能)。

ON

マウント処理が完了する前に、マウントメッセージがオペレータコンソール画面で非表示になりますこれはデフォルトです。

注 – メッセージ xxxxRCDC (Request to Change Descriptor Codes: 記述子コードの変更要求) フラグワード xxxxRBFB1 を事前に設定しておくことにより、特定のマウントメッセージ (TMS007 など) の表示を制御できます。SAMPLIB には、xxxxRCDC フラグの事前設定に使用できる、MPF USEREXIT のサンプルが含まれています。

OFF

マウントメッセージは、マウント処理が完了するまで、コンソール画面に表示されます。

VTVCompletemsg

VTV のマウントメッセージとマウント解除メッセージを発行するかどうかを指定します (省略可能)。

OFF

サーバーが実行されているホストで VTV マウント (SLS5075I) メッセージと VTV マウント解除 (SLS5076I) メッセージが発行されません。これはデフォルトです。

ON

サーバーが実行されているホストで VTV マウント (SLS5075I) メッセージと VTV マウント解除 (SLS5076I) メッセージが発行されます。

SWAPAutoreply

互換性のあるスワップ対象デバイスが検出されなかったときに、SMC の拡張スワッププロセスが IBM の「IGF500D - REPLY 'YES' DEVICE OR 'NO'」というメッセージに対して「NO」と自動応答するかどうかを指定します (省略可能)。

オン

SMC は、互換性のあるデバイスを検出できず、「SMC0108 No compatible drive found for SWAP processing」というメッセージを発行したあと、IBM の「IGF500D - REPLY 'YES' DEVICE OR 'NO'」というメッセージに対して「NO」と自動応答します。これはデフォルトです。

OFF

SMC は、互換性のあるデバイスを検出できなかった後、IBM の「IGF500D - REPLY 'YES' DEVICE OR 'NO'」というメッセージに対して自動応答し**ません**。

SWAPLimit

SMC が現在のジョブステップ + volser スワップシリーズで処理を中止して MVS に戻る前にシステムによって開始されたスワップの最大数を指定します (省略可能)。

nn

0 - 99 のスワップ値です。ゼロ以外の値を指定すると、SMC が処理を中止して MVS に戻る前にシステムによって開始されたスワップのうち、指定された数のみが許可されます。

オペレータによって開始されたスワップは指定された数に**含まれませんが**、それらのスワップ対象デバイスは記録されます。0 を指定すると、「OFF」を指定したのと同じになります (下記参照)。デフォルト値は 3 です。

OFF

OFF を指定した場合、システムによって開始されたスワップの数に制限はありませんが、スワップ対象デバイスの除外を追跡するために、使用されている最後の 16 台のデバイスが記録されます。

SWAPReuse

以前に使用されていたスワップ対象デバイスを、現在のジョブステップ + volser スワップシリーズでスワップ対象デバイスから除外するかどうかを指定します (省略可能)。

OFF

以前に使用されていたスワップ対象デバイスは、現在のジョブステップ + volser スワップシリーズでスワップ対象デバイスから除外されます。適格なデバイスが検出されなかった場合、SMC は「SMC0108 No compatible drive found for SWAP processing」というメッセージを発行して、MVS に戻ります。これはデフォルトです。

オン

以前に使用されていたスワップ対象デバイスは、現在のジョブステップ + volser スワップシリーズで使用できます。

MSGDef

SMC MSGDef コマンドを用いて、SMC システムメッセージの表示形式を定義し、メッセージの表示/抑止を制御します。

インタフェース :	UI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティーの入力として使用可能

構文

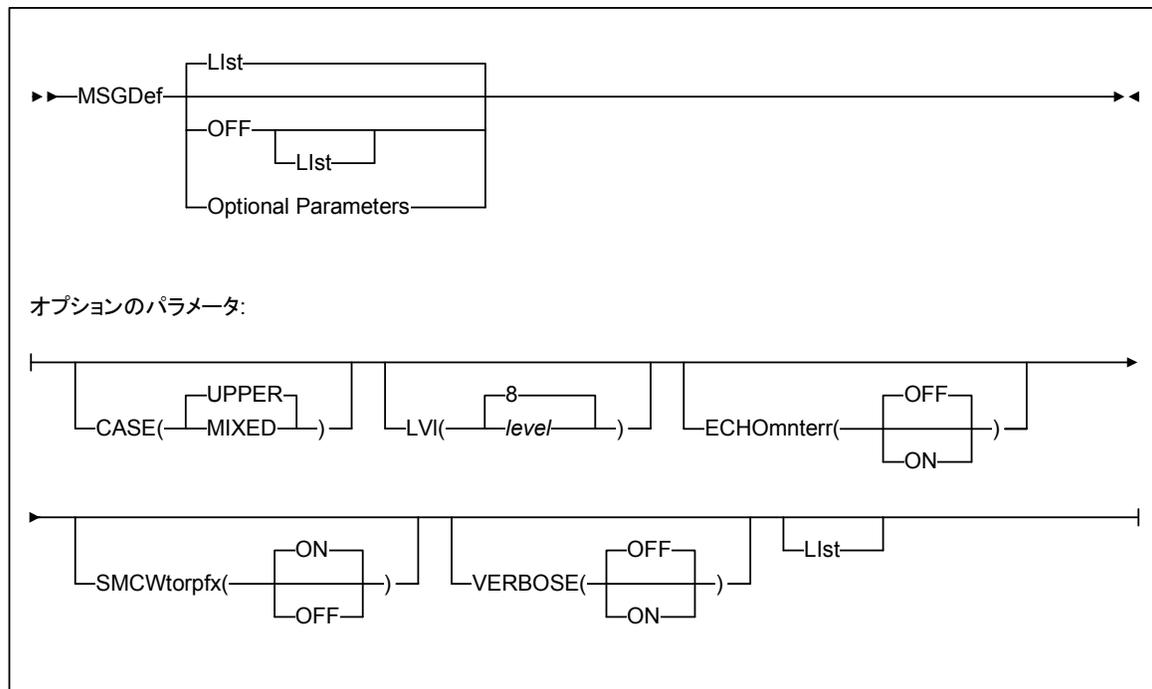


図 2-15 MSGDef の構文

パラメータ

Llist

現在の SMC メッセージのデフォルト設定を一覧表示します (省略可能)。

- Llist は、MSGDef コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、Llist は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

すべての MSGDef 値を元の SMC デフォルト設定に戻します (省略可能)。これらの設定を一覧表示するために、このパラメータとともに Llist を指定します。MSGDef は、ほかのパラメータとともに指定することはできません。

CASE

メッセージの大文字／小文字書式を指定します (省略可能)。有効値は UPPER または MIXED のいずれかです。

UPPER

大文字を指定します。これはデフォルトです。

MIXED

大文字と小文字の組合せを指定します。

LVI

SMC メッセージの表示／抑止の制御に使用するデフォルトレベルを指定します (省略可能)。

level

デフォルトレベル。有効値は次のとおりです。

0	エラーメッセージのみを表示します。
4	SMC サブシステムからのエラーメッセージと警告メッセージを表示します。
8	SMC サブシステムからのすべてのメッセージと、割り振りジョブの警告メッセージを表示します。MSGDef パラメータが指定されていない場合、この値がデフォルトとして使用されます。

値が指定されていない場合は、デフォルト値の 8 が使用されます。

注 - 8 より高いレベルは、診断目的で使用します。指定する場合は、必ずオラクルソフトウェアサポートの指示に従ってください。

ECHOmnterr

HSC によって生成されたマウントエラーを SMC クライアントのコンソールに対して直接エコーするか否かを指定します (省略可能)。

ON

HSC によって生成されたマウントエラーは、SMC クライアントのコンソールに対してエコーされます。

注 - このパラメータは、ローカルサーバとリモートサーバの両方に有効です。

OFF

HSC によって生成されたマウントエラーは、SMC クライアントのコンソールに対してエコーされません。これはデフォルトです。

SMCWtorpfx

TAPEPlex コマンドの WTORDEST(CLIENT) によって生成される HSC WTOR メッセージに SMC0137 という接頭辞を表示するかどうかを指定します (省略可能)。

ON

SMC0137 という接頭辞が表示されます。これはデフォルトです。

OFF

SMC0137 プレフィックスが表示されません。

VERBOSE

いずれかの SMC 設定が変更されたときは常に SMC0190 および SMC0191 メッセージを表示するかどうかを指定します (省略可能)。

ON

SMC0190 および SMC0191 メッセージが表示されます。

OFF

SMC0190 および SMC0191 メッセージが表示されません。

MSGJob

SMC MSGJob コマンドを用いて、デフォルトのメッセージレベルを、ジョブ名、ステップ名および PROC ステップに置き換えます。

インタフェース :	UI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

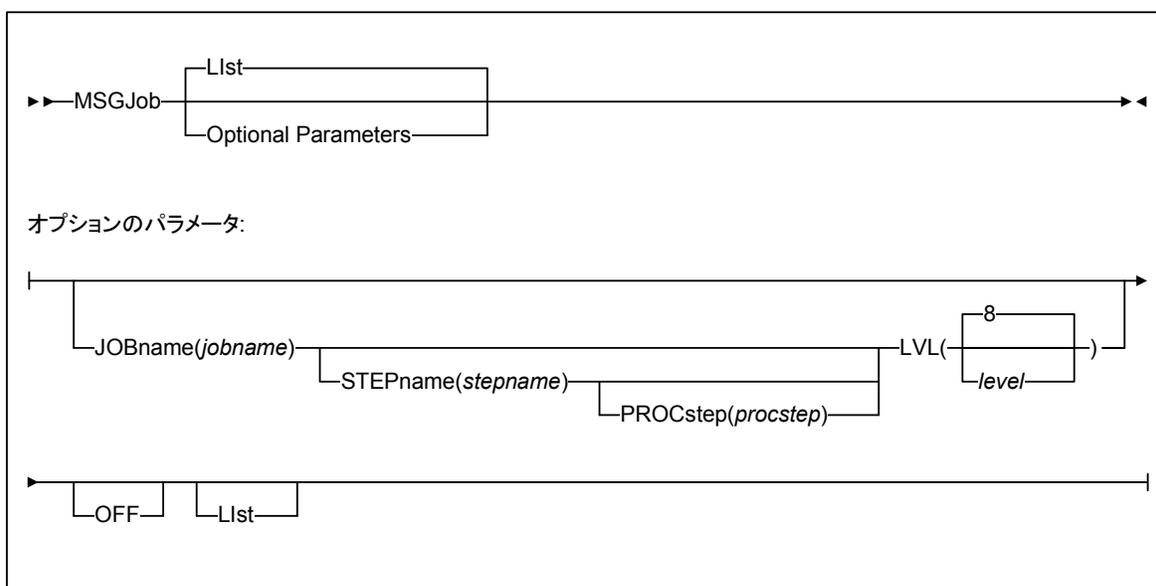


図 2-16 MSGJob の構文

パラメータ

Llist

現在の SMC メッセージのデフォルト設定、およびジョブ名、ステップ名、PROC ステップの例外を、評価順に一覧表示します (省略可能)。

- Llist は、MSGJob コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、Llist は、ほかのパラメータが処理された**あと**に生成されます。

OFF

MSGJob の置き換え値を削除します (省略可能)。

- ほかのパラメータが指定されていない場合、すべてのジョブに対する MSGJob 置き換え値が削除されます。
- JOBname のみが指定されている場合、該当するジョブ名の ALL MSGJob エントリに対する MSGJob 置き換え値が削除されます。
- JOBname、STEPname および PROCstep が指定されている場合、指定エントリに対する MSGJob 置き換え値の**み**が削除されます。

このパラメータは、グローバル MSGDef には**反映されません**。

JOBname

ジョブ名を指定します (省略可能)。

jobname

ジョブ名です。

入力値は、1 - 8 文字長にする必要があります。最後の文字にアスタリスク (*) を入力し、ワイルドカードとして使用できます。この場合、アスタリスクの先行文字に一致するジョブ名を持つすべてのジョブに対し、メッセージレベルが設定されます。

STEPname

ステップ名を指定します (省略可能)。JOBname も指定されている場合に**のみ有効**です (「JOB=*」)。

stepname

ステップ名です。

入力値は、1 - 8 文字長にする必要があります。このパラメータは、JOBname が指定されている場合に**のみ有効**です。

PROCstep

PROC ステップを指定します (省略可能)。JOBname および STEPname も指定されている場合に**のみ有効**です。JES3 環境の TAPE SETUP 処理では**使用できません**。

procstep

PROC ステップです。

入力値は、1 - 8 文字長にする必要があります。このパラメータは、JOBname および STEPname が指定されている場合に**のみ有効**です。

LVL

SMC メッセージの表示制御に使用するデフォルトレベルを指定します (省略可能)。
JOBname が指定されている場合、このパラメータは必須です。

level

デフォルトレベル。有効値は次のとおりです。

0	エラーメッセージのみを表示します。
4	SMC サブシステムからのエラーメッセージと警告メッセージを表示します。
8	SMC サブシステムからのすべてのメッセージと、割り振りジョブの警告メッセージを表示します。

値が指定されていない場合は、デフォルト値の 8 が使用されます。

注 - 8 より高いレベルは、診断目的で使用します。指定する場合は、**必ず**オラクルソフトウェアサポートの指示に従ってください。

POLicy

SMC POLicy コマンドを用いて、単一の指定ポリシーオブジェクトでのすべてのテーブポリシーの仕様を指定します。指定のポリシーを割り振りまたはマウントイベントと関連付けるために SMC TAPEREQ 文または SMC DFSMS ルーチンとともに使用できます。さらに、POLicy VALidate オプションを用いて、ポリシーオブジェクトを検証できます。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力を含む)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

注 -

- SMC ポリシーの使用法については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。
- SMC POLicy コマンドを使用して定義されたポリシーにより、TAPEREQ POLicy パラメータを使用して SMC TAPEREQ 制御文から、または管理クラスを使用して IBM DFSMS ACS ルーチンから、名前ごとに参照可能な SMC ポリシーオブジェクトが作成されます。ポリシー名は、指定した名前のスクラッチポリシーと、指定した名前の特定ポリシーの 2 つのポリシーオブジェクトに関連付けることができます。
- SMC TAPEREQ 制御文から参照されるポリシーは、TAPEREQ 制御文を処理する TREQDEF コマンドを実行する前に定義する必要があります。
- たとえば、VOLTYPE(SPECIFIC) でスクラッチサブプール名を指定するなど、SMC に追加されるポリシーにポリシー指定エラーが含まれているときは、引き続きポリシーオブジェクトが作成されます。ただし、エラーのあるポリシーオブジェクトはマーク付けされ、指定のポリシーオブジェクトへの参照がそれを検出できます。ただし、戻されるポリシーは空で、デフォルトのテーブポリシーの属性がそのイベントに適用されることが示されます。
- SMC ポリシーを更新するには、指定されているポリシーの NAME および VOLType に対して新しい SMC POLicy コマンドを入力します。既存のスクラッチポリシーオブジェクトまたは特定ポリシーオブジェクトは、新しい POLicy コマンドで置き換えられます。したがって、ポリシーを更新するときは、保持する値をすべて入力する必要があります。

たとえば、元のスクラッチポリシーオブジェクトが次のように定義されているとします。

```
POLICY NAME (POL1) VOLTYPE (SCRATCH) MEDIA (VIRTUAL) MGMTCLAS (MGMT1)
```

ポリシーにサブプールを追加するには、次のように入力する必要があります。

```
POLICY NAME (POL1) VOLTYPE (SCRATCH) MEDIA (VIRTUAL) MGMTCLAS (MGMT1)
SUBPOOL (SUBP1)
```

この動作により、ファイル内で 1 つまたは複数の POLicy コマンドを変更し、SMC READ コマンドを使用してすべてのポリシーを再ロードできます。

- たとえば、VOLTYPE(SPECIFIC) でスクラッチサブプール名を指定するなど、更新対象の SMC ポリシーオブジェクトにポリシー指定エラーが含まれているときは、既存のポリシーオブジェクトで更新できない部分があります。ポリシーオブジェクトはエラーがマーク付けされず、完全な更新が破棄されます。
 - このコマンドでは、DEVTPREF は**サポートされません**。ただし、エソテリックリストを使用して、異なるデバイスタイプに対する優先度を指定できます。
-

構文

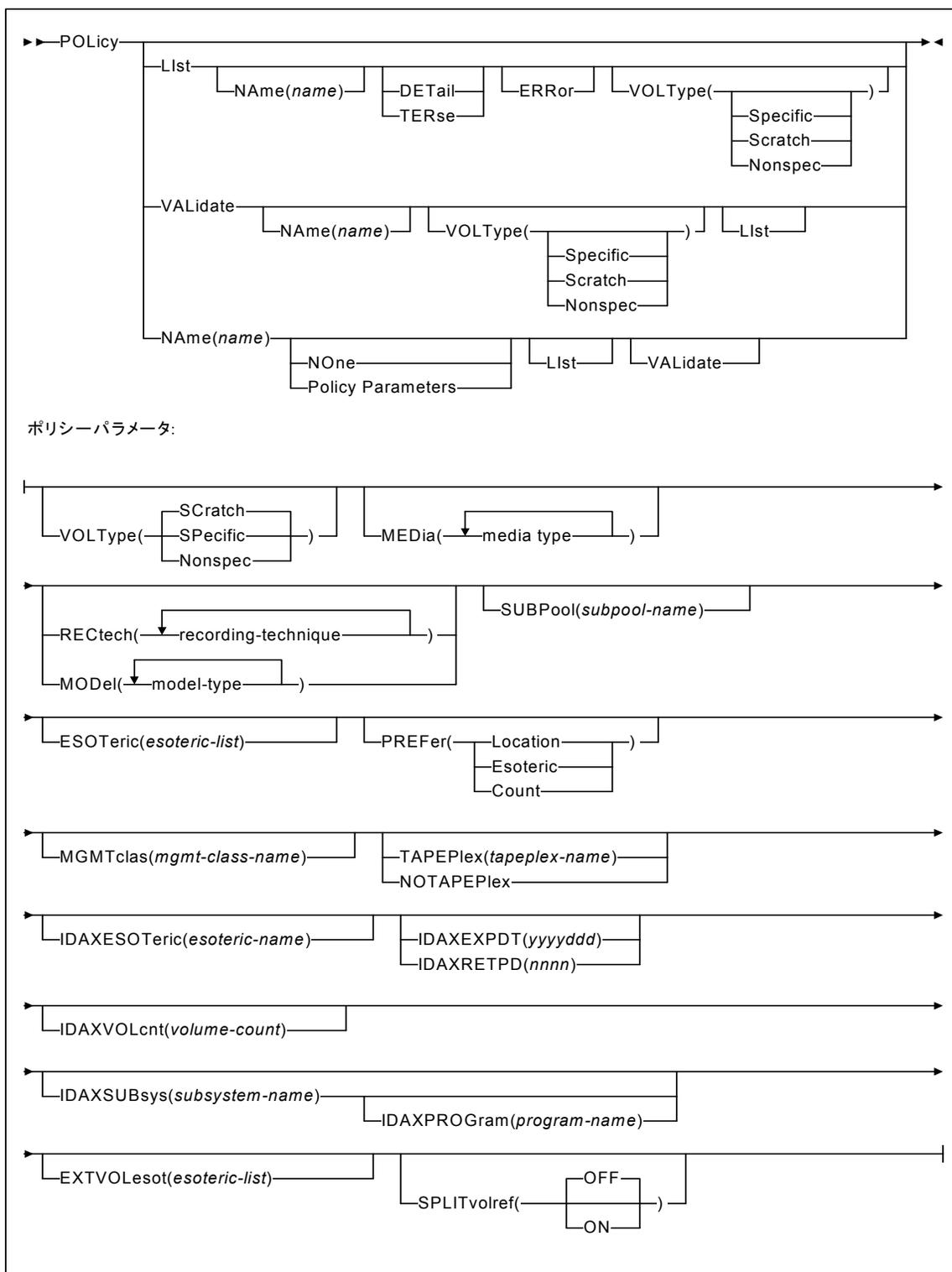


図 2-17 POLicy の構文

パラメータ

List

すべてのポリシー情報を表示します (省略可能)。追加パラメータを指定すると、一覧表示されるポリシーや、表示される詳細レベルを制限できます。

Name

表示されるポリシー名を指定します (省略可能)。最後の文字がアスタリスク (*) の場合、その接頭辞で始まるすべてのポリシーが表示されます。たとえば、POL LI NA V* などです。

DETail

前回の更新日時やソースなど、ポリシーに関する監査詳細情報を表示します (省略可能)。

TERse

ポリシー名、および各ポリシー名がスクラッチ、特定、またはすべての割り振りのいずれに適用されるかを一覧表示します (省略可能)。

ERRor

エラー状態の各ポリシーを表示します (省略可能)。

たとえば、VOLTYPE(SPECIFIC) でスクラッチサブプール名を指定するなど、SMC に追加されるポリシーにポリシー指定エラーが含まれているときは、引き続きポリシーオブジェクトが作成されます。ただし、エラーのあるポリシーオブジェクトはマーク付けされ、指定のポリシーオブジェクトへの参照がそれを検出できます。ただし、戻されるポリシーは空で、デフォルトのテープポリシーの属性がそのイベントに適用されることが示されます。ERRor は、エラーが含まれるそれらのポリシーのみを一覧表示します。

VOLType

リストがスクラッチポリシータイプと特定ポリシータイプのどちらに適用されるかを指定します (省略可能)。

SCratch または Nonspec

スクラッチ (不特定) ポリシーのみを一覧表示します。

SPecific

特定ポリシーのみを一覧表示します。

注 -

- 一致するポリシーは、SMC に対して定義された順序にかかわらず、アルファベット順に一覧表示されます。ほかのパラメータとともに指定されていると、List は、ほかのパラメータが処理されたあとに実行されます。
 - DETail と TERse は、いずれか一方しか指定できません。
-

VALidate

現在の TAPEPLEX 環境に対する POLICY 情報を検証および一覧表示します (省略可能)。追加パラメータを指定すると、検証されるポリシーや、すべての結果を表示するか警告とエラーのみを表示するかを制限できます。

NAMe

検証されるポリシー名を指定します (省略可能)。最後の文字がアスタリスク (*) の場合、その接頭辞で始まるすべてのポリシーが表示されます。たとえば、POL VAL NA V* などです。

VOLType

リストがスクラッチポリシータイプと特定ポリシータイプのどちらに適用されるかを指定します (省略可能)。

SCRatch または Nonspec

スクラッチ (不特定) ポリシーのみを一覧表示します。

SPecific

特定ポリシーのみを一覧表示します。

LIst

警告とエラーのみを一覧表示するか、テストされたすべてのポリシーを一覧表示するかを指定します (省略可能)。指定しなかった場合は、警告またはエラーメッセージを生成する POLICY ごとに 1 行だけが一覧表示されます。

注 -

- 検証により、テストされた POLICY VOLTYPE ごとにリターンコードが生成されます。
 - 0 は、POLICY が正しいか、特定の環境条件が原因で検証できなかったか、または正しいとみなされたことを示します。
 - 4 は警告で、要求を満たすためのスクラッチボリュームが欠落しているなどの条件が含まれます。
 - 8 はエラーを示し、未定義の SUBPOOL 名や MGMTCLAS 名などの条件が含まれます。
- POLICY VALidate を LIst キーワードなしで入力すると、リターンコードが 4 または 8 のポリシーのみが一覧表示されます。POLICY VALidate で LIst キーワードを指定すると、すべてのポリシーがポリシーの検証結果とともに一覧表示されます。
- 複数のポリシーが検証されると、最後の SMC0224 メッセージで、検証されたすべてのポリシーで最大の戻りコードが示されます。
- VALidate コマンドが発行されたときに稼働中の TAPEPLEX がない場合、ポリシー検証の戻りコードは 0 で、ポリシーを検証できなかったことを示します。
- 検証されたポリシーは、SMC に対して定義された順序にかかわらず、アルファベット順に一覧表示されます。ほかのパラメータとともに指定されていると、VALidate は、ほかのパラメータが処理されたあとに実行されます。

NAMe

TAPEREQ または DFSMS ACS ルーチンの管理クラスで指定された名前に一致するポリシー名を指定します。

name

ポリシー名。

NOne

指定のポリシーに関連付けられているすべてのポリシーパラメータを削除します (省略可能)。ポリシーに **NOne** を指定すると、任意のメディアまたは記録方式、サブプール 0 など、デフォルトの動作が適用されます。

VOLType

ポリシーがスクラッチ割り振りと特定割り振りのどちらに適用されるかを指定します (省略可能)。

SCratch または Nonspec

ポリシーは、スクラッチ (不特定) 割り振りにのみ適用されます。これはデフォルトです。

SPecific

ポリシーは、特定割り振りにのみ適用されます。

注 -

VOLType(SPecific) を指定すると、次のようになります。

- SUBPool パラメータは許可されません。
- MEDia パラメータは、NOTAPEPlex パラメータが指定されている場合にのみ、許可されます。
- SPLITvolref パラメータは許可されません。

MEDia

作成するデータセットに使用するメディアタイプを指定します (省略可能)。一連のメディアタイプをコンマで区切って入力することもできます。一連のメディアタイプは、選択できる汎用プールを示すものです。優先度は適用されません。

media-type

メディアタイプです。

有効な *media-type* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

注 -

- MEDia と VOLType(SPecific) は、NOTAPEPlex パラメータが指定されていないかぎり、いずれか一方しか指定できません。
- パラメータが指定されていない場合は、RECtech パラメータの値に基づいて、デフォルトが選択されます。MEDia パラメータが省略されている場合に採用されるデフォルト値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。
- メディアタイプと記録方式の両方が省略されている場合は、利用可能なすべてのデバイスタイプが割り振り対象とみなされます。

RECtech

データセットに応じて、テープ表面にデータトラックを記録する際の記録方式を指定します (省略可能)。一連の記録方式をコンマで区切って入力することもできます。一連のメディアタイプは、選択できる汎用プールを示すものです。優先度は適用されません。

recording-technique

記録方式です。

有効な *recording-technique* の値については、付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」を参照してください。

注 –

- RECtech と MODel は、いずれか一方しか指定できません。
 - パラメータが指定されていない場合は、MEDia パラメータの値に基づいて、デフォルトが選択されます。MEDia パラメータが省略されている場合に採用されるデフォルト値については、付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」を参照してください。
 - メディアタイプと記録方式の両方が省略されている場合は、利用可能なすべてのデバイスタイプが割り振り対象とみなされます。
-

MODel

トランスポートのモデル番号を指定します (省略可能)。一連のモデルをコンマで区切って入力することもできます。一連のメディアタイプは、選択できる汎用プールを示すものです。優先度は適用されません。

MODel は RECtech と同じ種類の情報を提供しますが、ユーザーにとっては、記録方式ではなく、トランスポートモデルを指定する方が簡単かもしれません。

model-type

モデルタイプです。

有効な *model-type* の値については、付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」を参照してください。

注 – MODel と RECtech は、いずれか一方しか指定できません。

SUBPool

スクラッチ要求を満たすために使用するサブプールを指定します (省略可能)。

subpool-name

サブプール名

注 – SUBPool と VOLType(Specific) は、いずれか一方しか指定できません。

ESOTeric

デバイスエソテリックグループ名、またはテープ要求を満たすために使用できる一連のトランスポートを定義する一連のデバイスグループを指定します (省略可能)。

esoteric-group-name

エソテリックグループ名です。

名前の指定には、1 - 8 文字の英数値または国別文字 (#、@、\$) を使用できます。スラッシュ (/) またはハイフン (-) も有効です。

注 – エソテリックリストに現在 Eligible Device List にないデバイスが含まれている場合、SMC による割り振りはリストにデバイスを追加**できません**が、指定されたエソテリックにないデバイスを除外できます。ドライブ除外中、リスト内の任意のエソテリックのデバイスが追加されます。ドライブ優先度中、エソテリックリストの位置に従ってデバイスの順序が示されます。

PREFer

エソテリックリストの相対値と追加の優先度情報を指定します (省略可能)。PREFer は、エソテリックリストが指定されている場合に**のみ**有効です。

場所

ドライブは、特定ボリュームの LSM の位置に基づいて優先されます。これは特定ボリュームのデフォルトです。Location は、VOLType (SP) に対して**のみ**有効です。

Esoteric

ドライブは、エソテリックリストで指定された順序に基づいて優先されます。これはスクラッチ割り振りのデフォルトです。

Count

ドライブは、LSM のスクラッチカウントに基づいて優先されます。Count は、VOLType (N) に対して**のみ**有効です。

MGMTclas

VTCS MGMTclas 制御文で定義した管理クラスを指定します (省略可能)。詳細については、[416 ページの「MGMTclas 制御文」](#)を参照してください。

mgmt-class-name

マネージメントクラス名。

TAPEPlex

SMC に対して定義される TapePlex 名を指定します (省略可能)。SMC は、指定された TapePlex 名を使用して、割り振り要求の「所有者」を決定します。特定ボリュームの情報またはスクラッチの可用性を判断するために、指定された TapePlex 名のみが問い合わせられます。

tapeplex-name

TapePlex 名です。次の規則が適用されます。

- 値は 1 - 8 文字でなければなりません。
- 最初の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最後の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最初と最後の文字の間にある文字は、英字、数字、ハイフンのいずれかでなければなりません。

注 -

- POLicy コマンドが処理される前に、TAPEPlex コマンドを使用して指定の TapePlex を定義する必要があります。
 - TAPEPlex と NOTAPEPlex は、いずれか一方しか指定できません。
-

NOTAPEPlex

SMC がボリューム情報を取得するための TapePlex 検索を実行しないことを指定します (任意)。

注 - NOTAPEPlex と TAPEPlex は、いずれか一方しか指定できません。

IDAXESOTeric

IDAX (MVS のインタープリタ/動的割り振り出口) 処理中に置換されるエソテリック名を指定します (省略可能)。

IDAXESOTeric の指定は、JCL ユニット名の変更に似ていて、元のエソテリックを完全に置き換えます。

ESOTeric パラメータと異なり、IDAXESOTeric *esoteric-name* は、元の JCL エソテリック内のデバイスを含める必要はありません。

esoteric-name

割り振りに使用する有効なエソテリック名です。

IDAXEXPDT

IDAX 中の割り振りに適用される有効期限を指定します (省略可能)。

注 - IDAXEXPDT と IDAXRETPD は、いずれか一方しか指定できません。

yyyyddd

希望の有効期限 (4 桁の年およびユリウス日)

IDAXRETPD

IDAX 中の割り振りに適用される保存期間を指定します (省略可能)。

注 – IDAXRETPD と IDAXEXPDT は、いずれか一方しか指定できません。

nnnn

保存期間の日数です。

IDAXVOLcnt

IDAX 処理中の割り振りに適用されるボリュームの最大数を指定します (省略可能)。この値は、JCL で指定したボリュームカウントパラメータに優先します。

volume-count

最大のボリュームカウントです。有効値は 1 - 255 です。

IDAXSUBsys

SMC が割り振りジョブを別のサブシステムまたはプログラムに指示するように指定します (省略可能)。

たとえば、SMC は任意の FDR/DFDSS ジョブを Oracle の StorageTek ExHPDM バックアップおよび復元ソフトウェアに指示できます。IDAXSUBsys ポリシーは、出力テープデータセットの割り振りを ExHPDM に指示し、DD SUBSYS JCL 指定をジョブ内に効果的に配置します。

subsystem-name

サブシステム名です。

IDAXPROGram

割り振りジョブのプログラム名を変更します (省略可能)。

たとえば、このパラメータは DFDSS (ADRDSSU) のプログラム名を ExHPDM User Interface Module (SOVDSSU) に変更し、IDAXSUBsys パラメータと併用して、バックアップ DFDSS ジョブを ExHPDM に指示することができます。

program-name

プログラム名。

注 – ExHPDM バックアップおよび復元ソフトウェアについては、『*ExHPDM Operator and System Programmer's Guide*』を参照してください。

EXTVOLesot

デバイスエソテリックグループ名、または特定のボリュームがライブラリ外にあることが検出されたときにテープ要求を満たすために使用できる一連のトランスポートを定義する一連のデバイスグループを指定します (省略可能)。

esoteric-list

エソテリックリストです。

リスト内のエソテリックグループ名には、1 - 8 文字の英数字または国別文字 (#、@、\$) を使用できます。スラッシュ (/) またはハイフン (-) も有効です。

注 – EXTVOLesot を指定するには、VOLTYPE=SPECIFIC が指定されていなければなりません。

SPLITvolref

VOL=REF チェーンが切断されるかどうかを指定します (省略可能)。このパラメータは、VOLType(SCratch) または VOLType(Nonspec) も指定されている場合にのみ有効です。

OFF

VOL=REF チェーンは切断されません。これはデフォルトです。

ON

VOL=REF チェーンは切断され、LABEL データセットのシーケンス番号が 1 に設定されます。

READ

SMC READ コマンドを用いて、コンソールコマンドではなく、入力データセットを用いた一連のコマンド群を入力します。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

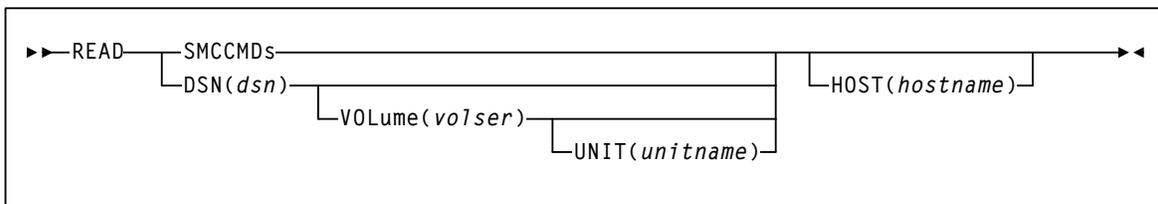


図 2-18 READ の構文

パラメータ

SMCCMDs

SMC START プロシージャの SMCCMDS DD 文で指定されているデータセット内のコマンドを再処理します (省略可能)。

DSN

指定のデータセット内のコマンドを処理します (省略可能)。

dsn

データセット名です。

注 - DSN パラメータによってメンバー名が指定されている場合は、フルデータセットを一重カッコで囲む**必要があります**。

VOLume

データセットが常駐している DASD ボリュームのボリュームシリアル番号を指定します (省略可能)。データセットがカタログ化されていない場合は、このパラメータを指定します。

volser

データセットが常駐しているボリュームシリアル番号です。

UNIT

カタログ化されていないデータセットに対して指定されている **VOLume** のユニット名を指定します (省略可能)。**VOLume** も指定されている必要があります。

unitname

ユニット名です。

指定されていない場合は、**SYSALLDA** のユニット名がデフォルトです。

HOST

この **READ** コマンドが有効なホスト名を指定します (省略可能)。このパラメータが指定されている場合、指定のホスト名が **MVS** ホストと一致する場合にのみ、**READ** コマンドが処理されます。このパラメータが指定されていない場合は、**MVS** ホストに関わりなく、**READ** コマンドが処理されます。

hostname

ホスト名です。

注 -

- **MVS** コンソールから **READ** コマンドを入力すると、**HOST** は無効になります。
- **JES3** 環境の場合、ホスト名は **JES3 MAIN** 名ではなく、**SMF** ホストです。
- **HOST** パラメータを指定すると、複数の **MVS** ホストで、1 つの **SMC** パラメータファイルセットを共有できるようになります。次の例を参照してください。

your.parmlib(COMMCMDS)

```
MSGDEF CASE(MIXED)
...other common SMC parameter settings...
READ DSN('your.parmlib(MVS1CMDS)') HOST(MVS1)
READ DSN('your.parmlib(MVS2CMDS)') HOST(MVS2)
```

your.parmlib(MVS1CMDS)

```
DRIVEMAP CL(AB0-AB7) SE(BB0-BB7)
```

your.parmlib(MVS2CMDS)

```
DRIVEMAP CL(CB0-CB7) SE(BB0-BB7)
```

COMMCMDS ファイルには、すべてのホストに適用できる **SMC** パラメータ設定と、ご使用の **MVS** ホスト向けの **HOST** が指定された **READ** コマンドが含まれています。**MVS1CMDS** ファイルには **MVS** ホスト **MVS1** 専用の **SMC** 指定、**MVS2CMDS** ファイルには **MVS** ホスト **MVS2** 専用の **SMC** 指定が含まれていません。

RESYNChronize

SMC RESYNChronize コマンドを用いて、すべての定義済み TapePlex への接続を再確立し、すべての TapePlex からドライブ構成情報を取得します。

この動作は、SMC が TapePlex への新しいパスを最初にアクティブにしたとき、HSC サブシステム (ローカルまたはリモート) から構成変更が報告されたとき、あるいは MVS 割り振りまたはマウントイベント時に TapePlex へのアクティブなローカルパスにアクセスされるたびに、自動的に実行されます。ただし、次の場合には、オペレータが RESYNChronize コマンドを発行する**必要があります**。

- MVS/CSC RESYNC コマンドが発行され、MVS/CSC が稼働中の場合
- 新しく稼働した TapePlex に対してマウント遅延が自動処理されるように設定しているときに、MVS 割り振りまたはマウントイベントが再接続をトリガーするのを待機しない場合
- ハードウェアまたは通信のエラーが原因で失われた可能性がある未処理マウントの再処理を試行する場合

注 – 最初にインターセプトされる割り振りまたはマウントの前に TapePlex との通信を初期化するために、SMCCMDS ファイルの最後 (すべての TAPEplex コマンドと SERVer コマンドのあと) に RESYNChronize コマンドを付加することをお勧めしています。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

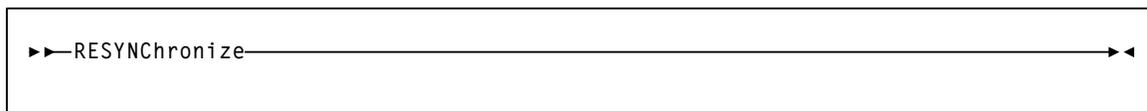


図 2-19 RESYNChronize の構文

パラメータ

なし

Route

SMC Route コマンドを用いて、SMC から定義済みの TapePlex または VLE へのトランザクションのルーティングを要求します。サポートされるのは、次のコマンドのみです。

- VTCS コマンド
- UII がサポートされている HSC コマンド (VOLRPT は除く)

注 – HSC MOUNT、DISMOUNT、ENTER、および MOVE コマンドは、ROUTE コマンドを介して SMC から発行できるようになりました。

インタフェース :	UII: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である

構文

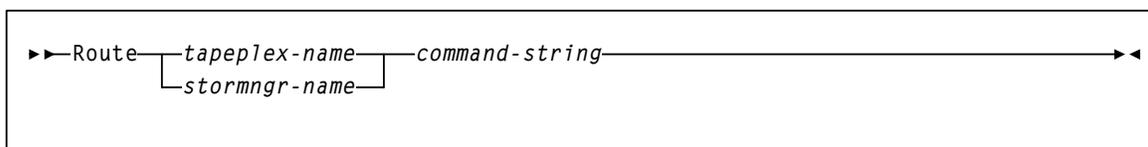


図 2-20 Route の構文

パラメータ

tapeplex-name

SMC TAPEPLEX コマンドで定義された TapePlex 名を指定します。現在有効な TapePlex パスを使用して、指定した TapePlex に要求がルーティングされます。コマンドは、ローカルまたはリモートの HSC TapePlex のいずれかに送信できます。MVS/CSC TapePlex では、このコマンドはサポートされません。

stormngr-name

SMC STORMNGR コマンドで定義された VLE 名を指定します。現在有効な VLE パスを使用して、指定された VLE に要求がルーティングされます。コマンドは、ローカルまたはリモートの HSC TapePlex または VLE のいずれかに送信できます。MVS/CSC TapePlex では、このコマンドはサポートされません。

command-string

要求された TapePlex にルーティングされるコマンド文字列を指定します。VTCS コマンドの接頭辞に VT を付けしないでください。HSC UII インタフェースは、接頭辞に VT の付いていない VTCS コマンドを現在機能しているプロセッサにルーティングします。コマンド文字列は、HSC UII または任意の VTCS コマンド (DISPLAY MSG および DISPLAY CMD を除く) によってサポートされているコマンドである必要があります。

SERVer

SMC SERVer コマンドを用いて、リモートライブラリサーバー、すなわち別のホスト上で稼働している HSC サブシステムへの指定パスを定義します。SERVer コマンドによって、HTTP サーバーへの通信パスを示します。

注 -

- SERVer を定義する前に、TAPEPlex コマンドを使用して、参照する TapePlex を定義する必要があります。SERVer に関連付けられている TapePlex 名を変更することはできません。詳細については、[143 ページの「TAPEPlex」](#)を参照してください。
- 同様に、SERVer を定義する前に、STORMNGR コマンドを使用して、参照する VLE を定義する必要があります。SERVer に関連付けられている VLE 名を変更することはできません。
- 対応する TAPEPlex が MVS/CSC サブシステムの LOCSUBsys を定義している場合、サーバーを定義することはできません。たとえば、次のようなコマンドは無効です (サブシステム CSC1 が MVS/CSC システムであると想定した場合)。

```
TAPEPLEX NAME(LIB1) LOCSUBSYS(CSC1)
SERVER NAME(REM1) TAPEPLEX(LIB1)
```

インタフェース :	UI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

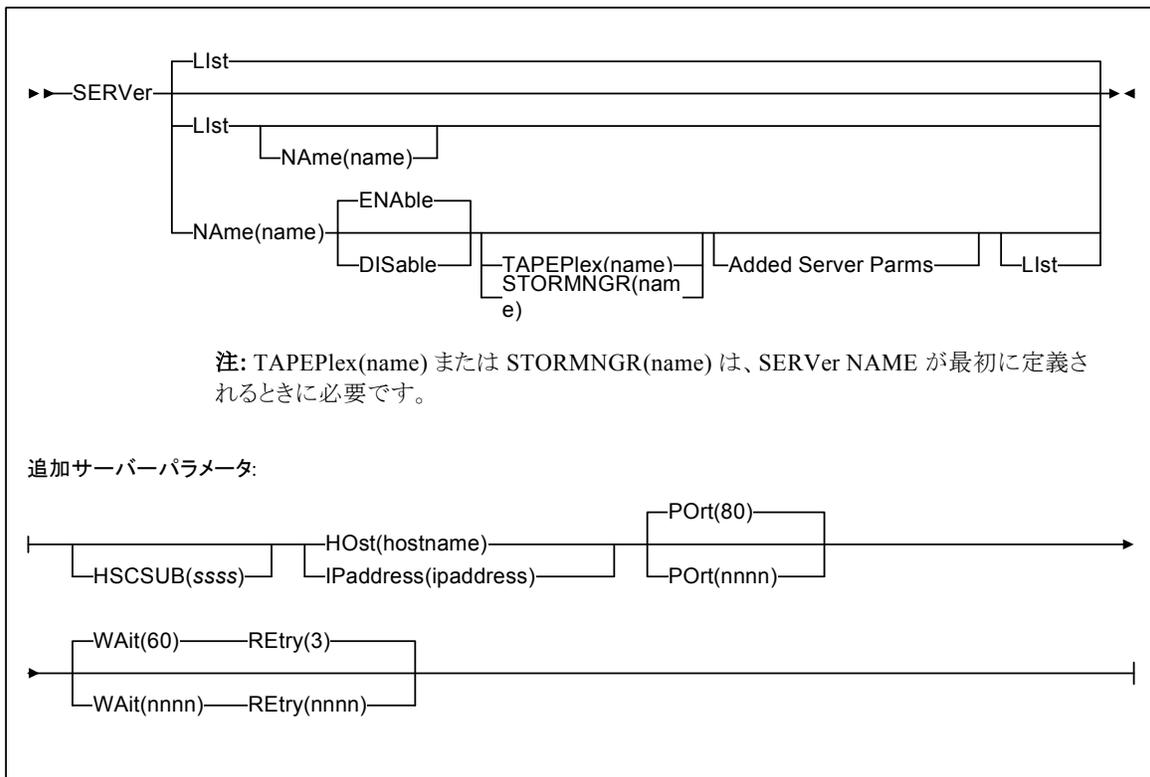


図 2-21 SERVer の構文

パラメータ

Llist

TapePlex のパスの状態情報を表示します (省略可能)。

- Llist は、SERVer コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。この場合、すべてのライブラリサーバーパスが一覧表示されます。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。NAme 以外のパラメータとともに指定した場合、Llist は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

NAme

状態を表示する TapePlex サーバーパスを指定します (省略可能)。

name

サーバーパス名です。

NAme

定義または変更するサーバー名を指定します (省略可能)。

name

サーバーパス名です。同じホスト上で HSC と通信している間にエラーが発生しなかったとき、この名前は通信エラーメッセージのレポートに使用されます。次の規則が適用されます。

- 値は 1 - 8 文字でなければなりません。
- 最初の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最後の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最初と最後の文字の間にある文字は、英字、数字、ハイフンのいずれかでなければなりません。

注 – SMC HTTP サーバーコンポーネントを使用している場合、1 つの TapePlex 構成に対して複数の NAMED サーバーパスが存在する可能性があります。詳細については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。

ENable

指定されているサーバーパスが割り振りまたはマウント要求で選択されるようにします (省略可能)。

DIisable

指定されているサーバーパスを無効にします (省略可能)。無効にするパスが TapePlex への唯一のパスである場合、その TapePlex は割り振りまたはマウント要求に使用できません。

TAPEPlex

実際の ACS ハードウェア構成に関連付けられている TapePlex 名を指定します (省略可能)。新しいサーバーを定義 (すなわち追加) するには、TAPEPlex パラメータを指定する**必要があります**。

name

TapePlex 名です。この名前は、TapePlex エラーメッセージのレポートに使用されます。次の規則が適用されます。

- 値は 1 - 8 文字でなければなりません。
- 最初の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最後の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最初と最後の文字の間にある文字は、英字、数字、ハイフンのいずれかでなければなりません。

STORMNGR

SMC STORMNGR コマンドで定義された VLE 名を指定します (省略可能)。新しいサーバーを最初に定義するには、STORMNGR パラメータを指定する**必要があります**。

name

SMC STORMNGR コマンドで定義された VLE 名です。この名前は、VLE エラーメッセージのレポートに使用されます。

注 – TAPEPlex と STORMNGR は、いずれか一方しか指定できません。

HSCSUB

サーバーに関連付けられている Tapeplex を表す HSC サブシステムの名前を指定します (省略可能)。このパラメータは、サーバーホストで複数の HSC サブシステムが実行されている (HSC が MULT モードで実行されている) ときにのみ必要です。

ssss

HSC サブシステム名です。

HOst

リモート HSC サブシステムが常駐する IP リゾルバホスト名を指定します (省略可能)。

hostname

リモートホストの名前です。次の規則が適用されます。

- 値は 1 - 8 文字でなければなりません。
- 最初の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最後の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最初と最後の文字の間にある文字は、英字、数字、ハイフン、ドットのいずれかでなければなりません。

注 – HOst と IPaddress は、いずれか一方しか指定できません。

IPaddress

リモート HSC サブシステムのサブシステム IP アドレスを指定します (省略可能)。

ipaddress

IP アドレスです。

注 – IPaddress と HOSt は、いずれか一方しか指定できません。

POrt

サーバーポートを指定します (省略可能)。

nnnn

サーバーポートです。デフォルト値は 80 です。

WAit

通信またはサーバーの問題が存在すると想定される前に、ネットワークを介して行われる単一要求を待機する最大時間を指定します (省略可能)。

nnnn

待機時間 (秒単位) です。デフォルトは 60 です。

注 –

- 指定されている WAIT 時間が 600 秒を超えている場合、マウントまたはディスマウント要求のデフォルトの待機時間は 10 分 (600 秒) 以上になります。
 - HSC CDS のバックアップジョブが指定されている待機時間を超えて実行されている場合は、CDS のバックアップジョブの標準的な実行時間に一致するように待機時間を設定します。
-

REtry

単一要求を再試行する回数を指定します。この回数に達すると、タスクの再開が許可され、失敗が記録されます (省略可能)。

nnnn

再試行の回数です。デフォルトは 3 です。

SIMulate

SMC SIMulate コマンドは、ある一連のジョブステップ特性を持つ 1 つの DD ジョブステップを SMC がどのように処理するかをシミュレートします。SIMulate コマンドは、SMC 処理の IDAX と割り振りの影響 (SSI24) 部分をシミュレートしますが、マウント処理はシミュレートしません。

シミュレートするキーワードジョブステップパラメータを指定すると、コマンドによって SMC 割り振り、ポリシー検索、およびポリシー検索が起動されます。SIMulate の出力にシミュレート結果が表示されます。

SIMulate は特定のジョブステップ特性 (複数のデバイス、AFFinity 分離、volref 属性など) はシミュレートしませんが、TAPEREQ コマンドと POLICY コマンド、ユーザー出口、および TAPEREQ と SERVER の変更など、SMC ポリシーでの変更が本番ジョブにどのように影響するかをテストする強力なツールを備えています。

SIMulate コマンドは、稼働中の SMC サブシステムに対して、または SMCUSIM ユーティリティを介して発行できます。SMCUSIM ユーティリティは、SIMulate コマンドと連動し、ジョブがどのように処理されるかを比較するレポートの前後に生成する、CSV として操作できる XML 出力を生成します。SMCUSIM ユーティリティの詳細については、649 ページの「SMC UI シミュレーションユーティリティ (SMCUSIM)」を参照してください。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力を含む)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

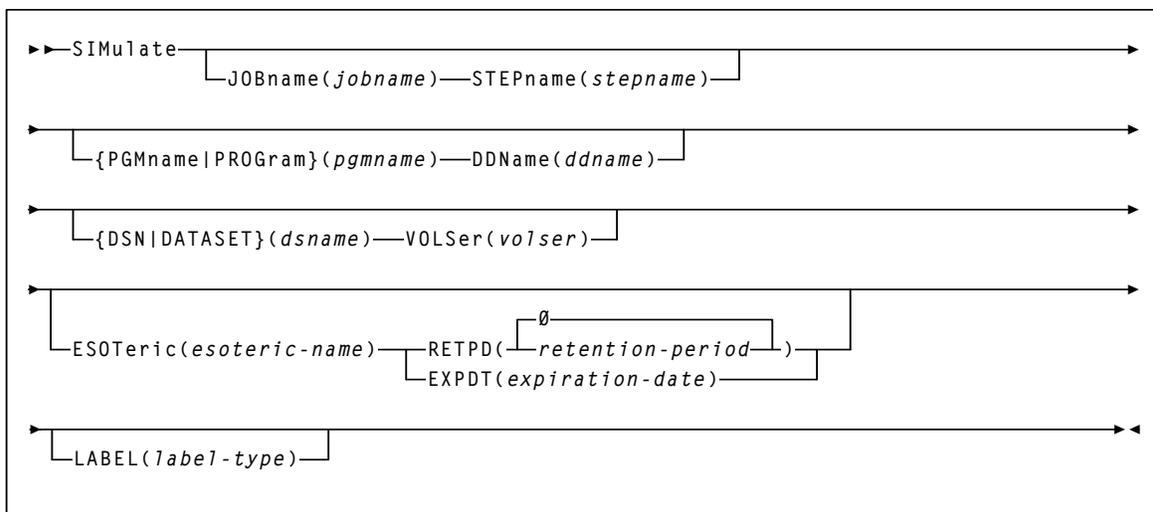


図 2-22 SIMulate の構文

パラメータ

JOBname

テスト対象となるシミュレーション用のジョブステップのジョブ名を指定します (省略可能)。形式は MVS 標準に従う必要があります。指定しなかった場合は、「(any)」が使用され、SMS ACS ルーチンまたは TAPEREQ 制御文で指定された汎用的でないジョブ名に一致しないようにします。

STEPname

テスト対象となるシミュレーション用のジョブステップのステップ名を指定します (省略可能)。形式は MVS 標準に従う必要があります。指定しなかった場合は、「(any)」が使用され、SMS ACS ルーチンまたは TAPEREQ 制御文で指定された汎用的でないステップ名に一致しないようにします。

PGMname または PROGRAM

テスト対象となるシミュレーション用のジョブステップのプログラム名を指定します (省略可能)。形式は MVS 標準に従う必要があります。指定しなかった場合は、「(any)」が使用され、TAPEREQ 制御文で指定された汎用的でないプログラム名に一致しないようにします。

DDName

テスト対象となるシミュレーション用のデータセットの DD 名を指定します (省略可能)。形式は MVS 標準に従う必要があります。指定しなかった場合は、「(any)」が使用され、TAPEREQ 制御文で指定された汎用的でない DD 名に一致しないようにします。

DSN または DATASET

テスト対象となるシミュレーション用のデータセットのデータセット名を指定します (省略可能)。形式は PDS メンバーでない MVS 標準に従う必要があります。指定しなかった場合は、「(any)」が使用され、TAPEREQ 制御文で指定された汎用的でないプログラム名に一致しないようにします。

VOLSer

テスト対象となるシミュレーション用のデータセットのボリュームシリアル番号を指定します (省略可能)。形式は MVS 標準に従う必要があります。指定しなかった場合は、「SCRATCH」が使用され、スクラッチマウントがシミュレートされます。

ESOTeric

テープ要求を満たすために使用できる一連のトランスポートを定義するデバイスエソテリックグループの名前を指定します (省略可能)。指定するエソテリックは、定義済みの MVS エソテリックである必要があります。指定しなかった場合は、SIMulate コマンドが、すべての TapePlex の既知のライブラリ内デバイス、ライブラリ外デバイス、および仮想デバイスすべてから構成される元のエソテリックをシミュレートします。デフォルトのエソテリックが使用されている場合は、定義済みの MVS エソテリックに対応していない可能性があります。

注 - 「ALL」が指定されたエソテリックでは、既知のライブラリ内デバイス、ライブラリ外デバイス、および仮想デバイスすべてから構成されるデフォルトのシミュレーション用のエソテリックが指定されません。「ALL」が指定されている場合は、定義済みの MVS エソテリックである必要があります。

RETPD

テスト対象となるシミュレーション用のデータセットの保存期間を指定します (省略可能)。形式は MVS 標準に従う必要があります。指定しなかった場合は、0 が使用されます。

EXPDT

テスト対象となるシミュレーション用のデータセットの有効期限を指定します (省略可能)。形式は MVS 標準に従う必要があります。指定しなかった場合は、現在の日付が使用されます。

LABEL

ポリシーの選択に使用するラベルタイプを指定します (省略可能)。

有効な値は SL、NL、AL、および NSL です。

出力

SMC SIMulate コマンドの出力には、シミュレートされたジョブ特性と、適用される SMS、TAPEREQ、および SMC ポリシーを表示するポリシーセクションが表示されます。

次の図は、SMC テープポリシーが適用されていない「最小」出力を示したものです。

```
SMC0222 SIMULATE command results:
----- Jobstep characteristics -----
JOBNAME=(any), STEPNAME=(any), PROGRAM=(any), DDNAME=(any)
DSN=SMCINT.BT1.TEST, RETPD=0
VOLSER=SCRATCH, ESOTERIC=(any)
----- Volume lookup results -----
Owning TAPEPLEX=HSCQ
MEDIA=STANDARD, ECART, STK2P
RECTECH=LONGITUD, STK2P
----- List of eligible drives -----
0AA0 TAPEPLEX=HSCQ, ACS=00, LSM=00, 18TRACK, pref=1
0AA1 TAPEPLEX=HSCQ, ACS=00, LSM=00, 18TRACK, pref=1
remainder of drives
```

図 2-23 SIMulate の出力 - テープポリシー未適用

次の図は、テープポリシーが IDAX 時に一致する SMC ポリシーから適用されたときの出力を示したものです。

```
SMC0222 SIMULATE command results:
---- Jobstep characteristics ----
JOBNAME=(any), STEPNAME=(any), PROGRAM=(any), DDNAME=(any)
DSN=SMCINT.MGMTCLAS.TEST, RETPD=0
VOLSER=SCRATCH, ESOTERIC=(any)
---- SMC SMS policy results ----
*SMC POLICY applied at IDAX
  ESOTERIC=CART from POLICY IDAXESOTERIC
*RETPD updated at IDAX
*VOLCNT updated at IDAX
  MGMTCLAS=TEST matches an SMC POLICY name
---- POLICY lookup results ----
  POLICY=TEST
  ESOTERIC=(SVTSS1,SVTSS2)
  MEDIA=VIRTUAL
  RECTECH=VIRTUAL
  IDAXESOTERIC=CART
  IDAXRETPD=120
  IDAXVOLCNT=25
---- Volume lookup results ----
  Owing TAPEPLEX=HSCQ
*No scratch volume for request
  MEDIA=STANDARD,ECART,STK2P,VIRTUAL
  RECTECH=LONGITUD,STK2P,VIRTUAL
---- List of eligible drives ----
  9000 TAPEPLEX=HSCQ, VTSS=SVTSS1, VIRTUAL, pref=1
  9001 TAPEPLEX=HSCQ, VTSS=SVTSS1, VIRTUAL, pref=1
  remainder of drives
```

図 2-24 SIMulate の出力 - IDAX 時のテープポリシー適用

SMSDef

SMC SMSDef コマンドを用いて、デフォルトの SMC DFSMS サポートをカスタマイズします。

このコマンドは、ALLOCDf SMS パラメータ値を ON に設定することによって SMC DFSMS サポートが有効になっている場合に適用されます。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

テープマウントのための割り振り中に、SMC は最大 4 つの DFSMS ACS ルーチン呼び出します。SMSDef コマンドを使用することで、特定のルーチン呼び出しをバイパスできます。

- MGMTPol パラメータは、DFSMS ACS ルーチンから戻される管理クラスが SMC ポリシーを表すかどうかを指定します。MGMTPol を使用すると、ユーザーの SMC DFSMS ルーチンで、スクラッチ割り振りのある SMC POLICY を示し、メディア、サブプール、VTCS 管理クラスエソテリックなど、すべてのポリシー値を適用できます。

MGMTPol(ALL) (または MGMTPol(IDAX)) を使用すると、JCL 解釈中に IDAX* (IDAXESOT など) で始まる POLICY パラメータ名を適用し、SMC DFSMS ルーチンによって JCL 値を置き換えることができます。

SMSDef MGMTPol (ALL) を指定して、SMC が DFSMS から戻されるすべての管理クラス名をポリシー名として処理するよう指示してください。

- MGMTPol が OFF の場合、または MGMTPol が ON で一致する SMC ポリシー名が見つからない場合、DFSMS ルーチンによって戻される MGMTCLAS 名は、ボリューム検索およびボリュームマウント処理中に、VTCS MGMTCLAS 名として渡されません。
- ご使用の環境に VTCS がインストールされている場合は、DFSMS ルーチンによって戻されるすべての MGMTCLAS 名が定義済みの SMC POLICY 名に一致することを確認してください。その場合は、無効な MGMTCLAS 名を誤って VTCS に渡すことがないように VTVmgmt(OFF) を指定します。

注 – VTVmgmt(ON) を指定すると、MGMTPol が OFF の場合は DFSMS ルーチンからの MGMTCLAS を直接 VTCS MGMTCLAS として使用できますが、MGMTPol が ON の場合は一致する SMC ポリシー名が見つかりません。この設定は、以前の DFSMS インタフェース形式に適用されます。

- ご使用の環境で DFSMS 機能がサポートされていない場合は、ALLOCDf SMS パラメータを OFF に設定します (デフォルト)。すべての DFSMS ACS ルーチン呼び出しをバイパスできます。

構文

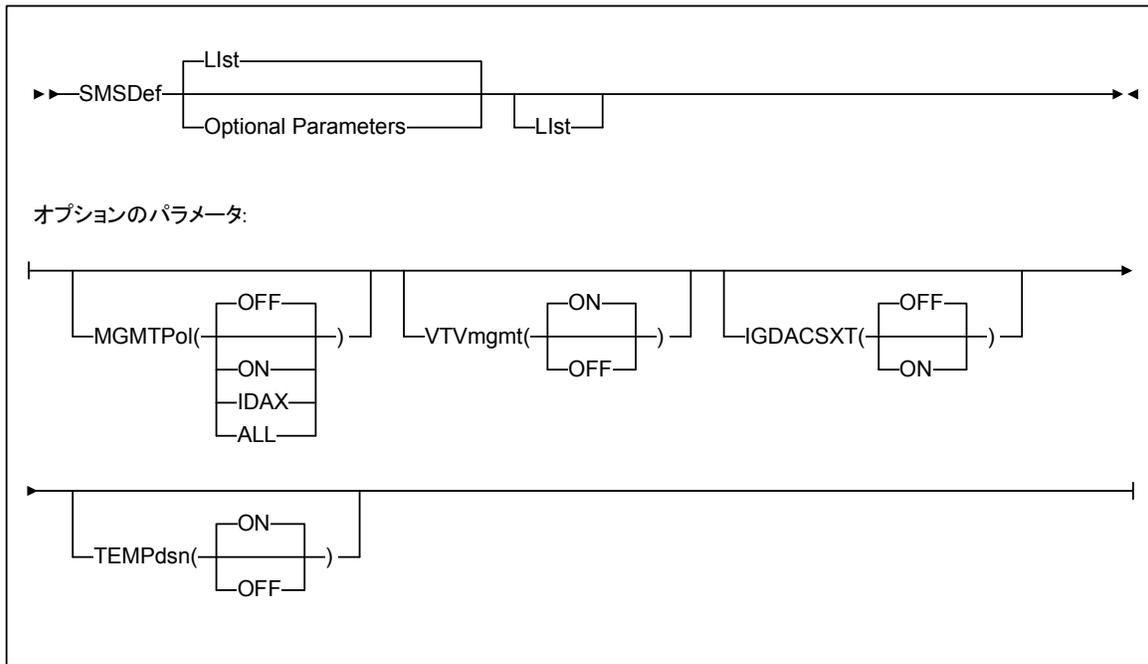


図 2-25 SMSDef の構文

パラメータ

注 - このコマンドには、SMC POLicy コマンドに代わった以前の DFSMS インタフェース形式に適用される追加パラメータが含まれます。これらの従来のパラメータについては、『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。

一覧表示

現在の DFSMS 設定を一覧表示します (省略可能)。

- Llist は、SMSDef コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、Llist は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

MGMTPol

DFSMS ACS ルーチンから戻される管理クラスが SMC ポリシーを表すかどうかを指定します (省略可能)。

OFF

DFSMS ACS ルーチンから戻される管理クラス名は、無視される (VTVmgmt が OFF の場合) か、VTCS 管理クラス名として解釈されます (VTVmgmt が ON の場合)。これはデフォルト値です。

ON

SMC DFSMS ACS ルーチンから戻される管理クラス名は、IDAX 処理中ではなく、割り振りおよびマウントメッセージ処理中に、SMC ポリシー名として解釈されます。一致する SMC ポリシー名が見つかった場合、すべてのポリシー情報が要求に適用されます。ポリシー名が見つからなかった場合、ほかの SMC DFSMS 処理が指定に従い適用されます。

IDAX

SMC DFSMS ACS ルーチンから戻される管理クラス名は、割り振りまたはマウント処理中ではなく、IDAX 処理中に SMC ポリシー名として解釈されます。ポリシー名が見つからなかった場合、ほかの SMC DFSMS 処理が指定に従い適用されます。たとえば、ESOT(ON) が指定されている場合、戻されるストレージグループは置換エソテリックとして使用されます。

ALL

SMC DFSMS ACS ルーチンから戻される管理クラス名は、常にポリシー名として解釈されます。これは、推奨する設定です。

- 一致する SMC ポリシー名が見つかった場合、すべてのポリシー情報が要求に適用されます。
- ポリシー名が見つからなかった場合、ほかの SMC DFSMS 処理が指定に従い適用されます。たとえば、VTVMGMT が ON の場合、DFSMS 管理クラス名は VTV 管理クラスとして解釈されます。

注 – MGMTPol が ON で、一致するポリシー名にエソテリックが含まれる場合、ポリシー内のエソテリック名は、指定されたエソテリックに含まれないデバイスを除外するために、共通割り振り中に使用されます。これは、「本当の」エソテリック置換パラメータとしては使用されません。

VTVMgmt

仮想ボリューム割り振りおよび仮想ボリュームマウントメッセージ処理中に、SMC がストレージクラスおよび管理クラス DFSMS ACS ルーチンを開始するかどうかを指定します (省略可能)。

ON

MGMTPol が OFF の場合、または MGMTPol が ON で一致する SMC ポリシー名が見つからない場合、ボリューム検索およびボリュームマウント処理中に、管理クラス名が VTCS に提供されます。

OFF

MGMTPol が ON の場合、DFSMS ACS ルーチンによって戻される管理クラス名を使用して、指定 SMC ポリシーからのポリシー値が検索されます。一致する SMC ポリシー名が見つからない場合、ポリシーは要求に適用されません。

MGMTPol が OFF の場合、SMC は、割り振りまたはマウント処理中に DFSMS ACS ストレージクラスまたは管理クラスルーチンを開始しません。

IGDACSXT

SMC DFSMS 処理中、DFSMS ACS ルーチンを開始する前に、SMC が Pre-ACS Installation Exit (IGDACSXT) を開始するか否かを指定します (省略可能)。Pre-ACS Installation Exit の詳細については、IBM ドキュメント『DFSMS Installation Exits』を参照してください。

ON

SMC が DFSMS ACS ルーチンを呼び出す前に IGDACSXT 出口が開始されます。読み取り専用の変数設定を含む ACERO 制御ブロックが出口に戻されます。これらの設定は、SMC が DFSMS ACS ルーチンを開始する前に出口で変更できます。

OFF

SMC が DFSMS ACS ルーチンを呼び出す前に、IGDACSXT 出口は開始されません。

TEMPdsn

MGMTCLAS が戻されるように、一時的なデータセットを DFSMS ACS ルーチンに永続的なデータセットとして提示するかどうかを指定します (省略可能)。

ON

元のデータセットが一時的なデータセットである場合は、&DSTYPE 読み取り専用変数が「2」(永続的なデータセットを示す)に設定されます。

&DSTYPE 読み取り専用変数が変更される場合は、&LIBNAME 読み取り専用変数に「3」という文字が含まれます。

デフォルト設定は ON です。

OFF

&DSTYPE 読み取り専用変数は、データセットの実際の後処理に設定されます。

STORMNGR

SMC STORMNGR コマンドは、SMC に対して VLE アプライアンスを定義します。

注 – VLE にアクセスするには、STORMNGR および SERVer コマンドを使用する必要があります。STORMNGR コマンドでは、SMC が通信を試みる VLE を一覧表示したり、その状態をレポートしたりすることもできます。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

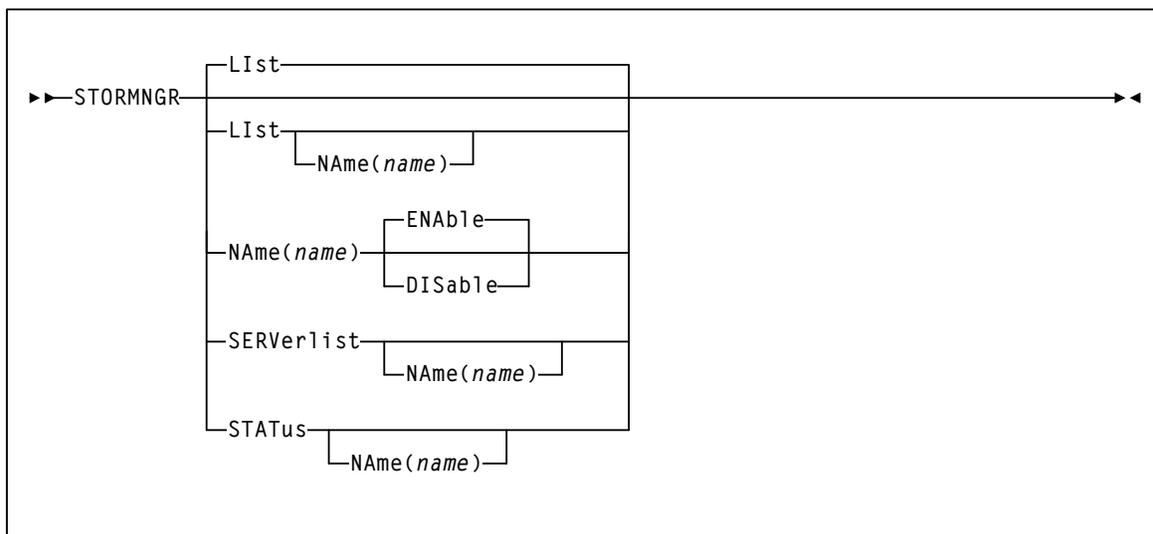


図 2-26 STORMNGR の構文

パラメータ

List

すべての VLE または特定の VLE を一覧表示します (省略可能)。

NAME

指定した場合、指定した名前の VLE が表示されます。

NAME

追加、変更、または一覧表示する VLE を指定します。NAME を指定しない場合、すべての VLE が一覧表示されます。

name

VLE 名です。この名前は VTCS に対しても定義され、最初に VLE GUI によって定義されます。次の規則が適用されます。

- 値は 1 - 8 文字でなければなりません。
- 最初の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最後の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最初と最後の文字の間にある文字は、英字、数字、ハイフンのいずれかでなければなりません。

ENable

指定された VLE を有効にします。新しい VLE が追加される場合のデフォルトです。

DISable

指定された VLE を無効にします。

SERVerlist

定義されている VLE、その属性と関連サーバーを一覧表示します (省略可能)。また、SERVerlist パラメータを NAME パラメータとともに指定して、VLE が 1 つだけ表示されるようにすることもできます。

NAME

サーバーを一覧表示する VLE 名を指定します。

name

VLE 名です。

STATus

すべての VLE または指定された 1 つの VLE の現在の状態を一覧表示します (省略可能)。

TAPEPlex

SMC TAPEPlex コマンドを用いて、TapePlex を指定します。これは、特定の Oracle StorageTek テープハードウェア構成 (通常は 1 つの CDS で表される) です。

注 -

- リモート HSC TapePlex にアクセスするには、TAPEPlex および SERVer コマンドを使用する必要があります。
- TAPEPlex コマンドを指定する場合は、すべての TapePlex を明示的に定義する必要があります。
- TAPEPlex コマンドが指定されていない場合、SMC は、ホストの SSCVT チェーンで定義されている稼働中の HSC および MVS/CSC サブシステムを使用します。すべての TapePlex を定義するには、TAPEPlex コマンドを使用することをお勧めしています。

また、TAPEPlex コマンドによって、SMC が通信を試行する TapePlex を一覧表示して、その状態をレポートすることもできます。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

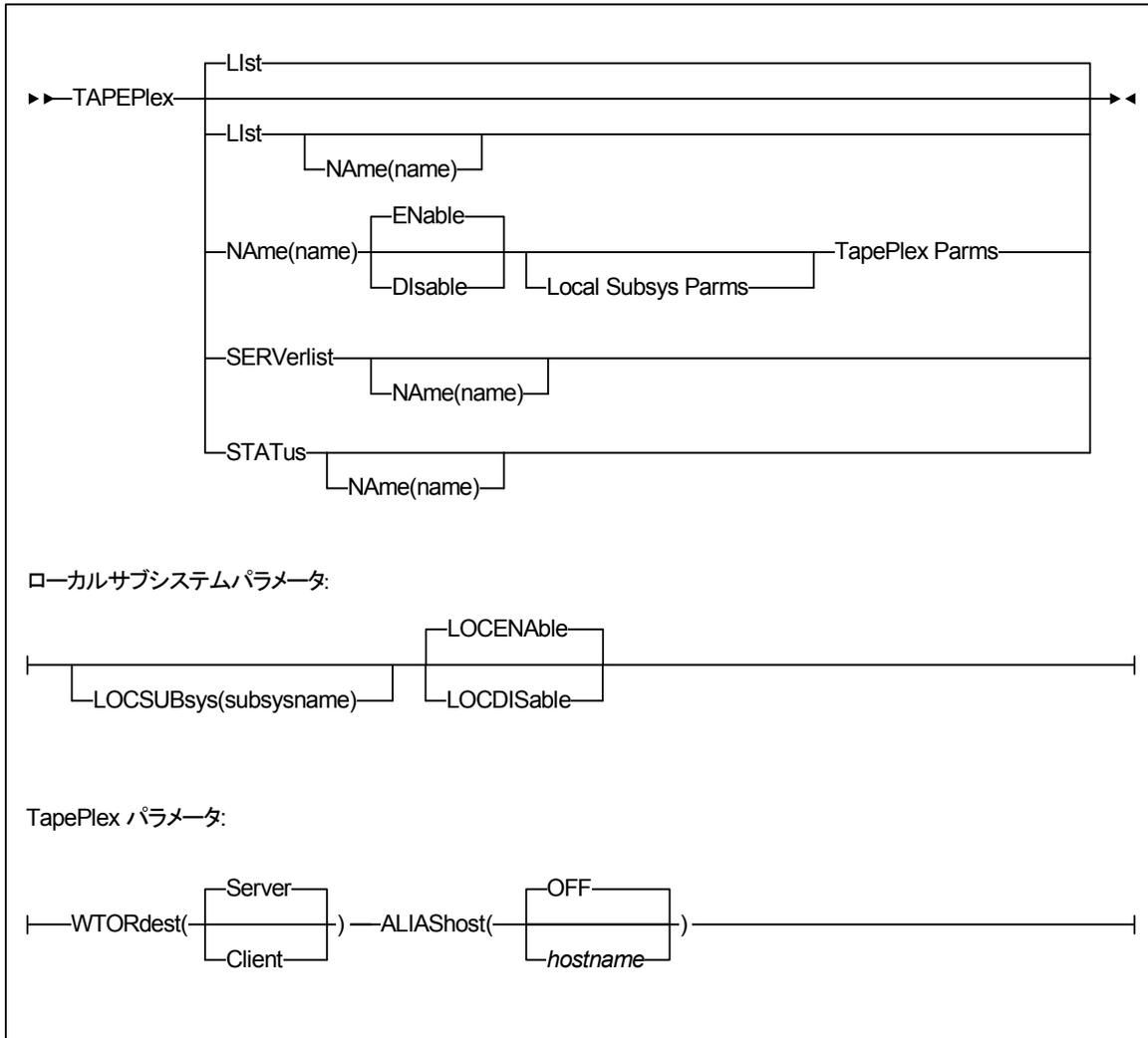


図 2-27 TAPEPlex の構文

パラメータ

Llist

指定された TapePlex を一覧表示します (省略可能)。

NAME

一覧表示する TapePlex 名を指定します。

name

TapePlex 名です。

注 -

- Llist は、TAPEPlex コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。この場合、すべての TapePlex が一覧表示されます。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、指定の TapePlex は、ほかのパラメータが処理されたあとに一覧表示されます。

NAME

追加、変更、または一覧表示する TapePlex 名を指定します。

name

TapePlex 名です。この名前は、TapePlex エラーメッセージのレポートに使用されます。次の規則が適用されます。

- 値は 1 - 8 文字でなければなりません。
- 最初の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最後の文字は、英字または数字のいずれかでなければなりません。
- 最初と最後の文字の間にある文字は、英字、数字、ハイフンのいずれかでなければなりません。

ENable

指定された TapePlex が割り振りまたはマウント要求で選択されるようにします。

DISable

指定された TapePlex を無効にします。無効にされた TapePlex は、いかなる割り振りまたはマウント要求にも使用されません。

LOCSUBsys

ローカル HSC または MVS/CSC サブシステム (あるいはその両方) を指定します。

subsysname

サブシステム名です。

LOCENable

指定された HSC または MVS/CSC サブシステムが TapePlex へのローカルパスとして使用されるようにします。

LOCDISable

指定された HSC または MVS/CSC サブシステムを無効化します。LOCDISable を使用することで、SMC がローカルサブシステムを無視して、リモートサーバーを介して TapePlex にアクセスするように設定できます。

WTORdest

HSC WTOR メッセージが表示されるコンソールを指定します (省略可能)。適用されるメッセージについては、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。

Client

リモート HSC は、WTOR メッセージを発行せずに、選択されている WTOR を SMC クライアントに戻します。SMC クライアントは、SMC が実行されているシステムのオペレータに対して、WTOR を発行します。SMC は、WTOR 応答を提供するサーバーに対して、マウントまたはマウント解除要求を再指示します。

Server

WTOR メッセージは HSC サーバーコンソール上で発行されます。これはデフォルトです。

ALIASHost

HSC TapePlex との通信で使用されるホストエイリアスを指定します (省略可能)。

hostname

1 - 8 文字のホスト名です。

OFF

ネイティブの SMF ホスト名が HSC LIBRARY との通信で使用されます。これはデフォルトです。

SERVerlist

定義されている TapePlex、その属性と関連サーバーを一覧表示します (省略可能)。また、SERVerlist パラメータを NAME パラメータとともに指定して、単一の TapePlex のみが表示されるようにすることもできます。

NAME

サーバーを一覧表示する TapePlex 名を指定します。

name

TapePlex 名です。

STATus

すべての TapePlex または単一の指定の TapePlex の現在の状態を一覧表示します (省略可能)。TapePlex の状態は、TapePlex が稼動中、停止中、または無効のいずれかを示します。稼動中の TapePlex では、状態に現在のサーバーまたはローカルサブシステムの名前が表示されます。STATus では、RESYNChronize は実行されません。

NAME

状態情報を一覧表示する TapePlex 名を指定します。

name

TapePlex 名です。

TCPip

SMC TCPip コマンドを用いて、ご使用の TCP/IP 通信環境における現在の TCPNAME および ADSNAME のデフォルトを変更または一覧表示 (あるいはその両方) します。このコマンドによって、MVS ホスト上の特定の TCP/IP スタックに対して TCP/IP 要求を指示できます。

インタフェース :	UII: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

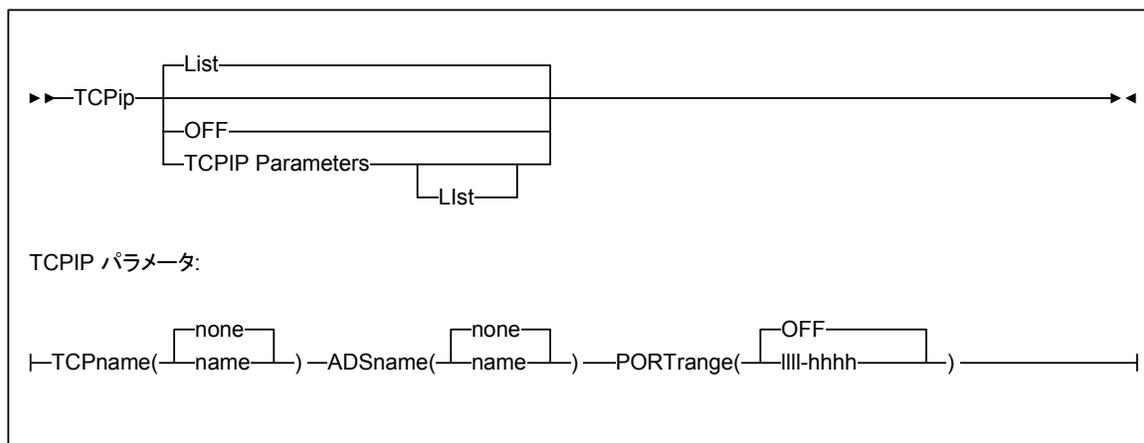


図 2-28 TCPip の構文

パラメータ

Llist

TCPNAME および ADSNAME の現在の設定を一覧表示します (省略可能)。PORTrange が指定されている場合、Llist は関連付けられている現在のポート番号と、関連付けられている最高位のポート番号も表示し、一度に実行する同時通信サブタスクの最大数を示します。

- Llist は、TCPip コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、Llist は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

クライアントの TCP/IP 通信でシステムデフォルトを使用するように指定します (省略可能)。

TCPname

MVS ホスト上の特定の TCP/IP スタックに対して TCPNAME 値を指定します (省略可能)。TCPNAME は、MVS の TCP/IP スタックの名前です。TCPNAME の詳細については、IBM ドキュメント『TCP/IP for MVS Application Programming Interface Reference』を参照してください。デフォルトは none です。

name

TCPNAME 値です。

- サブシステム名を指定する場合、指定する名前には 1 - 4 文字の英数字または国別文字 (#、@、\$) を使用し、最初の文字は英字または国別文字にする必要があります。
- アドレス名を指定する場合、指定する名前には 1 - 8 文字の英数字または国別文字を使用する必要があります。

ADSname

MVS ホスト上の特定の TCP/IP スタックに対して ADSNAME 値を指定します (省略可能)。ADSNAME は、TCP/IP 起動ジョブのジョブ名です。ADSNAME の詳細については、IBM ドキュメント『TCP/IP for MVS Application Programming Interface Reference』を参照してください。

name

ADSNAME 値です。

PORTrange

リモートサーバーパスで通信するときに、クライアント上でソケットを bind() するために SMC が使用するポートの範囲を指定します (省略可能)。

PORTrange を定義すると、SMC はクライアントソケットを指定した PORTrange 内のポートの 1 つに binds() します。PORTrange の外部のクライアントポートは使用しません。このため、SMC は既知のポートとの通信に制限するファイアウォールの背後で運用できます。ボリューム検索、マウントなどの通信サービスが必要な同時サブタスクには、それぞれ固有のポートが必要です。PORTrange が定義されていない場合、SMC は一時的なポートを使用します。

一度にアクティブにできる PORTrange は 1 つだけですが、PORTrange は動的に再定義できます。この場合、新しい PORTrange が古い PORTrange と重複してもかまいません。

nnnnnn-nnnnnn

ポート番号の範囲です。

各ポート番号は、1 - 65535 の値を持つことができます。しかしながら、以下に注意する必要があります。

- 指定できる**最小**のポート番号範囲は **10** です (例: 6400 - 6410)。
- 指定できる**最大**のポート番号範囲は **1000** です (例: 6400 - 6500)。

OFF

PORTrange の論理が無効です。結果として、一時的なポートが使用されます。

注 -

- PORTrange は、TCP/IP の既知のポートと競合しないように指定することを推奨します。
 - PORTrange の数値の指定は、リモート通信サービスを必要とする同時サブタスクの予想される数値より大きくすることを推奨します。ほとんどのインストールでは、PORTrange を 40 ポートにすれば十分です。ただし、「空きポートがありません」という SMC0128 メッセージがリターンコードと共に表示される場合は、より大きな PORTrange が必要です。
 - HSC サーバーへの SMC マウント要求が HSC 上で未処理の WTOR になる場合、使用されるポート番号は、未処理の WTOR に対して応答が提供されるまで利用できません。TAPEPlex WTORdest(SERVER) が指定される場合や、TAPEPlex WTORdest(CLIENT) が指定され HSC マウントメッセージが処理のために SMC に戻されない場合に、マウント要求の WTOR メッセージが表示されます。適用されるメッセージについては、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。
 - 最高位のポート番号を表示するために、TCPip LIST コマンドを使用できます。これは、一度に実行する同時通信サブタスクの最大数を示します。
-

TRace

SMC TRace コマンドにより、GTF トレース機能を用いて SMC トレースを有効化し、オプションで、制御ブロックの変更前後に、アドレス空間のスナップダンプを実行します。

注 -

- SMC TRace 処理は、システム性能に影響を及ぼす場合があります。使用する場合は、必ず Oracle StorageTek ソフトウェアサポートの指示に従ってください。
- TRace JOBname (*jobname*) を指定すると、ジョブ名 (*jobname*) が HSC サブシステム名と一致したときに、HSC または VTCS サブシステムアドレス空間によって発行された UUI コマンドに対して SMC トレースが生成されます。UUI トレースは CPU を大量に消費します。使用する場合は、必ずオラクルソフトウェアサポートの指示に従ってください。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

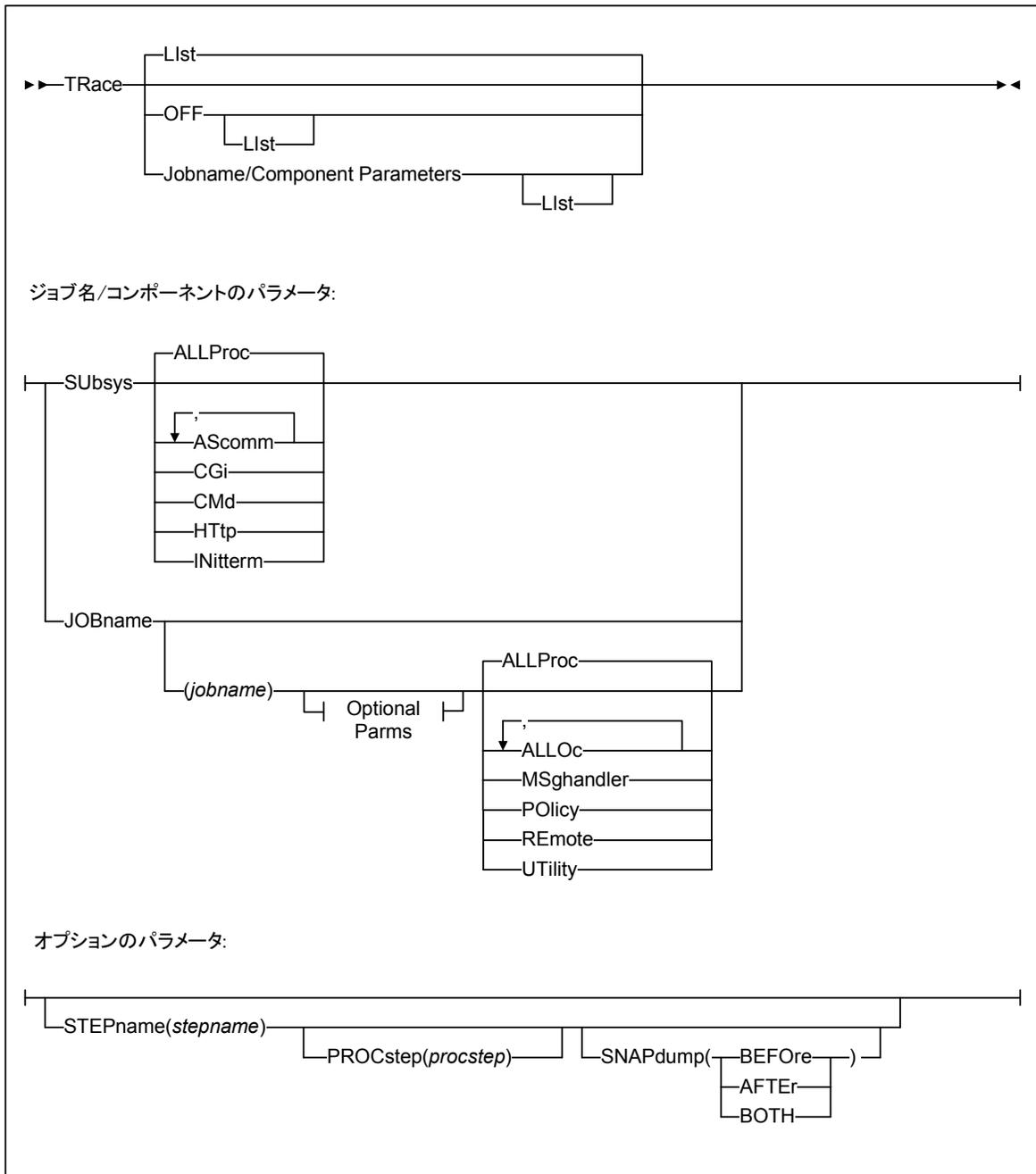


図 2-29 TRace 構文

パラメータ

Llist

サブシステムおよび SMC コンポーネントの現在の SMC トレースに関するデフォルト設定を、ジョブ名、ステップ名、PROC ステップごとに一覧表示します (省略可能)。

- Llist は、TRace コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- Llist は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、Llist は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。
- JOBname が指定されていない場合は、SMC コンポーネントのトレースが実行されているすべてのジョブが一覧表示されます。
- JOBname が指定されている場合は、指定のジョブ JOBname に一致するジョブ名のうち、SMC コンポーネントのトレースが実行されているジョブのみが一覧表示されます。

OFF

SMC トレースを無効化します (省略可能)。

- ほかのパラメータが指定されていない場合、すべてのジョブに対するトレースが無効化されます。
- JOBname のみが指定されている場合、該当するジョブのすべてのエントリに対するトレースが無効化されます。
- JOBname、STEPnam および PROCstep が指定されている場合、指定のエントリに対するトレーシングのみが無効化されます。

ジョブ名/コンポーネントのパラメータ

SUbsys

1 つまたは複数の SMC サブシステムコンポーネントまたはサブタスクに対する SMC トレースを有効化または無効化します (省略可能)。

ALLProc

SMC サブシステムのすべてのコンポーネントおよびタスクに対するトレースを有効にします (省略可能)。パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

AScomm

SMC サブシステムの ASCOMM コンポーネントのすべてのタスクに対するトレースを有効にします (省略可能)。

CGi

接続されているすべてのクライアント要求について、SMC サブシステムのすべての CGI モジュール処理に対するトレースを有効にします (省略可能)。個々のクライアント要求に対する CGI モジュールの実行をトレースするには、該当する SMC クライアントで TRace JOBname REMOTE コマンドを発行します。

CMd

SMC サブシステムのオペレータコマンドコンポーネントのすべてのタスクに対するトレースを有効にします (省略可能)。

HTtp

SMC サブシステムの HTTP サーバーコンポーネントのすべてのタスクに対するトレースを有効にします (省略可能)。

INit

SMC サブシステムの開始/終了コンポーネントのすべてのタスクに対するトレースを有効にします (省略可能)。

JOBname

指定した **jobname**、**stepname**、および **procstep** 名に一致する、イニシエータの 1 つまたは複数のイニシエータコンポーネントに対して、SMC トレースを有効または無効にします (省略可能)。ジョブ名が指定されないと、すべてのジョブのトレース情報が表示されます。

jobname

特定のジョブ名です。

入力値は、1 - 8 文字長にする必要があります。最後の文字にアスタリスク (*) を入力し、ワイルドカードとして使用できます。この場合、アスタリスクの先行文字に一致するジョブ名を持つすべてのジョブに対し、トレースまたは一覧表示が実行されます。すべてのジョブをトレースするには、TRACE JOB(*) と指定します。

ALLProc

イニシエータで実行されている、指定した **jobname**、**stepname**、および **procstep** 名に一致するすべての SMC イニシエータコンポーネントに対して、トレースを有効にします (省略可能)。パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

ALLOc

イニシエータで実行されている、指定した **jobname**、**stepname**、および **procstep** 名に一致するすべての SMC 割り振りおよび JES3 コンポーネントタスクに対して、トレースを有効にします (省略可能)。

MSghandler

イニシエータで実行されている、指定した **jobname**、**stepname**、および **procstep** 名に一致するすべての SMC メッセージハンドラコンポーネントタスクに対して、トレースを有効にします (省略可能)。

POLicy

SMC POLicy 名、および割り振りポリシーとマウントポリシーの TRace コマンドで指定されているジョブ名のジョブログに対する選択条件のトレースを有効にします (省略可能)。

注 - 注: POLicy トレースは、稼働中の GTF トレースに依存しません。

REmote

リモートの SMC HTTP サーバーで、指定した **jobname**、**stepname**、および **procstep** 名から発信される要求のトレースを有効にします (省略可能)。

注 - 注: REmote トレースは SMC クライアントで稼働中の GTF トレースに依存しますが、GTF トレースは対応する SMC HTTP サーバーで稼働している必要があります。

UTility

イニシエータで実行されている、指定した **jobname**、**stepname**、および **procstep** 名に一致するすべての SMC ユーティリティーコンポーネントタスクに対して、トレースを有効にします (省略可能)。

オプションのパラメータ**STEPname**

ステップ名を指定します (省略可能)。

stepname

ステップ名です。

入力値は、1 - 8 文字長にする必要があります。このパラメータは、JOBname が指定されている場合にのみ有効です。JES3 環境の TAPE SETUP 処理では**使用できません**。

PROCstep

PROC ステップを指定します (省略可能)。

procstep

PROC ステップです。

入力値は、1 - 8 文字長にする必要があります。このパラメータは、JOBname および STEPname が指定されている場合にのみ有効です。JES3 環境の TAPE SETUP 処理では**使用できません**。

SNAPdump

スナップダンプを要求します (省略可能)。このパラメータは、JES3 環境の TAPE SETUP 処理では**使用できません**。

注 - スナップダンプは、システム性能に影響を及ぼす場合があります。使用する場合は、必ず Oracle StorageTek ソフトウェアサポートの指示に従ってください。

BEFORe

割り振り影響の前にスナップダンプを要求します。

AFTEr

割り振り影響のあとにスナップダンプを要求します。

BOTH

割り振り影響の前後にスナップダンプを要求します。

TREQDef

SMC TREQDef コマンドは、ご使用のテープ要求 (TAPEREQ) パラメータ文を含む定義データセットを指定し、ロードします。

注 - 既存の HSC TREQDEF 制御ステートメントも引き続き無効化されませんが、リモート SMC 6.0 クライアントシステムに対してのみ処理されます。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

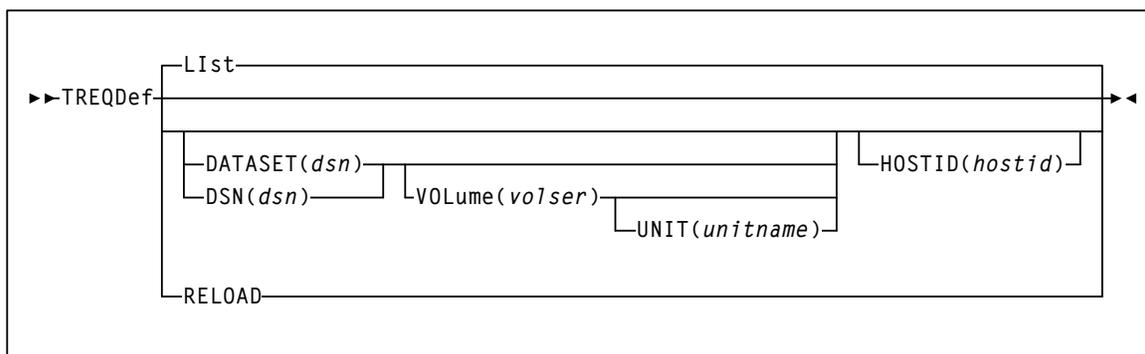


図 2-30 TREQDef の構文

パラメータ

List

現在ロードされている TAPEREQ 制御文を含む定義データセットに関する情報を一覧表示します。次の情報が含まれます。

- データセット名
- メンバー名
- 識別文字列 (データセットに OPTION TITLE 文が含まれている場合)
- ロードされている日付および時刻パラメータ

List は、TREQDef コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

DATASET または DSN

処理対象の TAPEREQ 制御文を含むデータセット名と、オプションで OPTION TITLE 制御文を指定します (省略可能)。

注 – OPTION TITLE 制御文の詳細については、[494 ページ](#)の「**OPTION TITLE 制御文**」を参照してください。

dsn

データセット名です。

このデータセットには、固定長 80 バイトの順次データセット、または PDS のメンバーである固定長 80 バイトのデータセットを使用できます。データセット名にメンバー名が含まれている場合は、*dsn* を () で囲む必要があります。次に例を示します。

```
DATASET ('YOUR.PDS.DSN (MEMBER)')
```

VOLume

データセットが常駐している DASD ボリュームのボリュームシリアル番号を指定します (省略可能)。データセットがカタログ化されていない場合は、このパラメータを指定します。

volser

ボリュームシリアル番号。

UNIT

カタログ化されていないデータセットに対して指定されている VOLume のユニット名を指定します (省略可能)。VOLume も指定されている必要があります。

unitname

ユニット名です。

指定されていない場合は、SYSALLDA のユニット名がデフォルトです。

HOSTID

この制御文の実行元であるホストの ID を指定します (省略可能)。このパラメータは、複数の TAPEREQ 制御文メンバーを含む 1 つの parmlib を複数のシステムで共有するため、PARMLIB でのみ使用できます。

hostid

この制御文の実行元であるホスト名です。複数のホスト名は、コンマで区切ります。

RELOAD

現在ロードされている TAPEREQ 制御文を同じデータセットからリロードします (省略可能)。このパラメータは、TREQDEF DSN(*dsn*) コマンドの発行後にのみ使用できます。そのあと、該当するデータセットの内容を変更できます。

TAPEREQ 制御文

SMC TAPEREQ 制御文には、特定のジョブ名、ステップ名、プログラム名、データセット、またはデータセットグループに適用される所定の POLicy を指定します。

TAPEREQ 文は、SMC TREQDEF コマンドで指定されている定義データセット (DDname) に入力されます。SMC 割り振りでは、これらの TAPEREQ 文が呼び出され、要求を満たすために正確なメディアタイプが使用されており、カートリッジが適切なデバイスにマウントされていることが確認されます。TAPEREQ 文は定義データセット内に配置する必要があります。これをオペレータコマンドとして発行することはできません。

SMC POLicy コマンドを使用すると、1 つの指定オブジェクトでのすべてのテープポリシーの仕様を指定できます。指定のポリシーを割り振りまたはマウントイベントと関連付けるために TAPEREQ 文または SMS とともに使用します。

TAPEREQ POLicy パラメータにより、SMC POLicy コマンドによって定義されている関連の SMC ポリシーが参照されるようになります。詳細については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。

注 -

- 以前のソフトウェアリリースでは、テープ属性の定義に TAPEREQ パラメータが使用されていました。これらの従来のパラメータについては、『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。
 - TREQDEF コマンドの詳細については、[155 ページの「TREQDef」](#)を参照してください。
-

構文

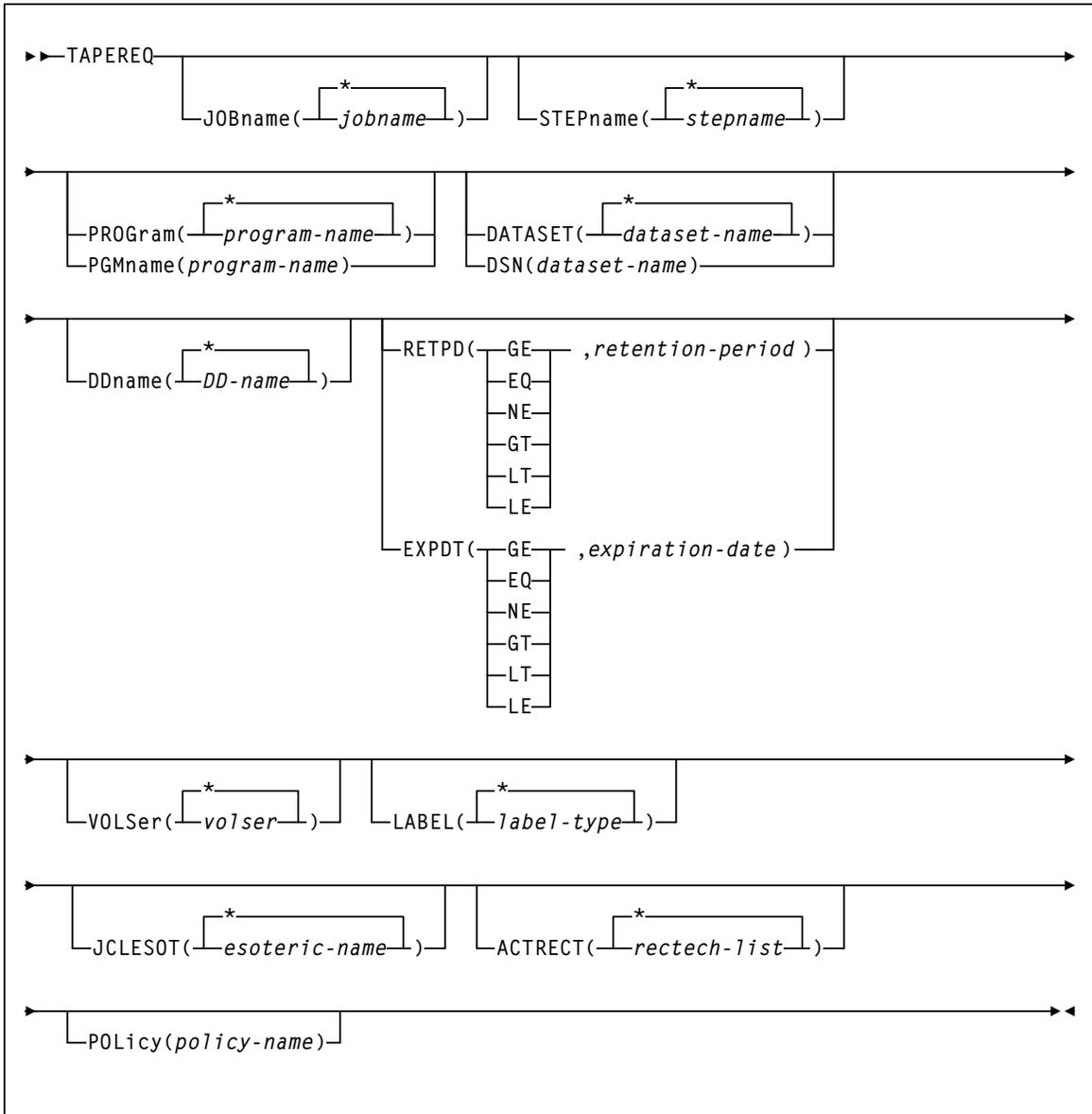


図 2-31 TAPEREQ 制御文の構文

制御文名

TAPEREQ

TAPEREQ 制御文を開始します。

次のような状況の場合:

- 要求に合致する TAPEREQ 制御ステートメントが定義データセットに指定されていない。
- 合致する Policy コマンドで、MEDia、RECtech、または MODel パラメータが指定されていない。
- 定義データがロードされていない。

すべての要求に合致するよう、MEDia、RECtech、MODel パラメータが未定義に設定されます。利用可能なすべてのデバイスを割り振りできます。

パラメータ

注 – JOBname、STEPname、PROGrama、DATASET パラメータの値には、次のようなワイルドカードを使用できます。

% or ?	単一の非ブランク文字
*	指定レベルを超過しない任意の文字列 (0 - 8 の長さ)たとえば、A.B.* と指定した場合、A.B および A.B.C は一致しますが、A.B.C.D は一致しません。
**	DATASET でのみ使用されます。任意の数の識別子 (ゼロ以上) です。識別子の中で、ほかの文字列とは併用できません。たとえば、A.B.** は A.B、A.B.C、A.B.C.D、A.B.C.D.E などに一致します。

JOBname

ジョブ名を指定します (省略可能)。JOBname が指定されていない場合は、デフォルト値 * が使用されます。

注 – DFHSM の TAPEREQ 文を符号化する場合は、選択条件として JOBname を指定する必要があります。DATASET (DSN) を使用すると、予期せぬ結果が起こる場合があります。

jobname

TAPEREQ 制御文を処理するジョブの名前です。

TAPEREQ 制御文は、指定の *jobname* が要求内のジョブ名と一致する場合にのみ、使用されます。

STEPname

ステップ名を指定します (省略可能)。STEPname パラメータが指定されていない場合は、デフォルト値 * が使用されます。

stepname

TAPEREQ 制御文を処理するステップの名前です。TAPEREQ 制御文は、指定の *stepname* が要求内のステップ名と一致する場合にのみ、使用されます。

PROGRAM または PGMname

プログラム名を指定します (省略可能)。

ジョブステップのプログラム名を使用します。デフォルト値は * です。

program-name

TAPEREQ 制御文を処理するプログラムの名前です。

TAPEREQ 制御文は、指定の *program-name* が要求内のプログラム名と一致する場合にのみ、使用されます。

注 – JES3 環境では、このパラメータはサポートされません。

DATASET または DSN

データセット名を指定します (省略可能)。デフォルト値は ** です。

dataset.name

TAPEREQ 制御文を処理するデータセットの名前です。

TAPEREQ 制御文は、指定の *dataset.name* が要求内のデータセット名と一致する場合にのみ、使用されます。RACF のルールと SMS の拡張汎用命名方式が適用されます。

注 –

- DFHSM の TAPEREQ 文を符号化する場合は、選択条件として JOBname を指定する必要があります。DATASET (DSN) を使用すると、予期せぬ結果が起こる場合があります。
- このパラメータには、DD 文の DSN パラメータに指定されている値と異なる名前を指定できます。次に例を示します。

DSN=&&ABC

と、DD 文に指定できます。ただし、実際のデータセット名は &&ABC ではありません。同様に、DSN パラメータが以前の DD 文を参照する場合、データセット名は参照先のデータセットに解決されます。したがって、TAPEREQ 制御文を処理するには、参照するデータセット名を DATASET パラメータで指定する必要があります。

DDname

データセットの DD 名を指定します (省略可能)。

DD-name

DD名。

RETPD

保存期間、および存在すべき関係性を指定します (省略可能)。RETPD または EXPDT の一方が指定されていない場合、デフォルト値は RETPD(GE,0) です (あらゆる有効期限がこの条件に一致)。

EQ	等しい
NE	等しくない
GT	不等号 (より大きい)
GE	より大きいか等しい
LT	不等号 (より少ない)
LE	より小さいか等しい

retention-period

データセットの日単位の保存期間です。

1 - 4 桁の 10 進数で日数を指定します。

注 - JES3 環境では、このパラメータはサポートされません。

EXPDT

有効期限、および存在すべき関係性を指定します (省略可能)。

EQ	等しい
NE	等しくない
GT	不等号 (より大きい)
GE	より大きいか等しい
LT	不等号 (より少ない)
LE	より小さいか等しい

expiration-date

データセットの有効期限です (YYDDD または YYYY/DDD 形式)。

注 - JES3 環境では、このパラメータはサポートされません。

VOLSer

特定のボリューム ID を識別します (省略可能)。VOLSer が省略された場合、デフォルト値は * (任意のボリューム) です。ボリュームの範囲も指定できます。

TAPEREQ 文と POLicy コマンドが組み合わせて使用され、特定ボリュームのシリアル番号に基づいて割り振りポリシーを指定できます。詳細については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。

volser

ボリュームの ID です。

注 – VOLSer では、POLicy パラメータも指定する必要があります。

LABEL

ポリシーの選択に使用するラベルタイプを指定します (省略可能)。

有効な値は SL、NL、AL、および NSL です。

注 – LABEL は POLicy も指定されている場合にのみ有効です。

JCLESOT

JCL 内で (または IDAXESOT を介して) 指定されているエソテリックに一致するデバイスエソテリックグループの名前を指定します (省略可能)。

esoteric-name

エソテリックグループ名です。

これには、1 - 8 文字の英数字または国別文字 (#、@、\$) を使用できます。スラッシュ (/) またはハイフン (-) も有効です。

注 –

- JCLESOT は POLicy も指定されている場合にのみ有効です。
- JCLESOT は SSI55 (IDAX) または SSI24 (割り振り) の処理時にのみ一致するため、SUBPOOL と MGMTCLAS を含む POLICY はこのパラメータで選択されません。

JCLESOT および ACTRECT パラメータの使用例を次に示します。

```
TAPEREQ DSN(V047970.JCLESOT.*) JCLESOT(HVTSS11) POLICY(POL1)
TAPEREQ DSN(V047970.JCLESOT.*) ACTRECT(V) POLICY(POL1)
TAPEREQ DSN(**) POLICY(POL2)

POLICY NAME(POL1) MED(V) REC(V) MGMT(HSCX400) SUBP(SUBP1)
POLICY NAME(POL2) MED(ECART)
```

この例では、一致する DSN を使って UNIT=HVTSS11 を指定するジョブには、SSI55 または SSI24 の処理時に VIRTUAL メディアおよび記録方式が割り当てられます。そのほかのすべてのデータセットには、ECART というメディアが割り当てられます。マウントメッセージの発行時に、割り振られたドライブの記録方式が一致する DSN に対して仮想である場合は、POL1 の管理クラスとサブプールが割り当てられます。それ以外の場合、サブプールまたは管理クラスは割り当てられません。

ACTRECT

マウントが要求されたドライブが以前に選択されたポリシーと矛盾する場合に、マウント時にポリシーを決定するために使用する記録方式を指定します (省略可能)。

たとえば、JCL エソテリックによりポリシー記録方式またはエソテリック置換を選択できない場合に、選択されたポリシーのスクラッチサブプールがマウントが要求されたドライブと矛盾する可能性があります。ACTRECT を指定すると、デフォルトを置き換えることができます。

rectech-list

記録方式のリストです。

POLicy

割り振りまたはマウント要求に関連付けられている (SMC POLicy コマンドによって定義される) ポリシーの名前を指定します (省略可能)。

policy-name

ポリシー名。

SMC は、このポリシー名を使用して、割り振りまたはマウント要求に関連付けられているすべてのポリシー情報を判断します。

注 -

- TREQDEF コマンドが処理される前に、POLicy コマンドを使用して指定のポリシーを定義する必要があります。
 - SMC POLicy コマンドの詳細については、[113 ページの「POLicy」](#)を参照してください。
 - 既存の TAPEREQ 文に基づいた新しい POLicy 定義の作成については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。
-

TAPEREQ 定義の無効化

TAPEREQ 定義を無効にするには、次の手順に従います。

1. 現在の TAPEREQ 制御文を含む定義データセットを編集します。
2. 無効にする TAPEREQ 制御文のパラメータ、または TAPEREQ 制御文自体を削除します。
3. TREQDEF オペレータコマンドを発行し、定義データセットを再ロードします。

すべての TAPEREQ 定義を無効にするには、パラメータが指定されていない TAPEREQ 制御文を 1 つだけ含む定義データセットをロードします。

注 - 個別の TAPEREQ 制御文でエラーが発生した場合、データセット全体が破棄されます。

UEXit

ユーザー出口 1、2、4、8、9、10、11、12、および 13 は、SMC によって開始および管理されます。UEXit コマンドを用いて、特定のユーザー出口に対して開始されるロードモジュールを定義すると共に、ユーザー出口の有効化/無効化を定義します。HSC および MVS/CSC のいずれのユーザー出口フォーマットもサポートされています。UEXit コマンドによって、ユーザー出口フォーマットを指定します。

注 -

- UEXit コマンドを使用して、使用する各ユーザー出口をロードします。ユーザー出口は、ロードしないと呼び出すことは**できません**。
- すべてのユーザー出口は、ライブラリサーバーが存在している場所に関わらず、SMC が常駐しているホスト上で実行されます。
- SMC が対話している TapePlex の数に関わらず、指定されている単一フォーマットのユーザー出口のみが開始されます。FORMat パラメータを使用して、適切なフォーマット (HSC または MVS/CSC) を指定します。
- 本リリースでは、HSC ユーザー出口 7 (SLSUX07) は、サポートされません。
- これらのユーザー出口は、サブシステムにアクセス可能なライブラリ内にある必要があります。
- SMC POLicy が割り振り、またはマウントに適用されると、ユーザー出口情報は適用**されません**。
- ユーザー出口の詳細については、『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。

インタフェース :	UII: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

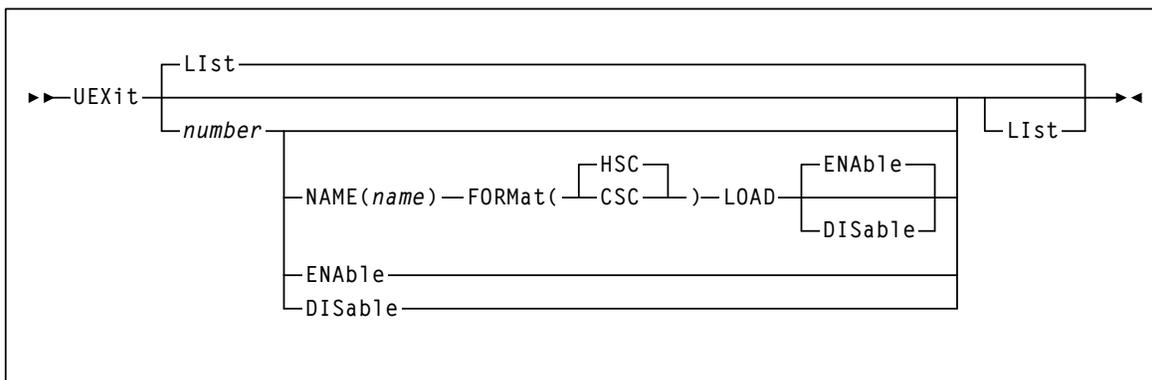


図 2-32 UEXit の構文

パラメータ

LList

すべてのユーザー出口の状態情報を表示します (省略可能)。

- LList は、UEXit コマンドでパラメータが指定されていない場合のデフォルトです。
- LList は、ほかのパラメータとともに指定することができます。この場合、LList は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

number

ユーザー出口番号を指定します (省略可能)。有効値は 1、2、4、8、9、10、11、12、および 13 です。

NAME

ユーザー出口のロードモジュール名を指定します (省略可能)。

name

ロードモジュール名です (例: SLSUX01)。

FORMat

ユーザー出口フォーマットの有効化/無効化を指定します (省略可能)。

HSC

HSC ユーザー出口フォーマットです。

CSC

MVS/CSC ユーザー出口フォーマットです。

LOAD

指定されているユーザー出口をロードして、使用可能にします (省略可能)。

注 -

- ユーザー出口は、ロードしないと呼び出すことは**できません**。
 - 同じユーザー出口に対してモジュールを続けてロードすると、ロードモジュールの現在のアクティブなコピーが削除され、使用カウントがゼロになります。
-

ENable

障害が原因で無効化されていたユーザー出口を有効化します (省略可能)。

DISable

障害の解決を図るためにユーザー出口を無効化します (省略可能)。

UNITAttr

SMC では、ドライブタイプ情報を、z/OS オペレーティングシステムと ELS ライブラリ制御システム (TapePlex) の両方から取得します。ELS ライブラリ制御システム、HSC および MVS/CSC では、構成照会から戻されたデータが、ライブラリ制御のデバイスのオペレーティングシステムから戻された情報を補足するために使用されます。

SMC UNITAttr コマンドを使用すると、ライブラリ外制御デバイスのオペレーティングシステム情報を補足し、複数の TapePlex が同じデバイスアドレスを定義するときに、指定されたデバイスの TapePlex からの構成情報を事実上無視するために、デバイスのアドレスと属性を指定できます。SMC UNITAttr コマンドを使用すると、次のことができます。

- このホストで利用できないデバイスアドレスに MODEL=IGNORE を設定します。
- このホストのライブラリ外デバイスのモデルタイプを指定します。
- 複数の TapePlex に対して定義されているライブラリ外デバイスアドレスまたは範囲に TapePlex を指定します。このホストがない場合、接続されているデバイスは指定された TapePlex に属します。
- SMC の開始後、TapePlex が初期化される前に、マウントによって参照される可能性のあるデバイスに TapePlex 所有権とモデルを指定します。

UNITAttr コマンドを使用する必要がある構成または UNITAttr コマンドを使用すると利点のある構成については、『Configuring and Managing SMC』を参照してください。

注 -

- 既存の HSC UNITATTR 制御文を無効にすることはできません。ただし、ライブラリ外デバイスと MODEL(IGNORE) デバイスに対する UNITATTR 文は、リモート SMC 6.0 クライアントシステムに対してのみ処理されます。リリース 6.0 以降の HSC の処理では、ライブラリドライブおよび仮想ドライブに対する HSC UNITATTR 文は使用しません。
- SMC では、UNITDEF コマンドはサポートされません。各 UNITATTR コマンドは、個別に解析され、処理されます。
- 構成照会を実行しても、HSC ライブラリ外および MODEL=IGNORE UNITATTR 文は、SMC には返されません。したがって、UNITAttr を用いて、割り振り用にデバイスをバイパスしたり、ライブラリ外ドライブのデバイスタイプを定義するには、これらの UNITATTR コマンドを SMC サブシステムに定義する必要があります。

インタフェース :	コンソールまたは SMCCMDS データセットのみ
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティの入力として使用可能

構文

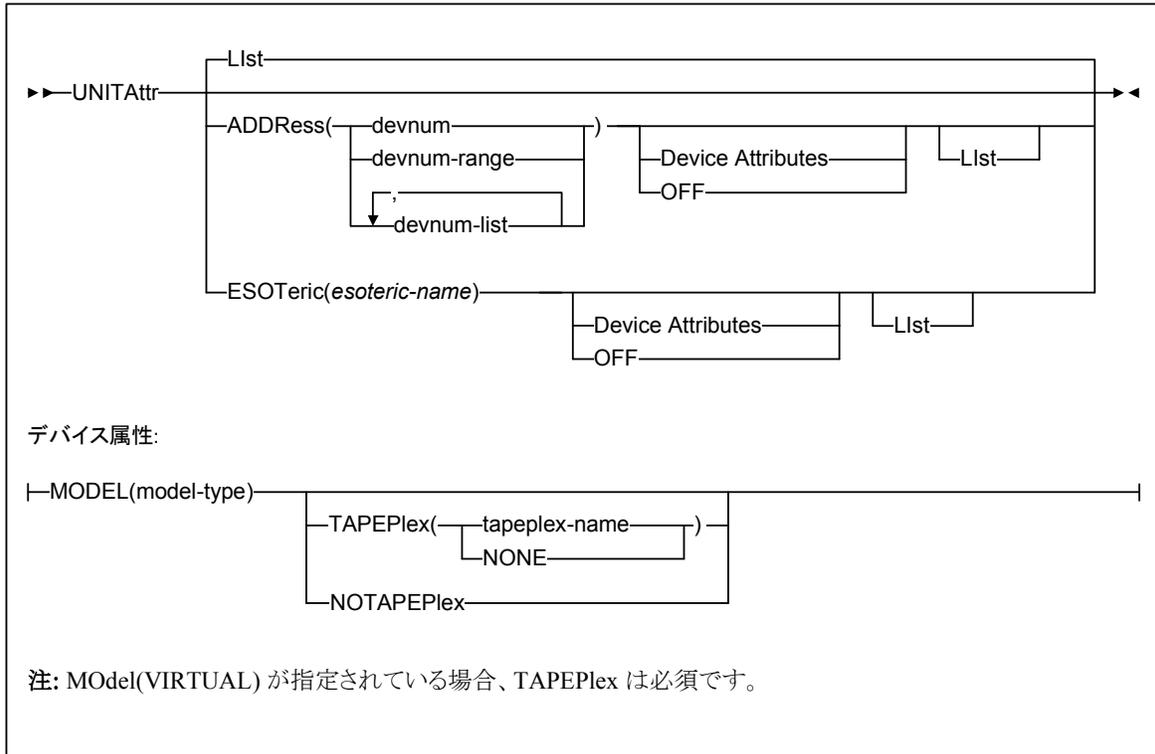


図 2-33 UNITAttr の構文

パラメータ

ADDRess

UNITAttr デバイス属性が割り当てられているデバイス番号を指定します (省略可能)。

devnum、*devnum-range*、*devnum-list*

デバイス番号、デバイス番号の範囲、またはデバイス番号のリストです。

ESOTeric

UNITAttr デバイス属性が割り当てられているエソテリックを指定します (省略可能)。デバイス特性を変更すると、指定したエソテリックのデバイスがすべて変更されます。

esoteric-name

MVS エソテリック名です。この名前は MVS に対して定義する必要があり、SMC で認識されるテープデバイスのみが含まれている必要があります。

OFF

ADDRess パラメータまたは ESOTeric パラメータによって示されているデバイス番号のモデルタイプがデバイス UCB から決定されるよう指定します。以前 MODEL=IGNORE に設定されていたデバイスの場合は、ライブラリサーバーから MODEL 情報が再設定されるよう指定します (省略可能)。

List

ADDRess パラメータまたは ESOTeric パラメータによって指定されているデバイス番号の UNITAttr モデルタイプ情報を一覧表示します。

デバイス属性:**MOdel**

ADDRess パラメータによって指定されているデバイス番号に割り振るトランスポートのモデルタイプを指定します (省略可能)。

model-type

モデルタイプです。

有効な *model-type* の値については、付録 A 「MEDia、RECtech および MOdel の値」を参照してください。

TAPEPlex

通信が確立される前にドライブに関連付けられる TapePlex の名前を指定します (省略可能)。

注 – MOdel(VIRTUAL) が指定されている場合、TAPEPlex は**必須**です。
MOdel(VIRTUAL) ドライブは、「ライブラリ外」デバイスとして存在することはできません。

TapePlex-name

TapePlex 名です。

指定される場合、この名前は TAPEPlex コマンドで定義された TapePlex 名と一致する必要があります。

NONE

指定されたデバイスアドレスから TapePlex の関連付けを削除します (省略可能)。

NOTAPEPlex

ELS ライブラリ制御システムからの構成照会がデバイスがライブラリによって制御されていることを示しているときでも、指定されたアドレスまたはアドレス範囲がライブラリ外デバイスであるように指定します (省略可能)。このパラメータは、ローカルのライブラリ外デバイスアドレスが、ホストからアクセスできない、TapePlex に属するデバイスと重複している場合に使用します。

注 -

- MOfel で TAPEPlex が指定されているとき、TapePlex から戻される構成照会モデル情報は、「実際の」モデルまたは「正しい」モデルと想定され、UNITAttr コマンドで指定されている MOfel よりも優先されます。
 - あるアドレスに対して TAPEPlex が指定されているが、そのアドレスがその TapePlex の構成照会から戻されない場合、エラーメッセージが表示されます。ただし、誤った TapePlex 所有権は指定されたデバイスアドレスのままです。その結果、指定されたデバイスアドレスに対するマウントは自動化されず、指定された TapePlex によって拒否されます。
-

USERMsg

SMC USERMsg コマンドを使用すると、インターセプトされ、ライブラリサブシステムのユーザー出口 01 に渡されるメッセージの追加メッセージ ID を指定できます。このコマンドは、USERMsg コマンドを使用して定義されたメッセージのメッセージ ID を一覧表示するためにも使用できます。

インタフェース :	UUI: すべて (XML/CSV 形式の出力なし)
サブシステムの必要条件	稼働中の SMC が必要である。SMCUSIM ユーティリティーの入力として使用可能

構文

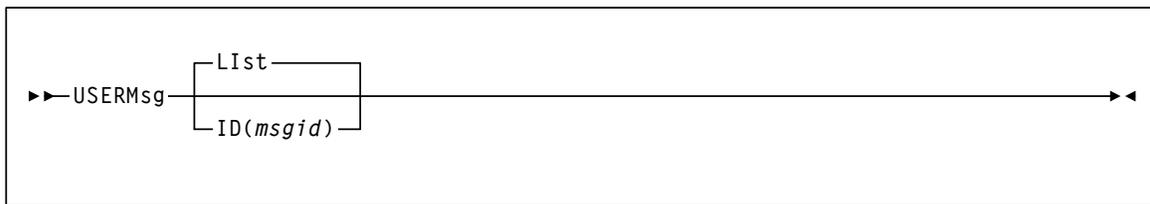


図 2-34 USERMsg の構文

パラメータ

Llist

お客様によって定義されているメッセージテーブル内のメッセージ識別子を一覧表示します (省略可能)。パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

ID

お客様の定義したメッセージテーブルに追加するメッセージを指定します (省略可能)。このメッセージは、ユーザー出口 01 に渡されます。

msgid

追加対象のメッセージのメッセージ識別子です。

注 - このパラメータは、SMCPARMS データセット内でのみ指定できます。

USERMsg

HSC コマンド、VTCS コマンド、および制御文

この章では、HSC コマンド、VTCS コマンド、および制御文に関する参照情報を記載しています。

注 -

- オペレータコマンドと、コマンドによってロードされる制御文について説明します。PARMLIB データセットによって指定される制御文を含め、そのほかの制御文については、別途説明します。
 - 特定の HSC コマンドと VTCS コマンドについては、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。これらのコマンドは、ELS 7.0 より前のソフトウェアリリースで導入され、ELS 7.0 ではコマンドの機能が置き換えられています。これらのコマンドは ELS 7.0 でもサポートされますが、このサポートは今後のリリースで廃止される予定です。
-

ACTivities

ACTivities コマンドを実行すると、ライブラリリソースの負荷に関する統計レポートが、ボリュームグループ別に (たとえば、スクラッチ対非スクラッチ、パススルーアクティビティ、マウント、マウント解除、入力済み、およびイジェクト済み) 生成されます。このレポートの情報に基づき、ライブラリリソースおよび使用状況を監視できます。

このユーティリティを使用する場合は、指定した期間の SMF データも必要です (550 ページの「SET SMF」を参照)。指定期間中のカートリッジの移動 SMF レコードが記録されているものとして処理されます。さらに、SMF レコードが以下に従って順序付けられているものとして処理されます。

- SMF ID
- 日付
- 時刻 (早い順)

レコードが重複していたり順序が誤っている場合は、ユーティリティが終了し、SMF レコードがソートされていないというメッセージが表示されます。このような状況を回避するため、176 ページの「そのほかのソート制御カード」を参照し、指定できるソート文を確認してください。

注 – 定期パフォーマンス統計は、SL8500 ライブラリでは使用できません。ボリュームの移動統計 (入力、イジェクト、マウント、マウント解除、移動など) は、すべてのライブラリタイプで生成されます。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

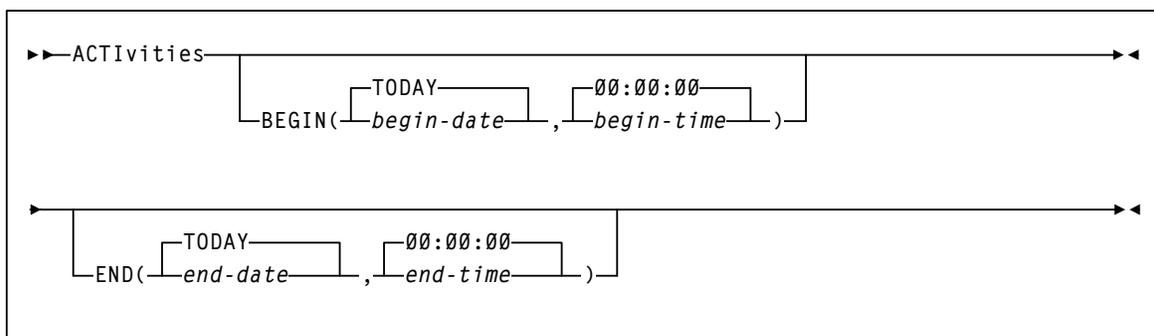


図 3-1 ACTivities の構文

パラメータ

BEGIN

オプションで、アクティビティの分析期間の開始日を指定します。

begin-date

分析の開始日を *mm/dd/yy* または *yyyymmdd* 形式で指定します。

注 – *mm/dd/yy* 形式の場合、*yy* の値を71以上にすると、20世紀 (19xx) の日付が指定されます。*yy* の値を70以下にすると、21世紀 (20xx) の日付になります。混乱を避けるため、*yyyymmdd* 形式を使用することをお勧めしています。

TODAY

デフォルトの日付。

begin-time

1日の開始時刻 (24時間値) を *hh:mm:ss* 形式で指定します。

begin-time および *end-time* パラメータの許容範囲は 00:00:00 - 24:00:00 です。デフォルト値は **00:00:00** です。

以下にその例を示します。

次の各例で、アクティビティのレポートは、2008年10月27日の深夜に開始されています。

```
BEGIN(10/27/08,00:00:00)
BEGIN(20081027,00:00:00)
BEGIN(TODAY,00:00:00)
BEGIN(,00:00:00)
```

END

オプションで、アクティビティの分析期間の終了日を指定します。

end-date

分析の終了日を *mm/dd/yy* または *yyyymmdd* 形式で指定します。*begin-date* が指定されている場合は、*end-date* を同じ形式で指定する必要があります。

注 – *mm/dd/yy* 形式の場合、*yy* の値を71以上にすると、20世紀 (19xx) の日付が指定されます。*yy* の値を70以下にすると、21世紀 (20xx) の日付になります。混乱を避けるため、*yyyymmdd* 形式を使用することをお勧めしています。

TODAY

デフォルトの日付です。

end-time

1 日の終了時刻 (24 時間値) を *hh:mm:ss* 形式で指定します。

begin-time および **end-time** パラメータの許容範囲は 00:00:00 - 24:00:00 です。デフォルト値は **23:59:59** です。

以下にその例を示します。

```
END(10/27/08,18:00:00)
END(2008501,11:30:00)
END(TODAY,23:29:00)
END(,23:59:59)
```

そのほかの JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、ACTivities JCL には次の定義文が適用されます。

SLSSMF

ユーティリティーによるレポート対象の SMF データ。古い順に連結された複数のデータセットを指定することもできます。これは、SMF ダンプユーティリティー IFASMFDP によって作成されたアクティブな SMF データセットのオフロードコピーです。

そのほかのソート制御カード

SMF レコードを確実にソートするには、SYELSORT JCL の SYSIN 部分に、いくつかの制御カードを追加で指定する必要があります。

```
//SYSIN DD*
INCLUDE COND=(6,1,BI,EQ,X'xx')
SORT FIELDS=(15,4,CH,A,11,4,PD,A,7,4,BI,A)
SUM FIELDS=NONE
```

注 - 「INCLUDE COND」文の SMF タイプの設定 (上の「X'xx」) は、ユーザーが行ないます。デフォルトの設定は「FF」(SMF タイプ 255) です。

ACTMVCGN

ACTMVCGN コマンドは、CDRT 機能を備えた VSM 環境で、オプションのコマンドとして使用します。ACTMVCGN を実行すると、2 組の MVCMAINT 文が生成されます。これらは、SLUSMVON 文と SLUSMVOF DD 文で指定されている 2 つのファイルの出力です。

ACTMVCGN を実行すると、次のことが起こります。

- SLUSMVON に、READONLY(ON) キーワードを含む一連の MVCMAINT ステートメントが含まれます。
- SLUSMVOF に、READONLY(OFF) キーワードを含む一連の MVCMAINT ステートメントが含まれます。

ACTMVCGN が正常に実行されると、SLUSMVON データセットと SLUSMVOF データセットの MVCMAINT 文が同じ数になります。

注 - このユーティリティーの機能例については、『*ELS Disaster Recovery and Offsite Data Management Guide*』を参照してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	MVCPPOOL パラメータの指定時のみ、HSC が稼働中であること

構文

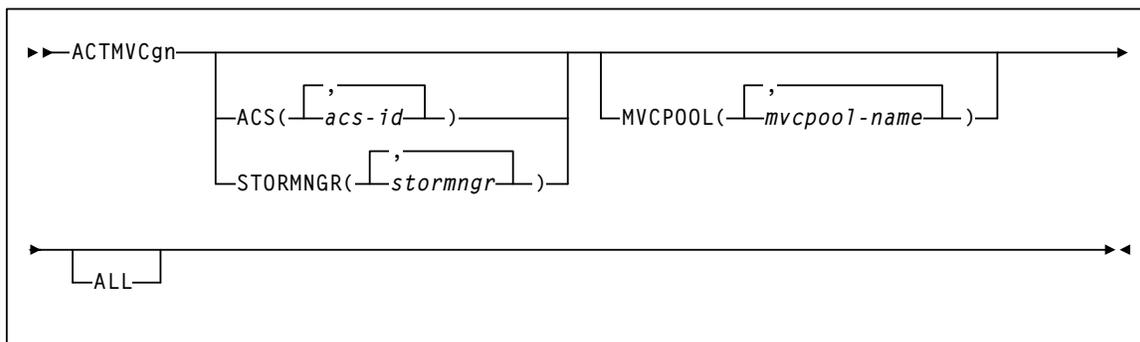


図 3-2 ACTMVCGN の構文

パラメータ

ACS

オプションで、CSV ベースの出力をフィルタリングする ACS を指定します。

acs-id

2 文字の ACS ID。空白は使用できません。複数の ACS を指定する場合は、各 ACS ID をカンマで区切ります。ACS が指定されていない場合は、デフォルトとして、すべての ACS が指定されます。

STORMNGR

オプションで、CSV ベースの出力をフィルタリングする STORMNGR を指定します。

stormngr

STORMNGR 名。最大 8 文字を使用できます。空白は使用できません。複数の STORMNGR 名を指定する場合は、それぞれの名前をコンマで区切ります。

MVCPOOL

オプションで、CSV ベースの出力をフィルタリングする MVCPOOL を指定します。

mvcpool-name

MVCPOOL 名。最大 13 文字を使用できます。空白は使用できません。複数の MVCPOOL を指定する場合は、各 MVCPOOL 名をカンマで区切ります。

注 – MVCPOOL パラメータを指定した場合、HSC サブシステムが非アクティブな状態にあると、ユーティリティーが完了せず、戻りコード 8 が戻されます。

ALL

オプションで、READONLY(ON) および READONLY(OFF) 制御ステートメントが、空でないすべての MVC に対して生成されることを要求します。ALL が指定されない場合、READONLY 制御ステートメントは完全な MVC に対して生成されません。

そのほかの JCL 必要条件

[658 ページの「SLUADMIN の起動」](#)に記載されている必要な JCL 定義文に加え、ACTMVCGN JCL には以下の定義文が適用されます。

SLUSMAUD

選択された MVC を監査するための SLUADMIN ユーティリティー制御ステートメント形式の出力。

このステートメントはオプションで、これが存在する場合、AUDIT ユーティリティー制御ステートメントは、EXPORT 状態のものを除く、空でないすべての MVC について生成されます。

SLUSMVON

READONLY(ON) キーワードを含む MVCMAINT ユーティリティー制御ステートメントとしての ACTMVCGN 出力。

SLUSMVOF

READONLY(OFF) キーワードを含む MVCMAINT ユーティリティー制御ステートメントとしての ACTMVCGN 出力。

ARCHive

ARCHive コマンドは、VTV をアーカイブし、これらを別のストレージクラスの MVC に移動します。

インタフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

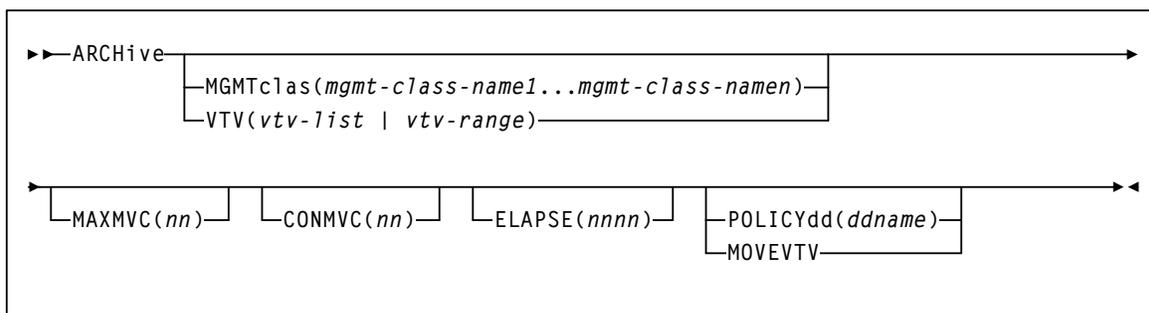


図 3-3 ARCHive の構文

パラメータ

MGMTclas

オプションで、アーカイブ管理ポリシーを定義する 1 つ以上のマネージメントクラスを指定します。

mgmt-class-name1...mgmt-class-namen

1 つ以上のマネージメントクラス。

VTV

オプションで、VTV のリストまたは範囲を指定します。

vtv-list | vtv-range

VTV のリストまたは範囲。

注 - MGMTclas または VTV に値を指定しない場合は、すべての VTV がスキャンまたは処理されます。

MAXMVC(*nn*)

オプションで、1 回のアーカイブタスクで処理される MVC の最大数を指定します。
有効な値は 1 - 98 です。指定しない場合は、CONFIG RECLAIM 値 (またはデフォルト値) が使用されます。MOVEVTV を指定しない場合、このパラメータは無視されま
す。

CONMVC(*nn*)

オプションで、VTCS が以降のリコールおよびマイグレーション操作の際に、同時に
処理する MVC の最大数を指定します。

有効な値は 1 - 99 です。指定しない場合は、CONFIG RECLAIM 値 (またはデフォル
ト値) が使用されます。MOVEVTV を指定しない場合、このパラメータは無視されま
す。

ELAPSE(*nnnn*)

アーカイブの最大時間を分単位で指定します。最大時間を超えると、VTCSはメッ
セージSLS6682Iを発行します。現在マウントされている MVC がない場合、ELAPSE
値になるとアーカイブが停止します。いずれかの MVC が現在マウントされている場
合は、ELAPSE 値になると、マウントされている MVC のアーカイブ処理をしてか
ら、停止します。

有効な値は 1 - 1440 です。指定しない場合は、アーカイブプロセスに時間の制限はあ
りません。MOVEVTV を指定しない場合、このパラメータは無視されます。

POLICYdd(*ddname*)

オプションで、代替の MGMTclas 文を含むファイルの *ddname* を指定します。

注 – POLICYdd と MOVEVTV はいずれか一方しか指定できません。

MOVEVTV

オプションで、MGMTclas または VTV によって指定されている VTV に適用される
MGMTclas 文で指定された現在アクティブな管理ポリシーに従って、VTV をアーカ
イブします。MOVEVTV を指定しない場合は、レポートのみ生成されます。

ARCHive レポート

図 3-4 に、ARCHive のレポートの例を示します (MOVEVTV の指定なし)。

SLUADMIN (7.0.0)		StorageTek Enterprise Library Software Utility						PAGE 0001	
TIME 06:32:03		ARCHIVE VTV REPORT						DATE 31.03.10	
VTV	SIZE	% COMP	<-----CREATION----->		MGMT				
VOLSER	(MB)		DATE	TIME	CLASS	MVC1	MVC2	MVC3	MVC4
Y00001	1.62	39	2008JAN15	04:11:18	MJ4	02250	02251	02252	02253
Y00002	1.62	39	2008JAN15	04:03:57	MJ4	02250	02251	02252	02253
Y00003	1.62	39	2008JAN15	03:50:59	MJ3	02254	02255		
Y00004	1.62	39	2008JAN15	03:45:04	MJ2	02256	02257	022568	
Y00005	0.01	0	2007DEC17	23:56:00	MJ1	02259			
Y00006	0.01	0	2007DEC17	23:41:37	MJ1	02259			
Y00007	1.62	39	2008JAN06	06:15:46	MJ4	02250	02251	02252	02253
TOTAL VTVS=23			TOTAL SIZE=29.32MB						
TIME 10:07:10		ARCHIVE MVC REPORT						DATE 2008-111-20	
MVC	MEDIA	MEDIA	STORAGE	LOCATION		CANDIDATE	TOTAL VTV		
VOLSER	TYPE	SIZE (MB)	CLASS	(ACS ID)		VTVS	SIZE (MB)		
022550	9840	20000	SC1	00		3	4.86		
Y00001	Y00002	Y00007							
022551	9840C	40000	SC3			3	4.86		
Y00001	Y00002	Y00007							
022559	9940A	60000	SC4			17	18.50		
Y00005	Y00006	Y00015	Y00027	Y00042		Y00048	Y00053		
Y00059	Y00061	Y00067	Y00073	Y00078		Y00084	Y00088	Y00101	Y00123
TOTAL MVCS=8			TOTAL SIZE=29.32MB						

図 3-4 ARCHive の出力例

ARCHIVE レポートのフィールド

以下に、ARCHive VTV レポートのフィールドについて説明します。このレポートのセクションに続き、対象の VTV の数、およびリコールとマイグレーションをするサイズ (M バイト) を示す行の全体が表示されます。

VTV VOLSER

VTVのvolser。

Size (MB)

VTV の非圧縮サイズ (M バイト)。<MOUNT> は、レポートの実行中に VTV がマウントされたことを示します。<FENCED> は、VTV の状態が不明であることを示します。<FENCED> が表示されている場合は、Oracle StorageTek Software サポートまでご連絡ください。

Comp %

実施された VTV 圧縮のパーセンテージ。これは、非圧縮VTVのサイズと圧縮済みVTVのサイズの差を、非圧縮VTVのサイズに対するパーセンテージで表した値です。例えば、100MB VTVが40MBに圧縮すると、圧縮のパーセンテージは60%です。圧縮0%は、VTVでの圧縮は不可能だったことを示します。

Creation Date and Time

VTVが生成された日付と時刻

MGMT Class

指定されたVTVのマネージメントクラス名。

MVC1, MVC2, MVC3, MVC4

その VTV を含んでいる MVC。全フィールドに何も示されていない場合は、VTVはマイグレーションも統合もされていません。1つまたは複数のフィールドにMVCのVOLSERが示されている場合には、各MVCにVTVがマイグレーションされています。

MVC レポートのフィールド

以下に、ARCHive MVC レポートのフィールドについて説明します。各 MVC のデータに続き、VTV の 1 つ以上の volser が、その MVC 上のコピーとともに表示されます。このレポートのセクションに続き、対象の MVC の数、およびリコールとマイグレーションをするサイズ (M バイト) を示す行の全体が表示されます。

MVC Volser

MVC の volser。

MVC Media Type

MVC のタイプ。

Media Size (MB)

MVC のサイズです (MB 単位)。この値は、VTCS が MVC を使用した後でのみ判別されます。VTCS によって、MVC への VTV のマイグレーションが行われるまでは、このフィールドには「UNKNOWN」と表示されます。

Storage Class

MVC のストレージクラス。

Candidate VTVs

MVC 上の対象の VTV の数。

Total VTV Size (MB)

MVC 上のすべての対象 VTV のサイズ (MB)

Location (ACS ID)

この MVC が存在している ACS です。空白の場合、MVC は現在 ACS 内にありません。

MOVEVTV レポート

図 3-5 に、ARCHive MOVEVTV レポートの例を示します。

```
SLUADMIN (7.0.0)      StorageTek Enterprise Library Software Utility   PAGE 0001
TIME 10:07:10                ARCHIVE MOVEVTV REPORT                                DATE 2010-03-31

Move VTV - MVC 022705 ignored, MAXMVC reached
Move VTV - VTV X04898 ignored, all MVC copies rejected
Move VTV - 4 MVCs selected for processing
Move VTV - 5 VTVs selected for processing
Move VTV - 5 VTV copies to be processed
Move VTV - 0 VTV copies not matched to request
Move VTV - 1 VTV copies rejected by MAXMVC limit
Move VTVs - MVC 023484 selected and contains 1 VTVs
Move VTVs - MVC 022628 selected and contains 1 VTVs
Move VTVs - MVC 022631 selected and contains 2 VTVs
Move VTVs - MVC 022608 selected and contains 1 VTVs

Recall from MVC 022628 to VTSS HBVTSS17
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 022628
SLS6644I VTV X99909 recalled from MVC:022628 Block:25401431
SLS6637I Recall from MVC 022628 completed

Recall from MVC 023484 to VTSS HBVTSS17
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 023484
SLS6644I VTV X04897 recalled from MVC:023484 Block:02402581
SLS6637I Recall from MVC 023484 completed

Recall from MVC 022608 to VTSS HBVTSS16
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 022608
SLS6637I Recall from MVC 022608 completed

Migrate to storage class HBVTSS16 from VTSS HBVTSS17
SLS6681I VTV X99909 migrated to MVC:022589 Block:01400025 StorCl:HBVTSS17
MgmtCl:SIMPLEX
SLS6636I Demand migration to MVC 022589 completed

Recall from MVC 022631 to VTSS HBVTSS16
SLS6683I Bulk recall of 2 VTVs issued to MVC 022631
SLS6644I VTV X99910 recalled from MVC:022631 Block:03400141
SLS6644I VTV X99908 recalled from MVC:022631 Block:05400281
```

図 3-5 ARCHive MOVEVTV の出力例

AUDit

AUDit コマンドは、次のボリューム目録を AUDIT します。

- ACS または LSM
- ACS 内にある 1 つまたは複数の指定の LSM
- LSM 内にある 1 つまたは複数のパネル
- パネル内にある 1 つまたは複数の行
- 行内にある 1 つまたは複数の列 (セル)
- 1 つまたは複数の VTSS
- 1 つまたは複数の MVC

オプションのパラメータを使用して、次のことができます。

- 確認されたカートリッジを反映した、ライブラリ制御データセットの更新
- 矛盾リストの作成 (制御データセットは更新しない)

インタフェース :	ユーティリティのみ、UII (MVC または VTSS が指定されている場合のみ)
サブシステムの必要条件	<ul style="list-style-type: none"> • HSC/VTCS の稼働(AUDit MVC、VTSS、または INVLDMIR) • FULL サービスレベルのHSC の稼働(その他すべて)

構文

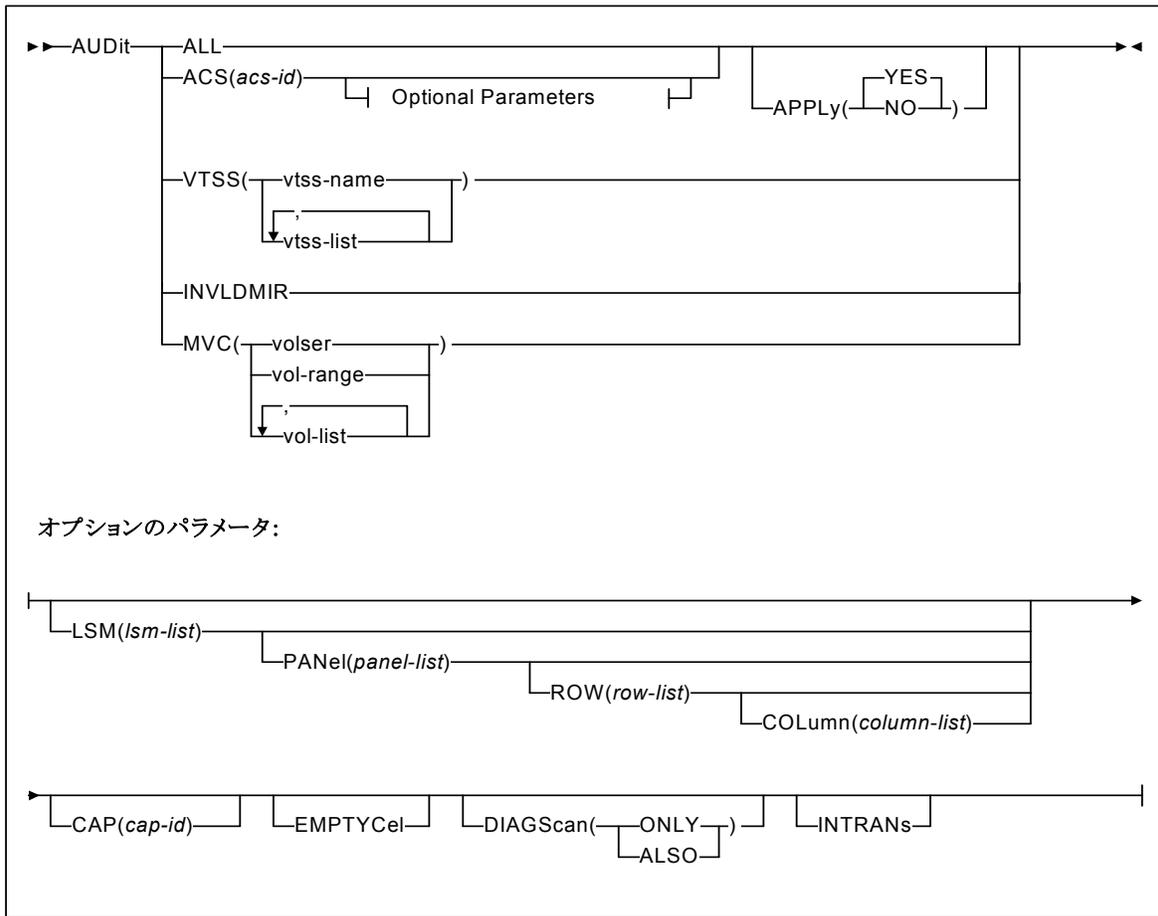


図 3-6 AUDit の構文

パラメータ (実際のボリュームの AUDIT)

ALL

オプションで、ライブラリ全体を AUDIT するよう指定します。

ACS

オプションで、ライブラリ内の特定の ACS のみを AUDIT するよう指定します。

acs-id

1 - 2 桁の 16 進数 ACS 識別子。

注 – LSM パラメータなしで ACS パラメータが指定されている場合は、ACS 内のすべての LSM に対して、同時に AUDIT が実行されます (マルチタスキング)。ACS 内の特定の LSM のみを AUDIT する場合は、LSM または LSM リストを使って LSM パラメータをコード化する必要があります。

APPLY

オプションで、制御データセットを更新するかどうかを指定します。

YES

AUDIT 操作によって、VOLSER が重複しているカートリッジ、外部メディアラベルを読み取れなかったカートリッジ、外部メディアラベルが不当なカートリッジ、または外部ラベルを読み取れなかった新規カートリッジをイジェクトし、制御データセットに対して是正措置を実行してストレージセルの物理コンテンツが反映されるよう指定します。**デフォルト値は YES です。**

NO

矛盾リストを作成し、制御データセットを更新しないよう指定します。

ACS のオプションパラメータ

次のパラメータは、ACS でのみ指定できます。

LSM

オプションで、指定した ACS 内の特定の LSM のみが AUDIT されるよう指定します。

lsm-list

1 つの LSM 番号または LSM 番号のリスト。LSM 番号は 16 進値 (00-17) です。

LSM の範囲は指定できません。リストを指定する場合は、要素をブランクまたはコンマで区切り、リスト全体をカッコで囲みます。

PANel

オプションで、指定した LSM 内の特定のパネルのみが AUDIT されるよう指定します。

panel-list

panel-list には、単一のパネルまたはパネルリストを指定できます。パネルの範囲は指定できません。リストを指定する場合は、要素をブランクまたはコンマで区切り、リスト全体をカッコで囲みます。

注 – このパラメータが指定されている場合、LSM パラメータには 1 つの LSM 番号しか指定できません。

panel-list の各要素は、LSM タイプ固有の 1 - 2 桁の 10 進数です。有効値のリストについては、[709 ページの「パネルの値」](#)を参照してください。

注 –

- SL3000 ライブラリは、フル構成の場合、一番左側のバックパネル (パネル 0) から始まって一番右側のフロントパネル (パネル 23) で終わる静的なパネル番号があります。パネル番号は BDM (唯一の必須モジュール (パネル 12 および 13)) から始まり、左方向や右方向へ外に向かって番号が付けられます。
 - パネル 0 (CAP パネル) と 1 (ドライブパネル) は SL8500 の AUDIT に指定できますが、これらのパネルにはストレージセルがないため、HSC には 条件コード 0 が表示されます。
-

ROW

オプションで、指定した LSM パネルの特定の列のみが AUDIT されるよう指定します。

row-list

row-list には、1 行または行のリストを指定できます。範囲は指定できません。リストを指定する場合は、要素をブランクまたはコンマで区切り、リスト全体をかっこで囲みます。

このパラメータが指定されている場合、LSM パラメータと PANel パラメータには 1 つの要素しか指定できません。

row-list の各要素は、LSM タイプ固有の 1 - 2 桁の 10 進数です。有効値のリストについては、[710 ページの「行の値」](#)を参照してください。

COLUMN

オプションで、指定した LSM パネルの特定の列 (セル) のみが AUDIT されるよう指定します。

column-list

column-list には、1 行または行リストを指定できます。範囲は指定できません。リストを指定する場合は、要素をブランクまたはコンマで区切り、リスト全体をかっこで囲みます。

このパラメータが指定されている場合、LSM、PANel、および ROW パラメータには 1 つの要素しか指定できません。

column-list の各要素は、LSM タイプ固有の 1 - 2 桁の 10 進数です。有効値のリストについては、[711 ページの「列の値」](#)を参照してください。

注 –

- 列のリストが指定されている場合、行のリストは指定できません。
 - 列のリストが指定されている場合、行のリストは指定できません。
 - すべての SL3000 列には、0 - 5 (左から右) の番号が付けられています。
-

CAP<:so>CAP

オプションで、AUDIT 中に必要なカートリッジのイジェクトに使用する特定のカートリッジアクセスポートを指定します。

cap-id

1 つまたは複数の CAP を示します。cap-id の形式は、AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は CAP です。有効値のリストについては、707 ページの「CAP の値」を参照してください。

注 -

- CAP が指定されていない場合は、CAPPref オペレータコマンドに基づき、識別された ACS 内の CAP が選択されます。詳細については、198 ページの「CAPPref」を参照してください。
 - 複数の ACS AUDIT で CAP パラメータを指定することはできません。CAP は、CAP 優先値に基づいて、各 ACS に対して選択されます。
-

EMPTYCel

オプションで、空のセルのみが AUDIT されるよう指定します。このパラメータは、DIAGScan(ONLY) 以外のすべての AUDit パラメータと組み合わせて使用できません。

空のセルのみを AUDIT することによって、AUDIT の実行時間を短縮できます。

注 - SL8500 ライブラリの場合は、AUDIT の実行時間がさほど短縮されないため、空のセルを AUDIT することは推奨しません。

通常、このパラメータは次の場合に指定します。

- LSM を入力した後、空のセルに新規カートリッジを取り付けた場合
- 空のセルに手で移動したライブラリボリュームのカートリッジの位置情報を修正する必要がある場合

いずれの場合も、APPLY(YES) が指定されている場合は、これらのセルが空ではないことを反映して CDS が更新されます。

注意 - 場合によっては、空のセルに対してのみ AUDIT を実行することによって、AUDIT の精度が低くなる場合があります。

DIAGScan

オプションで、診断セルがスキャンされるよう指定します。HSC は、これらのセルを一度に 1 つずつスキャンし、各セルの内容を AUDit ユーティリティーレポートに表示します。

ONLY

診断セルのみがスキャンされるよう指定します。このパラメータを EMPTYCel パラメータとともに指定することはできません。

ALSO

通常の AUDit ユーティリティー操作とともに、診断セルがスキャンされるよう指定します。

注 -

- DIAGScan は、ROW と COLumn のいずれか一方しか指定できません。ほかのすべての AUDit パラメータと組み合わせて使用できます。
 - LMU の場合は、診断セルと通常のストレージまたは CAP セルの間でカートリッジを移動できないため、診断セルの内容がレポートされるだけです。
-

INTRANS

オプションで、LSM 内の移動中のカートリッジが処理されるよう指定します。次の注に記載されているカートリッジを除き、移動中のすべてのカートリッジは、AUDit ユーティリティー操作の一環として読み込まれイジェクトされます。

注 -

- INTRANS と APPLY(NO) はいずれか一方しか指定できません。ほかのすべての AUDit パラメータと組み合わせて使用できます。
 - 9310 プレイグラウンド内の最初の 2 つのセル (列 0 および 1) のみが、移動中の AUDIT にアクセスできます。9310 プレイグラウンド内でほかのセル位置 (列 2 - 5) にあるカートリッジは、移動操作によってイジェクトできません。
 - 9740 診断セルは AUDIT によってスキャンできません。
-

パラメータ (仮想ボリュームの AUDIT)

VTSS

オプションで、1つまたは複数のVTSSを AUDIT することを指定します。

vtss-name, or vtss-list

1つまたは複数のVTSSの名前。

INVLDMIR

オプションで、無効な MIR のある MVC の AUDIT を指定します。

MVC

オプションで、1つまたは複数のMVCを AUDIT することを指定します。

volser, vol-range または *vol-list*

1つまたは複数のMVCのVOLSERです。

Audit レポート

図 3-7 に示すように、AUDIT レポートにはCDSのリストに含まれるものとは異なる VTVとMVCのリストが作成されます。この図で、レポートは MVC および VTV を CDS 上での新しいエントリとして示しています。これは、CDS のすべてのコピーを失ったため、回復手順を踏んだ後で実行される VTCS AUDITの典型的な出力です。

```

SLUADMIN (7.0.0)      StorageTek Enterprise Library Software Utility      PAGE 00001
TIME 03:15:42                VTCS AUDIT                                DATE 2010-03-31

AUDIT REPORT FOR MVC EVT500
X28955 VTV ADDED AS PRIMARY COPY (BLOCK:00000000)
X20000 VTV ADDED AS PRIMARY COPY (BLOCK:0940044D)
===== AUDIT OF MVC EVT500 COMPLETED SUCCESSFULLY =====

AUDIT REPORT FOR MVC EVT501
X28956 VTV ADDED AS PRIMARY COPY (BLOCK:00000000)
X20007 VTV ADDED AS PRIMARY COPY (BLOCK:0940044D)
X20010 VTV ADDED AS SECONDARY COPY (BLOCK:11400899)
X20069 VTV NOT CURRENT (BLOCK:1A400CE5)
X20067 VTV NOT CURRENT (BLOCK:334016AB)
===== AUDIT OF MVC EVT501 COMPLETED SUCCESSFULLY =====

AUDIT REPORT FOR VTSS HBVTSS17
X20000 VTV VALID
X20002 VTV VALID
X20005 VTV VALID
X20006 VTV VALID
X20007 VTV VALID
X30052 VTV VALID
X30053 VTV VALID
X30054 VTV VALID
===== AUDIT OF VTSS HBVTSS17 COMPLETED SUCCESSFULLY =====

AUDIT REPORT FOR VTSS HBVTSS16
X20183 VTV VALID
X20185 VTV VALID
X20188 VTV VALID
X20190 VTV VALID
X20191 VTV VALID
X20194 VTV VALID
X41091 VTV VALID
X41093 VTV VALID
===== AUDIT OF VTSS HBVTSS16 COMPLETED WITH 1 WARNING =====
AUDIT EXCEPTION REPORT
  VTSS HBVTSS16: 1 WARNINGS REPORTED
  SLS1315I SWS500.V5.CDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET

```

図 3-7 AUDITユーティリティーによるレポートの例

注 – AUDITにより次の項目が生成されます。

- MVCの概要および詳細レポート。
 - Display VTSSの要約および詳細出力。
 - VTSSに常駐するすべてのVTVのVOLSER、MB単位のサイズ、およびマネージメントクラス。
-

AUDIT レポートのメッセージ

AUDIT レポートには、MVC または VTSS で検出された各 VTV について、次のいずれかのメッセージが記述されています。

vvvvvv VTV possibly corrupt (Block:*bbbbbb*)

説明: AUDIT 中に、AUDIT 対象 MVC のブロック *bbbbbb* に位置する VTV *vvvvvv* で入出力エラーが生じました。

vvvvvv VTV not found [, no MVC copies left]

説明: AUDIT 時に、AUDIT 対象 MVC および VTSS 上で、VTV *vvvvvv* が見つかりませんでした。 , *no MVC copies left* と表示されている場合は、その VTV のコピーを含んでいる MVC は1つもありません。

vvvvvv VTV not found on CDS (Block:*bbbbbb*)

説明: AUDIT 時に、AUDIT 対象 MVC のブロック *bbbbbb* に存在すると予想されていた VTV *vvvvvv* が見つかりませんでした。

vvvvvv VTV not current (Block:*bbbbbb*)

説明: AUDIT 時に、AUDIT 対象 MVC のブロック *bbbbbb* で VTV のコピーが検出されましたが、この VTV *vvvvvv* は最新のコピーではありません。

vvvvvv VTV copy valid (Block:*bbbbbb*)

説明: AUDIT 時に、AUDIT 対象 MVC のブロック *bbbbbb* で、VTV *vvvvvv* の有効なコピーが検出されました。この AUDIT 対象 MVC のブロックの位置は、VTV に対する CDS のエントリと一致しています。

vvvvvv VTV Added as primary copy (Block:*bbbbbb*)

説明: AUDIT 時に、AUDIT 対象 MVC のブロック *bbbbbb* で、VTV *vvvvvv* の最新のコピーが検出されました。この位置は、その VTV の1次 MVC コピーとして CDS に追加されました。

vvvvvv VTV Added as secondary copy (Block:*bbbbbb*)

説明: AUDIT 時に、AUDIT 対象 MVC のブロック *bbbbbb* で、VTV *vvvvvv* の2番目の最新コピーが検出されました。この位置は、その VTV の2次 MVC コピーとして CDS に追加されました。

vvvvvv Duplicate copy ignored (Block:*bbbbbb*)

説明: AUDIT 時に、ブロック *bbbbbb* で、VTV*vvvvvv* の重複コピーが検出されました。このコピーは無視されました。

vvvvvv Link to old version on MVC *mmmmmmm* removed

説明: AUDIT 時に、より新しいバージョンの VTV が検出されたため、古いバージョンへのリンクが CDS から除去されました。

vvvvvv Old VTV version deleted from VTSS *ssssssss*

説明: AUDIT 時に、古いバージョンの VTV が検出され、VTSS から削除されました。

vvvvvv Old version of VTV retained [VTSS *ssssssss*]

説明: AUDIT 時に、古いバージョンの VTV が検出されましたが、唯一のコピーであるため、このバージョンは保持されました。VTSS *ssssssss* と表示されている場合は、AUDIT 時に、AUDIT 対象 VTSS とは異なる VTSS 上でその VTV が検出されました。

vvvvvv Version older than MVC copies [VTSS *ssssssss*]

説明: AUDIT 時に、MVC 上のコピーよりも古いバージョンの VTV が検出されました。VTSS *ssssssss* と表示されている場合は、AUDIT 時に、AUDIT 対象 VTSS とは異なる VTSS 上でその VTV が検出されました。

vvvvvv Newer version of VTV found [on VTSS *ssssssss*]

説明: AUDIT 時に、より新しいバージョンの VTV が検出され、CDS が更新されて、その位置が反映されました。VTSS *ssssssss* と表示されている場合は、AUDIT 対象 VTSS とは異なる VTSS でその VTV が検出されました。

vvvvvv VTV discovered [VTSS *ssssssss*]

説明: AUDIT 時に、予期しない位置の VTSS 上で現在のバージョンの VTV が検出され、CDS が更新されて、その位置が反映されました。VTSS *ssssssss* と表示されている場合は、AUDIT 対象 VTSS とは異なる VTSS でその VTV が検出されました。

vvvvvv VTV valid [VTSS *ssssssss*]

説明: AUDIT 時に、有効なバージョンの VTV が検出され、CDS が更新されて、その位置が反映されました。VTSS *ssssssss* と表示されている場合は、AUDIT 時に、AUDIT 対象 VTSS とは異なる VTSS 上でその VTV が検出されました。

*** *vvvvvv* no access to VTSS *ssssssss* ***

説明: AUDIT 時に、ホストがアクセスできない VTSS 上で、有効なバージョンの VTV が検出されました。

MVC *mmmmmmm* STATUS CHANGED FROM EXPORT TO CONSOLIDATE VOLUME

説明: AUDIT 時に、VTV またはマネージメントクラスによるエクスポートによって作成されたエクスポート MVC 上で、現在の VTV が検出されました。この AUDIT により、その MVC のステータスは、エクスポートからコンソリデートに変更され、CDS が更新されて、その MVC とそれに含まれる VTV が追加されました。

EXPORT MVC *mmmmmmm* IS NOW MADE EMPTY IN THE CDS

説明: AUDIT 時に、VTV またはマネージメントクラスを基準にしたエクスポートによって作成されたエクスポート MVC 上で、最新の VTV が検出されませんでした。この AUDIT により、その MVC に空のマークが付けられました。

```
WARNING MVC mmmmmm IS AN OUTPUT MVC FROM AN EXPORT OPERATION  
- FORCING READONLY
```

説明: Audit により、エクスポート MVC *mmmmmm* は強制的に読み取り専用ステータスになりました。

```
Audit terminated.Unable to determine the position of the end  
of VTV vvvvvv on MVC mmmmmm
```

説明: AUDIT 対象の MVC で、VTV の VOLSER や VTV の位置を決定するのに、VTCS は MVC ECAM 要求の目録を発行します。ECAM の応答で、VTSS は VTV の終了位置を決定できないことを示しています。VTCS は、MVC 上で、次の VTV の位置を決める情報を必要としているため (テープの最後まで達していないと仮定する)、VTCS は RC=8 で AUDIT を終了する必要があります。MVC は AUDIT 状態のまま残されます。状況を解決するために、MVC をドレインします。MVC をドレインできない場合、Oracle StorageTek Software サポートに連絡してください。

BACKup

BACKup コマンドを使用すると、ライブラリ制御データセット (CDS) のバックアップが作成されます。

このユーティリティーは、指定されている CDS DD 文、システム上の HSC の稼働が使用している CDS 順に基づいて、CDS コピーを自動的に選択します。

CDS の特定コピーを 1 つだけバックアップする場合は、DD 文 (SLSCNTL) を 1 つだけ指定し、バックアップ対象のファイルを指定します。ただし、一般的には、CDS のみをバックアップすることを推奨します。HSC RESTORE ユーティリティーを実行すると、正確な数の CDS コピーが自動的に作成されます。

注 -

- ジャーナル処理が有効になっている場合、または CDS のコピーが異なる場所にある場合の BACKup の使用方法については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。
- バックアップの代替としての PITCOPY コマンドについては、[500 ページの「PITCOPY」](#)を参照してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

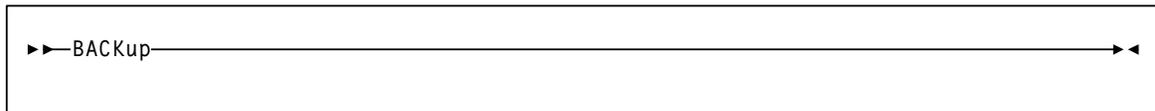


図 3-8 BACKup の構文

パラメータ

パラメータは不要です。ジャーナル処理が有効になっている場合、または CDS のコピーが異なる場所にある場合の BACKup の使用方法については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。

そのほかの JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、BACKup JCL には以下の定義文が適用されます。

SLSBKUP

作成されたバックアップデータセットを指定します。このデータセットの LRECL と BLKSIZE のデフォルト値は 4096 です。

CANcel

CANcel コマンドは、RTD を使用中の処理、および待ち状態の処理をすべて取り消します。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

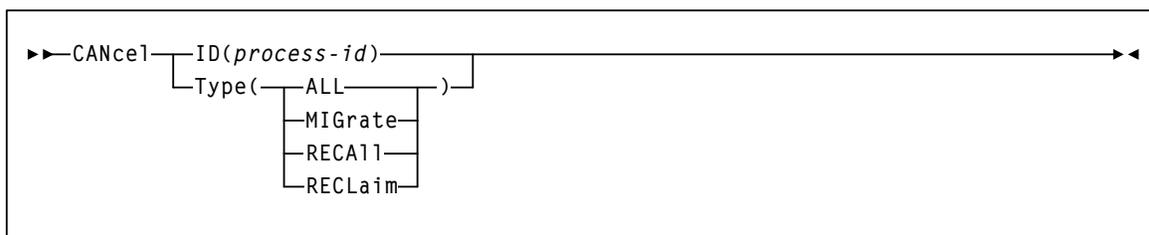


図 3-9 CANcel構文

パラメータ

ID

取り消す処理を指定します。

process-id

処理 ID です。

Type

オプションで、取り消す処理のタイプを指定します。

ALL

すべての処理を取り消します。

MIGrate

すべてのマイグレーション処理を取り消します。

RECAIl

すべてのリコール処理を取り消します。

RECLaim

すべてのリクレイム処理を取り消します。

CAPPref

CAPPref コマンドは、指定された 1 つまたは複数の CAP に優先値を割り当て、CAP を自動または手動モードにします。

HSC コマンドおよびユーティリティーによっては、CAP を使用する必要があるものがあります。使用する CAP をユーザーが指定するか、または HSC に CAP を自動的に選択させることができます。HSC に選択させる場合、CAP は使用の可否および CAP 優先値に基づいて選択されます。

CAP 優先値の割り当てにより CAP の順序リストが設定され、HSC がゼロ以外で最も高い優先値を持つ使用可能な CAP を選択できるようにします。CAP の優先値は、CAPPref コマンドによって変更されない限りゼロのままです。ゼロの優先 CAP は HSC によって自動的に選択されることはありませんが、ユーザーが明示的に要求することはできます。

注 -

- CAP 優先値は、コマンドを実行するホスト上でのみ有効です。
- CAP モード (自動または手動) は、各 CAP についてシステム全体で全ホスト上で有効です。これは各ホストに対して別々に設定することはできません。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

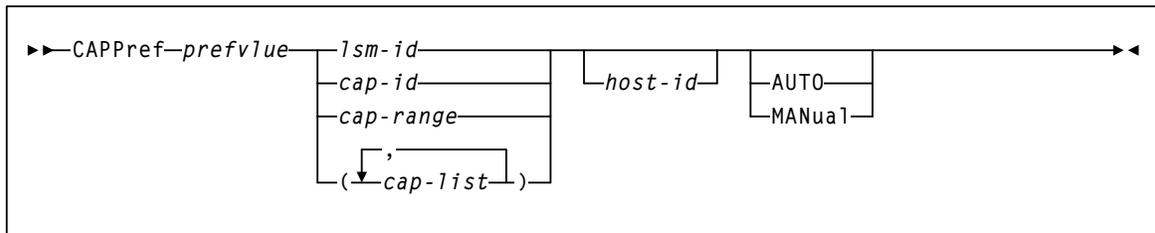


図 3-10 CAPPref の構文

パラメータ

prefvlue

記載された CAP すべてに割り当てられる優先値を指定します。指定できる値は、0から9の範囲内の10進数です。

優先値が9のCAPは最も優先順位が高く、使用可能であれば必ず最初に選択されます。ACS内の複数の有効なCAPで最も高い優先値を持つ場合、最も低いCAPidを持つものが選択されます。

注 –

- PCAPの優先値はゼロでなければなりません。PCAPは、ユーザーによって明示的に要求されたときだけ使用されます。HSCによってPCAPが自動的に選択されることはありません。
 - CAPPref コマンドを使用して PCAP を AUTO モードまたは MANual モードにする場合、*prefvlue* を 0 に指定してください。
-

lsm-id

LSMを識別します。*lsm-id*の形式はAA:LLで、AAはACSid(16進数00-FF)、LLはLSM番号(16進数00-17)を示します。

注 – 指定したLSM内に複数のCAPがある場合にこのパラメータを入力すると、エラーメッセージが出力されます。

cap-id または *cap-range* または *cap-list*

1つまたは複数のCAPを示します。*cap-id*の形式はAA:LL:CCで、AA:LLはLSMId、CCはCAPです。有効値のリストについては、707ページの「CAPの値」を参照してください。

注 –

- SL3000 ライブラリ CAP が存在しない場合、HSC はこれらを「インストールされていない」と報告します。これにより、新しいCAPが追加されたときにCAPアドレスが変更されることを防ぎます。
 - SL3000 ライブラリと SL8500 ライブラリには PCAP は含まれません。
-

caprange 識別子は複数セルCAPを含む範囲を識別します。PCAPは範囲から除外されます。範囲の開始値および終了値は、有効なCAPidでなければならず、いずれのCAPidもPCAPを指定できません。範囲指定の規則が適用されます。

PCAPは、CAPPref コマンドに明示的に指定されなければなりません。

例 1:

```
00:00:00-00:03:00
```

この例では、PCAPを除くLSM 00:00、00:01、00:02、および00:03のすべてのCAPは、この範囲に組み込まれます。

例 2 :

```
00:00:00-00:03:01
```

この例では、CAPid 00:00:00 は、標準 CAP またはマガジンスไตล์ CAP のいずれかです。CAPid 00:03:01 はマガジンスไตล์ CAP です。PCAPを除く LSM 00:01および00:02のすべてのCAPは、この範囲に組み込まれます。

caplist の各要素は、単一の CAPid または CAPid の範囲のどちらでもかまいません。リスト内の要素はコンマかブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

host-id

オプションで、*host-id* パラメータと発行するホストの識別子 (JES2 および JES3 両方の SMF システム識別子) とが一致する場合にのみ、CAPPref コマンドが実行されるように指定します。

- CAPPref が PARMLIB から発行され、*host-id* が指定されている場合は、一致する ID を持つホストによってのみコマンドは実行されます。
- CAPPref が PARMLIB から発行されホスト ID が指定されないと、PARMLIB にアクセスするホストによってのみコマンドは実行されます。

PARMLIB の詳細については、『HSC および VTCS の管理』を参照してください。

AUTO

オプションで、指定した CAP を自動モード (*automode* とも言う) にすることを示します。自動モードの CAP は、使用されていないときはロックが解除された状態のままになります。AUTO は PCAP の初期設定値です。

CAP が自動モードのときは、ENter コマンドを発行せずに挿入操作を開始できます。これを実行するには、CAP ドアを開け、1 つ以上のカートリッジを内部にセットして CAP を閉じます。入力処理中CAP はロックされたままになり、そのあとで再びロックが解除されます。

自動モードの CAP は、次のいずれかを行うことによってイジェクト処理に使用できます。

- Eject コマンドまたは EJECT ユーティリティで CAPid を指定する。
- 優先値を割り当て、HSC に自動的に CAP を選択させる。

自動モードの CAP はイジェクト操作に選択されるたびにロックされ、イジェクト操作が完了するまでこの CAP で挿入操作が行われないようにします。

注 – HSC の終了は、自動モードの CAP で遅くなり、特に複数ホスト環境で遅くなります。

MANual

オプションで、指定された CAP が使用中でないときにロックされることを示します。MANual はすべての複数カートリッジ CAP の初期設定値です。

注 –

- AUTO/MANual の設定値は LMU ブロードキャストを使用してホスト間で送信され、その状況は制御データセットに保持されます。したがって、CAP モードは頻繁に変更しないことをお勧めしています。
 - CAPPref コマンドを使用して PCAP を AUTO モードまたは MANual モードに設定する場合、*prefvlue* を 0 に指定しなければなりません。
-

CDs

CDs コマンドを実行すると、アクティブな HSC (複数ホスト環境では、すべてのアクティブなホスト) において、通常のテープ処理を停止または中断することなく、制御データセットを使用可能、使用不可、および拡張できます。

インタフェース:	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

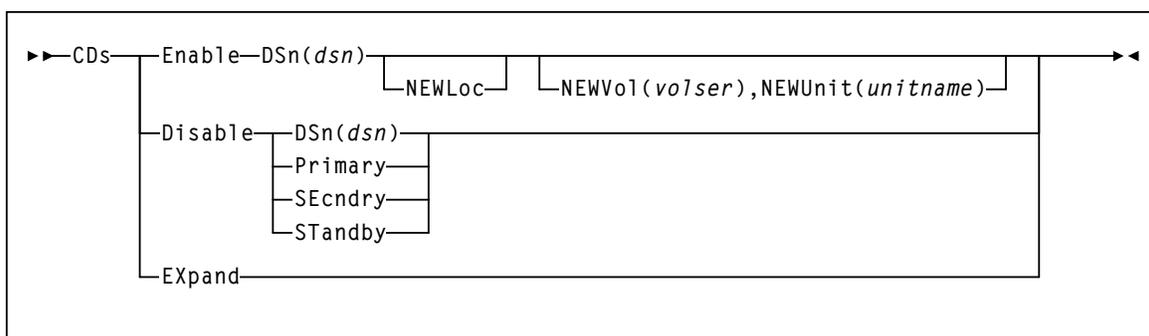


図 3-11 CDs の構文

パラメータ

Enable

すでに存在する、または名前が変更された、あるいは **DSN** パラメータによって指定された新規 CDS を割り振り、使用可能にします。**NEWLoc**パラメーターが指定されると、CDS Enable コマンドで、すでに存在するか、新しいデータセット名を持つかのいずれかの CDS とともに、新しい場所にある CDS を割り振り、使用可能にすることができます。**NEWVol** または **NEWUnit** パラメーターが指定されていない場合、MVS カタログサービスは、ボリュームおよびデバイスの定義の解釈に使用します。

指定された制御データセットは、PARMLIB の CDSDEF 制御文に名前を指定する必要があります。

DSn

すべてのホストに対して割り振る制御データセットの名前を指定します。

dsn

データセット名です。

NEWLoc

任意選択により、**DSN**パラメータで命名された **CDS** で再配置が行われたことを示します。**MVS** は、カタログ機能を使用して、再配置された **CDS** のボリュームの場所を割り出します。

NEWVol

任意選択により、再配置された **CDS** コピーにボリュームを指定します。**MVS** では、新しい **CDS** のコピーがカタログされていない場合、このパラメータが必要です。**NEWVol** が指定されても、**NEWUnit** が指定されないと、**NEWUnit** はデフォルトで **SYSALLDA** になります。

ユーザーが **HSC VM** 環境でコマンドを実行する場合、**NEWVol** が必要です。

volser

ボリュームです。

NEWUnit

任意選択により、再配置された **CDS** コピーにデバイス名を指定します。このパラメータは、デバイス名が指定されないか、**NEWVol** が指定されると、デフォルトで **SYSALLDA** になります。

ユーザーが **HSC VM** 環境でコマンドを実行する場合、**NEWUnit** が必要です。

unitname

ユニット名です。

EXpand

すべての使用可能な **CDS** を、**CDS** に割り振られた物理スペースに合うように **4096** の最大ブロック数に拡張します。**4096** の最大ブロック数は、最小の **CDS** コピーによって決まります。

Disable

指定の **CDS** の割り振りを解除します (非アクティブにします)。**CDs Disable** コマンドを実行しても、制御データセットの最新のアクティブコピーは**使用不可にはなりません**。

CDs

すべてのホストに対して割り振りを解除する制御データセットの名前を指定します。

dsn

データセット名です。

Primary

現在のプライマリ制御データセットを使用禁止にすることを示します。

SEcndry

現在のセカンダリ制御データセットを使用禁止にすることを示します。

STandby

現在のスタンバイ制御データセットを使用禁止にすることを示します。

CDSData

CDSData コマンドを実行すると、ライブラリ構成の XML または CSV (あるいはその両方の) 出力データ と、VOLPARM 制御文のボリュームとプールの定義が生成されます。

このコマンドではテキスト出力は生成されないため、このコマンドの出力を作成する場合は、SLUADMIN 実行に SLSXML または SLSCSV DD 文を組み込む必要があります。詳細については、662 ページの「[UII 出力定義文](#)」を参照してください。

インタフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

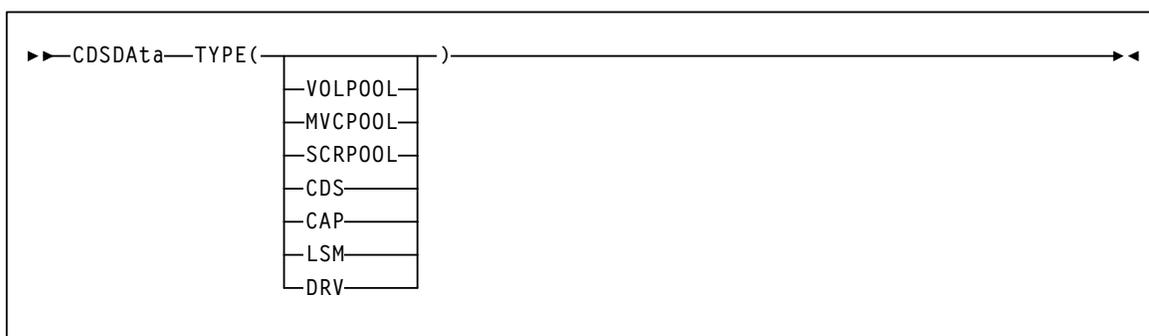


図 3-12 CDSData の構文

パラメータ

TYPE

出力が生成される CDS データのタイプを指定します。TYPE キーワードは前後関係に依存するため、指定はオプションです。リストにあるタイプの 1 つを指定する必要があります。

VOLPOOL

VOLPARM VOLUME プール定義の XML データを生成します。

MVCPOOL

VOLPARM MVC プール定義の XML データを生成します。

SCRPOOL

VOLPARM SCRATCH プール定義の XML データを生成します。

CDS

XML CDS データを生成します。

CAP

XML CAP データを生成します。

LSM

XML LSM データを生成します。

DRV

XML ドライブデータを生成します。

CDSDEF

CDSDEF コマンドで、制御データセットの名前、位置、および実行する制御データセット数を指定します。この情報は、初期設定中に HSC によって使用されます。

CDSDEF は必須コマンドです。

インタフェース :	PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	N/A

構文

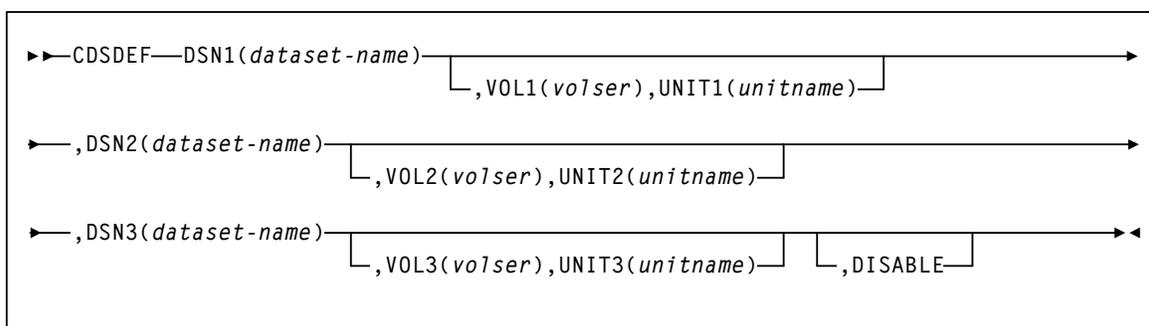


図 3-13 CDSDEF の構文

パラメータ

DSNx

dataset.name は HSC 制御データセットの名前です。少なくとも 1 つの DSN パラメータを指定する必要があります (最大 3 つ指定できます)。データセットを 2 つ指定した場合は、両コピーのボリューム目録情報が最新に保たれます。これらのデータセットをプライマリ およびセカンダリ CDS と呼びます。

3 つすべてを指定した場合は、2 つ分のコピーが最新に保たれます。3 番目のデータセットは、スタンバイ CDS として、デフォルトで有効にされます。スタンバイ CDS は **DISABLE** パラメータで無効にできます。CDS のスタンバイコピーを使用する場合は、3 つある CDS のプライマリコピーとセカンダリコピーを指定する必要はありません。制御データセットサービスの初期設定中、どの 2 つを正しいコピーとして使用するかは、前回の使用に基づいて HSC によって決定されます。

VOLx

オプションで、*volser* を用いて、指定の CDS が常駐する DASD ボリュームのボリュームシリアル番号を指定できます。データセットがカタログ化されていない場合は、これを指定する必要があります。

省略されている場合は、MVS カタログからボリュームとユニット情報が決定され、**UNITx** パラメータは無視されます。

UNITx

オプションで、**unitname** を用いて、SVC99 動的割り振りパラメータリストのユニットパラメータを指定できます。省略されている場合は、SYSALLDA が使用されません。

unitname には、IBM の汎用名 (3390 など)、システムのエソテリック名 (SYSALLDA など)、ユーザー定義によるエソテリック名、または特定のデバイス名を使用できます。最大限の柔軟性を確保し、アクティブな CDS に合わせて CDSDEF を更新せずにするよう、SYSALLDA には (デフォルトではなく) 一般値を指定することをお勧めしています。

DISABLE

オプションで、スタンバイ CDS を無効にします。このパラメータが指定されていない場合は、デフォルトで、HSC 初期設定中にスタンバイ CDS が有効にされます。

DISABLE が指定されている場合は、スタンバイ CDS を検証するため、初期設定中にデータセットが割り振られ、開かれ、読み込まれます。そのあと、スタンバイ CDS が終了され、割り振り解除されます。この処理により、制御データセットが切り替えられた場合でも、スタンバイ CDS の使用を手動で制御できるようになります。

スタンバイ CDS が有効になっている場合は、HSC によって切り替え時に自動的に使用されます。無効になっている場合は使用されません。CDSDEF はデフォルトで有効にされるため、CDSDEF を有効にするパラメータはありません。

Clean

Clean コマンドで、ライブラリ制御トランスポートへのクリーニングカートリッジのマウントをスケジュールリングします。指定のトランスポートは制御データセットによってフラグが立てられ、クリーニングカートリッジは次のボリュームがマウントされる前にマウントされます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

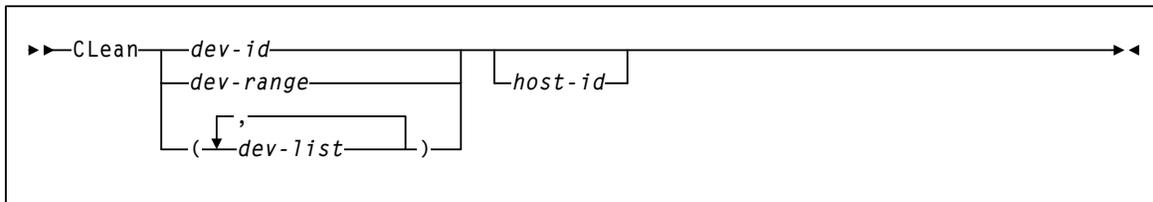


図 3-14 Clean の構文

パラメータ

dev-id または *dev-range* または *dev-list*

クリーニングがスケジュールリングされる 1 つまたは複数のデバイスアドレスのリストを指定します。*dev-list* の各要素は、単一のデバイスアドレスまたは範囲のどちらでもかまいません。リスト内の要素はコンマかブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

host-id

オプションで、指定されたホストのデバイスアドレス (JES2 および JES3 両方の SMF システム識別子) を対象にクリーニングを行うことを示します。

COMMPath

COMMPath コマンドを使用すると、複数のホストを使用している環境で、次のことができます。

- HSC を停止しなくても随時変更可能な多層通信サービスを HSC ホスト間で設定する
- ホスト間で通信を行うために各ホストで使用できる方式の階層を定義する
- ホストに対して現在の通信方式を確定する (またはある方式から別の方式に切り替える)

起動時に、PARMLIB 内でホスト間通信を定義しておくことをお勧めしています。コンソールから COMMPath コマンドを実行し、通信パスを切り替えまたは削除します。

注 – VTAM ネットワークは HSC コンポーネントまたはライブラリにパフォーマンス上の負荷をかけないため、Oracle は VTAM ホスト間通信を使用することを強くお勧めします。詳細については、『HSC および VTCS の管理』の「ACF/VTAM 通信の定義の追加」を参照してください。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

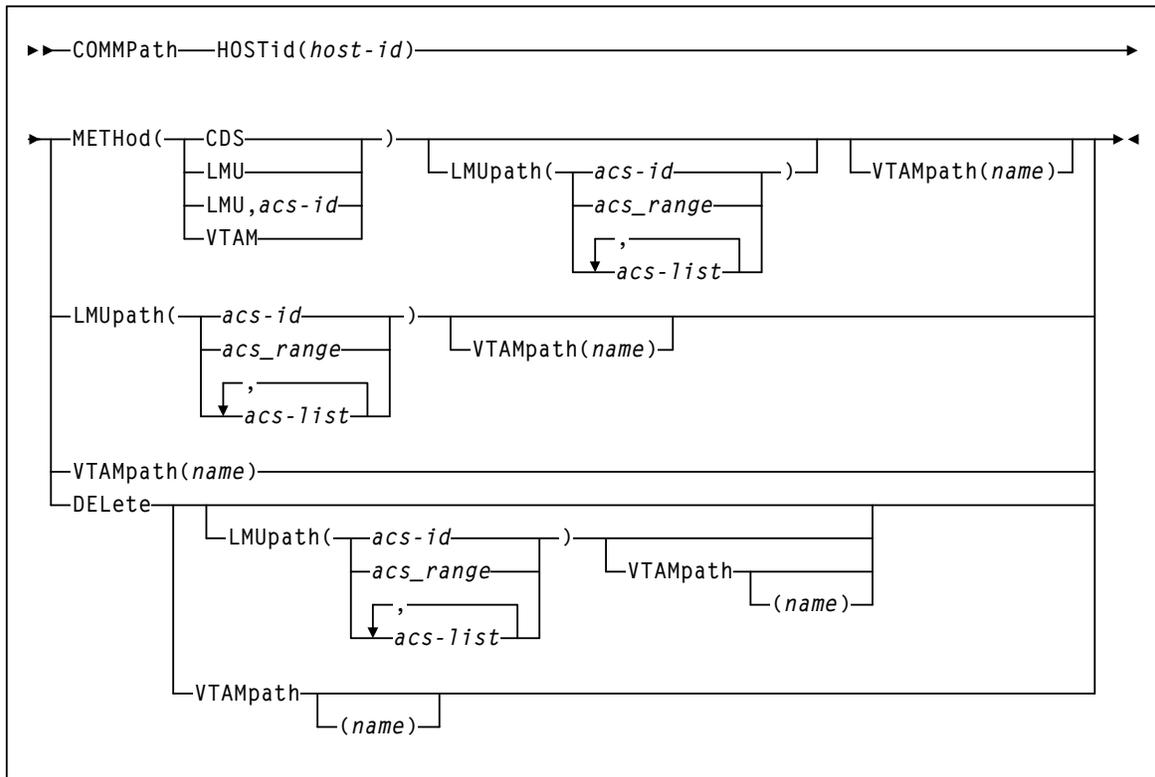


図 3-15 COMMPath の構文

パラメータ

host-id

コマンドによってパラメータが設定、または変更されるホストを指定します。

host-id

ホスト識別子 (JES2 および JES3 いずれの場合も SMF システム識別子) です。

METHod

指定のホストに対して使用される現在の通信方式を指定します。このパラメータを使用すると、通信方式のレベルを上位、下位、または同等 (LMUpath の場合のみ) に切り替えることができます。

CDS

通信が制御データセットを通して行われるように指定します。

注 – CDS は、HSC ホスト間通信の初期設定です。

LMU

通信がLMUを通して行われるように指定します。

acs-id

アクティブ (または現行) LMUpath にする LMUpath 定義。acs-id を含めない場合、LMUpath 定義のリストに最初に指定された LMUpath がアクティブにされます。

注 –

- LMU を指定する場合は、LMUpath パラメータを前のコマンドに指定するか、または同じコマンド内に含める必要があります。
 - LMU 方式が PARMLIB に指定されている場合、CDS から LMU への切替えは HSC が完全サービスレベルに初期設定されるまで延期されます。
 - HSC のサービスレベルが基本レベルに下がった場合、LMU 通信は CDS に切り替わります。完全サービスレベルに復元されたときに LMU 方式に上方切替えを行うには、COMMPath コマンドを出す必要があります。
-

VTAM

通信がVTAMネットワークで行われることを示します。

注 –

- VTAM を指定する場合は、VTAMpath パラメータを前のコマンドで指定するか、同じコマンドに含める必要があります。
 - VTAM 方式からの下方切替えは、HSC の VTAM APPLID が非アクティブになるか、VTAM が停止している場合に行われます。
-

LMUpath

ホスト間通信に使用できる 1 つまたは複数の LMUpath を指定します。LMU は、ライブラリを共有するほかの HSC に接続されていれば、ホスト間通信に使用できません。

複数の適切な LMU が指定されている場合、HSC は使用可能な通信経路の探索をリスト内の最初の *acs-id* から始めます。この探索は経路が確立されるまで、あるいはリストの終端に達するまで続けられます。

LMUpath 定義は累積されます。つまりコマンドに指定された定義は、現在の定義リストに追加されていきます。LMUpath を現在のリストに入力するには、入力したい LMUpath に続けて、そのあとに来るべき LMUpath を指定してください。COMMPath コマンドによってすでにリスト内にある LMUpath が指定されると、その経路はリスト内の現在の位置から除かれて、コマンドの指定どおりリストの終端に追加されます。

例えば現在の定義を (02,03,04) とします。この場合、LMU=(01,03,04) と指定すると、02 のあとに 01 を追加することができます。すると現在のリストは、(02,01,03,04) となります。また、現在の定義が (02,01,03,04) であり、コマンドによって LMU=(01,02) と指定された場合、リストは(03,04,01,02) となります。

注 – LMUが一時的に利用できない場合、そのLMUに対するLMUpath定義の削除を推奨します（必須ではありません）。LMU が再び使用可能になった時、現在の定義にその定義を追加することにより再び通信サービスに対する定義を行ってください。

acs-id または *acs-range* または *acs-list*

1 つまたは複数の特定の LMU。 *acs-list* の各要素は、単一の ACSid または ACSid の範囲のどちらでもかまいません。リスト内の要素はコンマかブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

VTAMpath

VTAM 名を定義して HSC ホストと関連付けます。VTAM 名は、ほかの HSC との VTAM 接続の確立過程において使用されます。VTAM APPL 文で定義された VTAM APPLID になります。

このパラメータは、前に定義した名前の変更または削除にも使用できますが、このホストの現在の方式が VTAM でない場合にかぎられます。

name

VTAM 名を示します。

DELeTe

LMUpath パラメータまたは VTAMpath パラメータ、あるいはその両方で指定した定義の削除を指定します。

LMU が現在の方式でない場合、すべての LMUpath 定義は (*acs-id* を与えずに) DELeTe LMUpath を指定することによって削除できます。現在の方式が LMU の場合、アクティブな LMUpath は削除できません。

現在の方式が VTAM の場合、VTAMpath 定義は削除できません。

CONFIg

CONFIg コマンドで、HSC CDS に保存されている VSM 構成を定義または変更します。CONFIg コマンドと入力文を含むファイルを 1 つ作成します。

インタフェース :	UUI - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要 注: CONFIG RESET を実行するときには、すべてのホストの HSC が停止している必要があります。

構文

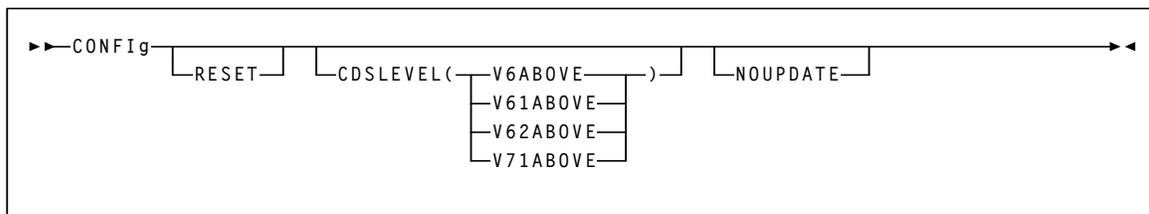


図 3-16 CONFIg の構文

パラメータ

RESET

CDS 内の VSM 構成をリセットします。次の表で示すとおり、これは必須パラメータです。

CDS が「F」 レベル以上	CDS が「E」 以下
<p>CDS レベルを下げる場合にのみ必要です。RESET は、F から G レベルにする場合は不要です。ただし、F レベルから G レベルに変更する場合、CDS にアクセスするすべてのホストで VTCS/ELS 7.0 が実行されている必要があります。</p>	<p>次のようなハードウェアを変更する場合は、RESETを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 構成への VTSS の追加。 ■ RTD の追加、RTD の削除、または構成上の順序の再配列。 ■ 構成からの VTSS の物理的な削除。 ■ CDS レベルの変更 <p>次のような場合は、RESETを指定する必要はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VSM ボリュームの変更 (VTV および MVC の追加など)VTV および MVC ボリュームは、RESET またはそのほかの VTCS ユーティリティで除去することはできないことに注意してください。VTV および MVC ボリュームの除去には、新しい CDS を定義して、MERGEcds を使用する必要があります。 ■ VSM ポリシーの変更 (AMT 値の変更など)

注 -

- CONFIG RESET を実行するときには、すべてのホストの HSC が停止している必要があります。RTD定義の変更内容は、HSCを再起動した時点で有効になります。
- CONFIG を実行することで、HSC/VTCS を再起動することなく、一部の変更を動的に行うことも可能ですが、追加のリソースを使用するのに、いくつか追加してパラメータを変更する必要のある場合があります。
- RESET を指定して CONFIG を実行すると、ステータスフラグがリセットされ、メッセージ SLS6746E の表示が消えます。RESET を指定して CONFIG を実行するときに VTSS がオフラインだった場合、必ず VTSS を AUDIT してください。

CDSLEVEL

次のCDSレベルのいずれか1つです。

V6ABOVE

次の機能をサポートする「E」レベル CDS を作成します。

- VSM4 の完全なサポート
- 4 MVC コピー
- 800MB VTV

V61ABOVE

次の機能をサポートする「F」レベル CDS を作成します。

- VSM4 の完全なサポート
- 4 MVC コピー
- 800MB VTV
- Near Continuous Operations (NCO)
- 双方向性クラスタ

V62ABOVE

次の機能をサポートする「G」レベル CDS を作成します。

- VSM4 の完全なサポート
- 4 MVC コピー
- Near Continuous Operations (NCO)
- 双方向性クラスタ
- 400MB/800MB/2GB/4GB の VTV サイズ
- 標準 / ラージ VTV ページ
- MVC あたり 65000 VTV

NOUPDATE

構成を確認し、適切なメッセージが出力されること、ただし CDS は更新されないことを指定します。

CONFIg GLOBAL 文

CONFIg GLOBAL 文は、VTCS のグローバル値を指定します。この文は必須です。

構文

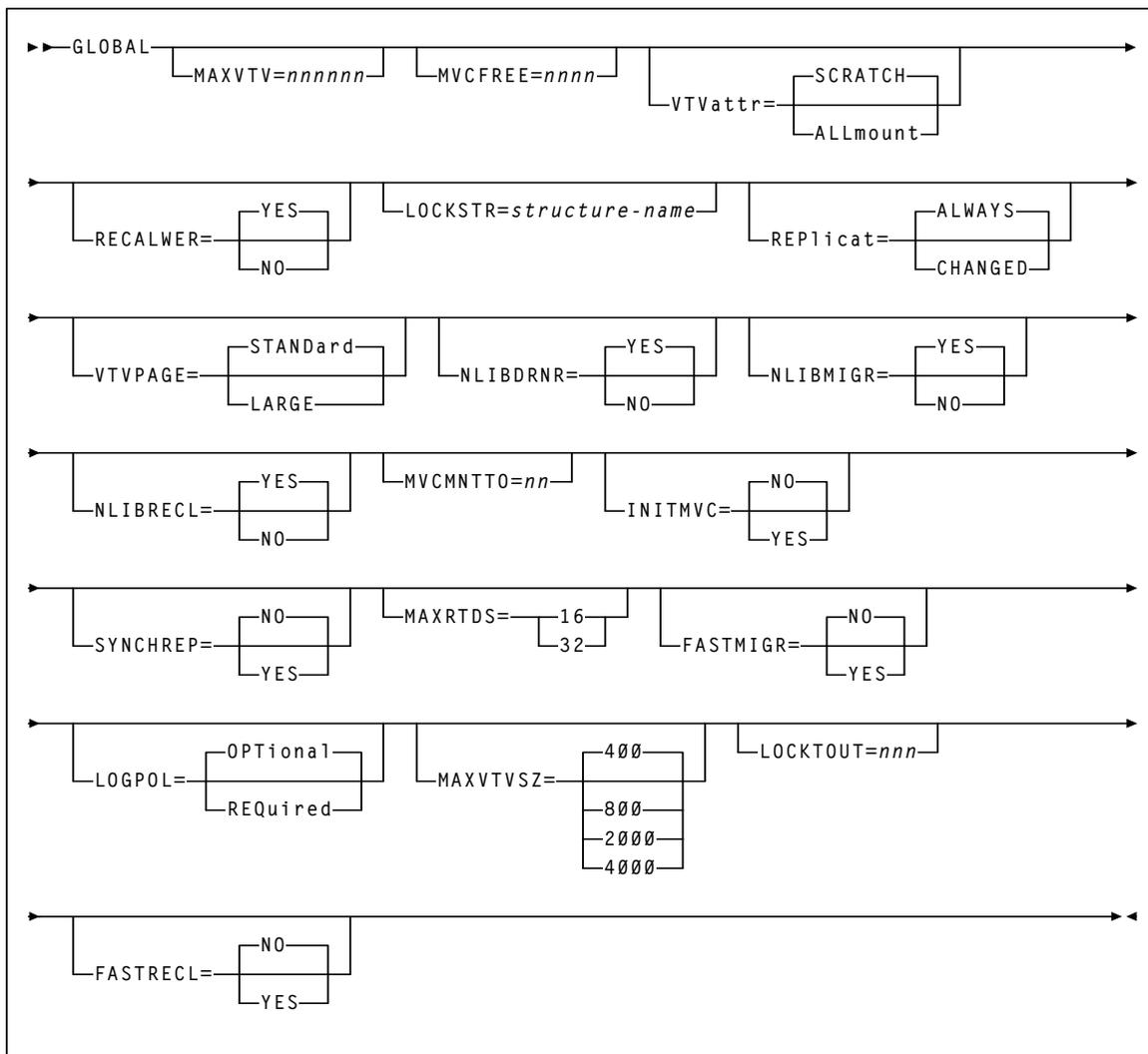


図 3-17 CONFIg GLOBAL 文の構文

パラメータ

MAXVTV=*nnn*

オプションで、単一の MVC にマイグレーションできる VTV の最大数を指定します。デフォルトは、D、E、または F レベルの CDS の場合は 32000、G レベルの CDS の場合は 65000 です。有効な値は、次のとおりです。

- 4 - 32000: f または、D、E、または F レベルの CDS。
- 4 - 65000: G レベルの CDS

CDS レベルの詳細については、[212 ページの「CONFig」](#)を参照してください。

MVCFREE=*nnn*

オプションで、MVC プール中の空き MVC の最小数を指定します。空き MVC とは、100%使用可能なスペースを持ち、マイグレーションされた VTV を含まない MVC のことです。有効な値は 0 - 255 です。デフォルトは 40 です。

空きMVCがこの値以下になると、VTCSはSLS6616Iメッセージを発行し、自動スペースリクレイム処理を開始します。

注 - MVCFREE = 0 に設定した場合、実際には VTCS はデフォルト値 (40) を使用します。

VTVattr=SCRATCH | ALLmount

オプションで、VTCS が VTV にマネージメントクラスを割り当てる際の条件を指定します。

SCRATCH

VTCSがVTVのスクラッチマウントを行ったときにのみマネージメントクラスを割り当てます (デフォルト)。

ALLmount

VTCSがVTVをマウントするたびにマネージメントクラスを割り当てます。

注意 - VTCS が VTV をマウントするたびにマネージメントクラスが割り当てられるように指定する場合、これらの属性は変更される可能性があり、このことは望ましくないか、または予期しない結果を招く可能性があります。

たとえば、あるアプリケーションがデータセット PROD.DATA を PROD のマネージメントクラスで VTV100 に書き出し、次にデータセット TEST.DATA を TEST のマネージメントクラスで VTV100 に書き出すと、VTV (および両方のデータセット) は TEST のマネージメントクラスを持ちます。同様に、異なるマネージメントクラスを同じデータセットに割り当てる (たとえば、ジョブ名に基づいて) ような TAPEREQ文を書くことも可能であり、これもVTVマネージメントクラスの変更の原因になります。

RECALWER

オプションで、VTCSが読み取りデータチェック（リコールおよびドレイン操作に適用されます）の発生したVTVをリコールするかどうかを指定します。

YES

読み取りデータチェックの発生したVTVをリコールします（デフォルト）。

NO

読み取りデータチェックの発生したVTVをリコールしません。

LOCKSTR=structure-name

オプションで、VTCS ロックデータを保持する連結機能構造を指定します。構造の名前は16文字または16字以下にし、IBMの連結機能構造の命名標準に準拠する必要があります。詳細については、『ELSのインストール』を参照してください。

注意 – LOCKSTR=structure-name をこれまで使用していない CDSに LOCKSTR=structure-nameを追加する場合、および CDS からLOCKSTR=structure-name を削除する場合は、CONFIG RESET が必要です。ロック構成名を (LOCKSTR=VTCSL1 から LOCKSTR=VTCSL2 などに) 変更する場合は、CONFIG RESET は不要です。

REPLIcat

オプションで、VSM が VTV を複製するタイミングを指定します。

ALWAYS

VTV がマウントされていた間の変更の有無に関係なく、VTV がマウント解除されるごとに、複製要求が VTCS 複製キューに追加されます（デフォルト）。

CHANGED

複製要求は、次の場合に VTCS 複製キューに追加されます。

- マウント中に VTV が変更された場合
- マウントされていた間に行われたのが読み取りだけであっても、存在する VTV の MVC コピーの数が設定値より少ない場合

注意 –

CONFIG GLOBAL REPLIcat の設定に関係なく、複製にはこのほか次の条件も必要です。

- 複製をサポートする VTSS において VTV がマウント解除されており、かつ、クラスターのほかの VTSS に VTV の同一のコピーがないこと。
 - 複製を行うには、CONFIG GLOBAL REPLIcat 値のほかに、REPLIcat(YES) が VTV のマネージメントクラスで指定されている必要があります。
-

VTVPAGE

オプションで、VTSS 内および MVC 上での VTV データの格納に使用するページサイズを指定します。この設定は、400 および 800 MB の VTV にのみ適用されます。VTVPAGE が MGMTclas 文または CONFIG GLOBAL 文のどちらにも指定されていない場合は、デフォルトは STANDard となります。

STANDard

標準のページサイズ。すべての VSM3/VSM4 モデルおよびマイクロコードレベルと互換性があります。

LARGE

ラージページサイズ。VTSS 内とマイグレーションおよびリコールでのパフォーマンスを向上できます。ラージページサイズには、G レベルの CDS が必要です。CDS レベルの詳細については、[212 ページの「CONFIg」](#)を参照してください。2 および 4 GB の VTV (MAXVtvsz 2000 または 4000) には、VTVPAGE 設定 LARGE が常に使用されます。

注 -

- VTVPAGE は VSM2 には適用されません。VTVPAGE(LARGE) には VSM4/VSM5 マイクロコード D02.02.00.00 または VSM3 マイクロコード N01.00.77.00 が必要です。インストールされたオプションは必要ありません。
 - MGMTCLAS VTVPAGE が指定されている場合は、CONFIG GLOBAL VTVPAGE 値よりも優先されます。VTVPAGE が MGMTclas 文または CONFIG GLOBAL 文のどちらにも指定されていない場合は、デフォルトは STANDard となります。
-

注意 -

- VTV のページサイズは、VTV スクラッチマウントによってのみ変更が可能です。VTSS 内に以前から常駐していたスクラッチ VTV には、追加の制限が適用される場合があります。
 - LARGE を指定して、CDS レベルまたは VTSS マイクロコード、あるいはその両方が LARGE をサポートしない場合は、VTCS から警告メッセージが出され、VTVPAGE はデフォルトで STANDard になります。
 - 2 または 4 GB の VTV に STANDard を指定すると、警告メッセージが出され、デフォルトで LARGE になります。
 - ラージページを伴う VTV を作成すると、これらの VTV は、ラージ VTV ページをサポートしない構成で読み取り不可になります。
-

NLIBDRNR

オプションで、ライブラリに常駐していない MVC をドレイン/リクレイム処理に選択するかどうかを指定できます。

YES

ライブラリに常駐していない MVC を選択できます (デフォルト)。

NO

ライブラリに常駐していない MVC は選択できません。

NLIBMIGR

オプションで、ライブラリに常駐していない MVC をマイグレーション処理に選択するかどうかを指定できます。

YES

ライブラリに常駐していない MVC を選択できます (デフォルト)。

NO

ライブラリに常駐していない MVC は選択できません。

NLIBRECL

オプションで、ライブラリに常駐していない MVC をリコール処理に選択するかどうかを指定できます。

YES

ライブラリに常駐していない MVC を選択できます (デフォルト)。

NO

ライブラリに常駐していない MVC は選択できません。

MVCMNTTO=*nn*

オプションで、MVC のマウントがタイムアウトする値 (分単位) を指定します。有効な値は 5 - 30 分です。デフォルトは 15 分です。

INITMVC

オプションで、初期設定されていない MVC を初めてマウントしたときに、MVC を初期設定するかどうか指定します。

NO

初期設定されていない MVC は初期設定されません。これはデフォルトです。

YES

初期設定されていない MVC が初期設定されます。

SYNCHREP

オプションで、VTV 同期レプリケーション機能を有効にするかどうかを指定します。

NO

同期レプリケーションは無効です (デフォルト)。

YES

同期レプリケーションは有効です。

注 – SYNCHREP=YES の場合、同期レプリケーションが有効になるだけです。同期レプリケーションを実際に実行するには、REPLicac=YES_SYNC を指定するマネジメントクラスを作成する必要があります。詳細については [423 ページの「追加パラメータ – 拡張管理機能」](#) を参照してください。

MAXRTDS

オプションで、サポートされる RTD の最大数を指定します。

16

最大 16 個の RTD がサポートされます。

32

最大 32 個の RTD がサポートされます。

FASTMIGR

オプションで、スタックマイグレーション機能をサポートするすべての VTSS でスタックマイグレーション機能を有効にするかどうかを指定します。

YES

スタックマイグレーション機能が有効になります。

NO

スタックマイグレーション機能が無効になります (デフォルト)。

注 – FASTMIGR=YES に設定する場合は、次のような前提条件があります。

- VSM4/VSM5 マイクロコードレベル D02.05.00.00 以上。このレベルのマイクロコードが構成内のすべての VTSS にインストールされていない場合、スタックマイグレーション機能はそれがインストールされた VTSS に制限されます。
- VTCS/NCS 6.2 PTF L1H13ZF (SOS6200) および L1H13ZG (SWS6200)、ELS 7.0 以上
- CDS レベル「F」以上
- FICON RTD および CLINK 用の FICON ポート

スタックマイグレーション機能を有効にするには、すべてのホストでこれらの前提条件が満たされている必要があります。前提条件が満たされていないと、次のことが起こります。

- スタックマイグレーション機能をサポートまたは許容しないホストがアクティブになっていると、CONFIG ユーティリティーからエラーが戻されます。
- スタックマイグレーション機能を許容またはサポートしないホストを起動すると、ホストが停止します。

LOGPOL

オプションで、VTCS CDS ログギングをオプションまたは必須のどちらにするかを指定します。

OPTional

ログギングはオプションになります。これはデフォルトです。

レベルが 7.0 またはそれ次のホストを含む構成の場合は、このモードにする必要があります。

REQuired

CDS を共有するすべてのホストで起こるすべてのイベントのログギングが有効になります。これを行うには、すべてのホストがレベル 7.0 以上であることが必要です。

次のイベントがログギングされます。

- VTV の新バージョン
- VTV のインポート
- MVC の初回使用または再使用
- MVC のインポート
- MVC への VTV の追加
- インポートされた MVC 上の VTV
- MVC と VTV のリンクの切断
- MVC からの VTV のリクレイム
- MVC EOT を逆方向にリセット
- VTV の電子エクスポート

MAXVTVSZ

VTV の作成中に使用できるデフォルトの VTV 最大サイズを指定します。このパラメータの有効な値は、該当する VTSS の CDS レベルとマイクロコードレベルにより異なります。

400

400MB。これはデフォルトです。

800

800MB。CDS は、E レベル以上である必要があります。

2000

2 GB。CDS は、G レベル以上である必要があります。

4000

4G バイト。CDS は、G レベル以上である必要があります。

注 -

- VTV のサイズはスクラッチサイクルを実行したときにのみ変更されます。したがって、マネージメントクラスおよび DISP=MOD を変更した場合、本来のサイズのまま保持されます。
- 構成でサポートされない VTV を指定した場合、警告メッセージが出て、MAXVtvsz はデフォルトで、構成でサポートされる最大の VTV サイズになります。
- MAXVtvsz は VSM2 には適用されません。
- MAXVTVSZ(2000 | 4000) には VSM4/VSM5 マイクロコード D02.02.00.00 または VSM3 マイクロコード N01.00.77.00 が必要です。インストールされたオプションは必要ありません。
- CONFIG GLOBAL および MGMTCLAS MAXVTVSZ パラメータは、以下のように対話します。
 - MAXVTVSZ が MGMTCLAS に指定されている場合、この値は CONFIG GLOBAL MAXVTVSZ 値を指定変更します。

- MAXVTVSZ が MGMTCLAS に指定されていない場合は、CONFIG GLOBAL MAXVTVSZ 値が使用されます (指定されている場合)。それ以外の場合は、MAXVTVSZ はデフォルトで 400MB になります。
 - MAXVTVSZ が MGMTCLAS または CONFIG GLOBAL に指定されていない場合、MAXVTVSZ はデフォルトで 400MB になります。
-

LOCKTOUT=*mm*

オプションで、メッセージ SLS6946E が発行される前にリソースがロックされる最小の分数を指定します。

有効な値は、0 または 5 から 240 の間の任意の値です。0 が指定された場合、必要なリソースがロックされたときにメッセージ SLS6946E は発行されません。

このパラメータが指定されていない場合、現在のデフォルトである 10 分が保持されます。

注 – LOCKTOUT は「F」レベルの CDS (V61ABOVE) 以上でのみサポートされます。

FASTRECL

オプションで、同時テープリコール/マウントをサポートするすべての VTSS に対して VTCS がこの機能を実行するかどうかを指定します。

NO

同時テープリコール/マウント機能を使用禁止にします。これはデフォルトです。

YES

同時テープリコール/マウント機能を使用可能にします。

CONFIg RECLAIM 文

CONFIg RECLAIM 文は、強制および自動の MVC スペースリクレ임을制御します。

構文

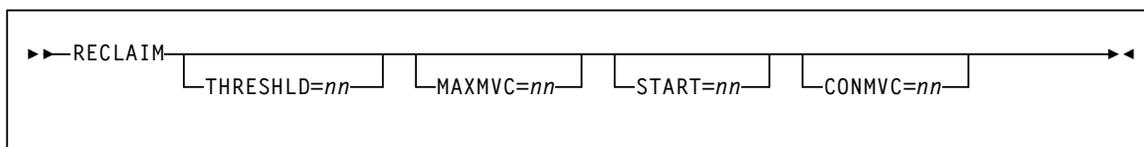


図 3-18 CONFIg RECLAIM 文の構文

パラメータ

THRESHLD=*mm*

オプションで、MVC が自動リクレ임을または強制リクレ임을の対象になるスペースの断片化率を指定します。有効な値は 4 - 98 です。デフォルトは 75 です。

MAXMVC=*nn*

オプションで、1 回の領域の再生処理で処理される MVC の最大数を指定します。有効な値は 1 - 98 です。デフォルトは 40 です。

自動領域の再生が開始されるには、再生処理対象となる MVC の数 (THRESHLD パラメータにより決定される) もまた、MAXMVC 値を超えている必要があります。

START=*nn*

オプションで、各 ACS に対して自動領域の再生が開始されるレベルを指定します (すべての ACS を一括してではありません)。次のパーセント値を指定します。

(リクレ임을候補 リクレ임을候補 + 空き MVC の総数) * 100

以下はその説明です。

再生候補

CONFIG RECLAIM THRESHLD パラメータによって決定される再生候補の数。

再生候補 + 空き MVC

再生候補の数に、空き MVC の数を足したものに等しくなります。有効な値は、1 から 98 です。デフォルト値は 35 です。

CONMVC=*nn*

オプションで、VTCS が同時に行う MVC のドレインおよび再生処理の最大数を指定します。

有効な値は 1 - 99 です。デフォルトは 1 です。

CONFIg VTVVOL 文

CONFIg VTVVOL 文は、VTV の範囲を定義します。

注 – VTCS CONFIG で VTV と MVC の範囲を定義する場合は、SET VOLPARM を使用することを推奨します。

- SET VOLPARM 文の詳細については、[557 ページの「SET VOLPARM」](#)を参照してください。
 - CONFIG で VTVVOL および MVCVOL 文を使ってボリュームを定義する方法については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。
-

CONFIg MVCVOL 文

CONFIg MVCVOL 文は、VTCS が使用できる MVC の範囲を指定します。

注 – VTCS CONFIG で VTV と MVC の範囲を定義する場合は、SET VOLPARM を使用することを推奨します。

- SET VOLPARM 文の詳細については、[557 ページの「SET VOLPARM」](#)を参照してください。
 - CONFIG で VTVVOL および MVCVOL 文を使ってボリュームを定義する方法については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。
-

CONFIg VTSS 文

CONFIg VTSS 文は、VTSS を定義し、その動作値を設定します。この文は必須です。

新しい VTSS を定義するときは、既存の VTSS の定義のあとに、新規 VTSS の定義を加えます。既存の VTSS の定義は、元の順序を変えてはいけません。

構文

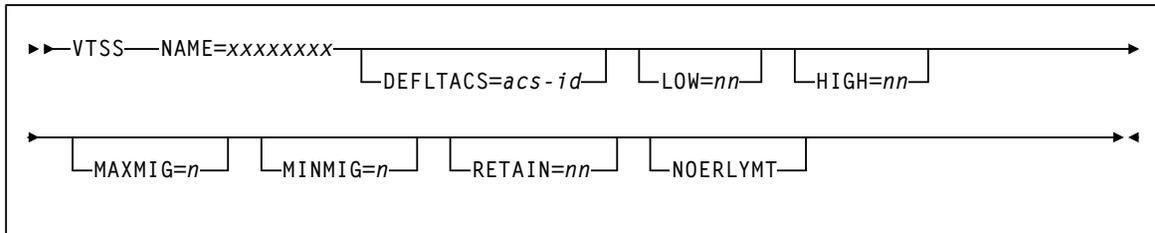


図 3-19 CONFIg VTSS 文の構文

パラメータ

注 – 構成から物理的に VTSS を除去する場合は、パラメータを一切使用しない VTSS 文のみを使用して、VTSS を再構成する必要があります。

NAME=xxxxxxx

VTSS 名を指定します。このパラメータは必須パラメータです。デフォルト値はありません。

VTSS 名に含めることのできる文字は、「A-Z」、「0-9」、「@」、「\$」、および「#」です。

VTSS 名は、NAME パラメータを介してのみ指定できます。NAME パラメータでは、VTSS マイクロコード (LOP または VOP の「Subsystem Name」フィールドに表示される) 内と、HSC CDS の構成領域内における VTSS 名が設定されます。VSM が稼動状態になると、VTSS 名は、CDS の各 VTV レコードにも格納されます。各 VTV レコードには、VTV が常駐している VTSS の名前が含まれます。VTV がマイグレーションされた場合は、マイグレーション前の VTSS 名が VTV レコードに含まれます。

NAME パラメータで VTSS 名を設定した後、HSC CDS 内の該当の識別子を変更することはできません。すなわち、CONFIG ユーティリティでは、初期設定後に NAME パラメータを変更することはできません。LOP の「Subsystem Name」フィールドの VTSS 名を変更することによって、HSC CDS の VTSS 名を変更することはできません。

警告 – VTSS が常駐している VTV、およびマイグレーションされた VTV など、VTV に関するデータを含む VTSS の名前は変更しないでください。

初期設定時のみ(変更時はできません)、VTSS マイクロコードの VTSS 名が次の場合だけ、NAMEパラメータに VTSS 名を設定できます。

- 出荷時の設定 (すべてブランク)
- 99999999 (8 桁の 9) の値

したがって、初期設定時のみ、VTSS マイクロコードの名前がすべてブランクか 99999999 でない場合、Oracle StorageTek ハードウェア担当員は VTSS LOP または VOP を使用して VTSS 名を 99999999 に設定する必要があります。これにより、NAME パラメータを使用して VTSS 名を目的の名前に設定できます。

DEFLTACS=*acs-id*

オプションで、VTCS はマルチ VTSS の確認や、各 VTSS への複数の ACS の接続をサポートします。1 台の VTSS を複数の ACS に接続している構成では、DEFLTACS パラメーターを使用して、マイグレーション、統合、およびリクレイム処理での MVC の選択元となるデフォルトの ACS を指定できます。

注 – VTV のマイグレーション先に指定できる ACS の実際の数は、基本または拡張のどちらの管理機能を指定したかによって制限されます。使用方法の詳細については[381 ページの「FEATures」](#)を参照してください。

- 基本管理機能では、VTV の複製は MGMTclas 文につき 2 つの別個の ACS に制限されます (MGMTclas ACSlist および DUPlex パラメータを使用。DEFLTACS パラメータは、後述のとおり無視されます)。使用方法の詳細については[417 ページの「パラメータ – 基本管理機能」](#)を参照してください。
- 拡張管理機能では、最大 4 コピーの VTV を別個の ACS (MGMTclasステートメントにつき) にコピーできます (MGMTclas MIGpol パラメータを使用。DEFLTACS パラメータは、後述のとおり無視されます)。使用方法の詳細については[423 ページの「追加パラメータ – 拡張管理機能」](#)を参照してください。

DEFLTACS が指定されていないと、デフォルト値が x「FF」なので、VTCSは任意の ACS から MVC を選択できます。

注 –

DEFLTACS パラメータが指定されている状態で、次のいずれかを実行した場合、VTCS によって DEFLTACS 値が無視されます。

- MGMTclas 文の ACSlist パラメータを指定した場合
 - ストレージクラスの使用。
-

LOW=*nm*

オプションで、VTSS の自動マイグレーション下限値 (LAMT) を指定します。

有効な値は5-95で、HIGHのデフォルト限界値より低くなければなりません。デフォルトは 70 分です。

HIGH=*nm*

オプションで、VTSS の自動マイグレーション上限値 (HAMT) を指定します。

有効な値は5-95で、LOWのデフォルト限界値より高くなければなりません。デフォルト値は 80 です。

MAXMIG=*n*

オプションで、この VTSS に対して、自動マイグレーション、即時マイグレーションおよび限界値までのマイグレーションの同時実行タスクの最大数を指定します。

有効値は 1 - VTSS に接続されている RTD の数です。デフォルト値は、VTSSに接続されたRTDの数の半分です。

MINMIG=*n*

オプションで、この VTSS に対して、自動マイグレーション、即時マイグレーションおよび限界値までのマイグレーションの同時実行タスクの最小数を指定します。

有効な値は、1 からMAXMIGの設定値までです。デフォルト値は1です。

RETAIN=*mm*

オプションで、VTCS がマイグレーション、またはリコールのあとにアイドルモードで RTD 上の MVC を維持する時間 (分単位) を指定します。MVC の保持によって、MVC マウントが減ります。

有効な値は1-60です。デフォルトは 10 分です。

NOERLYMT

オプションで、この VTSS について同時テプリコール/マウント機能を無効に指定します。

注 - この設定は、CONFIG GLOBAL FASTRECL=YES 設定を指定変更します。

CONFIg RTD 文

VTCS CONFIg RTD 文で、VTSS に接続された RTD または VLE アプライアンスを定義します。この文は必須であり、デバイスが接続された VTSS を定義する VTSS 文のあとに指定される必要があります。

各デバイスタイプの最大接続数は次のとおりです。

- VSM2 または VSM3 の場合、8 x RTD
- VSM4 の場合、16 x RTD
- VSM5 の場合、32 x RTD
- VSM5 の場合、4 x VLE アプライアンス

注 – CDS レベルが V61ABOVE 未満で VTCS が稼働している場合は、RESET パラメータを指定して RTD 定義を変更する必要があります。詳細については、[213 ページの「RESET」](#)を参照してください。初期のRTD定義に関しては、VTSS LOPに表示されているRTD名が完全な空白ではない場合も、RESETを指定する必要があります。

構文

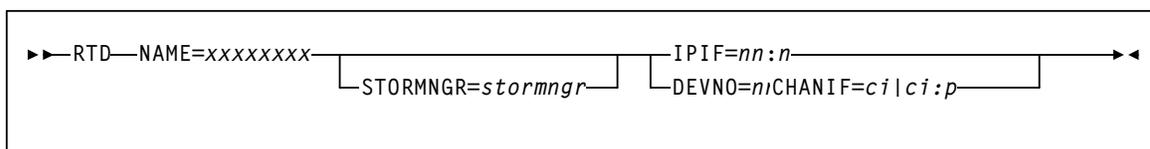


図 3-20 CONFIg RTD 文の構文

パラメータ

NAME=xxxxxxxx

1-8文字のRTD識別子を指定します。

RTD 識別子の設定および変更は、RTD NAME のみを使用して行います。この場合 VTSS LOP に表示される RTD 識別子をすべてブランクにする必要があります。

このパラメータは必須パラメータです。デフォルト値はありません。

STORMNGR

VLE アプライアンスのサブシステム名を指定します。

stormngr

VLE サブシステム名。詳細については、『*Configuring the Host Software for VLE*』を参照してください。

このパラメータは、RTD への接続 (つまり、DEVNO および CHANIF パラメータが指定されている場合) には適用されません。このパラメータが適用されるのは、VLE アプライアンスへの接続 (つまり、IPIF パラメータが指定されている場合) のみです。

IPIF=*mm:n*

VLE アプライアンスと通信するための VTSS IFF3 カード上の IP インタフェースを指定します。この値は、「VTSS DOP IFF IP Configuration Status」画面で表示される値に一致する必要があります。たとえば、IFF 0 カード上のターゲット 0 には、0A:0 というインタフェース値が割り当てられています。

注 – IPIF パラメータは、VLE アプライアンスへの接続を指定する場合にのみ有効です。RTD 接続には有効ではありません。

DEVNO=*nnnn*

RTDのデバイスアドレスを指定します。

このパラメータは CHANIF の必須パラメータです。デフォルト値はありません。

CHANIF=*ci* または *ci:p*

RTD と通信するための VTSS チャネルインタフェースを指定します。ここで、

- *c* は VTSS ストレージクラス番号 (0 または 1) です。
- *I* は、インタフェース番号 (A、C、E、G、I、K、M、または O)
- *P* は、インタフェース上のデバイス番号 (0、1、2、または 3) です。

この値は、VTSS の導入と構成作業で Oracle StorageTek ハードウェア担当員が VTSS LOP に定義した Nearlink チャネルのインタフェースと一致している必要があります。このパラメータは DEVNO の必須パラメータです。デフォルト値はありません。

- 最大 32 個の RTD 機能が有効にされている場合でも、VTSS に接続されている RTD 数が 16 未満の場合は、「古い」アドレス指定スキーム (CHANIF=*ci*) を使用できます。
- ただし、最大 32 個の RTD 機能が有効にされており、VTSS に接続されている RTD 数が 16 を超える場合は、「新しい」アドレス指定スキーム (CHANIF=*ci:p*) を使用しなければなりません。

詳細については、『Configuring HSC and VTCS』を参照してください。

注 – DEVNO および CHANIF パラメータは、RTD 接続を指定する場合にのみ有効で、VLE アプライアンスへの接続には有効ではありません。

注意 – RTD の場合、デバイスに対するマウントおよびマウント解除コマンドの処理方法は、バージョンによって異なります。リモート HSC サーバーが V6.2 を実行している場合は、ローカル SMC が MVS メッセージをトラップして、そのマウント/マウント解除をあたかもそれがジョブであるかのようにその HSC サーバーに転送するという動作に依存します。リモート HSC サーバーが V7 以上を実行している場合、これは自動的に検出され、VTCS はマウント/マウント解除要求をそのリモート HSC サーバーに直接送信します。SMC パラメータがこれらのタイプのいずれかのサーバーだけにコマンドを出すことが重要です。

注 -

- 最大 32 個の RTD 機能が有効にされている場合でも、VTSS に接続されている RTD 数が 16 未満の場合は、「古い」アドレス指定スキーム (CHANIF=*ci*) を使用できません。
- ただし、最大 32 個の RTD 機能が有効にされており、VTSS に接続されている RTD 数が 16 を超える場合は、「新しい」アドレス指定スキーム (CHANIF=*ci:p*) を使用しなければなりません。

詳細については、『Configuring HSC and VTCS』を参照してください。

CONFIg VTD 文

CONFIg VTD 文は、VTSS 内における VTD の MVS デバイスアドレス範囲を定義します。この文は必須であり、VTDが存在するVTSS文の直後に指定する必要があります。

注 – VSM2およびVSM3はVTSSあたり64のVTDを提供します。VSM4 は VTSS あたり 256 の VTD を提供します。

VTD デバイスアドレスは、すべてのホストへ適用するために指定することも、特定のホストに適用可能な VTD を定義するために指定することもできます。詳細については、[233 ページの「VTDデバイスアドレスの指定」](#)を参照してください。

構文

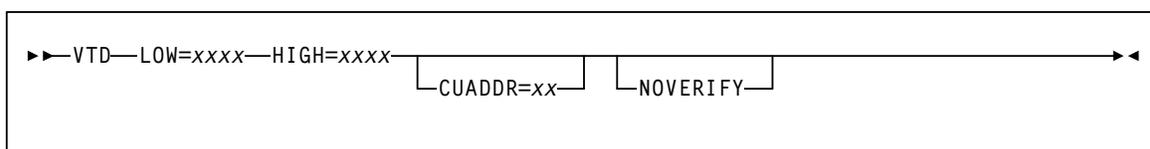


図 3-21 CONFIg VTD 文の構文

パラメータ

LOW=xxxx

VTDの範囲の開始として、4文字の有効なMVSデバイスアドレスを指定します。

HIGH=xxxx

VTDの範囲の終了として、4文字の有効なMVSデバイスアドレスを指定します。

CUADDR=xx

オプションで、IOCP 内の値と一致する制御デバイス識別子を指定します。有効な値は、VSM4 の場合は 0 - 15、VSM2/3 の場合は 0 - 3 です。この文は、部分的な VTD 範囲がホストに指定され、そのホストに VTD へのパスがない場合にのみ必要です。

NOVERIFY

オプションで、VTD の検証を抑止します。

VTCS は、通常、仮想テープドライブに関連するすべての定義済み VTD 識別子の検査を試みます。これを行うには、関連したホストが ECAM-T 要求の Virtual_Device_Identifyを発行できるよう、各 MVS入出力アドレスが使用可能になっている必要があります。ECAM は、VTSS をオンラインにし、複製処理やマイグレーション処理をスケジュールする際に、VTCS が VTSS と通信するために使用する方式です。

特定の場合、たとえばVTCSがリモートクライアントホストへのサポートを提供している場合、リモートクライアントに対するサーバーとして動作するローカルホストは、MVS I/Oアドレスに対するパスを持っていない可能性があります。この場合、予測されたVTD識別子の検査は失敗し、オペレータにエラーメッセージが通知されます。NOVERIFYを使用すると検査が行われず、このような障害を避けることができます。

デバイスまたはデバイス範囲に対して NOVERIFY が指定されている場合は、次のことが起こります。

- MVS から VTV をマウントできるよう、SMC にデバイスが報告されます。
- VTCS は、そのデバイスを ECAM I/O に使用しません。ECAM I/O に使用できるよう、NOVERIFY が指定されていないデバイスが少なくとも 1 台必要です。

VTD デバイスアドレスの指定

VTD アドレスは次のいずれかの方法によって指定できます。

- VTSS 文に続く VTD 文に VTD デバイスアドレスを指定し、この VTSS 文に続く HOST 文には値を指定しないようにします。物理的に VTSS に接続されているすべてのホストは、VTD 文で定義されるデフォルトアドレスにより VTD へアクセスできます。
- VTSS 文に続く VTD 文に VTD デバイスアドレスを指定しないで、以前に定義されている VTSS との接続を定義したい特定のホストのみに対して、HOST 文のあとの VTD 文を指定する。該当の VTSS に接続したくないホストについては、プレースホルダー (VTD パラメータなしの HOST NAME) を指定する必要があります。

注 – 作成された VTV と、VTSS から最初に書き込まれた MVC は、その VTSS のリソースとみなされます。したがって、VTSS にアクセスできるホストのみが、その VTV と MVC にアクセスできます。この種類の「限定」アクセス構成では、各ホストで正確なスクラッチ回数がわかるように、各ホストに独立した VTV スクラッチプールが必要です。同様に、各ホスト上では、そのホストが接続されている VTSS に関連する MVC に関して、空き MVC および MVC リクレーム回数が報告されます。

各ホストにおいて異なるアドレス範囲を指定することは可能ですが、Oracle StorageTek では、操作の整合性を保つために全ホストで同じアドレス範囲を使用することをお勧めしています。異なるホストごとに異なるアドレス範囲を指定する場合は、クライアント/サーバー構成があれば HSC SET DRVHOST および SMC DRIVEMAP 文を使用します。すべての MVS ホスト上で **すべての overgenned デバイス (VTD を含む) に対して UNITATTR MODEL(IGNORE) コマンドを含める必要があります。**

注意 – マルチホストの複数 VTSS 構成においては、この VTD アドレス指定方法を使用して、ホストから物理的に接続されている VTSS へのアクセスを拒否することができます。ただし、この方法を使用して、物理的に VTSS に接続されていないホストからのアクセスを拒否する **必要があります**。アクセスを拒否しない場合は、物理的に VTSS に接続されていないホスト上の VTCS が、VTSS との通信を試みて待ち状態になる場合があり、ほかのすべてのホスト上で VSM 処理が停止する可能性があります。

CONFIg CLUSTER 文

CONFIg CLUSTER 文は、クラスター内の 2 つの VTSS を定義します。

構文

```
▶▶CLUSTER—NAME=nnnnnnnn—VTSSs(vtss-list)◀◀
```

図 3-22 CONFIg CLUSTER 文の構文

パラメータ

NAME=*nnnnnnnn*

クラスターの識別子を指定します。1-8文字で指定します。

このパラメータは必須パラメータです。デフォルト値はありません。

VTSSs(*vtss-list*)

クラスターに含まれる VTSS 名を指定します。少なくとも 2 つの VTSS を指定する必要があります。VTSS を 3 つ以上指定すると、ダウンレベルのホストが機能しなくなります。

各 VTSS 間の関係は、CONFIG CLINK 文で定義します。詳細については、[235 ページの「CONFIg CLINK 文」](#)を参照してください。

このパラメータは必須です。デフォルト値はありません。

注 -

- CLUSTER 文で指定する VTSS 名は VTCS にとって既知である必要があります。つまり、VTSS名がすでにCDSに定義されているか、現在のCONFIG ステートメントセットの中にすでに存在しているVTSS文に指定されている必要があります。たとえば、次のものは有効です。

```
VTSSNAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
VTSSNAME=VTSS2 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
CLUSTER NAME=CLUSTER1 VTSSs=(VTSS1,VTSS2)
```

VTSS1 および VTSS2 が CDS 上ですでに定義されていないかぎり、次のものは有効ではありません。

```
CLUSTER NAME=CLUSTER1 VTSSs=(VTSS1,VTSS2)
VTSSNAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
VTSSNAME=VTSS2 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
```

- DECOM ユーティリティの CLUSTER 文の出力には、区切り文字としてコンマの代わりにブランクが使用されます。これは、CONFIG の入力にも有効な形式です。たとえば、DECOM による次の出力は、CONFIG の入力としても有効です。

```
CLUSTER NAME=CLUSTER1 VTSSs=(VTSS1 VTSS2)
```

CONFIg CLINK 文

CONFIg CLINK 文は、クラスター内にある 2 つの VTSS の間のチャンネルインタフェースを定義し、IP インタフェース上に CLINK を定義して、IP CLINK を介して VTV を複製できるようになります。

VTSSは次の 3 つのモードのうちの 1 つになります。

- Primary-Secondary (2 つの VTSS があり、CLINK 文をプライマリでのみ書き込む場合)。
- Peer-to-Peer (2 つの VTSS があり、双方向 VTV 複製を有効にするために CLINK 文を両方の VTSS で書き込む場合)。
- クラスタ内に VTSS が 3 つ以上あり、CLINK 文によって個々の関係を定義している場合は、Any-to-Any モードになります。

さらに、VTSS から CLINK を定義して、別の TapePlex に電子エクスポートすることもできます。これらのリンクは、リモート TapePlex 内で同じ VTSS である必要はありません。

各 VTSS は、最大 2 つの異なる TapePlex に接続することも、1 つの TapePlex とクラスター内のパートナー VTSS に接続することもできます。

電子エクスポート接続は、常に複数の VTSS に対して指定できます。クラスタ接続は、CONFIg CLUSTER 文で 3 つ以上の VTSS メンバーが指定されている場合にのみ、複数の VTSS に対して指定できます。

『*ELS Disaster Recovery and Offsite Data Management Guide*』の例を参照してください。

構文

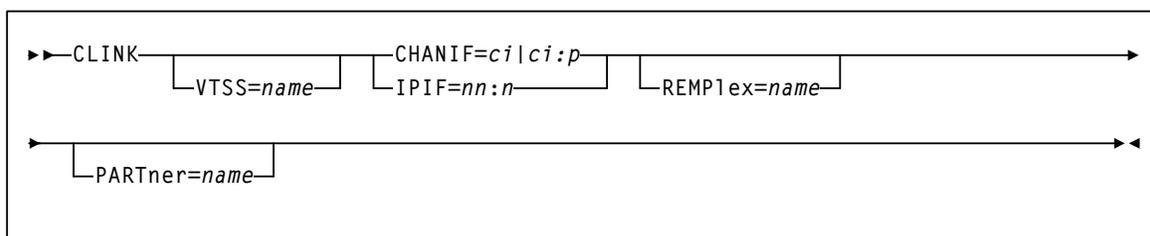


図 3-23 CONFIg CLINK 文の構文

パラメータ

VTSS=*name*

オプションで、CLINK を所有する VTCS の名前を指定します。これは、VTV の複製またはエクスポート元である VTSS です。

このパラメータが省略されている場合 (デフォルト)、CLINK は現在定義されている VTSS に接続されます。

注 – CLINK文で指定する VTSS 名は VTCS にとって既知である必要があります。すなわち、VTSS名がすでにCDSに定義されているか、または現在の構成 ステートメント セットの中にすでに存在するVTSS 文に指定されている必要があります。たとえば、次のものは有効です。たとえば、次のものは有効です。

```
VTSSNAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
CLINK VTSS=VTSS1 CHANIF=0A
```

VTSS1またはVTSS2がCDS上ですでに定義されていないかぎり、次のものは有効ではありません。

```
CLINK VTSS=VTSS1 CHANIF=0A
VTSSNAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
```

CHANIF=*ci* または *ci:p*

RTD と通信するための VTSS チャネルインタフェースを指定します。ここで、

- *c* は VTSS ストレージクラス番号 (0 または 1) です。
- *I* は、インタフェース番号 (A、C、E、G、I、K、M、または O)
- *P* は、インタフェース上のデバイス番号 (0、1、2、または 3) です。

この値は、VTSS の導入と構成作業で Oracle StorageTek ハードウェア担当員が VTSS LOP に定義した Nearlink チャネルのインタフェースと一致している必要があります。

注 –

- 最大 32 個の RTD 機能が有効にされている場合でも、VTSS に接続されている RTD 数が 16 未満の場合は、「古い」アドレス指定スキーム (CHANIF=*ci*) を使用できません。
- ただし、最大 32 個の RTD 機能が有効にされており、VTSS に接続されている RTD 数が 16 を超える場合は、「新しい」アドレス指定スキーム (CHANIF=*ci:p*) を使用しなければなりません。

詳細については、『Configuring HSC and VTCS』を参照してください。

IPIF=*nn:n*

オプションで、2 つのネイティブ IP (IFF3 カード) ポート間のイーサネット接続を許可します。各 IFF イーサネットポートの IFF IP Configuration Status 画面で、各 Target IP Address の前の *nn:n* 値は、かっこで囲まれています。

詳細については、『Configuring HSC and VTCS』を参照してください。

注 – CLINK 文で、CHANIF または IPIF パラメータのいずれか一方を指定する必要がありますが、両方を指定することはできません。

REMPlex=name

オプションで、VTV のコピーを受信する側の CLINK の TapePlex 名を指定します。リンクの検証中、リモートシステム構成の THISPLEX 定義に照らし合わせて、この名前が検証されます。

REMPlex パラメータは、電子エクスポートに CLINK を使用することを示していません。このパラメータが指定されていない場合、クラスタ接続に CLINK は使用されません。

PARTner=name

オプションで、VTV のコピーを受信する側の CLINK の VTSS 名を指定します。

CLINK を電子エクスポートに使用する場合、またはクラスタ内に VTSS が 3 つ以上ある場合は、この名前を指定する必要があります。

リンクの検証中、もう一方の CLINK の VTSS 名に照らし合わせて、この名前が検証されます。

VTD=n

オプションで、接続の着信側となるパートナー VTSS 内の VTD の序数を 1 桁の 16 進数で指定します。

注 – VTD パラメータを指定する場合は、PARTner パラメータも指定する必要があります。

電子エクスポートに使用する各 CLINK は、REMPlex、PARTner、VTD の組み合わせで固有に定義する必要があります。クラスタ接続の場合、構成デッキ内での PARTner と VTD の固有の組み合わせが必要です。

注意 – PARTner/VTD パラメータ値が固有かどうかは、1 つの構成で検証できますが、別の TapePlex 構成では検証できません。複数の TapePlex (構成) を 1 つの TapePlex にエクスポートする場合は、各 VTD を 1 つの固有 CLINK に対してのみ定義する必要があります。すなわち、各 VTSS は、最大 14 個の CLINK (VSM3 の場合は 8 個) によって参照できます。

CONFIg HOST 文

CONFIg HOST 文は、MVS ホスト、およびオプションで NOMIGRAT または NORECLAM パラメータ、あるいはその両方を定義するオプションの文です。

注 -

- HOST文を指定する場合は、そのホストと接続しているVTSSのVTSS文のあとに指定する必要があります。
- ホスト定義はまったくしないか、または定義する場合は、すべてのホストについて定義する必要があります。VTSSと接続しているホストの一部についてのみ定義した場合、VTCSからエラーが発行されます。

構文

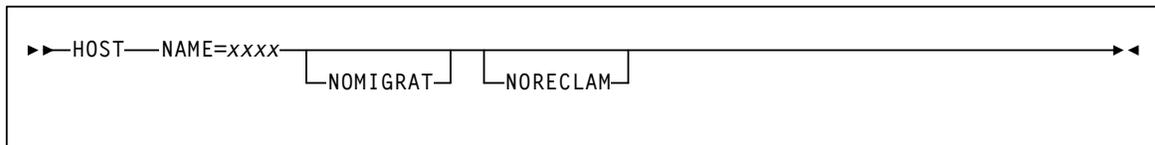


図 3-24 CONFIg HOST 文の構文

パラメータ

NAME=xxxx

LIBGENのホスト名を指定します。

NOMIGRAT

オプションで、このホストが、接続先の VTSS からマイグレーション、統合、あるいは VTV またはマネージメントクラスを基準としたエクスポートを実行できないことを指定します。NOMIGRATは、自動および強制マイグレーション、統合を制御します。このパラメータはオプションです。

注 -

- NOMIGRAT を指定すると、NORECLAM も設定されます。
- IMMEdmig KEEPおよびIMMEdmig DELETEは、CONFIG HOST NOMIGRATと互いに排他的です。IMMEdmig KEEPおよびNOMIGRAT DELETEは、CONFIG HOST NOMIGRATと互いに排他的です。両方を指定した場合は、IMMEdmigの値が NOMIGRATを無効にします。VTCSは、この重複に関するメッセージを発行しません。

NORECLAM

オプションで、このホストが、アクセスしている VTSS を使用して、自動リクレイム処理または強制リクレイム処理を開始できないことを指定します (このホストでは、MVCDRain を使用して、強制 MVC ドレインを行うことはできます)。このパラメータはオプションです。

CONFIg TAPEPLEX 文

CONFIg TAPEPLEX 文は、Cross-TapePlex Replication (CTR) 用の値または VLE への複製用の値を VTCS に対して定義します。

注 -

- ダウンレベルのホストがアクティブになっている場合は、このステートメントを指定しないでください。CONFIg TAPEPLEX を指定すると、ダウンレベルのホストが機能しなくなります。
- この文を指定する場合は、CDS レベルが V61ABOVE 以上でなければなりません。
- Cross-Tape Replication の詳細については、『HSC および VTCS の管理』および『ELS Disaster Recovery and Offsite Data Management Guide』を参照してください。

構文

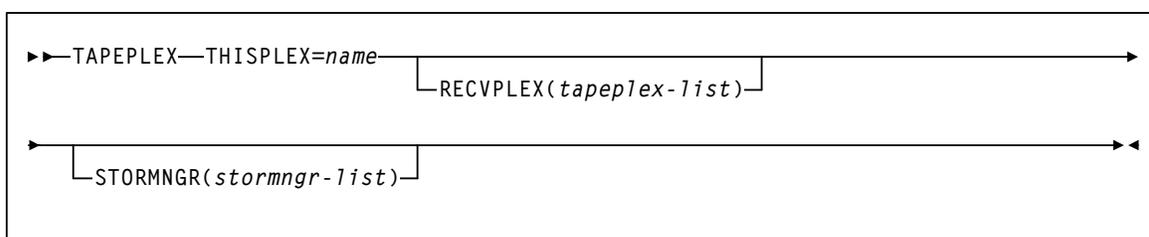


図 3-25 CONFIg TAPEPLEX 文の構文

パラメータ

THISPLEX

この構成での TapePlex 名を指定します。この名前は、Cross-TapePlex Replication によって別の TapePlex にエクスポートされた VTV コピーに関連付けられます。

name

TapePlex 名です。この名前は、ローカル SMC で定義されている SMC LIBrary または TAPEplex コマンドで指定した名前と同じでなければなりません。

RECVPLEX

オプションで、(Cross-TapePlex Replication を介した) VTV コピーの受信を許可する TapePlex のリストを指定します。リストに含まれていない TapePlex に対して、ホストが VTV コピーを送信またはスクラッチしようとする、拒絶されます。

tapeplex-list

TapePlex 名のリスト

注 - 受信側 TapePlex の RECVPLEX を指定します。また送信側 TapePlex の RECVPLEX を指定して、この TapePlex が受信側 TapePlex から VTV をリコールできるようにすることもできます。

STORMNGR

オプションで、この TapePlex に接続されている VLE アプライアンスのサブシステム名を指定します。

stormngr-list

VLE サブシステム名のリスト。詳細については、『*Configuring the Host Software for VLE*』を参照してください。

CONSolid

CONSolid コマンドは、MVC 上の VTV を統合します。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

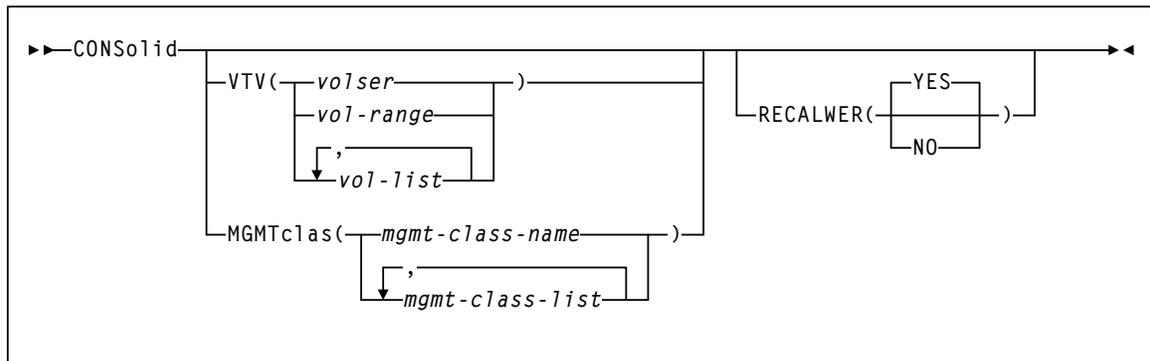


図 3-26 CONSolid の構文

パラメータ

VTV

オプションで、統合する VTV (1つ以上) を指定します。

volser、***vol-range*** または ***vol-list***

VTV(1つ以上)のvolserです。最大で2,000のVTVを指定できます。

MGMTclas

オプションで、統合するVTVを決定するマネージメントクラス(1つ以上)の名前を指定します。

mgmt-class-name | ***mgmt-class-list***

MGMTclas制御文で定義したマネージメントクラス(1つ以上)の名前です。詳細については、[416 ページの「MGMTclas 制御文」](#)を参照してください。1つのマネージメントクラスを指定することにより、最大で2,000のVTVを統合できます。

RECALWER

オプションで、VTCS が 読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールするかどうかを指定します。

YES

読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールします (デフォルト)。

NO

読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールしません。

Consolidation レポート

Consolidation レポートには、次のメッセージが表示されます。

MIGRATE ONLY FROM VTSS *vtssname*

説明: VTV が VTSS *vtssname* に常駐しています。

REMIGRATE FROM MVC *mcname* VIA VTSS *vtssname*

説明: VTCS が、統合する VTV を MVC *mcname* からリコールしています。

VTV *vtvname* NOT SELECTED; VTV IS SCRATCH

説明: VTCS は、指定された VTV の統合を行いません。この VTV は、スクラッチであるか、あるいは初期化されていません。

VTV *vtvname* NOT SELECTED; VTV ALREADY CONSOLIDATED

説明: 指定された VTV はすでに統合されています。

VTV *vtvname* NOT SELECTED; VTV RECORD NOT FOUND

説明: VTCS は、指定された VTV の統合を行いません。この VTV は、CDS 内にレコードを持っていません。

VTV *vtvname* NOT SELECTED; VTV STILL MOUNTED ON DRIVE

説明: VTCS は、指定された VTV を統合できません。この VTV は、現在マウントされているか、あるいは現在回復中です。

REDRIVING REQUEST BECAUSE OF ERROR

説明: VTCS は、失敗した統合要求を再試行しています。

CONSOLID CMD PROBLEM DECODING VCI REQUEST FROM HSC

説明: 統合が失敗しました。

VTV *vtvnumber* NOT SELECTED: LIMITED ACCESS TO VTSS

説明: (NOMIGRAT パラメータの指定により) 統合機能を使用できないホストから統

合要求が発行されたため、要求が失敗しました。

MIGRATE NO MVCS AVAILABLE

説明：十分な数の空き MVC を使用できないため、要求を完了できません。

DEComp

DEComp コマンドは、HSC CDS内のVSM構成情報をリストします。

インタフェース :	UUI - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

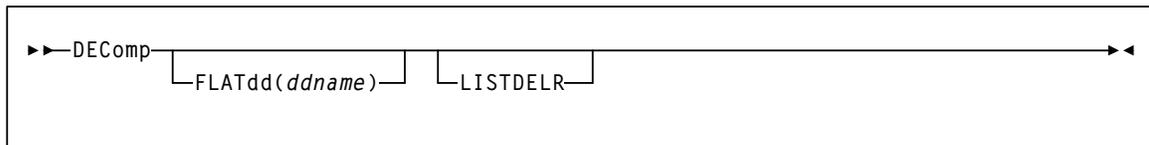


図 3-27 DEComp の構文

パラメータ

FLATdd

オプションで、フラットファイルが必要な場合に、出力先 DD 名を指定します。

ddname

JCLに含まれたフラットファイルのDD名

LISTDELR

オプションで、「論理的に削除される」MVC と VTV の VOLSER の範囲を指定します。

注 – LISTDELR はレベル G 以上の CDS でのみ有効です。

出力

FLATDDパラメータ出力

図 3-28 に、FLATDDパラメーターを指定したDEComp 出力の例を示します。

```
CONFIG CDSLEVEL(V62ABOVE)
GLOBALMAXVTV=32000 MVCFREE=40 VTVattr=ALLmount RECALWER=YES
REPLIcat=ALWAYS LOCKSTR=STK_VTCS_LOCKS
RECLAIMTHRESHLD=70 MAXMVC=40 START=35
VTVVOL LOW=905000 HIGH=999999 SCRATCH
VTVVOL LOW=C00000 HIGH=C25000 SCRATCH
VTVVOL LOW=RMM000 HIGH=RMM020 SCRATCH
MVCVOL LOW=N25980 HIGH=N25989
MVCVOL LOW=N35000 HIGH=N35999
VTSSNAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
  RTDNAME=VTS18800 DEVNO=8800 CHANIF=0A
  RTDNAME=VTS18801 DEVNO=8801 CHANIF=0I
  RTDNAME=VTS18802 DEVNO=8802 CHANIF=1A
  RTDNAME=VTS18803 DEVNO=8803 CHANIF=1I
  VTDLOW=8900 HIGH=893F
VTSSNAME=VTSS2 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
  RTDNAME=VTS28804 DEVNO=8804 CHANIF=0A
  RTDNAME=VTS28805 DEVNO=8805 CHANIF=0I
  RTDNAME=VTS28806 DEVNO=8806 CHANIF=1A
  RTDNAME=VTS28807 DEVNO=8807 CHANIF=1I
  VTDLOW=9900 HIGH=993F
```

図 3-28 DEComp FLATDD 出力の例

SLSPRINT出力

図 3-29 に、SLSPRINTへのDEComp 出力の例を示します。

```
SLUADMIN (7.0.0)      StorageTek Enterprise Library Software Utility    PAGE 0001
TIME 09:07:06        Control Card Image Listing                                DATE 2010-03-31

DECOM
SLS1315I SSRDMP.P775644.TESTCDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET
TIME 09:07:06 VTCS DECOMPILE
CONFIG CDSLEVEL(V62ABOVE)
GLOBALMAXVTV=32000 MVCFREE=40 VTVattr=ALLmount RECALWER=YES
REPLICat=ALWAYS LOCKSTR=STK_VTCS_LOCKS
RECLAIMTHRESHLD=70 MAXMVC=40 START=35
VTVVOL LOW=905000 HIGH=999999 SCRATCH
VTVVOL LOW=C00000 HIGH=C25000 SCRATCH
VTVVOL LOW=RMM000 HIGH=RMM020 SCRATCH
MVCVOL LOW=N25980 HIGH=N25989
MVCVOL LOW=N35000 HIGH=N35999
VTSSNAME=VTSS1  LOW=70 HIGH=80  MAXMIG=3  RETAIN=5
  RTDNAME=VTS18800 DEVNO=8800 CHANIF=0A
  RTDNAME=VTS18801 DEVNO=8801 CHANIF=0I
  RTDNAME=VTS18802 DEVNO=8802 CHANIF=1A
  RTDNAME=VTS18803 DEVNO=8803 CHANIF=1I
  VTDLOW=8900 HIGH=893F
VTSSNAME=VTSS2  LOW=70 HIGH=80  MAXMIG=3  RETAIN=5
  RTDNAME=VTS28804 DEVNO=8804 CHANIF=0A
  RTDNAME=VTS28805 DEVNO=8805 CHANIF=0I
  RTDNAME=VTS28806 DEVNO=8806 CHANIF=1A
  RTDNAME=VTS28807 DEVNO=8807 CHANIF=1I
  VTDLOW=9900 HIGH=993F
```

図 3-29 DEComp SLSPRIN 出力の例

DELETSCR

DELETSCR コマンドは、VTSSからスクラッチVTVを削除し、マイグレーション済VTVの、MVCとのリンクを切断します。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

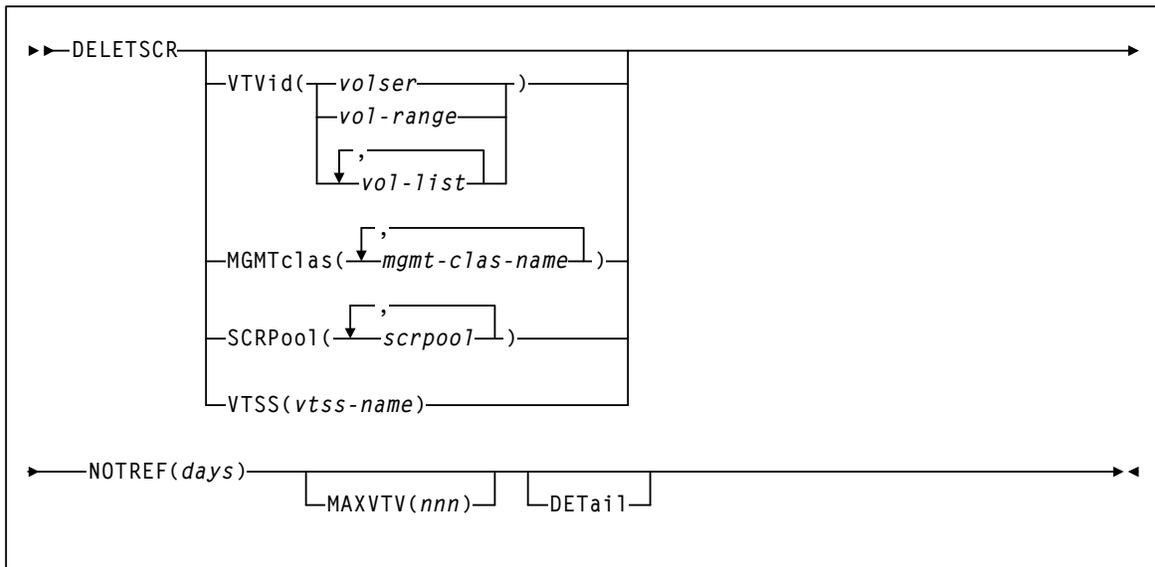


図 3-30 DELETSCR 構文

パラメータ

VTVid

オプションで、削除する VTV (1つ以上) を指定します。

volser、*vol-range* または *vol-list*

VTV(1つ以上)のvolserです。

MGMTclas

オプションで、VTV のマネージメントクラス (1 つ以上) を指定します。

mgmt-class-name

MGMTclas 制御文で指定したマネージメントクラス名です。

SCRPool

オプションで、スクラッチプール (1つ以上) を削除するように指定します。プールがVTVおよび実ボリュームを含む場合、DELETSCRは、VTVのみを削除します。

SCRPOOL

既存のHSCスクラッチプール

VTSS

オプションで、指定した VTSS 内のスクラッチ VTV が削除されるよう指定します。

vtss-name

VTSS名。

注 – VTVid、MGMTclas、SCRPool、VTSS はいずれか 1 つしか指定できません。それらのパラメータの1つを指定しない場合、VTCSは **すべての** スクラッチVTVを処理します。

NOTREF

DELETSCRによって削除されるVTVが最後に参照されてからの日数を指定します。

days

日数を表します(1-999)。

MAXVTV

オプションで、DELETSCR が削除する VTV の最大数を指定します。これは最大であり、ターゲットではないので注意してください。

nnn

VTVの最大数(0-999)。VTVの最大数を指定しない場合、DELETSCRはすべてのスクラッチVTVを削除します。VTV の最大数を 0 に指定した場合、DELETSCR は VTV を削除しませんが、**要約**レポートにより、DELETSCR を実行した場合に**何本**の VTV が削除されるかを示します (つまり、そのレポートはただのスナップショットです)。

DETail

オプションで、NOTREF 期間内に参照され (削除処理から除外され) た VTV の要約レポートおよび詳細レポートを作成します。

DELETSCRレポート

図 3-31 に、以下をバッチ起動した場合の DELETSCR レポートの例を示します。
DELETSCR MGMTCLAS(MC1) NOTREF(60) MAXVTV(10) DET

```

SLUADMIN (7.0.0) StorageTek Enterprise Library Software Utility          PAGE 0001
TIME 06:32:03                SCRATCH VTV DELETE                        DATE 2010-03-31

SLS6833I VTV VTV100 deleted from MVC M00001
SLS6835I VTV VTV101 excluded - referenced within 60 days
SLS6833I VTV VTV102 deleted from MVC M00003
SLS6835I VTV VTV103 excluded - referenced within 60 days
SLS6835I VTV VTV104 excluded - referenced within 60 days
SLS6833I VTV VTV105 deleted from MVC M00007
SLS6833I VTV VTV106 deleted from MVC M00157
SLS6834I VTV VTV107 deleted
SLS6833I VTV VTV108 deleted from MVC M00072
SLS6833I VTV VTV110 deleted from MVC M00757
SLS6833I VTV VTV111 deleted from MVC M00767
SLS6833I VTV VTV112 deleted from MVC M01057
SLS6834I VTV VTV113 deleted

SUMMARY:
10 scratch VTVs deleted
1 VTV EXCLUDED - NOT SCRATCH VOLUME
0 VTVS EXCLUDED - NOT INITIALIZED
3 SCRATCH VTVS EXCLUDED - REFERENCED WITHIN 60 DAYS
6 scratch VTV delete candidates bypassed after MAXVTV limit 10 reached

```

図 3-31 DELETSCR レポート

DELETSCRレポートの内容

DELETSCR レポートは以下を示します。

- 削除された各VTVの行。
- DETail が指定された場合、除外された各VTVの行（NOTREF期間内に参照されたVTVの行）。
- 次の要約情報。
 - 削除されたVTVの合計。
 - 除外された VTV の合計 - スクラッチではない。
 - 除外された VTV の合計 - 初期化されていない。
 - 除外された VTV の合計 - 常駐していないがマイグレーションされていない。
 - 除外された VTV の合計 - NOTREF 期間中に参照されている。
 - 除外された VTV の合計 - MAXVTV 限度に達している。
 - 除外された VTV の合計 - 特定のマネージメントクラス以外。

DIRBLD

DIRBLD コマンドは、定義されているすべての CDS コピーのデータベースディレクトリーを再構築します。

制御データセットには、さまざまなインポート場所へのポインターディレクトリーが含まれています。このデータセットが破損すると、運用上の問題が発生します。通常、このようなエラーは HSC によって自動修正されます。DIRBLD ユーティリティーは、破損した CDS データベースディレクトリーを修復します。このユーティリティーは、HSC の停止中または実行中に実行して、ディレクトリーの損傷を修復し、運用を続行できます。すべての CDS コピーを入力として実行する必要があります。

注意 – 使用を誤ったり、運用条件が不適切な場合は、CDS がさらに破損する恐れがあります。DIRBLD ユーティリティーを実行する前に、Oracle StorageTek サポートにお問い合わせください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶▶ DIRBLD ◀◀
```

図 3-32 DIRBLD の構文

パラメータ

なし

DISMount

DISMount コマンドは、カートリッジまたは VTV をマウント解除します。

ボリュームはオペレーティングシステムで巻き戻してアンロードできますが、実際のドライブまたは VTD からはマウント解除できないこともあります。このコマンドは、ホストが特定の ACS と通信できない (切断モード) 場合などに備えて用意されています。

通信中 (接続モード) のホストは、特定の ACS と通信を行うことができないホストに代わって、テープの処理を半自動化できます。HSC または VTCS がボリュームをマウント解除しない場合は、ボリュームがアンロードされたことを確認してから DISMount コマンドを実行する必要があります。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

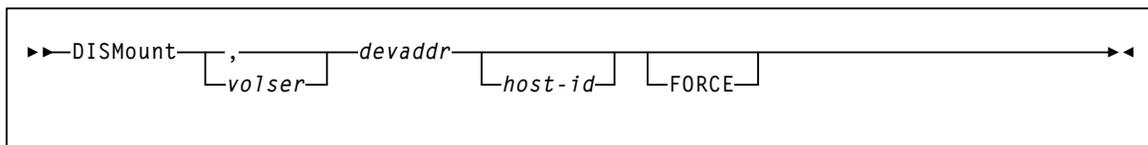


図 3-33 DISMount の構文

パラメータ

volser

マウント解除するボリュームを指定します。*volser* オペランドは任意選択です。指定がない場合、ロボットはデバイスにマウントされているボリュームをマウント解除します。

volser を指定しない場合は、デバイスアドレスの直前にカンマを入力して欠落オペランドを示す必要があります。次に例を示します。

```
DISMOUNT ,B00
```

devaddr

ボリュームのマウント解除元となるトランスポートのデバイスアドレスを指定します。

host-id

オプションで、DISMount コマンドが指定されたホストのデバイスアドレス (JES2 および JES3 いずれの場合も SMF システム識別子) に対して行われることを示します。

FORCE

オプションで、ボリュームがマウント解除される前に、ドライブがアンロードされるよう指定します。仮想ドライブには指定できません。

Display

Display コマンドは、各種 ELS コンポーネントの状態と現在の設定を表示します。

このコマンドには、次の表に一覧されているオプションを指定できます。
各オプションの詳細な説明は、次ページ以降を参照してください。

注 – Display コマンドを実行すると、Query キーワードが Display キーワードに置換されます。コマンドの処理は変わりません。

表 3-1 Display コマンドのオプション

オプション	表示される出力
Acs	1 つまたは複数の ACS の状態
ACTive	アクティブな VTCS 処理
AlI	CDS および ACS の状態
ALLOC	HSC 割り振り設定
CAP	CAP の設定および状態
CDS	CDS のすべてのコピー、ジャーナル (アクティブな場合)、複数の操作設定 (クリーニングカートリッジ接頭辞、SMF レコードの種類など)、およびすべての HSC 定義のホストの状態
CLink	クラスタリンクの状態
CLUster	クラスタの状態
CMD	ELS コマンドの詳細情報
COMMPath	HSC ホスト間通信の現在の設定
CONFIG	CONFIGパラメータの設定
DRives	各トランスポートアドレスに関する現在のマウント活動、およびキューにあるマウント活動
FEATures	VSM 基本または拡張管理機能のどちらかを有効にするか
EXceptns	ハードウェアの状態
LMUPDEF	LMUPATH 文を含む、現在ロードされている定義データセットの情報
LOCK	VTCS ロックの状態
Lsm	LSM の状態
Message	ELS メッセージの詳細情報
MGMTDEF	アクティブな MGMTclas 文に関する情報
MIGrate	マイグレーションの状態
MNTD	MNTD コマンドで設定した HSC マウントオプションの現在の設定
MONitor	監視コンソールのリスト 注: このオプションの詳細については、『 <i>ELS Legacy Interfaces Reference</i> 』を参照してください。
MVC	特定の MVC に関する情報

表 3-1 Display コマンドのオプション (続き)

オプション	表示される出力
MVCDEF	アクティブな MVCPool 文に関する情報 注: このオプションの詳細については、『 <i>ELS Legacy Interfaces Reference</i> 』を参照してください。
MVCPool	特定の MVC プールに関する情報
OPTion	OPTion コマンドで設定した一般 HSC オプションの現在の設定
Queue	キューに入っている VTCS 処理の状態
REPlicat	VTV 複製の状態
Requests	すべての保留中 LMU 要求:
RTD	1 つまたは複数の RTD の使用状況
SCRatch	サブプール名、ACS id、LSM id、メディアタイプ、記録方式、または所有ホスト名別のスクラッチ数
SCRPDEF	SCRPOOL 文を含む、現在ロードされている定義データセットの情報 注: このオプションの詳細については、『 <i>ELS Legacy Interfaces Reference</i> 』を参照してください。
SEN	SEN LISTEN 要求とその状態
SERVER	サーバー (HSC) の状態、サービスレベルと機能を含む
SRVlev	コマンドの発行元であるシステム上で稼働している HSC の現行サービスレベル
Status	コマンドの発行元ホストで現在アクティブになっている保留要求の状態
STORCLas	ストレージクラスに関する情報
STORMNGR	外部記憶マネージャーと、VTSS からそのマネージャーに対して定義されたパスの状態
TASKs	タスクの状態
THRshld	サブプール名、ACS ID、LSM ID、メディア名、および記録方式別のスクラッチ数とスクラッチ限界値の情報
VOLDEF	VOLATTR 文を含む、現在ロードされている定義データセットの情報 注: このオプションの詳細については、『 <i>ELS Legacy Interfaces Reference</i> 』を参照してください。
Volser	ボリューム情報
VSCRatch	仮想スクラッチ数の診断情報
VTD	VTD の状態
VTSS	VTSS の状態
VTV	VTV の状態

Display Acs

Display Acs は 1 つまたは複数の ACS の状態を表示します。次のような情報が含まれる可能性があります。

- パーティション ID
- LMU と HSC の互換性レベル
- 冗長な電子接続 (ライブラリコントローラの概要)
- 使用可能なスラッチボリュームと空きセル

インターフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

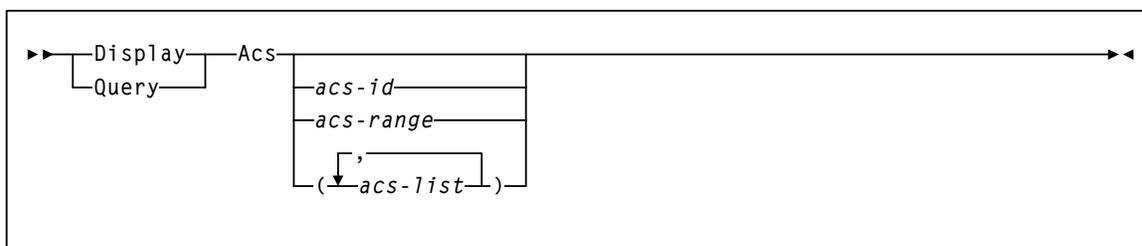


図 3-34 Display Acs の構文

パラメータ

acs-id または *acs-range* または *acs-list*

状態を表示する 1 つまたは複数の ACS を指定します。*acs-list* の各要素は、単一の ACSid または ACSid の範囲のどちらでもかまいません。リスト内の各要素はコンマまたはブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

acs-id が指定されていない場合は、ライブラリ内に定義されたすべての ACS の状態が表示されます。

出力

```
SLS1000I ACS 00 status: Connected 658
Partition ID=000
Compatibility levels: HSC=23, LMU=23
Redundant Electronics Configured
Scratch Volumes available..... 0
Free Cells available..... 2583
RE Library Summary:
LIB LC Mode Status IP Addr/Host Name
1 A standby 10.80.46.170
1 B active Online 10.80.46.171
2 A active not assigned
2 B standby not assigned
3 A active not assigned
3 B standby not assigned
4 A active not assigned
4 B standby not assigned
```

Display ACTive

Display ACTive は、アクティブな VTCS 処理を表示します。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

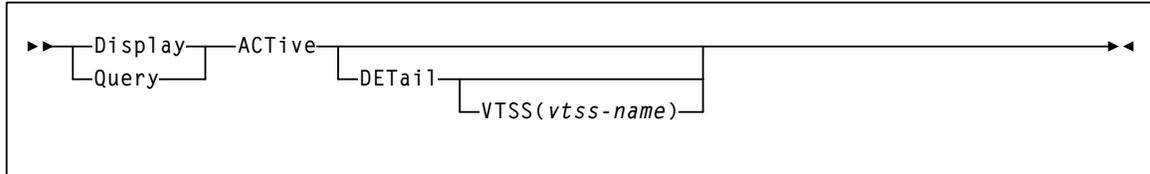


図 3-35 Display ACTive の構文

パラメータ

Active

DETail

オプションで、詳細な状態を表示します。

VTSS

オプションで、指定された VTSS の処理状況を表示します。

vtss-name

VTSS名。

Display Active および Display Queue の出力

図 3-36 に、Display Active の出力例を示します。

```
MIGRATES=3RECALLS=2RECLAIMS=0
```

図 3-36 Display Active と Display Queue の出力例 (詳細なし)

図 3-37 に、Display Active DETailの出力例を示します。

Function	ID	VTV	MVC	RTD	VTSS	Task	Reason
Reclaim@	01509	-	-	-	-	RCM	Child Finish
.ReclmMVC	01516	*ABORT 021688	-	-	-	RCM	Active
.ReclmMVC	01517	-	021591	-	-	RCM	Child Finish
. VtvMover	01532	-	021591	-	-	RCM	Child Finish
.	Recall	01533	Y00388	-	!ALLVTSS	Drv	RTD allocation
			021591				
.ReclmMVC	01518	-	021752	-	-	RCM	Child Finish
. VtvMover	01582	-	021752	-	-	RCM	Child Finish
.	Recall	01583	-	021752	-	!ALLVTSS	DrvRTD allocation
.ReclmMVC	01519	-	022527	-	-	RCM	Queued
.ReclmMVC	01520	-	021650	-	-	RCM	Queued
.ReclmMVC	01521	-	022535	-	-	RCM	Queued
.ReclmMVC	01522	-	021620	-	-	RCM	Queued
.ReclmMVC	01523	-	021545	-	-	RCM	Queued
.ReclmMVC	01524	-	021668	-	-	RCM	Queued
Migrate@	01563	Demand <=10	-	-	Cmd	Child Finish	
.Migrate	01564	-	-	-	HBVTSS19	Cmd	Active
Migrate	01568	X00560 021763	2A0A	RTD	VTV lock		
			HBVTSS18				
Migrate	01569	X00560 021766	2A0B	RTD	VTV lock		
			HBVTSS18				
Migrate	01570	X00560 022534	2A01	RTD	VTV lock		
			HBVTSS18				
Migrate	01571	X00560 022525	2A06	RTD	MVC mount		
			HBVTSS18				
Reclaim@	01580	-	-	-	-	RCM	Queued
Display@	01590	-	-	-	-	DSP	Active
*SLS5013I Command completed (0)							

図 3-37 Display Active DETail の出力例

注 - リクレイム要求が取り消しまたは異常終了した場合、*ABORTが要求の画面に表示されます。

出力フィールド

Function列には、要求の階層がインデントして表示されます。VTSS列には、VTSS名またはVTSSリストが表示されます。Task列には、現在要求に対応しているタスクが表示されます（Display Tasksで報告される情報と同じです）。

指定したパラメータに応じて、出力には特定の VTSS への要求のみ含まれる場合や、キューに入った状態の要求のみ、アクティブ状態の要求のみ、またはすべての要求の出力となる場合があります。先述のとおり、要求の特性や状況に関する情報を表示するため、VTV および MVC 列も使用されます。

Function

要求のタイプ。要求の階層とその関係は、この列の値のインデントによって示されます。次のいずれかの値を取ります。

AllocSCR

スクラッチ VTV へのジョブ割り振り要求。

AllocVTV

特定の VTV へのジョブ割り振り要求。

Audit#

AUDIT ユーティリティーの要求。

Cancel@

取り消しコマンド。

Consolid#

ユーティリティータスクを統合またはエクスポートします。

Consolid

統合 MVC に再マイグレーションする VTV をリコールします。これは、Int_cons または Consolid# 要求への子要求として表示されます。

Dismount

VTD から VTV をマウント解除します。

Display@

表示または照会コマンド。

Drain

ドレインまたはリクレイム処理中の再マイグレーションのため、MVC から VTV をリコールします。これは、VtvMover 要求の子です。

Drain@

ドレインコマンドまたはユーティリティー。

DrainMVC

ドレインされる MVC あたり 1 つの DrainMVC 要求があります。DrainMVC は、Drain@ 要求の子要求で、単一 MVC のドレインプロセス全体の管理を担当します。VTV 列は、MVC に対する処理の状況を示すのに使用されます。

DELETSCR

スクラッチユーティリティーを削除します。

Getmgpol

現行のマネージメントクラスおよびストレージクラスの定義を取得します。

Getconfig

構成情報を取得します。

HSCChnge

変更されるパラメータファイルの通知。

Import#

ユーティリティーによる VTV または MVC のインポート。

Int_cons

PGMI で開始した統合要求

Migrate

MVC への VTV のマイグレーションを実行する一般要求。これは、ほかのいくつかの要求タイプの子として表示されます。

Migrate@

マイグレーションコマンドまたはユーティリティー。これには、限界値へのマイグレーションおよび自動マイグレーションが含まれます。後者の 2 つについては、VTV および MVC 列に、コマンドのソースとターゲットの限界値についての詳細が示されます。

Mount

VTV を VTD にマウントします。状況に応じて、これは後で VTV 転送またはリコール要求としてみなすことができます。

Move MVC

再統合またはアーカイブで処理される MVC ごとに 1 つの Move MVC 要求が存在します。Move MVC は、MoveVTV# 要求の子要求で、単一 MVC の VTV 移動プロセス全体の管理を担当します。VTV 列は、MVC に対する処理の状況を示すのに使用されます。

MoveVTV#

これは、MVC 間で VTV のコピーを移動するための ARCHIVE または RECONCILE ユーティリティーコマンドからの要求です。VTV 列の値 -TIME- は、ELAPSED パラメータが指定されていたことを示します。

MvcMaint

MVCMAINT ユーティリティーの要求。

MVC_chek

MVC のチェック状況。

MVC_eot

ドレインまたはリクレイムが完了した後で、MVC のテープ終了位置をリセットします。これは、DrainMVC、ReclmMVC、または Move MVC 要求の子です。

MVC_upd

MVC 状況をリセットまたは更新します。

MVC_inv

MVC のAUDIT。これは、Audit# 要求への子要求として表示されます。

MVCpool#

ユーティリティーの MVC プールの詳細および状況を取得します。

PGMI_req

PGMI で受信された、まだデコードされていない要求。

Query@l

照会または表示コマンド。

Recall

MVC からの VTV のリコールを実行する一般要求。マウントシステムからの Cross TapePlex Autorecall (CTA) 要求を含むことがあります。

リコールは、ほかのいくつかの要求タイプの子として表示されます。

Recall@

リコールコマンドまたはユーティリティー。

Reclaim@

自動リクレイム要求、あるいはリクレイムコマンドまたはユーティリティー。
VTV 列の値 -TIME- は、ELAPSED パラメータが指定されていたことを示します。

ReclmMVC

リクレイムされる MVC ごとに 1 つの ReclmMVC 要求があります。ReclmMVC は、Reclaim@ 要求の子要求で、単一 MVC のリクレイムプロセス全体の管理を担当します。VTV 列は、MVC に対する処理の状況を示すのに使用されます。

Reconcil

クラスタ内の 2 つの VTSS のコンテンツにクロスチェックを実行します。

Replicat

クラスタ内の VTSS 間で VTV の複製を実行します。

Scratch

HSC からの VTV 要求をスクラッチします。

Sel_scr

PGMI スクラッチ選択。

Set@

設定コマンド。

Transfer

2 つの VTSS 間で VTV を転送して、VTV を VTD にマウントします。

Unload

RTD からの MVC のアンロード。

Uscratch

HSC からの VTV 要求をアンスクラッチします。

Vary_dev

個々の RTD または CLINK に対して VARY 処理を実行します。これは、VARY@ 要求への子要求として表示されます。

Vary@

VARY コマンド。

VtvMaint

VTVMaint ユーティリティの要求。

VTVMover

ドレインまたはリクレイムされるMVCごとに1つのVTVMover要求があります。これは、DrainMVC、ReclmMVC、または Move MVC 要求の子です。この要求は、一方のMVCから他方へのVTVの移動を担当します。

VTSS_inv

VTSS のAUDIT。これは、Audit# 要求への子要求として表示されます。

VTSS_list

VTSS 内に常駐する VTV のリストを取得します。これは、再統合または自動マイグレーション要求への子要求として表示されます。

VTV_upd

VTSS 内の VTV 状況を CDS と再同期します。

ID

プロセス ID は、範囲が 0 - 65536 の一意の数値です。プロセス ID が 65536 に達すると、ゼロに戻ります。

VTV

処理で現在使用されている VTV の VOLSER。要求のタイプによっては、その特性と状況に関する追加情報が含まれます。

MVC

この処理で現在使用されている MVC の VOLSER。要求のタイプによっては、その特性と状況に関する追加情報が含まれます。

VTSS

要求に関連した VTSS または VTSS リスト名。特殊値 !ALLVTSS は、適切な要件を持ついずれかの VTSS が使用されることを示します。

RTD

処理で現在使用されている RTD のデバイスアドレス。

TASK

キューを処理しているタスク、または要求がキューに入れられたタスク (Display Tasks で報告される情報と同じです)。

REASON

要求が待ち状態の理由(待ち状態のプロセスのみ)。

ACTIVE

この要求は現在処理中です。

CANCELLED

要求は、キャンセルされた後に終了しました。

CHILD FINISH

要求に子要求があり、その完了待ち。

DEVICE LOCK

要求に必要な RTD または CLINK デバイスが現在ロックされています。これは通常、別のホストと接続されていることを示します。

TASK LOCK

一般タスクロックの解放待ち。これは通常、別のホストと接続されていることを示します。

MVC LOCK

MVCロックの解放待ち。

VTV LOCK

VTVロックの解放待ち。

VTD LOCK

VTDロックの解放待ち。

RTD LOCK

RTDロックの解放待ち。

QUEUED

要求は、タスクの入力キュー内にあり、別の要求が完了または再スケジュールされるのを待機中です。

WAIT RESOURCE

(不特定の)リソースの使用状況待ち。

RTD ONLINE

続行のためRTDのオンライン状態待ち。

RTD ALLOCATION

RTDのアイドル状態または空き待ち。

MVC SELECTION

MVCまたはマイグレーションスロットの使用状況待ち。

STEAL A RTD

別の要求からのRTD割り振りのスチール待ち。

DBU DROP

DBUが高いため現在保留中。

MVC MOUNT

MVCのマウント待ち。

Display ALI

Display ALI と指定すると、CDS と ACS の状態が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

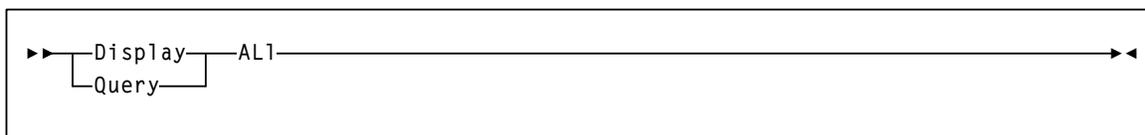


図 3-38 Display ALI の構文

パラメータ

なし

Display ALLOC

Display ALLOC と指定すると、HSC 割り振り設定が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

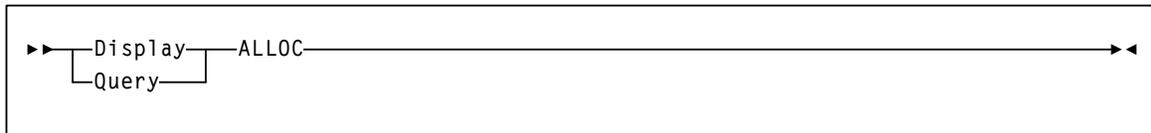


図 3-39 Display ALLOC の構文

パラメータ

なし

Display Cap

Display CAP と指定すると、CAP 設定と状態が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

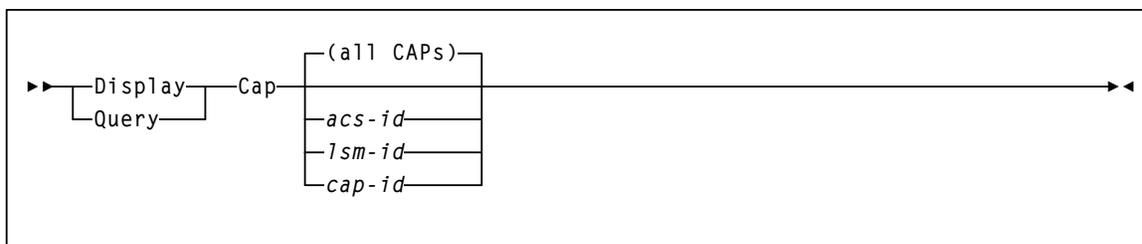


図 3-40 Display Cap の構文

パラメータ

注 – CAP 状態が RECOVERY になっている場合は、『HSC および VTCS の管理』で、この状態をクリアする方法を確認してください。

all CAPs

このホストに対してオンラインのすべての ACS に対するすべての CAP 活動を表示します。

acs-id

オプションで、特定の ACS に対するすべての CAP 活動を表示します。

lsm-id

オプションで、特定の LSM に対するすべての CAP 活動を表示します。

cap-id

オプションで、特定の CAP に対するすべての CAP 活動を表示します。

注 –

- *acsid*、*lsmid*、および *capid* パラメータは定位置オペランドです。定位置オペランドが指定されていない場合は省略時操作により、すべての ACS に対する CAP 活動の状態が表示されます。
 - *acsid*、*lsmid*、および *capid* は、リストとして表現することもできます。
-

出力

出力表示には、次の情報があります。

- CAPid
- CAP サイズ: PCAP (優先 CAP)、21 セルまたは 14 セル構成の 9740 (標準 CAP)、40 セル構成 (拡張 CAP)、20 セル構成 (9360 CAP)、30 セル構成 (9360 オプション CAP)、26 セル構成 (SL3000 CAP)、234 セル構成 (SL3000 AEM CAP)、または 39 セル構成 (SL8500 CAP)
- パーティション ID
- CAP を所有するホストのホスト ID
- 優先順位: CAP 優先値
- CAP モード: クリーニング、ドレイン、イジェクト、エンター、またはアイドル状態
- CAP の状態: アクティブ、自動モード、手動モード、オフライン、オンライン、または必要な回復、あるいはそのすべて

Display CDS

Display CDS を指定すると、CDS のすべてのコピー、ジャーナル (アクティブな場合)、およびセカンダリログファイル、操作設定 (クリーニングカートリッジ接頭辞、SMF レコードの種類など)、およびすべての HSC 定義のホストの状態が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

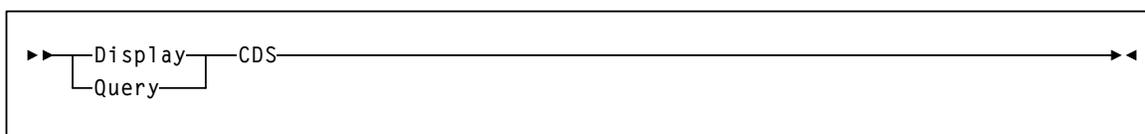


図 3-41 Display CDS の構文

パラメータ

なし

Display CLInk

Display CLInk を指定すると、クラスターリンクの状態が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

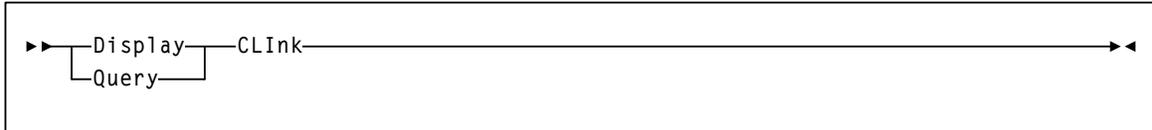


図 3-42 Display CLInk の構文

パラメータ

なし

出力

図 3-43 に、Display CLInk の出力例を示します。

```
VTSS Clink Name Status Usage Host Partner VTD
HBVTSS16 07 1A:0 PLEXNAME Online Free REMOTEAA 7
 06 1E:0 PLEXNAME Online Free REMOTEBA 6
HBVTSS18 07 1A:0 -Cluster Online Free HBVTSS19 AB07
 06 1E:0 -Cluster Online Free HBVTSS19 AB06
*SLS5013I Command completed (0)
```

図 3-43 Display CLInk の出力例

VTSS

プライマリまたは送信側VTSSの名前。

CLINK

VTSS 内の CLINK と接続先のバックエンドインタフェースに割り振られるデバイス ID の複合名。

NAME

次の値のいずれかです。

name

CLINK の接続先 TapePlex の名前。これにより、VTV の電子エクスポートに CLINK を使用することも指定します。パートナー列の VTSS 名は、この CLINK を介して VTV コピーを受信する VTSS の名前です。

-Cluster

TapePlex 内の VTV 複製に CLINK を使用すること、および CLINK がクラスタに含まれることを指定します。パートナー列の VTSS 名は、同じクラスタ内で動作するもう一方の VTSS の名前です。

STATUS

次のいずれかのリンク状況。

Maint

リンクに障害がある、もしくは保守モードに変更されています。

Offline

リンクはオフライン。すべてのホストおよびVTSSから使用できません。

Online

このリンクは複製に使用できます。

P_offlne

リンクはオフライン保留状態です。

P_online

リンクはオンライン保留状態です。

On-Sync

同期レプリケーションに利用できます。

On-Async

非同期レプリケーションに利用できます。

Recovery

リンクはエラーまたはオンライン変更操作後リセット処理中です。

Unusable

ハードウェアエラーまたは他に割り当てられているため、複製に使用できません。

UUI err

電子エクスポート向けに定義されている CLINK が、リモート VTCS と通信できないことを示しています。HSC JOBLOG に、問題の原因を示すメッセージがあるはずです。定義、ローカル SMC、またはリモート VTCS 上のリモート HTTP サーバーに問題があることが考えられます。

USAGE

次のいずれかのリンク状況。

Assigned

HOSTフィールド内のホストにリンクは割り当てられていますが、複製は現在実行されていません。VTCSがリンクの使用を開始または終了しているか、複製処理のエラーからの回復を施行しているときに、この状況が発生します。

Free

リンクがアイドル状態です（複製は実行されていません）。

Replicating

リンクは現在、複製を実行中です。

HOST

リンクが割り当てられているホスト。

PARTNER

セカンダリまたは受信側の VTSS。

VTD

通信の另一端を形成するパートナー VTSS 上にある VTD のアドレス。クラスタリンクの場合は、VTD の MVS アドレスがレポートされます。電子エクスポートリンクの場合は、もう一方の TapePlex 構成にアクセスできないため、レポートされません。この場合は、VTV の序数のみがレポートされます。

Display CLUster

Display CLUster を指定すると、クラスターの状態が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

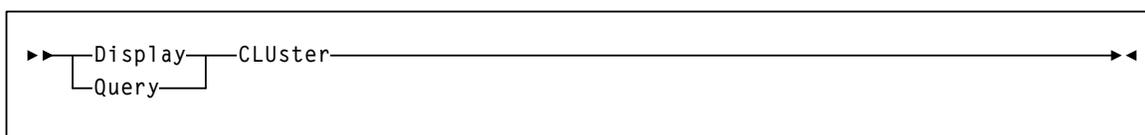


図 3-44 Display CLUster の構文

パラメータ

なし

出力

図 3-45 に、Display CLUster の出力例を示します。

NAME	VTSS	STATE	DIRECTION	VTSS	STATE	MODE
CLUSTER1	HBVTSS16	ONLINE	----->	HBVTSS17	ONLINE	Sync-replicate
CLUSTER2	HBVTSS18	ONLINE	<-----	HBVTSS19	QUIESCED	DEGRADED
CLUSTER3	HBVTSS20	ONLINE	<-----	HBVTSS21	ONLINE	Async-replicate
CLUSTER4	HBVTSS22	QUIESCED	<----->	HBVTSS23	ONLINEDEGRADED	

図 3-45 Display CLUster の出力例

NAME

クラスタ名。

VTSS

クラスタ内の VTSS の 1 つ。

DIRECTION

次のうちのいずれか1つ。

----->

もしくは

<-----

単一方向性クラスタ内での VTV の複製方向を示します。送信側VTSSから受信側VTSSに対してのみVTVの複製が可能です。

<---->

双方向性(ピアツーピア)クラスタとして構成されているVTSSを示します。VTVはVTSSのいずれか一方から他方に対して複製可能です。

STATE

次のいずれかのVTSSの状態。

QUIESCING

休止処理中の状態。

QUIESCED

休止した状態。

OFFLINE

オフライン状態。

OFFLINE-P

オフライン保留状態。

ONLINE

オンライン状態。

ONLINE-P

オンライン保留状態。

STARTED

VTSSは初期化され、要求された状態(オンライン、オフライン、または休止)への変更作業中です。

MODE

次のいずれかのクラスタ稼動モード。

Async-replicate

クラスタ内の両方のVTSSがVTCSに対してオンラインになっています。どちらかのVTSSが本番ワークロードを実行しますが、単一方向性(プライマリもしくはセカンダリ)クラスタ内では、送信側VTSSからのみVTVの複製を行います。クラスタ全体で同期レプリケーションは無効です。

Sync-replicate

クラスタ内の両方のVTSSがVTCSに対してオンラインになっています。どちらかのVTSSが本番ワークロードを実行しますが、単一方向性(プライマリもしくはセカンダリ)クラスタ内では、送信側VTSSからのみVTVの複製を行います。クラスタ全体で同期レプリケーションは有効です。

Degraded

双方向性(ピアツーピア)クラスタ内の2つのVTSSのうちの1つは、オフラインもしくは静止しています。本番ワークロードは残る一方のオンラインVTSSにより実行可能です。ただし、複製を要求するVTVは、他に使用可能かつ適格な全機能クラスタが存在しない場合にのみ、残りのVTSSに割り当てられます。この場合、複製されるVTVはKEEP属性で即時マイグレーションされて複製のキューに入り、ほかのVTSSがオンラインになった時点で複製が行われます。

ほかのVTSSがオンラインになった時点で、VTCSは両方のVTSSの内容を再統合します。

Degraded-2ndary

プライマリがVTCSに対してオンラインで、セカンダリはオフラインもしくは QUIESCEDです。ワークロードはプライマリ上で実行可能です。ただし、使用可能な全機能クラスタが他にない場合のみ、複製を必要とするVTVがプライマリに割り振られます。この場合、複製されるVTVはKEEP属性で即時マイグレーションされて複製のキューに入り、セカンダリがオンラインになった時点で複製が行われます。

Degraded primary

セカンダリがVTCSに対してオンラインで、プライマリはオフラインまたは停止状態です。ワークロードはセカンダリ上で実行可能です。ただし、使用可能な全機能クラスタが他にない場合のみ、複製を必要とするVTVがセカンダリに割り振られます。プライマリがオンラインになった時点で、VTCSはプライマリとセカンダリの内容を再統合します。

Non-operational

どのワークロードも、このクラスタでは使用できません。

CLINKs offline

定義されているすべてのCLINKがオフラインになっています。どのワークロードも、このクラスタでは使用できません。

Only 2ndary

セカンダリはVTCSに対してオンラインになっていますが、にはオンラインのCLINKがありません。ワークロードはセカンダリ上で実行可能です。ただし、使用可能な全機能クラスタが他にない場合のみ、複製を必要とするVTVがセカンダリに割り振られます。

Only primary

はVTCSに対してオンラインになっていますが、セカンダリにはオンラインのCLINKがありません。ワークロードはプライマリ上で実行可能です。ただし、使用可能な全機能クラスタが他にない場合のみ、複製を必要とするVTVがプライマリに割り振られます。この場合、Replicate VTVは、KEEPによってすぐにマイグレーションされ、複製のキューに入れられます。

Display CMD

Display CMD を実行すると、VTCS または HSC コマンドの構文と使用法が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

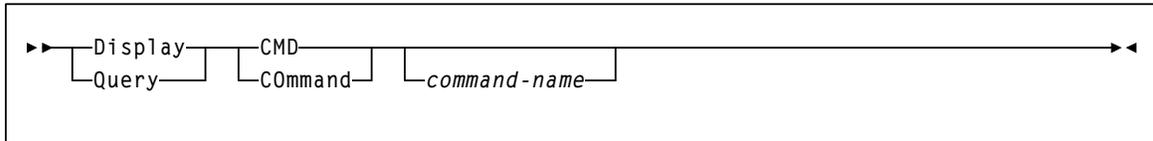


図 3-46 Display CMD の構文

パラメータ

CMD または **Command**

cmd-name

コマンド名。コマンド名が指定されていない場合は、すべての HSC/VTCS コマンドのリストが生成されます。

複数のオプションを指定できるコマンド (Display など) には、2 つの部分から成るコマンドを入力できます。次に例を示します。

```
D CMD D VTV
```

このコマンドを実行すると、Display VTV コマンドのヘルプ情報が表示されます。

Display COMMPath

Display COMMPath を実行すると、HSC ホスト間通信の現在の設定が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

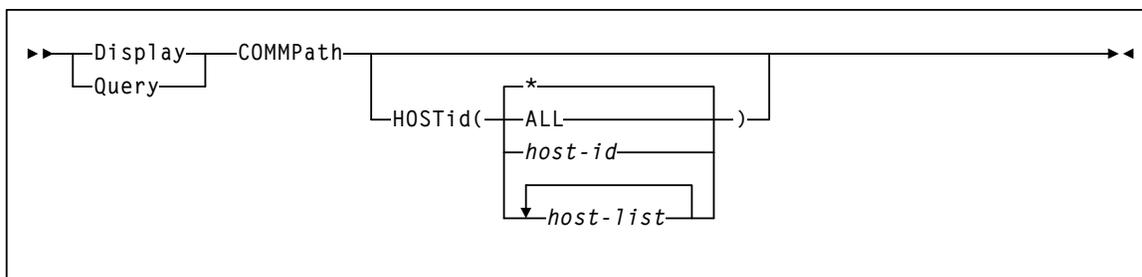


図 3-47 Display COMMPath の構文

パラメータ

host-id

オプションで、特定のホストに関する情報が必要であることを示します。

ALL

定義されたホストすべての設定値を表示します。環境内のホスト数によっては、表示が非常に長くなる場合があります。

host-id または host-list

情報を必要とする 1 つまたは複数のホスト。HSC は、指定された各ホストの現行設定値を表示するコンソールメッセージを出します。

host-list 内の各要素はコンマまたはブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。範囲は使用できません。

*

コマンドを入力したホストの設定値が表示されます。HOSTid が値なしで指定された場合、これは省略時値になります。

Display CONFIG

Display CONFIG を実行すると、CONFIG パラメータの設定が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

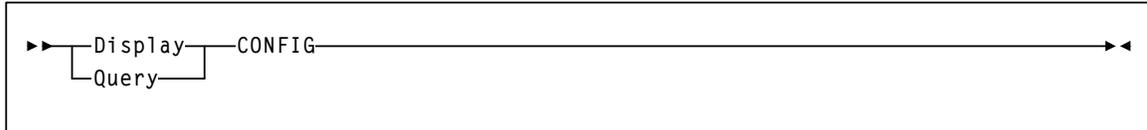


図 3-48 Display CONFIG の構文

パラメータ

なし

出力

Display CONFIG コマンドの出力例を以下に示します。

```

SLS6603I Configuration information
MaxVTV  MVCFree  VTVAttr  RECALWER  REPlicat  VTVPAGE  SYNCHREP
 4000      2    Scratch  Yes        Always    Standard No

MAXRTDS  FASTMIGR  INITMVC  MAXVTVSZ  FASTRECL  LOCKTOUT
 32        No      No        400       No        123

NLIBDRNR  NLIBMIGR  NLIBRECL  MVCMTTTO  LOGPOL
Yes        Yes      Yes        15        Optional

CDS level support:  V5/5.1  V6  V6.1  V6.2  V7
                                     *    *

Reclaim : Threshold  Max MVC  Start  Conmvc
                30      4      10     1

          Auto Migr Thr  Migr Tasks  Default  VSM  2GB/  Page  RTDs
VTSSNAME  Low  High      Min  Max      ACS  Model  4GB  Size  Yes
DVTSS16   65  70        2   3       FF   5     Yes  Large

Devno  RTD Type  ACS  Retain  VTSSNAME  RTD NAME  CHANIF
2A00   36TRACK  00  10     DVTSS16  SS162A00  00  0A:1
2A01   36TRACK  00  10     DVTSS16  SS162A01  01  0A:0
2A02   36TRACK  00  10     DVTSS16  SS162A02  02  0E:0

```

図 3-49 Display CONFIG の出力例

フィールド

注 – CONFIG GLOBAL 文のパラメータの詳細については、[215 ページの「CONFIG GLOBAL 文」](#)を参照してください。

MaxVTV

CONFIG GLOBAL MAXVTV の設定値

MVCFree

CONFIG GLOBAL MVCFREE の設定値

VTVAttr

CONFIG GLOBAL VTVattr の設定値 (SCRATCH または ALLmount)

RECALWER

CONFIG GLOBAL RECALWER の設定値 (YES または NO)

REPlicat

CONFIG GLOBAL REPlicat の設定値 (ALWAYS または CHANGED)

VTVPAGE

CONFIg GLOBAL VTVPAGE の設定値。VTV ページのサイズ (STANDARD または LARGE)

SYNCHREP

CONFIg GLOBAL SYNCHREP の設定値 (YES または NO)。

MAXRTDS

CONFIg GLOBAL MAXRTDS の設定値 (16 または 32)。

FASTMIGR

CONFIg GLOBAL FASTMIGR の設定値 (YES または NO)。

INITMVC

CONFIg GLOBAL INITMVC の設定値 (YES または NO)。

MAXVTVSZ

CONFIg GLOBAL MAXVTVSZ の設定値 (400、800、2000、または 4000)。

FASTRECL

CONFIg GLOBAL FASTRECL の設定値 (YES または NO)。

LOCKTOUT

CONFIg GLOBAL LOCKTOUT の設定値 (0 または 5 - 240)。

NLIBDRNR

CONFIg GLOBAL NLIBDRNR の設定値 (YES または NO)。

NLIBMIGR

CONFIg GLOBAL NLIBMIGR の設定値 (YES または NO)。

NLIBRECL

CONFIg GLOBAL NLIBRECL の設定値 (YES または NO)。

MVCMNTTO

CONFIg GLOBAL MVCMNTTO の設定値 (5 - 30 分)。

LOGPOL

CONFIg GLOBAL LOGPOL の設定値 (OPTIONal または REQuired)。

CDSLEVEL SUPPORT

アクティブなCDSにアクセスできるVTCSレベル。

THRESHOLD

RECLAIM THRESHLD の設定値。

MAX MVC

RECLAIM MAXMVCの設定値。

START

RECLAIM STARTの設定値。

CONMVC

RECLAIM CONMVCの設定値。

VTSSNAME

VTSSのID (VTSS NAMEの設定値)。

AUTO MIGR THR, LOW

VTSSの自動マイグレーション下限値(LAMT)の設定値。

AUTO MIGR THR, HIGH

VTSSのマイグレーション上限値(HAMT)の設定値。

MIGR TASKS, MIN

VTSSへの自動同時マイグレーションタスクの最少数の設定値(MINMIG)。

MIGR TASKS, MAX

VTSS への自動同時マイグレーションタスクの最大数の設定値 (MAXMIG)。

DEFAULT ACS

VTSS へのデフォルトのACSの設定値(DEFLTACS)。

VSM MODEL

2、3、または4

2GB / 4GB

2 GB / 4GB VTV サイズ構成の VTSS (Y または N)。

PAGE SIZE

VTV ページサイズ (STANDARD または LARGE)。

RTDs

VTSS に RTD があるかどうかを示します。

DEVNO

VTSS用のRTD MVSデバイス番号(RTD DEVNO設定値)。

RTD TYPE

RTDのタイプ。

ACS

このRTDを含んでいるACS。

RETAIN

VTSS RETAIN の設定値。

VTSSNAME

RTDに接続されたVTSSのVTSS識別子 (VTSS NAMEの設定値)。

RTD NAME

VTSS用のRTD名 (RTD NAME設定値)。

CHANIF

RTDのチャンネルID (RTD CHANIF の設定値)。

Display DRives

Display DRives を実行すると、各トランスポートアドレスに関する現在のマウント活動、およびキューにあるマウント活動が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

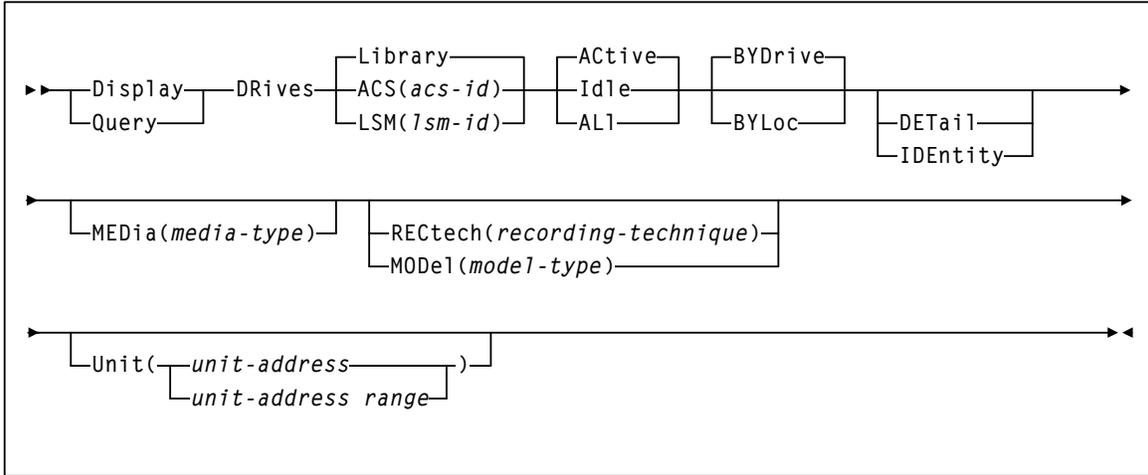


図 3-50 Display DRives の構文

パラメータ

Library

ライブラリ制御のドライブのみが処理されます。これはデフォルトです。

ACS

特定の ACS のドライブのみが処理されます。

acs-id

ドライブ情報を表示する ACS を指定します。

LSM

特定の LSM のドライブのみが処理されます。

lsm-id

ドライブ情報を表示する LSM を指定します。

ACtive

アクティブなドライブのみが処理されます。これはデフォルトです。

Idle

アイドル状態のドライブのみが処理されます (オフラインになっている可能性のあるドライブも含まれます)。

ALI

ドライブは状況とは関係なく処理されます。

BYDrive

ドライブをホストのデバイスアドレスで表示します。これはデフォルトです。

BYLoc

ドライブをライブラリの位置で表示します。

SHOWSlot

オプションで、ドライブをホストのデバイスアドレスで表示し、SL3000 および SL8500 ライブラリのドライブについてドライブベイの位置 (スロット) を表示します。

DETail

任意選択により、ドライブメディアタイプおよび記録技法を表示します。

IDEntity

オプションで、ドライブのトランスポートのシリアル番号とワールドワイドネームを表示できます。

この情報を情報するには、テープライブラリの互換性レベルが十分になければなりません。

- シリアル番号には LMU レベル 13 が必要です。
- WWN には LMU レベル 21 が必要です。
- DISPLAY ACS を実行すると、LMU 互換性レベルが表示されます。さらに、トランスポートは、シリアル番号のある LMU を提供する必要があります。

注 – IDEntity と DETail はいずれか一方しか指定できません。

MEDia

任意選択により、ドライブの表示を指定されたメディアタイプをサポートするドライブのみを表示します。省略時値は、すべてのメディアタイプです。

media-type

メディアタイプです。

有効な *media-type* の値については、付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」を参照してください。

注 – MEDia を指定しないと、メディアタイプとは無関係にドライブが選択されます。

RECtech

任意選択により、ドライブの表示を指定された記録技法をサポートするドライブに限定します。省略時値は、すべての記録技法です。RECtech は、テープ面にデータトラックを記録するために使用する方法のことです。

RECtech を指定していない場合は、ドライブは記録技法に関係なく選択されます。

recording-technique

記録方式です。

有効な *recording-technique* の値については、付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」を参照してください。

注 – RECtech と MODel は、いずれか一方しか指定できません。

MODel

オプションで、表示されるドライブを、トランスポートのモデルタイプに応じて制限します。一連のモデルをコンマで区切って入力することもできます。リストは、汎用プールです。

model-type

モデルタイプです。

有効な *model-type* の値については、付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」を参照してください。

注 – MODel と RECtech は、いずれか一方しか指定できません。

UNIT

任意選択により、表示するドライブをあるユニットのアドレス、またはある範囲のユニットのアドレスに限定します。

unit-address または *unit-address-range*

ユニットのアドレス、またはアドレスの範囲

Display EXceptns

Display EXceptns を指定すると、ハードウェアの状態が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

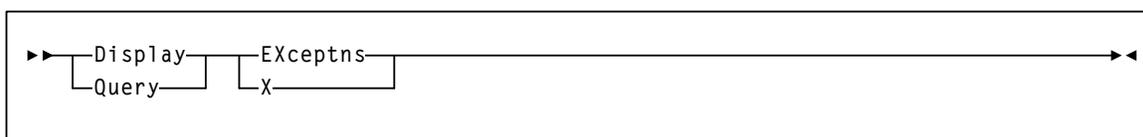


図 3-51 Display EXceptns の構文

パラメータ

EXceptns または X

ハードウェアの状態を表示します。

LSM AA:LL または AA:LL:CC 形式でエラーが報告され、AA が ACS の 16 進値 (00-FF)、LL が LSM の 16 進値 (00-17)、CC が CAPid の 16 進値 (00 - 0B) を示します。

出力

以下を含む状態が出力に表示されます。

- all LMUs
- all LSMs
- all CAPs
- all robotic hands
- all pass-thru ports (PTPs)
- all stations

AA:LL:CC 形式でエラーが報告されます。ここで、AA が ACS の 16 進値 (00 - FF) 、LL が LSM の 16 進値 (00 - 17)、CC が CAPid の 16 進値 (00 - 02) を示します。次のエラーメッセージがあります。

メッセージ:	説明
CAP Not Operational	
CAP Door is Open	
CAP Door is Unlocked	
CAP is Reserved	
Pass Thru Port is Inoperative	
Robot Hand is Inoperative	
Robot Hand needs Maintenance	
LSM is Not Ready	
LSM is Offline	
LSM is Offline Pending	
LSM is in Maint Mode	
LSM Door is Open	
LMU Compat 10 or less; not all functions supported:	LMUは、マイクロコードが更新されないかぎり、状況照会のいくつかに正しく応答することができません。またこの状態では、SLS0662I LMU Response Error が SLS4610I の直前に発行されます。
Station nn has Inactive Connection:	LMU へのハードウェア接続が利用できません。これは接続が確立されておらず、不要な場合は、正常な設定です。ステーション番号は 16 進数であるため、Station 0A は 10 番目のステーションであり、Station 10 は実際には 16 番目になります。
Station nn Inoperative; Host not responding:	ステーション番号は 16 進数であるため、Station 0A は 10 番目のステーションであり、Station 10 は実際には 16 番目になります。

次はメッセージの一覧です。

- No CAP problems were detected
- No Pass Thru Port problems were detected
- No Robot Hand problems were detected
- No LSM problems were detected
- No Station problems were detected

メッセージの要約には、LMUがハードウェアエラーを検出しなかったことのみ示されます。ソフトウェアの設定で何かが間違っているか、LMU が検出できない何かがある可能性があります。

HSC 処理は継続し、ユーザーの応答は不要です。

Display FEATures

Display FEATures を実行すると、HSC 機能の設定 (VSM 基本または拡張管理機能のどちらが有効になっているか) が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

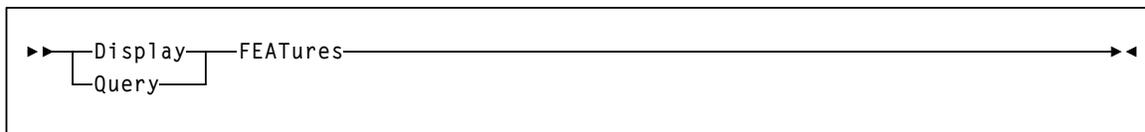


図 3-52 Display FEATures の構文

パラメータ

なし

Display LMUPDEF

Display LMUPDEF を実行すると、LMUPATH 文を含む、現在ロードされている定義データセットの情報が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

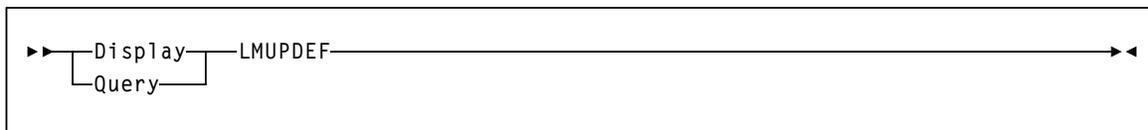


図 3-53 Display LMUPDEF の構文

パラメータ

なし

Display LOCKs

Display LOCKs を実行すると、VTCS ロックの状態が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

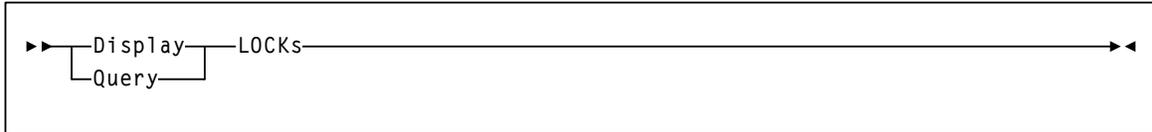


図 3-54 Display LOCKs の構文

パラメータ

なし

出力

図 3-55 に、Display LOCKs 出力の例を示します。

SLOT ID	OWNING HOST	TASK NBR	TASK TYPE	VTD	MVC	VTV	WAITING HOST	WAITING TASK
002	EC21	006	RTD		EVS101		EC10	007
003	EC20	010	RTD		EVS145	X15328		
004	EC20	010		A91E		X153234		
CFLOCK NUMBER		CFLOCK TYPE				OWNING HOST		
3		HOST TO HOST (TO ECCL)				EC21		

図 3-55 Display LOCKs の出力例

フィールド

SLOT ID

ロックバッファ内のロックのスロット ID。

OWNING HOST

ロックを所有するホスト。

TASK NBR

ロックに関連するタスク番号。

TASK TYPE

タスクのタイプ

VTD

該当ホスト上での関連するVTDアドレス。

MVC

ロックされているMVC。

VTV

ロックされているVTV。

WAITING HOST

ロック待ちのホストが表示されます。また、ロック待ちのホストが複数ある場合は、**ALL**と表示されます。

WAITING TASK

ロック待ちのタスクが表示されます。また、ロック待ちのタスクが複数ある場合は、**ALL**と表示されます。

CF LOCK NUMBER

カップリング・ファシリティロック数。

CF LOCK TYPE

次のVTCSカップリング・ファシリティロックタイプのいずれか1つです。

Host Footprint

ホストフットプリントリストへのアクセスを直列化するのに使用します。

Host to Host

与えられた host to host リストへのアクセスを直列化するのに使用します。

Lock data

VTCS ロックデータへのアクセスを直列化するのに使用します。

Formatting

構造の初期形式設定を直列化するのに使用し、データの再構造時にも使用します。

System

ロックは保持されていますが、VTCS が使用しているロックではなく、MVS が使用中のロックと想定します。

OWNING HOST

ロックを所有するホスト。

Display Lsm

Display Lsm を実行すると、LSM の状態が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

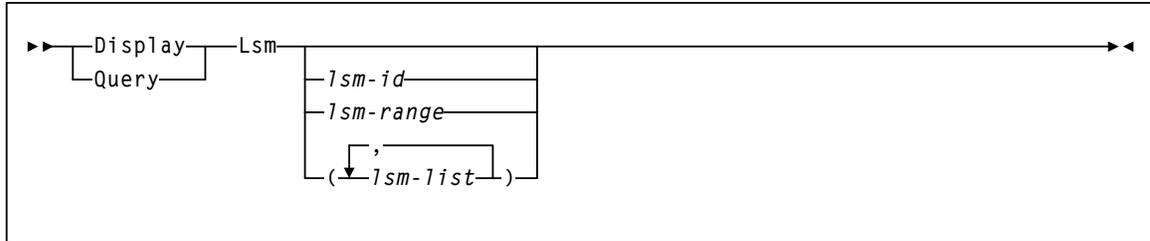


図 3-56 Display Lsm の構文

パラメータ

lsm-id または *lsm-range* または *lsm-list*

オプションで、情報を表示する 1 つまたは複数の LSM を指定します。*lsm-id* を指定しないと、ライブラリ内のすべての LSM の状態が要約で表示されます。

lsm-list 内の各要素は、単一の LSMid または LSMid 範囲のどちらでもかまいません。リスト内の各要素はコンマまたはブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

lsm-id の形式は *AA:LL* で、*AA* は ACSid (16 進数 00 - FF)、*LL* は LSM 番号 (16 進数 00 - 17) を示します。

出力

LSM の状況には次のものがあります。

- LSM type
- オンライン / オフライン状況
- 作動可能 / 作動不能状況
- 自動 / 手動モード状況
- 1 つまたは複数の LSMid が指定される場合、表示される情報には次のものがあります。
 - 進行中の監査 (存在する場合)
 - CAP 状況、優先順位、および所有ホスト (CAP がドレインされていない場合)
 - 空の格納セルとスクラッチボリュームの数

注 -

- LSM内の空のセルの数は、凍結パネル上の空のセルの数を**含みません**。
 - LSMがオンラインに変更されるまで、空のセルの数は正確ではありません。構文の詳細については、[582 ページの「Vary」](#)を参照してください。
 - パネル上のセルの総数と空のセルの数を示す各凍結パネル
-

Display Message

Display Message を実行すると、HSC または VTCS メッセージの詳細情報が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

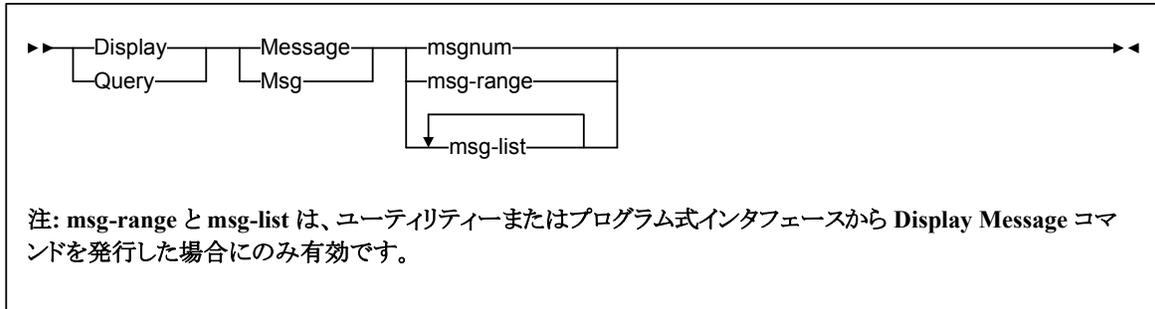


図 3-57 Display Message の構文

パラメータ

Msg または Message

HSC または VTCS メッセージに関する詳細情報を表示します。

msgnum

メッセージの4桁の数字の部分。先行 0 は不要です。

msg-range または *msg-list*

状態を表示するメッセージの範囲またはメッセージのリスト。*msg-list* の各要素は、単一の *msgnum* または *msg-range* のどちらでもかまいません。リスト内の各要素はコンマまたは空白で区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

注 - *msg-range* と *msg-list* は、ユーティリティまたはプログラムインタフェースから Display Message コマンドを発行した場合にのみ有効です。

Display MGMTDEF

Display MGMTDEF を実行すると、アクティブな MGMTclas 制御ステートメントに関する情報が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

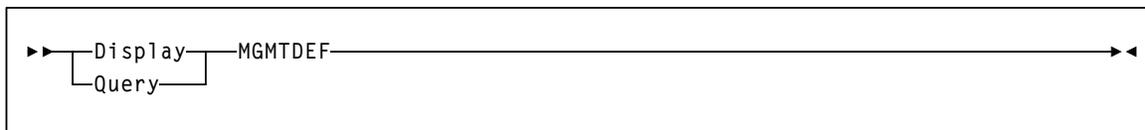


図 3-58 Display MGMTDEF の構文

パラメータ

なし

Display MIGrate

Display MIGrate を実行すると、マイグレーションの状態が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

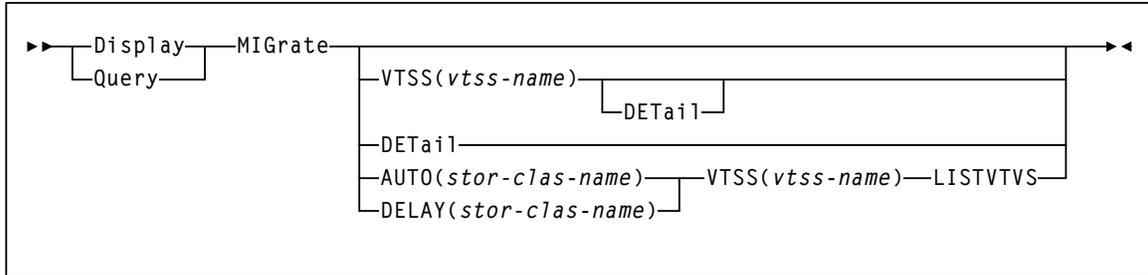


図 3-59 Display MIGrate の構文

パラメータ

VTSS

オプションで、特定の VTSS のマイグレーション状態を表示します。

vtssname

VTSS名。

DETail

オプションで、ストレージクラス別にマイグレーションの詳細状態を表示します。

AUTO

オプションで、指定したストレージクラスの VTV 数と、AUTO キューの残り時間を表示します。残り時間は、経過時間として示されます。

stor-clas-name

ストレージクラス名です。

VTSS

特定の VTSS のマイグレーション状態 (*vtssname*) を表示します。

LISTVTVS

AUTO キューに入っている特定の VTV を一覧表示します。VTSS を指定する必要があります。

DELAY

オプションで、指定したストレージクラスの VTV 数と、DELAY キューの残り時間を表示します。残り時間は、経過時間として示されます。

stor-clas-name

ストレージクラス名です。

VTSS

特定の VTSS のマイグレーション状態 (*vtssname*) を表示します。

LISTVTVS

DELAY キューに入っている特定の VTV を一覧表示します。VTSS を指定する必要があります。

Display MIGrate の出力

図 3-60 に、Display MIGrate の出力例を示します。

```

/SLS0000I D MIG VTSS(HBVTSS16)

VTSSNAME: HBVTSS16

Active migration tasks: 4

Immediate migrate:                Max wait: 5 MINUTES

Immediate delay queue: Active

Auto migrate:                    Host: EC20 MIGRATION TARGET: 70%

```

図 3-60 Display MIGrate の出力例

フィールド

VTSSNAME

VTSS をマイグレーションする VTSS。

ACTIVE MIGRATION TASKS

マイグレーションタスク（自動、即時、および限界値までのマイグレーション）の総数。

IMMEDIATE MIGRATE

現在行われている即時マイグレーションまたは保留中の即時マイグレーションがない場合は、**Not active** と表示され、即時マイグレーション待ちのVTSSがある場合は最大待ち時間が表示されます。

注 – このフィールドは、問い合わせが発行された LPAR の状況のみを表示します。

IMMEDIATE DELAY QUEUE

即時マイグレーションのキューに VTSS が入っているかどうかを示します。

AUTO MIGRATE

いずれかのホスト上で自動マイグレーションが行われている場合は、そのホストの名前とマイグレーション目標値（LAMT、または限界値までのマイグレーションで指定された限界値）が表示され、それ以外の場合は **Not active** と表示されます。

Display MIGrate DETail の出力

図 3-61 に、Display MIGrate DETail コマンドの追加フィールドの出力例を示します。

```

/SLS0000I D MIG DET

VTSSNAME: DVTSS16

Active migration tasks: 2

Immediate migrate:                Max wait: 1 minutes

Immediate delay queue: Not active

Auto migrate:                    Not active

Storage Class   ACS   Max/Onl   ---SCH---   Req   --Auto--   ---Immed---   Weight
                RTDs   Lim Pref   Act    GB    Delay    GB    /Skip
S1              00   16 16    1  0    1     -     1     9    50/ 0
S2              00   16 16    1  0    1     -     1     9    50/ 0

```

図 3-61 Display MIGrate DETail の追加出力例

フィールド

STORAGE CLASS

マイグレーションに関連するストレージクラス。

注 – ストレージクラスを明示的に割り当てないと、MVCのデフォルトのストレージクラスには、リクレイムまたはマイグレーションでMVCに書き込まれた最後のVTSSの名前が設定され、このクラスには、VTCSのデフォルトのメディアが選択されます。これらのデフォルトを変更するには、VTSS名を指定してストレージクラスを作成し、メディア選択の順序を指定してください。

ACS

ストレージクラスに対して定義されているACS。

MAX/ONL RTDs

- ストレージクラスおよびRTD構成定義を基準としたタスクの最大数。
- 実際にオンラインになっているRTDに対するタスクの最大数（**MAX TASKS**からオフラインのRTDの数を引いた値）。

SCH

ストレージクラスのアクティブなマイグレーションに適用される MIGRSEL ステートメントの SCHLIMIT 値と SCHPREF 値。

Req Act

アクティブなマイグレーションタスクの数。

ACTIVE TASKS

このストレージクラスに関連する現在アクティブなタスクの数。

AUTO

ストレージクラスに自動マイグレーションVTVが含まれているかどうかを示します。

IMMED

ストレージクラスに即時マイグレーションVTVが含まれているかどうかを示します。

WEIGHT (percent)

VTSSに対してのストレージクラスの優先度。優先度が高いストレージクラスほど、より多くのマイグレーションタスクを割り当てられます。

Display MIGrate AUTO の出力

図 3-61 に、Display MIGrate AUTO の出力例を示します。

```
/SLS0000I D MIG AUTO(S1) VTSS(DVTSS16) LISTVTVS  
  
/SLS6603I VTVs awaiting migration:  
  
DX0601 DX0920  
  
2 volumes with an age range of 3-5 in the queue
```

図 3-62 Display MIGrate AUTO の出力例

Display MIGrate DELAY の出力

図 3-61 に、Display MIGrate DELAY の出力例を示します。

```
/SLS0000I D MIG DELAY(S2) VTSS(DVTSS16) LISTVTVS  
  
/SLS6603I VTVs awaiting migration:  
  
DX0800 DX0900  
  
2 volumes with an age range of 3-5 in the queue
```

図 3-63 Display MIGrate DELAY の出力例

Display MNTD

Display MNTD を実行すると、MNTD コマンドによって設定されているすべての HSC マウントオプションの現在の設定が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

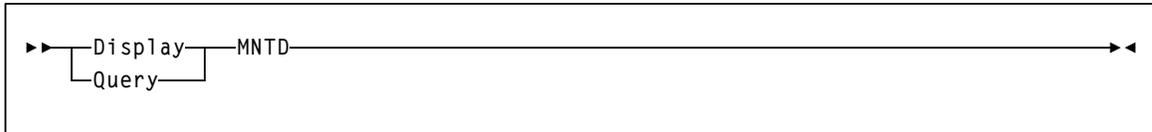


図 3-64 Display MNTD の構文

パラメータ

なし

Display MONitor

Display MONitor を実行すると、監視コンソールのリストが表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

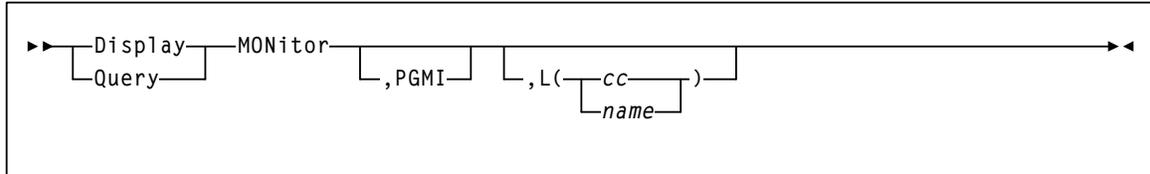


図 3-65 Display MONitor の構文

パラメータ

PGMI

オプションで、プログラム式インタフェースが受け取った移動要求の監視状況を表示します。

L

オプションで、指定のコンソールによって監視されている要求のタイプを表示します。コンソール ID とコンソール名の長さは、2 文字から 8 文字でなければなりません。

cc

コンソール ID です。

name

コンソール名です。

PGMI と **L** の両方が省略されている場合は、すべての監視の状況が表示されます。

Display MVC

Display MVC を実行すると、特定の MVC に関する情報が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

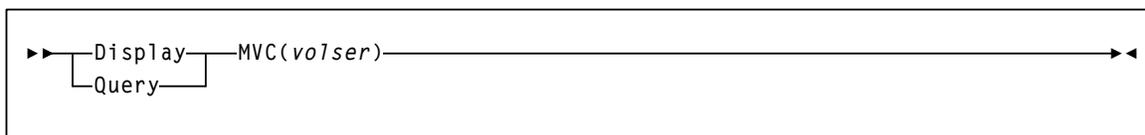


図 3-66 Display MVC の構文

パラメータ

volser

MVCのVOLSER。

出力

図 3-67 に、Display MVCの出力例を示します。

```

Volser:                022551
Media:                 STK1R
ACSid:                01
Size (Mb):            20000
Vtv Count:            5
%Used:                469
%Fragmented:          0.00
%Available:           95.31
%Usable:              95.31
Times Mounted:        174
Last Mounted:         2008Jun20 04:42:58
Last Migration:       2008Jun19 03:51:07
Last Drain/Reclaim:   2008Jun19 03:18:03
Owner:                SB
VTSS:                 HBVTSS19
MVCPOOL:              DEFAULTPOOL
Security access:      No profile
Status:               Initialized

```

図 3-67 Display MVC の出力例

フィールド

VOLSER

MVCのVOLSER。

MEDIA

ボリュームメディアタイプまたはレコーディング方法。値「Need PTF」が表示される場合、このホストではこのメディアタイプはサポートされません。ほかのホストは、このメディアタイプをサポートします。

ACSID

このMVCを含んでいるACS。これは、MVC がライブラリからイジェクトされた場合、表示されません。

サイズ(MB)

MVC のサイズ (メガバイト)。

VTVカウント

MVC 上のアクティブな VTV の数。

%USED

MVC上で、有効なVTVが占有している部分のパーセンテージ。

%FRAGMENTED

MVC上で、無効なVTVスペースが占有している部分。無効なVTVスペースは、リクレイム処理が実行されるか、またはそのMVCがデータドレインされるまで使用できません。

%AVAILABLE

MVC上で物理的に使用可能な部分のパーセンテージです。

%USABLE

MVC上で、VTCSが使用できるスペースのパーセンテージ。物理的に使用可能なスペースがある場合でも、この値がゼロになることがあります。たとえば、MVCごとのVTVの制限値に達すると、%Usableは0%と通知されます。同様に、あるMVCについてエラーが通知されると、VTCSはそのMVCを出力用に使用しないため、%Usableは%0と通知されます。

TIMES MOUNTED

MVC がMVC目録に追加されてから、そのMVCが書き込み、または読み取りのためにマウントされた回数。

LAST MOUNTED

RTD に MVC がマウントされた、またはマウントが試みられた日時。

LAST MIGRATED

MVC に VTV のマイグレーションが実行された最後の日時。

LAST DRAIN/RECLAIM

ドレインまたはリクレイム処理により MVC が処理され、テープ終了ポインタがリセットされた前日の日付と時刻。

OWNER

このMVCを所有しているストレージクラス。MVCは、マイグレーションされたVTVを含む場合にのみ、ストレージクラスのメンバーになります。

VTSS

最後にこのMVCへのマイグレーションを実行したVTSS。統合済みVTVに関しては、このフィールドにCONSOLIDATEと表示されます。

MVCPPOOL

このMVCが、MVCPool文で定義されている場合はMVCプール名(DEFAULTPOOLも含む)、定義されていない場合はNOを示します。

SECURITY ACCESS

MVCPool文で定義されているMVCに対するVTCS権限 (UPDATE、NO UPDATE、またはNO PROFILE)。

STATUS

次の状態のいずれかです。

INITIALIZED

このMVCは初期化されています。

BEING AUDITED

MVCは現在AUDITされているかまたは失敗したAUDITの対象です。この状態のMVCは、マイグレーションに使用されず、リコールに使用することはできません。この状態では、CDSはMVCコンテンツで更新されていないことから、リコールが失敗する場合があります。この状態をクリアするためには、このMVCに対してAUDITユーティリティを再実行します。

LOGICALLY EJECTED

MVCはMVCDRain Ejectの対象であるか、またはMVCはRACROUTEの呼び出しによる更新のためにイジェクトされました。マイグレーションにこのMVCを再度使用することはできません。この状態をクリアするためには、MVCに対してEjectオプションなしでMVCDRainを使用します。

NOT-INITIALIZED

MVCはCONFIGユーティリティにより定義済みですが、まだVTVのマイグレーションが正常に行われていません。

MOUNTED

MVCはRTD上にマウントされています。

IN ERROR

これは、MVCへのアクセス中に、MVC、ドライブ、またはその組み合わせに問題が報告されたことを示す一般的なエラーステータスです。VTCSはこの状態のMVCの使用を優先しないよう試みます。これは、VTCSでリコールに使用するコピーを扱う際に、MVCに対する最も重大な影響とみなされます。

一般的に、このステータスをクリアするには、

- MVCが問題の原因である場合は、DRAIN(EJECT)コマンドを使用してサービスからMVCを除去してください。
- RTDが問題を起こした場合は、MVCMAINTユーティリティを使用してMVCステータスをリセットします。

注 – SLS6686、SLS6687、SLS6688、SLS6690 のうち 1 つまたは複数のメッセージが IN ERROR 状態で発行されます。これらのメッセージのリカバリー手順については、『*ELS Messages and Codes*』を参照してください。

MARKED FULL

MVC は空き容量がなく、将来のマイグレーション候補になりません。テープメディアの一般的な動作からすると、これは、MVC が公称容量に達する前に起こる可能性があります。

DRAINING

MVC は現在、ドレインまたはリクレイム処理の対象になっています。処理が失敗した場合に、MVC は保護のためこの状態になることがあります。この状態を解消するには、この MVC に対して MVCDRainを実行します。

LOST - FAILED TO MOUNT

VTCS は MVC のマウントを試行しましたが、15 分のタイムアウト時間内にマウントが完了しませんでした。ハードウェアの問題、HSC の問題、または ACS からの MVC の除去が組み合わせて発生している可能性があります。VTCS にはエラーレポートが出されていません。VTCS はこの状態の MVC の使用を優先しないよう試みます。

エラーの原因を特定し、解決してください。次の場合については、VTCS の MVCMAINT ユーティリティを使用して LOST(OFF) に設定することもできます。

- LOST(ON) ステータスがすでに解決済みの LSM 障害またはドライブエラーによって設定されていた場合
- LOST(ON) ステータスが、MVC が ACS 外にあったために設定され、その MVC がすでに再入力済みの場合

この状況は、そのあと VTCS で MVC のマウントが要求され成功すると、自動的にクリアされます。

DATA CHECK

データチェック状態がこの MVC に対して報告されています。VTCS はこの状態の MVC の使用を優先しないよう試みます。この状態になるには、2 つの異なる RTD でのデータ転送が失敗していることが条件になります。

このステータスをクリアするには、

- MVC 上のすべての VTV が二重化されている場合、イジェクトオプションなしで MVC の MVCDRain を使用します。これによりすべての VTV が回復され、サービスから MVC が除去されます。
- MVC 上に二重化されていない VTV が存在する場合、MVC に対して VTCS AUDIT を行います。AUDIT は失敗する可能性があります。AUDIT の終了後、MVCDRAIN を行います (イジェクトなしで)。これによりデータチェック域の前の VTV はブロック ID の昇順にリコールされ、データチェック域のあとの VTV はブロック ID の降順にリコールされます。この流れで VTV を処理することで、メディアからできるだけ多くの VTV を回復します。MVC 上に残っている VTV については、データを再生成する必要があります。

これは、データ転送の実行中に特定の障害が発生したことを示しますが、これは、メディアの障害にはなりません。これは、RTD による仕様外のメディアへのデータ書き込みによるものです。このため、障害のパターンが重要です。例として、多数のドライブやボリュームで DATA CHECK 条件が突然多数発生することが挙げられます。

READ ONLY

MVC は次の要件のいずれかにより読み取り専用とマークされています。

- MVC は現在処理中のエクスポートまたは統合処理の対象です。読み取り専用状態により MVC は更新処理に対して保護されています。
- MVC メディアにファイル保護が設定されます。エラーを修正し、MVCMAINT ユーティリティを使用して READONLY(OFF) を設定します。
- VTCS が MVC の更新を可能とする適切な SAF ルールが MVC には設定されていません。エラーを修正し、MVCMAINT ユーティリティを使用して READONLY(OFF) を設定します。HSC、SMC、および VTCS のセキュリティサブシステムユーザー ID を定義する方法については、『ELS のインストール』を参照してください。

RETIRED

MVC の耐用期限が切れ、VTCS で使用期間が終了したものとみなされます。VTCS はこの MVC からのリコールを行いますが、この MVC へのマイグレーションは行いません。早急に MVC を置換してください。これを行ったら、MVCMAINT ユーティリティを使用して、RETIRED(OFF) を設定します。

WARRANTY HAS EXPIRED

MVC 保障期限切れステータス。VTCS は MVC の使用を継続します。MVC が耐用期限切れステータスになった時点で置換ができるように計画してください。

INVALID MIR

VTCS が 9x40 メディアの MIR(メディア情報レコード)が無効であることを示すステータスを RTD から受信しました。MIR が無効であることによってデータへのアクセスが妨げられることはありませんが、テープ上のレコードへのアクセス時に重大なパフォーマンス上の問題を発生させる可能性があります。有効な MIR エントリを持たないテープ上のエリアに対しては、MVC の高速検索ができなくなります。

VTCS はこの状態の MVC を優先しません。リコール時において、VTV が複数の MVC 上に存在する場合、VTCS は、無効な MIR を持つ MVC よりも有効な MIR を持つ MVC を優先的に選択します。VTCS は、マイグレーションがテープ先頭から開始される場合を除き、無効な MIR を持つ MVC をマイグレーションに使用しません。テープ先頭からマイグレーションが行われた場合、MIR は修正されます。VTCS は、無効 MIR 条件をマウントまたはマウント解除時に検出します。無効 MIR 条件がマウント時に検出され、別の MVC を使用して操作を完了可能な場合、VTCS は最初の MVC をマウント解除し、代替 MVC を選択します。

VTCS による代替 MVC への切り替え機能には制限があります。つまり、代替 MVC への切り替え機能を使用されるのは、主にマイグレーションおよび仮想マウント時です。無効な MIR を持つ MVC については、エラーの原因 - メディアまたはドライブの障害によって発生している可能性があります - を特定し、解決してください。MIR が無効な MVC を回復するには、VTCS AUDIT を介して、テープの最後まで MVC を読みます。メディアに問題がある場合、MVC DRAIN EJECT を実行し、VTV をリコールするとともに MVC を MVC プールから除去してください。

MIGRATES NOT SUPPORTED

このホストでは、この MVC へのマイグレーションの実行はサポートされません。これは、マイグレーションをサポートするほかのホストによって設定されています。

RECALLS NOT SUPPORTED

このホストでは、この MVC からのリコールの実行はサポートされません。これは、リコールをサポートするほかのホストによって設定されています。

RECLAIM NOT SUPPORTED

このホストでは、この MVC をリクレイム処理の対象にすることはサポートされません。これは、リクレイム処理をサポートするほかのホストによって設定されています。これにより、MVCDRain コマンドで MVC の処理が禁止されることはありません。

Display MVCPool

Display MVCPool を実行すると、特定の MVC プールに関する情報が表示されます。

注 – このコマンドを発行すると、正確で最新な結果を表示するため、MVC の位置情報がリフレッシュされます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

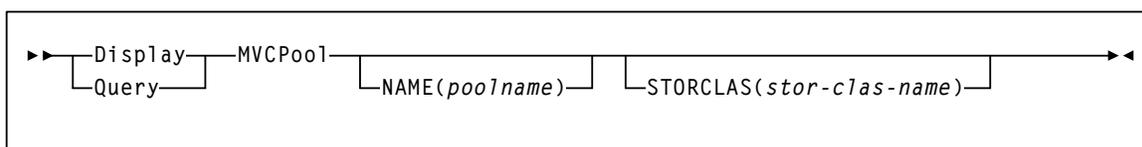


図 3-68 Display MVCPool の構文

パラメータ

NAME

メッセージテキスト内に指定された MVC プールの情報を表示します。

poolname

MVCPool 制御文で定義されている MVC プールの名前。詳細については、『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。

または、ALLを指定して、メッセージテキスト内に示されたすべての MVC プールの情報 (デフォルトプール DEFAULTPOOL も含む) を表示することもできます。

STORCLAS

ストレージクラス別に MVC に関する情報を表示します。

stor-clas-name

MVC の使用状況を表示する特定のストレージクラスの名前。

STORclas 制御文で定義した現在の有効なストレージクラス、または以前存在したストレージクラスでメディアがまだ割り振られているストレージクラスを指定できます。詳細については、[434 ページの「STORclas 制御文」](#)を参照してください。

すべてのストレージクラスを表示するには、ALL を指定するか、STORCLAS パラメーターを省略します。

出力

図 3-69 に、Display MVCPool の出力例を示します。プール名 POOL1 が指定されています。

MVCPOOL (POOL1) INFORMATION							
INITMVC	MVCFree	Threshold	MaxMVC	Start	RECLaim		
NO	2	30	4	10	DEMAND		
ACS	Media	Free-MVCS		Reclaim-MVCS	Used-MVCS		
		Vols	GB	Vols	Gb	Vols	Gb
00	ECART	120	96	2	0.5	90	45
00	STK1R	30	600	1	3.5	25	350
00	TOTAL	150	696	3	4.0	115	395

図 3-69 Display MVCPool の出力例 (名前 POOL1)

図 3-67 に、Display MVCPool (プール名の指定がない場合) の出力例を示します。

MVCPOOL INFORMATION							
INITMVC	MVCFree	Threshold	MaxMVC	Start			
NO	2	30	4	10			
ACS	MEDIA	FREE-MVCS		RECLAIM-MVCS	USED-MVCS		
		VOLS	GB	VOLS	GB	VOLS	GB
00	ECART	310	248	4	1.2	100	65
00	ZCART	120	192	1	0.5	250	400
00	TOTAL	430	440	5	1.7	350	465
01	ECART	90	144	15	6.2	322	485
01	ZCART	35	700	3	11.3	43	675
01	TOTAL	125	844	18	17.5	365	1160
NON-LIB	STK2P	22	1100	0	0	12	1565
NON-LIB	TOTAL	22	1100	0	0	12	1565

図 3-70 Display MVCPool の出力例 (名前を指定しない場合)

フィールド

INITMVC

初期設定されていない MVC を初めてマウントしたときに、MVC を初期設定するかどうか指定します。

MVCFREE

空き MVC の最小数。

THRESHOLD

断片化されたスペースの限界値を比率 (%) で指定します。この限界値は、強制または自動リクレイムに、MVC が選択可能になるタイミングを決定します。

MAXMVC

1 度のリクレイムでの MVC の制限値。

START

合計 MVC 数に対するリクレイム候補の比率 (%) を指定します。この値は、自動スペースリクレイムをトリガーします。

RECLaim

MVC プールのスペースリクレイム設定を指定します。

ACS

MVC プールが格納されている ACS。NONLIB の数字は、現在ライブラリ外にある初期設定済みの MVC の数を表しています。

MEDIA

MVCメディアタイプ。

FREE-MVCS

100% 使用可能なスペースを持ち、マイグレーションされた VTV を含まない MVC。表示されるストレージは、メディアタイプの容量に基づいて算出された空き領域の総容量です。

RECLAIM-MVCS

このホストによるスペースのリクレイムについて適格である MVC。表示されたストレージは、使用されているスペースの総容量です。この容量には、スペースリクレイムの対象になっていない MVC も含まれます。

USED-MVCS

部分的、または完全にフルになっている初期設定済みの MVC。

Display OPTion

Display OPTion を実行すると、OPTion コマンドで設定した一般 HSC オプションの現在の設定が表示されます。

インタフェース：	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

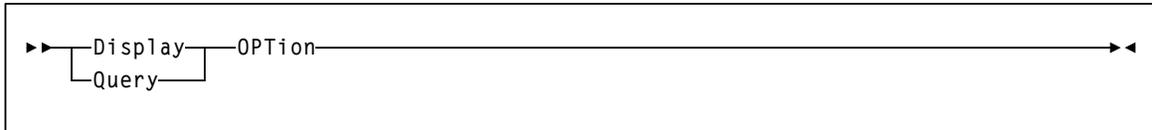


図 3-71 Display OPTion の構文

パラメータ

なし

Display Queue

Display Queue を実行すると、キューに入っている VTCS 処理の状態が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

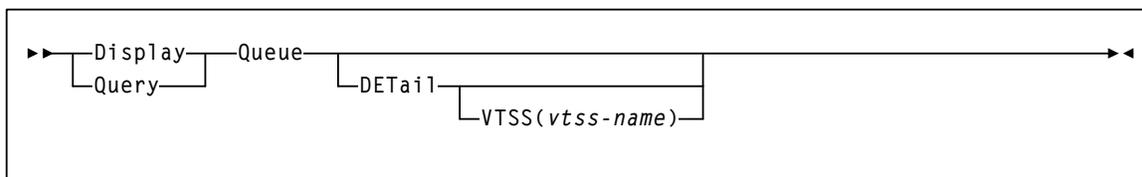


図 3-72 Display Queue の構文

パラメータ

DETail

オプションで、詳細な状態を表示します。

VTSS

オプションで、指定された VTSS の処理状況を表示します。

vtss-name

VTSS名。

出力

[256 ページの「Display Active および Display Queue の出力」](#)を参照してください。

Display REPlicat

Display REPlicat を実行すると、VTV の複製状況が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

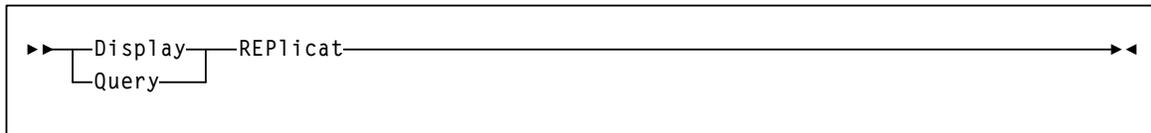


図 3-73 Display REPlicat の構文

パラメータ

なし

出力

図 3-74 に、Display REPlicat の出力例を示します。

VTSS	Name	Host	Qdepth
HBVTSSY	PLEX1819	EC20	0
		EC21	0
		ECCL	0
		ECCY	0
HBVTSS18	-Cluster	EC20	0
		EC21	0
		ECCL	0
		ECCY	0
*SLS5013I Command completed (0)			

図 3-74 Display REPlicat の出力例

フィールド

VTSS

または送信側 VTSS の名前

NAME

次の値のいずれかです。

name

VTSS から CLINK が接続される TapePlex の名前。

-Cluster

VTSS がクラスタに含まれていること、および同じクラスタ内のほかの VTSS への複製が定義されている CLINK があることを示します。

HOST

VTSS に接続されているホスト。

Qdepth

複製を待っている VTV の合計数。

Display Requests

Display Requests を実行すると、すべての保留中 LMU 要求が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

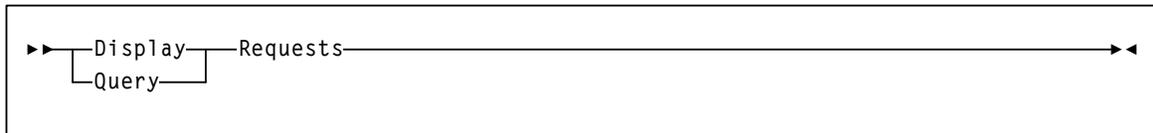


図 3-75 Display Requests の構文

パラメータ

なし

Display RTD

Display RTD を実行すると、特定の RTD の使用状況が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

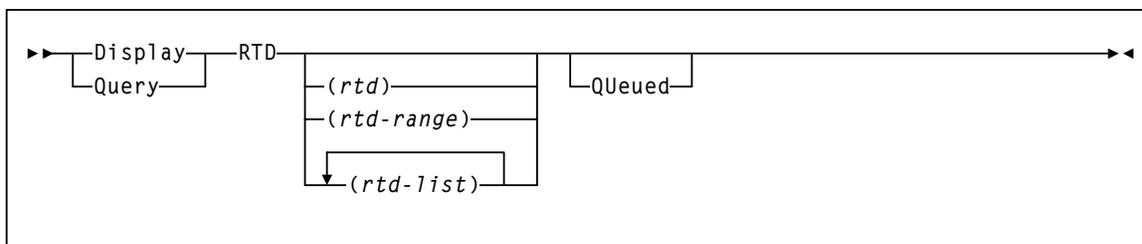


図 3-76 Display RTD の構文

パラメータ

rtd-id、*rtd-range*、または *rtd-list*

1 つ以上の RTD のデバイスアドレス (省略可能)。

QQueued

オプションで、RTD のキューに入っている要求に関する情報を表示します。

Display RTD の出力

図 3-77 に、Display RTD の出力例を示します。

RTD	MOUNT	ALLOC	HOST	VTSS	Status	Top ID	Top Host
B200	-	-	-	DHSS16	Offline	01265	ECC20
B201	-	-	-	DHSS16	Offline	02368	ECC20
B202	-	-	-	DHSS16	Online/free		
B201	-	-	-	DHSS16	Online/free		
0B79	-	-	-	DHSS16	Online/free		
0B7A	DMV051*	DMV051	EC20	DHSS18	Recall VTV		
1600					MVS1 :Migrate		
1601					MVS1 :Migrate		

図 3-77 Display RTD の出力例

フィールド

RTD

RTD のデバイスアドレス。

MOUNT

現在マウントされている MVC の volser (* はマウント処理中を示します)。

ALLOC

RTD へのマウントに割り振られた MVC の volser。

HOST

現在 RTD を保有しているホスト。

VTSS

現在 RTD に接続している VTSS。

Status

次の RTD 状態のいずれかです。

AUDIT MVC

MVC が AUDIT 中です。

BUSY

RTD は使用中です (特定のタスクではありません)。

FAIL/OFFLINE

障害が起こったため、RTD がオフラインになっています。

IDLE

MVC が RTD に割り振られていますが、その MVC は使用されていません。

INITIALIZE

ホストが RTD の状況および可用性を検証しています。

MAINTENANCE

RTDは保守モードになっています。

MIGRATE VTV

RTDはVTVをマイグレーションしています。

OFFLINE

RTD はオフラインで、いずれのホストおよび VTSS から使用できません。

ONLINE/FREE

RTD はオンラインで使用可能です。

PATH OFFLINE

VTSSがRTDに接続できないか、パスが正しく構成されていないためRTD状況が不明です。

PATH SUSPEND

RTD はグローバルにオンラインになっていますが、RTD が CLINK とペアになっているため、VTSS からのパスが中断されています。

RECALL VTV

RTDはVTVをリコールしています。

RECOVER RTD

RTDは問題、変更、初期化によりリセット中です。

RECOVERY

該当のRTDはエラー回復中か、またはオンラインモードへの変更中であることを示します。

SUSPEND

RTDの操作は中断されています。これは次の状況で発生します。

- 2つのRTDが、同じVSM4 ICE3 カード CIP または VSM5、FICON および FI にある2つの異なるポートに接続されている場合
- 1つ以上のRTDと1つのCLINKが同じポート上で構成されている場合CLINKがオンラインになっている状態で、RTDがSUSPENDモードになっている場合

注 – RTD をオンラインにするには、CLINK がオフラインになっていなければなりません。

UNLOAD MVC

RTDの強制アンロードが発生しています。

VTV TRANSFER

RTDは別のVTSSにリコールする前にVTVをマイグレーションしています。

TOP ID

このホストからこのRTDを次に使用するためにキューのいちばん上にある要求のプロセスID。「TOP ID」列は、コマンドが実行されたホストからの要求にのみ適用されます。このホストには、RTDへの最上位の要求は許可されません。

TOP HOST

この RTD を次に使用するためにキューのいちばん上にある要求が存在するホスト。「TOP HOST」は、ホストに RTD への最上位の要求が存在することを示します。

Display RTD Queued の出力

図 3-78 に、Display RTD Queued の出力例を示します。

ID	Function	Weight	VTSS	MVC list / Storage Class
01360	<X00029>	432*	HBVTSS18	021748 022524
01425	Recall	2	!ALLVTSS	021754
01423	Recall	2	!ALLVTSS	021675
01368	Recall	2	!ALLVTSS	022551
01381	Migrate	2	HBVTSS19	- *HBVTSS19

図 3-78 Display RTD Queued の出力例

フィールド

ID

プロセス ID (範囲が 0 - 65536 の一意の番号)。プロセス ID が 65536 に達すると、ゼロに戻ります。

FUNCTION

キューに入れられた RTD への要求のタイプ。括弧 (<>) 内の VTV volser の場合は、仮想マウントへの自動リコール要求になります。

WEIGHT

VTCS で現在要求に割り当てられている重みファクター。要求は、このファクターに応じて処理されキューに入れられます (レポートされます)。値の横のアスタリスク (*) は、要求が別の MVC の割り振りの取得を許可されるだけの待機時間が経過したことを示します。

VTSS

RTD の選択に使用される VTSS または VTSS リスト名。特殊値 !ALLVTSS は、どの VTSS も適切なドライブにアクセス可能であることを示します。

MVC LIST

RTD の選択を試みる対象の MVC のリスト。自動リコール要求の場合、このリストは 4 つの MVC に対して実行できます。一方、まだ MVC が選択されていないマイグレーション要求では、これは空になります。

STORAGE CLASS

マイグレーションの宛先となるストレージクラス。値の横のアスタリスク (*) は、ストレージクラスがエラー状態にあることを示します。

Display SCRatch

Display SCRatch を実行すると、サブプール名、ACS id、LSM id、メディアタイプ、記録方式、または所有ホスト名別のスクラッチ数が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

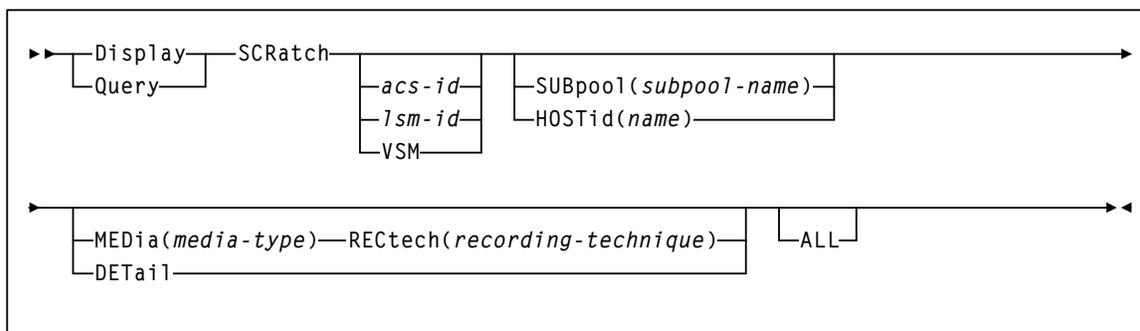


図 3-79 Display SCRatch の構文

パラメータ

SCRatch

acs-id

オプションで、スクラッチ数に関する情報を表示する ACS を指定します。LSM 番号を指定せずに *acs-id* を指定すると、ACS 全体の選択したスクラッチ数が表示されます。

lsm-id

オプションで、スクラッチ数に関する情報を表示する LSM を指定します。

VSM

オプションで、Display SCRatch の表示を仮想ボリュームのあるサブプールに限定できます。*acs-id* または *lsm-id* が指定されている場合は、VSM は指定できません。

注 - *acs-id* または *lsm-id* が指定されている場合は、SCRatch キーワードのあとに指定する最初のパラメータでなければなりません。VSM キーワードは定位置パラメータではありません。

SUBpool

オプションで、指定したサブプールのスクラッチ数のみが表示されるよう限定できます。SUBpool が指定されている場合は、指定したサブプールの LSM と ACS の合計数のみが表示されます。HOSTid が指定されている場合、SUBpool は指定できません。

subpool-name

サブプールの名前。最大 13 文字で指定します。

HOSTid

オプションで、指定した HOSTid からアクセスできるサブプールのスクラッチ数のみが表示されるよう限定できます。HOSTid が指定されている場合は、指定した HOSTid からアクセスできるサブプールの LSM と ACS の合計数のみが表示されます。SUBpool が指定されている場合、HOSTid は指定できません。

name

ホストの SMFID または SMC SERVER ALIASHOST ID。最大 8 文字で指定します。

MEDia

オプションで、指定したメディア名に互換性があるボリュームのスクラッチ数のみが表示されるよう限定できます。MEDia が指定されている場合は、互換性があるボリュームの LSM と ACS の合計数のみが表示されます。

media-type

メディアタイプです。

有効な *media-type* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

RECtech

オプションで、指定した記録方式に互換性があるボリュームのスクラッチ数のみが表示されるよう限定できます。RECtech が指定されている場合は、互換性がある記録方式の LSM と ACS の合計数のみが表示されます。

recording-technique

記録方式です。

有効な *recording-technique* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

注 – RECtech には VSM パラメータは指定できません。

DETail

オプションで、すべてのメディアと記録方式別に、スクラッチ数を一覧表示します。このオプションを指定すると、各サブプールのメディアと記録方式に関する情報がさらに詳細に表示されます。MEDia または RECtech が指定されている場合、DETail は指定できません。

ALL

オプションで、スクラッチ数と限界値の両方が 0 のサブプールのスクラッチ数を一覧表示します。通常、Display SCRatch コマンドを実行すると、スクラッチ数と限界値のどちらかが 0 のサブプールのみが一覧表示されます。ALL の指定は、このフィルターより優先され、定義済みのスクラッチプールがすべて表示されます。

出力

すべての ACS 内にあるすべての LSM のスクラッチ数が表示されます。

```

DISPLAY SCRATCH

SLS2638I Scratch Summary

ACS/LSM      Subpool Name Label Media      Rectech      Count
=====
VSM          SPV001        SL   VIRTUAL  VIRTUAL      930
VSM          SPV002        SL   VIRTUAL  VIRTUAL     1036
VSM          SPM001        SL   VIRTUAL  VIRTUAL      25
VSM          Total                VIRTUAL  VIRTUAL     1991
-----
LSM 00:00   SP001         SL   All                13
LSM 00:00   SP002         SL   All                31
LSM 00:00   SPM001        SL   All               235
LSM 00:00   Non-Subpool           All                11
LSM 00:00   Total                All               290
LSM 00:01   SP001         SL   All                 9
LSM 00:01   Non-Subpool           All                 6
LSM 00:01   Total                All                15
ACS 00      SP001         SL   All                22
ACS 00      SP002         SL   All                31
ACS 00      SPM001        SL   All               235
ACS 00      Non-Subpool           All                17
ACS 00 Total                All               305
=====

```

1つのサブプールのスクラッチ数が表示されます。

```

DISPLAY SCRATCH SUBPOOL(SPM001)

SLS2638I Scratch Summary

ACS/LSM      Subpool Name Label Media      Rectech      Count
=====
VSM          SPM001        SL   VIRTUAL  VIRTUAL      25
-----
LSM 00:00   SPM001        SL   All               235
ACS 00      SPM001        SL   All               235
=====

```

1 つの ACS のスクラッチ数が表示されます。

```

DISPLAY SCRATCH ACS 00

SLS2638I Scratch Summary

ACS/LSM      Subpool Name Label Media      Rectech      Count
=====
LSM 00:00   SP001          SL   All          13
LSM 00:00   SP002          SL   All          31
LSM 00:00   SPM001         SL   All          235
LSM 00:00   Non-Subpool           All          11
LSM 00:00   Total                All          290
LSM 00:01   SP001          SL   All           9
LSM 00:01   Non-Subpool           All           6
LSM 00:01   Total                All          15
ACS 00      SP001          SL   All           22
ACS 00      SP002          SL   All           31
ACS 00      SPM001         SL   All          235
ACS 00      Non-Subpool           All           17
ACS 00 Total                All          305
=====
    
```

1 つの LSM のスクラッチ数が詳細に表示されます。

```

DISPLAY SCRATCH LSM 01:00 DETAIL

SLS2638I Scratch Summary

ACS/LSM      Subpool Name Label Media      Rectech      Count
=====
LSM 01:00   SP002          SL   ECART   36TRACK     1
LSM 01:00   SP002          SL   STANDARD 18TRACK    5
LSM 01:00   SP002          SL   STANDARD 36TRACK    5
LSM 01:00   Non-Subpool           All           8
LSM 01:00   Total                All          19
=====
    
```

Display SEN

Display SEN を実行すると、SEN LISTEN 要求とその状態が表示されます。要求元およびリスナーの名前を使用した場合は特定の要求、要求元の名前のみを使用した場合は関連する要求、いずれにも該当しない場合はすべてのSEN要求が表示されます。

表示される内容は次のとおりです。

- 存在する場合、要求元名およびリスナー名
- EOT および EOM 設定
- 使用不可および使用可の状況
- 要求に関連付けられたトークン
- 要求のイベントリスト

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

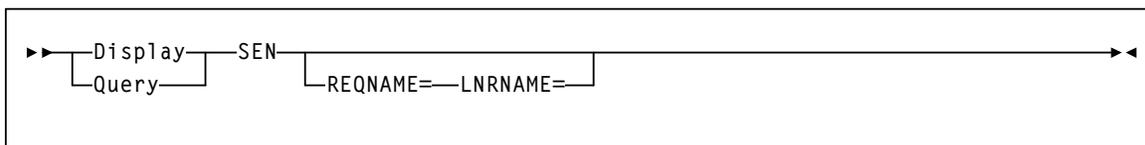


図 3-80 Display SEN

パラメータ

REQNAME=

オプションで、SEN 要求で識別される要求元の名前を指定します (614 ページの「実行形式ーコマンド構文およびパラメータ」を参照)。

LNRNAME=

オプションで、SEN 要求で識別されるリスナールーチンの名前を指定します (614 ページの「実行形式ーコマンド構文およびパラメータ」を参照)。

サポートされる HSC および VTCS SEN イベント

HSC SEN イベント

表 3-2 HSC SEN イベント

イベント名	数値等価演算値
libvol_insert_event	18
libvol_delete_event	19
hsc_termination_event	20
lsmrail_added_event	25
lsmrail_removed_event	26
libdrive_added_event	27
libdrive_removed_event	28

VTCS SEN イベント

表 3-3 VTCS SEN イベント

イベント名	数値等価演算値
vtss_performance_event	01
vtss_chanif_performace_event	02
vtv_mount_event	03
vtv_dismount_event	04
vtv_delete_event	05
mvc_mount_event	06
mvc_dismount_event	07
vtv_migrate_event	08
vtv_recall_event	09
rtd_performance_event	10
rtd_vary_event	11
mvc_usage_event	12
vtv_movement_event	13
vtv_scratch_event	14
vtv_replicate_event	15
tv_unlink_from_mvc_event	16
clink_vary_event	17

Display SERVER

Display SERVER を実行すると、サービスレベルとデータベースの状態が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたはユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

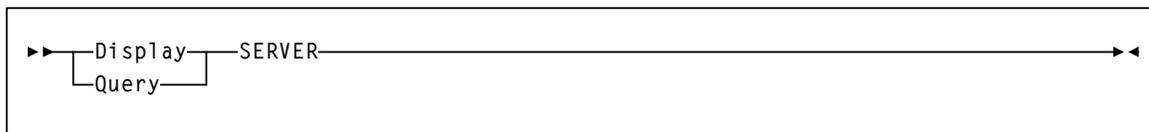


図 3-81 Display SERVER の構文

パラメータ

なし

出力

次の図に、Display SERVER コマンドの出力例を示します。

```

SLS1030I HSC service level FULL active
SLS0007I Data Base Status: 125
CDS      DSN      Active
Primary  ELS.DBASEPRM  Yes
Secondary ELS.DBASESEC  Yes
Standby  (not configured) No

```

図 3-82 Display SERVER コマンドの出力例

Display SRVlev

Display SRVlev を実行すると、コマンドの発行元であるホストの現在の HSC サービスレベルが表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

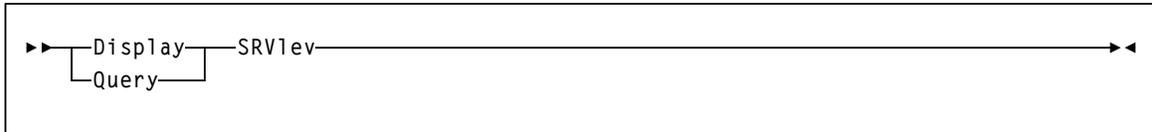


図 3-83 Display SRVlev の構文

パラメータ

なし

Display Status

Display Status を実行すると、コマンドの発行元ホストで現在アクティブになっている保留要求の状況が表示されます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

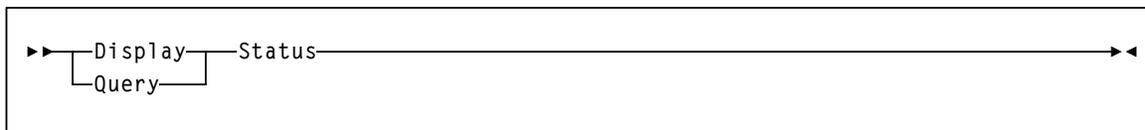


図 3-84 Display Status の構文

パラメータ

なし

出力

出力表示には、HSC の通常の実行および終了時の問題を解決する際の手助けとなる次の情報が提供されます。

- 要求: Dismount、Eject、Enter、Modify、Mount、Move、Vary、View
- 要求に関する情報は次のとおりです。
 - 要求側 (Operator、PGMI、Clean、ユーティリティーのジョブ名など)
 - 物理要素 (CAPid、Drive、LSM、Station など)
 - 要求の関連要素 (監査に属する CAPid など)
 - 各待ち行列の作動可能状況、および指定された待ち行列が除去または終了されているかどうか。

注 -

- 現在および保留のマウント活動に関する情報を得るには Display DRives コマンドを、待ち行列にある LSM 要求に関する情報を得るには Display Requests コマンドを使用してください。
- 全画面パネルまたは全画面パネルを越える範囲で監査が実行されている場合、現在のセル位置は監査対象のパネル内の最初のセルを指します。

Display STORCLas

Display STORCLas を実行すると、ストレージクラスに関する情報が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

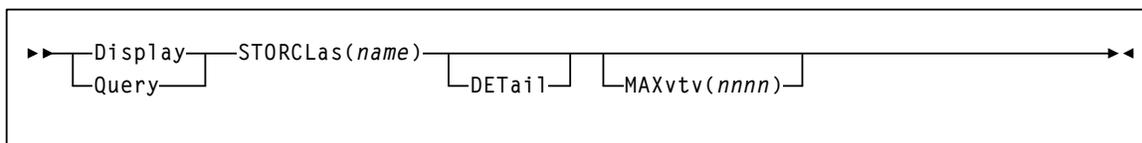


図 3-85 Display STORCLas の構文

パラメータ

name

ストレージクラス名は、MGMTDEF コマンドで定義したものだけでなく、任意のストレージクラスのものとすることができます。これらのストレージクラスへのマイグレーションの詳細を表示できるようにするため、*stor-clas-name* は、*vtssname* または !ERROR の値をとる場合があります。

DETail

オプションで、このストレージクラスによる自動マイグレーションまたは即時マイグレーションのため現在キューに入れられた VTV のリストが出力されます。

MAXvtv(*nnnn*)

オプションで、(VTSS の) 1 つの自動マイグレーションまたは即時マイグレーションのリストに含める VTV の最大数 (0-9999) を示します。MAXvtv(*nnnn*) の場合、DETail が暗黙指定されます。指定しない場合は、デフォルト値 100 が使用されます。

注意 - MAXvtv(*nnnn*) を指定する場合は、注意が必要です。値を大きくすると、発行される WTO (write to operator) メッセージの数から、システムのパフォーマンスが一時的に低下することがあります。

出力

図 3-86 に、Display STORCLas の出力例を示します。

```
Summary of storage class XCA8:

MVCs must be in ACS 00 and MVCPool DEFAULTPOOL

RTDs can be any device type
MVCPool DEFAULTPOOL contains no free MVCs

There is 1 VTV awaiting auto-migration from VTSS CLIVSS16
V00002 with MGMTCLAS XCA8

VTSS CLIVSS16 has no suitable RTDs online in ACS 00
VTSS CLIVSS17 has no suitable RTDs online in ACS 00
```

図 3-86 Display STORCLas の出力例

図 3-86 に示すように、Display STORCLas の出力には、次の内容が表示されます。

- ストレージクラスの特徴 (ACS、MVC プール、およびメディア)。
- VTSS からストレージクラスへのマイグレーションを待機中の VTV。
- マイグレーションに使用する MVC の要件。
- マイグレーション MVC への書き込みに必要な RTD のデバイスタイプ。
- マイグレーションの要件を満たすにあたって発生したエラー。

Display STORMNgr

Display STORMNgr を実行すると、外部記憶マネージャーの状態と、VTSS からその記憶マネージャーに対して定義されたパスが表示されます。

インターフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

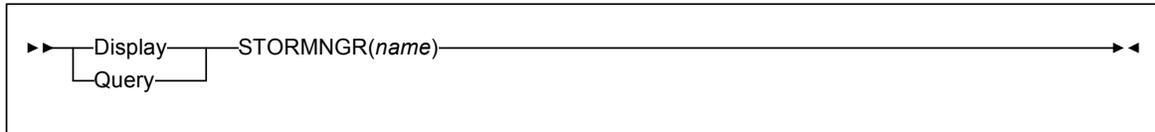


図 3-87 Display STORMNgr の構文

パラメータ

STORMNgr

表示する外部記憶マネージャーを指定します。

name

記憶マネージャー名です。

Display TASKs

Display TASKs を実行すると、タスクの状態が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

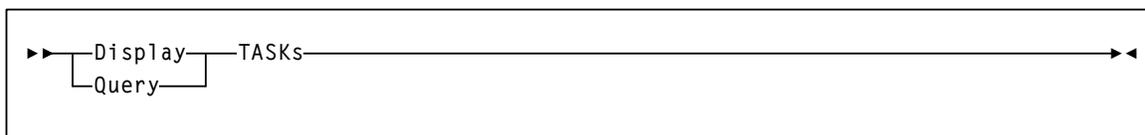


図 3-88 Display TASKs の構文

パラメータ

なし

出力

Display TASKs の出力例を以下に示します。

TASK NBR	TASK TYPE	SLOT ID	VTSS	RTD	CURRENT PROCESS	LOCKS HELD	WAITQ COUN	PENDQ COUNT
000	DSP	019			518	T		
001	SS	034	HB VTSS16	SS16B200		T		
002	RTD	035	HB VTSS16	SS16B201		R		
003	RTD	036	HB VTSS16	SS160B79		R		
004	RTD	044	HB VTSS16	SS160B7A		R	1	
005	RTD	045	HB VTSS16	SS160B7C		R		

図 3-89 Display TASKs の出力例

フィールド

TASK NBR

現在のホスト上の各タスクのタスク番号。

SLOT ID

ロックバッファ内のロックの識別子。

TASK TYPE

タスクのタイプ

INV	インベントリマネージャー
CMD	コマンドタスク
Ctc	Cross TapePlex 通信マネージャー
DSP	ディスパッチャータスク
SS	VTSS タスク
RTD	RTD タスク
DRV	RTD スケジューラ
SCR	スクラッチマネージャー
RCM	リクレイムマネージャー
MSC	マイグレーションスケジューラ
CSH	Clink スケジューラ
CLK	CLINK タスク
UNK	不明

VTSS

VTSS名。

RTD

RTDタスクのRTD名。

CURRENT PROCESS

現在のプロセスのID。

LOCKS HELD

保持されたロックのタイプ:

T	タスクロック
M	MVC ロック
V	VTV ロック
D	VTD ロック
R	RTD ロック

WAITQ COUNT

ロック待ちの要求数。

PENDQ COUNT

保留中の要求数。

Display THReshld

Display THReshld を実行すると、スクラッチ数とスクラッチ限界値の情報が、サブプール名、ACS ID、LSM ID、メディア、および記録方式ごとに表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

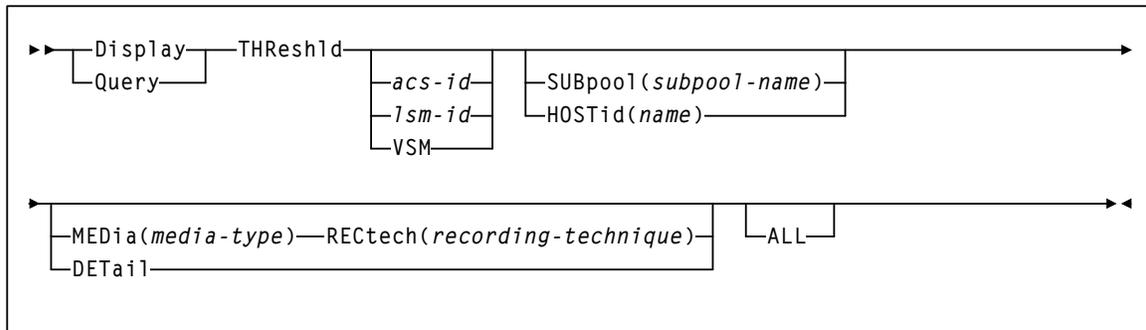


図 3-90 Display THReshld の構文

パラメータ

THReshld

スクラッチ数とスクラッチ限界値の情報が、サブプール名、ACS ID、LSM ID、メディア、および記録方式ごとに表示されます。

acs-id

オプションで、スクラッチ数とスクラッチ限界値に関する情報を表示する ACS を指定します。LSM 番号を指定せずに *acs-id* を指定すると、ACS 全体の選択したスクラッチ数が表示されます。

lsm-id

オプションで、スクラッチ数とスクラッチ限界値に関する情報を表示する LSM を指定します。

VSM

オプションで、Display THReshld の表示を仮想ボリュームのあるサブプールに限定できます。*acs-id* または *lsm-id* が指定されている場合は、VSM は指定できません。

注 - *acs-id* または *lsm-id* が指定されている場合は、THReshold キーワードのあとに指定する最初のパラメータでなければなりません。VSM キーワードは定位置パラメータではありません。

SUBpool

オプションで、指定したサブプールのスクラッチ数とスクラッチ限界値のみが表示されるよう限定できます。SUBpool が指定されている場合は、指定したサブプールの LSM と ACS の合計数のみが表示されます。HOSTid が指定されている場合、SUBpool は指定できません。

name

サブプール名最大 13 文字で指定します。

HOSTid

オプションで、指定した HOSTid からアクセスできるサブプールのスクラッチ数とスクラッチ限界値のみが表示されるよう限定できます。HOSTid が指定されている場合は、指定した HOSTid からアクセスできるサブプールの LSM と ACS の合計数のみが表示されます。SUBpool が指定されている場合、HOSTid は指定できません。

name

ホストの SMFID または SMC SERVER ALIASHOST ID。最大 8 文字で指定します。

MEDia

オプションで、指定したメディア名に互換性があるボリュームのスクラッチ数とスクラッチ限界値のみが表示されるよう限定できます。MEDia が指定されている場合は、互換性があるボリュームの LSM と ACS の合計数のみが表示されます。

メディア

表示するメディアの名前。有効なメディア名の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

注 – MEDia には VSM パラメータは指定できません。

RECtech

オプションで、指定した記録方式に互換性があるボリュームのスクラッチ数とスクラッチ限界値のみが表示されるよう限定できます。RECtech が指定されている場合は、互換性がある記録方式の LSM と ACS の合計数のみが表示されます。

recording technique

表示する記録方式の名前。有効なメディア名の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

注 – RECtech には VSM パラメータは指定できません。

DETail

オプションで、すべてのメディアと記録方式別に、スクラッチ数とスクラッチ限界値を一覧表示します。このオプションを指定すると、各サブプールのメディアと記録方式に関する情報がさらに詳細に表示されます。VSM、MEDia または RECtech が指定されている場合、DETail は指定できません。

ALL

オプションで、スクラッチ数と限界値の両方が 0 のサブプールのスクラッチ数を一覧表示します。通常、**Display THReshld** コマンドを実行すると、スクラッチ数と限界値のどちらかが 0 のサブプールのみが一覧表示されます。**ALL** の指定は、このフィルターより優先され、定義済みのスクラッチプールがすべて表示されます。

出力

Display THReshld の出力例を以下に示します。

```

DISPLAY THRESHOLD

SLS2649I Threshold Value Summary

ACS/LSM      Subpool Name Label Media      Rectech      Count      Thresh
=====
===
VSM          SPV001        SL   VIRTUAL  VIRTUAL      930         0
VSM          SPV002        SL   VIRTUAL  VIRTUAL     1036         0
VSM          SPM001        SL   VIRTUAL  VIRTUAL       25         0
VSM          Total                VIRTUAL  VIRTUAL     1991         0
-----
---
LSM 00:00   SP001         SL   All      13         0
LSM 00:00   SP002         SL   All      31         0
LSM 00:00   SPM001        SL   All     235         0
LSM 00:00   Total                All      290         0
LSM 00:01   SP001         SL   All       9         0
LSM 00:01   Total                All      15         0
ACS 00      SP001         SL   All      22         0
ACS 00      SP002         SL   All      31         0
ACS 00      SPM001        SL   All     235         0
ACS 00 Total                All     305         0
=====

```

図 3-91 Display THReshld の出力例

Display Volser

Display Volser を実行するとボリューム情報が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

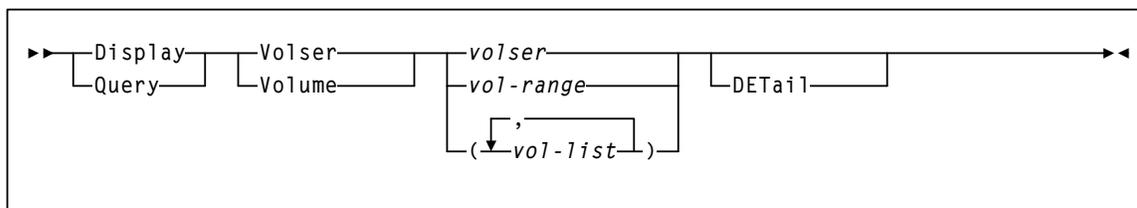


図 3-92 Display Volser の構文

パラメータ

Volser または Volume

指定されたボリュームの位置を表示します。表示される情報には次のものがあります。

- ボリュームの状況 (選択または非選択) と位置
- ソース、宛先、およびホームロケーション (エラントボリュームの場合)

volser または vol-range または vol-list

状態を表示する 1 つまたは複数の VOLSER を指定します。vol-list の各要素は、単一の VOLSER でも VOLSER の範囲のどちらでもかまいません。

注 - 100ボリュームまで表示できます。

リスト要素はコンマかブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

DETail

オプションで、指定した (1 つまたは複数の) ボリュームに関する情報をすべて表示します。

出力

表示される情報には次のものがあります。

- ホームセルロケーション
- ボリュームがスクラッチカートリッジであるかどうか
- ボリュームが選択状態かどうか
- 所有ホスト (ボリュームが選択状態の場合に表示)
- ドライブのアドレスまたはドライブID (ボリュームがマウントされている場合に表示)
- 外部ラベルが存在しているかどうか
- メディアラベルがロボットビジョンシステムで読み取り可能かどうか (外部ラベルが存在している場合に表示される)
- ボリュームが最後にライブラリに入力された日時
- ボリュームが最後に選択された日時
- 選択カウント
- ボリュームのメディアタイプ
- ボリュームの記録技法
- メディアラベルが読み取り可能かどうか (値が LMU から読み取られなかった場合は N/A と表示される)
- ボリュームのメディアタイプの判別法。このフィールドには次の値が表示されます。

YES	メディアのラベルとボリュームに定義された VOLPARM が一致しています。
NO	メディアのラベルとボリュームに定義された VOLPARM が一致していません。
VOLATTR Only	VOLPARM は定義されていますが、LMU からはメディアタイプが判別されません。
Label Only	LMU からはメディアタイプが判別されますが、VOLPARM は定義されていません。
Undefined	VOLPARM は定義されておらず、LMU からもメディアタイプが判別されません。

- ボリュームが使用不能であるかどうか (つまり、使用済みクリーニングカートリッジ)
- STK1およびSTK2の各メディアボリュームのボリューム密度
- メディア保証期限 (MWL) のパーセンタート値。マウント解除処理中に収集され、カートリッジ MIR に保存されます。MWL の比率は、メディアの耐用年数の何パーセントが使用されたかを示します。

注 – メディア保証期限を収集しレポートするには、テープライブラリとトランスポートが次の条件を満たしている必要があります。

- SL8500 または SL3000 ライブラリであること
- LMU 互換性レベルが 21 以上であること
- T9x40: すべてのメディアとモデルのファームウェアレベルが 1.42 以上であること (9840B を除く)
- T10000: すべてのモデルとメディアのファームウェアレベルが 1.38 以上であること

メディア保証期限の詳細については、『HSC および VTCS の管理』を参照してください。

Display VSCRatch

Display VSCRatch を実行すると、仮想スクラッチ数の診断情報が表示されます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

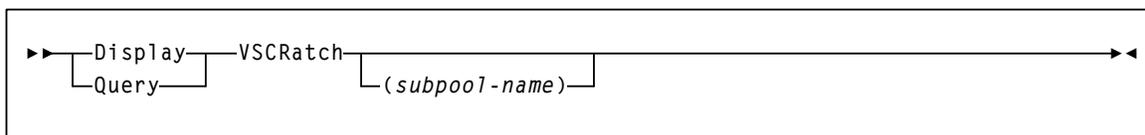


図 3-93 Display VSCRatch の構文

パラメータ

subpool-name

オプションで、サブプール名。最大 13 文字で指定します。

サブプール名が指定されている場合は、指定したサブプールの仮想スクラッチ数のみが表示されます。

出力

DISPLAY VSCRatch の出力例を以下に示します。

SUBPOOL NAME	SCRATCH COUNT	LABEL TYPE	<-----SCRATCH BLOCKS----->					TOT RNG	TOT BLKS
			0.4GB	0.8GB	2GB	4GB			
M0	2	SL	1	1	1	1	1	22	
M1	3	SL	1	1	1	1	1	23	

表 3-4 Display VSCRatch の出力例

フィールド

SUBPOOL-NAME

スクラッチサブプールの名前。VTCS は、サブプール以外の VTV のスクラッチ数を表示しません。VTV サブプールが定義されていない場合、VTCS はすべての VTV の仮想テーブルを定義します。

SCRATCH BLOCKS

有効な VTV サイズ (.4GB、.8GB、2GB、4GB) のスクラッチを含む CDS ブロックの数、およびこのスクラッチプールの CDS 範囲の数と CDS ブロックの総数。

Display VTD

Display VTD を実行すると、VTD の状態が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

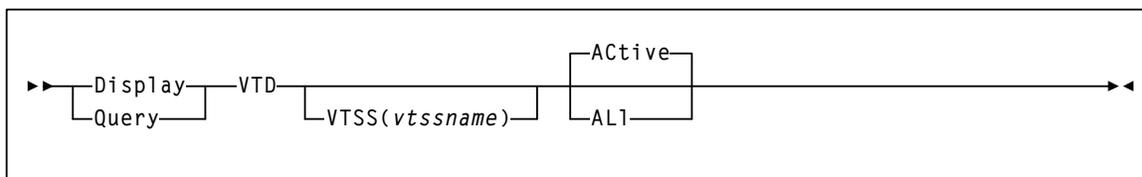


図 3-94 Display VTD の構文

パラメータ

VTSS

オプションで、指定した VTSS に接続されている VTD の状態を表示します。

vtss-name

VTSS名。

Active | All

VTV がマウントされている VTD (Active)またはすべての VTD (All) の状態を表示します。

出力

図 3-95 に、Display VTDの出力例を示します。

DRIVE	LOCATION	VTV	STATUS
A800	HBVTSS16	X00778	ECAM only
A801	HBVTSS16		ECAM only
A802	HBVTSS16		ECAM only
A803	HBVTSS16		ECAM only

図 3-95 Display VTD の出力例

フィールド

DRIVE

該当VTDのMVSデバイスアドレス。CONFIG でこのホストにデバイスが定義されていない場合は、VTSS 内の物理アドレス (接頭辞「##」付き) が含まれます。

LOCATION

該当VTDを含むVTSS。

VTV

該当する場合に VTV volser。

STATUS

次のVTD状態のいずれか。

Available

該当VTDは作業に使用できます。

Mounted

VTV列内に表示されているVTV が該当VTDにマウントされています。

Mount(other)

VTV列内に表示されているVTV が該当VTDにマウントされています。コマンドを実行したホストによってマウントが実行されませんでした。

Mounting

VTV 列内に表示されている VTV volser が該当 VTD へのマウント処理中です。これは通常、自動リコールが進行中であることを示します。

Dismounting

VTV 列内に表示されている VTV volser がマウントされていた VTD がアンロードされました。VTCS でマウント解除要求を受信していないか、現在 VTV と CDS 情報の同期中です。

Redrive Later

VTV 列内に表示されている VTV volser の VTV へのマウント試行は前回失敗しています。数分後に再び解釈されます。

Importing

VTV 列内に表示されている VTV volser を VTD を介して電子インポート中です。

Imported

VTV 列内に表示されている VTV volser が VTD を介して電子インポートされました。エクスポート元のホストからの確認要求を待っています。

Display VTSS

Display VTSS を実行すると、VTSS の状態が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

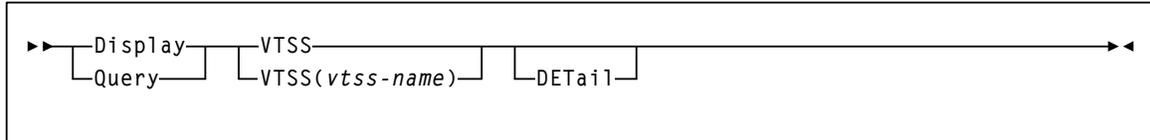


図 3-96 Display VTSS の構文

パラメータ

VTSS

vtss-name

オプションで、状態を表示する VTSS を指定します。

DETail

オプションで、VTSS の詳細な状態情報 (サポートされる機能を含む) を表示します。

出力

図 3-97 に、Display VTSS の出力例を示します。

VTSSNAME	CAPACITY (GB)	DBU	HI AMT	LOW AMT	VTV COUNT	MX MT	MN MT	Def ACS	AUTOMIG	STATE	RTDs
HBVTSS16	56.209	9	35	30	204	6	1	--		On-P	Yes
HBVTSS17	56.209	7	35	30	218	4	3	02		On-P	Yes
HBVTSS18	N/A	N/A	35	30	N/A	3	1	01		Off	Yes
HBVTSS19	93.184	5	35	30	110	3	1	01		On	Yes

図 3-97 Display VTSS の出力例

フィールド

VTSSNAME

VTSS の名前。

CPCTY(GB)

指定した VTSS の物理的な総容量 (GB)。

DBU

ディスクバッファ容量全体に対するバッファ使用率。

HI AMT

AMT 上限値。

LOW AMT

AMT 下限値。

VTV カウント

VTSS に常駐する VTV の数。

MX MT

現在の MAXMIG の値。

MN MT

現在の MINMIG の値。

DEF ACS

デフォルトの ACS。

AUTOMIG

自動マイグレーションを実行中のホストと、VTSS のマイグレーションの限界値を示します。

STATE

すべてのホストに対する VTSS の状態のいずれかが表示されます。

QUIESCING

休止処理中の状態。

QUIESCED

休止した状態。

OFFLINE

オフライン状態。

OFFLINE-P

オフライン保留状態。

ONLINE

オンライン状態。

ONLINE-P

オンライン保留状態。

STARTED

VTSSは初期化され、要求された状態(オンライン、オフライン、または休止)への変更作業中です。

RTDs

VTSS に RTD があるかどうかを示します。

Display VTSS DEtail 出力

図 3-98 に、Display VTSS DEtail出力の追加フィールドの例を示します。

VTSSNAME	HOST	NOMIGRAT	NORECLAM	STATE
HBVTSS16	EC104	Y	Y	ONLINE
HBVTSS16	EC21	N	Y	ONLINE
HBVTSS17	EC21	N	Y	QUIESCED
HBVTSS17	EC10	Y	Y	OFFLINE
VTSS	TYPE	SUPPORTED FEATURES		
HBVTSS16	VSM5	2/4GB VTVS		
		LARGE PAGE VTVS		
		NOWAIT ON RTD MOUNT		
		BUDDY QUEUING		
		SYNC REPLICATE		
		LAST USE HINT		
		MGMT CLASS ON MVCS		
		CONNECT to 32 RTDS		
		STACKED MIGRATES		

図 3-98 Display VTSS Detail の追加出力例

フィールド

VTSSNAME

HOSTフィールド内のホストがアクセスできるVTSS。

HOST

VTSSNAMEフィールド内のVTSSにアクセスできるホスト。

NOMIGRAT

このホストに対する**NOMIGRAT**の設定の有無。

NORECLAM

このホストに対する**NOMIGRAT**の設定の有無。

STATE

このホストの VTSS 状態で、次のいずれかになります。

QUIESCING

休止処理中の状態。

QUIESCED

休止した状態。

OFFLINE

オフライン状態。

OFFLINE-P

オフライン保留状態。

ONLINE

オンライン状態。

ONLINE-P

オンライン保留状態。

STARTED

VTSSは初期化され、要求された状態(オンライン、オフライン、または休止)への変更作業中です。

TYPE

VTSS model (VSM2、VSM3、VSM4、VSM5、または不明)。

SUPPORTED FEATURES

次の状況のいずれか (または複数) です。

400MB | 800MB | 2/4GB VTVS

デフォルトの VTV サイズ。

LARGE PAGE | STANDARD PAGE VTVS

デフォルトの VTV ページサイズ。

NOWAIT ON RTD MOUNT

VTSS は、RTD マウント完了のポーリングをサポートします。マウント待機中でも Nearlink インタフェースはロックされません。

BUDDY QUEUING

VTSS は、Nearlink インタフェース上にある 複数の RTD に対する要求のキューをサポートします。

REPLICATION

非同期レプリケーションが有効になっています。

SYNC REPLICATE

同期レプリケーションが有効になっています。

LAST USE HINT

VTSS は、今後 VTV へのアクセスがいつ行われるかを示すキャッシュ管理のヒント表示をサポートします。

MGMT CLASS ON MVC

AUDIT MVC が VTV の管理クラスを戻せます。

CONNECT TO 16 | 32 RTDS

有効化されている VTSS あたりの最大 RTD 数。

STACKED MIGRATES

スタックマイグレーションが有効になっています。

PARTITIONED RTDs

パーティション化された RTD が有効になっています。

T10KC PARTITION RTDs

T10KC パーティション化された RTD が有効になっています。

WRITE NEW VOL1 LABEL

VTSS は MVC ラベル付けをサポートします。

CONCURRENT PORT I/O

VTSS は単一の物理 Nearlink インタフェース上にある複数の入出力をサポートします。

MANY-TO-MANY CONNECT

VTSS は CLINK についてのターゲット VTD 選択をサポートします。

IP REPLICATION

VTSS は IP CLINK をサポートするため、VLE 接続をサポートします。

CONCURRENT TAPE RECALL/MOUNT

リコールが完了する前に、VTD への VTV マウントを実行できます。

CONCURRENT TAPE RECALL/MOUNT *DISABLED

同時テープリコール/マウント機能が VTSS にインストールされていますが、CONFIG GLOBAL FASTRECL=NO または CONFIG VTSS NOERLYMT のいずれかによって無効化されています。

UNKNOWN VTSS FEATURE

VTCS ソフトウェアレベルでサポートされない VTSS 機能。

NONE

VTSS 機能が定義されていません。

Display VTV

Display VTV を実行すると、特定の VTV に関する情報が表示されます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

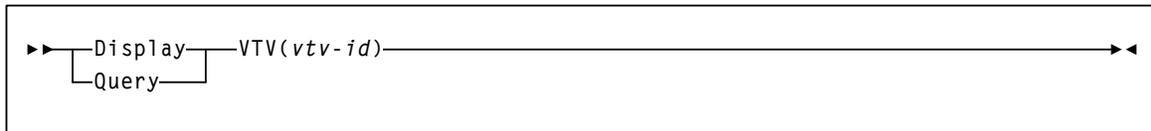


図 3-99 Display VTV の構文

パラメータ

vtv-id

VTVのID

出力

図 3-100 に、Display VTV の出力例を示します。

Volser:	X00000	
VTSS	HBVTSS19	
Mounted	A800	
Uncompressed Size (Mb)	99.01	
Compressed Size (Mb)	97.88	
Maximum VTV size (Mb)	800	
Page Size	Standard	
Creation Date	2008Feb21 09:32:22	
Last Mounted	2008Feb21 09:32:23	
Last Recalled	2008Apr05 08:15:47	
First Migrated	2008Apr25 08:58:28	
Last Used Date	2008Apr25 08:58:28	
MVC(s)	021681	021645
Block-id(s)	1A400D24	25401185
Management Class	M13	SB
Migrate Pending	SA	
Status	Initialized	

図 3-100 Display VTV の出力例

フィールド

VOLSER

照会で指定した VTV の VOLSER。

VTSS

前回または現在 VTV が含まれている VTSS。

MOUNTED

VTV が VTD 上にマウントされている場合は、その VTD のデバイスアドレスが表示されます。

UNCOMPRESSED SIZE(MB)

VTV の非圧縮サイズ (M バイト)。これは、アプリケーションプログラムで認識される VTV のサイズです。

COMPRESSED SIZE (MB)

VTV の圧縮サイズ (M バイト)。MVC 上または VTSS 内で占有されるロースペースです。

MAXIMUM VTV SIZE (MB)

VTV の最大 (圧縮) サイズ (400、800、2000、または 4000)。

CREATION DATE

アプリケーションで VTV コンテンツを変更した前回の日時。

LAST MOUNTED

アプリケーションでアクセスするため VTV コンテンツをマウントした前回の日時。

LAST RECALLED

VTV をリコールして MVC から VTSS に戻した前回の日時。

FIRST MIGRATED

このバージョンの VTV の最初の MVC コピーが作成された日時。

LAST USED DATE

VTCS により VTV がアクセスされた前回の日時。これには、VTV の状況を何らかの形で更新するほとんどの機能が含まれます。

MVC(S)

その VTV が常駐している MVC。このエントリは、VTV がマイグレーションされている場合にのみ表示されます。

BLOCK-ID

対応する MVC 上の VTV の開始位置の論理ブロック ID。このエントリは、VTV がマイグレーションされている場合にのみ表示されます。

MANAGEMENT CLASS

VTV のマネージメントクラス。

MIGRATE PENDING

まだ移行が完了していないストレージクラス。

ARCHIVE PENDING

アーカイブ要件を満たすためのマイグレーションが完了していないストレージクラス。

REPLICATION STARTED

クラスタ内の VTSS の間で VTV を複製中の場合は、ターゲット VTSS の名前が表示されます。

REPLICATED

VTV が TapePlex 内の別の VTSS に複製されている場合は、複製の保存先である VTSS の名前が表示されます。

IMPORTING

VTV を VTD 上にマウント中の場合は、その VTD のデバイスアドレスが表示されます。

ELECTRONIC IMPORTED

VTV が別の TapePlex からインポートされている場合。VTV を所有する TapePlex の名前が表示されます。

EXPORTED

VTV が別の TapePlex へエクスポートされている場合。VTV のコピーが正常にエクスポートされた TapePlex が一覧表示されます。ターゲット TapePlex によってエクスポートが拒否された場合は、名前の横にアスタリスク (*) が付けられます。

STATUS

次の状況のいずれか(または複数)です。

CONSOLIDATED

VSMはこのVTVを統合しました。

DUPLEXED

このVTVにはDUPLEX属性が割り当てられています。VSMがこのVTVをマイグレーションすると、2つのMVCにコピーが書き込まれます。

EXPORT-FAILED

このVTVのリモート TapePlex へのエクスポートが試行されましたが、要求が拒否されました。通常、リモート TapePlex にVTVの別のコピーがすでに存在することが原因です。

EXPORT-REJECTED

1つまたは複数の TapePlex への電子エクスポートがアクティブなまま拒否されました。ターゲット TapePlex でVTVのインポートが禁止されているか、コピー状態がクラッシュしたことが考えられます。

EXPORT-REQUIRED

このVTVは電子エクスポートする必要があるため、処理のキューに入れられています。

EXPORT-STARTED

このVTVの電子エクスポートはアクティブですが、まだ完了していません。

INITIALIZED

VTCSはこのVTVを少なくとも一度使用しました。

MIGRATED

VSMはこのVTVをマイグレーションしました。

MIGRATE PENDING

VTVマイグレーションが保留中になっています。VTVが最初に作成されたり、VTVで再統合処理またはアーカイブ処理が必要な場合に表示されます。後者の場合は、個々のMVCコピーに「Reconcil」または「Deletion」と示されます。

REPLICATION COMPLETE

このVTVの完全な複製コピーがセカンダリVTSSに保存されています。

REPLICATION REQUIRED

このVTVは、複製する必要があるため、処理のキューに入れられています

REPLICATION STARTED

このVTVの複製はアクティブですが、まだ完了していません。

RESIDENT

このVTVはVTSSに常駐しています。

SCRATCH

このVTVはスクラッチ状態になっています。

UNINITIALIZED

このVTVは、CONFIGユーティリティを介して定義されていますが、まだ一度も使用されていません。

AVOID EARLY MOUNT

このVTVで同時リコール/マウントにエラーが発生しました。このVTVでは、同時リコール/マウント活動は追加で試行されません。

DRAin

DRAin コマンドは、1 つまたは複数の CAP 上でイジェクトあるいは入力操作を終了し、ほかの処理によって使用する CAP 資源を開放します。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

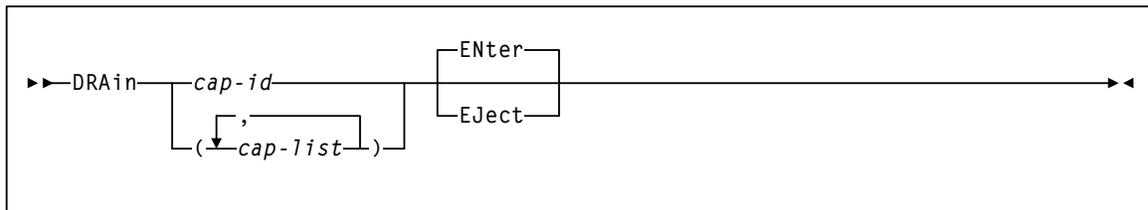


図 3-101 DRAin の構文

パラメータ

cap-id または *cap-list*

ドレインされる 1 つまたは複数の CAP。DRAin コマンド上に指定された CAPid は、関連した Eject あるいは ENter コマンドと一致しなければなりません。

cap-id の形式は、AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は CAP です。有効値のリストについては、707 ページの「CAP の値」を参照してください。

cap-list の各要素は、特定の CAP を指す *lsm-id* または *cap-id* のどちらでもかまいません。リスト内の要素はコンマか空白で区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

ENter

特定の CAP 上で実行中の入力操作が終了されるよう指定します。ENter は省略時値です。

Eject

特定の CAP 上で実行中のイジェクト操作が終了されるよう指定します。

DRTEST

DRTEST コマンドは DR テストの環境設定に使用します。オプションで、テストを開始または終了できます。

このコマンドは、SLUADMIN ユーティリティーから発行し、DR テスト環境を設定します。環境を設定した後、ユーティリティーまたはコンソールから DRTEST コマンドを発行し、テストを開始または終了します。

このコマンドには、次の表に一覧されているオプションを指定できます。各オプションの詳しい説明は、次ページ以降を参照してください。

表 3-5 DRTEST のオプション

オプション	オプションの発行元:	実行される機能:
CREATE	SLUADMIN ユーティリ ティーのみ	DR テスト CDS を作成します。通常は DR テストサイトで実行します。
PRIMEprd	SLUADMIN ユーティリ ティーのみ	DRTEST CDS を作成せずに、実稼動 CDS を更新します。
RESET	SLUADMIN ユーティリ ティーのみ	実稼動 CDS のすべての DR テスト設定を削除します。
START	SLUADMIN ユーティリ ティーまたはコ ンソール	本番用サイトで DR テストを開始します。 注: DRTEST START を正常に実行するには、DRTEST PRIMEprd または DRTEST CREATE を用いて実稼働 CDS の準備を整えておく必要があります。
STOP	SLUADMIN ユーティリ ティーまたはコ ンソール	本番用サイトで DR テストを終了します。

注 -

- 適切な環境が整っており、JCL の必要条件が満たされている場合は、これらのオプションを組み合わせて使用できます。たとえば、DRTEST STOP と DRTEST RESET は同じジョブ内で実行できますが、DRTEST RESET を実行する前に、DRTEST STOP を実行する必要があります。
- DRTEST ユーティリティーの使用方法については、『*ELS Disaster Recovery and Offsite Data Management Guide*』を参照してください。

DRTEST CREATE

DRTEST CREATE を実行すると、DR テスト CDS が作成されます。通常は DR テストサイトで実行します。

注 – NOUPDprd パラメータは、DRTEST CREATE コマンドの前に DRTEST PRIMEprd コマンドが実行されている場合にのみ、指定できます。詳細については、[361 ページの「DRTEST PRIMEprd」](#)を参照してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

以下を考慮に入れる必要があります。

- DR テストはアクティブに**できません**。実稼働 CDS の状態が参照されます。
- アクティブな HSC/VTCS は**不要**です。
 - HSC/VTCS がアクティブな場合、実稼働 CDS を識別する SLSCNTL DD 文はオプションです。SLSCNTL DD 文を含める場合は、アクティブな HSC/VTCS と一致している必要があります。
 - HSC/VTCS がアクティブでない場合、実稼働 CDS を識別する SLSCNTL DD 文が必要です。
- SLSNEW DD 文によって DRTEST CDS を識別する必要があります。

制御カード例:

```
DRTEST CREATE HOSTID(ZIPF,ZIPG) -
DRVTSS(VTSSW) -
DRACS(00)
```

構文

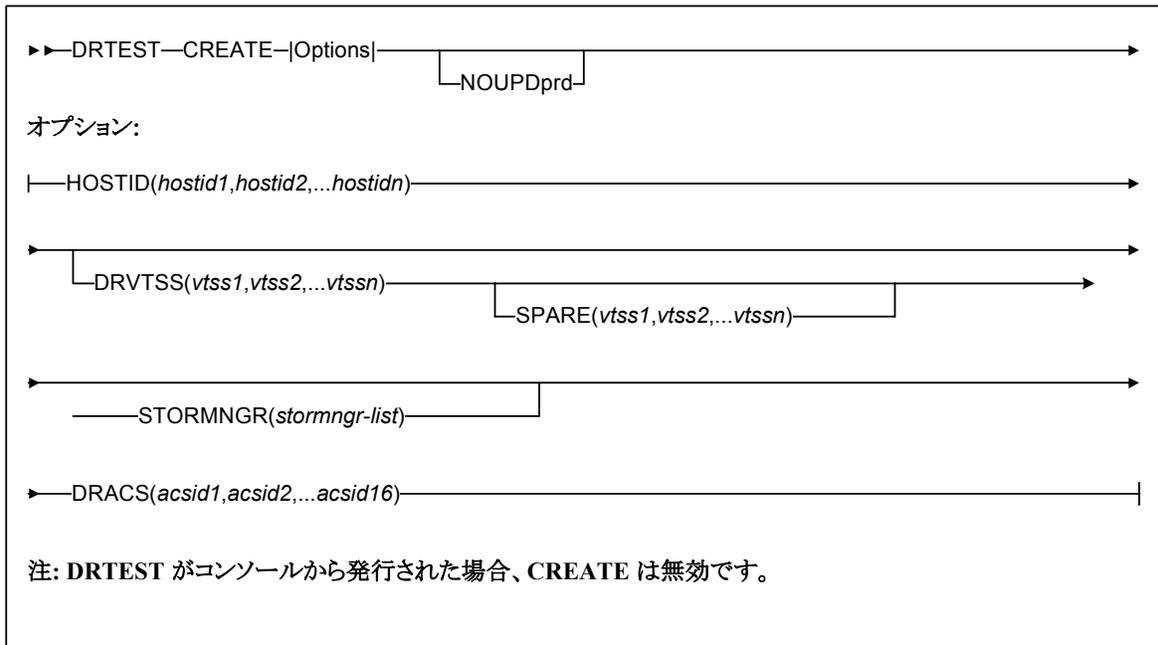


図 3-102 DRTEST CREATE の構文

パラメータ

CREATE

DRTEST CDS を作成します。

HOSTID(*hostid1,hostid2,...hostidn*)

利用可能な host-id 位置のテスト CDS で複製されている HOSTID を指定します。既存の実稼働 HOSTID と、このパラメータによって複製を指定する HOSTID を入力する場合、指定できるホスト数は合計で最大 16 です。(実稼働で使用されていない) host-id を DR テスト目的で追加する必要がある場合、追加 host-id 分として、ホスト数の上限値である 16 のうちの 2 つが使用されます。

DRVTSS(*vtss1,vtss2,...vtssn*)

オプションで、DR テストサイトで使用できる VTSS の名前を指定します。これらの VTSS をスペアとして指定する場合を除き、DR テストの開始時、VTSS は本番サイトでオフラインとなり、DR テストでオンラインになります。

SPARE(*vtss1,vtss2,...vtssn*)

オプションで、DR テスト VTSS がスペアであること、既存の VTSS と同じ名前が付けられていること、DRTEST ユーティリティーの実行時と DR テスト中に本番サイトでオンライン化されることを指定します。

STORMNGR(*stormngr-list*)

オプションで、DR テストサイトの TapePlex に接続されている VLE アプライアンスのサブシステム名を指定します。

stormngr-list

サブシステム名のリスト。詳細については、『*Configuring the Host Software for VLE*』を参照してください。

DRACS(*acsid1...acsid16*)

DR テストサイトで 1 つまたは複数の ACS が利用可能であることを指定します。複数の ACS ID をリストとして指定する必要があります (ACS ID の範囲は不可)。ACS は DR テストサイトでオンライン化されますが、DR テストの開始時に本番サイトで接続状態を維持することができます (通常は接続が維持されます)。CDRT バージョン 6.2 以上では、最大 16 の DR ACS がサポートされます。

少なくとも 1 つの ACS が必要です。RTD が VTSS に接続されていない VSM 環境では、DRACS にダミー ACS を指定することができます。

NOUPDprd

オプションで、実稼働 CDS への入力が更新されないよう指定します。

このパラメータが指定されている場合は、1 つの CDS 実稼働コピーを入力として使用できます。このコピーには、実際の実稼働 CDS、バックアップコピー、またはミラーコピーを使用できます。

このパラメータを指定するには、実稼働 CDS で PRIMEprd 機能がすでに実行されていなければなりません。詳細については、[361 ページの「DRTEST PRIMEprd」](#)を参照してください。

そのほかの JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、DRTEST CREATE JCL には次の定義文が適用されます。

SLSNEW1

テスト HSC CDS の新規プライマリコピーを指定します。

SLSNEW2

テスト HSC CDS の新規セカンダリコピーを指定します。

SLSNEW3

テスト HSC CDS の新規スタンバイコピーを指定します。

SLSJRN00 – SLSJRNnn

DR テストジャーナルファイルの DDNAME。現在の CDS でジャーナリングが定義されている場合にのみ指定できます。ファイルは HOSTID ごとに 2 つずつ存在しません (*hostid1* に対して SLSJRN00 と SLSJRN01、*hostid2* に対して SLSJRN02 と SLSJRN03 など)。

SLSSTATN

HOSTID の LMU ステーションアドレスを変更する DDNAME。このファイルはオプションです。指定されていない場合は、既存の CDS と同じステーションアドレスが HOSTID の DR テスト CSDS に使用されます。

各値は、HSC SET SLISTATN ユーティリティ形式に従います。詳細については、[548 ページの「SET SLISTATN」](#)を参照してください。SLSSTATN ファイルの例を以下に示します。

```
SET SLISTATN(00E7,00E8),FORACS(01),FORHOST(PRIT)
SET SLISTATN(00E7,00E8),FORACS(01),FORHOST(PRI1)
SET SLISTATN(00E7,00E8),FORACS(01),FORHOST(PRI2)
SET SLISTATN(00E7,00E8),FORACS(01),FORHOST(PRIY)
```

図 3-103 SLSSTATN ファイルの例

SLSVTSS

DR テスト CDS の VSM を変更する DDNAME。このファイルはオプションです。DR テスト構成に VSM 要素が含まれている場合にのみ使用します。通常、このファイルは、DR テスト CDS で RTD のハードウェア接続の定義を変更する場合に使用しますが、このファイルによって、VTCS CONFIG RESET ユーティリティを呼び出し、DR テスト CDS の VSM 定義を変更することもできます。DR テスト CDS に対して CONFIG RESET コマンドを誤って使用すると、DR テスト環境が動作不能になることに注意してください。

各エントリは、VTCS CONFIG ユーティリティの VTSS、VTD、RTD、および HOST ステートメントの形式に従います。詳細については、[212 ページの「CONFIG」](#) を参照してください。SLSVTSS ファイルの例を以下に示します。

```

CONFIG RESET
VTSSNAME=VTSS01  LOW=70 HIGH=80  MAXMIG=1  MINMIG=1  RETAIN=10
  RTD NAME=VTS18800  DEVNO=8800  CHANIF=0A
  RTD NAME=VTS18801  DEVNO=8801  CHANIF=0I
  RTD NAME=VTS18802  DEVNO=8802  CHANIF=1A
  RTD NAME=VTS18803  DEVNO=8803  CHANIF=1I
  HOST NAME=MVS1
  VTD LOW=8900  HIGH=893F
VTSSNAME=VTSS02  LOW=70 HIGH=80  MAXMIG=8  MINMIG=8  RETAIN=10
  RTD NAME=VTS28805  DEVNO=8805  CHANIF=0A
  RTD NAME=VTS28806  DEVNO=8806  CHANIF=0E
  RTD NAME=VTS28807  DEVNO=8807  CHANIF=0I
  RTD NAME=VTS28808  DEVNO=8808  CHANIF=0M
  RTD NAME=VTS28809  DEVNO=8809  CHANIF=1A
  RTD NAME=VTS2880A  DEVNO=880A  CHANIF=1E
  RTD NAME=VTS2880B  DEVNO=880B  CHANIF=1I
  RTD NAME=VTS2880C  DEVNO=880C  CHANIF=1M
  HOST NAME=MVS2
  VTD      LOW=9900  HIGH=993F

```

図 3-104 SLSVTSS ファイルの例

DRTEST PRIMEprd

DRTEST PRIMEprd を実行すると、DRTEST CDS が作成されずに、実稼働 CDS が更新されます。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

以下を考慮に入れる必要があります。

- DR テストはアクティブにできません。
- アクティブな HSC/VTCS は不要です。
 - HSC/VTCS がアクティブな場合、実稼働 CDS を識別する SLSCNTL DD 文はオプションです。SLSCNTL DD 文を含める場合は、アクティブな HSC/VTCS と一致している必要があります。
 - HSC/VTCS がアクティブでない場合、実稼働 CDS を識別する SLSCNTL DD 文が必要です。
- SLSNEW DD 文によって、DRTEST CDS が不要なこと、入力されている場合は無視することを指定します。

制御カード例:

```
DRTEST PRIME HOSTID(ZIPF,ZIPG) -
DRVTSS(VTSSW) -
DRACS(00)
```

構文

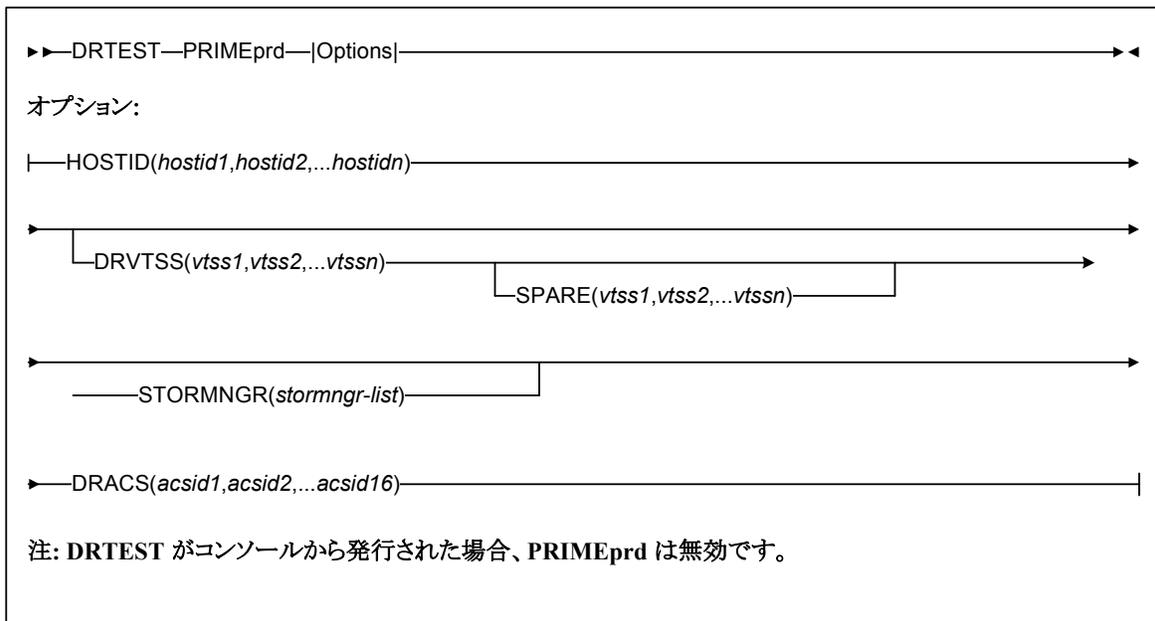


図 3-105 DRTEST PRIMEprd の構文

パラメータ

PRIMEprd

実稼働 CDS を更新します。

HOSTID(*hostid1,hostid2,...hostidn*)

利用可能な host-id 位置のテスト CDS で複製されている HOSTID を指定します。既存の実稼働 HOSTID と、このパラメータによって複製を指定する HOSTID を入力する場合、指定できるホスト数は合計で最大 16 です。(実稼働で使用されていない) host-id を DR テスト目的で追加する必要がある場合、追加 host-id 分として、ホスト数の上限値である 16 のうちの 2 つが使用されます。

DRVTSS(*vtss1,vtss2,...vtssn*)

オプションで、DR テストサイトで使用できる VTSS の名前を指定します。これらの VTSS をスペアとして指定する場合を除き、DR テストの開始時、VTSS は本番サイトでオフラインとなり、DR テストでオンラインになります。

SPARE(*vtss1,vtss2,...vtssn*)

オプションで、DR テスト VTSS がスペアであること、既存の VTSS と同じ名前が付けられていること、DRTEST ユーティリティーの実行時と DR テスト中に本番サイトでオンライン化されることを指定します。

STORMNGR(*stormngr-list*)

オプションで、DR テストサイトの TapePlex に接続されている VLE アプライアンスのサブシステム名を指定します。

stormngr-list

サブシステム名のリスト。詳細については、『*Configuring the Host Software for VLE*』を参照してください。

DRACS(*acsid1...acsid16*)

DR テストサイトで 1 つまたは複数の ACS が利用可能であることを指定します。複数の ACS ID をリストとして指定する必要があります (ACS ID の範囲は不可)。ACS は DR テストサイトでオンライン化されますが、DR テストの開始時に本番サイトで接続状態を維持することができます (通常は接続が維持されます)。CDRT バージョン 6.2 以上では、最大 16 の DR ACS がサポートされます。

少なくとも 1 つの ACS が必要です。RTD が VTSS に接続されていない VSM 環境では、DRACS にダミー ACS を指定することができます。

DRTEST RESET

DRTEST RESET を実行すると、実稼働 CDS のすべての DR テスト設定が削除されます。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

以下を考慮に入れる必要があります。

- DR テストはアクティブに**できません**。実稼働 CDS の状態が参照されます。
- アクティブな HSC/VTCS は**不要**です。
 - HSC/VTCS がアクティブな場合、実稼働 CDS を識別する SLSCNTL DD 文はオプションで、これを含める場合、アクティブな HSC/VTCS が使用されている場合はこれと一致している必要があります。
 - HSC/VTCS がアクティブでない場合、実稼働 CDS を識別する SLSCNTL DD 文が必要です。
- SLSNEW DD 文によって、DRTEST CDS が不要なこと、入力されている場合は無視することを指定します。

制御カード例:
DRTEST RESET

注 – DRTEST STOP と DRTEST RESET は同じジョブ内で実行できますが、DRTEST RESET を実行する前に、DRTEST STOP を実行する必要があります。

構文

▶▶DRTEST—RESET—————▶▶

注: DRTEST がコンソールから発行された場合、RESET は無効です。

図 3-106 DRTEST RESET の構文

パラメータ

なし

DRTEST START

DRTEST START を実行すると、本番用サイトで DR テストが開始されます。

注 – DRTEST START を正常に実行するには、DRTEST PRIMEprd または DRTEST CREATE を用いて実稼働 CDS の準備が整っていなければなりません。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

以下を考慮に入れる必要があります。

- DR テストはアクティブにできません。実稼働 CDS の状態が参照されます。
- アクティブな HSC/VTCS が必要です。
- 実稼働 CDS を識別する SLSCNTL DD 文はオプションです。SLSCNTL DD 文を含める場合は、アクティブな HSC/VTCS と一致している必要があります。
- SLSNEW DD 文によって、DRTEST CDS が不要なこと、入力されている場合は無視することを指定します。

制御カード例:

```
DRTEST START
```

構文

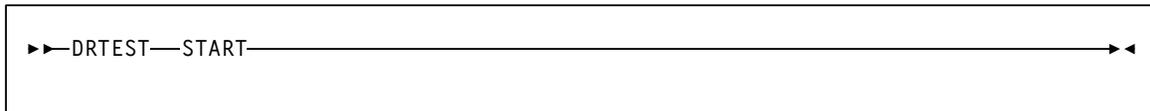


図 3-107 DRTEST START の構文

パラメータ

なし

DRTEST STOP

DRTEST STOP を実行すると、本番用サイトの DR テストが終了します。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

以下を考慮に入れる必要があります。

- DR テストがアクティブでなければなりません。実稼働 CDS の状態が参照されま
す。
- アクティブな HSC/VTCS が必要です。
- 実稼働 CDS を識別する SLSCNTL DD 文は必須ではありません。SLSCNTL DD 文を
含める場合は、アクティブな HSC/VTCS と一致している必要があります。
- SLSNEW DD 文によって、DRTEST CDS が不要なこと、入力されている場合は無視
することを指定します。

制御カード例:

DRTEST STOP

注 - DRTEST STOP と DRTEST RESET は同じジョブ内で実行できますが、DRTEST
RESET を実行する前に、DRTEST STOP を実行する必要があります。

構文

▶—DRTEST—STOP—◀

図 3-108 DRTEST STOP の構文

パラメータ

なし

EEXPORT

EEXPORT コマンドは、電子エクスポート機能を実行する際に使用します。このコマンドを使用して、VTV を手動でエクスポートしたり、拒否されたエクスポートを再試行します。

インターフェース:	UII - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

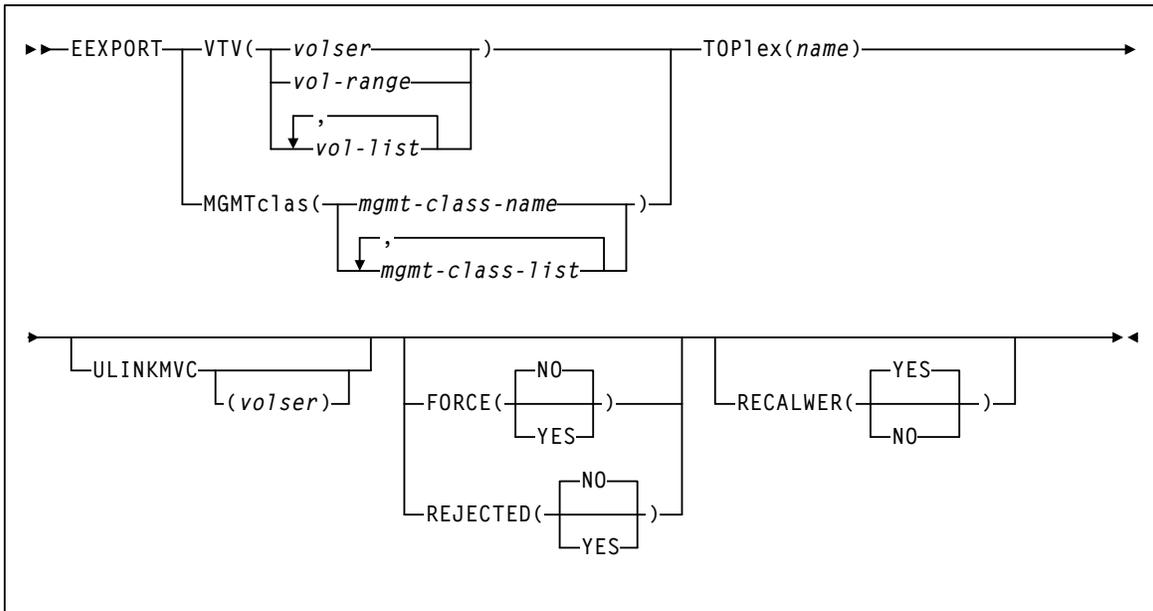


図 3-109 EEXPORT コマンドの構文

パラメータ

VTV

電子エクスポートする VTV (1つ以上) を指定します。

volser, *vol-range*, または *vol-list*

VTV(1つ以上)のvolserです。最大 2,000 の volser を指定できます。

MGMTclas

電子エクスポートする VTV を決定するマネージメントクラス (1つ以上) の名前を指定します。

mgmt-class-name または *mgmt-class-list*

マネージメントクラス名。この名前は、先頭の 1 文字を英字とする 1 - 8 文字の英数字で SMS 命名規則に従っていなければなりません。

TOPlex

電子エクスポートによって VTV のコピーを送信する受信先の TapePlex の名前を指定します。TapePlex へのルートを提供する構成内には、少なくとも 1 つの CLINK がなければなりません。

name

ターゲット TapePlex の名前。

TOVTSS

オプションで、TOPlex パラメータによって指定されるターゲット TapePlex 内で受信側 VTSS として優先設定される VTSS 名を指定します。

vtss-name

VTSS名。

注 - これは優先設定にすぎません。値の検査は実行されません。

ULINKMVC

エクスポート処理の一環として、ターゲット TapePlex にある MVC のコピーを削除するかどうかを指定します。

volser

ターゲット VTV から削除する MVC コピーからの volser。指定されている場合は、VTV のすべての MVC コピーが削除されます。

注 -

- このパラメータを指定するには、送信された VTV バージョンがターゲット TapePlex 内のバージョンと一致する必要があります。送信されたバージョンの方が新しい場合は、暗黙の動作になります。
 - このパラメータは、ターゲット TapePlex 内にある VTV の MVC コピーのみが損傷している場合に使用できます。EEXPORT コマンドによって、VTV の置き換えコピーを TapePlex に提供できます。損傷している MVC コピーは、送信される VTV コピーからの追加マイグレーションによって置き換えられます。
-

FORCE

ほかの条件を無視して、VTCS が VTV をエクスポートするかどうかを指定します。

YES

VTV が以前 TapePlex にエクスポートされているか否かにかかわらず、またはマネージメントクラスがターゲット TapePlex を指定しているストレージクラスを指し示しているか否かにかかわらず、TOPlex パラメータで指定されている TapePlex に VTV をエクスポートします。

NO

TOPlex パラメータで指定されている TapePlex に VTV をエクスポートしますが、エクスポート済みとマーク付けされている VTV を無視し、TOPlex パラメータでマネージメントクラスが TapePlex を指定しているストレージクラスを指し示していない VTV を除外します。これはデフォルトです。

REJECTED

VTCS のみが CDS に記録されている VTV をターゲット TapePlex に拒否されたものと選択するかどうかを指定します。

注 – REJECTED と FORCE は、いずれか一方しか指定できません。

NO

エクスポート済みとマーク付けされている VTV を無視し、マネージメントクラスが TOPlex パラメータで TapePlex を指定しているストレージクラスを指し示していない VTV を除外します。これはデフォルトです。

YES

ターゲット TapePlex によって以前拒否された VTV のみを選択します。

RECALWER

VTCS が 読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールするかどうかを指定します。このパラメータのデフォルト値は、VTCS 構成の GLOBAL 文の RECALWER パラメータによって決定されます。

YES

読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールします。これはデフォルトです。

NO

読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールしません。

EJect

EJect コマンドを実行すると、ボリュームがカートリッジアクセスポート (CAP) に移動され、削除されます。

1 つの CAP、特定の CAP、または特定 CAP のリストを指定できます。1 つまたは複数の CAP を指定すると、カートリッジのイジェクトがこれらの CAP に限定されます。

複数 ACS 構成でのイジェクトで、各 ACS にボリュームが常駐している場合は、各 ACS で複数の CAP を指定できます。CAP リストが指定されていない場合は、各 ACS が利用できる CAP のうち、優先度の最も高い CAP を HSC が選択します (198 ページの「CAPPref」を参照)。

各要求で特定の CAP を指定し、複数の EJECT 要求を送信することもできます。複数 ACS 構成で 1 つの CAP を指定する場合は、CAP ACS 内にボリュームリストが常駐していなければなりません。

1 つの ACS 内にある複数の CAP を EJECT ユーティリティーに割り振ることもできます。一般的に、1 つの EJECT ユーティリティーで複数の CAP を指定すると、パススルーの回数が減るため、パフォーマンスが向上します。

同じ LSM 内の 2 つの CAP を指定した場合、LSM 内のカートリッジは順次イジェクトされます。これはボルトに役立ちます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

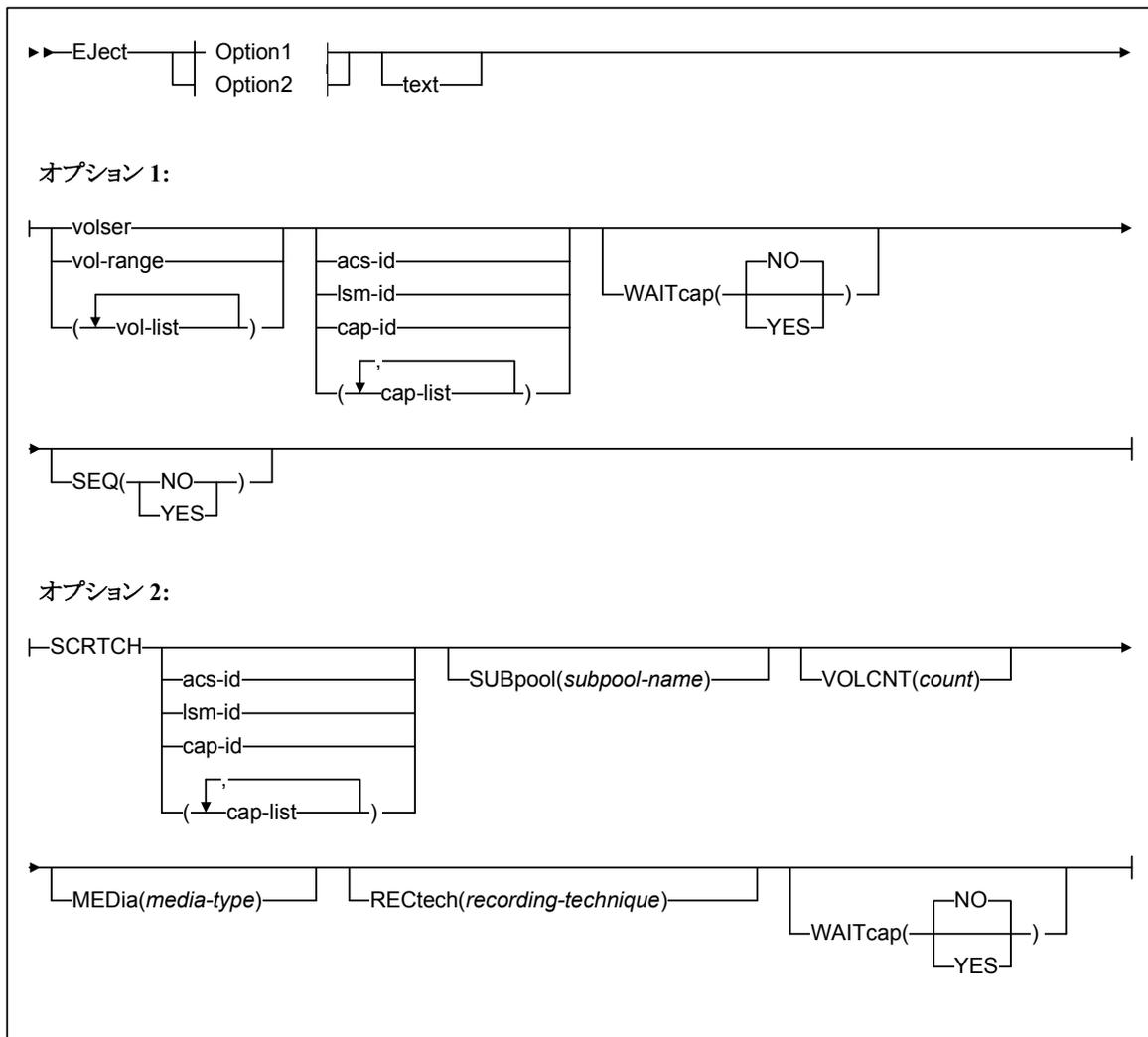


図 3-110 Eject の構文

パラメータ

text

オプションで、EJECT 要求に対して CAP を開くようオペレータが要求するたびに発行される 44 バイトの文字列のアドレスを指定します。このテキストはメッセージ SLS1251E を介して表示されます。

VOLser

VOLSER がイジェクトされるよう指定します。

vol-list

イジェクトするボリュームのリスト。 *vol-list* には、1 つの VOLSER、VOLSER の範囲、または VOLSER のリストと範囲の組み合わせを指定できます。

リストを指定する場合は、要素をコンマまたはブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲みます。VOLSER の範囲を指定する場合は、最初の VOLSER と最後の VOLSER をダッシュで区切ります。

SEQ

オプションで、CAPイジェクト処理がCAPセルを、**VOLser** パラメータの指定と同じ順序で充填するのかを指定します。

注 -

- SEQ は指定されていないが、2つのCAPが同じLSMで要求されており、そのLSMが SL8500でない場合、ACSのカートリッジは、順次イジェクトされます。
 - 基本性能については、SEQ(NO) を推奨します。
-

NO

ホームセルの場所の順に要求されたボリュームをイジェクトするように指定します。CAPへのボリュームホームロケーションの距離によって、イジェクト処理はCAPまたはマガジン (SL8500用) を充填します。つまり、CAPに一番近いボリュームまたはマガジンを最初にイジェクトします。

YES

関連する **VOLser** パラメータでボリュームがリストされている順で、CAPにカートリッジをイジェクトするように指定します。要求された最初のカートリッジは、一番上のCAPセルに表示され、2番目に要求されたカートリッジは、次のCAPセルに表示されます。CAPが一杯になるまで、またはすべてのカートリッジがCAPに移動するまで行われます。

WAITcap

オプションで、CAP が利用できない場合に、イジェクトのボリュームのリストが、利用可能な CAP を待機するかどうかを指定します。

YES

CAPが利用できるようになるまでイジェクト処理が永久に待機するように指定します。デフォルト値は YES です。

NO

CAPが利用できない場合に、イジェクト処理がCAPを待機しないように指定します。

SCRtCH

スクラッチボリュームをイジェクトすることを示します。

注 – CAP が指定されていない場合は、ACS 00 内のスクラッチテープのみがイジェクトされます。

SUBpool

オプションで、スクラッチボリュームをイジェクトするサブプールを指定します。MEDia または RECtech が指定されている場合は、同じサブプール内の指定したメディアタイプまたは記録方式のカートリッジがイジェクトされます。

subpool-name

サブプールの名前。

VOLCNT

オプションで、指定した数のスクラッチボリュームがイジェクトされるよう指定します。

count

イジェクトするスクラッチボリュームの数。

MEDia

オプションで、指定したメディアのスクラッチカートリッジがイジェクトされるよう指定します。

media-type

メディアタイプです。

有効な *media-type* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

注 –

- MEDia も RECtech も指定されていない場合は、メディアタイプとは無関係に次のスクラッチカートリッジが選択されます。MEDia と RECtech の両方を指定する場合は、双方に互換性がなければなりません。
- SUBpool が指定されていない場合は、サブプールに属しているかどうか、VOLPARMS によってデフォルトのサブプールに定義されているかどうか、またはどのスクラッチサブプールにも属していないかどうかにかかわらず、次のスクラッチカートリッジが選択されます。

RECtech

オプションで、指定した記録方式のスクラッチカートリッジがイジェクトされるよう指定します。RECtech は、テープ表面にデータトラックを記録するのに使用される手法を示します。

recording-technique

記録方式です。

有効な *recording-technique* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

注 – RECTech を指定しない場合は、メディアタイプに従って (指定されている場合)、次のスクラッチカートリッジが選択されます。どちらも指定されていない場合は、メディアタイプや記録方式にかかわらず、次のスクラッチカートリッジが選択されます。RECTech と MEDIA の両方を指定する場合は、双方に互換性がなければなりません。

WAITcap

オプションで、CAP が利用できない場合に、イジェクトのボリュームのリストが、利用可能な CAP を待機するかどうかを指定します。

YES

CAP が利用できるようになるまでイジェクト処理が永久に待機するように指定します。デフォルト値は YES です。

NO

CAP が利用できない場合や解放されている場合に、イジェクト処理が CAP を待機しないように指定します。

CAP<:so>CAP

オプションで、処理に使用するカートリッジアクセスポートを指定します。

このユーティリティーは、指定した CAP に対してのみスクラッチボリュームをイジェクトします。EJECT は、指定の CAP が含まれている LSM に限定してスクラッチボリュームを検索します。

注 – CAP が指定されていない場合は、CAPPref コマンドの設定に応じて、使用する CAP が決定されます。詳細については、[198 ページの「CAPPref」](#)を参照してください。

CAP の優先順位が指定されていない場合、HSC はメッセージを表示し、ユーザーが CAPPref 値を入力するまで待機します。CAPPref によって指定されている CAP にパススルーできます。

cap-list

カートリッジアクセスポート。cap-list には、CAPid をコンマで区切って明示的に指定する必要があります。CAPid の範囲は指定できません。

複数の CAPid を指定する場合は、各要素をブランクまたはコンマで区切り、リスト全体をカッコで囲みます。CAP が指定されている場合は、各 ACS から 1 つ選択されます。

cap-id の形式は、AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は CAP です。有効値のリストについては、[707 ページの「CAP の値」](#)を参照してください。

ENter

ENter コマンドを実行すると、自動モードの CAP を使って LSM 内にカートリッジを入力できます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

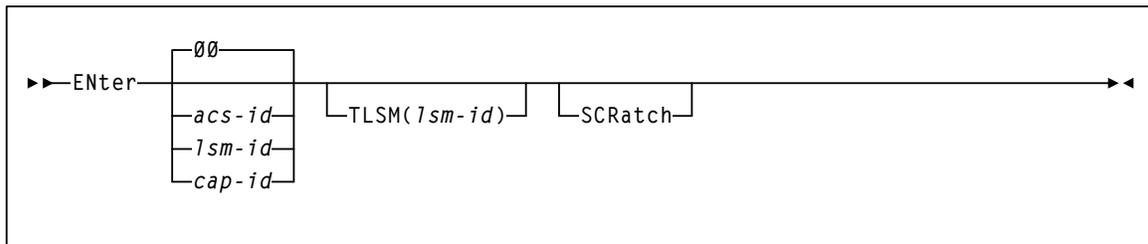


図 3-111 ENter の構文

パラメータ

acs-id

カートリッジが入力される ACS を指定します。HSC は、ACS 内の優先順位がゼロではない手動モードの CAP を指定します。

lsm-id

次のいずれかを指定します。

- 単一の CAP を持つ LSM
- 複数の CAP を含む LSM。HSC は、ゼロでない最高優先順位の使用可能な手動モード CAP を選択します。LSM で使用可能なほかの手動モード CAP と同じか高い優先順位の場合、手動モードで使用可能であれば CAPid 00 が選択されます。

cap-id

CAP の可用性または優先順位に関係なく、使用する手動モードの CAP を指定します。*cap-id* の形式は、AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は CAP です。有効値のリストについては、[707 ページの「CAP の値」](#)を参照してください。

TLSM

入力されたカートリッジを受け取るLSMを指定します。

lsm-id

次のいずれかを指定します。

- 単一の CAP を持つ LSM
- 複数の CAP を含む LSM。HSC は、ゼロでない最高優先順位の使用可能な手動モード CAP を選択します。LSM で使用可能なほかの手動モード CAP と同じか高い優先順位の場合、手動モードで使用可能であれば CAPid 00 が選択されます。

*lsm-id*の形式はAA:LLで、AAはACSid（16進数00-FF）、LLはLSM番号（16進数00-17）を示します。

SCRatch

入力したボリュームをスクラッチ状況にできるようにします。スクラッチ状況になるように指定されていないボリュームは、非スクラッチボリュームとしてエンターされます。

EXECParm

EXECParm コマンドを使用して、通常はサブシステムの起動手順で指定される GTF イベントとフォーマット ID を指定したり、WTO または WTOR メッセージの前に置かれるコマンドの接頭辞を表示できます。

インタフェース :	PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	N/A

構文

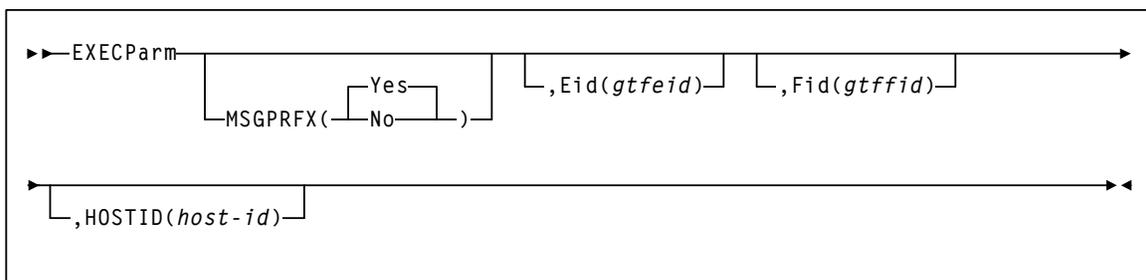


図 3-112 EXECParm の構文

パラメータ

MSGPRFX

オペレータへの WTO または WTOR メッセージの前にコマンドの接頭辞を付けるかどうかの制御を指定します (省略可能)。

Yes

オペレータへの WTO または WTOR メッセージの前にコマンドの接頭辞を付けて表示することを指定します。

No

オペレータへの WTO または WTOR メッセージの前にコマンドの接頭辞を付けて表示しないことを指定します。

Eid

gtfeid は GTF イベント ID を指定します (省略可能)。

PARAM='Eid(*user-specified-event-id*)' パラメータは、GTF イベント ID を指定する代替方法として HSC 初期設定手順で使用できます。

Fid

gtffid は GTF フォーマット ID を指定します (省略可能)。

PARM='Fid(*user-specified-format-id*)' パラメータは、GTF フォーマット ID を指定する代替方法として HSC 初期設定手順で使用できます。

HOSTID

host-id は、EXECParm 制御文を処理する要求に関連付けられたシステム ID を指定します (省略可能)。

注 – 指定された *hostid* がコマンド実行中のホストに一致しない場合、コマンドは無視され、メッセージは発行されません。

EXPORT

EXPORT コマンドは、（必要に応じて）VTVを統合し、VSMシステムからエクスポートできるVTVおよびMVCをリストしたマニフェストファイルを作成します。

注 - EXPORT は、FEATURES VSM(ADVMGMT) が指定されている場合にのみ有効です。詳細については、381 ページの「FEATURES」を参照してください。

インタフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	<ul style="list-style-type: none"> • VTV、または MGMTCLAS パラメータを指定する場合は、FULL サービスレベルのアクティブな HSC/VTCS が必要です。 • MVC または STORclas パラメータを指定する際は、アクティブな HSC/VTCS は不要です。

構文

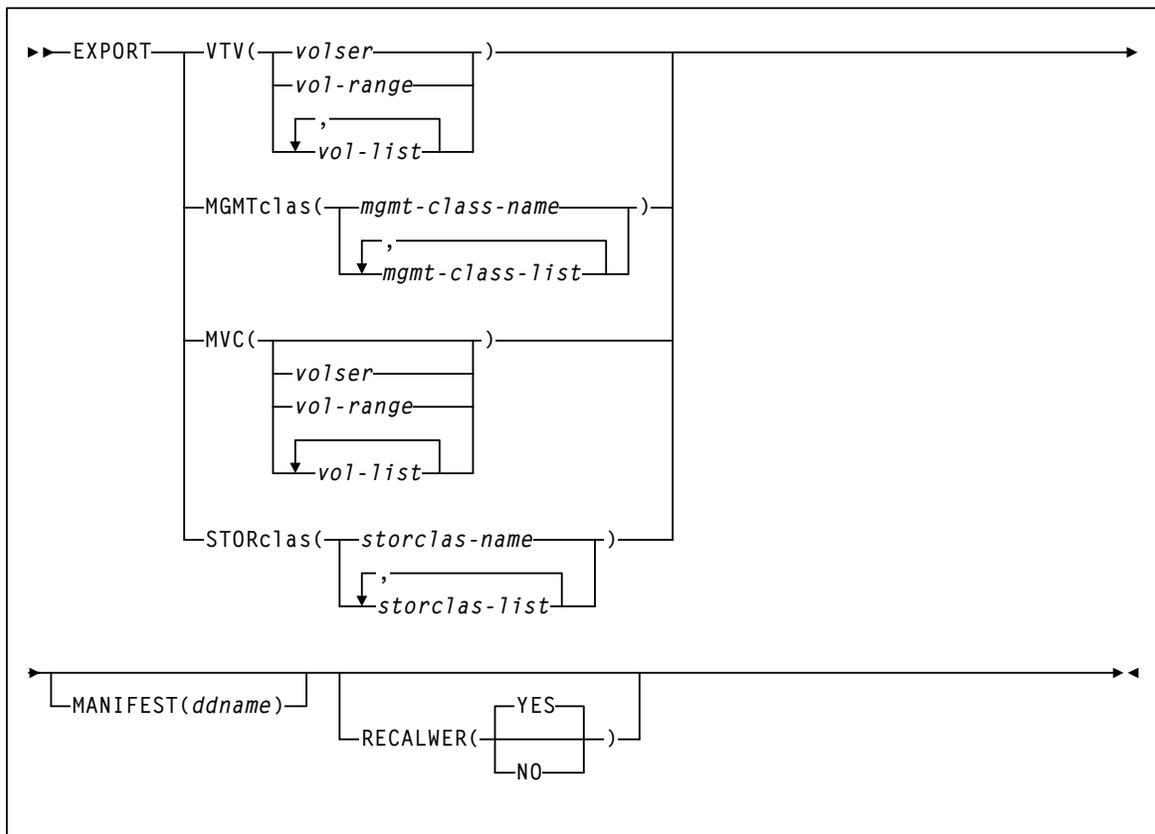


図 3-113 EXPORTの構文

パラメータ

VTV

エクスポートのために統合するVTV (1つ以上) を指定します。

volser、*vol-range* または *vol-list*

VTV(1つ以上)のvolserです。指定できるVTVの数に制限はありません。

MGMTclas

エクスポートのために統合するVTV (1つ以上) を決定するマネジメントクラス (1つ以上) を指定します。

mgmt-class-name | *mgmt-class-list*

MGMTclas 制御ステートメントで定義した 1 つまたは複数のマネージメントクラスの名前です。詳細については、[416 ページ](#)の「MGMTclas 制御文」を参照してください。

MVC

エクスポートするMVC (1つ以上) を指定します。

volser、*vol-range* または *vol-list*

1つまたは複数のMVCのVOLSERです。

STORclas

エクスポートするMVC (1つ以上) を決定するストレージクラス (1つ以上) を指定します。

stor-clas-name | *stor-clas-list*

STORclas 制御ステートメントで定義した 1 つまたは複数のストレージクラスの名前です。詳細については、[434 ページ](#)の「STORclas 制御文」を参照してください。

MANIFEST

オプションで、マニフェストファイルの出力先 DD 名を指定します。

ddname

マニフェストファイルのDD名です。デフォルトはMANIFESTです。

RECALWER

オプションで、VTCS が 読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールするかどうかを指定します。

YES

読み取りデータチェックの発生したVTVをリコールします (デフォルト)。

NO

読み取りデータチェックの発生したVTVをリコールしません。

そのほかの JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、EXPORT JCL には以下の定義文が適用されます。

manifest file DD

マニフェストファイルのDD文(任意)。

FEATures

FEATures コマンドで、VSM の基本または拡張管理機能のどちらかを有効にするかを指定します。

インタフェース :	PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE サービスレベルのアクティブな HSC

構文

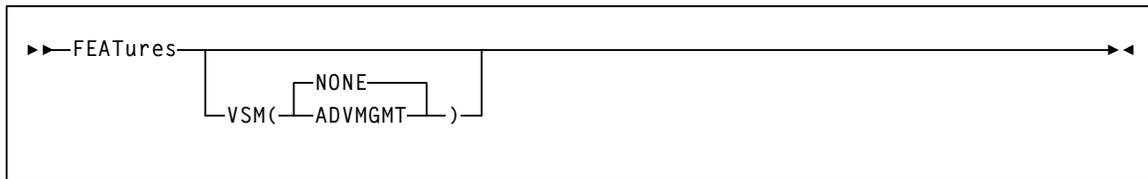


図 3-114 FEATures の構文

パラメータ

VSM

オプションで、有効にする VSM マネージメント機能を指定します。

NONE

基本管理機能のみが使用可能になり、拡張管理機能は使用可能になりません(デフォルト)。STORclas 文、MGMTclas 文のMIGpol、RESTIME、CONSRC、CONTGTおよびREPLICAT各パラメータ、ならびにEXPまたはT、IMPまたはT は使用不可になります。

ADVMGMT

基本管理機能と、次の拡張管理機能の両方が使用可能になります。

- STORclas 文。
- MGMTclas 文 MIGpol、RESTIME、CONSRC、CONTGT、REPLICAT パラメータ。
- EXPORT および IMPORT。

FEATures PARMLIB制御文が指定されていない場合は、基本管理機能のみが使用可能になります。

FMTLOG

FMTLOG コマンドは、SC/VTCS トランザクションロギングサービスの一部です。

このコマンドを実行して、ロギングサービスで使用するログファイルを事前フォーマットします。データブロックが事前フォーマットされ、特定の制御情報がファイルの最初のレコードに書き込まれます。1 つの FMTLOG ユーティリティコマンドで、最大 2 つのログファイルをフォーマットできます。

注 - OFFLOAD LOGFILE ユーティリティコマンドでアクティブ化する前に、ログファイルを事前フォーマットする必要があります。詳細については、[491 ページの「OFFload」](#)を参照してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

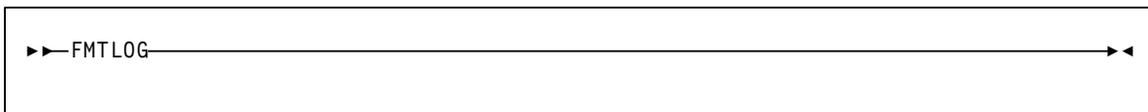


図 3-115 FMTLOG の構文

パラメータ

なし

その他の JCL 必要条件

[658 ページの「SLUADMIN の起動」](#)に記載されている必要な JCL 定義文に加え、FORMAT LOGFILE JCL には次の定義文が適用されます。

SLSLOG1

フォーマットするログファイルを指定します。

SLSLOG2

フォーマットする 2 番目のログファイルを指定します。

IMPORT

IMPORT コマンドを実行すると、マニフェストファイルに含まれている VTV および MVC が VSM システムにインポートされます。

注 -

- EXPORT は、FEATures VSM(ADVMMGMT) が指定されている場合にのみ有効です。
- 「先」CDS には、(CDS レベルが実現する)「元」CDS と同じ機能があることを確認します。たとえば、「元」CDS で Large VTV ページサイズが有効になっていて 2/4GB の VTV が作成されている場合、「先」CDS にも同じ機能がある必要があり、そうでない場合、インポートは失敗します。

インタフェース :	UUI - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS は不要

構文

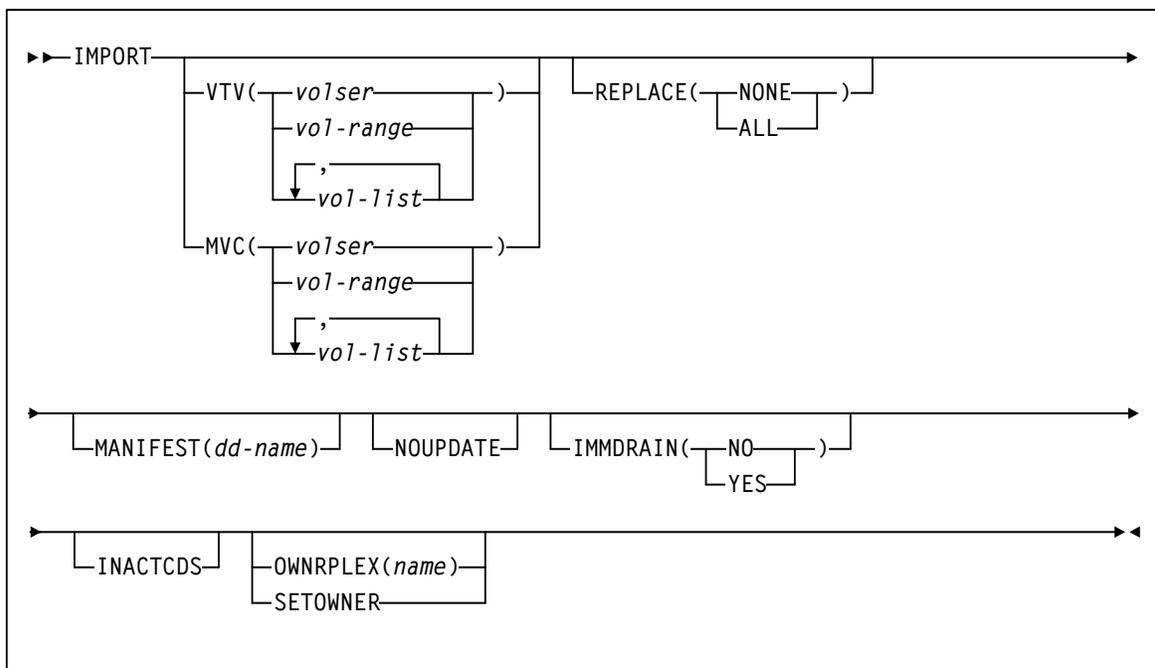


図 3-116 IMPORT の構文

パラメータ

VTV

インポートするVTV (1つ以上) を指定します。

volser、*vol-range* または *vol-list*

VTV(1つ以上)のvolserです。

MVC

インポートするMVC (1つ以上) を指定します。

volser、*vol-range* または *vol-list*

1つまたは複数のMVCのVOLSERです。

REPLACE

重複するVTVに上書きするかどうかを指定します。デフォルト値がないため、値を指定する必要があります。

NONE

VTVレコードを上書きしません。ターゲット CDS内で他と重複せず初期化されていないVTVのみがインポートされます。

ALL

ターゲット CDS 中の重複 VTV レコードをすべて置き換えます。

注意 -

- ALL パラメータを指定する前に、本当にターゲット CDS の重複 VTV レコードの置き換えが必要なことを確認してください。NOUPDATE で、置き換えられる VTV レコードを確認することができます。
 - VTV レコードが置き換えられると、VTV の既存のすべての VTSS および MVC コピーは無効になります。
 - ターゲット CDS レコードで MVC に VTV があることが示されている場合は、たとえ、REPLACE(ALL) を指定しても、MVC をインポートすることはできません。この場合、まず MVC をターゲットのシステムでドレイン (EJECT オプションあり) し、ACS からイジェクトします。この時点で、ソースシステムからエクスポートしたMVCをインポートすることができます。
-

IMMDRAIN

オプションで、インポートされたMVCをVTSSが即座にドレインするかどうかを指定します。

NO

MVCをドレインしません (デフォルト)。

YES

MVCをドレインします。

MANIFEST

オプションで、マニフェストファイルの入力 DD 名を指定します。

ddname

マニフェストファイルのDD名です。デフォルトはMANIFESTです。

NOUPDATE

オプションで、VSMがCDSの更新を行わないことを指定し、インポート処理を検証し、ジョブログに情報メッセージを書き込みます。

INACTCDS

オプションで、インポートジョブを実行中のHSCシステム上で、現在アクティブのCDSとは異なるCDSをインポートで使用するよう指定します。SLUADMIN JCL の SLSCNTL 定義文を使用して、代替りの CDS を指定します。

注 –

- インポートジョブを実行中のシステム上で HSC が停止している場合、そのシステムの CDS は非アクティブとみなされるため、INACTCDSを指定する必要はありません。
- INACTCDS パラメータが指定されている場合は、HSC/VTCS（アクティブな場合）が使用している CDS とは別の CDS を SLSCNTL 定義文で指定する必要があります。

OWNRPLEX

インポートする VTV の所有権を指定します。

name

VTV のオリジナルコピーを所有している TapePlex の名前です。この名前には、構成内にある既知の TapePlex 名と同じでなければなりません。

この名前が CONFIG TAPEPlex 文の THISPLEX パラメータに対して指定されている名前と一致する場合は、電子インポートの状態が削除されます。

SETOWNER

所有権情報がインポートされるよう指定します。

デフォルトで、マニフェスト内の所有権情報は無視されます。SERTOWNER パラメータで、TapePlex 所有権を指定し、エクスポートフィールドがインポートされるよう指定します。VTV は、あたかも Display コマンドとレポートに電子インポートされたかのように見えます。

そのほかの JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、IMPORT JCL には以下の定義文が適用されます。

manifest file DD

マニフェストファイルのDD文です。

INITialize

INITialize コマンドを使用すると、CAP を通してライブラリにカートリッジを一括して入力し、ユーザー指定のプログラムを呼び出し、各テープに磁気ラベルを書き込むことができます。

ロボットは、CAP に置かれたカートリッジを受け付けて、そのカートリッジのバーコードラベルを読み取り、HSC がその VOLSER をユーザー指定のプログラムに渡します。磁気ラベルの付いたカートリッジは、ライブラリからイジェクトするか、またはセルロケーションに置くことができます。カートリッジがライブラリ内に格納される場合、制御データセットの VOLSER と位置に関する情報は更新されます。制御データセットでは、各カートリッジがスクラッチか非スクラッチのいずれであるかを記すことができます。

INITialize は、外部 Tri-Opticラベルを読み取って、CNTLDD パラメータで定義されたデータセットにそれらを記録します。CNTLDD は、TMSTPNIT 制御文で使用する DDname を記述する制御文のパラメータです。

INITialize ユーティリティーは、自身のカートリッジを初期設定するのではなく、初期設定を実行する TMS、TLMS、そのほかの初期設定ユーティリティーを呼び出します。CNTLDD は、HSC を介して TMS ユーティリティーに対し、TMS ユーティリティーで必要な入力パラメータに使用する DD を指定します。

警告 – このユーティリティーは、SMC を実行し、ローカル HSC サーバーを使用する MVS システムで実行する必要があります。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

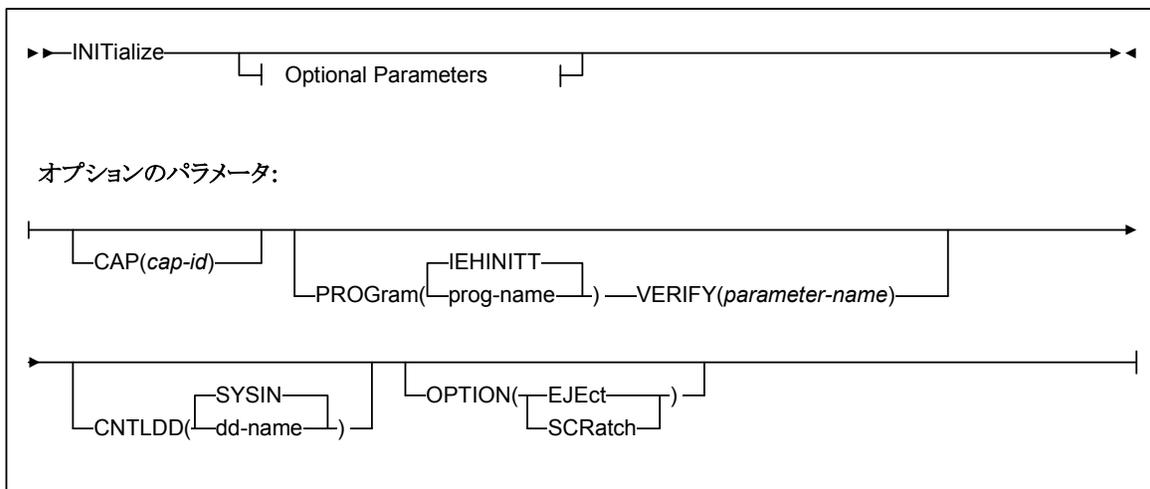


図 3-117 INITialize の構文

パラメータ

CAP

オプションで、操作に使用する特定の CAP を指定します。

CAP が指定されていない場合は、SLSTAPE DD 文の条件を満たすよう割り振られている機器が示す ACS の CAP が選択されます。

cap-id

CAP です。cap-id の形式は、AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は CAP です。有効値のリストについては、707 ページの「CAP の値」を参照してください。

PROGram

オプションで、実際にラベルを書き込むプログラムを呼び出します (指定されていない場合は、IEHINITT であると想定されます)。

prog-name

初期設定を実行するプログラムです。

IEHINITT

これはデフォルト値です。

VERIFY

オプションで、プログラムパラメータによって示されているテープ初期設定プログラムにパスするパラメータを指定します。**VERIFY** は、プログラムパラメータに **TMSTPNIT** と指定されている場合にのみ、指定できます。

parameter-name

TMSTPNIT プログラムにパスするパラメータ。たとえば、次のパラメータが入力されます。

VERIFY (ROBOT)

TMSTPNIT は、NL (ラベルなし) テープの TMS CAL0TN01 メッセージを抑止します。有効なパラメータ値については、適切な CA1 文書を参照してください。

CNTLDD

オプションで、初期設定制御文を書き込み、ラベルプログラムで制御文を読み込む DD 文を指定します。

注 – これはユーザーの制御データセットではありません。

dd-name

DD 文の名前。

注 – *dd-name* オプションは、バージョン 5.1 以前の CA-1 (TMS) を使用するときのみ指定できます。CA-1 (TMS) バージョン 5.1 以降では、デフォルト値 (SYSIN) を使用する必要があります。

SYSIN

SYSIN はデフォルト値です。

OPTion

オプションで、ラベル処理の終了後に実行する処理を指定します。指定されない場合、デフォルトでは、新規カートリッジが非スクラッチ状態でライブラリ内に保持されます。

EJect

ラベル処理の完了後、ラベル付けされたボリュームがライブラリからイジェクトされるよう指定します。

SCRatch

ライブラリに入力するラベル付けされたボリュームがスクラッチリストに追加されるよう指定します。ボリュームをスクラッチとして処理する場合は、インストール時に、テープ管理システムにボリュームのスクラッチ状況を報告する必要があります。

その他の JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、INITialize JCL には次の定義文が適用されます。

SLSINIT

呼び出された初期設定プログラムの置換制御カードのフォーマットです。

SLSTAPE

ラベル付けのためにカートリッジをマウントするライブラリトランスポートです。非ライブラリトランスポートが割り振られないよう、次のいずれかを指定します。

- ライブラリトランスポートのみを含むエソテリック
- 特定のライブラリトランスポートのアドレス
- ライブラリトランスポートへの割り振りを指示する TAPEREQ 文
- ユーザー出口 (*ELS Legacy Interfaces Reference* を参照)

CNTLDD または SYSIN

ボリュームのシリアルラベリング情報が含まれており、初期設定プログラム (IEHINITT、PROG キーワードパラメータによって指定されているプログラム) に入力値としてパスされます。

ユーティリティー制御文に CNTLDD が指定されている場合、DDname でラベリング情報が含まれているデータセットを指定します。

SYSPRINT

IEHINITT からの出力メッセージです。

ボリュームのシリアルラベリング情報が含まれており、初期設定プログラム (IEHINITT、PROG キーワードパラメータによって指定されているプログラム) に入力値としてパスされます。

ユーティリティー制御文に CNTLDD が指定されている場合、DDname でラベリング情報が含まれているデータセットを指定します。

INVENTORY

INVENTORY コマンドを実行すると、指定した MVC 上にあるすべての VTV が一覧表示されます。

このコマンドを使用して以下を実行することもできます。

- 指定した MVC の内容と CDS に記録されている情報を照合確認します。
- MVC の物理的なテープ終了位置ではなく、MVC の CDS に記録されているテープ終了位置に基づいて処理を終了します。
- CDS の情報と VTV の間に互換性がないことがわかった時点で、MVC の処理を終了します。

インタフェース :	UUI - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

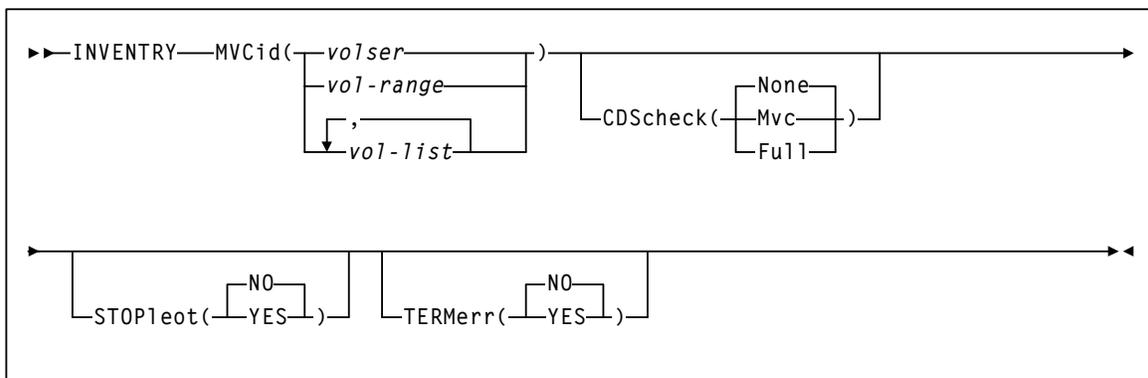


図 3-118 INVENTORY の構文

パラメータ

MVCid

目録化する MVC を指定します。

volser, *vol-range*, または *vol-list*

1つまたは複数のMVCのVOLSERです。範囲（1つ以上）を指定することもできます。

CDScheck

オプションで、目録化した各 MVC の内容を CDS に記録されている情報に照らし合わせて確認するかどうかを指定します。

None

目録化されている MVC 上にある各 VTV は、メッセージ SLS6933I によって一覧表示されます。CDS は確認されません。None はデフォルトです。

Mvc

目録化されている MVC 上にある各 VTV は、メッセージ SLS6933I によって一覧表示されます。VTV の詳細は CDS から取得されます。VTV の MVC と CDS のコピーが比較され、SLS6933I にコメントとして一覧表示されます。CDS が常駐 MVC を検出したり、SLS6933I に表示されている VTV の MVC コピーとは異なるコピーを検出した場合は、メッセージ SLS6934I を介して詳細が一覧表示されません。

Full

目録化されている MVC 上にある各 VTV は、メッセージ SLS6933I によって一覧表示されます。

VTV の詳細は CDS から取得されます。VTV の MVC と CDS のコピーが比較され、SLS6933I にコメントとして一覧表示されます。CDS が常駐 MVC を検出したり、SLS6933I に表示されている VTV の MVC コピーとは異なるコピーを検出した場合は、メッセージ SLS6934I を介して詳細が一覧表示されません。目録化されている各 MVC に対し、CDS が確認され、MVC にコピーがある CTC が表示されます。MVC 上で検出されなかった MVC は、メッセージ SLS6935E によって一覧表示されます。

STOPleot

オプションで、論理的なテープ終了位置に達した場合に処理を終了するかどうかを指定します。論理的なテープ終了位置とは、MVC の CDS に記録されているテープ終了位置です。

NO

目録化されている各 MVC ですべてのVTV が処理されます。これはデフォルトです。

YES

目録化されている各 MVC で次のいずれかが起こるまで、VTV の処理が続行されます。

- MVC の物理的なテープ終了位置に達した場合。
- 物理的なテープ終了位置に達する前に、最初の VTV が MVC の論理的なテープ終了位置に達した場合。CDScheck(None) が指定されている場合、この設定は無効です。

TERMerr

オプションで、MVC の内容と、MVC 上にあると CDS が示している VTV が矛盾していることが判明した時点で、MVC の目録を終了するかどうかを指定します。このような矛盾は、メッセージ SLS6935E、SLS6936E、または SLS6938E によって一覧表示されます。

NO

MVC の内容と、MVC 上にあると CDS が示している VTV が矛盾していることが判明しても、MVC の目録は終了しません。これはデフォルトです。

YES

MVC の内容と、MVC 上にあると CDS が示している VTV が矛盾していることが判明した時点で、MVC の目録が終了します。CDScheck(None) が指定されている場合、この設定は無効です。

リターンコード

表 3-6 INVENTORY リターンコード

リターンコード	説明
0	要求されたすべての更新が正常に完了しました。
4	1 つまたは複数のエラーが検出されました。エラーは、メッセージ SLS6935E、SLS6936E、SLS6938E、SLS6939E、SLS6940E または SLS6941E によって一覧表示されます。
8	INVENTORY 処理に特有のものではないエラー (ECAM エラーなど) が 1 つまたは複数検出されました。

Inventory レポート

図 3-119 に、次のコマンドに対する INVENTORY レポートの例を示します。
INVENTORY MVC (021549)

この例で、お客様は、CDS に記録されている情報と VTV を照合確認せずに、MVC 021549 上にあるすべての VTV を一覧表示したいと希望しておられます。

出力例には、目録化されている MVC 上で検出された各 VTV が、メッセージ SLS6933I によって一覧表示されています。

```

SLUADMIN (7.0.0)          StorageTek Enterprise Library Software Utility          PAGE 00004
TIME 10:23:30              Inventory                                DATE 2010-03-31

Inventory report for MVC 021549

SLS6933I MVC 021549 block 00000000: VTV Y00486  Created 2007Jul17 06:33:22  Migrated 2007Jul17
SLS6933I MVC 021549 block 05402F10: VTV Y00487  Created 2007Jul17 06:34:09  Migrated 2007Jul17
SLS6933I MVC 021549 block 0A405E1F: VTV Y00489  Created 2007Jul17 06:34:56  Migrated 2007Jul17
SLS6933I MVC 021549 block 0F408D2E: VTV Y00493  Created 2007Jul17 06:36:34  Migrated 2007Jul17
SLS6933I MVC 021549 block 10409E3C: VTV Y00492  Created 2007Jul17 06:35:46  Migrated 2007Jul17

```

図 3-119 INVENTORY レポートの例

LIBGen

LIBGen コマンドは、制御データセットからのハードウェア構成、VOLPARM、VAULT および LOGFILE 情報をデコンパイルし、その情報に基づいて、一連の LIBGEN マクロを生成します。LIBGen デコンパイルユーティリティーを使用して、LIBGEN マクロの初期セットを生成できます。このセットは、新規 CDS の作成が必要なインストールに新規ハードウェアを追加した際に変更できます。

このユーティリティーの使用法と機能については、『*Configuring HSC and VTCS*』を参照してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

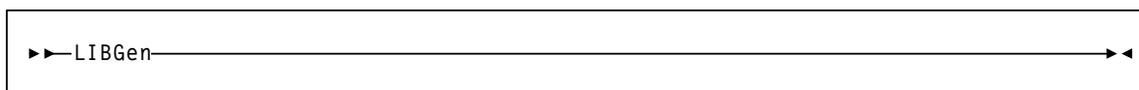


図 3-120 LIBGen ユーティリティーの構文

パラメータ

なし

そのほかの JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、LIBGen JCL には以下の定義文が適用されます。

SLSLIBGN

ユーティリティーによって作成された LIBGEN を格納するため、データセットを出力します。

データセットには、LRECL=80、固定ブロック形式 (80 の倍数) という特性があります。データセットは、印刷に割り振ることも、DASD に出力することもできます。SLSPRINT 出力のみが必要な場合は、DUMMY に割り振ることもできます。

SLSSET

CDS から SET VOLPARM、SET VAULT/VAULTVOL、または SET LOGFILE 制御ステートメントを出力します。

CDS 内に VOLPARM、VAULT/VAULTVOL、または LOGFILE 記録が存在する場合、SLSSET は**必須**です。SLSSET DD が JCL でコード化されていない場合は、メッセージ SLS0212I が発行され、ユーティリティーが終了し、リターンコード 4 が戻されます。

SLSPARM

CDS から VOLPARM カードイメージを出力します。

CDS 内に VOLPARM 記録が存在する場合、SLSPARM は**必須**です。SLSPARM DD が JCL でコード化されていない場合は、メッセージ SLS0212I が発行され、ユーティリティーが終了し、リターンコード 4 が戻されます。

出力

データベースデコンパイルユーティリティーを実行すると、次の出力が戻されます。

- 既存の制御データセットに一致する有効な LIBGEN ファイル。出力ファイルには次の特性があります。
 - ステーションアドレスとドライブアドレスは、すべて 4 文字のアドレスです。
 - 複数のパラメータが同一のラベル文を指し示している場合は、文が複製され、固有のラベルが付けられることにより、各パラメータが異なる (同一内容の) 文を指し示すように調整されます。
 - Table 3-7 は、出力 LIBGEN によって生成されるラベルです。
 - イジェクトパスワードがある場合でも表示**されていません**。代わりに、次の行が表示されます。EJCTPAS=????????
- ユーティリティーが正常に実行されなかった場合は、エラーを示すメッセージが表示されます。

表 3-7 出力 LIBGen によって生成されるデバイスのラベル

デバイス	ラベル	説明
ACS	ACSaa	aa は、0 から始まる連続した 16 進数の ACSid 値 (00 - FF) です。
LSM	LSMaall	aa は ACSid です。ll は、0 から始まる連続した 16 進数の LSMid 値 (00 - 17) です。
STATION	STaah	aa は ACSid です。h は 0 から始まる連続した 16 進数のホストインデックス値 (0 - F) です。
PANEL	Paallpp	aa は AC90Sid、ll は LSMid、pp は連続した 10 進数のパネル番号 (0 - 10) です。
DRIVE	Daallpph	aa は ACSid、ll is は LSMid、pp は 10 進数のパネル番号、h は 0 から始まる 16 進数のホストインデックス値です。

LMUPDEF

LMUPDEF コマンドで、ネットワーク LMU 添付 (LMUPATH) 文を含む定義データセットを指定します。

LMUPDEF オペレータコマンドで定義ファイルが永続的に変更されている場合は、HSC を起動する前に PARMLIB を更新する必要があります。

特定のシフトやアプリケーションに合わせて定義ファイルを変更する必要する場合、別の定義をロードするか、HSC を再起動するまで、新しい定義が有効であることに注意してください。別の定義をロードするか、HSC を再起動すると、定義ファイルは PARMLIB 仕様に戻ります。すなわち、LMUPDEF は、定義ファイルを一時的に変更する際に使用できます。

注 -

- 1 台のホストで発行された定義コマンドは、そのホストでのみ有効です。別のホストで同じ定義データセットが使用されている場合は、LMUPATH パラメータの文がホスト間で共有されます。
- 複数の LMUPDEF コマンドまたは文を発行した場合は、最後に処理されたコマンドまたは文がアクティブになります。アクティブな LMUPDEF 文を確認するには、Display LMUPDEF コマンドを入力します。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

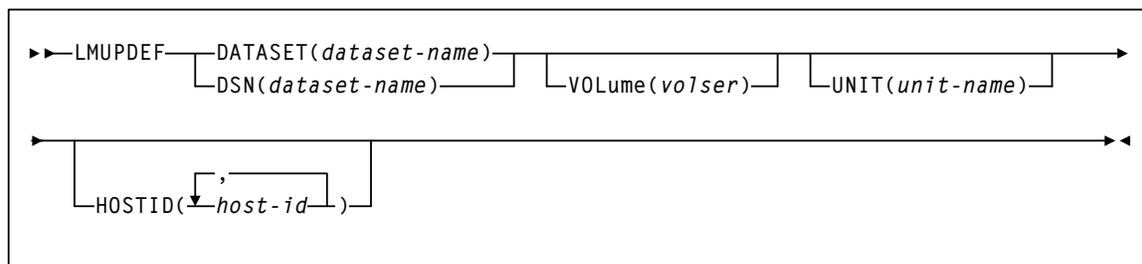


図 3-121 LMUPDEF の構文

パラメータ

DATASET または DSN

処理対象の LMUPATH 文を含むデータセット名と、オプションで OPTION TITLE 文を指定します。

注 -

- 定義データセットには、VOLATTR、UNITATTR、TAPEREQ、LMUPATH、および TITLE 文 (省略可能) を含むことができます。ただし、処理されるのは、LMUPATH 文と オプションの TITLE 文のみです。
 - これ以外の文が検出されると、エラーメッセージが表示され、文は無視されます。
 - OPTION TITLE 制御文の詳細については、[494 ページの「OPTION TITLE 制御文」](#)を参照してください。
-

dataset.name

LMUPATH アドレスパラメータが含まれているデータセットの名前。データセット名にメンバー名が含まれている場合は、*dataset.name* を引用符で囲む必要があります。次に例を示します。

```
DATASET ('YOUR.DSN (MEMBER)')
```

VOLume

オプションで、データセットが常駐している DASD ボリュームのボリュームシリアル番号を指定します。このパラメータはオプションです。データセットがカタログ化されている場合や、使用するカタログによって示されているボリュームとは別のボリューム上にデータセットがある場合は、VOLume パラメータを指定します。

volser

定義データセットのボリュームシリアル番号を指定します。

UNIT

オプションで、定義データセットが存在するユニットを指定します。

unitname

ユニット名です。定義データセットがカタログ化されていない場合、このパラメータを省略すると、デバイス名 SYSALLDA がデフォルト値となります。

HOSTID

オプションで、指定したホストでのみこの制御文が実行されるよう制限します。指定した *hostid* が、この制御文を実行しているホストと同じ場合、制御文はそのホストに対して実行されます。それ以外の場合は無視されます。このパラメータを省略すると、すべてのホストで制御文が実行されます。

このパラメータは PARMLIB でのみ使用できます。これにより、リリースが異なる HSC に対する TAPEREQ、VOLATTR、UNITATTR または LMUPATH 文を含む PARMLIB メンバーを複数のシステムで共有できるようになります。コンソールから入力した場合、メッセージ SLS0018I が発行されます。)

host-id

この制御文の実行元である 1 つまたは複数のホストの名前です。複数のホスト名を指定する場合は、コンマで区切る必要があります。

LMUPATH 制御文

LMUPATH 制御文で、LMU/LC (ライブラリコントローラ) ネットワーク 接続を定義します。LMUPDEF コマンドでロードします。

注 – SL3000 または SL8500 パーティション機能を使用している場合、PARTID パラメータは、HSC ホストグループの SL3000 または SL8500 ライブラリで定義されている特定のパーティションに関するものです。パーティション機能の使用方法については、『*Configuring HSC and VTCS*』を参照してください。

構文

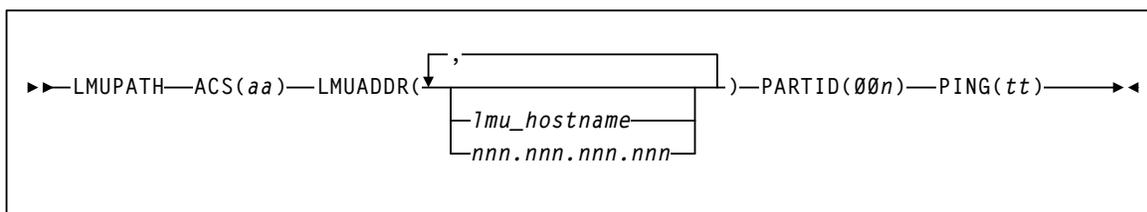


図 3-122 LMUPATH 制御文の構文

パラメータ

ACS

ACS 名を指定します。

aa

HSC との通信に使用する LMU を識別する 16 進数の ACSid 値 (00 - FF) です。

LMUADDR

ACS ごとに、LMU/LC (ライブラリコントローラ) をホスト名または IP アドレスで識別します。単一 LMU/LC 環境を指定する場合は、IP アドレスまたはホスト名を 1 つ指定します。デュアル LMU/LC 環境または SL8500 への二重 IP 接続を指定する場合は、IP アドレスまたはホスト名を追加入力します。

注 – HSC は、接続タイプ (9330 の場合はデュアル LMU、SL8500 ライブラリの場合は二重 IP) を自動的に検出します。

1 つの LMUPATH 制御文に、ホスト名と IP アドレスを指定できます。入力する各パラメータによって、異なる IP アドレスを示す必要があります。

lmu_hostname

TCP/IP 接続のホスト名です。ホスト名には最大 24 文字を使用できます。最初の文字は英字にする必要があります。

nnn.nnn.nnn.nnn

LMU/LC の IP アドレス。最大 32 個の IP アドレスを指定できます。

PARTID

各 ACSのパーティション ID を定義します。

注 - パーティションされている SL3000 または SL8500 の場合、パーティションは 1 つの SL3000 または SL8500 ボックスにしか適用されないため、複数の TCP/IP 接続機能は使用できません。

00n

パーティション ID (001 - 999) です。

注 -

- パーティション ID の 3 文字をすべて入力する必要があります。
 - このリリースでサポートされる ID は 001 - 008 です。
-

PING

HSC から LMU に要求が送信される間隔を分単位で指定します。この要求は接続をアクティブな状態に保つためのもので、ファイアウォールによって接続がアクティブでないためにクローズされるのを防ぎます。

tt

00 - 99 の分単位の時間。このパラメータを定義しない場合のデフォルトは 5 分で、00 を入力すると、この機能はオフになります。

LOGUTIL

LOGUTIL コマンドを実行すると、VTCS の CDS 回復処理が開始されます。このコマンドは次のような場合に使用します。

- CDS が使用不可または破損状態にあり、MVCAUDIT 目的で、CDS をバックアップした日から使用された MVC を識別する必要がある場合。
- VTSS で重大なデータの損失が起こった場合。

LOGUTIL を使用して、入力ログファイルを分析するモジュールを呼び出し、リカバリモジュールを呼び出して、適切な回復処置を実行します。

さらに以下が適用されます。

- LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文で、損失した MVC 上にある VTV を回復します。
- LOGUTIL GENAUDIT 文で、MVCAUDIT 文による CDS の VSM への再同期を開始します。
- LOGUTIL LOCATE_VTV 文で旧バージョンの VTV を回復します。
- LOGUTIL UNDELETE 文で、削除された VTV を回復します。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

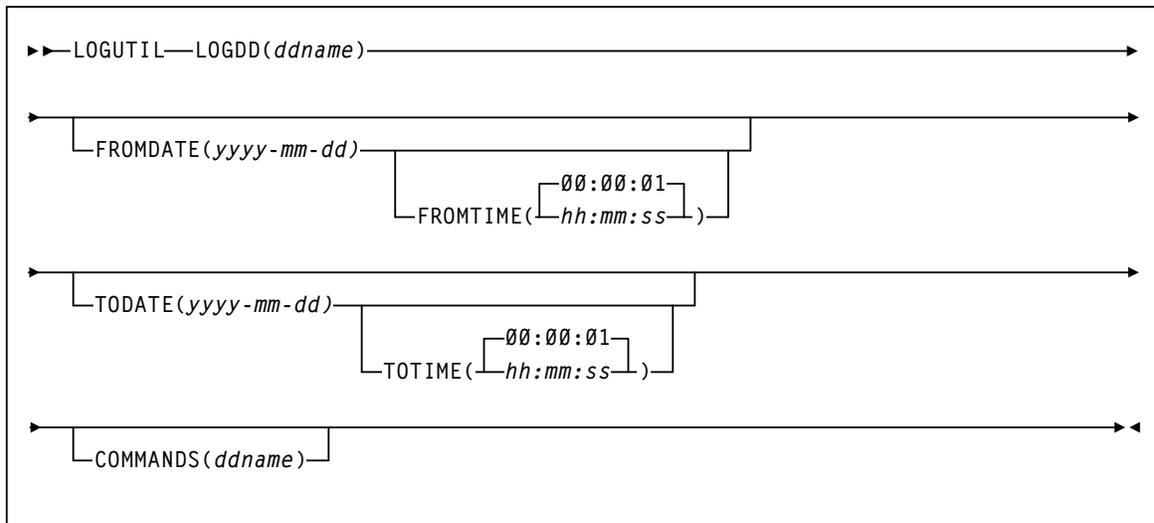


図 3-123 LOGUTIL の構文

パラメータ

LOGDD

入ログデータセットの DD 名を指定します。

ddname

DD名。

FROMDATE

オプションで、イベントログの開始日を指定します。

yyyy-mm-dd

開始日です。

FROMTIME

オプションで、イベントログの開始時刻を指定します。

hh:mm:ss

開始時刻。デフォルトは 00:00:0 です。

注 – FROMDATE および FROMTIME には、LOGUTIL を実行する MVS システムに表示される現地の日付/時刻を指定します。

TODATE

オプションで、イベントログの終了日と時刻を指定します。

yyyy-mm-dd

終了日です。

TOTIME

オプションで、イベントログの終了時刻を指定します。

hh:mm:ss

終了時刻です。デフォルトは 00:00:01 です。

注 – TODATE および TOTIME には、LOGUTIL を実行する MVS システムに表示される現地の日付/時刻を指定します。

COMMANDS

オプションで、回復コマンドが含まれているデータセットの DD 名を指定します。

ddname

DD名。

LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文

LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文は、損失した MVC 上にある VTV を回復します。

構文

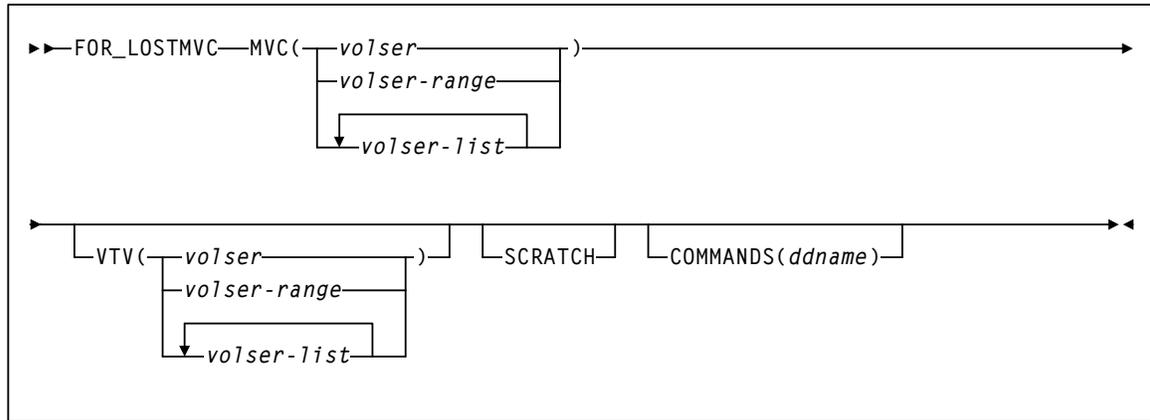


図 3-124 LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文の構文

パラメータ

MVC

回復対象の MVC を指定します。最大 1000 の MVC を指定できます。

volser、***volser-range***、***volser-list***

処理対象の *volser*、*volser* 範囲、または *volser* リスト

VTV

オプションで、回復する特定の VTV を指定します。最大 300,000 の MVC を指定できます。

指定する VTV は、回復処理対象となる 1 つまたは複数の MVC に常駐していなければなりません。このパラメータがコード化されている場合は、指定の VTV のみが回復されます (回復対象の MVC 上にある場合)。

volser、***volser-range***、***volser-list***

処理対象の *volser*、*volser* 範囲、または *volser* リスト

このパラメータはフィルターとして機能します。指定の MVC 上に **ない** VTV を指定した場合、VTV は回復 **されず**、レポート出力にも表示されません。

SCRATCH

オプションで、スクラッチ VTV を指定します。デフォルトで、スクラッチ VTV は回復処理で処理されません。

COMMANDS

オプションで、LOGUTIL コマンドでコマンドパラメータを指定した際に作成される回復コマンドが含まれているデータセットの DD 名を指定します。

ddname

DD名。

注 – FOR_LOSTMVC COMMANDS パラメータと LOGUTIL COMMANDS パラメータの連携は次のとおりです。

- GENAUDIT COMMANDS を指定すると、GENAUDIT COMMANDS を指定していない場合でも、FOR_LOSTMVC 文によって、指定のデータセットに回復コマンドが出力されます。
 - LOGUTIL と FOR_LOSTMVC の両方に COMMANDS を指定した場合、回復コマンドは FOR_LOSTMVC コマンド データセットにのみ出力されます。
-

LOGUTIL GENAUDIT 文

LOGUTIL GENAUDIT 文は、MVCAUDIT 文による CDS の VSM への再同期を開始します。MVCAUDIT 文は LOGUTIL コマンドに COMMANDS パラメータを指定すると生成されます。LOGUTIL GENAUDIT 文で、MVCAUDIT に入力する MVC を識別します。

構文

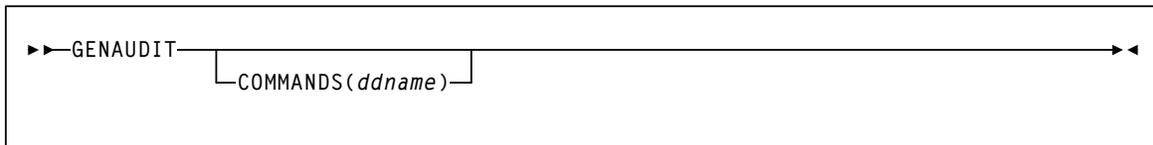


図 3-125 LOGUTIL GENAUDIT 文の構文

パラメータ

COMMANDS

オプションで、LOGUTIL コマンドでコマンドパラメータを指定した際に作成される回復コマンドが含まれているデータセットの DD 名を指定します。

ddname

DD名。

注 – GENAUDIT COMMANDS パラメータと LOGUTIL COMMANDS パラメータの連携は以下のとおりです。

- LOGUTIL COMMANDS を指定すると、GENAUDIT COMMANDS を指定していない場合でも、GENAUDIT 文によって、指定のデータセットに回復コマンドが出力されます。
 - LOGUTIL と GENAUDIT の両方に COMMANDS を指定した場合、回復コマンドは GENAUDIT COMMANDS データセットにのみ出力されます。
-

LOGUTIL LOCATE_VTV 文

LOGUTIL LOCATE_VTV 文は、現在のバージョンではない VTV を回復します。

構文

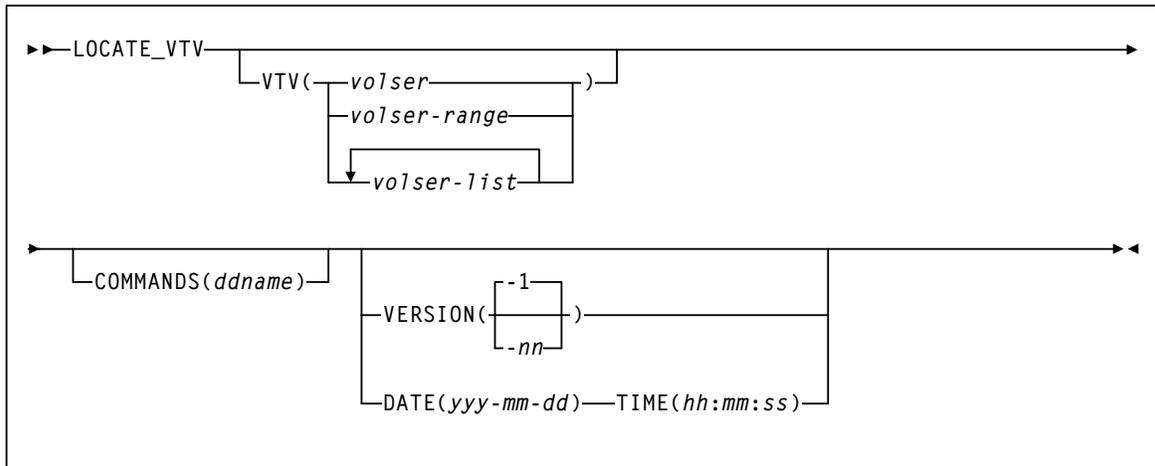


図 3-126 LOGUTIL LOCATE_VTV 文の構文

パラメータ

VTV

オプションで、回復する特定の VTV を指定します。最大で1000のVTVを指定できません。

volser、*volser-range*、*volser-list*

処理対象の *volser*、*volser* 範囲、または *volser* リスト

COMMANDS

オプションで、LOGUTIL コマンドでコマンドパラメータを指定した際に作成される回復コマンドが含まれているデータセットの DD 名を指定します。

ddname

DD名。

注 – LOCATE_VTV COMMANDS パラメータと LOGUTIL COMMANDS パラメータの連携は次のとおりです。

- LOGUTIL COMMANDS を指定すると、LOCATE_VTV COMMANDS を指定していない場合でも、LOCATE_VTV 文によって、指定のデータセットに回復コマンドが出力されます。
 - LOGUTIL と LOCATE_VTV の両方に COMMANDS を指定した場合、回復コマンドは LOCATE_VTV COMMANDS データセットにのみ出力されます。
-

VERSION

オプションで、回復対象の VTV バージョンを指定します。

有効な値は-1--99です。デフォルトは、現在のバージョンより 1 つ古い VERSION(-1) です。

注 – VERSION と DATE および TIME パラメータは、いずれか一方しか指定できません

DATE

オプションで、回復する VTV バージョンの日付を指定します。DATE を指定する場合は、TIME も指定する必要があります。

yyyy-mm-dd

日付は、年、月、日の順に指定します。

TIME

オプションで、回復する VTV バージョンの時刻を指定します。TIME を指定する場合は、DATE も指定する必要があります。

hh:mm:ss

時刻は、時、分、秒の順に指定します。

LOGUTIL UNDELETE 文

LOGUTIL UNDELETE 文で、削除された VTV を回復します。

構文

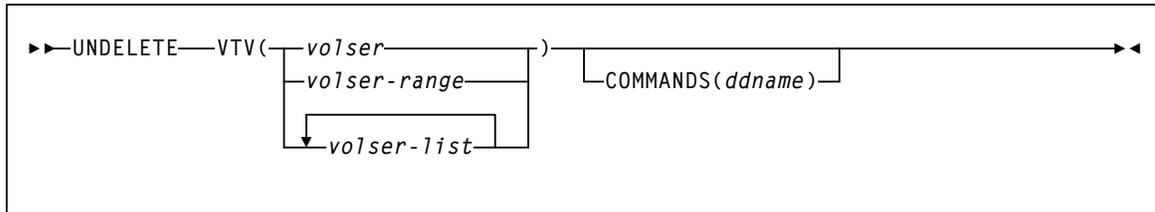


図 3-127 LOGUTIL UNDELETE 文の構文

パラメータ

VTV

回復対象の MVC を指定します。最大で1000のVTVを指定できます。

volser、*volser-range*、*volser-list*

処理対象の *volser*、*volser* 範囲、または *volser* リスト

COMMANDS

オプションで、LOGUTIL コマンドでコマンドパラメータを指定した際に作成される回復コマンドが含まれているデータセットの DD 名を指定します。

ddname

DD名。

注 – UNDELETE COMMANDS パラメータと LOGUTIL COMMANDS パラメータの連携は以下のとおりです。

- LOGUTIL COMMANDS を指定すると、UNDELETE COMMANDS を指定していない場合でも、UNDELETE 文によって、指定のデータセットに回復コマンドが出力されます。
 - COMMANDS を、LOGUTIL と UNDELETE の両方に指定した場合、回復コマンドは UNDELETE COMMANDS データセットにのみ出力されます。
-

MERGEcdfs

MERGEcdfs コマンドは次の場合に使用します。

- 新規 ACS または LSM を反映するよう、構成を追加または変更する。
- 複数の CDS を 1 つの CDS に統合する。
- 1 つの CDS を複数の CDS に分割する。MERGEcdfs で、古い CDS のボリューム情報を新しい CDS にコピーする。
- 複数の ACS を 1 つの ACS にマージする。
- 1 つの ACS を複数の ACS に分割する。
- ACSid または LSMid を変更し、ACS と LSM の番号を付け直す。
- VTSS 名を変更する。
- CDS から仮想またはボルトデータを削除する。
- ボルト済みボリューム用に確保されているスロット数を変更する。

注 – MERGEcdfs を使用する前に、『*Configuring HSC and VTCS*』を参照し、このユーティリティの詳細な使用方法を確認してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	BASE サービスレベルのHSC の稼働のみ

構文

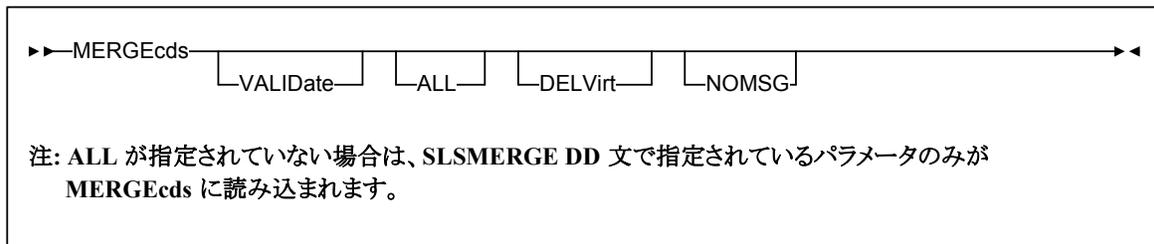


図 3-128 MERGEcdfs の構文

パラメータ

VALIDate

オプションで、実際の処理は実行せず、再構成またはマージ対象の構成の互換性を確認するよう指定します。MERGEcdsVALIDateは、重複、トランジット中および誤りのあるボリュームをレポートします。

ALL

オプションで、実NearlineボリュームレコードおよびVSMボリュームレコードの両方を使用することを指定します。CDSをマージするには、ACS ID および LSM ID と VTSS 名が一致する必要があります。ALLパラメータを指定して、CDSを拡張フォーマットに変換することもできます。

注 – ALLとSLSMERGE DDは相互に排他的です。

ALLが指定されていない場合は、SLSMERGE 制御文で指定されているパラメータのみがMERGEcdsに読み込まれます。これらのパラメータで、ボリューム情報をマージまたは再構成するACS、LSM、VTSS、およびVaultを指定します。

詳細については、[410 ページの「SLSMERGE 制御文」](#)を参照してください。

DELvirt

オプションで、次の両方の条件が満たされている場合は、VTV ボリュームと MVS ボリュームの情報が「宛先」のCDSにコピーされないよう指定します。

- コピー元のCDSに定義されているVTVおよびMVCが初期化されていないか、あるいは空。

空のVTVは、VTSSに常駐しないため、MVCのコピーが存在しません。

空のMVCには、現行のVTVは含まれず、STORCLASも割り当てられません。MVCは、MVC レポートまたはQ MVCの表示で、%USEDが0%で、%AVAILが100%の場合に空とされます。

プールからMVSを削除する方法については、『HSC およびVTCSの管理』の手順に従ってください。

- コピー元のCDSに定義されているVTVおよびMVCが初期化されていないか、あるいは空のときに、これらのVTVおよびMVCが宛先のCDSに定義されていない。この場合、重複したVOLSERは存在しません。

DELvirtは、SLSMERGE 制御文にALLVIRTが指定されている場合にのみ有効になります。

NOMSG

オプションで、「宛先」のCDSにコピーされなかったMVCまたはVTVのVOLSERを示すSLS4245Iメッセージが表示されないよう指定します。

NOMSGは、MERGECDs 制御文にDELvirtが指定されており、SLSMERGE 制御文にALLVIRTが指定されている場合にのみ有効になります。

その他の JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、MERGEcds JCL には以下の定義文が適用されます。

SLSFCNTL

「マージ元」 HSC CDS の現行プライマリコピーを指定します。

SLSFCTL2

CDS のセカンダリコピーを指定します (定義されている場合)。

SLSFSTBY

オプションで、CDS のスタンバイコピーを指定します (定義されている場合)。

注 – これらの文が複数指定されている場合、HSC は、「マージ元」の CDS のデータベースハートビート (DHB) レコードに基づいて、プライマリ CDS を判断します。「マージ元」の CDS は変更されません。CDS (SLSFCNTL) を 1 つだけ指定する場合は、CDS であることを確認します。DHB 検証は実行されません。

SLSMERGE 制御文

SLSMERGE 制御文で、マージに使用する「マージ元」および「マージ先」 ACS、LSM、または Vault を指定します。Resident VTSS フィールドの VTSS 名も変更できます。

注 -

- SLSMERGE 制御文はオプションです。MERGEcads ALL パラメータが指定されている場合は指定できません。
- SLSMERGE 制御文を使用する場合は、「マージ元」の CDS の **すべてのデータ** を示す MERGE 文を含める必要があります。

たとえば、「マージ元」CDS に実際のデータ、仮想データ、およびボールドデータが含まれている場合は、各タイプの制御カードを用いて、「マージ先」CDS にコピーするかどうかを指定する必要があります。特定タイプのデータが「マージ先」CDS にコピー **されない** ように指定するには、「NO」パラメータ (NOREAL、NOVIRT、または NOVALT) を指定して、除外します。

構文

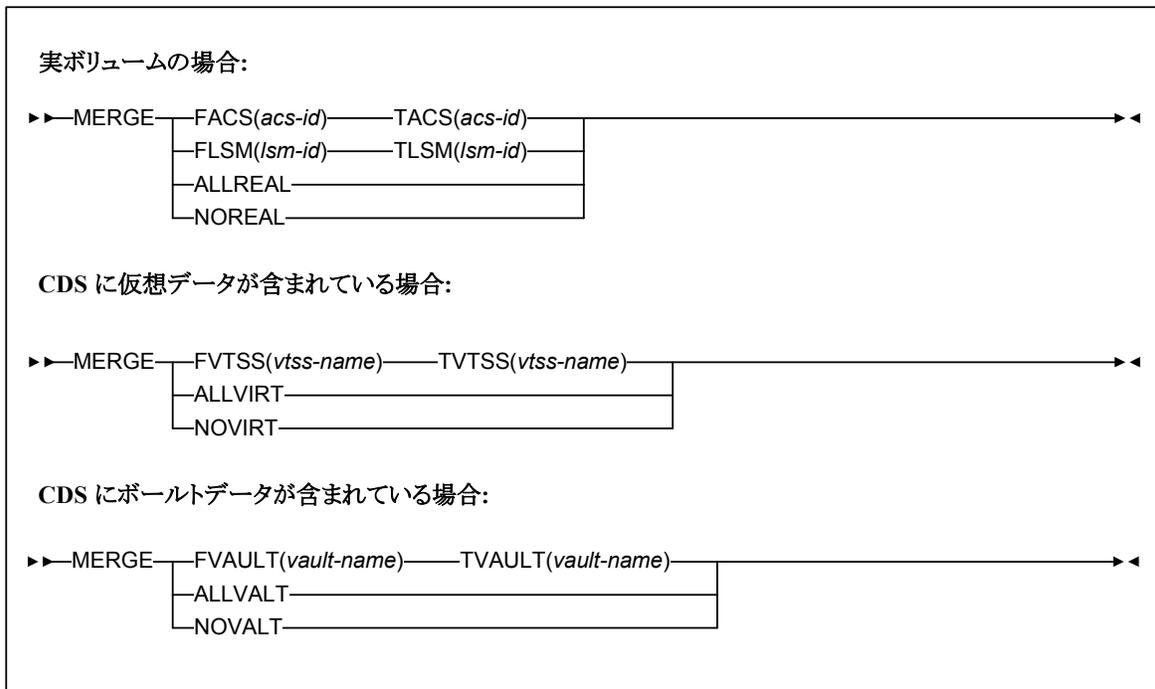


図 3-129 SLSMERGE DD 文の構文

パラメータ

注意 – 「実際の」パラメータ (FACS、TACS、FLSM、TLSM) と「ボールド」パラメータ (FVAULT、TVAULT) は、選択基準として機能しますが、「仮想」パラメータ (FVTSS、TVTSS) は名前の変更基準としてのみ機能します。

実際のボリュームの場合：

FACS(*acs-id*)

「マージ元」の ACS を指定します。

TACS(*acs-id*)

「マージ先」の ACS を指定します。

FLSM(*lsm-id*)

「マージ元」の LSM を指定します。

TLSM(*lsm-id*)

「マージ先」の LSM を指定します。

ALLREAL

実際のデータのみをすべてマージします。

NOREAL

実際のデータをマージしません。

CDS に仮想データが含まれている場合:

FVTSS(*vtss-name*)

「マージ元」の VTSS 名を指定します。

TVTSS(*vtss-name*)

「マージ先」の VTSS 名を指定します。

注意 – MERGEcdfs を使用して、特定 VTSS のデータを CDS から削除することはできません。

FVTSS と TVTSS は、名前の変更基準としてのみ機能します。これらのパラメータが指定すると、ALLVIRT であるとみなされます。

次に例を示します。

```
MERGE FVTSS(VTSS18) TVTSS(VTSS17)
```

この例では、すべてのVTVレコードは新しいCDSにコピーされますが、Resident VTSS フィールドはVTSS18からVTSS17に変更されます。これらの文に指定されていないVTSS は、すべて、新規 CDS 内の同じ名前の VTSS に自動的にマージされます。

ALLVIRT

仮想データのみをすべてマージします。

NOVIRT

仮想データをマージしません。

CDS にボールドデータが含まれている場合:

FVAULT(*vault-name*)

「マージ元」のボールドを指定します。

TVAULT(*vault-name*)

「マージ先」のボールドを指定します。

ALLVALT

ボールドデータのみをすべてマージします。

NOVALT

ボールドデータをマージしません。

MERGMFST

MERGMFST コマンドを実行すると、EXPORT によって作成された複数のマニフェストファイルを1つのファイルにマージできます。

インタフェース :	UI - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶▶MERGMFST—MERGEIN(manifin)—MERGEOUT(manifout)————▶▶
```

図 3-130 MERGMFST の構文

パラメータ

MERGEIN

1つまたは複数のマニフェストファイルに対するDD文を指定します。

manifin

DD名。

MERGEOUT

マージ先マニフェストファイルに対するDD文を指定します。

manifout

DD名。

その他の JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、MERGMFST JCL には以下の定義文が適用されます。

manifin DD

入力マニフェストファイルのDD文。

manifout DD

マージ先マニフェストファイルのDD文。

MGMTDEF

The MGMTDEF コマンドを実行すると、指定した定義データセットから、次の制御文がロードされます。

- MGMTclas
- MIGRSEL
- MIGRVTV
- MVCATTR
- STORclas
- STORLST
- STORSEL
- VTSSLST
- VTSSSEL

注 – HSC/VTCS がアクティブなときに MGMTDEF コマンドを発行して MGMTclas 制御文を再ロードした場合、「変更後」の制御文には、新しく作成された VTV のみが反映されます。既存の VTV に変更を適用するには、追加操作が必要です。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

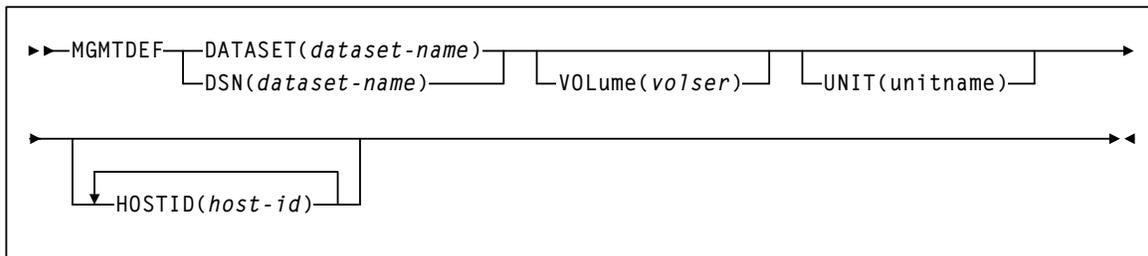


図 3-131 MGMTDEF の構文

パラメータ

DATASET または DSN

ロード対象の MGMTclas および STORclas 文が含まれた定義データセットを指定します。

dataset.name

データセット名です。

VOLume

オプションで、定義データセットが格納されている DASD ボリューム名を指定します。このパラメータは省略できます。しかし、データセットがカタログされていない場合や、データセットがカタログで示されているボリューム以外のボリュームに格納されている場合は指定する必要があります。

volser

DASD のボリューム連番名。

UNIT

オプションで、定義データセットが格納されている DASD 機器を指定します。

unitname

DASD デバイス名。定義データセットがカタログされていない場合にこのパラメータを省略すると、デバイス名はデフォルトで SYSALLDA になります。

HOSTID

オプションで、MGMTDEF コマンドを実行するホストを指定します。このパラメータは、MGMTDEF が PARMLIB 制御文として指定されている場合にのみ有効です。

host-id

MGMTDEF コマンドの実行元となる 1 つ以上のホスト名を指定します。複数のホスト名を指定する場合は、コンマで区切る必要があります。

MGMTclas 制御文

MGMTclas 制御文は、VSM マネージメントクラスを定義します。次の各項で説明するように、使用可能な VSM 機能によって、有効となる MGMTclas のパラメータの種類が決まります。MGMTclas 制御文は、MGMTDEF コマンドでロードします。

注 -

- ELS 7.0 には、マイグレーション制御を向上させる新しいパラメータが備わっています。これらの機能を使用しない場合は、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』で、既存のレガシー MGMTclas パラメータを確認してください。
- HSC/VTCS がアクティブなときに MGMTDEF コマンドを発行して MGMTclas 制御文を再ロードした場合、「変更後」の制御文には、新しく作成された VTV のみが反映されます。既存の VTV に変更を適用するには、追加操作が必要です。

次に例を示します。

- IMMDELAY 値を変更した場合は、既存の VTV に変更が適用されるよう、HSC を再起動する必要があります。
- MIGpol 値のストレージクラスを 1 から 2 に変更した場合は、2 つめのマイグレーションコピーが作成されるよう、VTV をリコールする必要があります。

構文 - 基本管理機能

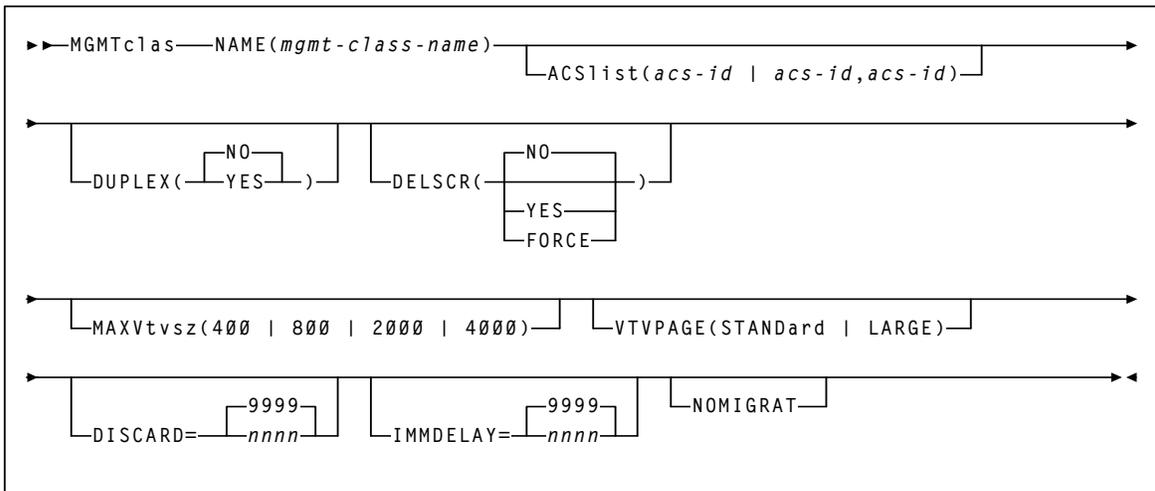


図 3-132 MGMTclas 制御文の構文 (基本)

パラメータ — 基本管理機能

NAME

マネージメントクラスの名前を指定します。

mgmt-class-name

マネージメントクラス名。この名前は、先頭の 1 文字を英字とする 1 - 8 文字の英数字で SMS 命名規則に従っていなければなりません。

ACSlist

RTDおよびMVCの選択元となるACSを指定します。

ACSlist の指定はオプションです。ACSlist を指定しなかった場合のデフォルトは、CONFIG DEFLTACS で指定されている ACS です。

DUPlex および ACSlist パラメータの使用方法については、次の DUPlex を参照してください。

acs-id | acs-id,acs-id

1 - 2 つの ACS ID です。ACS IDには、00-FFの16進数値を使用します。

DUPlex

VSMが2つのMVCに向けてVTVのマイグレーションを実行するかどうか指定します。

注 - DUPlex と MIGpol はいずれか一方しか指定できません。

NO

VTVの二重化は行いません(デフォルト)。

YES

VTVを二重化します。

次の表に、DUPlex パラメータと ACSlist パラメータの使用例を示します。

表 3-8 MGMTclas ACSlist/DUPlex 設定の組み合わせ

DUPlex の設定	ACSlist の設定	処理
YES	2つのACSを指定	VSMにより、2つのACSにVTVが1つずつマイグレーションされます。(2つのACSに対して二重化を行う場合の通常の操作)。
YES	1つのACS	VSMにより、指定されたACS内の2つのMVCにVTVがマイグレーションされます。
NO	2つのACSを指定	VSMはDUPlexポリシーを無視し、2つのACSにVTVが1つずつマイグレーションされます。
NO	1つのACS	VSMにより、指定されたACS内の1つのMVCにVTVがマイグレーションされます。

DELSCR

スクラッチされたVTVを削除するかどうかを指定します。
このパラメータはオプションです。

NO

スクラッチされた VTV を削除しません (デフォルト)。

YES

リソースが利用できないことが原因で処理の遅延が発生しないかぎり、スクラッチ VTV を削除します。

FORCE

スクラッチ VTV を削除し、必要なリソースへのアクセスを待ちます。
これは処理の遅延を発生させることがあります。

注意 – DELSCR YES 属性を持つ VTV をスクラッチすると、スクラッチ同期時に VSM によって VTV データが消去されるため、VTV を「アンスクラッチ」してデータを回復することができなくなります。

また、HSC を使用してスクラッチ同期を実行する場合は、スクラッチ同期実行の開始時に TMC 内でスクラッチであり、かつ以前のスクラッチ更新の実行時から CDS 内でもスクラッチである (そのため、HSC が CDS 内でスクラッチする対象のリストに含まれている) ボリュームが、スクラッチ更新の実行中にジョブからアクセスされたり、TMC 内の TMS によって書き込まれて非スクラッチに変更されたりする可能性があることにも注意してください。この場合、当該ボリュームは、スクラッチ同期処理開始時点で抽出されたスクラッチ対象ボリュームのリストに含まれるため、HSCによってスクラッチされる可能性があります。したがって、HSCスクラッチ同期中は、スクラッチを使用するいかなるジョブも実行しないことを強くお勧めします。

スクラッチ変換ユーティリティ (SLUCONDB) を使用した HSC のスクラッチ同期の詳細については、[675 ページの「スクラッチ変換ユーティリティ \(SLUCONDB\)」](#)を参照してください。

SYNCVTV 機能を使用した LCM スクラッチ同期の詳細については、『*LCM User's Guide*』を参照してください。

MAXVtvsz

このマネージメントクラスでのVTVの最大サイズを指定します。このパラメータの有効な値は、該当する VTSS の CDS レベルとマイクロコードレベルにより異なります。

400

400MB。これはデフォルトです。

800

800MB。CDS は、E レベル以上である必要があります。

2000

2 GB。CDS は、G レベル以上である必要があります。

4000

4G バイト。CDS は、G レベル以上である必要があります。

注 -

- VTV のサイズはスクラッチサイクルを実行したときにのみ変更されます。したがって、マネージメントクラスおよびDISP=MODを変更した場合、本来のサイズのまま保持されます。
- 構成でサポートされない VTV を指定した場合、警告メッセージが出て、MAXVtvsz はデフォルトで、構成でサポートされる最大の VTV サイズになります。
- MAXVtvsz は VSM2 には適用されません
- MAXVTVSZ(2000 | 4000) には VSM4/VSM5 マイクロコード D02.02.00.00 または VSM3 マイクロコード N01.00.77.00 が必要です。インストールされたオプションは必要ありません。

VTVPAGE

VTSS 内および MVC 上での VTV データの格納に使用するページサイズを指定します。この設定は、400 および 800 MB の VTV にも適用されます。VTVPAGE が MGMTclas 文または CONFIG GLOBAL 文のどちらにも指定されていない場合は、デフォルトは STANDard となります。

STANDard

標準のページサイズ。すべての VSM3/VSM4 モデルおよびマイクロコードレベルと互換性があります。

LARGE

ラージページサイズ。VTSS 内とマイグレーションおよびリコールでのパフォーマンスを向上できます。ラージページサイズには、G レベルの CDS が必要です。CDS レベルの詳細については、212 ページの「CONFIG」を参照してください。2 および 4 GB の VTV (MAXVtvsz 2000 または 4000) には、VTVPAGE 設定 LARGE が常に使用されます。

注 -

- VTPPAGE は VSM2 には適用されません。VTPPAGE(LARGE) には VSM4/VSM5 マイクロコード D02.02.00.00 または VSM3 マイクロコード N01.00.77.00 が必要です。インストールされたオプションは必要ありません。
 - MGMTCLAS VTPPAGE が指定されている場合は、CONFIG GLOBAL VTPPAGE 値よりも優先されます。VTPPAGE が MGMTclas 文または CONFIG GLOBAL 文のどちらにも指定されていない場合は、デフォルトは STANDard となります。
-

注意 -

- VTV のページサイズは、VTV スクラッチマウントによってのみ変更が可能です。VTSS 内に以前から常駐していたスクラッチ VTV には、追加の制限が適用される場合があります。
 - LARGE を指定して、CDS レベルまたは VTSS マイクロコード、あるいはその両方が LARGE をサポートしない場合は、VTCS から警告メッセージが出され、VTPPAGE はデフォルトで STANDard になります。
 - 2 または 4 GB の VTV に STANDard を指定すると、警告メッセージが出され、デフォルトで LARGE になります。
 - ラージページを伴う VTV を作成すると、これらの VTV は、ラージ VTV ページをサポートしない構成で読み取り不可になります。
 - VTPPAGE 値をこのマネージメントクラスに指定すると、CONFIGユーティリティーで指定されたグローバル値がこれにより指定変更されます。
-

DISCARD

オプションで、DISCARD 時間 (時間単位) を指定します。この値は、VTV がマウント解除された後、VTV がバッファーに保持される時間です。すべての必要な VTV コピーが MVC 上にある場合、この値を上回ると、VTV は VTSS バッファーから優先的に削除されます。

nnnn

時間単位で指定します。有効な値は 0 - 9999 です。デフォルトは 9999 分です。

注 -

- IMMEdmig が指定されている場合、DISCARD は即時マイグレーション処理には使用されません。AUTO マイグレーション要求にのみ適用されます。
 - VTV の RESTIME (拡張管理機能のみ) が指定されている場合は、DISCARD 値よりも優先されます。
-

IMMDELAY

オプションで、即時マイグレーションの遅延時間を指定します。これは、VTV のマウント解除後、マイグレーションが処理のためにキューに入れられている時間です。

これにより、VTV がマイグレーション用に処理される前に、複数の手順があるジョブで使用する VTV を指定した時間だけ常駐させておくことができます。

nnnn

即時マイグレーションの遅延時間 (分単位)。有効な値は 0 - 9999 (デフォルト) です。

IMMDELAY=9999 に設定した場合、即時マイグレーションは行われません。マイグレーションと削除は、自動またはコマンドによるマイグレーションによって処理されます。この値を指定すると、MIGRSEL と MIGRVTV はマイグレーション制御に影響を及ぼしません。

RESTIME パラメータと DISCARD パラメータの値で、バッファ管理の優先度を指定します。

- IMMDELAY 値が RESTIME 値よりも小さい場合、VTD は VTSS 内に優先的に保持されます。
- IMMDELAY 値が RESTIME 値よりも大きく (高度な管理機能を参照)、DISCARD 値よりも小さい場合は、LRU (デフォルト状態) に基づいてバッファが管理されます。
- IMMDELAY 値が DISCARD 値よりも小さい場合、VTD は VTSS から優先的に削除されます。

IMMDELAY パラメータは IMMEdmig パラメータに置き換わるパラメータです。

『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。これらのパラメータはいずれか 1 つしか指定できません。次の表に対応する値を示します。

IMMDELAY/DISCARD 値	対応する IMMEdmig 値	処理
IMMDELAY(1-9998)	なし	指定した時間 (分単位) だけ、マイグレーションを遅延します。
IMMDELAY(9999)	IMMED(NO)	VSM は VTV の即時マイグレーションを実行せず、標準の VTCS マイグレーション基準に従ってマイグレーションします。MIGRSEL と MIGRVTV はマイグレーション制御に影響を及ぼしません。
IMMDELAY(0) DISCARD(9999)	IMMED(KEEP)	VSM は、VTV の即時マイグレーションを行い、VTV が削除可能になるまで、VTSS 上のコピーを保持します。
IMMDELAY(0) DISCARD(0)	IMMED(DELETE)	VSM は VTV の即時マイグレーションを実行し、そのあと VTSS からそのVTVを削除します。

NOMIGRAT

オプションで、マネージメントクラスのマイグレーション、統合、またはエクスポートの候補ではなく、Tapeless VTSS 上に常駐する候補になるよう指定します。

NOMIGRAT を使用すると、マネージメントクラスの VTV の Tapeless VTSS が優先されるよう VTSS の選択が変更されます。NOMIGRAT を指定しない場合、VTV を RTD のない VTSS からは許可しないよう変更できます。

ACSLIST、IMMDELAY、DUPLX、MIGPOL、ARCHAGE、ARCHPOL、RESTIME、CONSRC および CONTGT が指定されている場合、NOMIGRAT は指定できません。

構文 — 拡張管理機能

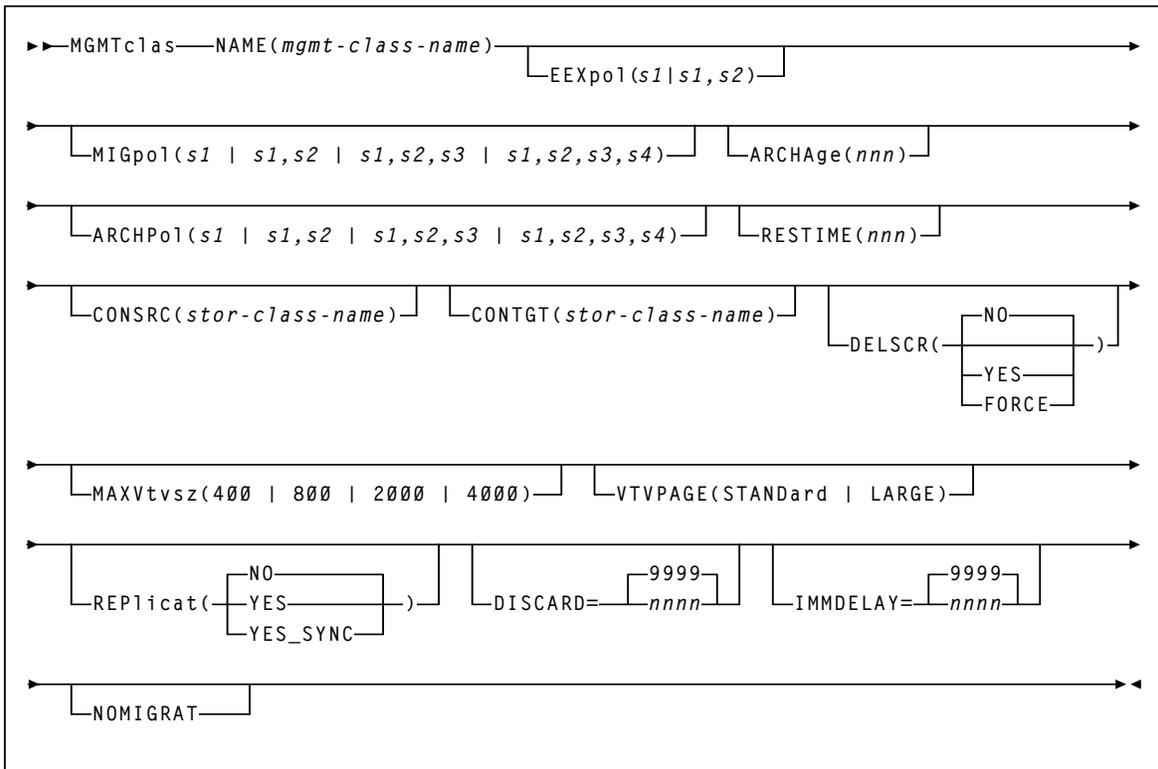


図 3-133 MGMTclas 制御文の構文 (拡張)

追加パラメータ — 拡張管理機能

拡張管理機能では、417 ページの「パラメータ — 基本管理機能」で説明されている基本管理機能のパラメータに加えて、次の MGMTclas のパラメータが有効です。

EEXpol

オプションで、電子エクスポートのストレージクラスを指定します。

s1 | s1,s2

TAPEPLEX パラメータを指定するストレージクラス (最大 2 つ)。これらのストレージクラスで TAPEPLEX パラメータが指定されていない場合は、エラーになります。

注 —

- TAPELEX ストレージクラスが 2 つある場合は、宛先の TapePlex に異なる名前を使用する必要があります。
 - SYNC=YES パラメータで TapePlex ストレージクラスが 2 つ指定されている場合は、警告が表示されます。同時にエクスポートできる TapePlex はいずれか一方のみです。
 - 衝突が生じた場合は、クラスタとの複製よりも電子エクスポート機能の方が優先されます。
 - 参照されているストレージクラスの 1 つに THISPLEX 名が含まれている場合、そのストレージクラスは無視され、警告メッセージも表示されません。これにより、ストレージクラスの共通定義を複数の TapePlex に適用することができます。
-

MIGpol

オプションで、ACSおよびマイグレーション用MVCのメディアタイプを指定するストレージクラスを4つまで指定します。

注 — DUPlex と MIGpol はいずれか一方しか指定できません。

このパラメータを指定すると、次の処理が行われます。

- 1つのストレージクラスを指定した場合は、VTVのコピーが1つだけマイグレーションされます。
 - (ACS値またはMEDIA 値が異なる、あるいはその両方が異なる)複数のストレージクラスを指定した場合は、VTVの複数のコピーがACSのMVCにそれぞれ作成されます。
 - ACS値およびMEDIA 値が同一である複数のストレージクラスを指定した場合は、VTVの複数のコピーが同一のACSおよびメディアタイプに作成されます。ただし、MVCは別々になります。
-

注 — MIGpol で複数のストレージクラスを指定すると、VTV リコール、MVC スペースリクレイム、および VTV 統合の機能にも影響が及びます。

このパラメータはオプションです。デフォルト値はありません。

s1 | s1,s2 | s1,s2,s3 | s1,s2,s3,s4

STORclas 制御ステートメントで定義した最大 4 つまでのストレージクラスの名前。3 つ以上のコピーを作成する場合、CONFIG 文で CDSLEVEL(V6ABOVE) 以上を指定する必要があります。

注 – CONFIG GLOBAL REPLICat パラメータは、VTV を複製するタイミングを指定します (常に、またはマウントされている間に変更された場合のみ)。

ARCHAge

オプションで、ARCHPol に指定されるとおり VTV をアーカイブするまでの期間を日数で指定します。ARCHAge を指定した場合、ARCHPol を指定する必要があります。

このパラメータはオプションです。デフォルト値はありません。有効な値は1-999です。

nnn

VTV の経過日数。

ARCHPol

オプションで、ACS およびアーカイブ用 MVC のメディアタイプを指定するストレージクラスを 4 つまで指定します。このパラメータを指定すると、次の処理が行われます。

- 1 つのストレージクラスを指定した場合は、VTV のコピーが 1 つだけアーカイブされます。
- ACS 値または MEDIA 値が異なる、あるいはその両方が異なる複数のストレージクラスを指定した場合は、VTV の複数のコピーが ACS の MVC にそれぞれアーカイブされます。
- ACS 値および MEDIA 値が同一である複数のストレージクラスを指定した場合は、VTV の複数のコピーが同一の ACS およびメディアタイプにアーカイブされます。ただし、MVC は別々になります。

注 – ARCHPol で複数のストレージクラスを指定すると、VTV リコール、MVC スペースリクレイム、および VTV 統合の機能にも影響が及びます。

このパラメータはオプションです。デフォルト値はありません。ARCHPol を指定した場合、ARCHAge を指定する必要があります。

stor-clas-name1...stor-clas-namen

STORclas 制御ステートメントで定義した 1 つ以上のストレージクラスの名前。3 つ以上のコピーを作成する場合は、CONFIG 文の CDSLEVEL(V6ABOVE) または CDSLEVEL(V6ABOVE) を指定する必要があります。

RESTIME

オプションで、自動マイグレーションの優先候補となるまでにVTCSがVTVをVTSSに常駐させる期間を指定します。

このパラメータはオプションです。デフォルト値はありません。有効な値は1-9999です。9999とした場合、このマネージメントクラス内のVTVは、VTSSのスペース管理でVTVの自動マイグレーションをしてVTSSから削除するよう要求されていないかぎり、永続的に常駐します。

nnnn

常駐期間 (1時間単位)

注 -

- RESTIME と IMMEdmig(DELETE) は、いずれか一方しか指定できません。
- RESTIME は VTV が作成されたときに有効になり、リコールされた VTV には適用されません。

CONSRC

オプションで、ストレージクラスを指定します。このストレージクラスによって、複数のMVCロケーションまたはメディアタイプにマイグレーションおよびコピーされたVTVの統合に使用するソースMVC ACSとメディアの優先順位が決定されます。指定されたストレージクラス内のMVCを使用できず、指定されたストレージクラスが(マイグレーションポリシーで指定された順序の)最後ではない場合、VTCSは最後のストレージクラスに関連したMVCを使用します。指定されたストレージクラス内のMVCを使用できず、指定されたストレージクラスが(MIGpolパラメータで指定された順序の)最後の場合、VTCSはMIGpolパラメータで指定された順序の)直前のストレージクラスに関連したMVCを使用します。

stor-class-name

STORclas 制御文で定義したストレージクラスの名前。

CONTGT

オプションで、VTV統合に使用する出力MVC ACSとメディアを決定するストレージクラスを指定します。メディアの優先順序は、ストレージクラス上で指定されているメディアタイプのリストと逆の順序になります。

このパラメータはオプションです。デフォルト値はありません。CONTGTの値を指定しない場合は、次のように出力MVCが選択されます。

- 単一 ACS 構成および二重 ACS 構成の場合は、VTV 統合の順序でメディアが選択されます。
- 複数の ACS システムの場合は、CONFIG DEFLTACS パラメータで指定されているデフォルト ACS から MVC が選択されます。

stor-class-name

STORclas 制御文で定義したストレージクラスの名前。

REplicat

オプションで、VSMがVTVを複製するかどうかを指定します。

NO

VTVの複製を行いません(デフォルト)。

YES

VTV を非同期的に複製します。

YES_SYNC

VTV を同期的に複製します。

注 – 同期レプリケーションでは、CONFIG GLOBAL SYNCHREP パラメータによる有効化が必要です。使用方法の詳細については [215 ページ](#)の「CONFIg GLOBAL 文」を参照してください。

NOMIGRAT

オプションで、マネージメントクラスのマイグレーション、統合、またはエクスポートの候補ではなく、Tapeless VTSS 上に常駐する候補になるよう指定します。

NOMIGRAT を使用すると、マネージメントクラスの VTV の Tapeless VTSS が優先されるよう VTSS の選択が変更されます。NOMIGRAT を指定しない場合、VTV を RTD のない VTSS からは許可しないよう変更できます。

注 – ACSLIST、IMMDELAY、DUPLICATE、MIGpol、ARCHAge、ARCHPol、RESTIME、CONSRC および CONTGT が指定されている場合、NOMIGRAT は指定できません。

MIGRSEL 制御文

MIGRSEL 制御文で、ストレージクラス、VTSS、およびホストのマイグレーション要求設定を制御します。MGMTDEF コマンドでロードします。

注 – MIGRSEL をアクティブにするには、VSM 拡張管理機能が必要です。

構文

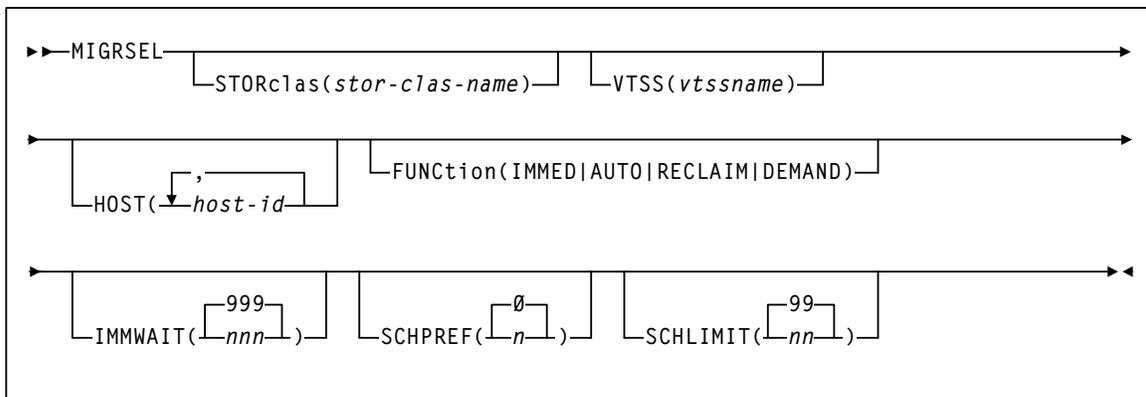


図 3-134 MIGRSEL 制御文の構文

パラメータ

STORclas

オプションで、マイグレーション設定を適用するストレージクラスを指定します。ストレージクラスが指定されていない場合、文はすべてのストレージクラスに適用されます。

stor-clas-name

STORclas 制御文で定義したストレージクラス名。

VTSS

オプションで、マイグレーション設定を適用する VTSS を指定します。VTSS が指定されていない場合、文はすべての VTSS に適用されます。

vtssname

VTSS名。

HOST

オプションとして、マイグレーション設定を適用するホストを1つまたは複数指定します。このパラメータで指定されていないホストでは、設定が無視されます。1つまたは複数のホストが指定されていない場合は、すべてのホストに設定が適用されます。

host-id

ホスト識別子(最大8文字)

FUNCTION

オプションで、設定を適用するマイグレーションタイプを指定します。

IMMED

次のいずれかによって実行されたマイグレーション。

- MGMTclas IMMEdmig(KEEP)
- MGMTclas IMMEdmig(DELETE)

AUTO

限界値マイグレーション処理に自動的にマイグレーションします。

RECLAIM

MVC DRAIN または RECLAIM 要求によって実行されたマイグレーション。

DEMAND

MIGRATE コマンドまたはユーティリティーによって実行されたマイグレーション (強制マイグレーション)。

IMMWAIT

オプションで、MIGRSEL 規則で、現在の即時マイグレーションの作業負荷状態が考慮に入れられるよう指定します。この MIGRSEL マイグレーション規則を適用する、即時マイグレーション待機時間または経過時間 (分単位) を値として指定します。この値は、VTV が特定のストレージクラスへの即時マイグレーションを待機している時間と照らし合わされ、VTV の待機時間 (分単位) が IMMWAIT 値次の場合は、MIGRSEL 規則が適用されます。

mm

即時マイグレーションの遅延時間 (分単位)。有効な値は 0 - 999 です。デフォルトは 999 分です。

- デフォルト値 (999) の場合、すべての VTV 待機時間に規則が適用されます。
- 即時マイグレーションがアクティブになっていない状態で MIGRSEL 規則を適用する場合は、値を 0 に指定します。

SCHPREF

オプションで、ストレージクラス別に自動マイグレーションおよび即時マイグレーションの優先度を指定します。MIGRSEL VTSS と HOST を用いて、優先順位を適用する VTSS とホストを指定します。

ii

優先値です。有効な値は0-9です。デフォルトは 0 分です。

- 値を高くすると、マイグレーション時間は速くなりますが、MVC の使用率は最適化されません。
- 値を低くすると、マイグレーション時間は遅くなりますが、MVC の使用率が最適化されます。

MIGRSEL SCHPREF 設定は、使用可能な RTD 数、SCHLIMIT 設定、および VTSS の GLOBAL MAXMIG パラメータの影響を受ける場合があります。

SCHLIMIT

オプションで、ストレージクラス別のマイグレーション優先順位を解除します。

iii

優先値です。有効な値は0-99です。デフォルト値 (99) を指定すると、最大 VTSS MAXMIG 値まで無制限になります。

値を低くするとマイグレーションの優先順位が解除され、自動、即時、強制、リクレームのマイグレーションを指定できます。値を低くすると、次のことが行えます。

- MVC 使用率を最適化します。
- 別のストレージクラスへのマイグレーションの優先順位付けを行います。
- RTD を自動リコールに利用可能にしておくためにマイグレーションを制限します。
- ワークロードが変化する際の MVC スワップを減らす。

自動および即時マイグレーション処理の場合、MIGRSEL SCHLIMIT を使用すると、VTSS とストレージクラスの関係に対するマイグレーションを回避できます。この比較は全体的ではなく、個々の VTCS ホストが呼び出した要求にのみ影響があります。

強制マイグレーション要求の場合、MIGRSEL SCHLIMIT を使用すると、そのスケジューリングにより、FUNCTION と STORCLAS の同じ選択基準を満たす VTSS 上で全体的にアクティブなマイグレーション要求の数が超過する場合、要求が保持されるようになります。制約が治まると、マイグレーション要求が開放され、MVC が選択されます。

MIGRVTV 制御文

MIGRVTV 制御文は、即時マイグレーションによって処理された個々の VTV コピーを制御します。これは MGMTDEF コマンドでロードします。

注 – MIGRVTV をアクティブにするには、VSM 拡張管理機能が必要です。

構文

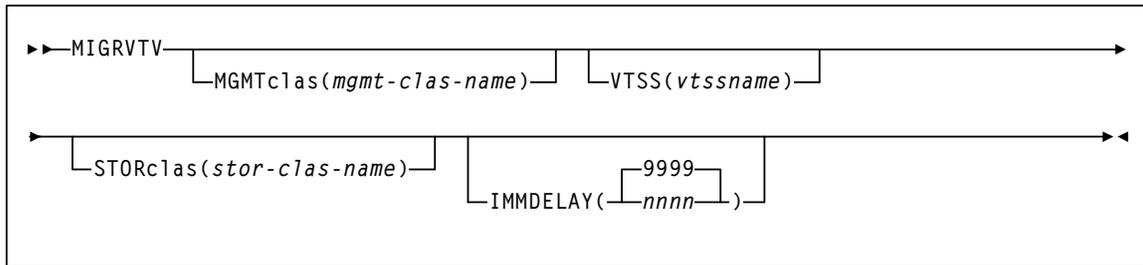


図 3-135 MIGRVTV 制御文の構文

パラメータ

MGMTclas

オプションで、マイグレーション設定を適用するマネージメントクラスを指定します。マネージメントクラスが指定されていない場合、文はすべてのマネージメントクラスに適用されます。

mgmt-clas-name

MGMTclas 制御文で定義したマネージメントクラスの名前を指定します。

VTSS

オプションで、マイグレーション設定を適用する VTSS を指定します。VTSS が指定されていない場合、文はすべての VTSS に適用されます。

vtssname

VTSS名。

STORclas

オプションで、マイグレーション設定を適用するストレージクラスを指定します。ストレージクラスが指定されていない場合、文はすべてのストレージクラスに適用されます。

stor-clas-name

STORclas 制御文で定義したストレージクラスの名前。

IMMDELAY

オプションで、即時マイグレーションの遅延時間を指定します。これは、VTV のマウント解除後、マイグレーションが処理のためにキューに入れられている時間です。これにより、VTV がマイグレーション用に処理される前に、複数の手順があるジョブで使用する VTV を指定した時間だけ常駐させておくことができます。

nnnn

即時マイグレーションの遅延時間 (分単位)。有効な値は 0 - 9999 (デフォルト) です。

- IMMDELAY=0 に設定した場合、即時マイグレーションはただちにスケジュールされます。
- IMMDELAY=9999 に設定した場合、即時マイグレーションは行われません。マイグレーションと削除は、自動またはコマンドによるマイグレーションによって処理されます。

この値を指定すると、MIGRSEL と MIGRVTV はマイグレーション制御に影響を及ぼしません。

- IMMDELAY を 9999 よりも小さくし、DISCARD を IMMDELAY よりも大きくすると、即時マイグレーションは行われますが、削除は自動またはコマンドによるマイグレーションまで延期されます。
- IMMDELAY を 9999 よりも小さくし、DISCARD を IMMDELAY と同じか、それよりも小さくすると、即時マイグレーションと即時削除が同時に行われます。
- 自動マイグレーションの処理中に、DISCARD 時間が経過した VTV が見つかったと、その VTV はマイグレーションキューの先頭に移動されて、最初に処理されます。

注 - DISCARD パラメータについては、[416 ページ](#)の「MGMTclas 制御文」を参照してください。

MVCATTR 制御文

MVCATTR 制御文で、MVC メディア名にスワップする RTD 機器のタイプを指定します。RTD 上の MVC を読み込んでいるときにエラーが発生した場合、VTCS は別の RTD に MVC をスワップし、操作を再試行します。

構文

```
▶▶MVCATTR—MEDIA(media-name)—SWAPTO(device-type)————▶▶
```

図 3-136 MVCATTR 制御文の構文

パラメータ

MEDIA

属性を割り振る MVC メディア名を指定します。

注 - 1 つの *media-name* でコード化できる MVCATTR は 1 つだけです。

media-name

MVC メディア名 (表 3-9 を参照)。

SWAPTO

MVC をスワップする (可能な場合) RTD 機器のタイプを定義します。

device-type

RTD 機器のタイプ (表 3-9 を参照)

表 3-9 有効な MVC メディア名と互換性のある SWAPTO RTD 機器のタイプ

有効な MEDIA 名	互換性のある SWAPTO RTD 機器
STK1R	STK1RA34、STK1RB34、STK1RD34、STK1RDE4 注: STK1RA34 と STK1RB34 機器は VTCS と同等であるため、これらの特定の機器タイプへのスワップは確約されません。
STK1RC	STK1RC34、STK1RD34、STK1RDE4
STK1RD	STK1RD34、STK1RDE4
STK1RDE	STK1RDE4
STK2P	STK2PA34、STK2PB34
STK2PB	STK2PB34
T10000T1	T1A34、T1AE34、T1B34、T1BE34
T10000TS	T1A34、T1AE34、T1B34、T1BE34

表 3-9 有効な MVC メディア名と互換性のある SWAPTO RTD 機器のタイプ (続き)

有効な MEDIA 名	互換性のある SWAPTO RTD 機器
T10000E1	T1AE34、T1BE34
T10000ES	T1AE34、T1BE34
T1B000T1	T1B34、T1BE34
T1B000TS	T1B34、T1BE34
T1B000E1	T1BE34
T1B000ES	T1BE34

STORclas 制御文

STORclas 制御文は、VSM ストレージクラスを定義します。MGMTDEF コマンドでロードします。

この文で、VTV コピーが次の場所書き込まれるかどうかを指定できます。

- MVC (必要な属性が備わっている)
- VTV のコピーがエクスポートされるリモート TapePlex の名前。
- VLE アプライアンスのサブシステム名。

注 - STORclas 制御文は、FEATures VSM(ADVMGMT) が指定されている場合にのみ有効です。

構文

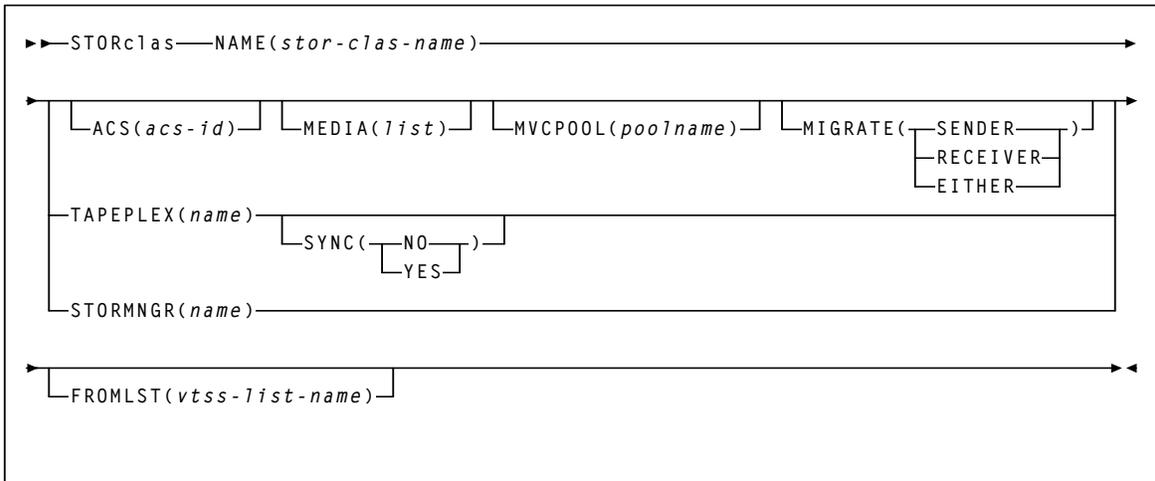


図 3-137 STORclas 制御文の構文

パラメータ

NAME

ストレージクラスの名前を指定します。

stor-clas-name

ストレージクラス名です。この名前は、先頭の 1 文字を英字とする 1 - 8 文字の英数字で SMS 命名規則に従っていなければなりません。

ACS

オプションで、RTD および MVC の選択元となる ACS を指定します。

acs-id

ACS ID。ACS ID には、00 - FE の 16 進数値を使用します。

STORMNGR

オプションで、VLE アプライアンスのサブシステム名を指定します。指定したサブシステムが存在しない場合、マイグレーションはすべて失敗し、VTV はそのソース VTSS で「スタック」状態になります。

stormngr

サブシステム名。詳細については、『*Configuring the Host Software for VLE*』を参照してください。

MEDIA

MVC メディアタイプの優先リストを指定します (省略可能)。このリストは、デフォルトよりも優先されます。詳細については、『*Configuring HSC and VTCS*』を参照してください。

list

メディアタイプの優先順位リスト。

MVCPPOOL

オプションで、ボリュームを選択する Named MVC Pool を指定します。MVC プール名を指定しないと、デフォルトプール (DEFAULTPOOL) からボリュームが選択されます。

poolname

MVCPool 制御文で定義した MVC プールの名前。

MIGRATE

オプションで、このストレージクラスを参照する REPLICAT(YES) を持つマネジメントクラスの場合、VTV マイグレーションにクラスター内のソース VTSS を指定します。FROMLST が指定されている場合、このパラメータは指定できません。

RECEIVER

VTSS が複製した VTV (デフォルト) を受け取ります。VTSS プライマリセカンダリクラスター内のセカンダリ VTSS です。

SENDER

VTSS が複製した VTV を送ります。VTSS はプライマリセカンダリクラスター内のプライマリ VTSS です。

EITHER

ピアツーピアクラスター内のいずれかのVTSSです。ソース VTSS はランダムに選択されます。

TAPEPLEX

オプションで、VTV をエクスポートする TapePlex の名前を指定します。この名前は、構成にある最低 1 つの VTSS が CLINK 定義によって指定している必要があります。

SYNC

オプションで、VTV を TapePlex に同時にエクスポートするかどうか指定します。

NO

TapePlex への VTV のエクスポートは非同期に実行されます。これはデフォルトです。

YES

TapePlex への VTV のエクスポートが同時に実行されます。

VTV が 2 つのストレージクラスに同時エクスポートされるよう指定されている場合、1 つめのストレージクラスにのみ同時エクスポートが実行され、2 つめのストレージクラスへは非同期エクスポートが実行されます。同様に、マネージメントクラスに同時複製が指定されている場合、同時エクスポートは無視されます。

FROMLST

オプションで以下を指定できます。

- このストレージクラスを参照するREPLICAT(YES)を持つマネージメントクラスの場合、VTVマイグレーションにクラスター内のソースVTSSを指定します。
- VTV を別の TapePlex にエクスポートする場合、エクスポート元の VTSS を指定します。TapePlex ストレージクラスにこのパラメータを指定すると、TapePlex 内の複製処理がエクスポートよりも優先されます。

vtss-list-name

VTSS 名のリストが含まれている VTSSLST 文の名前です。このストレージクラスへのマイグレーションまたはエクスポートは、リスト内の VTSS によって指示されます。

- リスト内に VTSS が 1 つしかない場合は、ソースとして使用されます。
- リスト内に VTSS が 2 つある場合は、優先順位が高い VTSS がソースになります。
- VTSS の優先順位が同じ場合、ソース VTSS はランダムに選択されます。

STORLST 制御文

STORLST 制御文では、ストレージクラスのリストと対応する優先順位を指定できます。MGMTDEF コマンドでロードします。

注 – STORLST 制御文は、FEATures VSM(ADVMGMT) が指定されている場合にのみ有効です。

構文

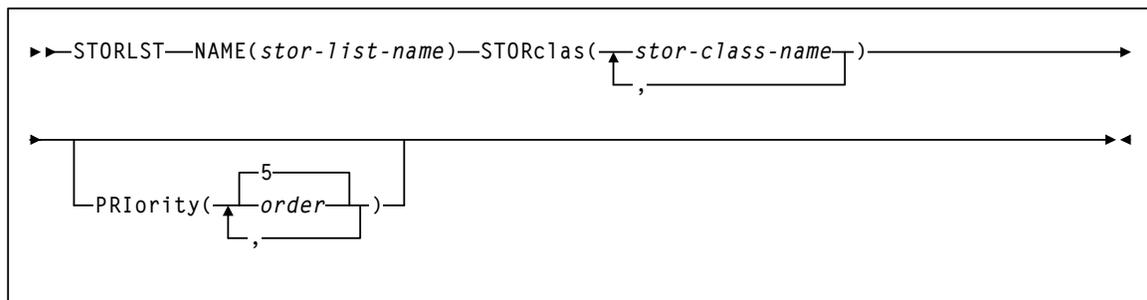


図 3-138 STORLST 制御文の構文

パラメータ

NAME

ストレージクラスのリスト名を指定します。

stor-list-name

リスト名 (最大8文字の英数字)

STORclas

ストレージクラスのリストで1から4のストレージクラスを指定します。

stor-class-name

STORclas 制御文で定義したストレージクラスの名前。

PRIority

STORclasパラメータで指定されたストレージクラスに対応する優先順位のリスト

order

指定された優先順位。有効な値は 0 - 9 (最高の優先順位) で、デフォルト値は 5 です。複数のストレージクラスに同じ優先順位を割り当てることができます。たとえば、2つのストレージクラスに9の優先順位が割り当てられている場合、VTCSはこの2つからランダムに選択します。0 (ゼロ) の優先順位のストレージクラスは、ほかのストレージクラスが使用できない (たとえば、書き込みに空きMVCが利用できないなど) ときにのみ、VTCSに選択されます。

ストレージクラスのリストは、STORSEL 文の MGMTclas および VTSS パラメータで指定すると、さらに制限されます。

STORSEL 制御文

STORSEL制御文では、ストレージクラスの使用規則を定義します。この規則は、上記のSTORLST制御文で指定されたストレージクラスのリストと対応する優先順位に適用されます。MGMTDEF コマンドでロードします。

注 – STORSEL 制御ステートメントは、FEATures VSM(ADVMMGMT) が指定されている場合にのみ有効です。

構文

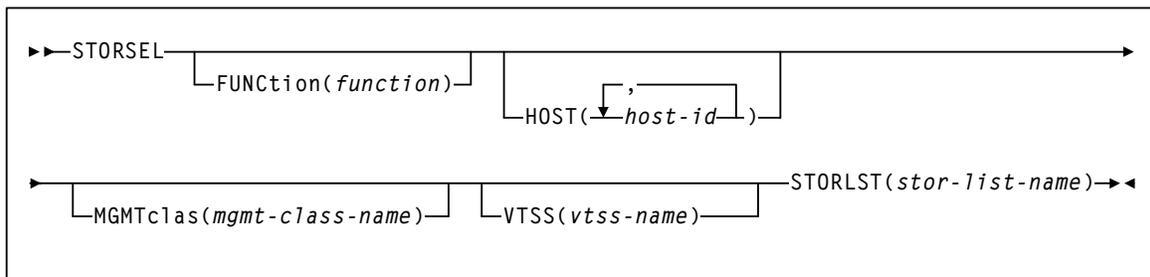


図 3-139 STORSEL 制御文の構文

パラメータ

FUNCTION

オプションで、規則が適用される VSM 機能を指定します。各文には、1 つの機能のみ指定できます。省略した場合、このパラメータはすべての機能に適用されます。すべての機能に適用する場合は、FUNCTION パラメータを省略することで、コーディングが必要となる文の数を 25% に削減できるため、手間を省くことができます。

function

機能の名前です。表 3-10 で説明します。

表 3-10 STORSEL 機能

機能	解説
SPECIFIC	特定VTVのマウント時の自動リコールに適用されます。ストレージクラスのリストは、指定されたSTORLST文によって決定されます。このリストは、VTVをリコールするためにストレージクラス内のMVCをマウントする場合に使用されるRTDのリストに影響を与えます。
RECALL	特定VTVのマウント時の強制リコールに適用されます。ストレージクラスのリストは、指定されたSTORLST文によって決定されます。このリストは、VTVのMVCコピーのリストに影響を与え、VTVのリコールに最適なMVCを選択させます。
EXPORT	エクスポートに適用されます。ストレージクラスのリストは、指定されたSTORLST文によって決定されます。このリストは、VTVのMVCコピーのリストに影響を与え、VTVのエクスポートに最適なMVCを選択させます。

表 3-10 STORSEL 機能 (続き)

CONSOLID	統合に適用されます。ストレージクラスのリストは、指定されたSTORLST文によって決定されます。このリストは、VTVのMVCコピーのリストに影響を与え、VTVの統合に最適なMVCを選択させます。
----------	---

HOST

オプションで、規則を適用するホストを 1 つまたは複数指定します。このパラメータを使用した場合、パラメータに指定されていないホストはすべて規則を無視します。このパラメータを使用しない場合、文はすべてのホストに適用されます。

host-id

ホスト識別子(最大8文字)

MGMTclas

オプションで、マネージメントクラスを指定します。

mgmt-class-name

MGMTclas 制御文で定義したマネージメントクラスの名前。

VTSS

オプションで、VTSS を指定します。

vtss-name

VTSS 名。次のとおりです。

- 自動リコール用、リコールが実行される VTSS
- そのほかの機能用、VTV が以前に常駐した VTSS。これは、Display VTV の出力に表示される VTSS 値から判断することができます。

STORLST

ストレージクラスのリストと対応する優先順位を指定します。

stor-list-name

STORLST 制御文で定義したストレージクラスのリスト名。

注 – STORLST パラメータで指定されるストレージクラスのリストは、MGMTclas および VTSS パラメータで指定される基準によってさらに制限されます。

VTSSLST 制御文

VTSSLST 制御文では、VTSS のリストと対応する優先順位を指定します。MGMTDEF コマンドでロードします。

VTCS は最初に、さまざまな要素に基づいて、VTSS ごとにシステムの優先順位を決定します。たとえば、VTSS が要求に対応できるかどうか、要求されたリソースがオンラインまたは使用可能であるかどうか、または VTSS が問題のある状態である (高 DBU) かどうか。

システム優先度が最高位の VTSS が複数ある場合は、VTSSLST 優先順位に基づいて、使用する VTSS を決定できます。ただし、VTSSLST が考慮に入れられるのは、要求に応える能力が同じ VTSS を明確に選択できる場合のみです。

注 - VTSSLST 制御文は、FEATURES VSM(ADVMGMT) が指定されている場合にのみ有効です。

構文

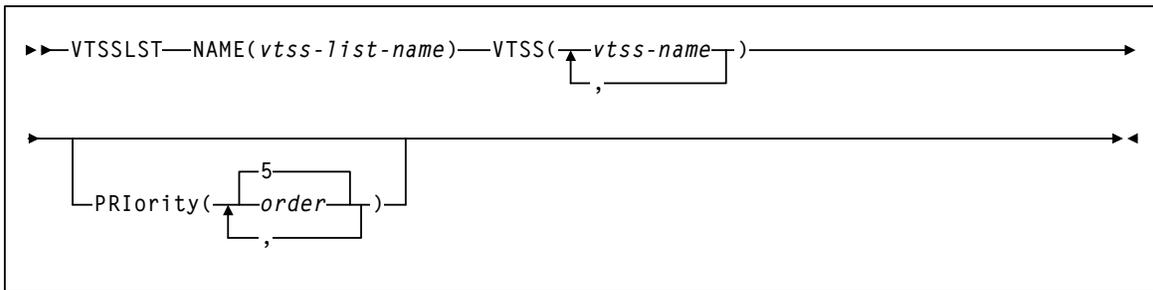


図 3-140 VTSSLST 制御文の構文

パラメータ

NAME

VTSS リストの名前を指定します。

vtss-list-name

リスト名 (最大8文字の英数字)

VTSS

VTSS リストで1-8のVTSSを指定します。

vtss-name

VTSS 名。

PRiority

オプションで、VTSS パラメータに指定されている VTSS 名の優先順位を一覧表示します。

order

指定された優先順位。有効な値は 0 - 9 (最高の優先順位) で、デフォルト値は 5 です。複数の VTSS に同じ優先順位を割り当てることができます。

システム優先度が最高位の VTSS が複数ある場合は、次のように処理されます。

- 2つの VTSS に最高の優先順位が割り当てられている場合、VTCS は (DBU および VSM モデルなどの要素に応じて) この 2 つからランダムに選択します。
- VTSS の優先順位が 0 (ゼロ) の場合、VTCS はほかの VTSS がすべて使用できないとき (たとえば、DBU > 95%、VTSS のオフライン、または RTD のオフラインなど) にのみ、この VTSS を選択します。

注 – VTSSLSTパラメータで指定されたVTSSリストは、次の条件によってさらに制限されます。

- VTSSSEL文で指定された機能
- VTSSSEL文のMGMTclas、VTSS、STORclas、およびMVCpoolパラメータで指定された基準
- RTDの接続など、そのほかの要因

たとえば、スクラッチ割り振りでは、VTSSのリストからマネージメントクラスのポリシーに合わせてVTSSを減らされます(REPLICAT(YES)など)。VTSSのリストが0になった場合、要求は失敗します。

VTSSSEL 制御文

VTSSSEL制御文では、VTSSの使用規則を定義します。この規則は、VTSSLST制御文で指定されたVTSSのリストと対応する優先順位に適用されます。MGMTDEF コマンドでロードします。

注 -

- VTSSSEL 制御ステートメントは、FEATURES VSM(ADVVMGMT) が指定されている場合にのみ有効です。
- VTSSSEL 文が適用されるのは、処理中の MVC 上にある VTV が VTSS 内に常駐していない場合のみです。VTV が常駐している場合、VTCS は VTSSSEL 文を無視し、常駐している VTSS から VTV をマイグレーションします。

構文

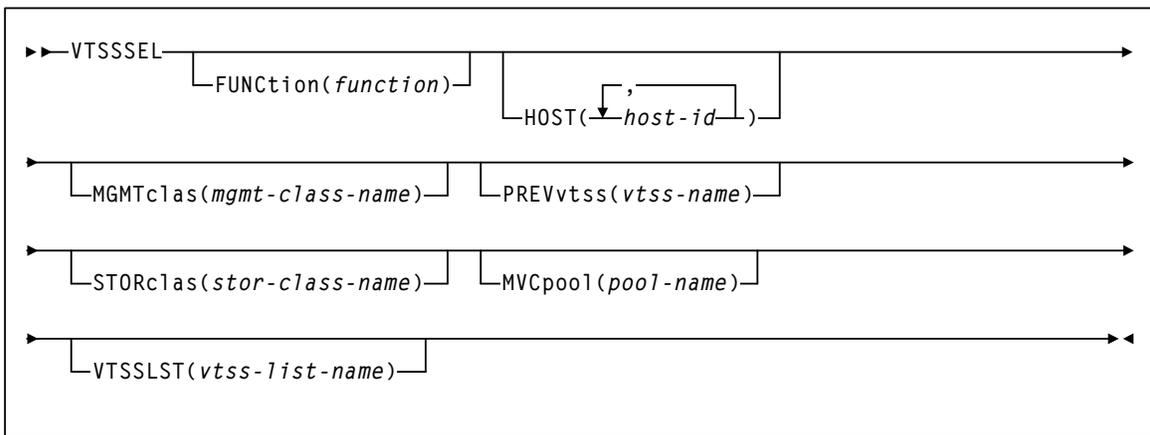


図 3-141 VTSSSEL 制御文の構文

パラメータ

FUNCTION

オプションで、規則が適用される VSM 機能を指定します。各文には、1 つの機能のみ指定できます。省略した場合、このパラメータはすべての機能に適用されます。すべての機能に適用する場合は、FUNCTION パラメータを省略することで、コーディングが必要となる文の数を 25% に削減できるため、手間を省くことができます。

function

機能の名前です。表 3-11 で説明します。

表 3-11 VTSSSEL機能

機能	解説
SCRATCH	非特定の (スクラッチ) VTV割り振りに適用されます。適格なVTDのリストは、指定されたVTSSLST文によって決定されます。PREVVTTSS、STORclasおよびMVCpoolパラメータには適用されません。
SPECIFIC	特定のVTV割り振りに適用されます。適格なVTDのリストは、指定されたVTSSLST文によって決定されます。STORclasおよびMVCpoolパラメータには適用されません。
RECALL	強制リコールに適用されます。リコールに適したVTSSのリストは、指定されたVTSSLST文によって決定されます。また、VTSSリストにより、(選択されたVTVから派生した) リコールに選択されたMVCを処理するRTDの探索順序が決定されます。MGMTclasパラメータには適用されません。
RECLAIM	リクレイムに適用されます。リクレイムに適した VTSS のリストは、指定された VTSSLST 文によって決定されます。また、VTSSリストにより、リクレイムに選択されたMVCを処理するRTDの探索順序が決定されます。MGMTclasパラメータには適用されません。
DRAIN	ドレインに適用されます。ドレインに適した VTSS のリストは、指定された VTSSLST 文によって決定されます。また、VTSSリストにより、ドレインに選択されたMVCを処理するRTDの探索順序が決定されます。MGMTclasパラメータには適用されません。
MOVEVTVS	ARCHIVE または RECONCIL コマンドに MOVEVTVS パラメータが指定されている場合に適用されます。VTV の移動に適した VTSS のリストは、指定された VTSSLST 文によって決定されます。また、VTSS リストにより、処理に選択された MVC を処理する RTD の探索順序が決定されます。MGMTclas パラメータには適用されません。
AUDIT	MVCのAUDITに適用されます。AUDIT に適した VTSS のリストは、指定された VTSSLST 文によって決定されます。また、VTSSリストにより、AUDITに選択されたMVCを処理するRTDの探索順序が決定されます。MGMTclasパラメータには適用されません。
EXPORT	エクスポートに適用されます。エクスポートに適した VTSS のリストは、指定された VTSSLST 文によって決定されます。また、VTSSリストにより、エクスポートに選択されたMVCを処理するRTDの探索順序が決定されます。MGMTclasパラメータには適用されません。
CONSOLID	統合に適用されます。統合に適した VTSS のリストは、指定された VTSSLST 文によって決定されます。また、VTSS リストにより、統合のため選択された MVC を処理する RTD の探索順序が決定されます。MGMTclasパラメータには適用されません。

HOST

オプションで、規則を適用するホストを 1 つまたは複数指定します。このパラメータを使用した場合、パラメータに指定されていないホストはすべて規則を無視します。このパラメータを使用しない場合、文はすべてのホストに適用されます。

host-id

ホスト識別子(最大8文字)

注 – VTSSLST パラメータで指定される VTSS のリストは、MGMTclas、VTSS、STORclas、および MVCpool パラメータで指定される基準によってさらに制限されません。

MGMTclas

オプションで、マネージメントクラスを指定します。

mgmt-class-name

MGMTclas 制御文で定義したマネージメントクラスの名前。

PREVvtss

オプションで、VTV が次の条件に該当する VTSS を指定します。

- 存在または常駐する。
- マイ그레이ションされた。

STORclas

オプションで、ストレージクラスを指定し、MVCがVTSSの選択に使用された場合にのみ適用されます。

stor-clas-name

STORclas 制御文で定義したストレージクラスの名前。

MVCpool

オプションで、Named MVC プールを指定し、MVC が VTSS の選択に使用された場合にのみ適用されます。

poolname

MVCPool 制御文で定義した MVC プールの名前。

VTSSLST

オプションで、VTSSのリストと対応する優先順位を指定します。

vtss-list-name

VTSSLST 制御文で定義した VTSS リストの名前。

MIGrate

The MIGrate コマンドは、MVC への VTV のマイグレーションを実行します。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文 (形式 1)

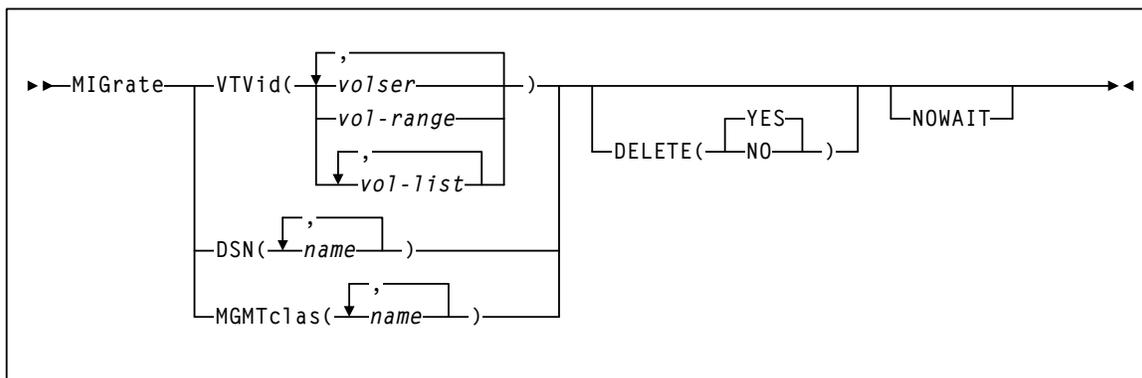


図 3-142 MIGrate の構文 (形式 1)

パラメータ (形式 1)

VTVid

マイグレーションする VTV を指定します。

volser, *vol-range*, または *vol-list*

VTV(1つ以上)のvolserです。範囲 (1つ以上) を指定することもできます。

DSN

マイグレーションする VTV の選択に使用するデータセットを指定します。

name

データセット名です。表 3-12 では、データセット名で有効なワイルドカードについて説明します。GDG メンバーの指定にワイルドカードを使用することはできません。

表 3-12 有効なワイルドカード

ワイルドカード	意味...
*	修飾子または修飾子に含まれる1つ以上の文字。アスタリスクは、一連の文字の前または後ろに置くことができる。
**	修飾子なし、または1つ以上の修飾子。2重アスタリスクは文字の前後に置くことができず、2重アスタリスクの前または後ろには、ピリオドまたはブランクを置く必要がある。
% or ?	1個の英数字または国別文字。
%%または??	各修飾子の中には1-8個の%記号または?マークを指定できる。

注 – ワイルドカードは、DFSMS/MVS 1.4以上を実行するMVSシステムでのみサポートされます。このレベルより下のシステムでは、カタログ検索でワイルドカードを使用することはできません。

MGMTclas

マイグレーションするVTV (1つ以上) を決定するマネージメントクラス (1つ以上) を指定します。

mgmt-class-name | mgmt-class-list

MGMTclas制御文で定義したマネージメントクラス(1つ以上)の名前です。詳細については、[416 ページの「MGMTclas 制御文」](#)を参照してください。

注 – MGMTclas、VTVid、DSN はいずれか1つしか指定できません。

DELETE

オプションで、VTVのマイグレーション後にVSMがVTSSからそのVTVを削除するかどうかを指定します。

NO

VTVのマイグレーション後に、そのVTVをVTSSから削除しません。

YES

VTVのマイグレーション後に、そのVTVをVTSSから削除します(デフォルト)。

NOWAIT

要求の実行依頼後、処理の終了を待たずに制御を戻すように指定します。

構文 (形式 2)

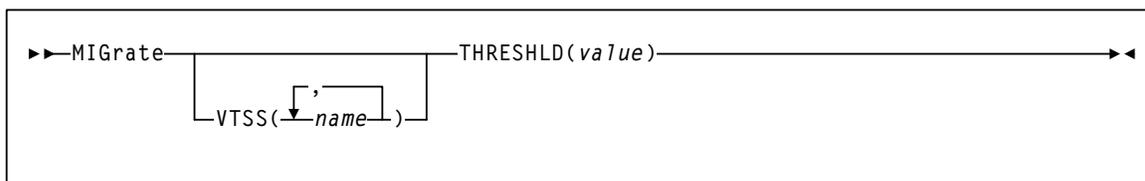


図 3-143 MIGrate の構文 (形式 2)

パラメータ (形式 2)

VTSS

指定された限界値に達するまでマイグレーションするVTSS (1つ以上) を指定します。

name

1つまたは複数のVTSSの名前。

THRESHLD

VTSSスペースが指定する限界値に達するまで、VTCSはVTSSスペース管理およびVTVマイグレーションサイクルを実行することを指定します。指定できる値は0-95%です。

value

マイグレーション処理を終了する限界値 (VTSSスペースのパーセント)。

MNTD

MNTD コマンドで、HSC でのライブラリボリュームのマウントおよびマウント解除の処理方法を指定します。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

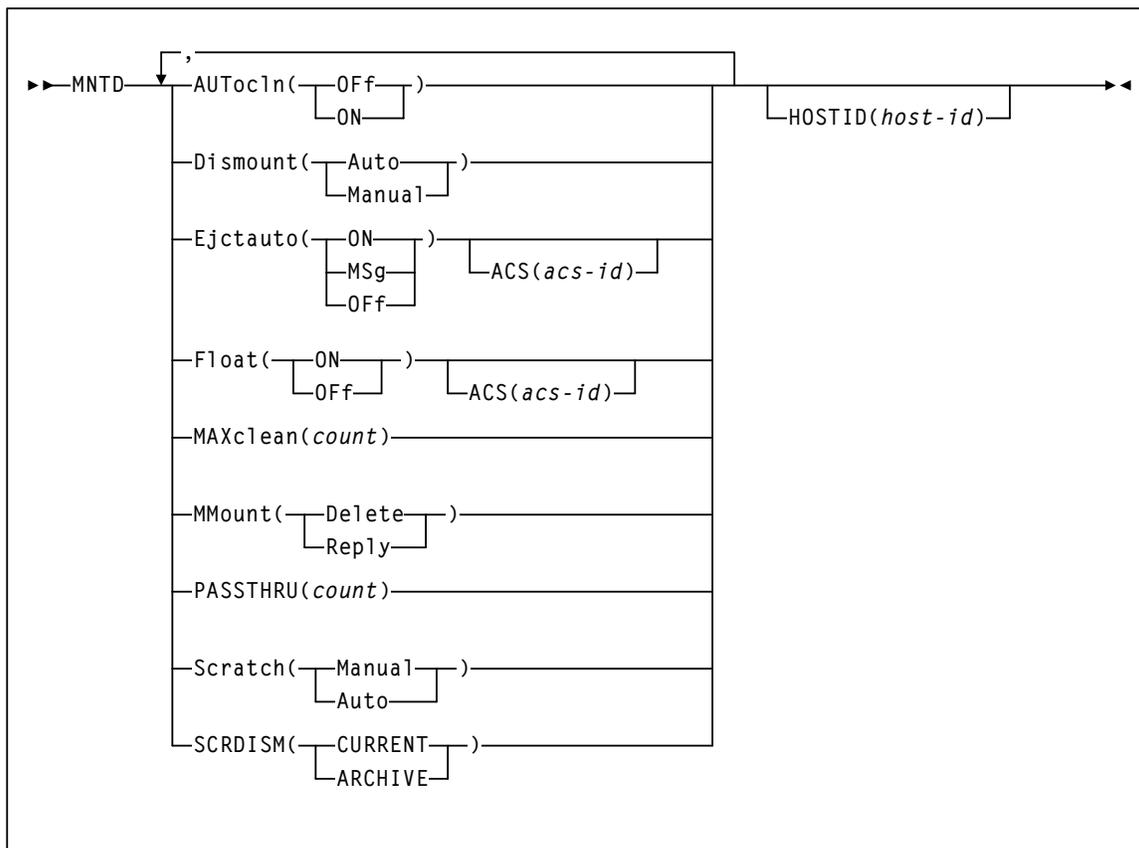


図 3-144 MNTD の構文

パラメータ

AUtocln

自動トランスポートクリーニングを制御します。

Off

自動クリーニング機能を使用禁止にします。Off は HSC の初期値です。

On

次の自動クリーニング機能を使用可能化します。

- HSC 自動クリーニング機能。これはトランスポートがクリーニングを必要とする時期を検知し、次のボリュームのマウントの前にクリーニングカートリッジのマウントをスケジューリングします。
- CLean コマンドは、指定のトランスポートに対するクリーニングカートリッジのマウントをスケジューリングするために使用します詳細については、[207 ページの「CLean」](#)を参照してください。

Dismount

手動モードの LSM において、LSM がオフラインに変更される前にロボットによってマウントされたボリュームに対してマウント解除が要求されたときに、制御データセットからボリュームを自動的に削除するかどうかを指定します。

Auto

ロボットによってマウントされたボリュームに対して手動マウント解除が要求されたときに、制御データセットからボリュームを自動的に削除することを示します。Auto はHSC での初期値です。

Manual

HSC に対して、ロボットがマウントしたボリュームに対して手動マウント解除が要求された場合、制御データセットからボリュームを削除するかどうかをオペレータに決定させるメッセージを出すよう指示します。

Dismount を Manual に設定すると、LSM が短時間だけオフラインに変更される場合に便利です。この場合、オペレータはディスマウントメッセージに応答せず、ボリュームをトランスポートにマウントしたままの状態にすることができます。LSM がオンラインに変更されると、HSC は未完了のマウント解除要求を再駆動して、ロボットにそのボリュームをマウント解除させて格納セルに入れます。

EJctauto

使用限度を超えたクリーニングカートリッジの自動イジェクトを制御します。

マルチホスト環境では、対象となる ACS の EJctauto 設定は、すべてのホストで同じでなければなりません。EJctauto 状況は、ホストが異なる HSC の間では共有されません。

On

使用できる回数を超えたクリーニングカートリッジを HSC が自動イジェクトするように指定します (使用できる回数は、MNTD MAXcleanパラメータ、または VOLATTR MAXcleanパラメータで指定されます)。HSC の初期値は ON です。

MSg

HSC に、オペレータに対して使用限度を超えたクリーニングカートリッジを ACS からイジェクトするか、それとも ACS に入れたままにするかのプロンプトを表示するように指定します。

Off

HSC に、ACS 内に使用限度を超えたクリーニングカートリッジを入れたままにするように指定します。使用限度を超えるとメッセージが出て、クリーニングカートリッジの *volser* と処理が説明されます。

ACS

任意選択により、特定の ACS に対してのみ *EJctauto* 設定を適用するように指定します。このパラメータを省略した場合は、すべての ACS に対して *EJctauto* 設定が適用されます。

acsid

ACS を識別するための 00 から FF までの 16 進値を指定します。指定できる *acsid* の値は 1 つのみです。

Float

HSC が、マウント時にパススルーを必要としたボリュームをマウント解除するとき、新しいホームセルロケーションを選択するかどうかを指定します。

マルチホスト環境では、特定 ACS についての *Float* 設定はすべてのホストで同じでなければなりません。*Float* 状況は、ホストが異なる HSC の間では共有されません。

On

HSC に対して、マウント解除の起こった (セルが使用可能である) LSM 内のボリュームの新しいホームセルロケーションを選択するよう指示します。新しい LSM 内でセルが使用可能でない場合、空きセルを持つもっとも近い LSM 内でロケーションが選択されるか、ボリュームを元のホームセルに強制指定できます。*Float* を ON に設定すると、パススルー処理の回数は減ります。HSC の初期値は ON です。

Off

HSC に対して、マウント解除時にボリュームを元のホームセルロケーションに戻すよう指示します。

注 – MNTD *Float Off* コマンドを使用すると、カートリッジが元のホームセルロケーションに戻されたことを確認できるため、リモート ACS/CDS リンクの障害の場合に制御データセットの安全性に関する問題を避けるうえで役立ちます。ユーザー出口の詳細については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。

ACS

任意選択により、*Float* 設定はこの ACS にしか適用されないことを指定します。この ACS パラメータを省略すると、*Float* 設定はすべての ACS に影響を及ぼします。

acsid

ACS を識別する 00 - FF までの 16 進値を指定します。指定できる *acsid* の値は 1 つのみです。

MAXclean

クリーニングカートリッジの使用回数の最大値を指定します。

注 –

- ACS に対する **EJctauto** 設定で、クリーニングカートリッジが使用限度を超えたときの処理法を制御します。
- マルチホスト環境では、**MAXclean** 設定はすべてのホストで同じでなければなりません。**MAXclean** の値は、ホストが異なる HSC の間では共有されません。
- クリーニングカートリッジの使用回数については、カートリッジベンダーの推奨に従ってください。

count

これは、1 から 32767 の範囲内の 10 進数です。HSC の初期値は 100 です。

注 –

- *count* の値は、ライブラリ内の各クリーニングカートリッジに適用されます。
- クリーニングカートリッジを *count* の回数分使用した場合、ACS のトランスポートに適合するクリーニングカートリッジで使用回数が *count* の回数未満のものがある場合には、使用限度を超えたクリーニングカートリッジは選択が解除されます。使用限度を超えたクリーニングカートリッジは、MNTD **EJctauto** の設定によっては自動イジェクトされる場合があります。

MMount

手動でマウントされたボリュームをオペレータが制御データセット内に保持できるようにするマウントメッセージを、手動モード時に発行するかどうかを指定します。

Delete

「D」と応答して制御データセットからボリュームを削除するか、または「I」と応答してマウント要求を無視するようにオペレータに求める手動モードのマウントメッセージを生成します。Delete は HSC の初期値です。

Reply

「M」と応答してメッセージを DOM し、ボリュームを制御データセット内に保持するか、または「I」と応答してマウント要求を無視するようにオペレータに求める手動モードのマウントメッセージを生成します。

注 – MNTD **MMount(Reply)** が指定されると、手動モードディスマウントの HSC の処理は MNTD ディスマウント設定によって判別されます。

PASSTHRU

SCRDISM(ARCHIVE) を指定した場合、カートリッジのアーカイブに対して許可されたパススルーの最大数を指定します。

count

カートリッジのアーカイブに利用できるパススルーの最大数です。指定できる値は、1 から 99 までの範囲の 10 進数です。HSC の初期値は 1 です。

Scratch

手動モードの LSM に対するスクラッチマウント要求を満たすためのスクラッチボリュームの選択方法を指定します。

Manual

手動モードの LSM にスクラッチマウントが要求されたときに、オペレータがスクラッチボリュームを選択するよう指定します。Manual は、HSC での初期値です。

Auto

手動モードの LSM にスクラッチマウントが要求されたときに、HSC にスクラッチボリュームを選択させるよう指定します。Scratch が Auto に設定されている場合、特定のボリュームに対する要求の場合のように、HSC 手動マウントメッセージにはカートリッジの VOLSER とセルロケーションが示されます。

SCRDISM

9310 LSM または 9360 LSM にマウントされたスクラッチボリュームが、マウント解除時に比較的大きいまたは比較的低速な LSM に自動的にアーカイブされるかどうかを指定します。

注 - 9740 LSM はほかの種類 LSM とは接続できません。したがって、SCRDISM は 9740 を含む ACS のマウントには適用されません。

CURRENT

9310 LSM または 9360 LSM にマウントされたスクラッチボリュームが MNTD Float パラメータ設定に従ってマウント解除されることを示します。CURRENT は HSC での初期値です。

ARCHIVE

9310 LSM または 9360 LSM にマウントされたスクラッチボリュームが、比較的大きいまたは比較的低速な記憶デバイス内にアーカイブされることを示します。パススルーの数が PASSTHRU を超えていない場合に限り、アーカイブが発生します。また、カートリッジのアーカイブが発生します。

- 9360 から 9310 または 4410 のいずれか
- 9310 から 4410

注 -

- SCRDISM(ARCHIVE) は、MNTD Float パラメータの設定を指定変更します。
 - ARCHIVE パラメータは、9740 LSM を含む ACS のマウント解除には影響を及ぼしません。
-

HOSTID

オプションで、MNTD コマンドに関連付けるホストを識別します。これにより、特定の開始オプションを特定ホストに制限することができます。

このパラメータが指定されないと、コマンドは PARMLIB にアクセスする各ホストによって実行されます。

host-id

ホスト ID (JES2 および JES3 いずれの場合も SMF システム識別子) です。

注 – *hostid* がコマンド実行中のホストに一致しない場合、メッセージが発行され、コマンドは処理されません。

MODify

MODify コマンドは次の機能を実行します。

- 発行元ホストに関係なく、CAPまたはLSMをすべてのホストに対してオンラインまたはオフラインに変更する
- SL3000 または SL8500 ライブラリの動的なハードウェア構成を開始する
- SLILIBRY FUTRACS パラメータによって事前に割り振られている CDS の SL3000 または SL8500 ACS 定義を追加、削除、または更新する

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

SL3000 および SL8500 ライブラリのハードウェアの動的再構成は、Near Continuous Operation (NCO)の一部に相当し、ドライブおよび拡張パネルを動的に追加したり、削除したりすることができます。

ハードウェアの動的再構成を活動化するには、MODify CONFIGコマンドを入力します。

Near Continuous Operation および動的なハードウェア構成の詳細については、『*Configuring HSC and VTCS*』を参照してください。

警告 – MODify CONFIG を入力する前に、CDS のバックアップを実行してください。

注 – SL8500の構成からLIBGEN、MERGEcds、およびHSCの再起動をせずに、LSMを取り外せます。ただし、この操作には Oracle StorageTek の補助が必要です。

MODify コマンドは、次の点で Vary コマンドとは異なります。

- MODify コマンドでは、指定の LSM がすべてのホストに対してグローバルにオンライン/オフラインに変更されます。
 - オフラインに変更された CAP は、イジェクト/入力処理に使用されます。
 - オフラインに変更された LSM は、手動モードで操作しなければなりません。
 - 手動モード LSM は、ホストからの診断要求に使用することができます。
- Vary コマンドでは、ホストステーションが LMU に対してオンライン/オフラインに変更されます。
 - LMU ステーションをすべてオフラインに変更させたホストは、LMU に接続されたすべての LSM から切断されます。
 - 接続されているホストから HSC コマンドを発行すれば、LSM を切断されたホストの半自動カートリッジ処理に引き続き使用できます。

構文

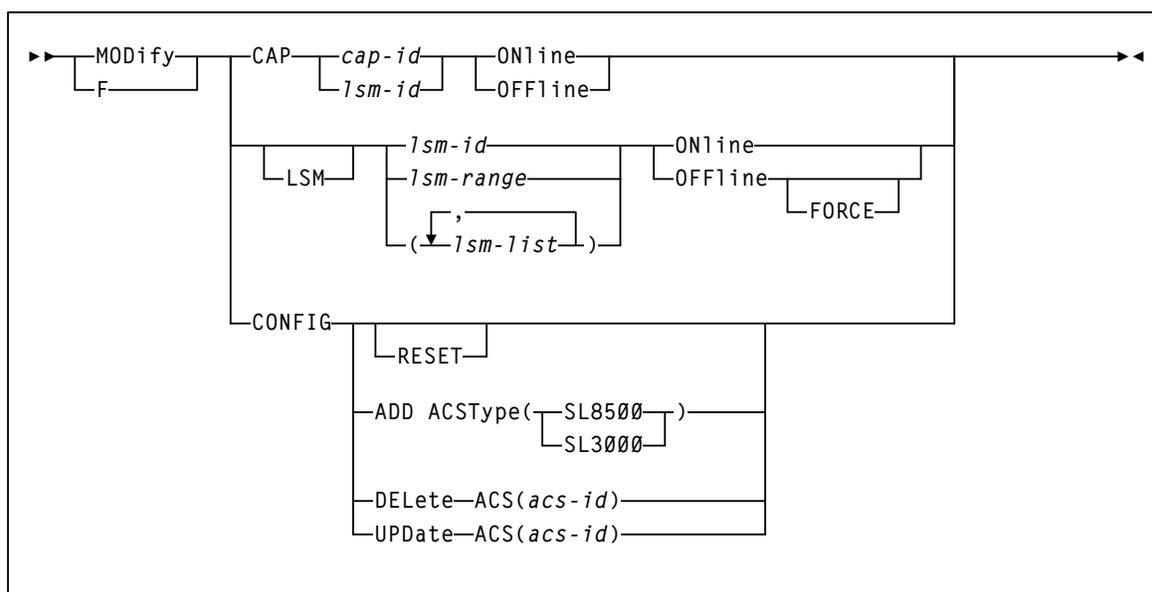


図 3-145 MODify の構文

パラメータ

CAP<:so>CAP

CAP がすべてのホストに対してオンライン/オフラインに変更されるよう指定します。

cap-id

オンライン/オフラインに変更する指定の CAP。 *cap-id* の形式は、AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は CAP です。有効値のリストについては、707 ページの「CAP の値」を参照してください。

lsm-id

オンライン/オフラインに変更する指定の CAP。 *lsm-id* の形式は AA:LL で、AA は ACSid (16進数00-FF)、LL は LSM番号 (16進数00-17) を示します。

ONline

CAP がすべてのホストに対してオンラインに変更されるよう指定します。CAP がオンラインに変更されると、HSC はCAP がオフラインに変更されたときに有効であった CAP モード (自動または手動) を復元しようとします。

OFFline

CAP がすべてのホストに対してオフラインになるよう指定します。CAP は、オフラインに変更されると利用不可能な状態になり、割り振りされなくなります。CAP モード (自動または手動) は、制御データセット内に保持されます。

注意 -

- CAPをオフラインに変更する際、必ずCAPパラメータを指定するようにしてください。LSM がオンラインのとき CAP パラメータを指定しないで、lsmid を指定して CAP のオフライン変更をした場合、LSM はオフラインに変更されます。
 - このコマンドは、緊急時にのみ使用するようにしてください。CAP が別のアクティブプロセスによって使用されていないことを確認してください。アクティブ CAP 上で MODify コマンドを発行すると、CAP を使用したプロセスがエラーを受け取ることがあります。
-

LSM

オプションで、1 つまたは複数の LSM をすべてのホストに対してオンライン/オフラインに変更することを指定します。

lsm-id または **lsm-range** または **lsm-list**

すべてのホストに対してオンライン/オフラインに変更される 1 つまたは複数の LSM。lsm-list 内の各要素は、単一の LSMid または LSMid 範囲のどちらでもかまいません。リスト内の各要素はコンマまたはブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

lsm-idの形式はAA:LLで、AAはACSid (16進数00-FF)、LLはLSM番号 (16進数00-17) を示します。

ONline

指定の (1 つまたは複数の) LSM がすべてのホストに対してオンラインになることを示します。LSM は、オンラインに変更されると自動モードになります。LSM がオンラインに変更されると、LSM がオフラインに変更される前に自動モードであった CAP は再び自動モード (ロックが解除された状態) になります。

OFFline

指定の (1 つまたは複数の) LSM がすべてのホストに対してオフラインになることを示します。LSM は、オフラインに変更されると手動モードになります。手動モードの LSM は使用できませんが、各 CAP の自動/手動状態は保持されます。

FORCE

指定の (1 つまたは複数の) LSM がすぐに変更されるよう指定します。FORCE は、LSM をオフラインに変更する OFFlineパラメータとともにしか使用できません。

CONFIG**(パラメータはありません)**

オプションで、SL3000 および SL8500ライブラリの場合、ハードウェア再構成処理のNear Continuous Operation(NCO)を開始します。これはシステム全体に影響が及ぶ変更で、CDS に接続されているすべてのホストに伝達されます。

注 - Near Continuous Operation および動的なハードウェア構成の詳細については、『Configuring HSC and VTCS』を参照してください。

警告 - MODify CONFIG を入力する前に、CDS のバックアップを実行してください。

ADD

NCO 構成変更を開始し、1 つの ACS を HSC 構成に追加します。追加された ACS は、ACSType パラメータで指定されているライブラリタイプのライブラリ特性を引き継ぎます。追加できる ACS の数は、SLILIBRY FUTRACS パラメータによって制限されます。

ACSType

構成変更に使用するライブラリタイプを指定します。オプションは、SL3000 または SL8500 です。

DELeTe

NCO 構成変更を開始し、ACSid(*acs-id*) パラメータで指定されている切断済み ACS を削除します。

一番大きい番号の ACS が ACSid に指定されている場合は、その ACS が完全に削除されます。削除された ACS は、別の ACSType として再び追加できます。ACSid に指定されている ACS が一番大きい番号ではない場合、その ACS はブレースホルダーになります (割り振られていない状態)。この ACS は、同じ ACSType としてのみ再追加できます。

RESET

ハードウェア構成の実行時に障害の発生した可能性のあるホストの内部フラグをリセットします。障害の発生したホストが回復すると、新しいハードウェア構成が自動的に認識され、実施されます。

リセットとは、障害の発生したホストのリセットのみのことであり、実際のハードウェアの動的再構成操作は開始されません。ハードウェアの動的再構成を実行するには、RESET パラメータを指定しない MODify CONFIG コマンドを新たに実行する必要があります。

UPDate

NCO 構成変更を開始し、ACSid(*acs-id*) パラメータで指定されている ACS 構成を更新します。これはシステム全体に影響が及ぶ変更ではありません。CDS に接続されているほかのホストには伝達されません。システム全体に影響が及ぶ更新が必要な場合は、追加パラメータを指定せずに MODify CONFIG コマンドを実行します。

ADD パラメータと DELeTe パラメータは、LIBGEN 処理中に SLILIBRY マクロに FUTRACS パラメータが指定されている場合にのみ、有効になります。

Mount

Mount コマンドマウントは、スクラッチボリュームまたは特定のボリュームをトランスポートにマウントする場合、または VTV を VTD をマウントする場合に使用します。オプションで、その VTV にマネージメントクラスを割り振ることもできます。

注 - このコマンドを使用して、バッチジョブされなかったように見えるマウントを管理しないでください。保留中のマウントを自動化する場合は、このコマンドではなく、SMC RESYNChronize コマンドを使用します。詳細については [126 ページの「RESYNChronize」](#) を参照してください。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

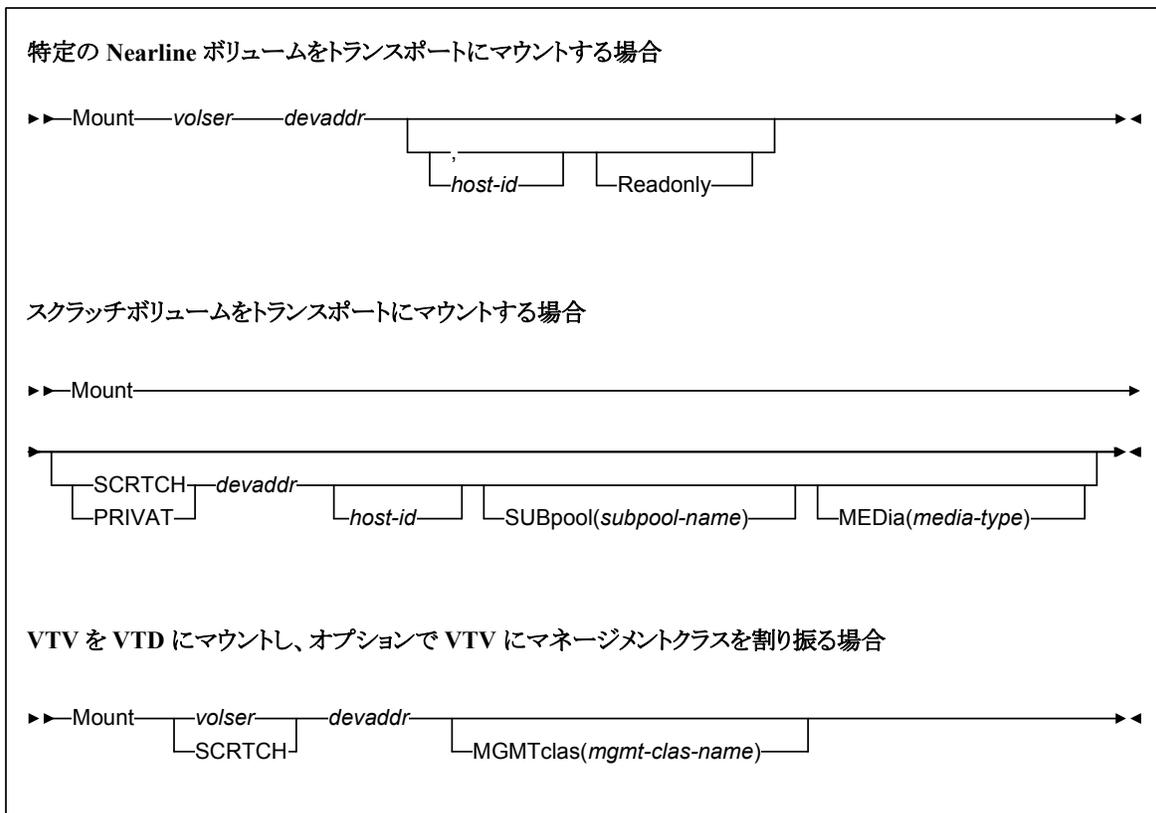


図 3-146 Mount の構文

パラメータ

特定のボリュームをトランスポートにマウントする場合

volser

マウントするボリュームを指定します。

devaddr

ボリュームのマウント先となるトランスポートのデバイスアドレスを指定します。

host-id

オプションで、ボリュームが指定ホスト (JES2 および JES3 いずれの場合も SMF システム識別子) に定義されたデバイスアドレスにマウントされることを示します。

注 – 指定されている *host-id* は、デバイスアドレスの解決目的でのみ使用されます。サブプール検証用の *host-id* は、コマンド発行源から入手されます。

Readonly

ボリュームを読み取り専用アクセスのためにマウントするように指定します。

hostid を指定せずに **Readonly** を指定する場合は、**Readonly** の直前にコンマを入れて欠落オペランドを示す必要があります。次に例を示します。

```
MOUNT 123456 0B0,,READONLY
```

ForceRT

オプションで、記録方式の異なるデバイスにボリュームをマウントできます。ボリュームのメディアタイプにデバイスとの互換性があることが必要です。高密度を読み取れないドライブに、高密度で書き込まれているボリュームをマウントできるので、注意が必要です。

スクラッチボリュームをトランスポートにマウントする場合

SCRATCH

マウントするスクラッチボリュームを指定します。

PRIVATE

マウントするスクラッチボリュームを指定します。

devaddr

ボリュームのマウント先となるトランスポートのデバイスアドレスを指定します。

host-id

オプションで、ボリュームが指定ホスト (JES2 および JES3 いずれの場合も SMF システム識別子) に定義されたデバイスアドレスにマウントされることを示します。

注 – 指定されている *hostid* は、デバイスアドレスの解決目的でのみ使用されます。サブプール検証用の *hostid* は、コマンド発行源から入手されます。

SUBpool

オプションで、スクラッチサブプールからスクラッチボリュームが選択されるよう指定します。このパラメータが指定されていない場合の動作は、スクラッチプールの定義によって異なります。

- VOLPARM が指定されている場合は、DEFAULTPOOL からボリュームが選択されます。DEFAULTPOOL には、VOLPARM で指定されながら、指定のサブプールに割り振られなかった ACS 内のすべてのスクラッチテープが含まれています。
- VOLPARM が指定されていない場合 (VOLATTR、または UX03 スクラッチプール定義など)、ボリュームは subpool-0 から選択されます。subpool-0 には、非サブプールボリュームとサブプールボリュームの両方を含め、ACS 内のすべてのスクラッチテープが含まれています。

subpool-name

スクラッチボリュームを選択するサブプールの名前を示します。

MEDIA

任意選択によりスクラッチボリュームのメディアタイプを指定します。指定されたメディアは、必ず要求された *devaddr* と互換性がなくてはなりません。

注 – MEDIA を指定しないと、メディアタイプとは無関係に次のスクラッチカートリッジが選択されます。

media-type

メディアタイプです。

有効な *media-type* の値については、[付録 A 「MEDIA、RECtech および MODEL の値」](#) を参照してください。

VTV を VTD にマウントし、オプションで VTV にマネージメントクラスを割り振る場合

volser | **SCRATCH**

特定のVTVのVOLSERまたはスクラッチVTV属性(SCRATCH)を指定します。

volser

特定のVTVのVOLSER

devaddr

VTVのマウントに使用するVTDのMVSデバイスアドレスを指定します。

MGMTclas

オプションで、MGMTclas 制御文で定義した管理クラスを指定します。

mgmt-class-name

マネージメントクラス名。

MOVE

MOVE コマンドで、同じ LSM または ACS 内の別の LSM の指定の位置にボリュームを移動します。

注 -

- すべての LSM へのボリュームの移動は、先着順に実行されます。ボリュームを移動する際、該当する LSM への移動要求が満たされる前に LSM がフル状態になった場合は、要求で指定されている次の LSM に割り振られているボリュームが移動されます。すべての利用可能なセルにテープカートリッジが入ると、LSM はフル状態になります。この処理は、移動要求がすべて完了するか、すべての移動先 LSM がフル状態になるまで続行されます。
- ほかの LSM 操作に備えて、移動は一度に 1 つずつ行われます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

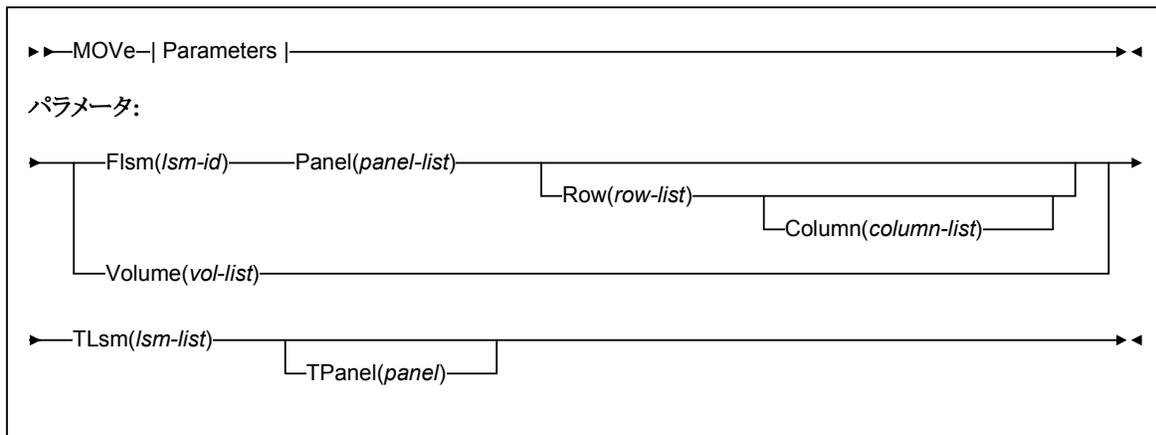


図 3-147 MOVE の構文

パラメータ

Flsm

カートリッジの「移動元」LSMid を AA:LL 形式で指定します。**Flsm** パラメーターが指定されている場合、**Volume** パラメータは指定できません。

lsm-id

LSM 識別子名。LSMid (*lsm-id*) は、ACSid (16 進数の 00 - FF) と LSM 番号 (16 進数の 00 - 17) をコロン (:) で区切ったもので構成されます。

Panel

移動元のパネル番号を指定します。このパラメータは必須で、**Flsm** パラメータと同時に指定する必要があります。

Row パラメーターと **Column** パラメーターが指定されていない場合は、パネル全体を空にできます。

panel-list

1 - 2 桁のパネル番号です。範囲は使用できません。**Row** または **Column** パラメータ用にリストが指定されている場合、このパラメータにはリストを指定できません。

同じ LSM 内でカートリッジを移動する場合、*panel-list* で指定されているパネルは移動先パネルから除外されます。

panel-list の各要素は、LSM タイプ固有の 1 - 2 桁の 10 進数です。有効値のリストについては、[709 ページの「パネルの値」](#)を参照してください。

Row

移動元の行リストを指定します。このパラメータは **Panel** パラメータと同時に指定する必要があります。

row-list

1 - 2 桁の行番号または行番号のリスト最大 4 行のリストを指定できます。ただし、**Column** パラメータ用にリストが指定されている場合、このパラメータにはリストを指定できません。範囲は使用できません。

row-list の各要素は、LSM タイプ固有の 1 - 2 桁の 10 進数です。有効値のリストについては、[710 ページの「行の値」](#)を参照してください。

Column

移動元の列リストを指定します。このパラメータはオプションです。指定する場合は **Row** パラメータと同時に指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合は、指定の行のすべての列が移動されます。

column-list

1 - 2 桁の列番号または列番号のリスト。**Row** パラメーター用にリストが指定されている場合、このパラメータにはリストを指定できません。範囲は使用できません。

column-list の各要素は、LSM タイプ固有の 1 - 2 桁の 10 進数です。有効値のリストについては、[711 ページの「列の値」](#)を参照してください。

Volume

オプションで、移動するボリュームを指定します。

vol-list

ボリュームのリスト (最大 300 を指定可能)、またはボリュームの範囲。Volume パラメーターが指定されている場合、Flsm パラメーターは指定できません。

TLsm

ターゲット LSM を指定します。このパラメーターは必須です。LSM は AA:LL 形式で指定します (AA は ACSid、LL は LSMid)。ACSid は次の条件を満たしていなければなりません。

- Flsm パラメーターの「aa」 (ACSid) と同一である、または
- Volume パラメーターが指定されている場合は、ボリュームが常駐している ACS と同じ ACS でなければならない

lsm-list

LSM のリスト (最大 24 を指定可能)。範囲は指定できません。LSMid (*lsm-id*) は、ACSid (16 進数の 00 - FF) と LSM 番号 (16 進数の 00 - 17) をコロン (:) で区切ったもので構成されます。

TPanel

オプションで、カートリッジの移動先となる TLsm 内のパネルを指定します。

panel

1 - 2 桁のパネル番号です。このパラメーターには、リストまたは範囲を指定できません。有効値のリストについては、709 ページの「パネルの値」を参照してください。

MVCDRain

MVCDRain コマンドは、MVC から現在の VTV またはスクラッチされた VTV をすべてリコールし、オプションで、「仮想的」に MVC をイジェクトすることで、ライブラリから MVC を物理的にイジェクトしなくても、VSM はこの MVC を使用できなくなります。このコマンドを使用して、CONFIG RECLAIM CONMVC 設定を無効にすることができます。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

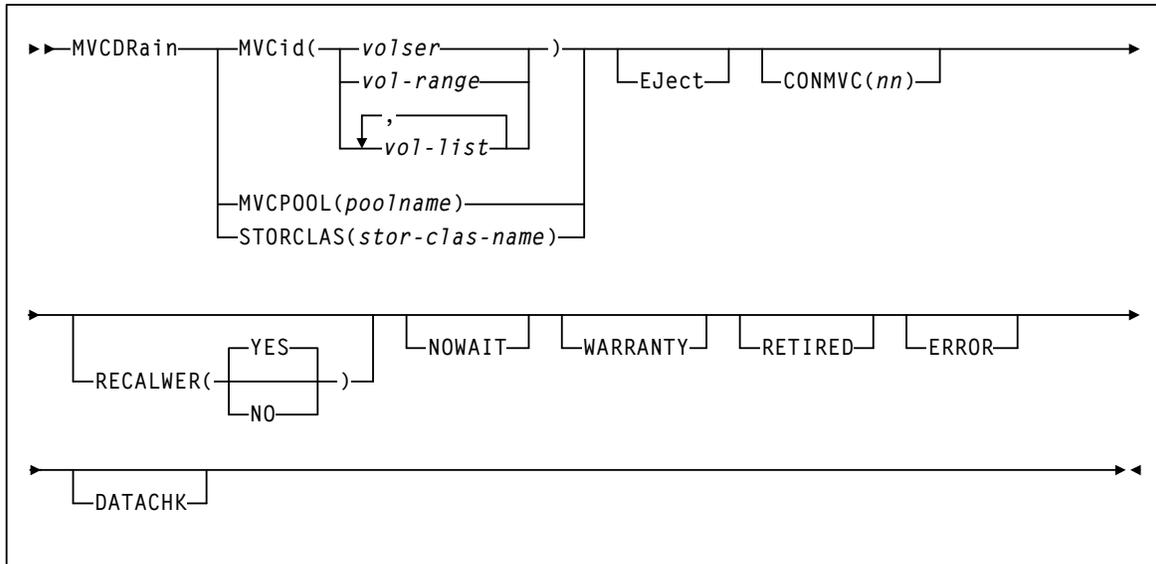


図 3-148 MVCDRain の構文

パラメータ

MVCid

VOLSERで1つ以上のMVCをドレインします。

volser, vol-range, または *vol-list*

1つ以上のMVC (最大50) のVOLSER。

MVCPOOL

指定したNamed MVCプール内のMVCをドレインします。

poolname

MVCPool 制御文で定義した MVC プールの名前。詳細については、『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。

STORCLAS

指定したストレージクラス内のMVCをドレインします。

stor-class-name

STORclas 制御文で定義したストレージクラスの名前。詳細については、[434 ページの「STORclas 制御文」](#)を参照してください。

Eject

オプションで、VTCS が MVC を「仮想的」にイジェクトすることを指定します (MVC は出力用に使用されません)。

CONMVC(*nn*)

オプションで、VTCS が同時に行う MVC のドレインおよび再生処理の最大数を指定します。

有効な値は 1 - 99 です。指定しない場合、デフォルト値は CONMVC 値 (CONFIG RECLAIM 文で指定される) になります。

RECALWER

オプションで、VTCS が 読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールするかどうかを指定します。

YES

読み取りデータチェックの発生したVTVをリコールします (デフォルト)。

NO

読み取りデータチェックの発生したVTVをリコールしません。

NOWAIT

オプションで、要求の実行依頼後、処理の終了を待たずに制御を戻すように指定します。

WARRANTY

オプションで、保障期限の切れたMVC (MVCレポート上の Status T 列に W と示される) を選択します。

RETIRED

オプションで、耐用期限切れのMVC (MVCレポート上のStatus T列に Status T と示される) を選択します。

ERROR

エラー状態にあるMVC（MVCレポートのStatus B列にBと示される）を選択します。

DATACHK

データチェックの発生したMVC（MVCレポートのStatus D列にDと示される）を選択します。

MVCMANT

MVCMANT コマンド で、MVC 属性を指定します。

インターフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	<ul style="list-style-type: none"> • RENVTSS が指定されている場合は、アクティブな HSC/VTCS が必要。 • (LPAR 上に) アクティブなホストがない場合は、更新対象の CDS を用いてバッチ専用モードで実行可能。

構文

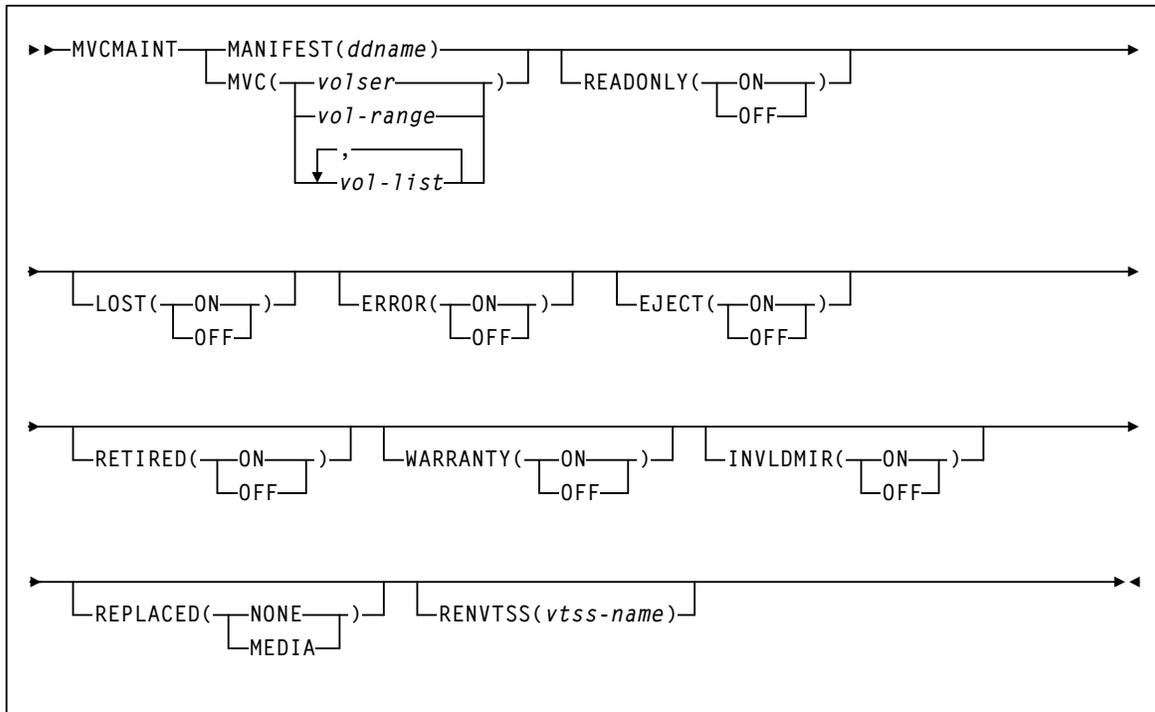


図 3-149 MVCMANT の構文

パラメータ

MANIFEST

マニフェストファイルの入力DD名を指定します。**注:** マージされたマニフェストファイルまたは複数のマニフェストファイルを指定できます。

ddname

マニフェストファイルのDD名です。デフォルトはMANIFESTです。

指定されている場合、VTCS はマニフェストファイルを読み込んで、更新対象の MVC (マニフェストファイル内のすべての MVC) を検出します。その後、VTCS は、残りのパラメータ (LOST、READONLY など) で指定されている操作によって CDS 内の MVC を更新します。

MVC

オプションで、読み取り/書き込み属性を変更するMVCを指定します。

volser、*vol-range* または *vol-list*

1つまたは複数のMVCのVOLSERです。

READONLY

オプションで、MVCを読み取り専用にするか書き込み可能にするかを指定します。

ON

MVC を読み取り専用にします。

OFF

MVCを書き込み可能にします。

LOST

オプションで、MVC の「ロスト」ステータスを設定します。

ON

MVC ロストステータスに設定されます。

OFF

MVCのロストステータスを解除します。

ERROR

オプションで、MVC のエラーステータスを設定します。

ON

MVC はエラーステータスになります。

OFF

MVCのエラーステータスを解除します。

EJECT

オプションで、MVC の「論理イジェクト」ステータスを設定します。

ON

MVC は「論理的にイジェクト」されます。

OFF

MVC は「論理的にイジェクト」されません。

RETIRED

オプションで、MVC の「耐用期限切れ」ステータスを設定します。

ON

MVCは「耐用期限切れ」ステータスに設定されます。

OFF

MVC は「期限切れ」になりませんが、「保障期限切れ」ステータス (出力選択可能) のままです。

WARRANTY

オプションで、MVC の「保障期限切れ」ステータスを設定します。

ON

MVCは「保障期限切れ」ステータスに設定されます。

OFF

MVCの「保障期限切れ」ステータスを解除します。

注 – WARRANTY と RETIRED は、いずれか一方しか指定できません。

INVLDMIR

オプションで、MVCの無効MIRステータスを設定します。

ON

MIR 無効MIRステータスに設定されます。

OFF

MVCの無効MIRステータスを解除します。

REPLACED

オプションで、MVC を物理的に更新した後、MVC レコード内のさまざまな MVC フィールドを更新します。

NONE

MVC レコードは更新されません。

MEDIA

次の MVC フィールドが更新されます。

- MVC メディアタイプがクリアされる
- マウント回数が 0 に設定される
- 保障期限切れフラグがオフになる
- 無効 MIR フラグがオフになる
- 耐用期限切れフラグがオフになる
- 破損 / エラーフラグがオフになる
- ロストフラグがオフになる
- データチェックフラグがオフになる
- VTSS の最新書き込み担当者がクリアされる
- MVC の最新書き込み日 / 時刻がクリアされる
- ストレージクラスがクリアされる
- 最新ドレイン / リクレイム日 / 時刻がクリアされる
- 空の状態からマイグレーションした日 / 時刻がクリアされる
- MVC の最新マウント日 / 時刻がクリアされる

注 –

- このパラメータを指定する場合は、MVC が空 (何も含まれていない) で、マウントされていない状態でなければなりません。
 - REPLACED は、LOST、ERROR と一緒には指定できません。EJECT、RETIRED、WARRANTY、および INVLDMIR パラメータと相互に排他的です。
-

RENVTSS

オプションで、所有 VTSS の名前を *vtss-name* に設定します。

vtss-name

新しい VTSS の名前。構成内に存在する VTSS の名前ではなければなりません。

注 – RENVTSS を指定するには、MVCMAINT を実行しているホストから所有 VTSS にアクセスできなければなりません。

そのほかの JCL 必要条件

661 ページの「[SLUADMIN の定義文](#)」に記載されている必要な JCL 定義ステートメントに加え、MVCMAINT JCL には次の定義文が適用されます。

manifest file DD

マニフェストファイルのDD文です。

注 –

- MVCMAINT を実行している LPAR 上の HSC/VTCS が CDS を使用している場合は、MVCMAINT JCL で、更新対象の CDS を指定できます。この文を指定する場合は、MVCMAINT JCL で指定した CDS データセットと HSC/VTCS が使用している CDS データセットが一致していなければなりません。
 - MVCMAINT がバッチ専用モードで実行されている場合 (CDS を使用しているアクティブなホストが (LPAR 上に) ない場合など) は、MVCMAINT JCL で更新対象の CDS を指定する必要があります。
-

リターンコード

表 3-13 MVCMAINT のリターンコード

リターンコード	説明
0	MVC に要求された更新がすべて正常に完了しました。
4	MVC に要求された更新が 1 つ失敗し、ほかの 1 つ以上の更新要求が正常に完了しました。
8	MVC に要求された更新がすべて失敗しました。

注 - MVCMAINT ジョブの**最終**戻りコードは、更新される単独の MVC で生成される**最大**の戻りコードとなります。たとえば、5 つの MVC でリターンコード 0 が生成され、1 つの MVC でリターンコード 8 が生成される場合、最終リターンコードは 8 になります。

MVCMAINT レポート

図 3-150 に、次のコマンドに対するMVCMAINTレポートの例を示します。

```
MVCMAINT MVC(022577-022579) READONLY=OFF
```

```

SLUADMIN (7.0.0)                               StorageTek Enterprise Library Software Utility           PAGE 00001
TIME 09:26:54                                MVC MAINTENANCE                                           DATE 31.03.10

MVCMAINT SUMMARY REPORT
MVC      RC
022577   00
022578   08
022578   08

MVCMAINT EXCEPTION REPORT
*SLS6737I MVC 022578 ALREADY HAS READONLY(OFF); REQUEST IGNORED
*SLS6737I MVC 022579 ALREADY HAS READONLY(OFF); REQUEST IGNORED
SLS1315I SWS500.V5.CDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET

SLUADMIN (7.0.0)                               StorageTek Enterprise Library Software Utility           PAGE 00002
TIME 09:26:54                                VTCS MVC SUMMARY REPORT                                  DATE 31.03.10

MVC      NUMBER  %USED  %AVAIL  %FRAG  MEDIA  TIMES  STATUS  <-----LAST MOUNTED----->  A  OWNER/
                                                C
                                                S
VOLSER   OF  VTVS          SIZE  MOUNTED  I B L D R U T  DATE    TIME    VTSS  I  CONSOLIDA
      (MB)                                     M
022577   0          0.00  99.96  0.04   400    142    I - - - - C - 2008MAY14  06:23:2  0  2008MAY14
      -                                     -                                     3          0  06:09:23
022578   0          0.00  99.96  0.04   400    197    I - - - - U - 2008MAY14  06:23:2  0  VTSS16
      -                                     -                                     3          0  VTSS16
022579   0          0.00  99.96  0.04   400    142    I - - - - U - 2008MAY14  16:23:2  0  2008MAY14
      -                                     -                                     3          0  16:09:23

3          INITIALIZED MVCS PROCESSED
0          NON-INITIALIZED MVCS PROCESSED
0          NON-LIBRARY MVCS PROCESSED

```

図 3-150 MVCMAINT レポートの例

図 3-150 に示すように、MVCMAINTレポートは次を示します。

- 処理対象MVCの状態。VOLSERおよびリターンコード(0 - すべての更新が完了、4 - いくつかの更新が完了、8 - 完了した更新は無し)。
- 完了していないすべての更新についての異常終了理由レポート
- MVC 概要レポート。

MVCPLRPT

MVCPLRPT コマンドは、Named MVCプールまたはMVCストレージクラスの状況レポートを作成します。

インタフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

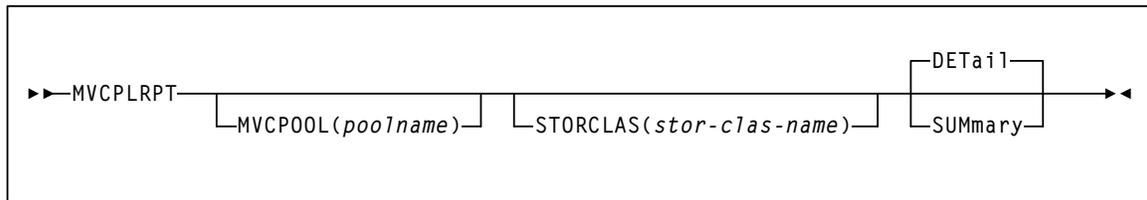


図 3-151 MVCPLRPT構文

パラメータ

MVCPOOL

オプションで、指定したNamed MVCプールのMVCのレポートを生成します。

poolname

MVCPool 制御文で定義した MVC プールの名前。詳細については、『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。

すべてのNamed MVCプール(DEFAULTPOOLも含む)のレポートを生成するには、ALLを指定するか、MVCPOOLパラメータを省略します。

STORCLAS

オプションで、指定したストレージクラスのMVCのレポートを生成します。

stor-class-name

STORclas 制御文で定義したストレージクラスの名前。詳細については、[434 ページの「STORclas 制御文」](#)を参照してください。以前存在したストレージクラスでメディアがまだ割り振られているストレージクラスを指定することもできます。

すべてのストレージクラスをレポートするには、ALL を指定するか、STORCLAS パラメータ値を省略します。

STORCLAS パラメータを使用して、MVCPOOL からレポートされる MVC をフィルタリングすることができます。たとえば、ストレージクラスが一致する MVC のみがレポートされるように指定できます。STORCLAS パラメータが指定されている場合は、要約数セクションにストレージクラスの合計 (パラメータ値 ALL が指定されているか値が指定されていない場合に検出されたストレージクラス、または MVC が指定した値に一致しているメディアタイプ) が表示されます。

注 – MVCPOOL、STORCLAS、または両方を指定してレポートをフィルタリングできます。

DETail

MVC の詳細情報をレポートします (デフォルト)。

SUMmary

要約数のみをレポートします。

Named MVC プールのレポート

Named MVC プールの要約レポート

図 3-152 および 477 ページの図 3-153は、Named MVCプールCUST1POOLのレポート出力例です。

SLUADMIN (7.0.0)		StorageTek Enterprise Library Software Utility										PAGE 0001	
TIME 09:26:54		VTCS MVC SUMMARY REPORT - MVCPOOL=CUST1POOL										DATE 31.03.10	
MVC	NUMBER	%USED	%AVAIL	%FRAG	MEDIA	TIMES	STATUS	<-----LAST MOUNTED----->			A	OWNER/	
VOLSER	OF VTVS				SIZE (MB)	MOUNTED	I B L D R U T	DATE	TIME	VTSS	I	CONSOLIDATE	
							M				D	TIME	
EVS99	200	10.80	84.57	4.63	2000	310	I - - - - U -	2008MAR15	03:20:23	VTSS8	0	S1	
							M				0	0	
EVS100	0	0.00	100.00	0.00	UNKNOWN	206	- - L - - U -	2008MAR10	05:24:04	VTSS8	-	-	
							-				-	-	
EVS101	1009	99.00	0.00	1.00	400	306	I - - - - U -	2008MAR15	03:20:23	VTSS8	0	S1	
							-				0	0	
EVS102	5	8.25	91.75	0.00	400	6	I - - - - U -	2008MAR15	04:23:04	VTSS8	0	S3	
							-				0	0	
EVS103	EXPVTV	0.12	99.88	0.00	400	194	I - - - - J -	2008MAR15	03:20:28	VTSS10	0	VTSS10	
							-				0	0	
EVS104	0	0.00	100.00	0.00	400	5	I - - - - R C -	2008MAR18	03:49:14	VTSS8	0	2008APR12	
							-				0	0	
												03:49:14	
EVS105	200	10.80	84.57	4.63	102040	254	I - - - - R U T	2008MAR18	04110:09	VTSS8	0	0	
							-				0	0	
EVS106	0	0.00	100.00	0.00	400	202	I - - - - C -	2008MAR18	03:49:20	VTSS8	0	0	
							-				0	0	
EVS107	0	0.00	100.00	0.00	400	171	I - - - - R E -	2008MAR18	04:13:00	VTSS8	0	0	
							-				0	0	
SUMMARY FOR MVCPOOL=CUST1POOL													
	ACS	MEDIA											
					FREE-MVCS		RECLAIM-MVCS			USED-MVCS			
					VOLS	GB	VOLS	GB		VOLS	G	B	
	00	ECART			120	96	2	0.5		90	4	5	
	00	STK1R			30	600	1	3.5		25	3	5	
												0	
	00	TOTAL			150	696	3	4.0		115	3	9	
												5	

図 3-152 MVCPLRPTレポートの出力例 (1)

```
SUMMARY OF MVCS BY
USAGE:

137 TOTAL MVCS
PROCESSED

135 INITIALIZED MVCS
PROCESSED

  2 UN-INITIALIZED
MVCS PROCESSE

  41 FREE MVCS
AVAILABLE

  0 MVCS WITH STATUS
AUDIT

  6 MVCS WITH STATUS
DRAIN

  4 MVCS WITH STATUS
EXPORT

  0 MVCS MARKED
EJECTED

 60 MVCS MARKED FULL

  0 MVCS WITH MAXIMUM
VTVS

 82 MVCS MARKED READ-
ONLY

  3 MVCS WITH STATUS
BROKEN

  7 MVCS WITH STATUS
LOST

  0 MVCS MARKED
RETIRED

  0 MVCS WITH EXPIRED
WARRANTY

  0 MVCS HAVE INVALID
MIRS

  1 MVCS HAVE
DATACHECKS

  5 MVCS WITH STATUS
CONSOLIDATE
```

図 3-153 MVCPLRPTレポートの出力例 (2)

フィールド

以下では、Named MVCプールレポートのフィールドについて説明します。要約フィールドには、レポートJCLに指定した内容に応じて、ストレージクラスまたはNamed MVCプールの内容が表示されます。ストレージクラスにNamed MVCプールを指定すると、そのサブプールの情報が戻されます。

MVC Volser

MVCのvolser。

Number of VTVS

MVC上の有効なVTVの数です。MVCをVTVエクスポート用に使用した場合は、このフィールドにEXPVTVと表示されます。

%Used

MVC上で、有効なVTVが占有している部分のパーセンテージです。

%Avail

MVC上で物理的に使用可能な部分のパーセンテージです。

%Frag

MVC上で、無効なVTVスペースが占有している部分のパーセンテージです。無効なVTVスペースが占有している部分は、リクレイム処理が実行されるか、またはMVCがドレインされるまでは使用できません。

Media Size (MB)

MVCのサイズです(MB単位)。この値は、VTCSがMVCを使用した後でのみ判別されます。VTCSによって、MVCへのVTVのマイグレーションが行われるまでは、このフィールドには「UNKNOWN」と表示されます。

Times Mounted

MVCがMVC目録に追加されてから、そのMVCが書き込み、または読み取りのためにマウントされた回数。

STATUS

次の状況のいずれか(または複数)です。

I

このMVCは初期化されています。

B

このMVCには、調査を必要とするエラーがあります。このエラーによってこのMVCが使用不可能になるとは限りませんが、VTCSは「B」のマークを付けてから12時間は、マイグレーションに対してこのMVCを選択しません。12時間が過ぎると、MVCの優先順位は後続のマイグレーションで最下位になり、MVCからのリコールでVTCSがドレインをする可能性があります。このエラー状態が発生すると、メッセージSLS6686、SLS6687、SLS6688、SLS6690またはSLS6693（あるいはこのうちの複数）が発行される場合があります。

次のいずれかの状態になると、このMVCエラーが発生する可能性があります。

- (VTCS/VTSS 以外の) 別のジョブによってMVCが破壊された場合。
- 読み取り専用のMVCをマイグレーション用として使用することを試みた場合。
- DDR スワップの失敗。
- RTD の障害

L

このMVCは直前のマウント要求に対してマウントされませんでした。MVCは、マイグレーションに使用できますが、「L」がマークされてから12時間はMVCを選択することができません。12時間が過ぎると、MVCの優先順位は最下位になります。このエラー状態は、次回MVCがマウントされる時に解消されます。

D

このMVCについてデータチェックが通知されました。以後、VSMはこのMVCをマイグレーションに使用しません。

R

このMVCは読み取り専用指定されています。

U

次の状況のいずれかです。

U

このMVCは出力(マイグレーション、リクレイム、エクスポートまたは統合)に使用できます。

-

このMVCは出力(マイグレーション、リクレイム、エクスポートまたは統合)に使用できません。

A

このMVCに対して現在AUDITが行われているか、またはAUDITが失敗しました。AUDITが失敗した場合は、VTCSはこのMVCをマイグレーションに使用しません。この状態を解消するには、このMVCに対してAUDITを再実行します。

C

このMVCは統合MVCです。

E

このMVCはエクスポートMVCです。

F

MVCで使用可能なスペースがありません。

J

このMVCに対してMVCDRain Ejectが発行されたか、またはこのMVCはRACROUTE呼び出しにより更新のためイジェクトされました。マイグレーションまたはリコールにこのMVCを再使用することはできません。この状態を解消するには、このMVCに対してEjectオプションを指定せずにMVCDRainを実行します。

N

次のいずれかです。

- 自動ドレイン、強制リクレイム、または明示的なMVCDRainコマンドによって、MVCがドレインされます。

もしくは

- 以前のDRAIN要求が失敗した場合、VTCSはマイグレーションにMVCを使用しなくなります。この状態を解消するには、このMVCに対してEjectオプションを指定せずにMVCDRainを実行します。

X

このMVCはMVCの最大VTV数に達しています。

T

次の状態のいずれかです。

T

耐用期限切れステータス。

W

MVC保障期限切れステータス。

M

無効MIRステータス。

Last Mounted

MVCが最後にマウントされた日付と時刻、およびこのMVCが最後に使用されたVTSSです。

ACS ID

このMVCが存在しているACSです。

Owner/Consolidate Time

MVCが空の場合、このフィールドは **null** です。MVCが統合MVCである場合は、このフィールドに統合の時刻が表示されます。MVCがマイグレーションMVCであり、最新のVTVを含んでいる場合は、このフィールドにMVCのストレージクラスが表示されます。MGMTclas 文によって明示的にストレージクラスが割り当てられていない場合、リクレイムまたはマイグレーションで最後にこのMVCに書き込みを行った、VTSSの名前がデフォルトのストレージクラスになります。

不正なマネージメントクラスに割り当てられたVTVをマイグレーションする要求をVTCSが受け取った場合、VTCSは動的に!ERRORストレージクラスを作成し、不正なマネージメントクラスで定義されたVTVを!ERRORストレージクラスにマイグレーションします。このストレージクラスを使用して、無効なマネージメントクラスの特定期間および訂正を行い、影響を受けたMVCをDRAINしてから、マイグレーション要求を再度依頼してください。

ストレージクラスまたはNamed MVCプールの概要

ここでは、次の条件を満たしたMVCの数(Vols)とACSごとの総ストレージ(Gb)とメディアタイプが表示されます。

Free-MVCs

100%使用可能なスペースを持ち、マイグレーションされたVTVを含まないMVC。表示されるストレージは、メディアタイプの容量に基づいて算出された空き領域の総容量です。

Reclaim-MVCs

スペースリクレイムの対象となるMVC。表示されたストレージは、使用されているスペースの総容量です。この容量には、スペースリクレイムの対象になっていないMVCも含まれます。

Used-MVCs

部分的、または完全にフルになっている初期化されたMVC。

Total MVCs

ストレージクラスまたはNamed MVC PoolのMVCの総数。初期化済み、未初期化、空きMVCの小計も表示されます。

Summary of MVCs by Usage

MVCを使用したタスク別のMVCの数。

MVCRPt

MVCRPt コマンドは、VSM システムの MVC の状態に関するレポートを作成します。

インタフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

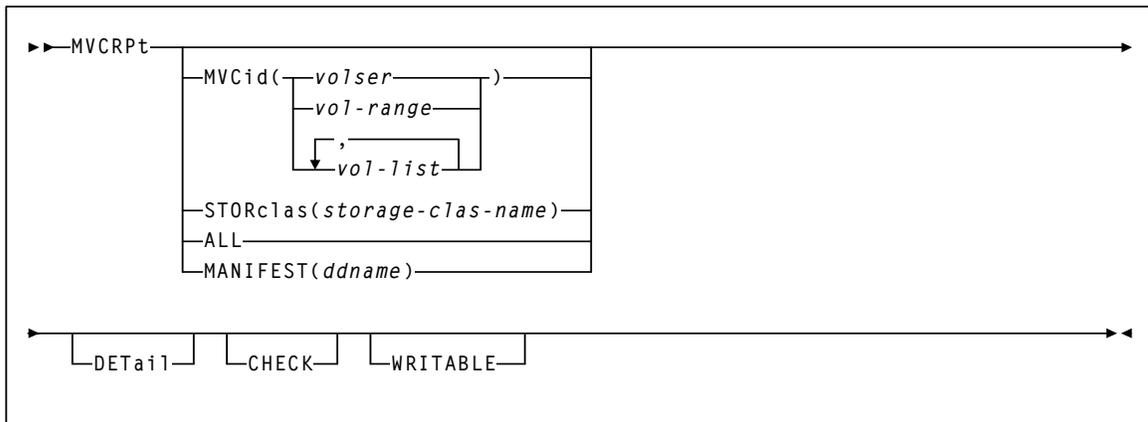


図 3-154 MVCRPt の構文

パラメータ

MVCid

オプションで、レポートの対象とする MVC を指定します。MVC を指定しないと、VSM システム内のすべての MVC がレポートの対象となります。

volser、***vol-range*** または ***vol-list***

1つまたは複数の MVC の VOLSER です。

STORclas

オプションで、レポートの対象となる MVC を含むストレージクラスを指定します。

stor-clas-name

1 - 8 文字のストレージクラス名です。

注 - STORclas は、MVCid、ALL、および MANIFEST と一緒に使用することはできません。

ALL

オプションで、すべての MVC に対してレポートを生成します。

MANIFEST

レポートを生成するのに使われるmanifestファイルの入力DD名を指定します。

ddname

マニフェストファイルのDD名です。**注:** マージされたマニフェストファイルまたは複数のマニフェストファイルを指定できます。

DETail

オプションで、詳細なMVCレポートを作成します。詳細レポートの例については、[489 ページの図 3-156](#)を参照してください。このオプションを指定しないと、デフォルトとしてMVCレポートの要約が作成されます。要約の例については、[484 ページの図 3-155](#)を参照してください。

CHECK

オプションで、MVCRPt は、CDSの予約中、MVCの整合性チェックを限定的に行います。オラクルソフトウェアサポートが指示した場合のみ本パラメータを使用してください。

WRITABLE

オプションで、CHECK パラメータを指定すると、MVCRPtは、MVC詳細レポート出力において読み取り専用MVCを無視します。

MVC レポート

以下にMVC RPTユーティリティーが生成するMVCの概要および詳細情報について記述します。

MVC 概要レポート

次の図に、MVC 概要レポートの例を示します。

SLUADMIN (7.0.0)		StorageTek Enterprise Library Software Utility										Page 0001							
TIME 03:17:54		VTCS MVC Summary Report										Date 2010-03-31							
MVC	Number				Size	Mount	<----Status---->					<-----Last Mounted----->							
Volser	VTVs	%Used	%Avail	%Frag	(GB)	Count	I	B	L	D	R	U	T	M	Date	Time	VTSS	ACSID	Owner/ Consolidate Time
M00001	0	0.00	100.00	0.00	20.0	1	I	-	-	-	-	U	W	-	2005Feb04	09:14:23	VTSS8	00	S1
M00002	1	0.48	99.52	0.00	20.0	4	I	-	-	-	R	U	T	-	2005Mar08	10:11:04	VTSS8	00	S1

図 3-155 MVC 要約レポートの例

フィールド

MVC Volser

MVCのvolser。

Number of VTVS

MVC上の有効なVTVの数です。MVCをVTVエクスポート用に使用した場合は、このフィールドに**EXPVTV**と表示されます。

%Used

MVC上で、有効なVTVが占有している部分のパーセンテージです。

%Avail

MVC上で物理的に使用可能な部分のパーセンテージです。

%Frag

MVC上で、無効なVTVスペースが占有している部分のパーセンテージです。無効なVTVスペースが占有している部分は、リクレイム処理が実行されるか、またはMVCがドレインされるまでは使用できません。

Size (GB)

MVCのサイズです (G バイト単位)。この値は、VTCSがMVCを使用した後でのみ判別されます。VTCSによって、MVCへのVTVのマイグレーションが行われるまでは、このフィールドには「UNKNOWN」と表示されます。

Mount Count

MVCがMVC目録に追加されてから、そのMVCが書き込み、または読み取りのためにマウントされた回数。

STATUS

次の状況のいずれか(または複数)です。

I

このMVCは初期化されています。

B

これはMVC、ドライブ、またはその組み合わせに問題があることを示す一般的なエラーステータスです。VTCSはこの状態のMVCを優先しません。このステータスをクリアするには、

MVCが問題を起こした場合は、DRAIN(EJECT) コマンドを使用してサービスからMVCを除去してください。

RTDが問題を起こした場合は、MVCMAINT ユーティリティーを使用してMVCステータスをリセットします。

BROKEN ステータスで注意が必要なのは、SLS6686、SLS6687、SLS6688、SLS6690 のメッセージが1つ以上発行されている場合です。これらのメッセージの詳細な回復手順については、『VTCS メッセージおよびコード』を参照してください。

L

VTCSはMVCのマウントを試行しましたが、15分のタイムアウト時間内にマウントが完了しませんでした。VTCSは、ハードウェア障害、HSC 障害、またはMVCがACSから除去されたことによって発生する本状況からの回復を試みます。VTCSはこの状態のMVCを優先しません。

LOST(ON)ステータスにあるMVCの後続マウントを正常に実行した場合、VTCSはステータスをLOST(OFF)に設定します。

エラーの原因を特定し、解決してください。次の場合については、VTCSのMVCMAINT ユーティリティーを使用してLOST(OFF)に設定することもできます。

LOST(ON) ステータスがすでに解決済みのLSM 障害またはドライブエラーによって設定されていた場合

LOST(ON) ステータスが、MVCがACS外にあったために設定され、そのMVCがすでに再入力済みの場合

D

データチェック状態がこのMVCに対して報告されています。VTCSはこの状態のMVCを優先しません。このステータスをクリアするには、

MVC上のすべてのVTVが二重化されている場合、イジェクトオプションなしでMVCのMVCDRAINを使用します。これによりすべてのVTVが回復され、サービスからMVCが除去されます。

MVC上に二重化されていないVTVが存在する場合、MVCに対してVTCS AUDITを行います。AUDITは失敗する可能性があります。AUDITの終了後、MVCDRAINを行います(イジェクトなしで)。これによりデータチェック域の前のVTVはブロックIDの昇順にリコールされ、データチェック域のあとのVTVはブロックIDの降順にリコールされます。この流れでVTVを処理することで、メディアからできるだけ多くのVTVを回復します。MVC上に残っているVTVについては、データを再生成する必要があります。

R

MVC は次の要件のいずれかにより読み取り専用とマークされています。

MVC は現在処理中のエクスポートまたは統合処理の対象です。読み取り専用状態により MVC は更新処理に対して保護されています。

MVC メディアにファイル保護が設定されます。エラーを修正し、MVCMAINT ユーティリティーを使用して READONLY(OFF) を設定します。

VTCS が MVC の更新を可能とする適切な SAF ルールが MVC には設定されていません。エラーを修正し、MVCMAINT ユーティリティーを使用して READONLY(OFF) を設定します。HSC、SMC、および VTCS のセキュリティサブシステムユーザー ID を定義する方法については、『ELS のインストール』を参照してください。

U

次の状況のいずれかです。

U

この MVC は出力 (マイグレーション、リクレイム、エクスポートまたは統合) に使用できます。

-

この MVC は出力 (マイグレーション、リクレイム、エクスポートまたは統合) に使用できません。

A

この MVC に対して現在 AUDIT が行われているか、または AUDIT が失敗しました。AUDIT が失敗した場合は、VTCS はこの MVC をマイグレーションに使用しません。この状態を解消するには、この MVC に対して AUDIT を再実行します。

C

この MVC は統合 MVC です。

E

この MVC はエクスポート MVC です。

F

MVC で使用可能なスペースがありません。

J

この MVC に対して MVCDRain Eject が発行されたか、またはこの MVC は RACROUTE 呼び出しにより更新のためイジェクトされました。マイグレーションまたはリコールにこの MVC を再使用することはできません。この状態を解消するには、この MVC に対して Eject オプションを指定せずに MVCDRain を実行します。

N

次の理由により MVC がドレインされました。

- 自動ドレイン、強制リクレイム、または明示的な MVCDRain コマンド。
もしくは
- 以前の DRAIN 要求が失敗した場合、VTCS はマイグレーションに MVC を使用しなくなります。この状態を解消するには、この MVC に対して Eject オプションを指定せずに MVCDRain を実行します。

X

このMVCはMVCの最大VTV数に達しています。

T

次の状態のいずれかです。

T

耐用期限切れステータス。VTCSはこのMVCからのリコールを行います、このMVCへのマイグレーションは行いません。早急にMVCを置換してください。

W

MVC保障期限切れステータス。VTCSはMVCの使用を継続します。MVCが耐用期限切れステータスになった時点で置換ができるように計画してください。

M

VTCSが9x40メディアのMIR(メディア情報レコード)が無効であることを示すステータスをRTDから受信しました。MIRが無効であることによってデータへのアクセスが妨げられることはありませんが、テープ上のレコードへのアクセス時に重大なパフォーマンス上の問題を発生させる可能性があります。有効なMIRエントリを持たないテープ上のエリアに対しては、MVCの高速検索ができなくなります。

VTCSはこの状態のMVCを優先しません。リコール時において、VTVが複数のMVC上に存在する場合、VTCSは、無効なMIRを持つMVCよりも有効なMIRを持つMVCを優先的に選択します。VTCSは、マイグレーションがテープ先頭から開始される場合を除き、無効なMIRを持つMVCをマイグレーションに使用しません。テープ先頭からマイグレーションが行われた場合、MIRは修正されます。

VTCSは、無効MIR条件をマウントまたはマウント解除時に検出します。無効MIR条件がマウント時に検出され、別のMVCを使用して操作を完了可能な場合、VTCSは最初のMVCをマウント解除し、代替MVCを選択します。VTCSによる代替MVCへの切り替え機能は限定されたものであることについて**注意が必要です**。つまり、代替MVCへの切り替え機能が使用されるのは、主にマイグレーションおよび仮想マウント時です。

無効なMIRを持つMVCについては、エラーの原因 - メディアまたはドライブの障害によって発生している可能性があります - を特定し、解決してください。

無効なMIRを持つMVCを回復するには、MVCをテープの最後まで読む必要があります。これはVTCSAUDITによって行うことができます。メディアに問題がある場合、MVCDRAIN EJECTを実行し、VTVをリコールするとともにMVCをMVCプールから除去してください。

Last Mounted

MVCが最後にマウントされた日付と時刻、およびこのMVCが最後に使用されたVTSSです。

ACS ID

このMVCが存在しているACSです。

Owner/Consolidate Time

MVCが空の場合、このフィールドはnullです。MVCが統合MVCである場合は、このフィールドに統合の時刻が表示されます。MVCがマイグレーションMVCであり、最新のVTVを含んでいる場合は、このフィールドにMVCのストレージクラスが表示

されます。MGMTclas 文によって明示的にストレージクラスが割り当てられていない場合、リクレイムまたはマイグレーションで最後にこのMVCに書き込みを行った、VTSSの名前がデフォルトのストレージクラスになります。

不正なマネージメントクラスに割り当てられたVTVをマイグレーションする要求をVTCSが受け取った場合、VTCSは動的に!ERRORストレージクラスを作成し、不正なマネージメントクラスで定義されたVTVを!ERRORストレージクラスにマイグレーションします。このストレージクラスを使用して、無効なマネージメントクラスの特
定および訂正を行い、影響を受けたMVCをDRAINしてから、マイグレーション要求を再度依頼してください。

MVC 詳細レポート

MVC詳細レポートは、MVC 概要レポートのすべてのフィールドと追加フィールドからなります。追加フィールドは、概要レポートとは別のセクションに記述されます。図 3-156 には、MVC 詳細レポートの追加フィールドの例を示します。

SLUADMIN (7.0.0)		StorageTek Enterprise Library Software Utility				PAGE 0003
TIME 11:28:30		MVC EVS102 DETAIL REPORT				DATE 2010-03-31
VTV VOLSER	SIZE (MB)	BLOCK ID	MANAGEMENT CLASS	MIGRATION DATE	BLOCK COUNT	MESSAGE
X20041	76.00	00000000	M5	2008JAN08	10	
X20043	76.00	134009C 7	M5		9	
X20044	76.00	2A40138 D	M5	2008JAN08	9	
X20045	76.00	C6401D5 3	M3		10	
X20047	76.00	A540271 9	M3		10	
5 VTVS FOUND FOR MVC EVS102						
WARNING VTV COUNT 5 DOES NOT MATCH MVC SUMMARY RECORD VTV COUNT 22 FOR MVC EVS102						

図 3-156 MVC詳細レポートの例(追加フィールド)

MVC詳細レポートの追加フィールド

以下に、MVC詳細レポートの追加フィールドについて説明します。

VTV VOLSER

MVC上のVTVのVOLSERです。

Size (MB)

VTV の非圧縮サイズ (M バイト)。

Block ID

MVC上のVTVの開始位置の論理ブロックID。

Management Class

VTVのマネージメントクラス。

Migration Date

6.0システムまたはそれ以上のみによって実行されたマイグレーションで、VTVのコピーがマイグレーションされたおおよその日付。この日付はVTV作成からの日数としてCDSに記録され、タイムゾーン調整が日をずらした可能性があるため、おおよそのものです。

Block Count

VTVがMVCに占めるデータブロックの10進数値。

MESSAGE

MVCの整合性チェックの結果が表示されます。MVC の AUDIT 中、または MVC レポートの実行中に AUDIT に失敗した場合に表示されるメッセージを除き、以下に記載されていないメッセージが表示された場合は、Oracle まで報告してください。CDS に重大な問題が発生している可能性があります。AUDIT 中の MVC が検出された場合、MVC レポートには 4 以上の戻り値が戻されます。AUDIT 中はレポートされないエラーもあります。

nnnn empty space to previous

通知メッセージは MVC 上のこの VTV の前に空きスペースの *nnnn* (10 進数) ブロックがあることを示しています。

Migrated size was not as expected

説明 MVC *m* 上の VTV *v* の出力の場合、MVC *m* にマイグレーションされた VTV *v* の (圧縮後の) サイズが、CDS に記録されている VTV *v* の (圧縮後の) サイズと異なることを示しています。

以前 VTV *v* がリコールされた際にエラーが生じた場合は、サイズが異なるのが普通です。それ以外の場合は、エラーの可能性もあります。Oracleソフトウェアサポートまでお知らせください。

OFFload

OFFload コマンドを使用すると、特定のホスト上の一方または両方のジャーナル、または HSC トランザクションロギングサービスで使用されるアクティブなログファイルからトランザクション記録をオフロードできます。

このコマンドには、次の表に一覧されているオプションを指定できます。各オプションの詳細な説明は、次ページ以降を参照してください。

表 3-14 OFFload オプション

オプション	実行される操作:
JOURnal	特定のホスト上の一方または両方のジャーナルをオフロードします。このオプションの詳細については、『 <i>ELS Legacy Interfaces Reference</i> 』を参照してください。
LOGFILE	HSC トランザクションロギングサービスで使用されるアクティブなログファイルからトランザクション記録をオフロードします。

OFFload LOGFILE

OFFload LOGFILE コマンドは、HSC トランザクションロギングサービスで使用されるアクティブなログファイルからトランザクション記録をオフロードし、連続したデータセットに保存します。これにより、ログファイルのスペースを再利用できるようになります。

ロギングがアクティブな場合は、OFFload LOGFILE ユーティリティーを実行して、ログファイル名を変更する**必要があります**。

注 – レガシージャーナリング処理での OFFload の使用方法については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

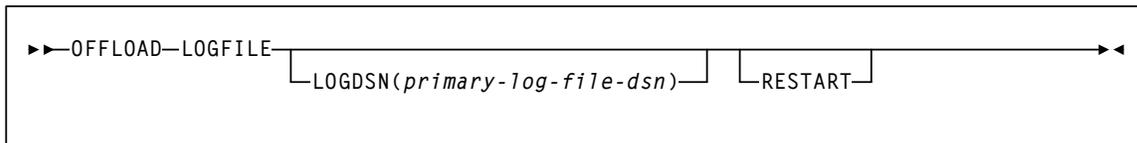


図 3-157 OFFload LOGFILE の構文

パラメータ

通常、OFFload LOGFILE は、パラメータを指定せずに実行します。CDS の記録に基づいて、アクティブなログデータセットから入力ログデータセットが選択されます。

LOGDSN

オプションで、CDS を使用/更新せずに、ログファイルをオフロードします。CDS が復元されている場合は、必ずこのパラメータを使用します。使用しない場合は、信頼性がないとみなされます。

primary-log-file-dsn

ログファイルのデータセット名。

例: OFFLOAD LOGFILE LOGDSN(hsc.log1)。

注 – CDS を復元した後、LOGDSN オプションを指定せずに OFFLOAD LOGFILE ユーティリティーを実行しようとする、オフロードに失敗するか、またはログオフロードファイルにエラーが生じる場合があります。

RESTART

オプションで、失敗したオフロードの開始時にアクティブだったログデータセットのグループから入力ログファイルを選択して、オフロードを再開します。失敗したオフロードで使用されていたブロック番号の範囲が使用されます。

このパラメータを指定して、失敗したオフロードによってログデータセットが切り替えられた時点で非アクティブだったログデータセットから記録を回復します。

その他の JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、OFFload LOGFILE JCL には次の定義文が適用されます。

SLSOFFLD

出力データセットを指定します。

このデータセットには DCB を指定しないことをお勧めしています。DCB を指定すると、RECFM と LRECL が無視されます。

OPTION TITLE 制御文

OPTION TITLE 制御文で、定義データセットを識別する文字列を指定します。識別用の文字列には、定義データセットの内容を示すあらゆる情報を指定できます。この文は、以下と組み合わせて定義データセットに指定できます。

- LMUPDEF
- MGMTDEF
- TREQDEF (SMC)

『*ELS Legacy Interfaces Reference*』に記載されている古い HSC コマンドを使って指定することもできます。

- MVCDEF
- SCRPDEF
- VOLDEF

OPTION TITLE 文は、定義データセット内に指定する**必要があります**。オペレータコマンドとして発行することは**できません**。定義データセット内に複数の OPTion 文が指定されている場合は、最後に検出された OPTion 文の識別文字列のみが保持されます。

構文

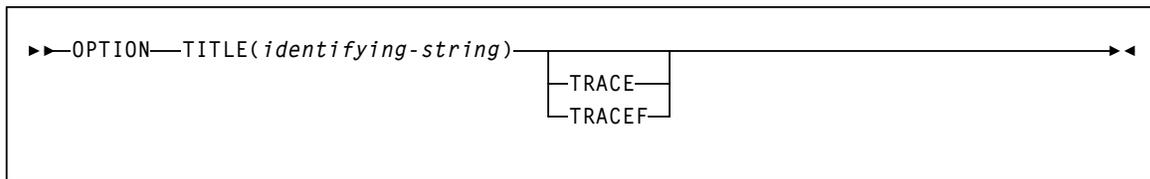


図 3-158 OPTION TITLE の構文

パラメータ

OPTION TITLE

定義データセットの識別文字列を指定します。この文を省略すると、定義データセットには識別文字列が関連付けられなくなります。

identifying-string

識別文字列です。識別文字列には最大 50 文字を使用できます。識別文字列に 1 つまたは複数のスペース、英数字以外の文字、国別文字 (i.e., \$、@、#) が含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。

TRACE または TRACEF

オプションで、HSC 表索引の内部追跡を制御するために使用します。障害のトラブルシューティングの際、ソフトウェアサポートから、これらのパラメータのいずれかを指定していただくようお願いすることがあります。

OPTion

OPTion コマンドで、一般 HSC オプションを設定または変更します。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

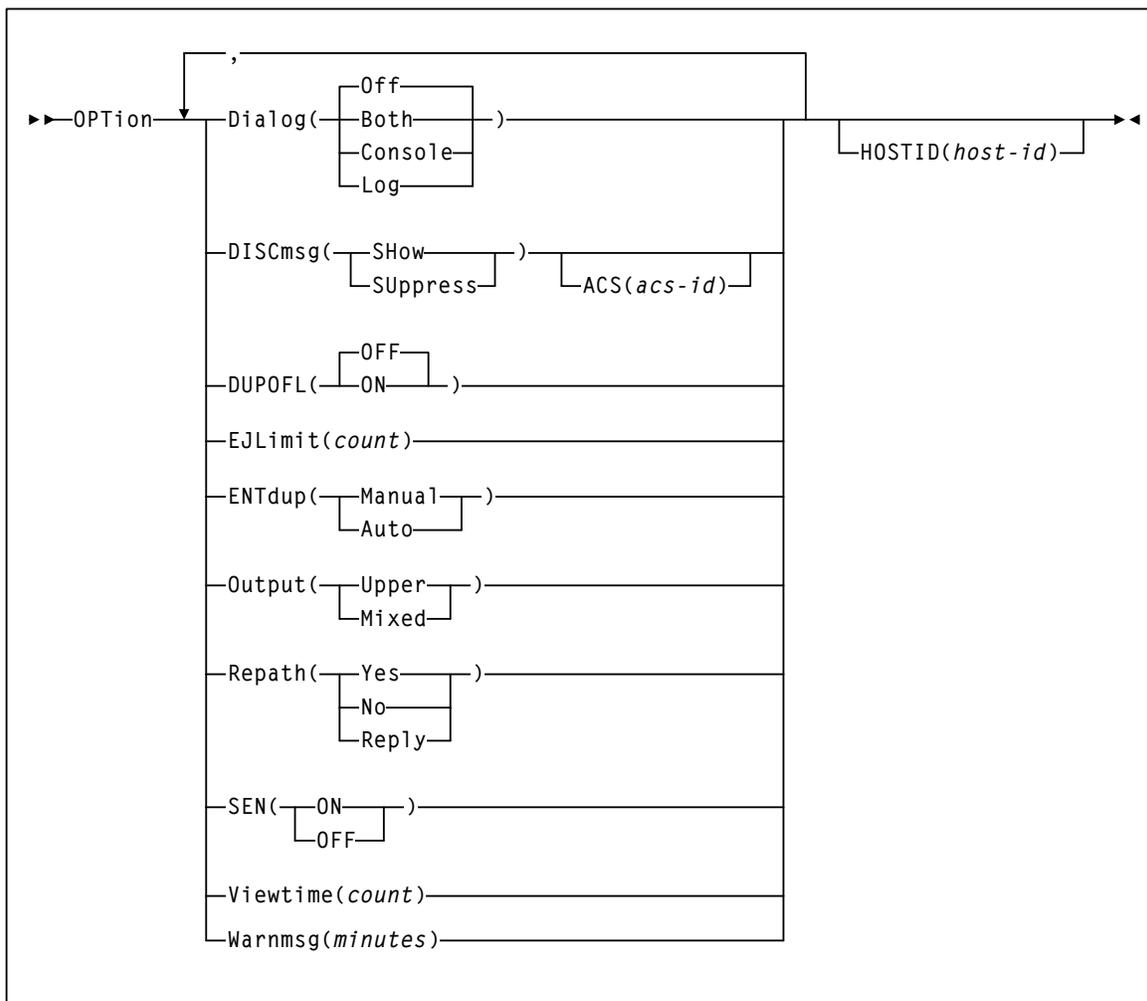


図 3-159 OPTion の構文

パラメータ

Dialog

HSC メッセージをオペレータコンソールまたはシステムログ (あるいはその両方) に書き込めるようにします。これらのメッセージは、HSC の終了前にアクティブなタスクが完了するのを HSC が待機していることを示しています。初期 Dialog の値は、HSC の起動時に EXEC 文によって設定されます。

Off

メッセージが書き込まれないように指定します。Off は、Dialog パラメータを EXEC 文で指定していない場合の HSC のデフォルト値です。

Both

メッセージがシステムログおよびオペレータコンソールに書き込まれるように指定します。

Console

メッセージがオペレータコンソールのみ書き込まれるように指定します。

Log

メッセージがシステムログのみに書き込まれるように指定します。

DISCmsg

指定した ACS に「ACS *acs-id* is disconnected」メッセージ (SLS1664A) を表示させるかどうかを指定します。

このオプションは、将来の拡張のために ACS が LIBGEN にあらかじめ追加されている場合に便利です。DISCmsg を使用してこれらの ACS にメッセージを表示させないようにすることができ、拡張されるまでこれらの ACS には接続しません。

SHow

ACS で「ACS *acs-id* is disconnected」メッセージ (SLS1664A) を表示します。これは初期値です。

SUppress

ACS で「ACS *acs-id* is disconnected」メッセージ (SLS1664A) を表示しません。

ACS

任意指定で、このコマンドを適用する ACS を指定します。ACS を指定しない場合、入力された (Show または Suppress の) DISCmsg 設定は、すべての ACS に適用されます。

acs-id

16進数のASCid値 (00 - FF)。

ACS を指定しない場合は、すべての ASC に適用されます。

DUPOFL

オプションで、CAP に入力された VOLSER が、切断済みの ACS またはオフラインの LSM に存在すると CDS に表示された場合でも、重複 VOLSER 処理の続行を許可します。

OFF

重複 VOLSER 処理を有効にします。これはデフォルトです。

ON

重複 VOLSER 処理を有効にします。

EJLimit

1 つの Eject コマンドで指定できるカートリッジの最大数を示します。

count

限界値です。許容値は、1 から 9999 です。HSC の初期値は 100 です。

ENTdup

入力操作で制御データセットに重複する VOLSER が見つかると ACS 内でそのカートリッジを探し出せない場合、HSC にオペレータの応答を求めさせるかどうかを指定します。

制御データセット内のエントリに重複する VOLSER のカートリッジを挿入しようとする時、HSC は元のカートリッジを探し出そうとします。ENTdup オプションは、カートリッジが次のような状況にあるときに HSC がどのように対応するかを決めるものです。

- カートリッジがホームセル内にはない
- カートリッジが選択されていない
- カートリッジがエラー状態ではない

Auto

HSC に対して制御データセット内のカートリッジを削除し、挿入操作を続けるよう指示します。

Manual

HSC に対して、重複する VOLSER が入力されたときにコンソールメッセージを出すよう指示します。このメッセージは、HSC に制御データセット内のカートリッジを取り除き挿入する操作を続けるか、または重複するカートリッジをイジェクトするかを選択をオペレータに求めるものです。Manual は、HSC での初期値です。

Output

コンソール上に出力メッセージを大文字だけで表示するか、それとも大文字と小文字の組合せで表示するかを指定します。

Upper

大文字を指定します。Upper は HSC の初期値です。

Mixed

大文字と小文字の組合せを指定します。

Repath

イジェクト操作が完了する前に CAP が使用不能となるか、あるいはドレインされた場合における Eject コマンドに対する特定 CAP に関連したボリュームの HSC による処理方法を指定します。

Yes

使用不能となった CAP で処理予定であったボリュームを、同じ Eject コマンドで動作している別の CAP に自動的に関連づけます。Yes は、HSC での初期値です。

No

使用不能となった CAP に関連したボリュームに対して、障害メッセージを生成します。Eject コマンドは、次のボリュームの処理を続行します。

Reply

ボリュームの処理方法を決定するようにオペレータに求めるメッセージを生成します。オペレータは、「Y」または「N」のいずれかで応答する必要があります。

Y

使用不能となった CAP で処理予定であったボリュームを、同じ Eject コマンドで動作している別の CAP に関連づけます。

N

使用不能となった CAP に関連したボリュームに対して、障害メッセージを生成します。Eject コマンドは、次のボリュームの処理を続行します。

SEN

重要イベント通知 (SEN) 機能を使用可能、または使用禁止にします。SEN の詳細については、『*ELS Programming Reference*』を参照してください。

ON

SEN機能を使用可能にします。

OFF

SEN機能を使用禁止にします。

Viewtime

View コマンドが発行されたとき、LSM カメラを 1 つの位置に留めておく時間 (秒単位) で指定します。詳細については、[587 ページの「View」](#)を参照してください。

count

秒数です。count に指定できる値は、5 から 120 までの範囲の 10 進数です。HSC の初期値は 10 秒です。

注 -

- View コマンドを使用すると、ユーザーは1回の監視操作での OPTion Viewtime の設定値を指定変更することができます。
 - View コマンドが出されると SMF レコード (サブタイプ 8) が書き込まれ、ロボットの活動を記録します。
-

Warnmsg

スクラッチ枯渇メッセージの出力間隔を分数で設定します。

minutes

分数です。分の許容値は、1 から 65535 です。初期値は 5 分です。

HOSTID

オプションで、OPTion コマンドに関連付けるホストを識別します。これにより、特定の開始オプションを特定ホストに制限することができます。

このパラメータが指定されていない場合、コマンドオプションは PARMLIB にアクセスする各ホストに適用されます。

host-id

ホスト識別子 (JES2 および JES3 いずれの場合も SMF システム識別子) です。

注 – *hostid* がコマンド実行中のホストに一致しない場合、メッセージが発行され、コマンドは処理されません。

PITCOPY

PITCOPY コマンドはユーティリティー снаップショット機能を使用して、CDS のポイントインタイムコピーを作成します。PITCOPY では、CDS RESERVE を実行して、進行中のあらゆる更新を直列化することによって、CDS バックアップの整合性を保証します。PITCOPY 関数は、プライマリ CDS のみバックアップします。PITCOPY ユーティリティーの使用詳細については、『HSC および VTCS の管理』を参照してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

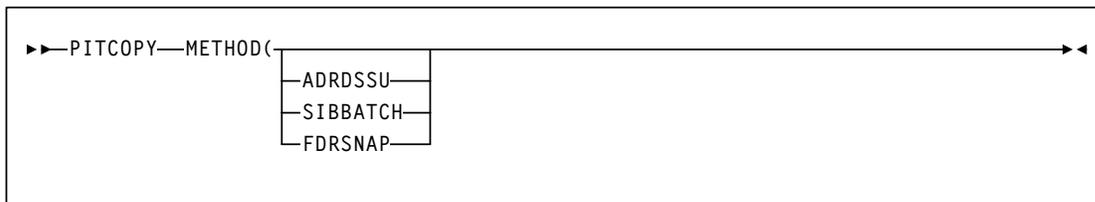


図 3-160 PITCOPY の構文

パラメータ

METHOD

PIT コピーに使用するスナップショットコピーユーティリティーを指定します。

ADRDSSU

DFSMSDss SnapShot / DFSMSDss FlashCopy (ADRDSSU)

SIBBATCH

StorageTek SVAA SnapShot (SIBBATCH) ユーティリティー

FDRSNAP

FDR が呼び出した SnapShot (FDRSNAP) ユーティリティー

そのほかの JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、PITCOPY JCL には次の定義文が適用されます。

SLSPARMP

SLSCNTL として定義された CDS データセットをバックアップするための制御文を含むパラメータファイルを指定します。これは、バックアップが実行される時点でプライマリ CDS データセットではない場合があることに注意してください。

SLSPARMS

SLSCNTL2 として定義された CDS データセットをバックアップするための制御文を含むパラメータファイルを指定します。

SLSPARMB

SLSSTBY として定義された CDS データセットをバックアップするための制御文を含むパラメータファイルを指定します。

SYSIN

PITCOPY 関数によって出力され、スナップショットコピー機能の入力として使用されるファイルを指定します。PITCOPY 関数はプライマリ CDS を判別すると、適切な SLSPARMx ファイルを SYSIN にコピーします。

注 -

- 要求するスナップショットユーティリティによって別の定義文が必要になります。
 - Oracle の StorageTek SVAA SnapShot 機能を使用する場合、DDNAME を指定する INDDNAME オプションではなくデータセット名を指定する SOURCE オプションを使用するか、CDS データセット用の DD 文を常に含めることをお勧めします。動的 CDS 割り振り機能が使用された場合、プライマリ CDS は自動的に SLSCNTL に割り振られます。したがって、たとえば SLSCNTL2 DD をバックアップする SLSPARMS 内の制御文は、プライマリでない CDS コピーをバックアップする結果になります。
-

RECall

RECall コマンドは、VTSS への VTV の強制リコールを実行します。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

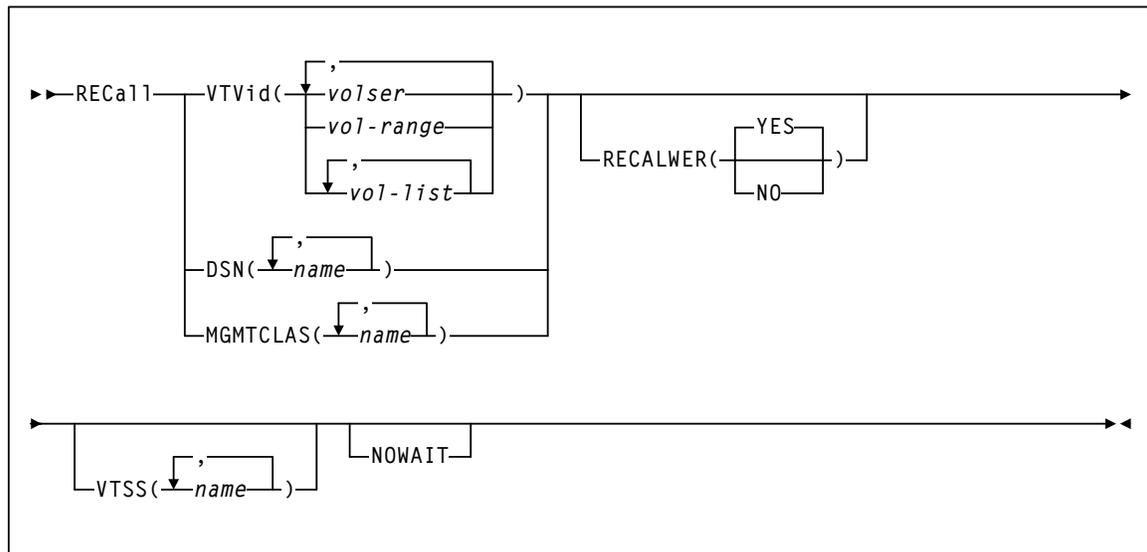


図 3-161 RECall の構文

パラメータ

VTVid

リコールする VTV を指定します。

volser, *vol-range*, または *vol-list*

VTV(1つ以上)のvolserです。範囲 (1つ以上) を指定することもできます。

DSN

リコールする VTV の選択に使用するデータセットを指定します。

name

データセット名です。446 ページの表 3-12 に、データセット名について有効なワイルドカードを示します。

MGMTCLAS

リコールする VTV (1つ以上) を決定するマネージメントクラス(1つ以上)を指定します。

mgmt-class-name | *mgmt-class-list*

MGMTclas制御文で定義したマネージメントクラス(1つ以上)の名前です。詳細については、416 ページの「MGMTclas 制御文」を参照してください。

注 – MGMTCLAS、VTVid と DSN は、いずれか一方しか指定できません。

VTSS

VTVがリコールされる場所を次のように指定します。

- VTSSを指定しない場合 (デフォルト)、VTCSはVTVを作成元のVTSSにリコールします。ただし、このVTSSに十分なスペースがない場合はリコールしません。アクセスができない場合は、VTCS は VTV を最も DBU が低い VTSS にリコールします。
- 単一の VTSS を指定した場合、VTCS は、アクセス可能であれば指定された VTSS への VTV をリコールします。アクセスができない場合は、VTCS は、VTV を最も DBU が低い VTSS にリコールします。
- VTVのリストを指定した場合、VTCS は、アクセス可能であれば作成元のVTSS に VTV をリコールします。アクセスができない場合は、VTCS は、VTV を最も DBU が低い VTSS にリコールします。

vtss-name

1つまたは複数のVTSSの名前。

RECALWER

オプションで、VTCS が 読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールするかどうかを指定します。

YES

読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールします (デフォルト)。

NO

読み取りデータチェックの発生した VTV をリコールしません。

NOWAIT

オプションで、要求の実行依頼後、処理の終了を待たずに制御を戻すように指定します。

RECLaim

RECLaim コマンドは、強制 MVC スペースリクレイムを実行します。このコマンドで、THRESHLD、MAXMVC および CONMVC パラメータの CONFIG RECLaim 設定を無効にすることもできます。

インターフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

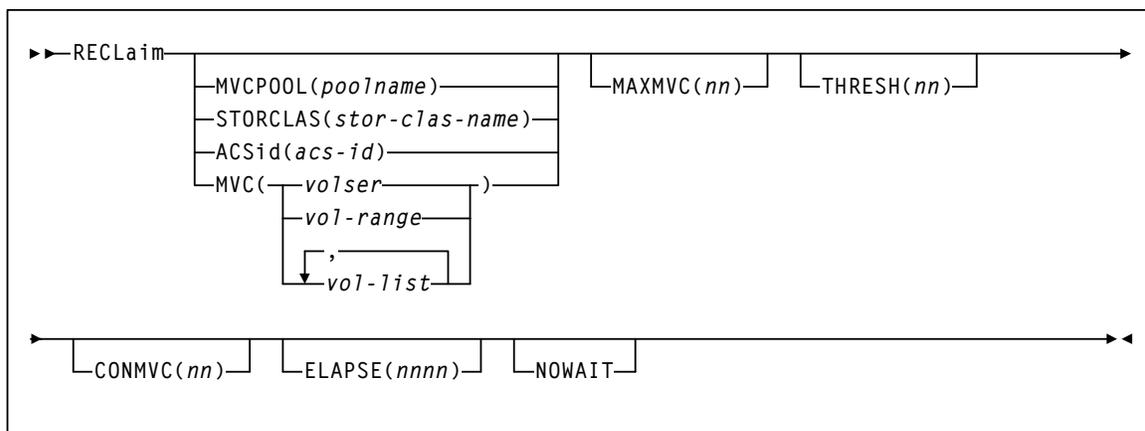


図 3-162 RECLaim の構文

パラメータ

MVCPOOL

指定したNamed MVCプールにMVCをリクレイムします。

poolname

MVCPool 制御文で定義した MVC プールの名前。詳細については、『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。

STORCLAS

指定したストレージクラスをMVCにリクレイムします。

stor-class-name

STORclas 制御文で定義したストレージクラスの名前。詳細については、[434 ページの「STORclas 制御文」](#)を参照してください。

ACSid

指定されたACS内の適格なMVCをリクレイムします。

acs-id

指定された ACS。

MVC

指定されたMVCをリクレイムします。

volser、*vol-range* または *vol-list*

1つまたは複数のMVCの*volser*。リストで個別のMVCと範囲を指定することもできます。次に例を示します。

(MVC000-MVC005,MVC010,MVC015)

MAXMVC(*nn*)

オプションで、1回の領域の再生処理で処理されるMVCの最大数を指定します。有効な値は1-98です。デフォルト値はありません。指定されていない場合は、CONFIG RECLAIM 値 (またはデフォルト) が使用されます。

自動スペースリクレイム処理が開始されるには、適格なMVCの数 (THRESHLDパラメータで決定される) がMAXMVC値を超えている必要があります。

THRESH(*nn*)

オプションで、MVCが自動リクレイムまたは強制リクレイムの対象になるスペースの断片化率を指定します。有効な値は4-98です。これを指定しないと、CONFIG RECLAIM 値 (またはデフォルト) が使用されます。

NOWAIT

オプションで、要求の実行依頼後、処理の終了を待たずに制御を戻すように指定します。

CONMVC(*nn*)

オプションで、VTCSが同時に行うMVCのドレインおよび再生処理の最大数を指定します。

有効な値は1-99です。指定しない場合、デフォルト値はCONMVC 値 (CONFIG RECLAIM 文で指定される) になります。

ELAPSE(*nnnn*)

オプションで、リクレイムの最大時間を分単位で指定します。最大時間を超えると、VTCSはメッセージSLS6682Iを発行します。現在マウントされているMVCがない場合、ELAPSE値になるとリクレイムが停止します。いずれかのMVCが現在マウントされている場合、ELAPSE値になったときにマウントされたMVCのリクレイム処理をし、停止します。

有効な値は1-1440です。指定しない場合は、リクレイムプロセスに時間の制限はありません。

RECONcil

RECONcil コマンドは、VTV メディアと位置を再統合します (VTV をストレージクラス間で移動します)。

注 – RECONCIL を実行するには、拡張管理機能が必要です。使用方法の詳細については [381 ページの「FEATures」](#) を参照してください。

インタフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

RECONcil は、MVC、VTV、STORCLAS および MGMTCLAS 定義に対して、一連の照合確認を実行します。

RECONCIL は次の 2 段階で実行されます。

- 第 1 段階では、VTCS が、確認する MVC とストレージクラスを選択します。MVC がストレージクラス定義と ACS 定義を満たしているかどうか確認されます。不一致が検出された場合は、該当する MVC の VTV がリコール対象の VTV リストに追加され、再マイグレーションによって、VTV の正しい MVC、ACS およびストレージクラスコピーが作成されます。RECONcil パラメータの STORCLAS と MVC で、この段階の確認を制限します。
- 第 2 段階では、VTCS が VTV とマネージメントクラスを選択し、VTV コピーの正しい数と場所を確立します。不一致が検出された VTV は、リコールと再マイグレーション対象の VTV リストに追加されます。RECONcil パラメータの MGMTCLAS と VTV で、この段階の確認を制限します。

構文

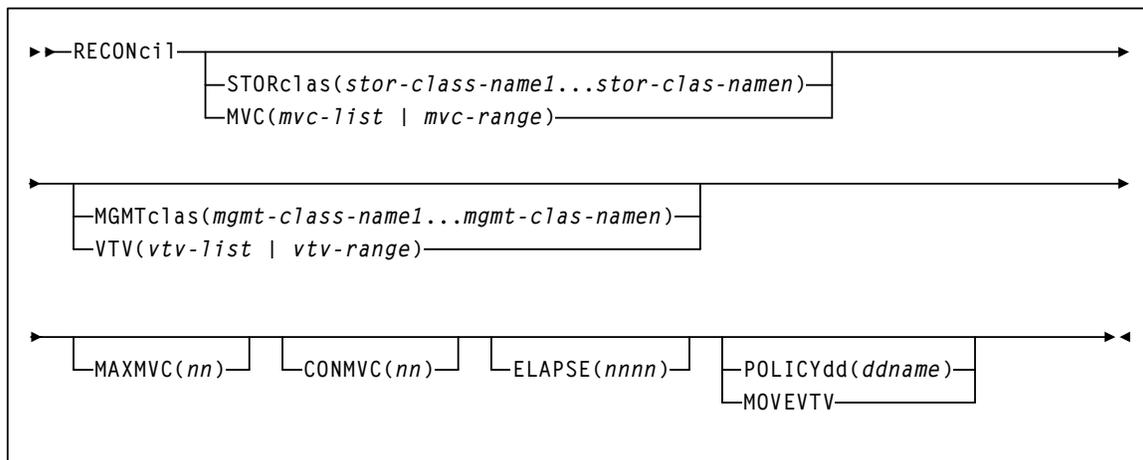


図 3-163 RECONcil の構文

パラメータ

STORclas パラメータと MVC パラメータで、第 1 段階で確認するストレージクラスまたは MVC を指定します。STORclas または MVC が指定されていない場合は、デフォルトですべての MVC が確認されます。

STORclas

オプションで、1 つ以上のストレージクラスを指定します。

stor-class-name1...stor-class-namen

1 つ以上のストレージクラス。

MVC

オプションで、MVC のリストまたは範囲を指定します。

mvc-list | *mvc-range*

MVC のリストまたは範囲。

MGMTclas パラメータと VTV パラメータで、第 2 段階で確認するマネージメントクラスまたは VTV を指定します。If MGMTclas または VTV が指定されていない場合は、デフォルトですべての VTV が確認されます。

MGMTclas

オプションで、1 つ以上のマネージメントクラスを指定します。

mgmt-class-name1...mgmt-class-namen

1 つ以上のマネージメントクラス。

VTV

オプションで、VTV のリストまたは範囲を指定します。

vtv-list | *vtv-range*

VTV のリストまたは範囲。

MAXMVC(*nn*)

オプションで、1 回の再統合タスクで処理される MVC の最大数を指定します。

有効な値は 1 - 98 です。指定しない場合は、CONFIG RECLAIM 値 (またはデフォルト値) が使用されます。MOVEVTV を指定しない場合、このパラメータは無視されません。

CONMVC(*nn*)

オプションで、VTCS が以降のリコールおよびマイグレーション操作の際に、同時に処理する MVC の最大数を指定します。

有効な値は 1 - 99 です。指定しない場合は、CONFIG RECLAIM 値 (またはデフォルト値) が使用されます。MOVEVTV を指定しない場合、このパラメータは無視されません。

ELAPSE(*nnnn*)

オプションで、再統合の最大時間を分単位で指定します。最大時間を超えると、VTCSはメッセージSLS6682Iを発行します。現在マウントされている MVC がない場合、ELAPSE 値になると再統合が停止します。いずれかの MVC が現在マウントされている場合、ELAPSE 値になったときにマウントされた MVC の再統合処理をし、停止します。

有効な値は 1 - 1440 です。指定しない場合は、再統合処理に時間の制限はありません。MOVEVTV を指定しない場合、このパラメータは無視されます。

POLICYdd(*ddname*)

オプションで、代替の MGMTclas 文を含むファイルの *ddname* を指定します。

MOVEVTV

オプションで、VTV に適用される MGMTclas 文で指定された、現在アクティブな管理ポリシーに従い VTV を移動します。MOVEVTV を指定しない場合は、レポートのみ生成されます。

注 - POLICYdd と MOVEVTV はいずれか一方しか指定できません。

RECONcil レポート

RECONcil レポート (MOVEVTV の指定なし)

図 3-156 に、RECONcil レポートの例を示します。

SLUADMIN (7.0.0)		StorageTek Enterprise Library Software Utility										PAGE 0002		
TIME 08:06:35		Reconcile VTV Report										DATE 2010-03-31		
VTV	Size	Comp	<---Creation--->		MGMT	MVC1	MVC2	MVC3	MVC4	Tapeplex	REASON			
Volser	(MB)	%	Date	Time	CLASS									
DX1000	358.4	0	2009Jan18	16:00:00	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1001	358.4	0	2009Jan18	15:59:58	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1008	358.4	0	2009Jan18	15:59:43	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1009	358.4	0	2009Jan18	15:59:41	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1010	358.4	0	2009Jan18	15:59:40	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1011	25.6	0	2009Jan18	15:59:38	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1020	358.4	0	2009Jan18	15:59:19	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1021	358.4	0	2009Jan18	15:59:18	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1024	358.4	0	2009Jan18	15:59:12	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1025	358.4	0	2009Jan18	15:59:10	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1028	358.4	0	2009Jan18	15:59:04	M6					SECNDARY	EEXPORT			
DX1029	358.4	0	2009Jan18	15:59:01	M6					SECNDARY	EEXPORT			
DX1032	358.4	0	2009Jan18	15:58:56	M6					SECNDARY	EEXPORT			
DX1033	358.4	0	2009Jan18	15:58:54	M6					SECNDARY	EEXPORT			
DX1036	358.4	0	2009Jan18	15:58:48	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1037	358.4	0	2009Jan18	15:58:46	M6					SECNDARY	EEXPORT			
DX1050	51.2	0	2009Jan18	15:58:20	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1051	51.2	0	2009Jan18	15:58:17	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1052	51.2	0	2009Jan18	15:58:15	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1053	51.2	0	2009Jan18	15:58:14	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1054	51.2	0	2009Jan18	15:58:12	M5					SECNDARY	EEXPORT			
DX1055	51.2	0	2009Jan18	15:58:10	M6					SECNDARY	EEXPORT			
DX1056	51.2	0	2009Jan18	15:58:08	M6					SECNDARY	EEXPORT			
DX1057	51.2	0	2009Jan18	15:58:06	M6					SECNDARY	EEXPORT			
DX1058	51.2	0	2009Jan18	15:58:04	M6					SECNDARY	EEXPORT			
DX1059	51.2	0	2009Jan18	15:58:02	M6					SECNDARY	EEXPORT			
Total VTVs =			26	Total Size =			5913MB							
SLUADMIN (7.0.0)		StorageTek Enterprise Library Software Utility										PAGE 0003		
TIME 08:06:35		Reconcile Tapeplex Report										DATE 2009-01-19		
Tapeplex	Candidate	VTVs		Total VTV size (MB)										
SECNDARY		26		5913.60										
	DX1000	DX1001	DX1008	DX1009	DX1010	DX1011	DX1020	DX1021	DX1024	DX1025	DX1028	DX1029	DX1032	DX1033
	DX1036	DX1037	DX1050	DX1051	DX1052	DX1053	DX1054	DX1055	DX1056	DX1057	DX1058	DX1059		
Total tapeplexes =		1		Total Size = 5913MB										
SLS0155I Condition code for utility function is 0														

図 3-164 RECONcil レポートのみの出力例

RECONcil レポートのフィールド

以下で RECONcil レポートのフィールドについて説明します。

VTV VOLSER

VTVのvolser。

Size (MB)

VTV の非圧縮サイズ (M バイト)。<MOUNT> は、レポートの実行中に VTV がマウントされたことを示します。<FENCED> は、VTV の状態が不明であることを示します。<FENCED> が表示されている場合は、Oracle StorageTek Software サポートまでご連絡ください。

Comp %

実施された VTV 圧縮のパーセンテージ。これは、非圧縮VTVのサイズと圧縮済み VTVのサイズの差を、非圧縮VTVのサイズに対するパーセンテージで表した値です。例えば、100MB VTVが40MBに圧縮すると、圧縮のパーセンテージは60%です。圧縮 0%は、VTVでの圧縮は不可能だったことを示します。

Creation Date and Time

VTVが生成された日付と時刻

MGMT Class

指定されたVTVのマネージメントクラス名。

MVC1, MVC2, MVC3, MVC4

統合処理の影響を受ける MVC。

Tapeplex

TapePlex 名です。

Reason

VTV 選択の理由で、メディアタイプ、メディアロケーション、マイグレーション (スペースリリース)、即時マイグレーション、またはストレージクラス。

RECONcil Tapeplex Report セクションには、対象となる VTV と合計 VTV サイズ (M バイト) が TapePlex 別に示されます。

MVC レポートのフィールド

以下で RECONcil MVC レポートのフィールドについて説明します。各 MVC のデータに続き、VTV の 1 つ以上の volser が、その MVC 上のコピーとともに表示されます。このレポートセクションに続き、対象の MVC の数、およびリコールとマイグレーションをするサイズ (M バイト) を示す行の全体が表示されます。

MVC Volser

MVC の volser。

MVC Media Type

MVC のタイプ。

Media Size (MB)

MVC のサイズです (MB 単位)。この値は、VTCS が MVC を使用した後でのみ判別されます。VTCS によって、MVC への VTV のマイグレーションが行われるまでは、このフィールドには「UNKNOWN」と表示されます。

Storage Class/Consolidate time

MVC のストレージクラス、またはその VTV が統合された時刻。

Candidate VTVs

MVC 上の対象の VTV の数。

Total VTV Size (MB)

MVC 上のすべての対象 VTV のサイズ (MB)

Location (ACS ID)

この MVC が存在している ACS です。空白の場合、MVC は現在 ACS 内にありません。

MOVEVTV レポート

図 3-165 に、RECONcil レポート (MOVEVTV オプション使用) の例を示します。

```
SLUADMIN (7.0.0)      StorageTek Enterprise Library Software Utility      PAGE 0001
TIME 10:07:10                RECONCILE MOVEVTV REPORT                DATE 2010-03-31

Move VTV - MVC 022705 ignored, MAXMVC reached
Move VTV - VTV X04898 ignored, all MVC copies rejected
Move VTV - 4 MVCs selected for processing
Move VTV - 5 VTVs selected for processing
Move VTV - 5 VTV copies to be processed
Move VTV - 0 VTV copies not matched to request
Move VTV - 1 VTV copies rejected by MAXMVC limit
Move VTVs - MVC 023484 selected and contains 1 VTVs
Move VTVs - MVC 022628 selected and contains 1 VTVs
Move VTVs - MVC 022631 selected and contains 2 VTVs
Move VTVs - MVC 022608 selected and contains 1 VTVs

Recall from MVC 022628 to VTSS HBVTSS17
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 022628
SLS6644I VTV X99909 recalled from MVC:022628 Block:25401431
SLS6637I Recall from MVC 022628 completed

Recall from MVC 023484 to VTSS HBVTSS17
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 023484
SLS6644I VTV X04897 recalled from MVC:023484 Block:02402581
SLS6637I Recall from MVC 023484 completed

Recall from MVC 022608 to VTSS HBVTSS16
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 022608
SLS6637I Recall from MVC 022608 completed

Migrate to storage class HBVTSS16 from VTSS HBVTSS17
SLS6681I VTV X99909 migrated to MVC:022589 Block:01400025 StorCl:HBVTSS17
MgmtCl:SIMPLEX
SLS6636I Demand migration to MVC 022589 completed

Recall from MVC 022631 to VTSS HBVTSS16
SLS6683I Bulk recall of 2 VTVs issued to MVC 022631
SLS6644I VTV X99910 recalled from MVC:022631 Block:03400141
SLS6644I VTV X99908 recalled from MVC:022631 Block:05400281
SLS6637I Recall from MVC 022631 completed
```

図 3-165 RECONcil MOVEVTV の出力例

RECOVer

RECOVer コマンドを使用すると、作動不能になったホストが所有するリソースを回復することができます。ホスト間回復を行うと、障害を起こしたホストが所有するライブラリリソースは解放され、その所有権は回復を行ったホストに渡されます。これらの資源には、一度に1つのホストでしか活動化できないCAPと、移動またはマウント中に特定のホストに割り当てられるボリュームがあります。

インタフェース：	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

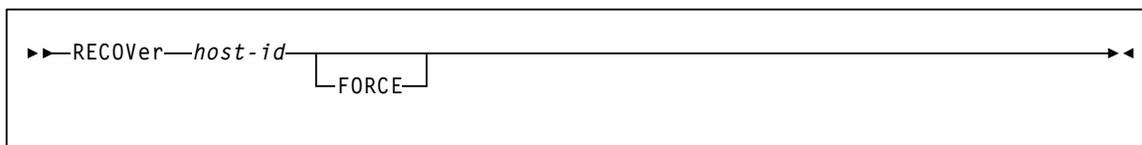


図 3-166 RECOVER の構文

パラメータ

host-id

回復を行うホストを識別します (JES2 または JES3 いずれの場合も SMF システム識別子)。

FORCE

オプションで、HSC によって指定のホストが非アクティブであることが検出されない場合でも、そのホストに対して回復が実行されるよう指定します。これにより、そのホストのアクティブフラグがまだオンになっている場合でもホストの回復を行うことができます。

注意 – FORCE オペランドを使用するときは十分に注意してください。このオペランドを指定するにあたっては、指定のホストが非アクティブにあることを確認してください。

アクティブホストを強制回復した場合は、そのホスト上の HSC を停止/再起動する必要があります。回復されたホストでは、すべてのデータベース活動が禁止されています。このため、そのホストでテープ活動が起こるか、または HSC が停止/再起動されたときに予期しない異常終了が起こる可能性があります。

RELease

RELease コマンドを使用すると、制御データセットを共有しているすべての HSC を停止/再起動することなく、(利用可能な場合はほかの処理で利用できるよう) 割り振り済みの CAP を解放できます。

あるホスト上の HSC が CAP がアクティブである間に回復を実行しないで終了した場合は、その CAP がそのホストに対して割り振られたままの状態になることがあります。

このコマンドは、接続されたどのホストからでも発行できます。オペレータはコンソールメッセージに応答することによって、解放操作を確認しなければなりません。

注意 – このコマンドは、最後の手段として使用してください。CAP が別のアクティブプロセスによって使用されていないことを確認してください。RELease コマンドを出すと、その CAP を使用している処理にエラーメッセージが出される場合があります。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

```
▶▶—RELease—cap-id————▶▶
```

図 3-167 RELease の構文

パラメータ

cap-id

解放される CAP を示します。*cap-id* の形式は、AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は CAP です。有効値のリストについては、707 ページの「CAP の値」を参照してください。

注 – lsm-id の形式は AA:LL で、AA は ACSid (16進数 00-FF)、LL は LSM 番号 (16進数 00-17) を示します。

REPLaceall

REPLaceall コマンドを使用すると、CDS 内のスクラッチリストを削除し、オプションで新規リストに置き換えることができます。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

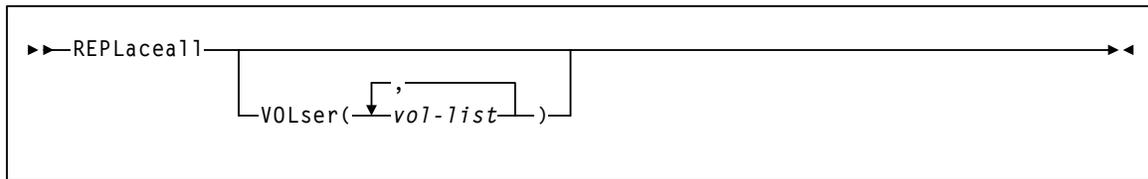


図 3-168 REPLaceall の構文

パラメータ

VOLser

オプションで、スクラッチリストに追加、削除、または置き換えるボリュームシリアル番号のリストを指定します。

vol-list

ボリュームシリアル番号です。単一のボリューム、ボリュームシリアル番号のリスト、またはボリュームシリアル番号の範囲、またはコンマで区切ったリストと範囲の組み合わせを指定できます。リスト全体は括弧で囲む必要があります。

RESTore

RESTore コマンドを使用すると、以前の CDS バックアップコピーからライブラリー制御データセット (CDS) を復元したり、作り直すことができます。RESTore 処理で複数の CDS DD 文を指定すると、複数の CDS コピーが作成されます。

注 – ジャーナリングが有効になっている場合の RESTore の使用方法については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。

注意 – HSC で参照しているすべてのデータセット (プライマリ、セカンダリ、スタンバイ) を復元することが重要です。すべてのデータセットを復元できなかった場合、CDS に矛盾が生じる可能性があります。このユーティリティーの使用法と機能については、『*HSC および VTCS の管理*』を参照してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC が停止 (非アクティブ) 状態であること

構文

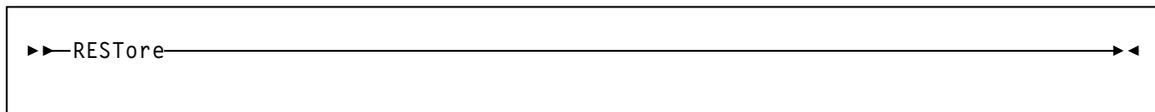


図 3-169 RESTore の構文

パラメータ

パラメータは不要です。ジャーナリングが有効になっている場合の RESTore の使用方法については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。

その他の JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、REStore JCL には以下の定義文が適用されます。

SLSCNTL

プライマリ CDS を指定します。

SLSCNTL2

セカンダリ CDS を指定します (省略可能)。

セカンダリ CDS が存在する場合は、この文を含めます。切り替えが発生してセカンダリ CDS が稼働するようになった場合に、データベースの整合性を維持するために CDS を並べ替えることができるようにするためです。

SLSSTBY

スタンバイ CDS を指定します (省略可能)。

スタンバイ CDS が存在する場合は、この文を含めます。切り替えが発生してスタンバイ CDS が稼働するようになった場合に、データベースの整合性を維持するために CDS を並べ替えることができるようにするためです。

SLSBKUP

バックアップデータセットです。

SCRAtch

SCRAtch コマンドは、1 つまたは複数のボリュームをスクラッチします。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文



図 3-170 SCRAtch の構文

パラメータ

VOLser

スクラッチリストに追加、削除、または置き換えるボリュームシリアル番号のリストを指定します。

vol-list

ボリュームシリアル番号です。単一のボリューム、ボリュームシリアル番号のリスト、またはボリュームシリアル番号の範囲、またはコンマで区切ったリストと範囲の組み合わせを指定できます。リスト全体は括弧で囲む必要があります。

SCREdist

SCREdist コマンドを使用すると、ライブラリ全体にスクラッチボリューム数を再分配したり、スクラッチボリューム数のバランスを調整することができます。

SCREdist を使用すると、次のスクラッチボリュームを再分配できます。

- ACS パラメータに指定されている LSM 間
- オプションのパラメータで明示的に指定されている LSM 間

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

SCREdist では、1 つのメディアタイプと記録方式を選択できます。指定されている場合、MEDia と RECtech の設定に基づいて、スクラッチボリュームが再分配されます。

MEDia と RECtech のいずれも指定されていない場合は、メディアタイプまたは記録方式とは無関係にボリュームが再分配されます。

ACS パラメータのみが指定されている場合は、スクラッチボリューム数が多い LSM から、スクラッチボリューム数が少ない LSM にカートリッジが再分配され、この処理は、各 LSM のスクラッチボリューム数が、定義されているスクラッチの許容レベルになるまで繰り返されます。

ACS 内に各種 LSM (4410、9310、9360、9740) が混在している場合は、ACS 内のスクラッチカートリッジの比率に基づいて再分配されます。すなわち、ACS 内の各 LSM に含まれるスクラッチテープの割合と、LSM に含まれるセルの割合が同じになります。たとえば、9310 LSM に ACS 内の 80 % のセルが含まれている場合は、9310 に常駐するスクラッチテープも 80 % になります。

注 – SL3000 と SL8500 はスタンドアロンライブラリなので、ほかの LSM タイプと組み合わせることはできません。

LSM パラメータが指定されている場合、スクラッチの再分配が完了すると、指定した LSM にのみスクラッチカートリッジが含まれるようになります。

複数の ACS 間で同時再分配を行う場合は、このユーティリティープログラムを複数回実行します。

再分配によって、非スクラッチカートリッジを移動し、スクラッチカートリッジ用のスペースを確保することができます。実際に移動されるスクラッチカートリッジの数は、空きセルと利用可能なスクラッチカートリッジの数によって異なる場合があります。

注 – カートリッジを凍結パネルに移動することはできません。

構文

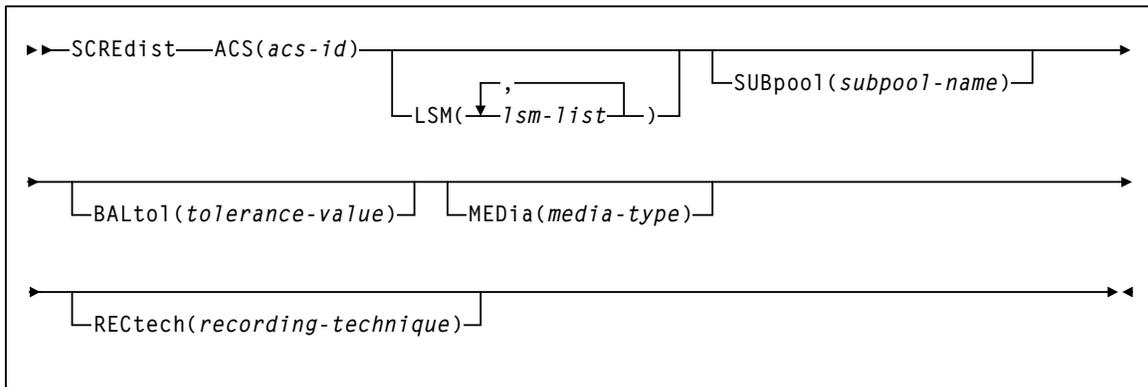


図 3-171 SCREdist の構文

パラメータ

ACS

クラッチボリュームを再分配するライブラリ内の ACS を1 つ指定します。

acs-id

ACS を識別する1 - 2 桁の 16 進数 ACS 識別子です。

LSM

オプションで、ACS 内の特定の LSM にのみスクラッチカートリッジが含まれるよう指定します (指定されていない場合は、ACS 内すべての LSM にスクラッチボリュームが再分配されます)。

lsm-list

1 つの LSM または LSMid のリスト。LSMId (*lsm-id*) は、ACSid (16 進数の 00 - FF) と LSM 番号 (16 進数の 00 - 17) をコロン (:) で区切ったもので構成されます。LSM の範囲は指定できません。

lsm-list に含まれる要素は、かっこで囲み、複数の要素は空白またはコンマで区切ります。

SUBpool

オプションで、スクラッチボリュームを再分配する元のサブプール名を指定します。

subpool-name

サブプールです。

BALtol

オプションで、バランス許容値を指定します。スクラッチボリュームは、この値に基づいて再分配されます。

tolerance-value

この値によって、カートリッジ再分配を終了する比率 (%) を指定します。有効な値は 1 - 999 です (1 は .1 %、999 は 99.9 % を指す)。HSC の初期値は 1 です。このユーティリティーで *tolerance-value* が指定されない場合、HSC はスクラッチ再配分用の初期値を使用します。

指定したすべての LSM 内のスクラッチテープの割合が、ACS にある各 LSM のセルの割合の許容値の 1/2 に達すると、ユーティリティーはスクラッチカートリッジの再分配を終了します。

たとえば、ACS に、セル数が 5,000 の 4410 LSM と、セル数が 1,000 の 9360 (WolfCreek) LSM が 1 つずつあり、スクラッチテープの合計数が 600 の場合、スクラッチ再分配を行うと、4410 に 500 のスクラッチ、9360 に 100 のスクラッチが分配されます。

BALtol(100) と入力すると、10 % の設定になり、すべての LSM でスクラッチ予想数の ±5 % (4410 の場合は 500、9360 の場合は 100) に達すると、ユーティリティーが終了します。

予想数は次のように決定されます。

$$\text{expnumlsm} = \text{totscracs} * \frac{\text{totcellslsm}}{\text{totcellsacs}}$$

ここで、

expnumlsm

各 LSM のスクラッチ予想数

totscracs

ACS 内の合計スクラッチ数

totcellslsm

LSM 内の合計セル数

totcellsacs

ACS 内の合計セル数

前の例で、4410 のスクラッチは 470 - 530 の範囲、9360 は 70 - 130 の範囲である必要があります。BALtol 範囲 BALtol range を決定するには、次のようにします。

$$\text{BALtol range} = \text{expnumlsm} + \frac{\text{baltol} / 1000 * \text{totscracs}}{2}$$

ここで、

BALtol range

バランス許容値の範囲。

expnumlsm

各 LSMのスクラッチ予想数 (上を参照)

baltol

% 値の上限 (*tolerance-value*)。この割合に達すると、スクラッチカートリッジの再分配が終了します。

totscracs

ACS 内の合計スクラッチ数

MEDia

オプションで、ACS 全体に再分配するカートリッジのタイプを指定します。

media-type

メディアタイプです。

有効な *media-type* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

RECtech

オプションで、テープ面にデータトラックを記録するために使用する方式を指定します。

注 – RECtechを指定しない場合は、指定したMEDiaタイプに従って、次のスクラッチカートリッジが選択されます。

recording-technique

記録方式です。

有効な *recording-technique* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

SENter

SENter コマンドを使用すると、現在イジェクト操作に割り振られている CAP 上で挿入をスケジュールできます。SENter コマンドは、CAP をカートリッジのイジェクトに割り振ったホストから出す必要があります。

インタフェース:	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

```
▶▶SENter—cap-id▶▶
```

図 3-172 SENter の構文

パラメータ

cap-id

カートリッジを挿入する CAP を指定します。指定できる CAP は 1 つだけで、SENter コマンドの発行元ホストに割り振られる必要があります。

cap-id の形式は、AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は CAP です。有効値のリストについては、707 ページの「CAP の値」を参照してください。

注 - lsm-id の形式は AA:LL で、AA は ACSid (16進数 00-FF)、LL は LSM 番号 (16進数 00-17) を示します。

SET

SET コマンドを使用すると、ライブラリを再構成することなく、選択したライブラリ構成の設定を変更できます。これは、制御データセットに対して直接操作を実行するため、HSC はアクティブである必要はありません。

このコマンドには、次の表に一覧されているオプションを指定できます。各オプションの詳細な説明は、次ページ以降を参照してください。

表 3-15 SET オプション

オプション	設定:
CLNPRFX	クリーニングカートリッジの接頭辞
COMPRFX	HSC/VTCS コマンドの接頭辞
DRVHOST	すべての SMC クライアントシステムに対し、SMC DRIVEMAP コマンドで定義されている機器アドレスを使用し、割り振りに影響を及ぼして、マウント/マウント解除を要求することを許可するかどうか。
EJCTPAS	イジェクトパスワード
FREEZE	パネルまたは LSM への追加カートリッジの保存を禁止 (凍結) するか、または許可 (凍結解除) するかを指定します。
HOSTID	古いホスト ID を新規ホスト ID に変更します。
HSCLEVEL	指定のホストで、HSC のアクティブおよびリリースレベルの標識がクリアされるよう指定します。
LOGFILE	CDS の回復に必要な論理トランザクションを含むおよびセカンダリログファイルを定義します。
MAJNAME	ENQ/DEQ/RESERVE QNAME が設定されるよう指定します。
MIGOPT	次の VTCS マイグレーションパラメータを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • 同時処理する自動マイグレーション、即時マイグレーション、および限界値までのマイグレーションタスクの最大数および最小数。 • 上限 AMT および下限 AMT
NEWHOST	新規ホストが追加されるよう指定します。
RMM	VTCS - DFSMSrmm 間のインタフェースを有効または無効にします。
SCRLABL	スクラッチラベルタイプが設定されるよう指定します。
SLISTATN	LMU ステーションアドレスが設定されることを指定します。
SLIDRIVS	特定パネル内のドライブの機器番号が変更または追加されるよう指定します。
SMF	HSC が使用する SMF レコードタイプが設定されるよう指定します。
TAPEPlex	TapePlex が設定されることを指定します。
TCHNIQE	制御データセットの回復方法が設定されることを指定します。

表 3-15 SET オプション (続き)

オプション	設定:
VAULT	SET Vault ユーティリティを使用して、サーバー複合体の VAULT 情報を定義します。
VAULTVOL	SET VAULTVOL ユーティリティを使用して、VAULT Volume 領域を定義します。
VOLPARM	SET VOLPARM ユーティリティで、サーバー複合体のボリュームおよびプール情報を定義します。

SET CLNPRFX

SET CLNPRFX で、クリーニング接頭辞を設定します。

注 – クリーニング接頭辞を変更する前に、すべてのシステムで HSC が停止していなければなりません。

インタフェース:	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶▶ SET—CLNPRFX(prefix)—————▶▶
```

図 3-173 SET CLNPRFX の構文

パラメータ

CLNPRFX

prefix

クリーニングカートリッジの 3 文字からなる接頭辞。
有効な文字は、A - Z、0 - 9、\$、#、および @ です。

注 – クリーニング接頭辞を変更する前に、すべてのシステムで HSC が停止していなければなりません。

SET CLNPRFX の手順

クリーニングカートリッジの接頭辞を変更するには、次の手順に従います。

1. **すべての ACS からすべてのクリーニングカートリッジをイジェクトします。** CDS 内のクリーニングカートリッジに関する情報が HSC に記録されます。
2. すべてのホストの HSC を終了します。
3. SET CLNPRFX を使用して、クリーニング接頭辞を変更します。
4. 目的のホストで、HSC を初期設定します。
5. 新しい接頭辞によって識別した新しいクリーニングカートリッジをすべての ACS に挿入します。

注 – カートリッジをイジェクトし、再挿入すると、カートリッジの選択回数が 0 に設定されるため、新しいクリーニングカートリッジを挿入することを推奨します。選択回数は、クリーニングカートリッジの使用回数を追跡します。

SET COMPRFX

SET COMPRFX で、HSC/VTCS コマンド の接頭辞を設定します。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶▶ SET—COMPRFX(cmdhex)————▶▶
```

図 3-174 SET COMPRFX の構文

パラメータ

COMPRFX

cmdhex

コマンドの接頭辞の 2 文字からなる 16 進数コード。ほかのサブシステムに割り振られている値と重ならないように選択してください。各コードに対応する文字については、528 ページの表 3-16 を参照してください。

注 -

- コマンドの接頭辞は、HSC または VTCS システムが再起動されるまで有効になりません。
- 使用する接頭辞文字が次のいずれかと矛盾しないことを確認してください。
 - ほかのサブシステムのコマンドの接頭辞文字 (JES2 の「\$」、JES3 の「*」、または TSO の区切り文字「;」など)。
 - SYS1.PARMLIB (CONSOL xx) の CMDDELIM キーワードの値として指定されている MVS のコマンド区切り文字。詳細は、IBM の資料『z/OS Installation and Tuning Guide』に記載されています。
 - JES 行編集文字。JES 初期設定文またはデフォルトで指定されたもの。JES2 では、初期設定文は CONDEF です。
 - JES3 では、初期設定文は CONSTD です。これらの文およびデフォルト値についての説明は、該当する IBM 資料『z/OS JES3 Installation and Tuning Guide』に記載されています。
- CDS を共有する VM ホストで HSC が稼働しており、MVS でも HSC が稼働している場合は、コマンドの接頭辞文字が VM 機能 (たとえば、CP 行編集記号など) と重なっていないことを確認してください。

表 3-16 コマンドの接頭辞コードと文字の対応表

16 進数	文字	説明
40	null	ブランク
4A	¢	セント
4B	.	ピリオド
4C	<	不等号 (より少ない)
4D	(左かっこ
4E	+	正符号
4F		垂直線
50	&	アンパーサンド
5A	!	感嘆符
5B	\$	ドル記号
5C	*	アスタリスク
5D)	右かっこ
5E	;	セミコロン
5F	¬	否定符号
60	-	負記号
61	/	スラッシュ
6B	,	コンマ
6C	%	パーセント
6D	_	下線
6E	>	不等号 (より大きい)
6F	?	疑問符
7A	:	コロソ
7B	#	シャープ記号
7C	@	単価記号
7E	=	等号
7F	"	二重引用符
<p>注: ヌルコマンドの接頭辞 (16 進数の 40) を指定する場合は、MVS MODIFY コマンドを使用して、HSC オペレータコマンドを実行しなければなりません。</p> <p>例: F SLS0 MOUNT EDU050,B30</p> <p>ここで、</p> <p>F MVS MODIFY コマンドの省略形</p> <p>SLS0 HSC サブシステム</p> <p>MOUNT HSC オペレータコマンド</p> <p>EDU050 VOLSER ID</p> <p>B30 指定のテープドライブ</p>		

SET DRVHOST

SET DRVHOST によって、SMC クライアントシステムが SMC DRIVemap コマンドで定義されている機器アドレスを使用して割り振りに影響を及ぼし、マウント/マウント解除を要求するよう指示します。

注 – SMC DRIVemap コマンドの詳細については、86 ページの「DRIVemap」を参照してください。

インタフェース:	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

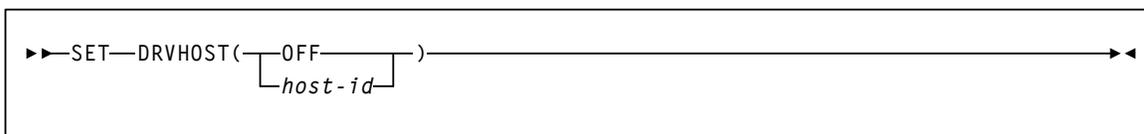


図 3-175 SET DRVHOST の構文

パラメータ

DRVHOST

OFF

HSC SLILIBRY LIBGEN マクロのホストに定義されているドライブに基づき、各 HSC が SMC クライアントに機器アドレスをレポートすることを指定します。

host-id

CDS に定義されているホスト名。

SET EJCTPAS

SET EJCTPAS で、HSC イジェクトパスワードを設定します。このパスワードを有効にするには、HSC システムを再起動する必要があります。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

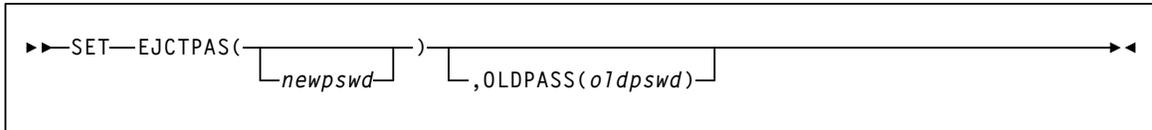


図 3-176 SET EJCTPAS の構文

パラメータ

EJCTPAS

newpswd

1 - 8 文字のイジェクトパスワード。

新しいパスワードは英数字 A - Z (大文字のみ) および 0 - 9 でなければなりません。

newpswd を省略すると、イジェクトパスワードのチェックが無効になります。

注 - *newpswd* は SLSPRINT には表示されません。

OLDPASS

古いイジェクトパスワードが指定されるよう指定します。パスワードを変更または削除する場合は、古いパスワードを指定する必要があります。古いパスワードを削除するには、OLDPASS() 構文でパスワードを省略します。イジェクトパスワードがない場合、このパラメータは省略できます。

oldpswd

1 - 8 文字の古いイジェクトパスワード。

注 - *oldpswd* は SLSPRINT には表示されません。

SET FREEZE

SET FREEZE を使用して、パネルまたは LSM への追加カートリッジの保存を禁止 (凍結) するか、または許可 (凍結解除) するかを指定します。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

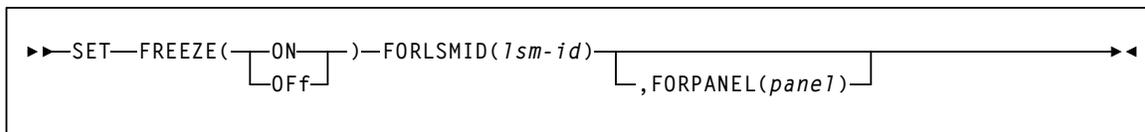


図 3-177 SET FREEZE の構文

パラメータ

FREEZE

ON

パネルまたは LSM を凍結するよう指定します。これにより、追加カートリッジを移動できなくなります。これにより、次の結果行われるパネルまたは LSM への新規カートリッジ位置の割り振りも制限されます。

- MOVE コマンド、ユーティリティーまたは PGMI 要求
- ACS へのカートリッジのエントリ
- フロート、スクラッチマウント解除またはスクラッチ再分配処理

(マウント要求などで) 凍結パネル上のカートリッジを選択すると、要求がフィルタリングされた後、凍結パネル上のホームセルにカートリッジが戻されます。

凍結パネルまたは LSM 上にカートリッジがすでにある場合は、MOVE コマンド、ユーティリティーまたは PGMI 要求を指定して、カートリッジを移動する必要があります。EJECT コマンドまたは EJECT ユーティリティーによってカートリッジをイジェクトすることもできます。

OFF

パネルまたは LSM の凍結を解除するよう指定します。これにより、追加カートリッジを移動できるようになります。

FORLSMID

特定のパネルまたは LSM に処理を制限するよう指定します。

lsm_id

凍結または凍結解除する LSM の LSMid (AA:LL)。LSMid (lsm-id) は、ACSid (16 進数の 00 - FF) と LSM 番号 (16 進数の 00 - 17) をコロン (:) で区切ったもので構成されます。

FORPANEL

オプションで、特定のパネルに処理を制限するよう指定します。

panel

凍結または凍結解除するパネルの ID (2 桁)。LSM 内のドライブパネルしか指定できません。有効値のリストについては、[709 ページの「パネルの値」](#)を参照してください。

注 -

- すでに凍結パネルが含まれている LSM 全体を凍結した場合、LSM を凍結解除すると、**すべての**パネルが凍結解除されます。

LSM 全体を凍結解除した後、一部のパネルを凍結させたままにしておく場合は、同じ SLUADMIN JOBSTEP に SET FREEZE ON FORLSMID FORPANEL 文を追加できません。

- LSM を凍結すると、新しいセルの割り振りは行われなくなります。ただし、凍結されている LSM から現在ドライブにマウントされているカートリッジはホームセルに戻されます。
- パネルおよび LSM の凍結または凍結解除処理は、すべての HSC の稼働によって直ちに認識されます。SET FREEZE による変更を認識させるには、HSC の稼働を停止し、再び初期設定する必要があります。

MERGEcds または Reconfiguration ユーティリティを使って凍結パネルのパネルタイプを変更した場合、新しいパネルは凍結されません。パネルタイプを変更しなかった場合、マージまたは再構成後も、パネルは凍結されたままの状態になります。

SET HOSTID

SET HOSTID は `hostid` の名前を変更します。

注 – ホスト名の変更時に別のホストがアクティブな場合、それらのアクティブなホスト上で一部のメッセージに古いホスト名が表示される場合もあります。それらのホスト上で HSC が再起動されたあと、メッセージに新しいホスト名が表示されます。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶▶ SET—HOSTID(newhost),FORHOST(oldhost)◀◀
```

図 3-178 SET HOSTID の構文

パラメータ

HOSTID

古いホスト ID が新しい名前に変更されることを指定します。

newhost

JES2 と JES3 両方の SMF システム ID を識別する 1 - 8 文字のホスト ID。 *newhost* が CDS に既に定義されてはなりません。

FORHOST

古いホスト ID を指定します。

oldhost

1 - 8 文字のホスト ID。このホストは CDS でアクティブとマーク付けされてはなりません。HSC は、停止していてもアクティブとマーク付けされている場合があります。アクティブとマーク付けされている場合、SET HOSTID は失敗します。非アクティブとマーク付けするには、停止中のホスト内の HSC をいったん起動した後、停止します。さらに、HSC が停止中でもアクティブとマーク付けされている場合、別のホストがホスト間回復処理を実行する可能性があります。これらの処理が行われると、停止している HSC の CDS のステータスがアクティブから非アクティブに変更されます。操作フラグの再設定については、534 ページの「SET HSCLEVEL」を参照してください。

注 – ID を小文字で指定する場合は、HOSTID (*newhost* または *oldhost*) を引用符で囲む必要があります。

SET HSCLEVEL

SET HSCLEVEL を使用すると、指定したホストの HSC のアクティブおよびリリースレベルの標識をクリアできます。

注 – HSCLEVEL を実行する場合は、*hostid* で指定したホストが非アクティブでなければなりません。

HSC が突然終了した場合 (HSC の取り消し、またはオペレーティングシステムのクラッシュなど)、標識は設定されたままになります。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶▶ SET—HSCLEVEL (OFF), FORHOST (host-id) ◀◀
```

図 3-179 SET HSCLEVEL の構文

パラメータ

HSCLEVEL

OFF

指定のホストで、HSC のアクティブおよびリリースレベルの標識がクリアされるよう指定します。

FORHOST

指定したホストのアクティブ標識がクリアされるよう指定します。

host-id

処理を限定するホストの 1 - 8 文字からなるホスト ID。

注 – Oracle では、SET HSCLEVEL ではなく、次の代替処理を行うことを推奨します。次の処理を行うと、HSC 標識をリセットし、障害のあるホストが所有していたリソースを回復できます。

- ホストで HSC を再起動する。
- RECOVER *host-id* FORCE オペレータコマンドを入力する。

SET LOGFILE

SET LOGFILE コマンドは、HSC 7.0 に新たに導入された HSC トランザクションロギングサービスの一部です。

このコマンドを使用して、CDS の復元に必要な VTCS 論理トランザクションを HSC トランザクションロギングサービスによって記録する際のおよびセカンダリログファイルを定義します。

CDS の回復が必要な場合は、これらのログファイルの情報を使用して、CDS 内の VTCS を正常な状態にすばやく戻すことができます。

注 -

- ログファイルは FMTLOG ユーティリティで事前にフォーマットしておく必要があります。詳細については、[382 ページの「FMTLOG」](#)を参照してください。
- ロギングがアクティブになっていない場合は、SET LOGFILE コマンドで指定したログファイル名が直ちにアクティブ化されます。
- ロギングがアクティブな場合は、OFFload LOGFILE コマンドで OFFload LOGFILE ユーティリティを実行し、ログファイルを変更する必要があります。詳細については、[491 ページの「OFFload」](#)を参照してください。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

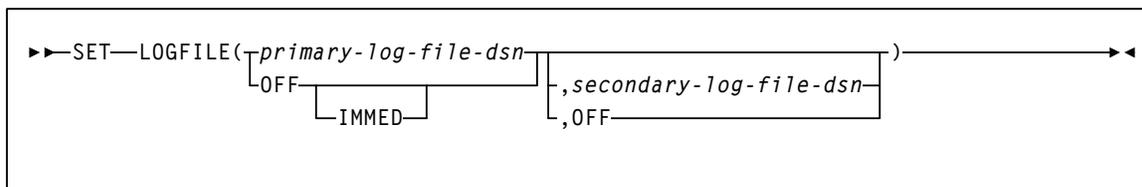


図 3-180 SET LOGFILE の構文

パラメータ

LOGFILE

primary-log-file-dsn

ログファイルのデータセット名。このパラメータは必須です。

OFF

primary-log-file-dsn の代わりに OFF を指定し、ロギングを停止します。IMMED パラメータが指定されている場合を除き、HSC サブシステムのロギングは OFFload LOG を実行するまで続行されます。

IMMED

すべてのHSC の稼働サブシステムで、ロギングを直ちに停止するよう指定します。IMMED を指定すると、以前のログデータをオフロードできなくなります。

secondary-log-file-dsn

セカンダリログファイルのデータセット名 (省略可能)。セカンダリログファイルが以前定義されていた場合、このパラメータは必須です。

セカンダリログファイルのデータセット名のみを変更する場合は、ログファイルのデータセット名の位置にある既存のログファイルデータセット名を指定し直す必要があります。

OFF

secondary-log-file-dsn の代わりに OFF を指定し、二重化されていたロギングを単一ロギングに変更します。

SET MAJNAME

SET MAJNAME は ENQ/DEQ/RESERVE QNAME を設定します。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	<ul style="list-style-type: none"> • HSC の稼働は不要 • QNAME を変更する前に、すべてのシステムで HSC が停止していなければなりません。

構文

```
▶←SET—MAJNAME(qname)—————▶
```

図 3-181 SET MAJNAME の構文

パラメータ

MAJNAME

qname

1-8 文字の QNAME です。QNAME は、右揃えで、ブランクは埋め込まれます。この名前は、QNAME の条件を満たしていなければなりません。いずれかのホストが MVS ホストの場合、オペレーティングシステムとの競合を回避するには、QNAME は「SYSA」から「SYSZ」の間の文字で始まらないようにする必要があります。HSC は権限を持つため、「SYSA」から「SYSZ」までの名前は許可されますが、デッドロックが発生する可能性があります。

注 – QNAME を変更する前に、すべてのシステムで HSC が停止していなければなりません。

SET MIGOPT

SET MIGOPT は次のマイグレーションパラメータを変更します。

- 同時処理する自動マイグレーション、即時マイグレーション、および限界値までのマイグレーションタスクの最大数および最小数。
- 上限AMT および下限AMT。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

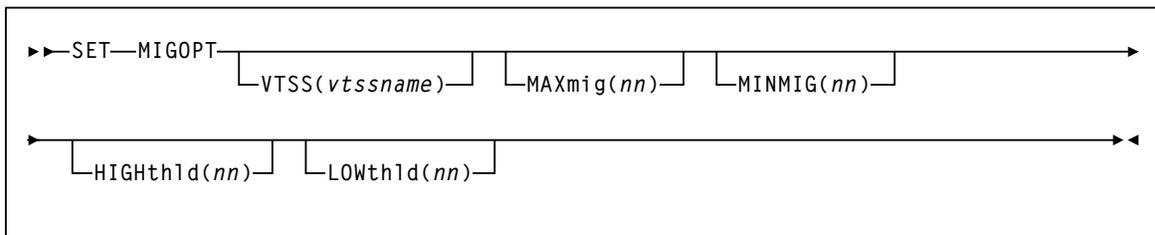


図 3-182 SET MIGOPT の構文

パラメータ

VTSS

オプションで、マイグレーションパラメータを変更するVTSSを指定します。VTSSを指定しない場合は、変更がすべてのVTSSに反映されます。

vtssname

VTSS識別子

MAXMIG(*nn*)

オプションで、同時処理する自動マイグレーション、即時マイグレーション、および限界値までのマイグレーションタスクの最大数を指定します。

有効値は 1 - VTSS に接続されている RTD の数です。デフォルト値はありません。したがって、値を指定しない場合、現在の値は変更されません。

MINMIG(*nn*)

オプションで、同時処理する自動マイグレーション、即時マイグレーション、および限界値までのマイグレーションタスクの最小数を指定します。

有効な値は、1 からMAXMIGの設定値までです。デフォルト値はありません。したがって、値を指定しない場合、現在の値は変更されません。

HIGHthld

オプションで、新しい上限AMTを指定します。

high-thr

新しい上限AMTをVTSSスペースのパーセントで指定します。有効な値は5 - 95で、LOWthld の値よりも大きくする必要があります。

LOWthld

オプションで、新しい下限AMTを指定します。

low-thr

新しい下限AMT をVTSS スペースのパーセントで指定します。有効な値は5 - 95で、HIGHthld の値よりも小さくする必要があります。

SET NEWHOST

SET NEWHOST を使用して新規ホストを定義します。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶←SET—NEWHOST(newhost),LIKEHOST(model-host)—————▶
```

図 3-183 SET NEWHOST の構文

パラメータ

NEWHOST

newhost

JES2 と JES3 両方 の SMF システム ID を識別する 1-8 文字のホスト ID。

注 -

- 新規ホストを追加する場合、ホストの最大数 16 を超えてはなりません。
- *newhost* が CDS に既に定義されてはなりません。
- *newhost* を小文字で指定する場合は、HOSTID を引用符で囲む必要があります。

LIKEHOST

LIBGEN に定義されている既存の構成を新規ホストで使用するように指定します。次の設定が使用されます。

- SLILIBRY NNLBDRV (非ライブラリドライブのエソテリック)
- SLIACS ACSDRV (ACS ドライブのエソテリック)
- SLISTATN ADDRESS (ACS 3270 のステーションアドレス)
- SLIDRIVS ADDRESS (ドライブアドレス)

model-host

1 - 8 文字のホスト ID。

SET RMM

SET RMMは、VTCS - DFSMSrmm 間のインタフェースを有効/無効にします。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	アクティブな HSC/VTCS

構文

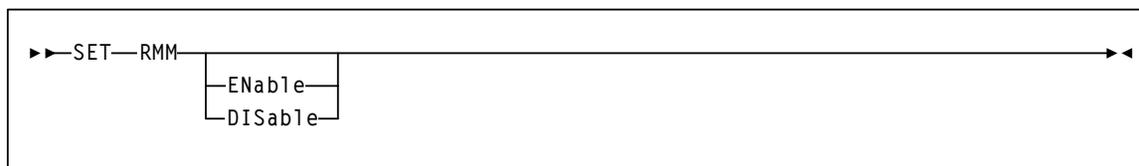


図 3-184 SET RMM の構文

パラメータ

ENable

VTCS - DFSMSrmm 間のインタフェースを有効にします。インタフェースが有効になると、VTCS は DFSMSrmm に対して、マネージメントクラスで DELSCR(YES) が指定されている VTV のすべてのスクラッチマウントおよびスクラッチ要求の通信を行います。

DISable

VTCS - DFSMSrmm 間のインタフェースを無効にします。PTF L1H139T がインストールされている場合、インタフェースは VTCS の初期化時に自動的に無効になります。

パラメータを指定しない場合は、インタフェースの現在の設定が表示されます。

注 -

- DFSMSrmm インタフェースを有効にする必要があるのは、IBM APAR OA03368 が未適用で、次の (最小限の) VTSS マイクロコードレベルがインストールされているサイトのみです。
 - VSM3: N01.00.65
 - VSM4: D01.00.03
 - VSM5: すべてのマイクロコードレベルに必要な変更が含まれていること
- 必要に応じて、HSC の初期化時に読み込まれる SLSSYSxx PARMLIB に VT SET RMM ENA コマンドを追加することをお勧めしています。
- このインタフェースを有効にすると、スクラッチマウントの処理に遅延が発生する場合があります。

SET SCRLABL

SET SCRLABL で、スクラッチラベルタイプを指定します。

スクラッチプールを追加する場合は、Scratch Update ユーティリティの前に REPLaceall 機能を実行します。それ以外の場合は、この機能を使用した後、スクラッチ更新ユーティリティを実行して、スクラッチプールを更新する必要があります。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

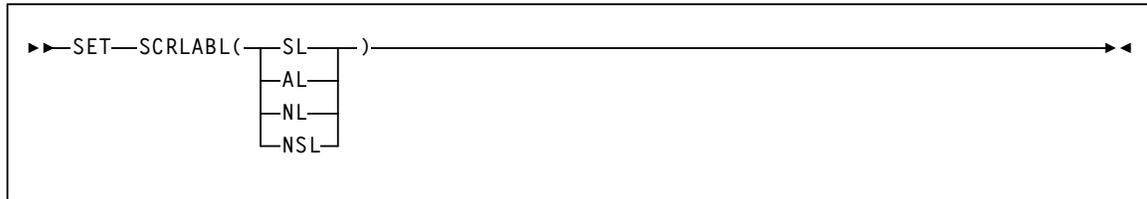


図 3-185 SET SCRLABL の構文

パラメータ

SCRLABL

SL

標準ラベルのテープをマウント解除する不特定要求を指定します。

AL

ANSI ラベルのテープをマウント解除する不特定要求を指定します。

NL

ラベルのないテープをマウント解除する不特定要求を指定します。

NSL

非標準ラベルのテープをマウント解除する不特定要求を指定します。

SET SLIDRIVS

SET SLIDRIVS を使用すると、特定パネル内のドライブの機器番号を追加または変更できます。

- 9310 および 9740 ライブラリの場合、変更を有効にするには、影響を受ける HSC システムを再起動する必要があります。詳細については、[546 ページの「HSC をアクティブにしたまま SET SLIDRIVS を実行する」](#)を参照してください。
- SL3000 および SL8500 ライブラリの場合、変更を有効にするには、ドライブの追加先 ACS に関する MODIFY CONFIG UPD ACS(XX) を発行する必要があります。NCO を指定すると、構成にドライブが追加されます。HSC を再起動する必要はありません。

注意 – 9310 および 9740 ライブラリの場合、このパラメータを指定する前にすべてのホスト上で HSC を停止し、それぞれの SET SLIDRIVS 操作のあとで HSC を再起動することを Oracle では推奨します。[546 ページの表 3-17](#) に、HSC をアクティブなままに維持できるいくつかの例が記載されていますが、予期しない結果が発生する可能性があります。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

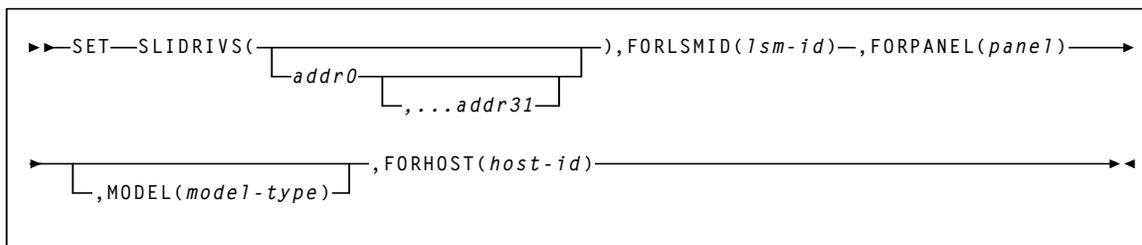


図 3-186 SET SLIDRIVS の構文

パラメータ

SLIDRIVS

addr0,...addr31

パネルの機器番号。パネル番号は上から下に向かって付けられます。機器番号を省略されている場合は、パネル内の特定位置のドライブにホストがアクセスできないか、ドライブが存在しないという意味です。

注 -

- ドライブの指定には、ブランクまたはコンマを使用できます。
- 合計ドライブ数は、次のように指定されていなければなりません (コンマのプレースホルダーを含む)。
 - 4、10、または 20 (9310 の場合)
 - 16 (SL8500 の場合)
 - 8、16、24 または 32 (SL3000 の場合)
 - 9740 (TimberWolf) LSM または SL8500 ライブラリには、20 ドライブ構成のパネルを指定できません。
 - 4410 LSM には 10 ドライブまたは 20 ドライブ構成のパネルを指定できません。

- 20 ドライブのパネル構成に移動する場合、または 20 ドライブのパネル構成から移動する場合は、このユーティリティを実行する前に、パネル内のすべてのセルを空にする必要があります。
- 4 または 10 ドライブ構成のパネル (標準) と 20 ドライブ構成のパネル (拡張) の間でドライブを変更する場合、再構成は不要です。影響を受けるパネルは空でなければなりません。パネル内のセルをカートリッジに割り振ることはできません。

標準構成から拡張構成 (またはその逆) に変更するドライブパネルが空の状態に保たれるようにするには、SET FREEZE ユーティリティでパネルを凍結させます。そのあと、すべてのカートリッジをほかのパネルまたは LSM に移動します。

SET SLIDRIVS を使ってパネルタイプを変更した場合、新規パネルは凍結されません。パネルタイプが変更されなかった凍結パネルは、SET SLIDRIVS の実行後も凍結されたままの状態になります。

- HSC でドライブアドレスが重複してはなりません。

パネル間でドライブアドレスを交換する場合は、まず、一方のパネルのアドレスを現在定義されていない一時アドレスに変更する必要があります。次に例を示します。

```
LSM00, PANEL10, ADDRESSES-400,401,402,403
LSM01, PANEL11, ADDRESSES-404,405,406,407
```

400 - 403 のアドレスを LSM01 に移動し、404 - 407 のアドレスを LSM0 に移動する場合は、まず SET ユーティリティを実行して、LSM0 のアドレス (400 - 403) を 900 - 903 (または現在定義されていないほかのアドレス) に変更する必要があります。次に SET ユーティリティを実行して LSM01 のアドレスを 400 - 403 に変更します。ユーティリティの 3 回目の実行で、一時的な LSM0 アドレス (900 - 903) を 404 - 407 に変更します。

- すべての 9310 LSM 上で、HSC の上から順にドライブが定義されます。 *addr0* は一番上のドライブ、 *addrn* は一番下のドライブです。

ただし、9740 10 ドライブパネル LSM では、ドライブが満杯で、上から下まで 9740 LSM に構成されています。(9740 4 ドライブパネルは、ほかのすべての LSM ドライブパネルと同様、上から下まで 9740 LSM に構成されています。)

5 つの 9840 ドライブを持つ 9740 10 ドライブパネルの定義方法は、次のとおりです。

```
SET SLIDRIVS(,,,,,BD4,BD3,BD2,BD1,BD0),FORLSMID(lsm-id),
FORPANEL(panel)
```

SL3000 のドライブは、ライブラリの前面から背面に向かって、上から下、右から左に定義されます。

SL8500 のドライブは、ライブラリの外から見て、上から下、右から左に定義されません。

FORLSMID

特定の LSM に処理を制限するよう指定します。

lsm-id

アドレスを変更するドライブパネルが含まれている LSMid (AA:LL)。LSMID (*lsm-id*) は、ACSid (16 進数の 00 - FF) と LSM 番号 (16 進数の 00 - 17) をコロン (:) で区切ったもので構成されます。

FORPANEL

特定のパネルに処理を制限するよう指定します。

panel

アドレスを変更するドライブが含まれているパネルの 2 桁の ID。有効値のリストについては、[709 ページの「パネルの値」](#)を参照してください。

注 – LSM 内のドライブパネルしか指定できません。

MODEL

オプションで、トランスポートモデルを指定します。

model-type

モデルタイプです。

有効な *model-type* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODEL の値」](#)を参照してください。

注 – MODEL パラメータは、手動 RTD のドライブタイプを指定する際にのみ使用します。RTD は実在しない ACS で定義されています。LSM をオンラインにすると、(非手動) ドライブタイプが自動的に設定されます。

FORHOST

特定のホストに処理を制限するよう指定します。指定したホストのドライブ機器番号のみが設定されます。省略すると、すべてのホストの機器番号が変更されます。

注 – 特定ホストのドライブ位置数は、グローバルに定義 (FORHOST パラメータを指定せずに SET SLIDRIVS を発行) されているドライブ位置数と同じでなければなりません。

host-id

処理を限定するホストの 1 - 8 文字からなるホスト ID。

HSC をアクティブにしたまま SET SLIDRIVS を実行する

注 – 次の説明は 9310 および 9740 LSM にのみ適用されます。SL8500 または SL3000 には適用されません。

SET SLIDRIVS パラメータを指定する際は、すべてのホストで HSC が停止しているのが望ましい状態です。ただし、悪影響を及ぼすことなく HSC をアクティブなままにできる場合もあります。Table 3-17 に、SET SLIDRIVS を実行するオプションを定義します。

表 3-17 HSC の状態/SET SLIDRIVS 処理

HSC の状態	SET SLIDRIVS への影響
停止	すべてのホストで HSC が停止している場合、HSC を初期設定すると、すべての新しいドライブの位置が認識されます。
Active	すべてのホストで HSC がアクティブになってもよいのは、 <i>新しいドライブ位置に新しいドライブを追加する場合のみ</i> です。ホスト上で HSC を再起動すると、新しいドライブ位置が認識されます。
Active	<i>既存のドライブ位置で、ユニットアドレスを変更または削除した場合</i> は、以下が適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • すべてのホストで HSC を起動するまで、影響を受ける LSM をオフラインにしておく必要があります。または、 • 再起動する HSC にアクセスし影響を受けるすべてのホストに対して、影響を受ける ACS をオフラインにしておく必要があります。

SET SLIDRIVS の手順

以下では、HSC をアクティブにしたままユニットアドレスを変更する際の 1 つの手順を示します。

9310 および 9740 の場合:

■ 1 つのホスト:

1. 影響を受ける LSM をオフラインに変更します (MODify *lsm-id* OFFline)。すべてのホストに対して LSM がオフラインになります。
2. Oracle StorageTek CSE がハードウェアを変更している間に、SET SLIDRIVS を使用して CDS ドライブレコードを更新します。
3. 1 つのホストで HSC を再起動します。
4. 再起動していない HSC を実行しているすべてのホストで、影響を受ける ACS をオフラインに切り替えます (Vary ACS(*acs-id*) OFFline)。
5. 影響を受ける LSM をオンラインに変更します (MODify *lsm-id* ONline)。ACS がオンラインになっているすべてのホストに対して、LSM がオンラインになります。

注 – ACS に対してオンラインになっており、再起動した HSC を実行しているホストのみが、この LSM に接続されているドライブをマウントします。

- 残りのホストは、HSC を再起動すると、影響を受ける ACS が起動されます。

SL3000 および SL8500 の場合:

1. 必要なハードウェア変更 (ドライブの追加/削除/移動) を行ないます。
2. 変更が反映されるよう、SET SLIDRIVS JCL デッキを変更します。
3. SET SLIDRIVS を実行します。
4. MODIFY CONFIG (または MODIFY CONFIG ACS(*xx*)) を発行します。

変更はほかのすべてのホストにカスケードされます。

SET SLISTATN

SET SLISTATN を使用すると、ACS の LMU ステーションアドレスを追加または変更できます。変更を有効にするには、影響を受ける HSC を再起動する必要があります。

影響を受ける HSC とは、FORHOST で指定したホストに常駐している HSC です。この処理は特定のホストに限定されていないため、FORHOST を省略すると、すべての HSC に適用されます。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

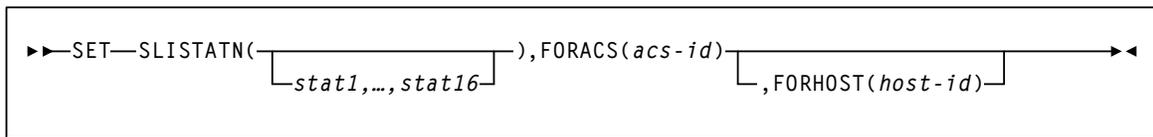


図 3-187 SET SLISTATN の構文

パラメータ

SLISTATN

stat1,...,stat16

特定の ACS に関連付けられている LMU ステーションアドレス。ステーションアドレスは不要です。最大 16 を指定できます (コンマ区切り)。

注

- ステーションの既存リストに 1 つまたは複数の ステーションアドレスを追加する場合は、古いステーションと新しいステーションをすべて指定する必要があります。ここで指定されていない (この ACS とホスト ID の) ステーションは、削除され、使用できなくなります。
- ACS またはホストのステーションアドレスを削除するには、SLISTATN パラメータの後ろにステーションアドレスを指定せずにおきます。次に例を示します。

```
SET SLISTATN( ), FORACS(01), FORHOST(HSCA)
```

FORACS

ステーションアドレスを変更する ACS を指定します。

acs-id

ステーションを変更する ACSid (00 - FF)。

FORHOST

特定のホストに処理を制限するよう指定します。指定したホストのステーションのみが設定されます。省略すると、すべてのホストのステーションが変更されます。

host-id

処理を限定するホストの 1 - 8 文字からなるホスト ID。

SET SMF

SET SMF を使用すると、HSC の新規 SMF レコードタイプを追加できます。

古い SMF タイプのレコードを記述している HSC と新しいレコードタイプを使用している HSC が混在しているため、すべての CPU で HSC を再起動するまで、ACTivities コマンドを実行しても不正な結果になります。

インタフェース：	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶▶ SET—SMF(libtype)◀◀
```

図 3-188 SET SMF の構文

パラメータ

SMF

libtype

SMF レコードタイプ。範囲は 0 - 255 です。

128 - 255 はユーザー定義のレコード用であるため、128 - 255 の番号を選択し、ほかのユーザー定義のレコードタイプと番号が重ならないようにすることをお勧めします。

SET TAPEPlex

SET TAPEPlex を使用すると、TapePlex 名を設定できます。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶▶SET—TAPEPlex(tapeplex-name)————▶▶
```

図 3-189 SET TAPEPlex の構文

パラメータ

TAPEPlex

tapeplex-name

1 - 8 文字の TapePlex 名です。

TapePlex 名の最初の文字は、英字または数字にする必要があります。残りの文字には英字、数字、またはハイフンを使用できますが、最後の文字をハイフンにすることはできません。NULL 値 (TAPEPLEX()) を指定して、TapePlex 名が次の SMC トランザクションによって自動的に設定されるようにすることもできます。

注 - この名前は、この HSC システムと通信を行うすべての SMC システムの SMC TAPEPlex コマンドで指定した TAPEPlex 名と一致する必要があります。SMC TapePlex コマンドの詳細については、[143 ページの「TAPEPlex」](#)を参照してください。

SET TCHNIQE

SET TCHNIQE を使用すると、制御データセットの回復方法を設定できます。現在 CDS に定義されている回復方法は、この方法に置き換えられます。

LIBGEN SLIRCVRY マクロについては、『*Configuring HSC and VTCS*』を参照してください。回復方法値を指定する必要があります。デフォルト値はありません。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC が停止 (非アクティブ) 状態であること

構文

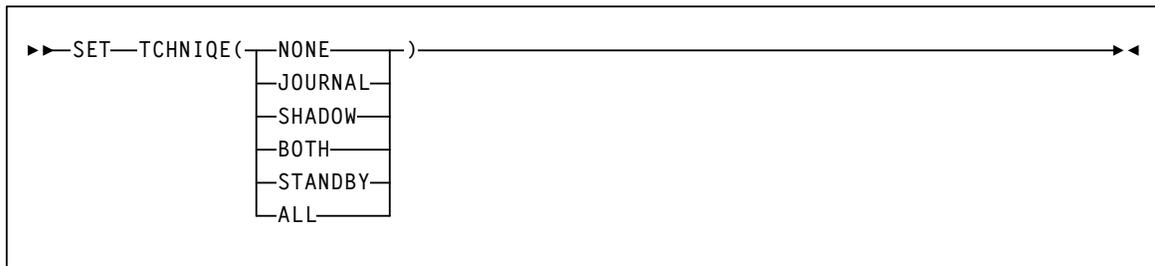


図 3-190 SET TCHNIQE の構文

パラメータ

TCHNIQE

NONE

制御データセットでいかなる形の回復も使用されないことを指定します。ですから、アクセスできない場合、プライマリ制御データセットは再構築しなければなりません。

JOURNAL

プライマリ制御データセットが 1 つだけしかなく、ジャーナルが保持されることを指定します。これらのデータセットは回復の用途に用いられます。

ジャーナルには、制御データセットを更新するすべてのトランザクションのレコードが入っています。1 つのホストにつき 2 つのジャーナルがあります。それらのジャーナルを、制御データセット DASD ボリュームとは別の HDA に入れることを推奨します。

SHADOW

回復目的で、制御データセットの 2 つの個別のコピー (プライマリおよびセカンダリ) があることを指定します。それらのデータセットは、別個の HDA および別個の文字列に常駐させることを推奨します。ジャーナルは記録されません。

BOTH

回復目的で、制御データセットの 2 つの個別のコピー (プライマリおよびセカンダリ) とジャーナルがあることを指定します。**デフォルト値は BOTH です。**

STANDBY

回復目的で、プライマリ、セカンダリ、およびスタンバイ制御データセットが記録されるよう指定します。HSC 操作中には、ジャーナルは記録されません。

ALL

すべての制御データセット (プライマリ、セカンダリ、およびスタンバイ) とジャーナルが保持され、回復目的で使用可能になっていることを指定します。

SET TECHNIQUE の手順

次の手順に従って、TECHNIQUE ユーティリティを呼び出し、適切な回復方法値を設定します。

1. 既存の CDS 定義に基づき、後続の SET 回復方法に必要な新規 CDS コピーを ALLOCATE します。
2. SET 回復方法で更新する CDS を使用するすべてのホスト上の HSC を停止します。
3. BACKup ユーティリティを実行します。
4. REStore ユーティリティを実行して、現在の回復方法をサポートするのに必要なすべての CDS コピーを復元します。次の手順で更新する回復方法に新規 CDS コピーが必要な場合は、この復元に含めます。
5. 適切な回復方法値を指定し、SET ユーティリティを実行します。SET ユーティリティでこの回復方法を更新する場合は、古い回復方法または新しい回復方法のいずれかに定義されているすべての CDS コピーに関する DD ステートメントを指定する必要があります。
6. BACKup ユーティリティを再び実行します。このバックアップによって、更新済みの CDS を復元できるようになります。

SET VAULT

SET VAULT を使用すると、サーバー複合体の VAULT 情報を定義できます。この情報は、CDS に保存され、CDS にアクセスするすべてのサーバーの VAULT 情報源になります。

注 – このユーティリティーを初めて使用する前に、SET VAULTVOL ユーティリティーを使用して CDS 内に Vault Volume レコードを作成する必要があります。

インタフェース:	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

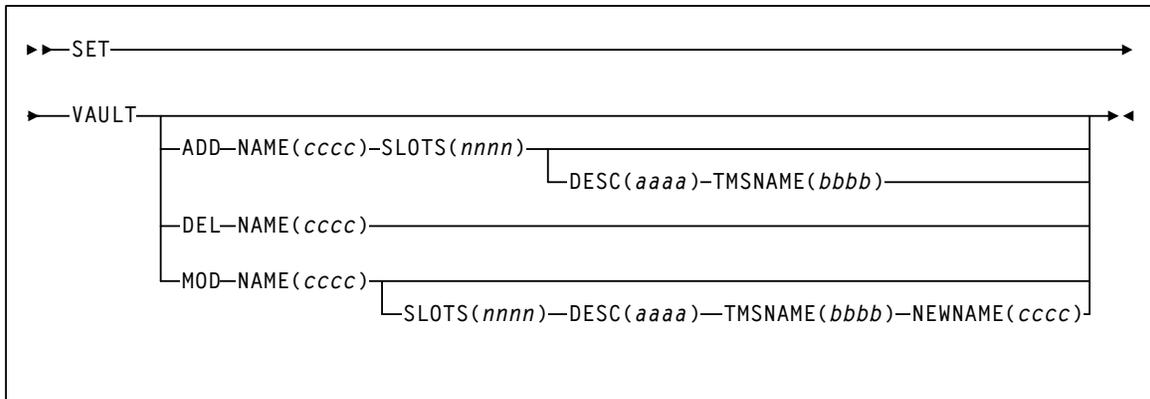


図 3-191 SET VAULT の構文

パラメータ

VAULT

ADD、MOD、DEL

CDS へのボルトの追加、変更、または削除を指定します。SET VAULT 文には、これらのパラメータを 1 つしか指定できません。

NAME

ボルト名を指定します。最大 8 文字指定できます。このパラメータは必須です。

DESC

オプションで、ボルト名の説明を指定します。最大 120 文字指定できます。空白文字が含まれる場合は、値全体を単一引用符で囲む必要があります。このパラメータは、ADD および MOD パラメータでのみ有効です。

NEWNAME

オプションで、ボールド名の新しい名前を指定します。最大 8 文字指定できます。このパラメータは、MOD パラメータでのみ有効です。

TMSNAME

オプションで、TMS Vault 名を指定します。最大 8 文字指定できます。このパラメータは、ADD および MOD パラメータでのみ有効です。

SLOTS

ボールド内のスロット数を指定します。スロット数は 1 - 999,999,999 を指定できます。MOD オプションで指定する場合は、Vault に定義されている現在の SLOTS 数よりも大きい数を指定する必要があります。

このパラメータは ADD オプションで必須です。MOD オプションの場合はオプションです。

注 - すべてのボールドの合計スロット数が、SET VAULTVOL ユーティリティーで設定されている Vault Volume 値を超えてはなりません。

SET VAULTVOL

SET VAULTVOL を使用すると、VAULT ボリューム領域を定義できます。この情報は、CDS に保存され、CDS にアクセスするすべてのサーバーの情報源になります。

注 -

- SET VAULT ユーティリティーを実行する前に、このユーティリティーを実行する**必要があります**。
- SET VAULTVOL ユーティリティーを実行した後、すべてのボールドボリュームレコードを追加、削減、または削除する SET ユーティリティーコマンドはありません。ボールドボリュームレコードの数を増やすには、Merge CDS ユーティリティーを使用して、より多数のボールド済みボリューム数で構成されている CDS に、ボールドとボールド済みボリュームをマイグレーションします。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

```
▶—SET—VAULTVOL—NBRVOLS—(nnnnnn)—▶
```

図 3-192 SET VAULTVOL の構文

パラメータ

VAULTVOL

NBRVOLS

CDS に追加する VAULT ボリューム数を指定します。1 - 9,999,999,999 を指定できません。

注 -

- ボールド用の CDS スペースの計算方法については、『*Configuring HSC and VTCS*』を参照してください。
- ボールドボリューム数は、SET VAULT ユーティリティーで作成した全ボールドの合計スロット数よりも多くなければなりません。

SET VOLPARM

SET VOLPARM ユーティリティで、サーバー複合体のボリュームおよびプール情報を定義します。この情報は、CDS に保存され、CDS にアクセスするすべてのサーバーシステム (ELS 7.0 以上) のボリュームとプールに関する情報源になります。

SET VOLPARM は、VOLUME/POOL 情報を定義する POOLPARM および VOLPARM 制御文から、特定タイプの指定のプールと、その volser 範囲を読み込みます。

SET VOLPARM を実行すると、共通 CDS にアクセスするすべてのサーバーシステム (ELS 7.0 以上) に対して、古いボリュームとプール定義が無効になります。

注 – HSC 6.2 以下のシステムでは、SET VOLPARM データの存在を認識できないため、SET VOLPARM ユーティリティが実行されていないかのように動作を続けます。

SET VOLPARM の実行後、次のコマンドは ELS 7.0 以上のシステムでは無効になります。

HSC:

- VOLDEF
- SCRPDF

VTCS:

- MVCDEF
- CONFIG VTVVOL/MVCVOL

新規ボリュームとプール定義は、HSC/VTCS システムを再起動しなくても有効になります。CDS 複合体に接続されている HSC/VTCS に定義変更が通達され、ボリュームとプール定義は自動的にアクティブになります。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

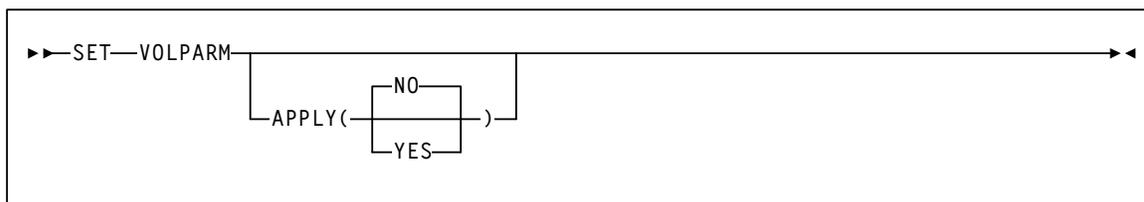


図 3-193 SET VOLPARM の構文

パラメータ

VOLPARM

APPLY

POOLPARM/VOLPARM 定義を CDS に適用するかどうかを指定します。

NO

定義は検証されますが、CDS には適用されません (デフォルト)。

YES

定義が適用されます。YES を指定すると、POOLPARM および VOLPARM 制御文を含む SLSPARM データセットが読み込まれ、CDS に適用されます。

POOLPARM および VOLPARM 制御文は、VOLUME/POOL 情報の特定タイプの指定のプールと、その volser 範囲を定義するもので、SLSPARM データセットに定義されません。

- POOLPARM 文が読み込まれると、次の POOLPARM 文までのすべての後続 VOLPARM が POOLPARM に適用されます。
- 先に POOLPARM が指定されていない状態で VOLPARM 文が読み込まれた場合、VOLSER ボリュームは非サブプール (subpool 0) ボリュームとみなされます。

詳細については、[559 ページの「POOLPARM 制御文」](#) および [564 ページの「VOLPARM 制御文」](#) を参照してください。

その他の JCL 必要条件

[658 ページの「SLUADMIN の起動」](#) に記載されている必要な JCL 定義文に加え、SET VOLPARM JCL には次の定義文が適用されます。

SLSPARM

ボリュームとプールを定義する POOLPARM および VOLPARM 制御ステートメントが含まれているデータセットを指定します。

POOLPARM 制御文

POOLPARM 制御文で、サーバー複合体のプール情報を特定タイプの指定プールによって定義します。

指定した POOLPARM 文に関連付ける 1 つの volser、volser リスト、または volser 範囲は、VOLPARM 文で定義します。

POOLPARM および VOLPARM 文は、SLSPARM データセットに定義されます。SET VOLPARM ユーティリティを使用してロードします。詳細については、[557 ページの「SET VOLPARM」](#)を参照してください。

- POOLPARM 文が読み込まれると、次の POOLPARM 文までのすべての後続 VOLPARM 文が適用されます。
- 前の POOLPARM なしで VOLPARM 文が読み込まれた場合、VOLSER ボリュームは非サブプール (subpool 0) ボリュームとみなされます。

構文

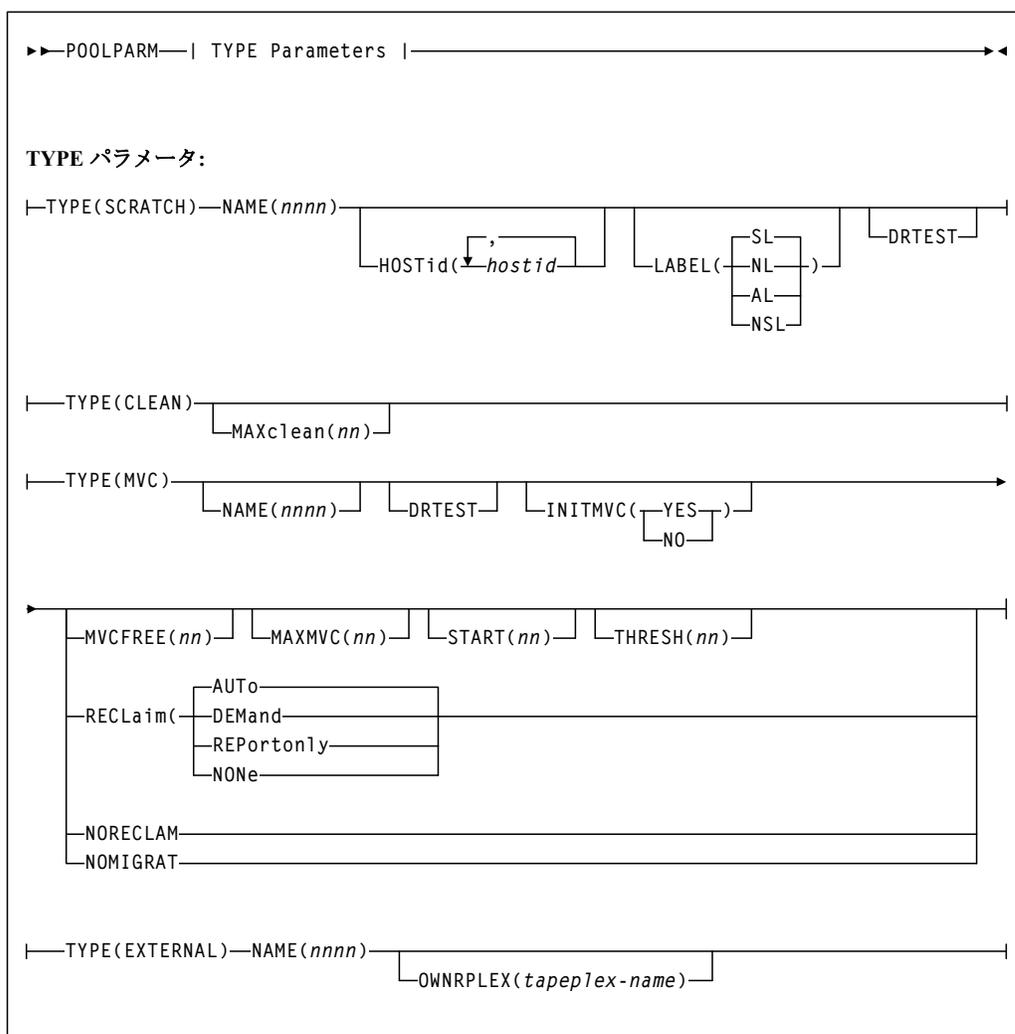


図 3-194 POOLPARM 制御文の構文

パラメータ

TYPE

プール定義のタイプを指定します。有効なタイプは SCRATCH、CLEAN、MVC、および EXTERNAL です。

NAME

ボリュームプール名を指定します。

nnnn

ボリュームプール名。最大 13 文字指定できます。ブランクは使用できません。

- TYPE(SCRATCH) および TYPE(EXTERNAL) プールの場合、NAME は **必須** です。
- TYPE(MVC) プールの場合、NAME は **オプション** です。
- TYPE(CLEAN) プールには、NAME は **指定できません**。

さらに以下が適用されます。

- TYPE(SCRATCH) または TYPE(MVC) には NAME(DEFAULTPOOL) は指定できません。
- TYPE(MVC) には、NAME(ALL) は指定できません。

TYPE(SCRATCH) のサブパラメータ

HOSTid

オプションで、指定したサブプールにアクセスできるホストを定義します。

hostid

ホスト ID。複数ホストのリストを指定でき、各 *host-list* 値はコンマで区切ります。ホストが指定されていない場合は、デフォルトで、すべてのホストが指定されます。

HOSTid で、指定したサブプールからボリュームをマウントするクライアントホストを指定します。HOSTid リストに指定されていないクライアントからマウント要求を受け取った場合、HSC はマウント要求を拒否し、マウントは失敗します。SMC SERVer コマンドで ALIASHOST をしなかった場合は、サブプールにアクセスする MVS ホストの SMFID (4 文字) を指定します。それ以外の場合は、SMC ALIASHOST の指定に一致するホスト名 (最大 8 文字) を指定できます。

LABEL

オプションで、指定のサブプールのラベルタイプを指定します。次のタイプを指定できます。

- SL - 標準ラベル (デフォルト)
- NL - ラベルなし
- AL - ANSI ラベル
- NSL - 非標準ラベル

注 - サブプールが指定されていない場合 (sub-pool 0) は、指定した SUBPOOLS に定義されていないボリュームから、スクラッチボリューム要求が出されるようになります。

DRTEST

オプションで、スクラッチプールが DRTEST 環境で使用されるよう指定します。

TYPE(CLEAN) のサブパラメータ

MAXclean

オプションで、指定したサブプールのクリーニングカートリッジの最大使用率を指定します。メーカーが使用を推奨する値を超える値は指定しないでください。

CLEAN sub-pools で定義したボリュームは、LIBGEN で定義したクリーニングカートリッジの接頭辞で始まらなければなりません。

注 – VOLPARM 文に MAXclean が指定されていない場合は、MNTD オペレータコマンドの MAXclean パラメータの値またはデフォルト値がすべてのクリーニングカートリッジ数に使用されます。

TYPE(MVC) のサブパラメータ

DRTEST

オプションで、MVC プールが DRTEST 環境でのみ使用されるよう指定します。

INITMVC

オプションで、MVC 初期設定機能を有効または無効にします。

YES

MVC 初期設定機能が有効になります。

NO

MVC 初期設定機能が無効になります。

MVCFREE(*nn*)

オプションで、MVC プール中の空き MVC の最小数を指定します。空き MVC とは、100%使用可能なスペースを持ち、マイグレーションされた VTV を含まない MVC のことです。

有効な値は 0 - 255 です。デフォルト値はありません。これを指定しないと、CONFIG RECLAIM 値 (またはデフォルト) が使用されます。

空きMVCがこの値以下になると、VTCSはSLS6616Iメッセージを発行し、自動スペースリクレイム処理を開始します。

MAXMVC(*nn*)

オプションで、1回のリクレイム要求で処理されるMVCの最大数を指定します。有効な値は 1 - 98 です。デフォルト値はありません。これを指定しないと、CONFIG RECLAIM 値 (またはデフォルト) が使用されます。

自動スペースリクレイムが開始されるには、リクレイム処理対象となるMVCの数 (THRESHLDパラメータにより決定される) もまた、MAXMVC値を超えていることが必要です。

START=*nn*

オプションで、各ACSまたはNamed MVCプール(指定した場合)で自動スペースリクレイムが開始されるレベルを指定します。次のパーセント値を指定します。

(リクレイム候補/リクレイム候補 + 空き MVC)* 100

以下はその説明です。

リクレイム候補

CONFIG RECLAIM THRESHLD パラメータによって決定される再生候補の数。

リクレイム候補 + 空き MVC

リクレイム候補数プラス空き MVC の数の合計。

有効な値は 1 - 98 です。デフォルト値はありません。指定されていない場合は、CONFIG

RECLAIM 値 (またはデフォルト) が使用されます。

THRESH(*nn*)

オプションで、MVC が自動再生または強制再生の対象になる領域の断片化率を指定します。有効な値は 4 - 98 です。デフォルト値はありません。これを指定しないと、CONFIG RECLAIM 値 (またはデフォルト) が使用されます。

RECLaim

オプションで、MVCPOOL のスペースリクレイム動作を指定します。

AUTo

VTCS はメッセージ SLS6699E を出力し、自動スペースリクレイムをスケジュールします。リクレイムは RECLAIM コマンドを使用して呼び出すこともできます。これはデフォルトです。

DEMAND

VTCS はメッセージ SLS6699E を出力せず、自動スペースリクレイムをスケジュールしません。リクレイムは RECLAIM コマンドを使用して呼び出すことができます。

RECLaim(DEMAND) は MVCFREE および START と一緒に指定できません。

REPortonly

VTCS はメッセージ SLS6699E を出力しますが、自動スペースリクレイムをスケジュールしません。リクレイムは RECLAIM コマンドを使用して呼び出すことができません。

RECLaim(REPortonly) は、MAXMVC、START、および THRESH と一緒に指定できません。

注 - REPortonly は NORECLAM パラメータと同等で、これに置き換わりますが、RECLaim パラメータが指定されない場合は NORECLAM も許容されます。

NONe

VTCS はメッセージ SLS6699E を出力せず、自動スペースリクレイムをスケジュールしません。リクレイムは RECLAIM コマンドを使用して呼び出すことができません。

RECLaim(NONe) は MVCFREE、MAXMVC、START、および THRESH と一緒に指定できません。

NORECLAM

オプションで、指定の MVCPOOL がスペースリクレイムで使用不可になるよう指定します。

注 – MVCFREE、MAXMVC、THRESH、START パラメータを使用すると、指定したサブプールの CONFIG で指定した値が無効になります。

NOMIGRAT

オプションで、MVCPOOL でマイグレーション MVC を選択できるよう指定します。これにより、MVC 情報を CDS 仮想領域に維持できるようになります。MVC は新規マイグレーションには使用できません。

TYPE(EXTERNAL) のサブパラメータ

OWNRPLEX

オプションで、外部プールのボリュームを所有する TapePlex の名前を指定します。

VTV の場合、これにより、Cross-TapePlex Replication によってインポートされたボリュームを制御します。VTV をインポートするには、送信側システムの TapePlex 名が OWNRPLEX 値と同じでなければなりません。

外部プール内のボリュームをスクラッチするには、OWNRPLEX 名と同じ TapePlex からスクラッチ要求を行う必要があります。TapePlex 名の定義には、SMC TAPEPLEX NAME パラメータと CONFIG TAPEPLEX THISPLEX パラメータを使用します。

OWNRPLEX 名が「LOCALHSC」の外部プールにあるボリュームの場合は、ローカルシステムにスクラッチできます (ただし、ローカルシステム上でスクラッチボリュームとして使用することはできません)。

注 – Cross-Tape Replication の詳細については、『HSC および VTCS の管理』および『ELS Disaster Recovery and Offsite Data Management Guide』を参照してください。

VOLPARM 制御文

VOLPARM 制御文で、サーバー複合体のボリューム属性を定義します。この文で、指定した POOLPARM 文に関連付ける 1 つの *volser*、*volser* リスト、または *volser* 範囲を定義します。

POOLPARM および VOLPARM 文は、SLSPARM データセットに定義されます。SET VOLPARM ユーティリティを使用してロードします。詳細については、[557 ページの「SET VOLPARM」](#)を参照してください。

VOLPARM 文は POOLPARM 文のあとに指定し、該当する POOLPARM にのみ適用されます。

- POOLPARM 文が読み込まれると、次の POOLPARM 文までのすべての後続 VOLPARM 文が適用されます。
- 先に POOLPARM が指定されていない状態で VOLPARM 文が読み込まれた場合、VOLSER ボリュームは非サブプールボリュームとみなされます。

構文

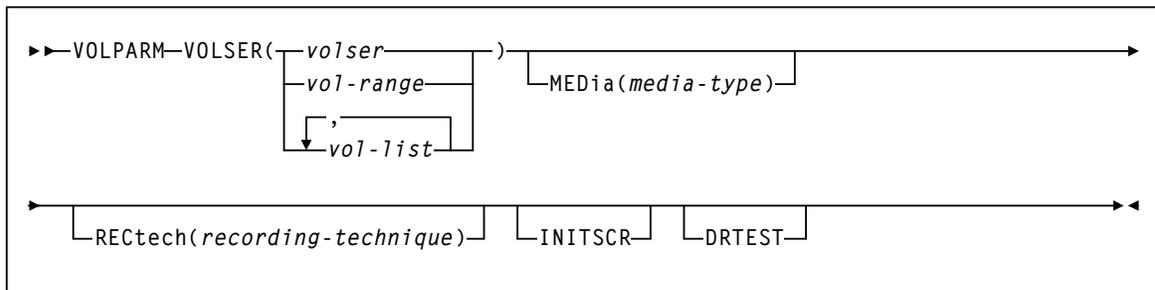


図 3-195 VOLPARM の構文

パラメータ

VOLSER

この定義を適用するボリュームを 1 つまたは複数指定します。

volser または *vol-range* または *vol-list*

1 つの VOLSER、VOLSER の範囲、または VOLSER のリスト。

範囲が重複しないよう注意してください。範囲が重複していると、エラーが発生し、POOLPARM 定義全体が無効になります。

MEDia

オプションで、VOLSER パラメータで指定したボリュームのメディアタイプを指定します。

media-type

メディアタイプです。

有効な *media-type* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

注 -

- 特定のメディアタイプのみを入力できます。汎用メディアタイプ (LONGitud および HELical) は指定できません。
 - 一致する VOLPATTR 文によってこのパラメータが指定されていない場合は、RECtech パラメータの値に基づいて、デフォルトが選択されます。[698 ページの表 A-2](#) は、MEDia が省略されている場合のデフォルト値を示します。
 - メディアタイプと記録方式の両方が省略されている場合は、すべてのメディアタイプと記録方式が有効とみなされます。常にすべての VOLATTR 文で MEDia を指定することをお勧めしています。
-

RECtech

オプションで、VOLSER パラメータで指定したボリュームのメディアへのデータ記録方式を指定します。

recording-technique

記録方式です。

有効な *recording-technique* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

一致する VOLPARM 文でこのパラメータが指定されていない場合は、MEDia パラメータの値に基づいて、デフォルトが選択されます。[703 ページの表 A-4](#) は、RECtech が省略されている場合のデフォルト値を示します。

INITSCR

オプションで、VIRTUAL ボリュームの初期状態が SCRATCH になるよう指定します。

INITSCR パラメータは MEDIA(VIRTUAL) または RECTECH(VIRTUAL) ボリュームにのみ有効です。INITSCR に意味を持たせるには、まず VTV を定義する必要があります。

DRTEST

オプションで、指定範囲のボリュームが DRTEST 環境で**のみ**使用されるよう指定します。DRTEST パラメータを有効にするには、最初の POOLPARM 文の前に VOLPARM 文を定義する必要があります。

SRVlev

SRVlev コマンドを使用すると、HSC サービスレベルを設定できます。BASE および FULL サービスレベルの詳細は、63 ページの「HSC サービスレベル」を参照してください。

インタフェース:	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

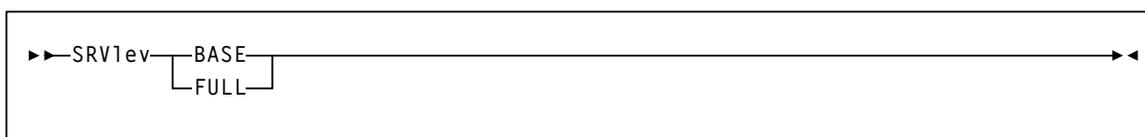


図 3-196 SRVlev の構文

パラメータ

BASE

HSC が BASE サービスレベルで動作するよう指定します。

注 – HSC サービスレベルが BASE に下がると、LMU 方式を使用しているホスト間通信が CDS 方式に切り替えられます。HSC FULL サービスレベルに復元されたときは、必ず COMMPATH コマンドを出して LMU 通信に戻る必要があります。

FULL

HSC が FULL サービスレベルで動作するよう指定します。

注 – HSC サービスレベルを BASE から FULL に上げた場合は、未完了のマウント要求が解決されます。

STOPMN

STOPMN コマンドは、プログラム式インタフェースから受け取ったカートリッジ移動要求の監視を終了します。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

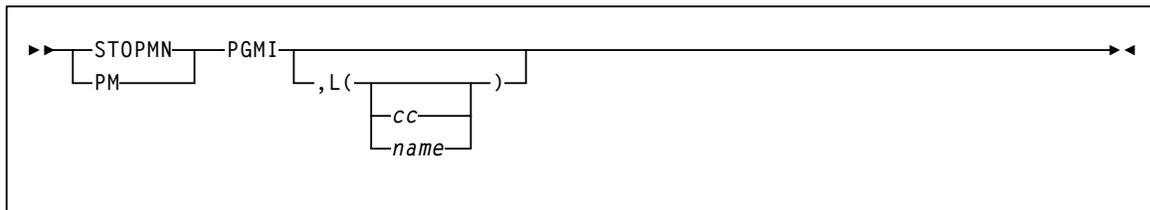


図 3-197 STOPMN の構文

パラメータ

PGMI

プログラム式インタフェースからのカートリッジ移動要求の監視を終了するように指定します。

L

オプションで、監視情報が表示されるコンソールを指定します。このパラメータを省略するか、またはコンソール ID やコンソール名を入れずに L= を指定すると、コマンド発行元のコンソールに表示されていた監視が終了します。

cc

コンソール ID (省略可能)。指定できる値は、00 から 99 までの範囲の 10 進数です。

00 を指定すると、情報がハードコピーログに明示的に送られるのを抑止します。

name

コンソール名 (省略可能)。

SWitch

SWitch コマンドは手動で使用することができ、マスター LMU とスタンバイ LMU、またはマスター LC (ライブラリコントローラ) とスタンバイ LC の役割を逆にします。この切り替えに対応している構成は次のとおりです。

- デュアル LMU
- SL8500 デュアル LC (ライブラリコントローラ)

デュアル LMU 環境では、このコマンドはマスター LMU で IPL を開始します。これにより、現在のスタンバイ LMU がマスター LMU になります。前のマスター LMU が IPL を正常に完了すると、今度はスタンバイ LMU の役割を果たすようになります。

SL8500 の複数ライブラリ ACS のデュアル LC 構成では、SWitch コマンドはライブラリ ID ごとにライブラリの LC を切り替える要求を LMU に出します。

注意 – SWitch コマンドを入力する前に Display Acs コマンドを発行して、切り替え対象のライブラリに、スタンバイ用に割り当てられた TCP/IP アドレスまたはホスト名が含まれていることを確認してください。含まれていない場合は、HSC がライブラリと通信できなくなるため、ライブラリの切り替えは行わないでください。

注 –

- このリリースでは、SL8500 ライブラリだけがデュアル LC 切り替えに対応しています。
 - 自動切り替えが行われる場合 (LCA から LCB、またはその逆など)、LC に問題が発生しているはずですが、この場合、LCA にネットワークまたは通信に関する問題があれば、HSC はその LCA 接続に対してネットワークの回復を開始します。接続を回復または修正できない場合は、SWitch コマンドを発行して手動で LCA から LCB への切り替えを行なってください。
 - ライブラリがパーティション化されている場合は、SWitch コマンドを発行する前に、他のホストソフトウェアグループ (ACSLs、HSC、ELS) が同じライブラリ内の他のパーティションを使用していることに注意してください。
-

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

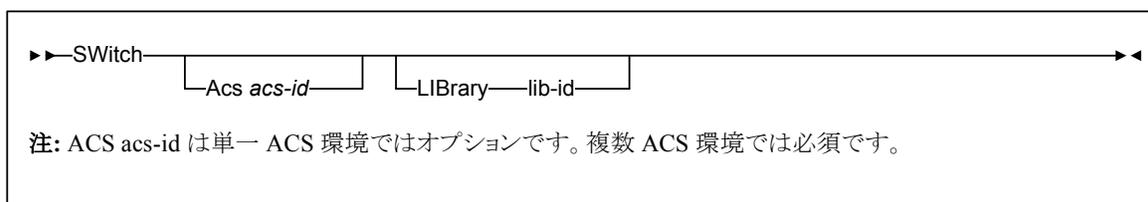


図 3-198 SWitch の構文

パラメータ

Acs

オプションで、ACSid が指定されたことを示します。**複数 ACS 環境**構成の場合、または *acs-id* を指定する場合、このパラメータは必須です。

acs-id

現在アクティブになっている接続をスタンバイに切り替え、スタンバイ接続をアクティブな接続としてオンラインにする必要がある ACS。

注 -

- 単一 ACS 構成では、Acs *acs-id* はオプションで、デフォルトとして ACS 00 をとります。
- *acs-id* がデフォルトで 00 になっているか、他のパラメータなしで指定されている場合、ACS のアクティブな接続はすべてスタンバイに切り替えられ、スタンバイ接続はアクティブに切り替えられます。

LIBrary

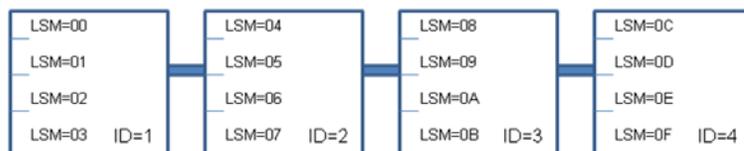
オプションで、接続の切り替え対象となる SL8500 ライブラリ ID を指定します。このパラメータは、**SL8500 ライブラリにのみ適用**されます。

lib-id

1 - 9 または A - G のライブラリ ID。

SL8500 の 4 ライブラリ ACS クラスタの場合、次に示すように、各ライブラリに 1 - 4 の ID が割り当てられます。

SL8500 ACS



ACS では、A と B の LC (ライブラリコントローラ) 接続を含む最大 16 のライブラリ接続を指定できます。初期リリースでは、1 つのライブラリ (ID 1 を推奨) にだけ A と B の LC 接続を指定できます。他のライブラリには、単一 LC 接続を指定できます。各 LC では、デュアル TCP/IP (2B と 2A) を処理できます。次の表に、LSM ID とライブラリ ID の相関関係を示します。

ライブラリ ID	LSM ID の範囲	ライブラリ ID	LSM ID の範囲
1	00-03	9	20-23
2	04-07	A	24-27
3	08-0B	B	28-2B
4	0C-0F	C	2C-2F
5	10 - 13	D	30-33

ライブラリ ID	LSM ID の範囲	ライブラリ ID	LSM ID の範囲
6	14-17	E	34-37
7	18-1B	F	38-3B
8	1C-1F	G	3C-3F

注 -

- このコマンドを発行する前に、Display ACS *acs-id* コマンドを使用して、切り替え対象のライブラリに、スタンバイに割り当てられた TCP/IP アドレスまたはホスト名が含まれているかどうかを確認してください。スタンバイに割り当てられた TCP/IP アドレスまたはホスト名がない場合は、HSC がライブラリと通信できなくなるため、ライブラリの切り替えは行わないでください。
 - 切り替えが行われる場合 (LCA から LCB など)、LC に問題が発生しているはずで
す。たとえば、LCA にネットワークまたは通信に関する問題がある場合、HSC はそ
の LCA 接続に対してネットワークの回復を開始します。接続を回復または修正でき
ない場合は、HSC SWitch コマンドを発行して手動で LCA から LCB への切り替えを
行なってください。
 - ライブラリがパーティション化されている場合は、SWitch コマンドを発行する前
に、他のホストソフトウェアグループ (ACSLs、HSC、ELS) が同じライブラリ内の
他のパーティションを使用していることに注意してください。
-

例

次の例は、SWitch コマンドの使用例を示しています。

ACS 00 の制御をスタンバイ ACS に切り替える場合

```
SWITCH ACS 00
```

ACS 00 の制御をスタンバイライブラリに切り替える場合

```
SWITCH ACS 00 LIB 1
```

TRace

TRace コマンドを使用すると、選択した HSC および VTCS コンポーネントのイベントの追跡を有効または無効にできます。

MVS GTF GTRACE 機能が実際の追跡を行います。イベントの GTF 出力を作成するには、イベントが起こる前に TRace コマンドを発行する必要があります。

インタフェース :	UUI - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

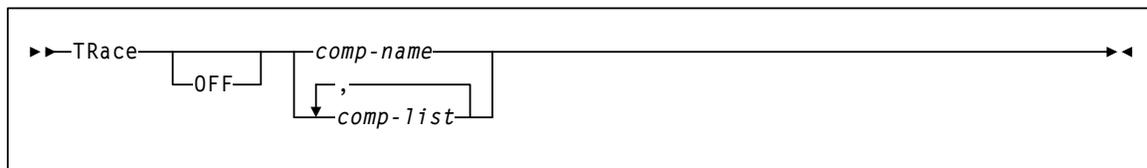


図 3-199 TRace 構文

パラメータ

OFF

指定されたコンポーネントのトレースをオフにします。

comp-name または *comp-list*

追跡を有効にする 1 つまたは複数のコンポーネント。複数のコンポーネント名のリストを指定する場合は、識別名を空白またはコンマで区切ってください。

有効なコンポーネント名は次のとおりです。大文字は、使用できる最短の省略形を示します。

ALloc	割り振りボリューム検索
AScomm	アドレス空間通信
CAp	CAP 共通
COnfigur	構成制御
Databse	データベースサーバー
FP	機能ポイント 注: FP のトレースは、Oracle の開発者だけが使用できます。
HComm	ホスト通信
Initiali	初期設定

Lmu	LMU サーバー
LS	LibraryStation
Mount	マウント/ディスマウント
Operator	オペレータコマンド
Recovery	Recovery (注: SERvice もトレースする必要があります)
SERvice	Services
Utilitie	ユーティリティ
UII	統合ユーザーインタフェース
Volume	ボリューム/セル
VTcs	VTCS
Wto	WTO サービス
XMI	XML インタフェース

注 -

- 1 つ以上の HSC を対象に追跡を有効または無効にした場合は、すべてのコンポーネントの追跡状況が表示されます。
 - デフォルトでは、すべての TRace コマンド出力は GTF に送られます。たとえば LMU をトレースして出力を GTF に送るには、TR LMU を発行します。ほかのパラメータは必要ありません。
 - Recovery コンポーネントをトレースする場合は、SERvice コンポーネントもトレースする必要があります (Service は Recovery をトレースするのに使用されます)。
 - LS コンポーネントは、LibraryStation が初期化されている場合にのみ、メッセージ SLS0068I 内に表示されます。
-

TRACELKP

TRACELKP コマンドは、HSC 定義のファイルに関連する LOOKUP イベントのトレースを使用可能または使用不可にします。GTF GTRACE 機能を使用して、トレースを実行します。

インタフェース:	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

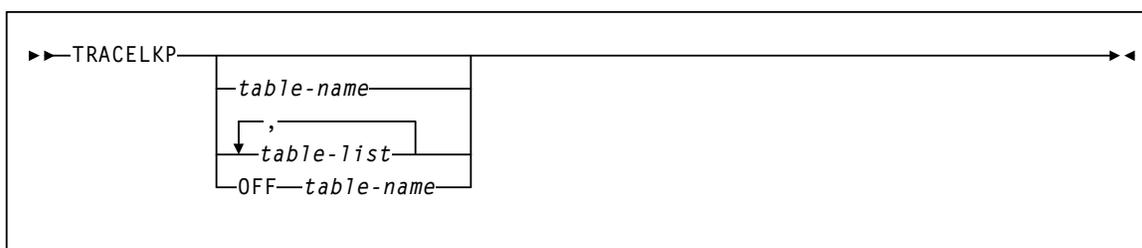


図 3-200 TRACELKP の構文

パラメータ

OFF

指定されたコンポーネントのトレースをオフにします。

table-name または *table-list*

追跡を有効または無効にする 1 つ以上の LOOKUP 定義ファイル。イベント名のリストを指定する場合は、空白またはコンマで区切ってください。

注

- 1 つ以上のファイルについて LOOKUP トレースが使用可能または使用不可の場合、すべての LOOKUP トレースの状態が表示されます。
- すべての LOOKUP トレースの出力は、GTF に送られます。

使用可能な LOOKUP テーブル名は次のリストのとおりです。大文字は使用できる最短の省略形を示します。

VOLATTR	VOLATTR (VOLDEF) テーブル
LMUPATH	LMUPATH (LMUPDEF) テーブル
MVCPPOOL	MVCPPOOL (MVSPDEF) テーブル

MGMTCLAS	MGMTCLAS (MGMTDEF) テーブル
STORCLAS	STORCLAS (STORDEF) テーブル
LOOKFAIL	LOOKUP エラーを詳細に追跡します。LOOKFAIL を指定した場合、ON になっているすべてのイベントについて、詳細なエラーのトレースレコードが出力されます。
MIGRSEL	MIGRSEL (MGMTDEF) テーブル
MIGRVTV	MIGRVTV (MGMTDEF) テーブル

UEXIT

UEXIT コマンドで、ユーザー出口の HSC 処理を定義します。

HSC ユーザー出口を使用すると、HSC 処理中の特定の時期にユーザー独自の処理ルーチンを呼び出せるようになります。HSCが制御するユーザー出口は、HSC の初期設定時に DDNAME SLSUEXIT によって識別されたロードライブラリからロードされます。次のユーザー出口は、EXIT コマンドを使用して HSC によって管理されます。

- SLSUX03
- SLSUX05
- SLSUX06
- SLSUX14
- SLSUX15

UEXIT コマンドを使用すると、ユーザー出口が無効な状態で HSC を起動し、HSC の稼働中いつでも出口を有効にできます。ユーザー出口が予想どおりに実行されない場合は、必要な変更を行ってからユーザー出口を再度ロードしてください。

UEXIT コマンドを使用すると、オプションで固有のユーザー出口ロードモジュール名を提供することができ、別の時間に実行できる異なるバージョンのユーザー出口を作成することができます (たとえば、昼間と夜間のシフト)。ロードモジュールは、HSC 起動時に記述されるユーザー定義のロードモジュールライブラリに入っています。

注 -

- ユーザー出口 03 と 05 は、レガシーインタフェースです。ユーザー出口が不要な別の機能に置き換えられています。
 - ユーザー出口 03 は、HSC 初期設定時に使用可能になります。このユーザー出口は、UEXIT コマンドで有効、無効、または再ロードすることはできません。
-

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

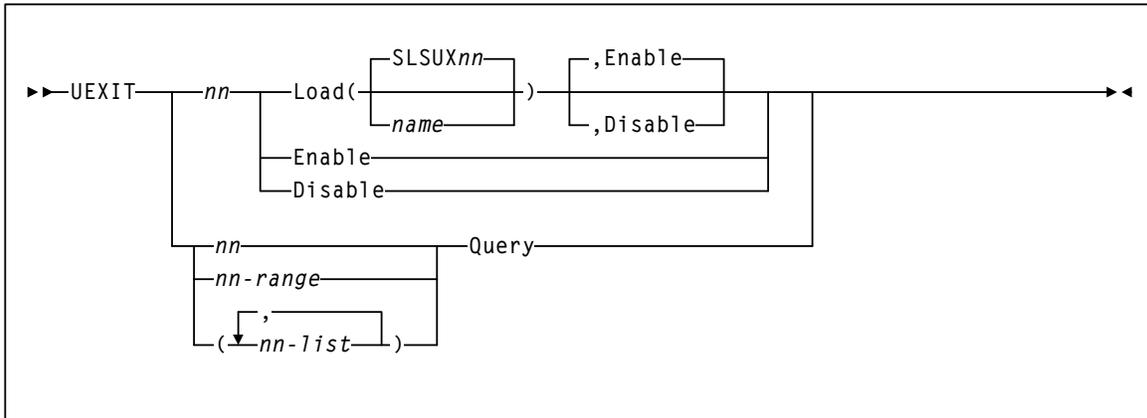


図 3-201 UEXIT の構文

パラメータ

nn

ユーザー出口の番号を指定します。ユーザー出口の詳細については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。

Enable

オプションで、指定されたユーザー出口 (*nn*) の最新のモジュールを有効にすることを指定します。このパラメータは、*Load* パラメータで使用することもできます。

Disable

オプションで、指定されたユーザー出口 (*nn*) の最新のモジュールを無効にすることを指定します。このパラメータは、*Load* パラメータで使用することもできます。

Load

指定されたモジュールが記憶デバイスにロードされます。

SLSUX*nn*

ユーザー出口のデフォルト名を指定します。*name* を指定しない場合は、HSC がモジュールを記憶域にロードするときに省略時名が使用されます。

name

この出口に使用するモジュール名。これはロードモジュールをリンクエディットするために使用する入口点の名前です。

Enable

コマンドの完了時に指定された出口がアクティブとみなされることを示します。Enable はデフォルト値です。

Disable

コマンドの完了時に指定された出口が非アクティブとみなされることを示します。

nn または *nn-range* または *nn-list*

Query パラメータと一緒に使用して、単一ユーザー出口、ユーザー出口の範囲、またはユーザー出口のリストを指定することができます。

ユーザー出口番号の範囲を指定する場合は、最初の番号と最後の番号をハイフンで区切る必要があります。

例: (04-09)

ユーザー出口のリストでは、ユーザー出口番号は必ずカンマで区切り、リストをここで閉じる必要があります。

例: (01,04,10)

Query

現在ロード済みの指定されたユーザー出口番号のバージョンすべての状況を要求します。ユーザー出口状況の表示は、単一ユーザー出口、ユーザー出口の範囲、またはユーザー出口のリストについて指定することができます。

UNSCratch

UNSCratch コマンドは、1 つまたは複数のボリュームのスクラッチを解除します。

インタフェース :	UII - すべて
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

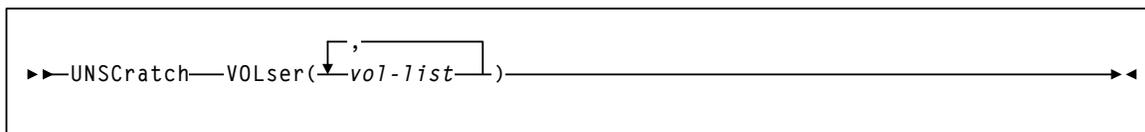


図 3-202 UNSCratch の構文

パラメータ

VOLser

スクラッチリストに追加、削除、または置き換えるボリュームシリアル番号のリストを指定します。

vol-list

ボリュームシリアル番号です。単一のボリューム、ボリュームシリアル番号のリスト、またはボリュームシリアル番号の範囲、またはコンマで区切ったリストと範囲の組み合わせを指定できます。リスト全体は括弧で囲む必要があります。

UNSElect

UNSElect コマンドを使用すると、誤って選択されているボリュームの選択を解除できます。

インタフェース :	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

注 -

- このユーティリティーは、HSC によって誤ってボリュームが選択されたままになっている場合のみ使用してください。このユーティリティーの使用を誤ると、HSC が異常終了し、ボリュームがエラント状態になります。

問題のあるボリュームが含まれているホストを判断するには、**Display Volume DEtail** コマンドを発行します。次に、問題のあるボリュームが含まれているホストで **Display DRives** および **Display Requests** コマンドを発行し、ボリュームが使用されているかどうか確認します。

選択したボリュームがトランスポートにマウントされている場合は、該当するトランスポートに **DISMount** コマンドを発行します。ボリュームの **LMU** に対してアクティブな要求がある場合は、要求が完了するまで待ちます。遅延応答ハンドラに要求がタイムアウトしていることが表示されている場合は、要求を中止します。

- UNSElect 機能呼び出すには、APF が許可 (キー 0 - 7) または監視プログラム状態であればなりません。UNSElect によってロードモジュール **SLUNSEL** が呼び出されます。このモジュールへのアクセスを制限すると、このユーティリティーの機能へのアクセスが制限されます。

構文

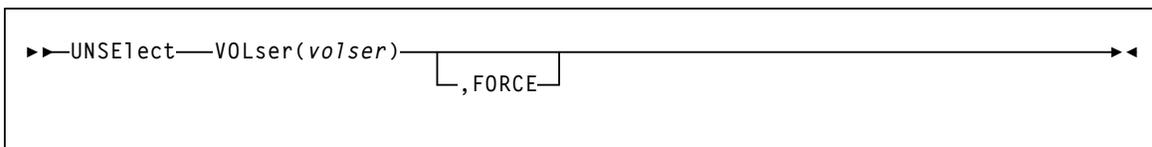


図 3-203 UNSElect の構文

パラメータ

VOLser

選択解除する VOLSER を指定します。

volser

選択解除する VOLSER です。

FORCE

オプションで、選択されているボリュームを含むホストとの通信が確立されない場合でも、ボリュームを選択解除するよう指定します。

Vary

Vary コマンドを使用すると、次のオンライン/オフライン状態を変更できます。

- ACS またはステーション
- CLINK
- PATH
- RTD
- VTSS

インタフェース :	<ul style="list-style-type: none">• コンソールまたは PARMLIB (Vary ACS)• コンソールまたはユーティリティー、UI All (Vary CLINK、RTD、または VTSS)
サブシステムの必要条件	<ul style="list-style-type: none">• FULL サービスレベルのHSC の稼働(Vary ACS)• アクティブな HSC/VTCS (Vary CLINK、RTD、または VTSS)

構文

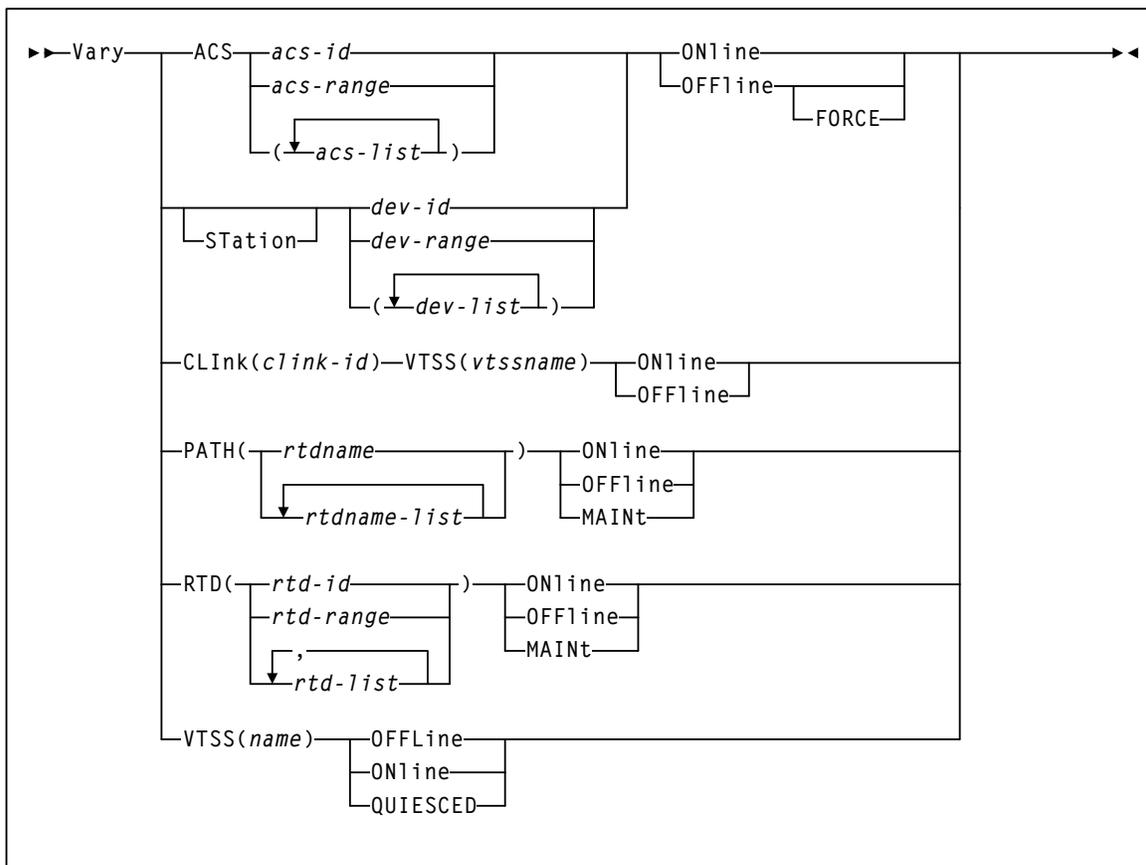


図 3-204 Vary の構文

パラメータ

ACS

このホストに対してオンライン、オフラインまたはスタンバイにする ACS を指定します。

acs-id または *acs-range* または *acs-list*

変更対象の 1 つ以上の ACS。*acs-list* の各要素は、単一の ACSid または ACSid の範囲のどちらでもかまいません。範囲は、ダッシュで区切ります。リスト内の各要素はコンマまたはブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

STation

任意選択により、このホストに対してオンライン、オフラインまたはスタンバイにするステーションを指定します。

ACS では、ホスト CPU と LMU の間の接続は、「ステーション」と呼ばれています。ホスト CPU は各ステーションを 3278-2 デバイスとみなし、各ステーションはサポートされている 3174、3274 または互換性のある端末制御機構上のポートに物理的に接続されています。各 LMU には、最大 16 個のステーションを装備できます。ACS に接続されたホスト CPU の数によって、各ホスト CPU は各 LMU に対して 1 個または複数のステーションを備えることができます。

dev-id または *dev-range* または *dev-list*

変更対象の LMU へのステーション。*devlist* の各要素は、単一のデバイス番号またはデバイス番号の範囲のどちらでもかまいません。範囲はダッシュで区切ります。リスト内の各要素はコンマまたはブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。

各デバイス番号は、コマンドを出しているホストに接続されたデバイスを識別します。許容値は、000からFFFです。

ONline

ステーションをこのホストに対してオンラインまたはスタンバイになるよう指定します。

OFFline

ステーションをこのホストに対してオフラインになるよう指定します。

FORCE

任意指定で、ステーションが即座にオフラインになるよう指定します。HSC が完全サービスレベルの場合、または基本サービスレベルから完全サービスレベルに移行中の場合、FORCE オプションを指定できます。

このパラメータは、OFFline オペランドにのみ適用されます。

CLInk

指定された CLINK

clink-id

リンク ID。

VTSS

クラスタ内の送信側VTSS

vtssname

送信側VTSSの1から8文字までの識別子

ONline

指定したCLINKをオンラインにします。

OFFline

指定したCLINKをオフラインにします。

MAINT

指定のパス (VTSS から RTD) をオフライン (保守モード) 状態にします。

PATH

オプションで、このホストに対してオンライン、オフライン、またはスタンバイにするパス (VTSS から RTD) を指定します。これにより、VTSS からデバイスへの個別のRTDPATHを適切な状態に変えることができます。このパスでは、VTSS から RTD への直接接続か、仮想ライブラリへの接続を表すことができます。

rtdname* または *rtdname-list

VTSS から RTD または仮想ライブラリにアクセスするためのパスに割り当てられた名前。

ONline

指定のパス (VTSS から RTD) をオンライン状態にします。

OFFline

指定のパス (VTSS から RTD) をオフライン状態にします。

MAINT

指定のパス (VTSS から RTD) をオフライン (保守モード) 状態にします。

RTD

指定したRTDの状態を変更します。

rtd-id*、*rtd-range*、または *rtd-list

1つ以上のRTDのデバイスアドレス。RTDのリストと範囲は、VSM2およびVSM3については64項目、VSM4については256項目に制限されています。

ONline

指定のRTDを接続先VTSSに対してオンライン状態にします。

OFFline

指定のRTD接続先VTSSに対してオフライン状態にします。

MAINT

指定のRTDを接続先VTSSに対してオフライン (保守モード) 状態にします。

VTSS

指定したVTSSの状態を変更します。

name

VTSS識別子

OFFline

指定したVTSS をオフラインにします。

ONline

指定したVTSS をオンラインにします。

QUIESCED

指定したVTSS をQUIESCEDにします。

注 – Vary VTSSは、指定されたVTSSと連動するVTDまたはRTDの状態を変更しません。

View

LSM にビデオモニターを接続し、View コマンドを使用すると、LSM 内の指定のコンポーネントを表示できます。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

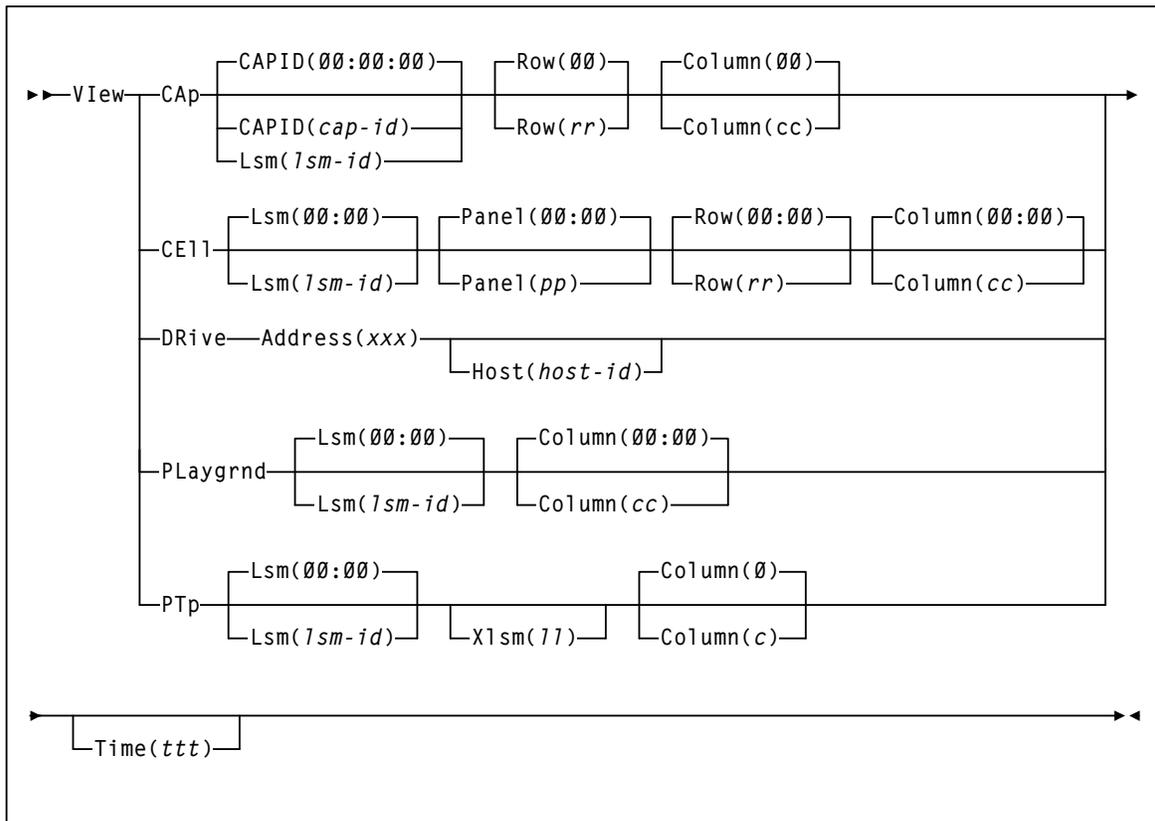


図 3-205 View の構文

パラメータ

CAP

カメラが CAP 内のセルロケーションに焦点を当てることを示します。CAPID または Lsm パラメータを指定しない場合、コマンドはデフォルトで CAPid 00:00:00 をとります。Row および Column の各パラメータのいずれも指定しない場合は、コマンドはデフォルトで、行 0、列 0 になります。

CAPID

複数の CAP が含まれる LSM 内の 1 つの CAP を識別します。

cap-id

表示対象の CAP です。cap-id の形式は AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は CAP です。有効値のリストについては、[707 ページの「CAP の値」](#)を参照してください。

Lsm

単一の CAP が含まれる LSM を識別します。

lsm-id

表示対象の 1 つの CAP です。lsm-id の形式は AA:LL で、AA は ACSid (16進数 00-FF)、LL は LSM 番号 (16進数 00-17) を示します。

Row

CAP 内の行番号を識別します。このパラメータを指定しないと、コマンドは省略時値として 0 をとります。

rr

行番号。rr に使用できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。有効値のリストについては、[710 ページの「行の値」](#)を参照してください。

Column

CAP 内の列番号を識別します。このパラメータを指定しないと、コマンドは省略時値として 0 の列をとります。

cc

列番号。cc に使用できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。列は、パネルの左を先頭に番号付けされます。有効値のリストについては、[711 ページの「列の値」](#)を参照してください。

CELL

カメラがカートリッジストレージまたは LSM パネル内の診断セルに焦点を当てることを示します。Lsm、Panel、Row、および Column の各パラメータのいずれも指定しない場合は、コマンドはデフォルトの LSM 00:00、パネル 0、行 0、列 0 になります。

Lsm

LSM を識別します。このパラメータを指定しないと、コマンドは省略時値として LSMid 000 をとります。

lsm-id

LSMid です。lsm-id の形式は AA:LL で、AA は ACSid (16 進数 00-FF)、LL は LSM 番号 (16 進数 00-17) を示します。

Panel

カメラが表示するカートリッジストレージまたは診断セルが含まれる LSM パネル番号を指定します。このパラメータを指定しないと、コマンドは省略時値としてパネル 0 をとります。

pp

パネル番号。pp に使用できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。有効値のリストについては、[709 ページの「パネルの値」](#)を参照してください。

Row

LSM パネルの行番号を識別します。このパラメータを指定しないと、コマンドは省略時値として 0 をとります。

rr

行番号。rr に使用できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。有効値のリストについては、[710 ページの「行の値」](#)を参照してください。

注 -

- パネル 2 の列 3 では、行 28 から 41 のみが指定できます。
 - パネル 3 のセルは任意指定です。
-

Column

パネル内の列番号を識別します。このパラメータを指定しないと、コマンドは省略時値として 0 の列をとります。

cc

列番号。cc に使用できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。列は、パネルの左を先頭に番号付けされます。有効値のリストについては、[711 ページの「列の値」](#)を参照してください。

DRive

カメラがカートリッジドライブに焦点を当てることを示します。ドライブを識別するには、**Address**パラメータを**必ず**指定してください。**Host**パラメータを使用すると、別のホストに定義されたドライブを表示させることができます。

Address

カートリッジドライブのアドレスを指定します。**Address**パラメータは、検査したいトランスポートのオペレーティングシステムアドレスを定義します。

xxx

トランスポートの 16 進アドレスです。**HSC** は、指定されたアドレスが、所定のホストの **LIBGEN** 定義アドレスと一致していることを検証します。

Host

検査しているドライブが **Vlew** コマンドを入力したホストの **LIBGEN** に定義されていないときに **Address**パラメータに意味を与えます。

Host パラメータを指定しないと、**HSC** は、**Vlew** コマンドを入力したホストの **LIBGEN** 定義のドライブリストを検査します。ドライブリスト内でアドレスを検出すると、コマンドが実行されます。

host-id

トランスポートが定義されているホスト。

PLaygrnd

カメラがプレイグラウンドセルに焦点を当てることを示します。**Lsm**パラメータと**Column**パラメータを指定しない場合、コマンドは省略時値として**LSM 00:00**のプレイグラウンド内のセルの相対位置をとります。

注 – プレイグラウンドはセルの予約域で、ロボットが **LSM** 初期設定中にハンド内で見つけたカートリッジを置く場所です。通常の**LSM**初期設定回復処理では、プレイグラウンドセルからホームセルへ、あるいは予定した宛先にカートリッジが移動するが、異常環境下ではカートリッジはプレイグラウンド内に残る。**LSM**内のプレイグラウンドの位置については、該当する **Oracle StorageTek** ハードウェアに関する文書を参照してください。

Lsm

LSM を識別します。このパラメータを指定しないと、コマンドは省略時値として**LSMid 000**をとります。

lsm-id

LSMid です。*lsm-id*の形式は**AA:LL**で、**AA**は**ACSid** (16進数00-FF)、**LL**は**LSM**番号 (16進数00-17) を示します。

Column

パネルのプレイグラウンド内のセルの相対位置を識別します。このパラメータを指定しないと、コマンドの省略時値としてプレイグラウンド内のセルの相対位置をとります。

cc

プレイグラウンド内のセルの相対位置。*cc*に使用できる値は 10 進数で、**LSM**タイプに固有です。(複数のプレイグラウンドのセルを持つ **LSM** もあれば、1 つしか持たない **LSM** もあります。)

PTp

カメラがパススルーポート (PTP) セルに焦点を当てることを示します。Lsmパラメータと Xlsmパラメータを使って特定の PTP、または Columnパラメータを使って特定のセルをそれぞれ指定することもできますし、Timeパラメータを使って表示時間を指定することもできます。

Lsm

LSM を識別します。このパラメータを指定しないと、コマンドは省略時値として LSMid 000 をとります。

lsm-id

LSMid です。lsm-idの形式はAA:LLで、AAはACSid (16進数00-FF) 、LLはLSM番号 (16進数00-17) を示します。

Xlsm

PTP を共有する LSM を定義することによって、検査される PTP を識別します。

各 PTP は、PTP がサービスを提供する 2 つの LSM によって識別されます。Lsmパラメータは、どのロボットを使って PTP を表示させるかを識別し、Xlsmパラメータは、PTP を共有する LSM を識別します。この区別は、LSM に複数の PTP が含まれるときに必ず必要です。

複数の PTP を含む LSM に Xlsm を指定しないと、HSC が LIBGEN を検査して、最初に定義された PTP を Lsm (*lsm-id*) 用に選択します。

ll

隣接する LSM の LSM番号。ll の値は 00 - 17 の範囲内の 16 進数です。(ACS は Lsm パラメータ内で識別されます。)

Column

パネル内の列番号を識別します。このパラメータを指定しないと、コマンドは省略時値として 0 の列をとります。

c

列番号。c に使用できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。

- LSM モデル 4410、モデル 9310、およびモデル 9740 の場合は 0 から 3
- WolfCreek LSM (全モデル) の場合は 0 または 1

注 – PTP が2つの異なる LSM タイプで共有されている場合は、列の上限値は PTP の容量が比較的少ない LSM によって決定されます。

VOLPCONV

VOLPCONV コマンドを使用すると、既存の VOLDEF、SCRPFDEF、MVCDEF、and VTCS CONFIG 入力文を読み込み、SET VOLPARM 文に変換できます。既存の VTCS 構成もこのユーティリティーの入力値です。

インタフェース:	SLUADMIN ユーティリティーのみ
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

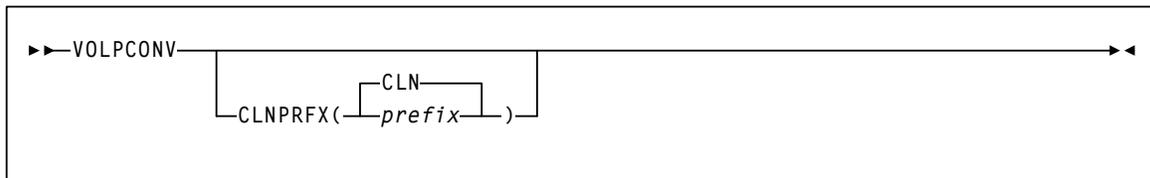


図 3-206 VOLPCONV 制御文の構文

パラメータ

CLNPRFX

全タイプのクリーニングカートリッジに適用する接頭辞を指定します。

prefix

3 文字の接頭辞。デフォルト値は CLN です。

そのほかの JCL 必要条件

658 ページの「[SLUADMIN の起動](#)」に記載されている必要な JCL 定義文に加え、VOLPCONV JCL には以下の定義文が適用されます。

SLSVOLA

入力 VOLDEF 定義 (VOLATTR 文形式)。

注 – SERIAL パラメータ内でマスク文字 (%、?、または *) でコード化された VOLATTR 文はサポートされず、メッセージ SLS0227I が発行されます。VOLPCONV を実行する前に、マスク文字を含む VOLATTR 文を、マスク文字の使用目的の範囲に変換する必要があります。

SLSSCRP

入力 SCRPEDEF 定義 (SCRPOOL 文形式)。

SLSMVCP

入力 MVCDEF 定義 (MVCPOOL 文形式)。

SLSVTCS

入力 VTCS 構成定義。VTCS 構成定義を取得するには、VTCS DECOM ユーティリティを実行します。

SLSPARM

出力 VOLUME/POOL 定義 (POOLPARM および VOLPARM 制御文形式)。
SLSPARM データセットの論理的なレコードサイズは 80 です。

VOLRpt

VOLRpt コマンドを実行すると、ボリュームレポートが生成されます。

インタフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

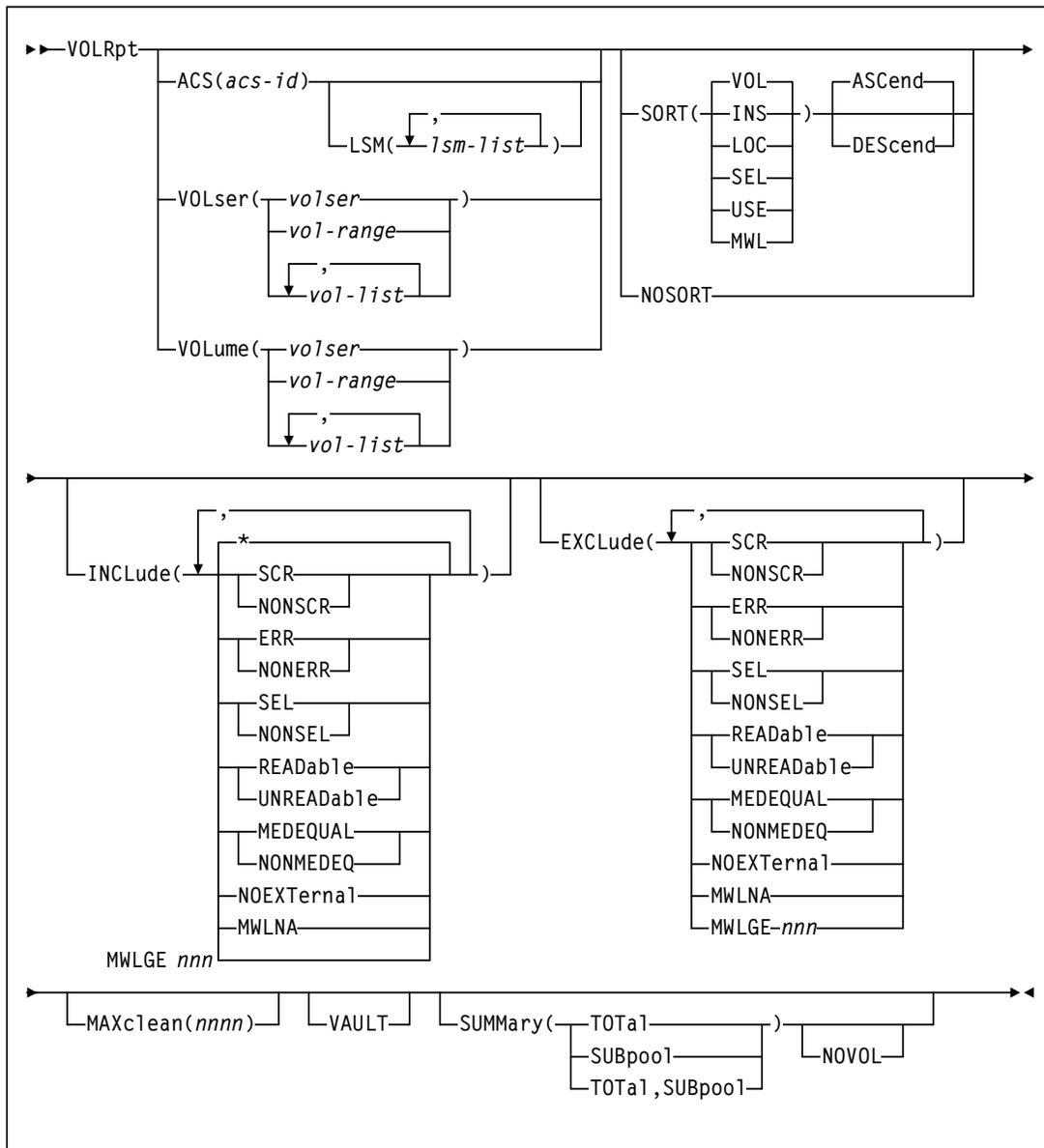


図 3-207 VOLRpt の構文

パラメータ

ACS

オプションで、特定 ACS のレポートのみが生成されるよう指定します。

acs-id

1 - 2 桁の 16 進数 ACS 識別子です。

LSM

オプションで、ACS 内の特定 LSM のレポートのみが生成されるよう指定します。

lsm-list

LSM です。各 *lsm-list* には、単一の LSM 番号または LSM 番号のリストを指定できます。LSM は 00 - 17 の 16 進数です。

LSM の範囲は指定できません。リストを指定する場合は、要素をブランクまたはコンマで区切り、リスト全体をカッコで囲みます。

VOLser または VOLume

オプションで、特定 VOLSER の特定の情報のみがレポートに含まれるよう指定します。

volser または *vol-range* または *vol-list*

要求対象のボリュームシリアル番号。*vol-list* で指定したボリュームのサブ範囲のうち、制御データセットに含まれていない範囲は、レポートの **Control Card Image Listing** 部分に 1 つのサブ範囲あたり 1 行を使用して表示されます。

VOLSER では、「%」記号を「ワイルドカード」文字として使用し、パターンマッチを指定できます。「%」記号は、VOLSER 内の対応する位置に一致する 1 文字を表します。

たとえば、A9%%と指定すると、文字「A9」で始まる 6 文字のボリュームシリアル番号がすべてレポートされるよう選択されます。

「Q%12」と指定すると、「Q」で始まり、VOLSER の 3 - 4 番目が「12」の 5 文字の VOLSER がすべてレポートされるよう選択されます。「%」記号は範囲指定には使えません。したがって、「A%0000-A%9999」は無効です。

要求したボリュームが制御データセットにない場合、ユーティリティーの **Volume Report Listing** には表示されません。

SORT

オプションで、ソート順を指定します。

複数のソート条件を指定できます。左から右の順に、レポートをソートする順を指定します。

たとえば、**SORT(INS,USE)** を使用すると、制御データセットに入力された日付順にレポートがソートされ、各日付が選択数順にソートされます。

注 – SORT と NOSORT は、いずれか一方しか指定できません。

次の SORT オプションを指定できます。

VOL

ボリュームシリアル番号順にレポートがソートされます (**VOL** はデフォルトです)。

INS

制御データセットにボリュームが入力された日付および時刻順にレポートがソートされます。

LOC

レポートが位置別にソートされます。

SEL

ボリュームが最後に選択された日付および時刻順にレポートがソートされます。

USE

レポートが選択数順にソートされます。

MWL

メディア保証期限 (MWL) の比率 (%) 順にレポートがソートされます。これは、メディア寿命の何 % が使用されたかを指しています。

100 % になると、メディア保証期限が切れているとみなされます。

注 – メディア保証期限を収集しレポートするには、テープライブラリとトランスポートが次の条件を満たしている必要があります。

- SL8500 または SL3000 ライブラリであること
- LMU 互換性レベルが 21 以上であること
- T9x40: すべてのメディアとモデルのファームウェアレベルが 1.42 以上であること (9840B を除く)
- T10000: すべてのモデルとメディアのファームウェアレベルが 1.38 以上であること

メディア保証期限の詳細については、『*HSC および VTCS の管理*』を参照してください。

NOSORT

レポートをソートせずに生成するよう指定します。

注 – NOSORT、SORT、ASCend、DESCend はいずれか 1 つしか指定できません。

ASCend

オプションで、レポートが昇順にソートされるよう指定します。**ASCend** はデフォルトです。**NOSORT** が指定されている場合、このパラメータは無視されます。

注 – ASCend、NOSORT、DEScend はいずれか 1 つしか指定できません。

DEScend

オプションで、レポートが降順にソートされるよう指定します。**NOSORT** が指定されている場合、このパラメータは無視されます。

注 – DEScend、NOSORT、ASCend はいずれか 1 つしか指定できません。

INCLude

オプションで、レポートにボリューム情報を含む条件を指定します。このキーワードを指定すると、指定の条件を 1 つでも満たすボリュームがレポート用に仮選択されます。**EXCLUDE**、**VOL**、**ACS**、または **LSM** などのほかのオプションが指定されている場合は、選択したボリュームリストからボリューム情報を削除することもできます。

注 –

- ボリュームの選択時、**INCLude** パラメータは、**EXCLude** パラメータの前に適用されます。
 - パラメータ値の反対の値が指定されているかどうかは確認されません(たとえば、「**NONSEL**」が指定されている場合でも、「**SEL**」にフラグが付けられます。逆の場合も同様です)。
 - 正の属性は負の属性より前に適用されます(たとえば、**SCR** は **NONSCR** の前に適用されます)。
-

*

ライブラリ内のすべてのボリュームがレポートの考慮対象になります。**デフォルトは * です**。次のパラメータが複数指定されている場合は、パラメータはコンマで区切る必要があります。

SCR

スクラッチボリュームが指定の条件に一致するよう指定します。

NONSCR

非スクラッチボリュームが指定の条件に一致するよう指定します。

ERR

エラーントボリュームが条件に一致するよう指定します。

NONERR

非エラーントボリュームが条件に一致するよう指定します。

SEL

選択したボリュームが条件に一致するよう指定します。

NONSEL

選択していないボリュームが条件に一致するよう指定します。

READable

読み込み可能な外部ラベルが付いているボリュームが条件に一致するよう指定します。

UNREADable

読み込み不可な外部ラベルが付いているボリュームが条件に一致するよう指定します。

MEDEQUAL

VOLATTR と VAR のメディアタイプが同じボリュームが条件に一致するよう指定します。

NONMEDEQ

VOLATTR と VAR のメディアタイプが異なるボリュームが条件に一致するよう指定します。

NOEXternal

外部ラベルが付いていないボリュームが条件に一致するよう指定します。

たとえば、**INCLUDE(SEL,ERR)** と指定すると、選択したエラントボリュームのみがレポート用に仮に選択されます。ボリュームの選択時、**INCLUDE** パラメータは、**EXCLUDE** パラメータの前に適用されます。

MWLNA

メディア保証期限が不明なボリュームが条件に一致するよう指定します。メディア保証期限は、LMU 互換性レベルが21 以上のテープライブラリのボリュームをマウント解除する際に取得できます。LMU 互換性レベルの取得には、Display ACS コマンドを使用します。

MWLGE *nnn*

メディア保証期限が *nnn* % 以上のボリュームが条件に一致するよう指定します。メディア保証期限が不明なボリュームも除外されます。

メディア保証期限が不明なボリュームを含める場合は、**INCLUDE(MWLNA)** を指定します。*nnn* の有効値は 0 - 254 です。

注 - メディア保証期限を収集しレポートするには、テープライブラリとトランスポートが次の条件を満たしている必要があります。

- SL8500 または SL3000 ライブラリであること
- LMU 互換性レベルが 21 以上であること
- T9x40: すべてのメディアとモデルのファームウェアレベルが 1.42 以上であること (9840B を除く)
- T10000: すべてのモデルとメディアのファームウェアレベルが 1.38 以上であること

メディア保証期限の詳細については、『*HSC および VTCS の管理*』を参照してください。

EXCLude

オプションで、レポートにボリューム情報を含む条件を指定します。1 つまたは複数の除外条件を満たすボリュームは、レポートから除外されます。

EXCLude パラメータ値は、「*」パラメータを除き、INCLude 値とほぼ同じです (上記の INCLude のオプションの一覧を参照してください)。

たとえば、EXCL(NONSEL) と指定すると、選択されていないボリュームがレポートから除外されます。

注 -

- ボリュームの選択時、INCLude パラメータは、EXCLude パラメータの**前に**適用されます。
- INCLUDE パラメータと EXCLUDE パラメータの両方に MWLGE を指定する場合は、EXCLUDE の制限値が INCLUDE の制限値より大きくなければなりません。
- パラメータ値の反対の値が指定されているかどうかは確認されません(たとえば、「NONSEL」が指定されている場合でも、「SEL」にフラグが付けられます。逆の場合も同様です)。
- 正の属性は負の属性より前に適用されます (たとえば、SCR は NONSCR の前に適用されます)。

NOVOL

オプションで、SUMMARY とともに使用する場合に、ボリュームの詳細を生成せずに、概要またはサブプール合計を表示するよう指定します。

NOVOL を単独では指定しないでください。

注 - NOVOL は、ACS、VOLser、VOLUME、SORT、NOSORT、INCLude、EXCLude、MAXclean、および VAULT と一緒に使用できません。

MAXclean

オプションで、「over max clean」列のクリーニングカートリッジの最大使用率を指定します。各 POOLPARAM TYPE(CLEAN) で指定した MAXclean は、この値より優先されます。有効な値は 0 - 32767 です。

VAULT

オプションで、詳細なボリュームレポートにボールド済みボリュームが含まれるよう指定します。

注 - VAULT、NOVOL、ACS、LSM は、どれか1 つしか指定できません。

ボールド CDS のサブファイルが存在しない場合、このパラメータは無視されます。

概要レポートには、ボールド済みボリュームは含まれません。詳細レポートで、ボールド済みボリュームのセル位置は「VAULT」という用語で示されます。入力日/時刻は、ボリュームがボールドに挿入された (すなわち、テープライブラリからイジェクトされた) 日/時刻です。ボールドの詳細については、『LCM User's Guide』を参照してください。

SUMMARY

オプションで、ボリューム属性の合計が LSM および ACS 別に提供され、サブプールデータが ACS または LSM 別に提供されるよう指定します。制限するパラメータ (ACS (および LSM)、VOLser/VOLume、INCLude、EXCLude など) を使用すると、合計に影響が及びます。

TOTAL と SUBpool の両方を指定すると、両方のレポートが提供されます。Summary レポートのヘッダーに表示される時刻と日付は、Volume Report Listing のヘッダーと同じです。

TOTAL

スクラッチセル、選択されているセル、エラントセル、利用可能なセル、外部ラベルの状態タイプの合計が LSM、ACS、ライブラリ別に表示されるよう指定します。

合計は、Volume Report Listing、Control Card Listing の順で、新しいページにそれぞれ別のリストとして表示されます。

SUBpool

LSM、ACS、ライブラリ別に合計サブプール数が表示されるよう指定します。

サブプール情報は、VOLPARM 機能を使用して表示できます。VOLPARM 情報を定義する場合の詳細については、564 ページの「VOLPARM 制御文」を参照してください。サブプール情報を指定する代替方法については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。

合計は、Volume Report Listing、Control Card Listing、Volume Report Totals Listing の順で、新しいページに、それぞれ別のリストとして表示されます。

サブプールが重複している (ボリュームが複数のサブプールに属している) 場合、各ボリュームは、最初に検出されたサブプールでのみレポートされます。ほかのサブプールの合計が不正確になる可能性があります。

NOVOL

オプションで、SUMMARY とともに使用する場合に、ボリュームの詳細を生成せずに、概要またはサブプール合計を表示するよう指定します。

NOVOL を単独では指定しないでください。

注 – NOVOL は、ACS、VOLser、VOLume、SORT、NOSORT、INCLude、EXCLude、MAXclean、および VAULT と一緒に使用できません。

そのほかの JCL 必要条件

VOLPARM 機能を使用してボリューム特性を定義している場合は、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照し、そのほかの VOLRPT JCL 文の説明を確認してください。

VTVMaint

VTVMaint コマンドは以下を実行します。

- MVCとVTVのリンクを切断します。
- VTV マネージメントクラスを設定します。
- オフライン VTSS 内の指定された VTV を論理的にマウント解除します。
- 電子インポートされた VTV の所有権を指定します。
- 電子エクスポートされた VTV コピーへの参照を追加または削除します。

インタフェース :	UI - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

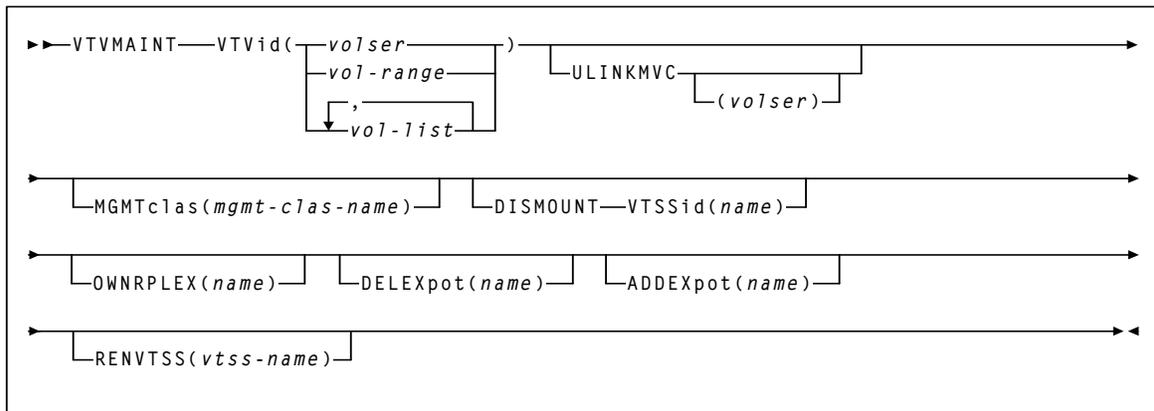


図 3-208 VTVMaint syntax

パラメータ

VTVid

1 つまたは複数の VTV を指定します。

volser、*vol-range* または *vol-list*

VTV(1つ以上)のvolserです。

ULINKMVC

オプションで、指定した VTV の MVC コピーへのリンクを解除 (論理的に削除) します。

volser

指定の MVC と指定の VTV の間のリンクを解除します。値を指定しない場合は、VTV のすべての MVC コピーが削除されます。

MGMTclas

オプションで、VTVのマネージメントクラスを設定します。

mgmt-class-name

MGMTclas 制御文で指定したマネージメントクラス名です。使用方法の詳細については[416 ページ](#)の「MGMTclas 制御文」を参照してください。

DISMOUNT VTSSid

オプションで、指定された VTSS 内の指定された VTV を論理的にマウント解除します。

name

VTSS名。

マウント解除された VTV のマイグレーションされたコピーが存在し、オンライン VTSS からアクセス可能な場合、VTV へアクセスするのにこの VTSS が使用できません。

注意 – オフラインのVTSSにマウント中のVTVのコピーが変更された後に、マイグレーションされていない場合には、代替VTSSにリコールするMVCのコピーは最新のものではありません。したがって、Oracle では、これらの現在のものでない MVC コピーをリコールしないことを強く推奨します。

ヒント – オフライン VTSS がオンラインに戻る準備ができているとき、VTSS を使用する本番ジョブの実行前に VTSS を AUDIT することを強く推奨します。また、VTSS VARY ONLINEコマンドの発行前に VTD の "BOX" ステータスを解消するようにしてください。

OWNRPLEX

オプションで、電子インポートされた VTV の所有権を指定します。

name

VTV のオリジナルコピーを所有している TapePlex の名前です。この名前には、構成内にある既知の TapePlex 名と同じでなければなりません。

この名前が CONFig TAPEPlex 文の THISPLEX パラメータに対して指定されている名前と一致する場合は、電子インポートの状態が削除されます。

DELEXpot

オプションで、電子エクスポートした VTV コピーへの参照のうち、どの参照を削除するかを指定します。

name

削除する TapePlex の名前。このパラメータ値を省略すると、電子エクスポートコピーへのすべての参照が削除されます。

このパラメータを使用しても、VTV の外部コピーへの参照が VTV レコードから削除されるだけです。ほかの TapePlex にアクセスし、リモートコピーが変更されるようなことはありません。VTV のマネージメントクラスの定義によっては、参照を削除すると、後の段階で、エクスポートが自動的に再処理される場合があります。

ADDEXpot

オプションで、VTV の電子エクスポートコピーへの参照を追加します。

name

追加する TapePlex の名前。この名前は、VTCS 構成に指定されている名前ではありません。

このパラメータを使用しても、VTV レコードの外部コピーへの参照が追加されるだけです。ほかの処理によって、必要な VTV コピーが VTV レコード内に保存されていることが前提条件です。VTV レコードは、最大 2 つの TapePlex 位置を追跡できません。

注 – DELEXpot 処理は、ADDEXpot 処理の前に実行されます。これにより、1 回の呼び出しで、エクスポート済みの位置情報を置き換えられるようになります。電子エクスポート機能を使用しない構成の場合は、ADDEXpot および DELEXpot パラメータを使って、ダミートラッキングやユーザー情報を VTV に追加できます。VTV データを更新するたび、VTV レコード内の情報がクリアされます。

RENTSS

オプションで、VTV が最後にマウントされた VTSS の名前を *vtss-name* に設定します。

vtss-name

新しい VTSS の名前。構成内に存在する VTSS の名前ではありません。

注 – RENTSS を指定するには、VTVMAINT を実行しているホストから所有 VTSS にアクセスできなければなりません。

リターンコード

表 3-18 VTVMaint のリターンコード

リターンコード	説明
0	VTV に要求された更新がすべて正常に完了しました。
4	VTV に要求された更新が 1 つ失敗し、ほかの 1 つ以上の更新要求が正常に完了しました。
8	VTV に要求された更新がすべて失敗しました。

注 - VTVMaint ジョブの最終戻りコードは、更新される単独の VTV で生成される最大の戻りコードとなります。たとえば、5 つの VTV でリターンコード 0 が生成され、1 つの VTV でリターンコード 8 が生成される場合、最終リターンコードは 8 になります。

VTVMAINTレポート

図 3-209 に、次のコマンドのVTVMAINTレポートの例を示します。
 VTVMAINT VTV(X00000-X00002) ULINKMVC MGMTCLAS(M1)

```

SLUADMIN (7.0.0)                               StorageTek Enterprise Library Software Utility          PAGE 00001
TIME 06:32:03                                VTV MAINTENANCE                                          DATE 31.03.10

VTV      RC
X0000    04
0
X0000    04
1
X0000    04
2

VTVMAINT EXCEPTION REPORT
VTV X00000 IS ALREADY IN MGMTCLAS M1
VTV X00001 IS ALREADY IN MGMTCLAS M1
VTV X00002 IS ALREADY IN MGMTCLAS M1

SLS1315I SWS500.V5.CDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET
SLUADMIN (7.0.0)                               StorageTek Enterprise Library Software Utility          PAGE 00002
TIME 06:32:03                                VTCS VTV REPORT                                         DATE 19.04.08

VTV      SIZE  COMP%  <----CREATION--- <----LAST USED--  MIG  SC  RE  RE  MGMT  MVC1  MVC2  MVC3  MVC4  MAX  VTSS
          (MB)                -->                -->                R    RT  SD  PL    Mgmt  MVC1  MVC2  MVC3  MVC4  MAX  NAME
VOLSER   DATE    TIME    DATE    TIME                CLAS
R
X0000 0.01  0    2008MAY 05:02: 2008MAY 05:22:0 - - R - M1  02255 02255 02255 02255 800
0      19      08      19      8
X0000 0.01  0    2008MAY 05:02: 2008MAY 05:22:0 - - R - M1  03355 03355 03355 03355 800
1      19      08      19      8
X0000 0.01  0    2008MAY 05:02: 2008MAY 05:22:0 - - R - M1  04455 04455 04455 04455 800
2      19      08      19      8

      3 INITIALIZED VTVS PROCESSED
      0 NON-INITIALIZED VTVS PROCESSED
  
```

図 3-209 VTVMAINTレポート

図 3-209 に示したように、VTVMAINTレポートは以下を表示します。

- 処理済のVTVの状態。VOLSERおよびリターンコード (0 - すべての更新が完了、4 - いくつかの更新が完了、8 - 完了した更新はなし)
- 完了していないすべての更新についての異常終了理由レポート
- VTV レポート

VTVRpt

VTVRpt は、VSM システムの VTV の状況を報告します。

このコマンドには、次の表に一覧されているオプションを指定できます。
各オプションの詳しい説明は、次ページ以降を参照してください。

表 3-19 VTVRpt のオプション

オプション	実行される機能:
BASIC	基本的な VTV レポートを生成します。
COPIES	VTV の現在のすべてのコピーの保存先が VTV レポートに表示され ます。

VTVRpt BASIC

VTVRpt BASIC を使用すると、基本的な VTV レポートが生成されます。

インタフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

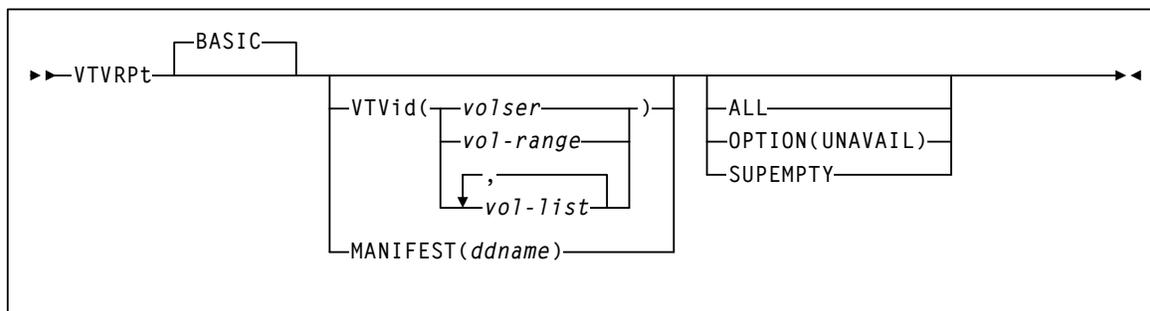


図 3-210 VTVRpt BASIC の構文

パラメータ

BASIC

基本的な VTVRPT レポートを生成します。

VTVid

オプションで、レポートの対象とするVTVを指定します。VTVを指定しないと、VSMシステムで初期化されたすべてのVTVがレポートの対象になります。VTVは、VTCSが少なくとも1回それを使用すると、初期設定されます。

volser, *vol-range*, または *vol-list*

VTV(1つ以上)の*volser*です。

MANIFEST

オプションで、レポートを生成するのに使われるマニフェストファイルの入力 DD 名を指定します。

ddname

マニフェストファイルのDD名です。**注:** マージされたマニフェストファイルまたは複数のマニフェストファイルを指定できます。

ALL

オプションで、すべてのVTV（初期設定されていないボリュームを含む）について報告し、指定します。ALL を指定しない場合は、初期化された VTV のみが報告されます。

OPTION(UNAVAIL)

オプションで、使用できないVTV（オフラインVTSS内のVTV）のみが報告されるよう指定します。このレポートでは、VTDでマウントされている、VTSSに常駐している、VTSSに常駐していて隔離されている、など無効な3つのセクションで使用できないVTVのみがリストに表示されます。

SUPEMPTY

オプションで、空のVTVが印刷されないように指定します。

VTVレポートには、データがないVTVや、隔離されているVTVに関する情報は表示されません。

注 - SUPEMPTY、ALL、OPTION(UNAVAIL) はいずれか1つしか指定できません。

Mgr/Res

VTV コピーの状態を示しています。下の列にフラグが表示されていない場合は、この TapePlex 内に VTV の現在のコピーがないという意味です。

- 左列の「R」は、VTV コピーが VTSS に常駐していることを指しています。
- 右列の「M」は、VTV の MVC コピーが少なくとも 1 つあることを指しています。この列に「C」が表示されている場合は、VTV が統合されているという意味です。

Scr/Imp

VTV の使用可能性を示しています。

- 左列の「S」は、VTV がスクラッチ済みの状態であることを示しています。リモート TapePlex からインポートされている VTV は、スクラッチマウントに選択できません。
- 右列の「I」は、別の TapePlex から VTV がインポートされたことを示しています。インポートされた VTV は変更できません。

Repl/Expt

VTV の複製または電子エクスポートの状態を示します。常駐していない VTV には、複製要件はありません。

左列には、次のいずれかの状態が示されます。

PR

VTV は現在、複製のキューに入っています。

SR

VTV の複製が開始されています。

R

複製が完了し、現在常駐している VTV のパートナーに VTV の別のコピーが格納されています。

右列には、次のいずれかの状態が示されます。

PE

VTV は電子エクスポートのキューに入っています。

SE

VTV の電子エクスポートが開始されています。

FE

リモート TapePlex によって VTV の電子エクスポートが拒否されました。

E

複製が完了し、現在常駐している VTV のパートナーに VTV の別のコピーが格納されています。

MGMT Class

指定されたVTVのマネージメントクラス名。

MVC1, MVC2, MVC3, MVC4

(マイグレーションと統合の両方について)VTVが含まれているMVCです。全フィールドに何も示されていない場合は、VTVはマイグレーションも統合もされていません。1つまたは複数のフィールドにMVCのVOLSERが示されている場合には、各MVCにVTVがマイグレーションされています。

Max VTV

GB (0.4、0.8、2、または 4) 単位の VTV 最大サイズ。

VTSSname

VTVの常駐するVTSS、またはVTVがマイグレーションされている場合、VTSSが最後に常駐したVTSSこのフィールドが空の場合、VTVは存在しない（生成または使用、スクラッチ、削除されていない）か、または手動でインポートされています。

VTVRPT COPIES

VTVRPT COPIES を使用すると、VTV の現在のすべてのコピーの保存先が VTV レポートに表示されます。

インターフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	HSC の稼働は不要

構文

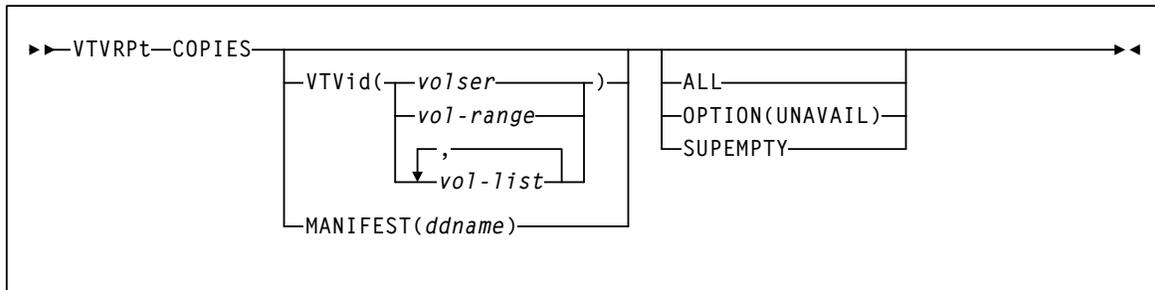


図 3-212 VTVRPT COPIES の構文

パラメータ

COPIES

VTV の現在のすべてのコピーの保存先が VTVRPT レポートに表示されます。

VTVID

オプションで、レポートの対象とするVTVを指定します。VTVを指定しないと、VSMシステムで初期化されたすべてのVTVがレポートの対象になります。VTVは、VTCSが少なくとも1回それを使用すると、初期設定されます。

volser, *vol-range*, または *vol-list*

VTV(1つ以上)の*volser*です。

MANIFEST

オプションで、レポートを生成するのに使われるマニフェストファイルの入力DD名を指定します。

ddname

マニフェストファイルのDD名。**注:** マージされたマニフェストファイルまたは複数のマニフェストファイルを指定できます。

ALL

オプションで、すべてのVTV (初期設定されていないボリュームを含む) について報告し、指定します。ALL を指定しない場合は、初期化された VTV のみが報告されます。

OPTION(UNAVAIL)

オプションで、使用できないVTV（オフラインVTSS内のVTV）のみが報告されるよう指定します。このレポートでは、VTDでマウントされている、VTSSに常駐している、VTSSに常駐していて隔離されている、など無効な3つのセクションで使用できないVTVのみがリストに表示されます。

SUPEMPTY

オプションで、空のVTVが印刷されないように指定します。

VTV レポートには、データがないVTVや、隔離されているVTVに関する情報は表示されません。

注 – SUPEMPTY、ALL、OPTION(UNAVAIL) はいずれか1つしか指定できません。

VTV Report (COPIES)

図 3-211 は、VTVRPT COPIES コマンドによって生成される VTV レポートの例です。

```

SLUADMIN (7.1.0)                STORAGETEK ENTERPRISE LIBRARY SOFTWARE UTILITY          SSSYS=HSCI          PAGE 00002
TIME 15:50:43                   VTCS VTV REPORT                                          DATE 2010-06-17
SLS1315I HSC1.V70EC21.CDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET
SLUADMIN (7.1.0)                STORAGETEK ENTERPRISE LIBRARY SOFTWARE UTILITY          SSSYS=HSCI          PAGE 00003
TIME 15:50:43                   VTCS VTV REPORT                                          DATE 2010-06-17
VTV                               <---VTSS COPIES--->  OWNING  <---MVC COPIES AND LOCATIONS--->  <---EXPORT COPIES--->
VOLSER      (MB)  CLASS  SCR PRIMARY REPLICA TAPEPLEX MVC1/3 ACS          MVC2/4 ACS          TAPEPLEX TAPEPLEX
00240       10.5 TRACE  -  VTSS92  -          -          -          -          -          -
A00241      14.3 MGMT2CP -  -          -          -          702972  00          -          -
A00406      14.1 EXHPDM -  -          -          -          700486  00          -          -
...
X50000      2,462.3 EEXPORT -  VTSS91  -          EC20REM          -          -          -          -
X50047      11.4 DLVTVYES -  VTSS91  -          EC20REM          700483  00          -          -
X50048      11.4 DLVTVYES -  -          -          EC20REM          702979  00          -          -
X50060      NO COPY DLVTVYES S  -          -          EC20REM          -          -          -          -
X50066      11.4 DLVTVYES -  -          -          EC20REM          702978  00          -          -
X50067      42.5 EEXPORT -  VTSS91  -          EC20REM          -          -          -          -
Y50000      13.3 OTHERDIR -  VTSS91  -          -          -          -          -          EC20REM
Y50008      316.6 OTHERDIR -  -          -          -          702978  00          -          EC20REM
Y50184      385.2 APOOL  S  -          -          -          702972  00          -          -
485434 INITIALIZE VTVS PROCESSED
116566 NON-INITIALIZED VTVS PROCESSED
SLS0155I CONDITION CODE FOR UTILITY FUNCTION IS 0

```

図 3-213 VTVRPT COPIES の出力例

フィールド

以下では、VTVRPT COPIES コマンドによって生成されるレポートのフィールドについて説明します。

VTV VOLSER

VTVのvolser。

Size (MB)

VTVの圧縮サイズ(Mバイト)。<MOUNT>は、レポートの実行中にVTVがマウントされたことを示します。<FENCED>は、VTVの状態が不明であることを示します。<FENCED>が表示されている場合は、Oracle StorageTek Software サポートまでご連絡ください。

MGMT Class

指定されたVTVのマネージメントクラス名。

Scr

VTVがスクラッチ済みの状態どうかを示します。

この列に「S」が表示されている場合は、VTVがスクラッチ済みの状態であることを示しています。

Primary

VTSSに常駐しているVTVのコピーが含まれているVTSSの名前。このフィールドがブランクの場合は、VTSSに常駐しているVTVのコピーがないという意味です。

Replica

VTVの複製コピーが含まれているVTSSの名前。このフィールドがブランクの場合は、現在VTSSに常駐しているVTVの複製コピーがないという意味です。

Owning Tapeplex

このVTVの所有権を持っている TapePlex の名前。このフィールドが空白の場合、VTV は別の TapePlex に所有されており、通常の処理が可能であることを示しています。このフィールドが設定されている場合、VTV は別の TapePlex からインポートされているため、内容を変更できないことを示しています。

MVC1、MVC2、MVC3、MVC4

(マイグレーションと統合の両方について)VTVが含まれているMVCです。全フィールドに何も示されていない場合は、VTVはマイグレーションも統合もされていません。各 MVC volser の横に表示されている数字は、MVC の ACS 位置を示しています。「--」に設定されている場合、MVC はライブラリ内にはありません。

Export Tapeplex

VTV コピーのエクスポート先 TapePlex の名前です。これらの TapePlex 内のコピーには、VTV がインポート済みであり、所有 TapePlex 名があることが示されます。TapePlex によっては、さらに別の場所への転送コピーが含まれている場合があるため、このリストは完全なものではありません。名前の横にアスタリスク (*) が表示されている場合は、ターゲット TapePlex によってエクスポートが拒否されたことを示しています。

VVAUDIT

VVAUDIT コマンドは、ボールド割り振りマップとボールドボリュームレコードを同期化します。マップのロットによってロットが割り振られたことが示された場合、ボールドボリュームレコードが検索されます。ボールドボリュームレコードにロット番号が見つからない場合、ロットが解放されます。

インタフェース :	UII - コンソールからは無効
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

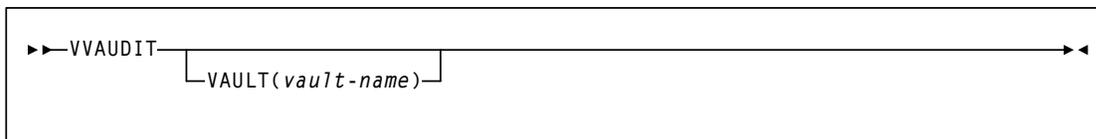


図 3-214 VVAUDIT の構文

パラメータ

VAULT

オプションで、指定された *vault-name* を監査します。VAULT が指定されない場合、すべてのボールドが監査されます。

vault-name

ボールド名。

Warn

Warn コマンドを使用すると、スクラッチ警告の限界値を設定できます。

限界値を設定すると、スクラッチの数が指定された限界値を下回ったときに警告メッセージが出力されます。Warn コマンドでパラメータを指定し、設定する限界値の範囲を限定できます。

- SUBpool、MEDia、および RECtech を指定しないと、限界値は指定された ACS または LSM のスクラッチボリュームに適用されます。
- SUBpool を指定して、MEDia と RECtech を指定しないと、限界値は指定されたサブプールと LSM のスクラッチボリュームに適用されます。
- MEDia と RECtech を指定して、SUBpool を指定しないと、限界値は指定されたメディアタイプ、記録技法、および ACS または LSM のスクラッチボリュームに適用されます。
- SUBpool、MEDia、および RECtech を指定すると、限界値は LSM 内の指定されたサブプール、メディアタイプ、および記録技法のスクラッチボリュームに適用されます。

注 – 現在の Warn 限界値を表示するには、Display THReshld コマンドを使用します。詳細については、[334 ページの「Display THReshld」](#)を参照してください。

インタフェース :	コンソールまたは PARMLIB のみ
サブシステムの必要条件	BASE または FULL サービスレベルのアクティブな HSC

構文

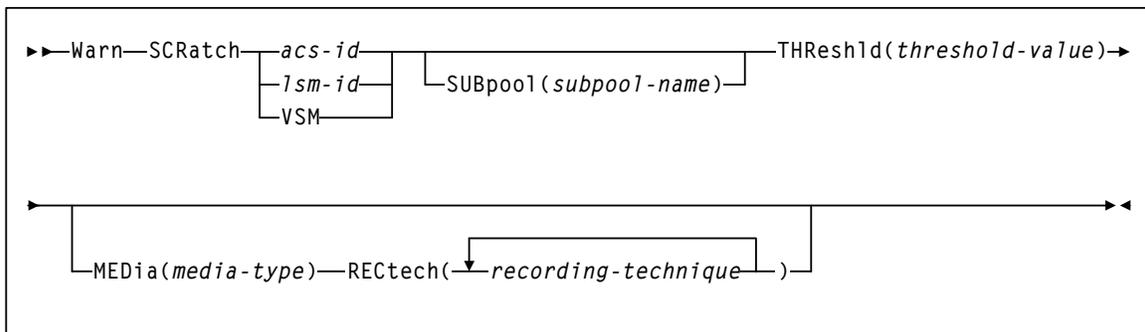


図 3-215 Warn の構文

パラメータ

SCRatch

スクラッチの限界値が設定されることを示します。

acs-id

限界値を変更する ACS。ACSidは、00からFFまでの16進数値です。

lsm-id

限界値を変更する LSM。LSMidは、ACSidとLSM番号から構成されます。lsm-idの形式はAA:LLで、AAはACSid（16進数00-FF）、LLはLSM番号（16進数00-17）を示します。

VSM

仮想ボリュームのサブプールに対してのみ、限界値が設定されるよう指定します。acs-id または lsm-id が指定されている場合は、VSM は指定できません。

SUBpool

オプションで、サブプールを指定します。このパラメータはオプションです。

subpool-name

サブプールの名前。

注 – スクラッチサブプール名は、SCRPOol制御文で指定されます。詳細については、『[ELS Legacy Interfaces Reference](#)』を参照してください。

THReshld

限界値を変更したいことを示します。

threshold-value

最小スクラッチボリューム数。この値を下回ると、HSC から警告メッセージが発せられます。指定できる限界値は、0 から 99,999 までの範囲の 10 進数です。

警告の時間間隔は、5 分です。

注 – ACS または LSM 内のスクラッチボリューム数が限界値を下回った場合は、システムが警告メッセージを出します。

MEDia

任意選択により、限界値のメディアタイプを指定します。MEDia を指定した場合は、必ず RECtech も指定してください。

media-type

メディアタイプです。

有効な *media-type* の値については、[付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」](#) を参照してください。

RECtech

任意選択により、限界値の記録技法を指定します。RECtech は、テープ表面にデータトラックを記録するのに使用される手法を示します。RECtech を指定した場合は、必ず MEDia も指定してください。

一連の記録方式をコンマで区切って入力することもできます。

recording-technique

記録方式です。

有効な *recording-technique* の値については、付録 A 「MEDia、RECtech および MODel の値」を参照してください。

注 – 一連のメディアタイプは、選択できる汎用プールを示すものです。優先度は適用されません。

Warn

SMC ユーティリティ

この章では、次の SMC ユーティリティについて説明します。

■ **統合ユーザーインタフェースユーティリティ (SMCUUI)**

このユーティリティを使用すると、HSC の Unified User Interface (UII) コマンド、VTCS コマンド、または SMC コマンドをバッチジョブから発行できます。

■ **JES3 構成レポートユーティリティ (SMCUPJS)**

このユーティリティは、JES3 初期化デッキ動作の検証に使用する JES3 構成データを生成します。

■ **POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティリティ (SMCUTRQ)**

このユーティリティを使用すると、POLicy および TAPEREQ 検索の動作をテストできます。

■ **Tape Management Extract (SMCUDBX テープ管理抽出) ユーティリティ**

このユーティリティは、SMC クライアントホストと HSC CDS とのスクラッチ同期をサポートします。

■ **UII シミュレーションユーティリティ (SMCUSIM)**

このユーティリティを使用すると、テスト環境で SMC UII コマンドを発行できます。SMC のコマンド設定、テープポリシー、および割り振りユーザー出口に対する変更を実稼働環境に反映させる前に、既存の SMC クライアントと HSC サーバーに影響を与えずにテストできます。

HSC ユーティリティや VTCS ユーティリティとは異なり、すべての SMC ユーティリティは独立型のユーティリティプログラムとしてパッケージ化されています。SMC オペレータコマンドを使用して SMC ユーティリティを起動することはできません。

SMC ユーティリティーのリターンコード およびメッセージ

SMC ユーティリティーによって、次のリターンコードが戻されます。

- ユーティリティープログラムが、エラーや警告なく正常に完了すると、リターンコード 0 が戻されます。
- 警告メッセージが検出されると、リターンコード 4 が戻されます。
- ユーティリティーの完了を阻害するようなエラーが検出されると、リターンコード 8 が戻されます。

SMC ユーティリティーによって戻される可能性のある SMC メッセージの一覧については、『ELS Messages and Codes』を参照してください。これらのメッセージは、SMCU プレフィックスによって識別されます。

統合ユーザーインタフェースユーティリ ティー (SMCUUUI)

SMCUUUI ユーティリティーは、SMC および HSC の Unified User Interface (UI) コマンドや VTCS 要求をバッチジョブから発行するために使用されます。このコマンドは、ローカルまたはリモートの HSC TapePlex にルーティングできます。

UII コマンドでは、次のような複数種類の出力を受信できます。

- プレーンテキスト出力

この種類の出力は TEXTOUT に書き込まれ、HSC や VTCS コマンドまたはレポートユーティリティーが作成した通常出力に対応します。プレーンテキスト出力が HSC または VTCS レポートに対して要求された場合、レポートヘッダーは UII によって作成されません。

- 構造化XML

この種類の出力は XMLOUT に書き込まれます。構造化 XML は、XML ヘッダータグ、XML データタグ要素、および XML データ要素の内容からなる整理された XML データストリームです。SMC、HSC、および VTCS のすべての XML タグの名前と種類については、『ELS Programming Reference』を参照してください。

- カンマ区切り値 (CSV)

この種類の出力はオプションで、CSV コマンドを指定した場合にのみ生成されます。詳細については、664 ページの「CSV コマンド」を参照してください。

この種類の出力は CSVOUT に書き込まれます。特定の要求に対応する CSVOUT の形式を定義するために、XML データタグ名の入力テンプレートが使用されます。それぞれの要求に対する出力データは、要求された XML データタグがコンマで区切られたリストになっている CSV ヘッダー行に CSV の詳細行が続きます。CSV のそれぞれの詳細行には、要求された各 XML データタグに対応する 1 つのエントリがコンマで区切られて含まれています。この種類の出力は、スプレッドシートやカスタマイズされたレポートライターへの入力として容易に流用できます。CSV を指定する形式の詳細については、『ELS Programming Reference』を参照してください。

受信する出力の種類は、SMCUUUI ユーティリティを実行する JCL 内に定義されたデータセット定義文 (DD) で管理されます。

注 -

- 一般的に、CSV 出力に対しては、エラーメッセージは作成されません。UUI プロセスが作成するエラーメッセージを表示するには、TEXTOUT または XMLOUT DD 文を加える必要があります。

CSV 出力に関連付けられた例外メッセージは、CSVOUTX という名前の DD 文がある場合は送信されます。CSVOUTX DD 文が含まれず、CSV 出力のみが要求される場合、例外メッセージは作成されません。

- SMCUUUI ユーティリティが、SORT (VOLRPT、MVC RPT など) を含むユーティリティ機能をリモート TapePlex に指示した場合、単一の SMC HTTP サーバーに対してこれらのジョブを同時に実行する数を制限するように注意する必要があります。正確な数は、HTTP サーバーを実行する SMC の領域サイズと、処理されるデータの量に依存します。
-

JCL 例

次の JCL 例は、SMCUUUI ユーティリティを実行します。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUUUI,PARM='pgmparms'
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//STDOUT DD DSN=yourstd.printout.dataset,DISP=SHR
//UUIIN DD *
  CSV and uui commands
//*****
//* Specify at least one of the following output data sets: *
//*****
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//CSVOUTX DD DSN=yourcsv.exceptns.dataset,DISP=SHR
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//TEXTOUT DD DSN=yourtext.output.dataset,DISP=SHR
```

図 4-1 SMCUUUI ユーティリティを実行する JCL

パラメータ

この JCL 例では、次の SMCUUI ユーティリティパラメータを *pgmparms* に指定できます。

SSYS(*subsystem-name*)

SMC サブシステム名を指定します (1 - 4 文字)。

TAPEPlex(*name*)

UII コマンドに指示する SMC TapePlex の名前を指定します。省略した場合、最初に検出された稼働中の TapePlex が使用されます。

TAPEPlex(SMC) を使用すると、入力コマンドが SMC に直接発行され、SMC Display Volume や Display DRive コマンドのように TapePlex には発行されません。

XMLDate(*format*)

XML や CSV 出力の戻り日付フィールドの形式を指定します。有効な日付形式は次のとおりです。

- *yyyymondd* (デフォルト形式)
例: 2008 年 8 月 13 日の場合は 2008Aug13
- *yyyy-mm-dd*
例: 2008 年 8 月 13 日の場合は 2008-08-13
- *yyyy-mon-dd*
例: 2008 年 8 月 13 日の場合は 2008-Aug-13
- HEXSTCK (16 進文字の STCK 形式)
XML タグ「time」内のすべての日付/時刻値のフィールドを、C538B10A などの STCK 16 進数形式で返します。

NOHDR

STDOUT および TEXTOUT レポートのヘッダーとページネーションの改行の制御文字が生成されないように指定します (省略可能)。

注 - NOHDR と LINECNT は、いずれか一方しか指定できません。

LINECNT

STDOUT および TEXTOUT レポートのページネーションの行数設定を指定します (省略可能)。

注 - LINECNT と NOHDR は、いずれか一方しか指定できません。

nn

1 ページあたりの行数です。有効な値は 10 - 99 です。

注 – STDOUT レポートのヘッダーとページネーションの設定は、EXEC ステートメントのプログラムパラメータでのみ指定できます。TEXTOUT レポートのヘッダーの設定は、最初に EXEC 文のプログラムパラメータによって指定しますが、UUIIN コマンドストリームで TEXTOUT UUI 制御文を指定することによって後で変更することもできます。

次に例を示します。

次の図では、EXEC 文のプログラム PARM='LINECNT(55)' により、STDOUT と TEXTOUT の両方の出力に対して、レポートのページネーションを 1 ページあたり 55 行に設定しています。

ただし、UUIIN コマンドストリームの UUI コマンド TEXTOUT NOHDR で TEXTOUT レポートパラメータを変更してレポートのヘッダーとページネーションを無効にしています。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUUI,PARM='LINECNT(55)'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.linklib
//STDOUT DD DISP=SHR,DSN=your.stdout.dataset
//UUIIN DD *
TEXTOUT NOHDR
  UUI commands
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//TEXTOUT DD DSN=yourtext.output.dataset,DISP=SHR
```

必要なデータセット定義 (DD) 文

UUIIN および STDOUT データセット定義を指定する必要があります。

UUIIN データセット

UUIIN データセットには次の内容を含めることができます。

- SMCUUI ユーティリティ制御文
- SMC UII コマンド
- HSC UII コマンド
- VTCS PGMI 要求

ネイティブな SMC UII コマンドには次のものがあります。

- Display DRive
- Display Volume
- POLicy
- SIMulate

サポートされている HSC UII コマンドおよび VTCS PGMI 要求の一覧については、『*ELS Programming Reference*』を参照してください。

構文の規則

- 入力は、80 バイトのカードイメージである必要があります。
- 80 バイトカードイメージの列 1 - 72 だけに実際のコマンド入力を含めることができます。列 73 - 80 は、必要な場合に通し番号として使用されます。
- 列 1 - 72 の空白でない最後の文字が「+」である場合、論理コマンドは次の物理カードに続きます。
- コメントは「/*」で始まり (列 2 以降)、「*/」で終わります。
- 論理コマンドの最大長は、32000 バイトです。

制御文

ユーティリティの制御文を使用すると、TEXTOUT の出力のレポートページネーションが可能になり、ターゲット TapePlex を後続の SMC、HSC、および VTCS の UII および PGMI コマンドのために変更することができます。

PLEXDest

後続コマンドのターゲット TapePlex を指定された *tapeplex-name* に設定します (省略可能)。PLEXDest 制御文の実行後、後続の SMC、HSC、または VTCS コマンドで通信エラーが発生すると、別の PLEXDest 制御文が実行されるまで、後続の SMC、HSC、または VTCS コマンドがすべてバイパスされます。

tapeplex-name

後続のコマンドのターゲットシステムの TapePlex 名です。

- 「SMC」を指定すると、後続のコマンドはすべて SMC UII コマンドであるとみなされ、シミュレーション対象の SMC 環境に対して実行されます。

- 有効な HSC TapePlex (SMC TAPEPlex コマンドを介して定義) を指定すると、後続のコマンドはすべて HSC または VTCS コマンドであるとみなされ、シミュレーション対象の SMC 環境を介して、指定した *tapeplex-name* に対して実行されます。

TEXTOUT

TEXTOUT の出力のレポートページネーションに関するパラメータを設定します (省略可能)。TEXTOUT コマンドでエラーが発生した場合、正しい TEXTOUT コマンドが実行されるまで、後続の UI コマンドはすべてバイパスされます。

NOHDR

TEXTOUT レポートのヘッダーとページネーションの改行の制御文字が生成されないように指定します (省略可能)。

注 - NOHDR と LINECNT は、いずれか一方しか指定できません。

LINECNT(*nn*)

TEXTOUT レポートのページネーションの行数設定を指定します (省略可能)。

注 - LINECNT と NOHDR は、いずれか一方しか指定できません。

nn

1 ページあたりの行数です。有効な値は 10 - 99 です。

注 -

- STDOUT レポートのヘッダーとページネーションの設定は、EXEC ステートメントのプログラムパラメータでのみ指定できます。TEXTOUT レポートのヘッダーの設定は、最初に EXEC 文のプログラムパラメータによって指定しますが、UIIN コマンドストリームで TEXTOUT UI 制御文を指定することによって後で変更することもできます。
 - 1 つの UI コマンドの前に複数の TEXTOUT 文を入力した場合は、最後の TEXTOUT 文が TEXTOUT レポートのページネーションを制御します。
 - PLEXDest および TEXTOUT コマンドを CSV コマンドとともに指定して、ターゲット TapePlex、および後続の UI コマンドの CSV と TEXTOUT の出力特性を変更することができます。664 ページの「CSV コマンド」を参照してください。
-

次の例では、次のことを行います。

1. Statement 1 は、後続コマンドの送信先をローカルの SMC サブシステムに設定します。
2. D DRIVE 文 2 は、ローカルの SMC サブシステムに送信されます。
3. Statement 3 は、後続コマンドの送信先 TapePlex を TapePlex HSCN に再設定します。
4. DISPLAY SCRATCH Statement 4 は、HSCN に送信されます。
5. Statement 5 は、後続コマンドの送信先 TapePlex を HSCQ に再設定します。

6. 最後に、DISPLAY SCRATCH Statement 6 は、HSCQ に送信されます。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUUI
//UIIN DD *
PLEXDEST SMC /* Statement #1 */
D DRIVE /* Statement #2 */
PLEXDEST HSCN /* Statement #3 */
DISPLAY SCRATCH /* Statement #4 */
PLEXDEST HSCQ /* Statement #5 */
DISPLAY SCRATCH /* Statement #6 */
...other JCL statements
```

次の例では、次のことを行います。

1. Statement 1 は、後続コマンドの送信先 TapePlex を TapePlex HSCN に設定します。
HSCN が使用できない場合や、Statement 3 - 5 の処理中に通信エラーが発生した場合は、次の PLEXDest コマンド (この例では Statement 6) が実行されるまで、後続の UII コマンドはバイパスされます。
2. Statement 2 は、後続の UII コマンドの CSV 出力パラメータを設定します。
CSV コマンドでエラーが発生した場合、後続の有効な CSV コマンドが読み取られるまで、後続の UII コマンドはすべてバイパスされます。この場合、Statement 2 の CSV コマンドが無効な場合、Statements 3 - 5 だけでなく Statement 7 もバイパスされます。Statement 6 は後続のコマンドを HSCQ に送信するために処理されます。
3. Statement 8 は、Statement 9 で使用される新しい CSV 出力パラメータを設定します。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUUI
...other JCL statements
//UIIN DD *
PLEXDEST HSCN /*Statement #1 */
CSV ...csv parameters /*Statement #2 */
SCRATCH VOL ACT001-ACT002 /*Statement #3 */
SCRATCH VOL PAY001-PAY002 /*Statement #4 */
SCRATCH VOL REC001-REC002 /*Statement #5 */
PLEXDEST HSCQ /*Statement #6 */
SCRATCH VOL Q00001-Q00002 /*Statement #7 */
CSV ...csv parameters /*Statement #8 */
DISPLAY SCRATCH /*Statement #9 */
...other UII commands
...other JCL statements
```

STDOUT データセット

STDOUT データセットは、SMCUUUI ユーティリティが各 UUI 要求に対する入力および最終完了コードを報告する場所です。

出力データセット定義 (DD) 文

次の出力データセット定義文の中から、少なくとも 1 つを指定する必要があります。

- XMLOUT
- CSVOUT
- TEXTOUT

XMLOUT データセット

XMLOUT データセットは、SMCUUUI ユーティリティが UUIIN コマンドに対応する構造化 XML 出力を出力する場所です。例を次に示します。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUUUI
...
//UUIIN DD *
SCRATCH VOL(400720)
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
...
```

この XMLOUT DD には次の出力が含まれます。

```
<scratch_request>
<header>
<hsc_version>7.0.0</hsc_version>
<date>2008Apr19</date>
<time>13:54:34</time>
<host_name>MVSB</host_name>
</header>
<volume_data>
<volser>400720</volser>
<result>success</result>
<reason>SLS0167I Volume 400720 successfully added to library as
scratch
</reason>
</volume_data>
</scratch_request>
```

CSVOUT データセット

CSVOUT データセットは、SMCUUUI ユーティリティが要求された UUIIN コマンドに対して CSV 出力を書き込む場所です。対応する CSV 形式は UUIIN コマンドによって指定されます。コンマ区切り値 (CSV) 仕様の詳細については『*ELS Programming Reference*』を参照してください。

CSV 入力の論理最大長は、4096 バイトです。

注 – CSV 出力の生成に関連した例外を表示するには、CSVOUTX DD 文を SMCUUUI JCL に含めてください。

TEXTOUT データセット

TEXTOUT データセットは、SMCUUUI ユーティリティがプレーンテキストの UUI 応答を出力する場所です。これは、対応する SMC、HSC または VTCS コマンドから受信する出力や、SLUADMIN または SWSADMIN ユーティリティによって SLSPRINT DD に書き込まれる出力と同じですが、ページと列ヘッダーが作成されません。このデータセットはオプションです。

JES3 構成レポートユーティリティ (SMCUPJS)

SMCUPJS ユーティリティによって作成される JES3 構成データを用いて、JES3 初期化デッキで、目的のデバイスとエソテリックが定義されていることを確認できます。このデータは、内部 SMC JES3 構成制御構造から取得されます。この制御構造は、SMC/JES3 初期化中、ユーザーの JES3 初期化デッキ内にある SETNAME および SETUNIT 文を分析することによって構築されます。このため、レポートを実行するシステム上で、SMC が動作している必要があります。

SMC JES3 構成制御構造から、次のレポートが作成されます。

- XTYPE 番号 (16 進数順) と XTYPE 名のリスト
- XTYPE (16 進数順) と XTYPE を含むすべてエソテリックのリスト
- エソテリック (アルファベット順)、各エソテリック内のすべての XTYPE、およびエソテリック内の合計デバイス数を示したリスト。このレポートには、JES3 と HCD の間で一致しないエソテリックも表示されます。
- XTYPE (16 進数順)、各 XTYPE 内のすべてのデバイス、XTYPE 内のデバイスの位置、および記録方式を示したリスト
- デバイス (16 進数順)、各デバイスが所属する XTYPE、デバイスの位置、および記録方式を示したリスト

JCL 例

次の JCL 例では、SMCUPJS ユーティリティを実行することにより、上の 5 種類の個別レポートが作成されます。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUPJS
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//STDOUT DD DSN=yourstd.printout.dataset,DISP=SHR
```

図 4-2 JES3 構成レポートの作成用 JCL

注 - *yourstd.printout.dataset* の割り振りには、LRECL=80 と指定します。

レポート例

以下に示すレポートの一部では、レポートの関連性を示すため、5種類のレポートすべてに対し、XTYPE 27 が使用されています。各レポートで、XTYPE 27 に関連する行には下線が施されています。

XTYPE Number to XTYPE Name (EXTON: XTYPE 番号、XTYPE 名の順に表示)

XTYPE Number to XTYPE Name (XTYPE 番号、XTYPE 名の順に表示される) レポートの一部を下に示します。この表示形式は、XTYPE 名ではなく、XTYPE 番号を参照しているほかのレポートを読む場合に便利です。XTYPE 番号がカッコ内に、XTYPE 名が右隣に表示されます。

```
SMCUPJS (7.0.0)          SMC JES3 CONFIGURATION REPORT          PAGE 0001
TIME 15:03:42          XTYPE NUMBER TO XTYPE NAME (EXTON)    DATE 2008-01-09

XTYPE(01) DEV01D5
XTYPE(02) DEV2504
XTYPE(03) DEV2507
XTYPE(04) DEV2506
XTYPE(05) DEV01D6
XTYPE(06) DEV01DA
XTYPE(07) DEV01DD
XTYPE(08) DEV01DF
XTYPE(09) DEV01D0
...
XTYPE(27) DEV0AA0
XTYPE(28) DEV0A20
...
```

XTYPE Number to Esoteric (EXTOE: XTYPE 番号、エソテリックの順に表示)

XTYPE Number to Esoteric (XTYPE 番号、エソテリックの順に表示される) レポートの一部を下に示します。各 XTYPE (16 進数順) と共に、該当する XTYPE が属するすべてのエソテリックが表示されます。XTYPE 番号 (カッコ内) および XTYPE 名が表示されます。

```

SMCUPJS (7.0.0)   SMC JES3 CONFIGURATION REPORT           PAGE 0001
TIME 15:03:42   XTYPE NUMBER TO ESOTERIC (EXTOE)        DATE 2008-01-09

XTYPE(01) DEV01D5 appears in 11 ESOTERICs
  CART      EAGLE      3590-1   HVALL    HSCV3590 MCZZZZ0   HVZZZZ01 MCZZ9840
  HV994035 HRACS1L1 HV994010
XTYPE(02) DEV2504 appears in 10 ESOTERICs
  CART
...
XTYPE(27) DEV0AA0 appears in 7 ESOTERICs
  SYS3480R CART      3480     TL3480   SLIB      SACS0     S04480

```

Esoteric to XTYPE (EETOX: エソテリック、XTYPE の順に表示)

Esoteric to XTYPE (エソテリック、XTYPE の順に表示される) レポートの一部を下に示します。各エソテリック (アルファベット順) と共に、該当するエソテリック内のすべての XTYPES (16 進数順) が表示されます。上記の XTYPE Name to XTYPE Number レポートを用いて、XTYPE 番号と該当する XTYPE 名を照会できます。

```

SMCUPJS (7.0.0)          SMC JES3 CONFIGURATION SUPPORT          PAGE 0001
TIME 15:03:42          ESOTERIC TO XTYPE NUMBER (EETOX)        DATE 2008-01-09

  ESOTERIC AUSALL      contains 4 XTYPEs and 12 devices
    2C 2D 3D 85
  ESOTERIC AUSREDW    contains 1 XTYPEs and 2 devices
    2D
  ...
  ESOTERIC CART       contains 84 XTYPEs and 433 devices
    01 02 03 04 05 06 07 08 09 0A 0B 0C 0D 0E 0F 10 11 21 22 23 24 25 26 27
    28 29 2A 2E 2F 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 3A 3B 3C 3D 3E 3F 40 41 42
    43 44 45 46 47 48 49 4A 4B 4C 4D 4E 4F 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 5A
    5B 5C 5D 5E 5F 60 61 62 63 64 65 66
  ...
  ESOTERIC SACS0      contains 9 XTYPEs and 22 devices
    10 11 27 42 43 44 45 5E 5F
SMCU0005 *** WARNING: HCD esoteric does not match JES3 esoteric
JES3 esoteric drives not in HCD:
  0AA3
HCD esoteric drives not in JES3:
  (NONE)
  ...
  ESOTERIC SLIB       contains 13 XTYPEs and 34 devices
    10 11 23 24 27 42 43 44 45 46 47 5E 5F
  ...
  ESOTERIC SYS3480R   contains 102 XTYPEs and 1511 devices
    21 22 23 24 25 26 27 28 29 2A 2B 2C 2D 2E 2F 30 31 32 33 34 35 36 37 38
    39 3A 3B 3C 3D 3E 3F 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 4A 4B 4C 4D 4E 4F 50
    51 52 53 54 55 56 57 58 59 5A 5B 5C 5D 5E 5F 60 61 62 63 64 65 66 67 68
    69 6A 6B 6C 6D 6E 6F 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 7A 7B 7C 7D 7E 7F 80
    81 82 83 84 85 86
  ...
  ESOTERIC S04480     contains 1 XTYPEs and 4 devices
    27
  ...
  ESOTERIC TL3480     contains 5 XTYPEs and 48 devices
    25 26 27 28 29
  ...
  ESOTERIC 3480       contains 14 XTYPEs and 132 devices
    21 22 23 24 25 26 27 28 29 83 84 85 86
  ...

```

XTYPE to Device Number (EXTOD: XTYPE、デバイス番号の順に表示)

XTYPE to Device Number (XTYPE、デバイス番号の順に表示される) レポートの一部を下に示します。各 XTYPE (16 進数順) と共に、デバイスが表示されます。各 XTYPE 番号に対し、次の情報が表示されます。

- XTYPE 番号
- XTYPE 名
- XTYPE 内のデバイス数
- 関連 TapePlex
- デバイスの位置
- デバイスの記録方式

デバイスの位置は、次のいずれかです。

- TapePlex 内 - "*tapeplex-name* LSM AA:LL" によって示されます (*tapeplex-name* は、ライブラリー外のデバイスが NONLIB エソテリックまたは UNITATTR によって定義されている HSC が含まれている TapePlex の名前)。
- VTSS 内 - "*tapeplex-name* VTSS (nnnnnnnn)" によって示されます。
- SMC UNITATTR コマンド - "nonlib" によって示されます。
- ライブラリー内エソテリックではなく、SMC UNITATTR コマンドによって定義されてもいない - "not lib or nonlib" によって示されます。

```

SMCUPJS (7.0.0)                SMC JES3 CONFIGURATION REPORT                PAGE 0001
TIME 15:03:42                  XTYPE TO DEVICE NUMBER (EXTOD)                DATE 2008-01-09

  XTYPE(01) DEV01D5  contains 1 DEVICES  not lib or nonlib, rectech STK1RA35
    01D5
  XTYPE(02) DEV2504  contains 1 DEVICES  not lib or nonlib, rectech STK1RA35
    2505
  ...
  XTYPE(0F) DEV2801  contains 1 DEVICES  nonlib, rectech STK1RA35
    2801
  ...
  XTYPE(27) DEV0AA0  contains 4 DEVICES  PLEX1 LSM 00:00, rectech 18TRACK
    0AA0 0AA1 0AA2 0AA3
  ...
  XTYPE(48) DEV9000  contains 64 DEVICES  PLEX1 VTSS SVTSS1
    9000 9001 9002 9003 9004 9005 9006 9007 9008 9009 900A 900B 900C 900D
    900E 900F 9010 9011 9012 9013 9014 9015 9016 9017 9018 9019 901A 901B
    901C 901D 901E 901F 9020 9021 9022 9023 9024 9025 9026 9027 9028 9029
    902A 902B 902C 902D 902E 902F 9030 9031 9032 9033 9034 9035 9036 9037
    9038 9039 903A 903B 903C 903D 903E 903F
  ...

```

Device Number to XTYPE (EDTOX: デバイス番号、XTYPE の順に表示)

Device Number to XTYPE (デバイス番号、XTYPE の順に表示される) レポートの一部を下に示します。各デバイス (16 進数順) と共に、デバイスが属する XTYPE が表示されます。各デバイスに対し、次の情報が表示されます。

- 関連 TapePlex
- デバイスの位置
- デバイスの記録方式

デバイス位置および記録方式は、上記の XTYPE to Device Number レポートに表示されています。

```

SMCUPJS (7.0.0)                SMC JES3 CONFIGURATION REPORT                PAGE 0001
TIME 15:03:42                  DEVICE TO XTYPE NUMBER (EDTOX)              DATE 2008-01-09

  DEVICE/XTYPE - 0120/3C  not lib or nonlib, rectech 36ATRACK
  DEVICE/XTYPE - 0121/3C  not lib or nonlib, rectech 36ATRACK
  ...
  DEVICE/XTYPE - 0AA0/27  PLEX1 LSM 00:00, rectech 18TRACK
  DEVICE/XTYPE - 0AA1/27  PLEX1 LSM 00:00, rectech 18TRACK
  DEVICE/XTYPE - 0AA2/27  PLEX1 LSM 00:00, rectech 18TRACK
  DEVICE/XTYPE - 0AA3/27  PLEX1 LSM 00:00, rectech 18TRACK
  ...

```

POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティリティ (SMCUTRQ)

SMCUTRQ ユーティリティは、SMC テープポリシー検索のテストに使用されます。このプログラムは、テープの割り振りとマウント処理の間に SMC から抽出されるのと同種の情報を含む制御カードを受け取ります。

制御カードにジョブ名、ステップ名、プログラム名などの属性を入力すると、このユーティリティはこれらの属性をフォーマットし、SMC サブシステムから SMC テープポリシー検索を、これがそれらシミュレーション用の特性を持つジョブであるかのように要求します。

次に、このユーティリティは、一致したポリシーや、特定の基準に一致した TREQDef TAPEREQ 文 (存在する場合) を示すレポートを生成します。TREQDef Llst コマンドが示すように、現在アクティブな TREQDef ファイルにアクセス可能な場合は、各検索に一致する実際の TAPEREQ 文が一覧表示されます。

SMCUTRQ ユーティリティには、同じホスト上に稼働中の SMC サブシステムが必要です。SMC が稼働していない場合は、エラーメッセージが作成され、プログラムは終了します。

JCL 例

SMC linklib のロードモジュール SMCUTRQ を実行して、レポートを作成します。

次の JCL 例は、SMCUTRQ ユーティリティを実行します。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUTRQ
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//STDOUT DD DSN=yourstd.printout.dataset,DISP=SHR
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SMCIN DD *
POL1 jobname stepname pgmname ddname nnnn yyyy/ddd mgmtclas
POL2 C volser dataset.name
```

図 4-3 SMCUTRQ ユーティリティを実行する JCL

制御カード

それぞれの TAPEREQ POLicy 検索では、少なくとも 1 つの制御カード (POL1) を入力する必要があります。また、オプションで、シミュレートするジョブステップ特性を指定する 1 つまたは 2 つの制御カード (POL2、POL3) を入力できます。制御カードの形式を次に示します。

カード 1:

列	長さ	フィールド	形式
1	4	ID	「POL1」 必須識別子
6	8	jobname	1 - 8 文字の汎用的でないジョブ名
15	8	stepname	1 - 8 文字の汎用的でないステップ名
24	8	プログラム名	1 - 8 文字の汎用的でないプログラム名
33	8	ddname	1 - 8 文字の汎用的でない DD 名
42	4	保存期間	4 桁の保存期間
47	8	有効期限	yyddd、yyyddd、または yyyy/ddd 形式の有効期限
56	8	管理クラス	1 - 8 文字の汎用的でない SMS 管理クラス名

カード 2:

列	長さ	フィールド	形式
1	4	ID	「POL2」 必須識別子
6	1	ボリュームタイプ	特定する場合は「S」 特定しない場合は「N」 (スクラッチ)
8	6	ボリュームシリアル	6 文字の volser
15	44	データセット名	44 文字の非 PDS MVS データセット名

カード 3:

列	長さ	フィールド	形式
1	4	ID	「POL3」 必須識別子
6	8	実際の RECTECH	有効な記録方式
15	3	ラベルタイプ	値 SL、NL、AL、NSL
19	8	JCL エソテリック	エソテリック名

注 -

- すべての可変長フィールドは左詰めにする必要があります。
 - 保存期間フィールドと有効期限フィールドは、いずれか一方しか指定できません。両方を指定した場合は、保存期間が使用されます。
 - 管理クラスフィールドは、戻される SMS ACS MGMTCLAS をシミュレーションするために使用され、SMC SMSDEF MGMTPol(ALL) または (IDAX) ポリシーが指定されていると想定します。SMC が一致するポリシー名を見つけた場合、残りのテープポリシー検索はバイパスされます。
 - 指定された管理クラス名に一致するポリシー名が見つからなかった場合、または管理クラスフィールドが指定されていなかった場合、残りの入力条件を使用して一連の TAPEREQ 検索が実行されます。
 - 検索に重要でない検索フィールドは無視できます。これは、TAPEREQ 文で実際に使用している選択基準を調べることで決定されます。しかし、相互に排他的であるフィールドを除き、すべてのフィールドを指定することを推奨します。
 - 「POL1」の制御カードは、どの入力フィールドもコードされていない場合でも必要です。「POL2」と「POL3」の制御カードは、両方ともオプションです。
 - 複数セットの制御カードを入力できます。
-

入力例

例 1

```
POL1 TSTNEWPG STEP1      TESTPGM  MYTAPE1
POL2 S 123456 ABC.QUAL1.QUAL2.TEST
```

次の場合に実行される TAPEREQ 検索をシミュレーションします。

- DSN ABC.QUAL1.QUAL2.TEST の特定ボリューム 123456 が
- DD MYTAPE1 に割り振られ、ジョブ TSTNEWPG、ステップ STEP1、実行プログラム TESTPGM の場合。

例 2

```
POL1 TSTNEWPG STEP1      TESTPGM  MYTAPE1  0099
POL2 N                ABC.QUAL1.QUAL2.TEST
```

次の場合に実行される TAPEREQ 検索をシミュレーションします。

- DSN ABC.QUAL1.QUAL2.TEST のスクラッチボリュームが
- 保存期間 99 日で DD MYTAPE1 に割り振られ、
- ジョブ TSTNEWPG、ステップ STEP1、実行プログラム TESTPGM. の場合。

例 3

```
POL1 TSTNEWPG STEP1      TESTPGM  MYTAPE1  MCLASS01
POL2 N 123456 ABC.QUAL1.QUAL2.TEST
```

次の場合に実行される TAPEREQ 検索をシミュレーションします。

- DSN ABC.QUAL1.QUAL2.TEST のスクラッチボリュームが
- DD MYTAPE1 文に割り振られ、
- ジョブ TSTNEWPG、ステップ STEP1、実行プログラム TESTPGM で、DFSMS ACS ルーチンが MCLASS01 の管理クラスを戻す場合。

出力例

```

SMCUTRQ 7.0.0 SMC POLICY/TAPEREQ TEST
Time 11:25:49 POLICY/TAPEREQ Lookup Report

SMCU0019 SMC subsystem=SMC0

Card 0001: *OL1|JOBNAME |STEPNAME|PGMNAME |DDNAME |RETP|EXPDT |SMSMGMT
Card 0002: *OL2|T|VOLSER|DSN
Card 0003: POL1 ANYJOB STEP1 TESTPGM DD1
Card 0004: POL2 S 123456 ABC.QUAL1.QUAL2.TEST

TAPEREQ lookup keys:
JOBname=ANYJOB STEPname=STEP1 PROGname=TESTPGM DDname=DD1
VOLType=S VOLSer=123456 DSN=ABC.QUAL1.QUAL2.TEST

Lookup for POLICY not matched
Lookup for RECTECH/MEDIA matched TREQDEF record 5
Statement: TAPEREQ DSN(ABC.**.TEST) MEDIA(VIRTUAL)
Lookup for SUBPOOL not matched
Lookup for ESOTERIC not matched
Lookup for MGMTCLAS not matched
Lookup for DEVTPREF not matched

Card 0005: POL1 ANYJOB ANYSTEP ANYPGM DD1
Card 0006: POL2 S 123456 ABC.D11.XYZ.ABC

TAPEREQ lookup keys:
JOBname=ANYJOB STEPname=ANYSTEP PROGname=ANYPGM DDname=DD1
VOLType=S VOLSer=123456 DSN=ABC.D11.XYZ.ABC

Lookup for POLICY not matched
Lookup for RECTECH/MEDIA matched TREQDEF record 10
Statement: TAPEREQ DSN(**.XYZ.**) MEDIA(VIRTUAL)
Lookup for SUBPOOL not matched
Lookup for ESOTERIC not matched
Lookup for MGMTCLAS not matched
Lookup for DEVTPREF not matched

Processing complete; RC=0

```

図 4-4 SMCUTRQ ユーティリティの出力例

Tape Management Extract (SMCUDBX テープ管理抽出) ユーティリティ

SMCUDBX ユーティリティは、SMC クライアントホストと HSC CDS とのスクラッチ同期をサポートします。HSC および MVS/CSC で共通テープ管理システムインタフェース (SLUDR*) を使用することで、SMC はクライアントテープ管理システムにアクセスして、抽出ファイルを作成します。このファイルは、HSC スクラッチ変換ユーティリティ (SLUCONDB) で、入力として読み込みが可能です。

注 - これらのルーチンの詳細については、[付録 C「テープ管理システムインタフェース \(SLUDR*\) のルーチン」](#) を参照してください。

次の図は、SMCUDBX の処理を示しています。

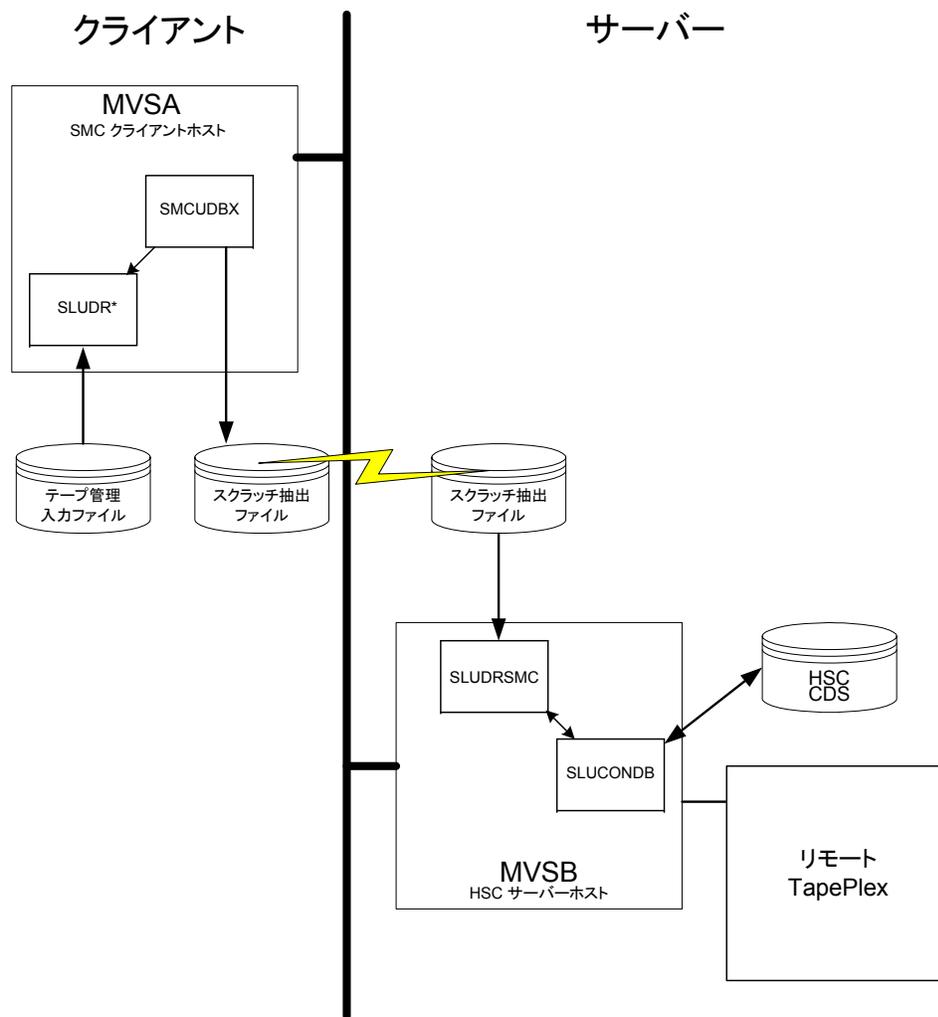


図 4-5 SMC クライアントホストと HSC CDS とのスクラッチ同期

クライアントとサーバーがテープ管理システムを共有している場合、共通テープ管理システムデータベースを入力として使用して、HSC SLUCONDB ユーティリティが直接実行される場合があります。

ただし、クライアントホストにあるテープ管理システムが HSC ホストにアクセスできない場合、SMC ユーティリティ SMCUBDX を用いて、ラベルおよび日付パラメータを使用して、テープ管理システムからスクラッチボリュームを抽出することができます。SMCUBDX 出力は、HSC ホスト上で SLUCONDB ユーティリティに対する入力として使用できます。SMC 処理では、SMCUBDX 実行の GMT 時間と HSC CDS ボリュームレコードの最後の選択時間とを比較することによって、タイミング同期をサポートします。SMC スクラッチ実行後にボリュームが選択された場合、SLUCONDB によるスクラッチの対象とはみなされません。

SMC スクラッチ抽出ユーティリティの実行

SMC がホスト上で稼動しているかどうかに関わらず、SMC スクラッチ抽出ユーティリティを実行できます。

SMCUBDX は、CA-1 Tape Management Catalog (TMC: テープ管理カタログ)、CA-DYNAM/TLMS Volume Master File (VMF: ボリュームマスターファイル)、または Zara データベースを処理し、JCL EXEC 文の PARM パラメータで指定されている情報に基づいて処理するボリュームシリアル番号を選択します。

CA-1、CA-DYNAM/TLMS、および DFSMSrmm の場合、SMCUBDX は、適切なテープ管理システムインタフェースルーチン呼び出します。Zara の場合、SMCUBDX は SLUDRZAR ルーチンを開始します。SLUDRZAR ルーチンは、アプリケーションプログラミングインタフェース (API) を開始して Zara のデータベースを読み込みます。これらのルーチンから戻されたデータは、SMC スクラッチ抽出ファイルのフォーマットに使用されます。これらのルーチンの詳細については、[付録 C 「テープ管理システムインタフェース \(SLUDR*\) のルーチン」](#) を参照してください。

ご使用のインストールで、別のテープ管理システムを使用している場合、提供されている SLUDRCA1、SLUDRRMM、SLUDRTLMM、SLUDRSMC、SLUDRTLMM、または SLUDRZAR 例のいずれかをモデルにしてプログラムを開発するか、または抽出ファイルを作成する独自プログラムを次の形式で作成します。

定位置	フィールド	形式
1	スクラッチボリューム	CL6
7	実行の GMT	XL8
15	未使用	CL2

SMC スクラッチ抽出ファイルに記録される時間は、MVS STCK マクロ出力の最初の 4 バイト文字で表されます。たとえば、STCK マクロが結果、X'B0912345 6789ABCD'を作成する場合、SMC 抽出の GMT フィールドには、文字値 C'B0912345'が含まれます。

SMCUBDX、SLUDRCA1、SLUDRTLMM、SLUDRRMM、および SLUDRZAR は、ロードモジュールとして提供されます。これらのロードモジュールの現在のバージョンは、CA-DYNAM/TLMS リリース 5.4 以上、CA-1 リリース 5.0 以上、DFSMSrmm 1.1、および Zara 1.2 で使用できます。ELS インストールテープ上の ELS MACLIB ファイルにはサンプルのソースコードがあります。

注 -

- ご使用のテープ管理システムにローカルな変更がある場合、関連付けられている TMS インタフェースルーチンを再アSEMBルする必要があります。
- ご使用のテープ管理システムが CA-1 リリース 4.9 次の場合、SLUDRCA1 ルーチンを変更および再アSEMBルする必要があります。このルーチンの変更および再アSEMBルについては、644 ページの「CA-1 リリース 4.9 以下での SMCUBDX の使用」を参照してください。
- ご使用のテープ管理システムが CA-DYNAM/TLMS リリース 5.3 次の場合、SLUDRTLML ルーチンを再アSEMBルする必要があります。このルーチンの再アSEMBルについては、644 ページの「CA-DYNAM/TLMS リリース 5.3 以下での SMCUBDX の使用」を参照してください。
- ご使用のテープ管理システムが Zara の場合、SMCUBDX ユーティリティは、Zara API モジュール (ZARAAPI1) が含まれているデータセットにアクセス可能である必要があります。Zara API モジュールは、LINKLIST に格納するか、あるいは Zara API モジュールが含まれているライブラリをポイントする SMCUBDX JCL 内の JOBLIB または STEPLIB DD 文に含めることができます。
- 変更および再アSEMBルしたルーチンは、AMODE=24 および RMODE=24 と指定し、非リエントラント (NORENT パラメータ) として再リンクする必要があります。

CA-1 リリース 4.9 以下での SMCUBDX の使用

SMCUBDX を CA-1 リリース 4.9 以下で使用する場合、SLUDRCA1 ルーチンを変更および再アSEMBルする必要があります。アSEMBリ時には、TMRECORD MACRO が含まれている CA-1 MACLIB にアクセス可能である必要があります。

CA-1 リリース 4.9 の場合、次の手順を実行します。

1. 次の行の列 1 でアスタリスクを削除します。
TMRECORD
2. 次の行の列 1 にアスタリスクを追加します。
TMMTMREC
3. SLUDRCA1 ルーチンを再アSEMBルします。

CA-DYNAM/TLMS リリース 5.3 以下での SMCUBDX の使用

SMCUBDX を CA-DYNAM/TLMS リリース 5.3 以下で使用する場合、次の手順を実行します。

1. SLUDRTLML ルーチンの再アSEMBル時に、VMFBASE MACRO が含まれている CA-DYNAM/TLMS リリース 5.3 MACLIB にアクセス可能であることを確認します。
2. SLUDRTLML ルーチンを再アSEMBルします。ソースコードに変更を加える必要はありません。

構文

SMCUBX は、プログラムパラメータを使用して、呼び出すテープ管理システムインタフェース (SLUDR*) ルーチンと操作方式を決定します。これらのルーチンの詳細については、付録 C 「テープ管理システムインタフェース (SLUDR*) のルーチン」を参照してください。

SMCUBX ユーティリティを実行している場合、JCL EXEC 文で PARM パラメータの値を次のように指定します。

注 - パラメータは指定された順序で入力し、省略するパラメータにはカンマを使用する必要があります。

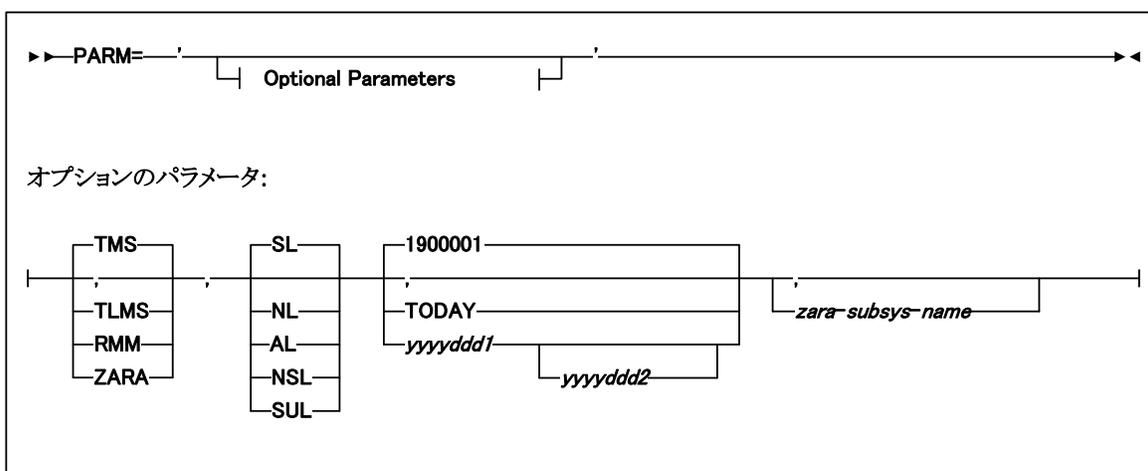


図 4-6 SMCUBX PARM パラメータの構文

パラメータ

PARM=

JCL の PGM パラメータで示されるプログラムによって後続のパラメータにアクセスできるように指定します。

TMS

CA-1 テープ管理システム (TMS) を指定します (省略可能)。これはデフォルトです。

TLMS

TLMS: CA-DYNAM/TLMS テープ管理システムを指定します (省略可能)。

RMM

DFSMSrmm テープ管理システムを指定します (省略可能)。

ZARA

ZARA テープ管理システムを指定します (省略可能)。

SL

スクラッチボリューム選択に対して、標準ラベルタイプを指定します (省略可能)。これはデフォルトです。

NL

スクラッチボリューム選択に対して、ラベルなしを指定します (省略可能)。

AL

スクラッチボリューム選択に対して、ANSI ラベルタイプを指定します (省略可能)。

NSL

スクラッチボリューム選択に対して、非標準ラベルタイプを指定します (省略可能)。

SUL

スクラッチボリューム選択に対して、標準ユーザーラベルタイプを指定します (省略可能)。

1900001

日付として 1900 年 1 月 1 日を指定します (省略可能)。これはデフォルトです。

TODAY

現在のシステム日付を示します (省略可能)。

yyyyddd1

「開始」日付です (省略可能)。「終了」日付は、デフォルトで現在のシステム日付になります。日付はすべてユリウス暦表記で指定します。

yyyyddd1-yyyyddd2

ボリュームがスクラッチ化された日付の範囲です (省略可能)。これらの日付はどちらも現在のシステム日付よりも後にすることはできません。

zara-subsys-name

Zara テープ管理システムを使用する場合に、サブシステム名を指定し、*zara-subsys-name* は 4 文字の名前です。デフォルトのサブシステム名は ZARA です。

JCLの必要条件

SMCUBX JCL には次の定義が適用されます。

DBTMS

スクラッチ抽出ユーティリティに、CA-1 TMS、CA-DYNAM/TLMS VMS、または DFSMSrmm レポート抽出ファイルの形式で入力します。この DD 文は、Zara では必要ありません。

STDOUT

スクラッチ抽出ユーティリティからの出力メッセージ。この DD 文は必須です。

DBEXTFIL

スクラッチ抽出ユーティリティからの出力ファイル。DCB LRECL が指定されている場合、16 バイト値を指定する必要があります。

ご使用のテープ管理システムが Zara の場合、Zara API モジュールが MVS LINKLIST に常駐しているか、または Zara API モジュールにアクセスするために、以下の JCL 文の 1 つを含める必要があります。

```
//STEPLIB DD DISP=SHR, DSN=your.zaraapi1.library
           DISP=SHR, DSN=your.tmsextract.library
```

```
//JOBLIB DD DISP=SHR, DSN=your.zaraapi1.library
```

次の図に、JCL 例を示します。この例では、スクラッチ抽出ユーティリティを開始し、2003 年にスクラッチ化されたすべてのテープに対して CA-DYNAM/TLMS VMF を処理しています。

```
//yourstd JOB card
//STEP0 EXEC PGM=SMCUBX,PARM='TLMS,,2003001-2003365'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.linklib
//          DD DISP=SHR,DSN=your.SLUDRxxx.linklib
//DBTMS DD DISP=SHR,DSN=your.tlms.database
//DBEXTFIL DD DISP=(NEW,KEEP),DSN=scratch.extract.file,
//          SPACE=(TRK,(5,1)),UNIT=SYSDA
//STDOUT DD SYSOUT=*
/*
```

図 4-7 スクラッチ抽出ユーティリティに使用する JCL 例

出力の説明

SMCUBDX の出力には、次の内容が含まれます。

- スクラッチ抽出処理実行の試行が失敗した場合、エラー状態に関するメッセージ
- 処理中に発生したエラーまたは動作を示すメッセージ
- Scratch Update (スクラッチ更新) ユーティリティ制御文が含まれる出力データセット

次の図に、SMCUBDX ユーティリティからの出力例を示します。

```
SMCUBDX 7.0.0          SMC TMS DB SCRATCH EXTRACT          Page 0001
TIME 15:26:41                                     Date 2008-08-14

Total records extracted for scratch volumes = 977
```

図 4-8 スクラッチ抽出ユーティリティの出力メッセージ例

SMC UUI シミュレーションユーティリティ (SMCUSIM)

SMCUSIM ユーティリティは、テスト環境で SMC SIMulate コマンドなどの SMC UUI コマンドを発行するために使用します。SMC のコマンド設定、テープポリシー、および割り振りユーザー出口に対する変更を実稼働環境に反映させる前に、既存の SMC クライアントと HSC サーバーに影響を与えずにテストできます。

SMCUSIM コードは、SMC サブシステムと同様に実行されますが、次の例外がありません。

- MVS SSI 割り振りインターフェースを初期設定しません。
- インターセプトを処理するコマンドやメッセージを設定しません。
- CSA ストレージを処理に使用しません。

SMCUSIM ユーティリティはバッチプログラムとして実行され、SMC クライアントの操作に干渉せずに既存の SMC サブシステムと同じホスト上で実行できます。SMCUSIM の処理は 2 つのフェーズで行われます。

フェーズ 1 での処理

このフェーズでは、ユーティリティは SMC サブシステムの起動ルーチンと同様に動作します。SMC モジュールがロードされ、SMCPARMS および SMCCMDS データセットが読み込まれます。

SMC サブシステムの起動と同様に、SMCPARMS および SMCCMDS データセットはオプションです。ただし、SMCUSIM は SMC サブシステムのコマンドインターセプトに含まれないため、テスト環境をセットアップするために必要なコマンドをこのフェーズで指定する必要があります。

注 -

- SMCPARMS および SMCCMDS データセットに含まれるコマンドについては、[56 ページの「SMCCMDS または SMCPARMS データセットでの SMC コマンドの指定」](#)のガイドラインに従ってください。
 - 個々のコマンドの詳細については、[第 2 章「SMC コマンドと制御文」](#)を参照してください。
-

SMCUSIM ユーティリティは、稼働している SMC サブシステムであるかのように TAPEPLEX および SERVER コマンドを処理します。TCP/IP サービスが必要になる場合もあります。したがって、『[Configuring and Managing SMC](#)』で説明されている通信に対するセキュリティー管理者の考慮事項が適用されます。

次の SMC コマンドは、実際の SMC サブシステムまたは HSC サーバーと干渉する可能性があるため、SMCUSIM によって無効にされます。

- CMDDef
- HTTP
- LOG
- Route

これらのコマンドは、SMCPARMS または SMCCMDS データセットに含めることはできませんが、ユーティリティでは無視されます。

フェーズ 2 での処理

このフェーズで、ユーティリティは、SMC コマンドのみが許可されることを除いて SMCUUI ユーティリティと同様に UUIIN データセットを読み込んで処理します。これらのコマンドは、SMCUSIM のシミュレーション対象の環境をターゲットとし、実際の SMC サブシステムには影響を与えません。

SMC SIMulate コマンド、またはそのほかの SMC コマンドを UUIIN データセットに含めて、指定されたパラメータのあるジョブがフェーズ 1 で設定された SMCPARMS および SMCCMDS データセットを使用してどのように処理されるかをテストできます。HSC UUI コマンドは無効で、エラーの際にはフラグが設定されます。次のような複数の種類の出力を受信できます。

■ プレーンテキスト出力

この種類の出力は TEXTOUT に書き込まれ、SMC コマンドが作成した通常の出력에 対応します。

■ 構造化XML

この種類の出力は XMLOUT に書き込まれます。構造化 XML は、XML ヘッダタグ、XML データタグ要素、および XML データ要素の内容からなる整理された XML データストリームです。構造化 XML は、特定の SMC コマンドによってのみ作成されます。SMC のすべての XML タグの名前と種類については、『*ELS Programming Reference*』を参照してください。

■ カンマ区切り値 (CSV)

この種類の出力は CSVOUT に書き込まれます。特定の要求に対応する CSVOUT の形式を定義するために、XML データタグ名の入力テンプレートが使用されます。それぞれの要求に対する出力データは、要求された XML データタグがコンマで区切られたリストになっている CSV ヘッダ行に CSV の詳細行が続きます。CSV のそれぞれの詳細行には、要求された各 XML データタグに対応する 1 つのエントリがコンマで区切られて含まれています。この種類の出力は、スプレッドシートやカスタマイズされたレポートライターへの入力として容易に流用できます。CSV を指定する形式の詳細については、『*ELS Programming Reference*』を参照してください。

受信する出力の種類は、SMCUSIM ユーティリティを実行する JCL 内に定義されたデータセット定義文 (DD) で管理されます。

JCL 例

次の JCL の例では、SMCUSIM ユーティリティを実行します。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUSIM,PARM='pgmparms'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.linklib
//          DD DISP=SHR,DSN=your.sea.exitlib
//*****
//* The following data sets are input to phase 1 and are optional
//*****
//SMCPARMS DD DISP=SHR,DSN=parmlib_name(parm_member_name)
//SMCCMDS DD DISP=SHR,DSN=cmdlib_name(cmd_member_name)
//*****
//* The following data set is required
//*****
//STDOUT DD DISP=SHR,DSN=your.stdout.dataset
//*****
//* The following data set is input to phase 2 and is required
//*****
//UUIIN DD *
CSV and UUI commands
//*****
//* At least 1 of the following data sets must be specified
//*****
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//TEXTOUT DD DSN=yourtext.output.dataset,DISP=SHR
```

図 4-9 SMCUSIM ユーティリティを実行する JCL

パラメータ

この JCL の例では、次の SMCUSIM ユーティリティパラメータを *pgmparms* に指定できます。

XMLDate(format)

XML や CSV 出力の戻り日付フィールドの形式を指定します。

有効な日付形式は次のとおりです。

- *yyyymondd* (デフォルト形式)
例: 2010 年 8 月 13 日の場合は 2010Aug13
- *yyyy-mm-dd*
例: 2010 年 8 月 13 日の場合は 2010-08-13
- *yyyy-mon-dd*
例: 2010 年 8 月 13 日の場合は 2010Aug13
- HEXSTCK (16 進文字の STCK 形式)

XML タグ「time」内のすべての日付/時刻値のフィールドを、C538B10A などの STCK 16 進数形式で返します。

NOHDR

STDOUT および TEXTOUT レポートのヘッダーとページネーションの改行の制御文字が生成されないように指定します (省略可能)。

注 – NOHDR と LINECNT は、いずれか一方しか指定できません。

LINECNT

STDOUT および TEXTOUT レポートのページネーションの行数設定を指定します (省略可能)。

注 – LINECNT と NOHDR は、いずれか一方しか指定できません。

///

1 ページあたりの行数です。有効な値は 10 - 99 です。

注 – STDOUT レポートのヘッダーとページネーションの設定は、EXEC ステートメントのプログラムパラメータでのみ指定できます。TEXTOUT レポートのヘッダーの設定は、最初に EXEC 文のプログラムパラメータによって指定しますが、UIIN コマンドストリームで TEXTOUT UI 制御文を指定することによって後で変更することもできます。

次に例を示します。

次の図では、EXEC 文のプログラム PARM='LINECNT(55)' により、STDOUT と TEXTOUT の両方の出力に対して、レポートのページネーションを 1 ページあたり 55 行に設定しています。

ただし、UIIN コマンドストリームの UI コマンド TEXTOUT NOHDR で TEXTOUT レポートパラメータを変更してレポートのヘッダーとページネーションを無効にしています。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUSIM,PARM='LINECNT(55)'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.linklib
// DD DISP=SHR,DSN=your.sea.exitlib
//SMCPARMS DD DISP=SHR,DSN=parmlib_name(parm_member_name)
//SMCCMDS DD DISP=SHR,DSN=cmdlib_name(cmd_member_name)
//STDOUT DD DISP=SHR,DSN=your.stdout.dataset
//UIIN DD *
TEXTOUT NOHDR
  UI commands
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//TEXTOUT DD DSN=yourtext.output.dataset,DISP=SHR
```

MAXRC

指定したコマンドのリターンコードが最大許容値を超えたときに SMCUSIM の初期設定を終了させるかどうかを指定します。MAXRC が指定されていない場合、SMCUSIM は、SMCPARMS または SMCCMDS コマンドが失敗しても常に初期設定を実行しようとします。これはデフォルトの動作です。

///

リターンコードの最大許容値を指定します。SMCPARMS または SMCCMDS データセットから実行された SMC コマンドでこの指定値を超えた場合、SMC0236 および SMC0237 メッセージが生成されて、コマンドが UUIIN DD から読み取られる前に SMCUSIM ユーティリティは終了します。有効な値は、0、4、8、および 12 です。

注 -

- CMDDef、HTTP、LOG、Route など、特定の SMC コマンドは SMC サブシステム環境で使用できますが、SMCUSIM 環境では使用できず、指定しても、SMCUSIM では無視されるだけで、MAXRC 処理には影響を与えません。
 - シミュレーション対象の SMC サブシステムの起動の一部として実行されるコマンド (すなわち、SMCPARMS および SMCCMDS データセットから読み取られるコマンド) のみが、MAXRC 処理の一部として評価されます。UUIIN DD から読み取られるコマンドのうち、リターンコードが指定された MAXRC 値よりも大きいコマンドは、SMCUSIM ユーティリティを自動的に終了しません。
-

PLEXRC

自動的に発行された RESYNC コマンドから返される TapePlexes の状態に基づいて SMC サブシステム初期設定を終了するかどうかを指定します。

PLEXRC が指定されない場合、SMC サブシステムは RESYNC コマンドの結果に関係なく初期設定を完了します。これはデフォルトの動作です。

///

RESYNC コマンドからのリターンコードの最大許容値を指定します。有効値は 0 および 4 です。

SMC RESYNC コマンドは、SMC が定義済みのすべての TapePlex と通信できない場合はリターンコード 8 を設定し、SMC が 1 つ以上の定義済み TapePlex と通信できるが、すべてとは通信できない場合はリターンコード 4 を設定します。

必要なデータセット定義 (DD) 文

UUIIN および STDOUT データセット定義を指定する必要があります。

UUIIN データセット

UUIIN データセットには次の内容を含めることができます。

- SMC UUI コマンド
- HSC UUI コマンド
- VTCS PGMI 要求

ネイティブな SMC UUI コマンドには次のものがあります。

- Display Drive
- Display Volume
- POLicy
- SIMulate

サポートされている HSC UUI コマンドおよび VTCS PGMI 要求の一覧については、『*ELS Programming Reference*』を参照してください。

構文の規則

- 入力は、80 バイトのカードイメージである必要があります。
- 80 バイトカードイメージの列 1 - 72 だけに実際のコマンド入力を含めることができます。列 73 - 80 は、必要な場合に通し番号として使用されます。
- 列 1 - 72 の空白でない最後の文字が「+」である場合、論理コマンドは次の物理カードに続きます。
- コメントは「/*」で始まり (列 2 およびそれ以降)、「*/」で終わります。
- 論理コマンドの最大長は、32000 バイトです。

制御文

ユーティリティの制御文を使用すると、TEXTOUT の出力のレポートページネーションが可能になり、ターゲット TapePlex を後続の SMC、HSC、および VTCS の UUI および PGMI コマンドのために変更することができます。

TEXTOUT

TEXTOUT の出力のレポートページネーションに関するパラメータを設定します (省略可能)。TEXTOUT コマンドでエラーが発生した場合、正しい TEXTOUT コマンドが実行されるまで、後続の UUI コマンドはすべてバイパスされます。

NOHDR

TEXTOUT レポートのヘッダーとページネーションの改行の制御文字が生成されないように指定します (省略可能)。

注 - NOHDR と LINECNT は、いずれか一方しか指定できません。

LINECNT(*nn*)

TEXTOUT レポートのページネーションの行数設定を指定します (省略可能)。

nn は 1 ページあたりの行数です。有効な値は 10 - 99 です。

注 - LINECNT と NOHDR は、いずれか一方しか指定できません。

注 -

- STDOUT レポートのヘッダーとページネーションの設定は、EXEC ステートメントのプログラムパラメータでのみ指定できます。TEXTOUT レポートのヘッダーの設定は、最初に EXEC 文のプログラムパラメータによって指定しますが、UIIIN コマンドストリームで TEXTOUT UII 制御文を指定することによって後で変更することもできます。
 - 1 つの UII コマンドの前に複数の TEXTOUT 文を入力した場合は、最後の TEXTOUT 文が TEXTOUT レポートのページネーションを制御します。
 - PLEXDext および TEXTOUT コマンドを CSV コマンドとともに指定して、ターゲット TapePlex、および後続の UII コマンドの CSV と TEXTOUT の出力特性を変更することができます。
-

STDOUT データセット

STDOUT データセットは、SMCUSIM ユーティリティが各 UIIIN 要求に対する入力および最終完了コードを報告する場所です。

SMCUSIM ユーティリティの例 (CSV)

次の CSV の例には、指定されたシミュレーション対象のジョブステップに対するテープポリシーの主要ソースの Y/N 値が表示されています。すべての XML タグとその構造については、『ELS Programming Reference』を参照してください。

```

csv field=(jobname,dsname,idax_matched_policy_flag,      +
idax_matched_tapereq_flag,idax_policy_esoteric_flag,    +
idax_storgrp_esoteric_flag,sms_info_flag,               +
policy_info_flag,tapereq_info_flag,                     +
userexit_info_flag,owning_tapeplex),                    +
break(simulate_request) notitle fixed

```


HSC の独立型ユーティリティー

この章では、HSC の独立型ユーティリティーについて説明します。これらのユーティリティーは、独立型プログラムとして実行されます。

次のユーティリティーがあります。

- ユーティリティー管理者 (SLUADMIN)
- SLICREAT
- スクラッチ変換ユーティリティー (SLUCONDB)

ユーティリティー管理者 (SLUADMIN)

SLUADMIN プログラムはバッチジョブとして動作し、ほとんどのユーティリティー機能の初期設定処理を制御します。ユーティリティー管理者 (SLUADMIN) は、複数のユーティリティーの連続要求として処理される複数のコマンドを受け付けることができます。ユーティリティー機能を実行するために必要な条件がすべて満たされている場合、制御は実際の処理を扱う該当するプログラムに渡されます。

追加の制御文によって表されるユーティリティー機能は、前のユーティリティー機能が停止し、SLUADMIN プログラムに制御が戻るまで開始されません。

注意 - 制御文の最大長は、32,767 文字です。この制限を超えると、メッセージ SLS0241I が表示され、無効なユーティリティー制御文であることが示されます。

SLUADMIN の起動

便宜上、ほとんどのユーティリティープログラムは、ユーザーによって起動された 1 つのプログラムとして見えるようにパッケージ化されています。例外は、スクラッチ変換です。

ほかのユーティリティー機能はすべて、SLUADMIN プログラムと、必要なユーティリティー機能を呼び出すために必要な、ユーザー指定のコマンドを使用して、通常のバッチジョブとして起動されます。

追加のコマンドによって表されるユーティリティー機能は、前のユーティリティー機能が停止し、SLUADMIN プログラムに制御が戻るまで開始されません。

次に示すのは、SLUADMIN を実行するために変更可能な JCL の一般的な例です。

この JCL の例で「utility and CSV commands」と記載されている箇所に、実行するユーティリティーまたは CSV コマンドを入力します。

次に例を示します。

```
SET HOSTID(HSC2) FORHOST(HSCB)
OFFLoad LOGF
SCREdist ACS(01)
```

SLUADMIN を起動するには、次の JCL を使用します。

```
//jobname job (account),programmer,REGION=0M
//S1 EXEC PGM=SLUADMIN,PARM=MIXED
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//SLSPRINT DD SYSOUT=A
//SLSIN DD *
    utility and CSV commands
    .
    .
    .
//*****
//* Optional UI Output Definition Statements *
//*****
//SLSCSV DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//SLSCSVX DD SYSOUT=*
//SLSXML DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
/*
//
```

注 – すべてのユーティリティー機能の JOB 文で 0M の領域サイズを指定します。

SLUADMIN の実行パラメータ

SLUADMIN の EXEC 文では、PARM= に対して次のオプションパラメータを指定できます。

NOHDR

レポートヘッダーの印刷を抑止します (エラーメッセージは引き続きレポートファイルに書き込むことができます)。このパラメータは、ローボリューム (フラット) データファイルを作成するために、VOLDATA パラメータを指定して VOLRpt コマンドを発行するときに便利です。

このパラメータは、ACTivities、MOVE、および VOLRpt ユーティリティーコマンドでのみ使用できます。

注 – NOHDR と LINECNT は、いずれか一方しか指定できません。

NOHDR を指定しなかった場合は、デフォルトで次の情報を含むヘッダーが印刷されます。

- レポートの日時
- ページ番号
- ホストのソフトウェアのバージョン番号
- 実行するユーティリティー機能の名前

NOPHDR

ページヘッダーの印刷を抑止しますが、出力内に次のような制御ヘッダーを作成します。

SLS0030I Message ID NNNN Help Info:

または

SLS0041I Command CCCCCCCC Help Info:

注 – NOPHDR は、LINECNT および NOHDR と一緒には指定できません。

このパラメータは、Display CMd または Display Message コマンドを発行して、コマンドまたはメッセージのヘルプテキストが含まれるファイルを作成するときに便利です。

MIXED

すべてのレポートヘッダーおよびメッセージを大文字/小文字の混合表記で印刷します。デフォルトは大文字です。

LINECNT=*nn*

SLUADMIN レポートの 1 ページあたりの行数を指定します。指定できる値は 10 - 99 です。デフォルトは 1 ページあたり 60 行です。

注 – LINECNT と NOHDR は、いずれか一方しか指定できません。

SSYS(*ssss*)

SLUADMIN ユーティリティーが実行されている HSC サブシステムの名前を指定します (省略可能)。LPAR で実行されている HSC サブシステムで MULT パラメータが指定されているとき、このパラメータは必須です。

XMLDate(*format*)

XML や CSV 出力の日付フィールドの形式を定義します。有効な日付形式は次のとおりです。

- *yyymondd* (デフォルト形式)
例: 2008 年 8 月 13 日の場合は 2008Aug13
- *yyyy-mm-dd*
例: 2008 年 8 月 13 日の場合は 2008-08-13
- *yyyy-mon-dd*
例: 2008 年 8 月 13 日の場合は 2008-Aug-13
- HEXSTCK (16 進文字の STCK 形式)
XML タグ「time」内のすべての日付/時刻値のフィールドを、C538B10A などの STCK 16 進数形式で返します。

XMLCase(*case*)

XML や CSV 出力の英字データフィールドの大文字/小文字の表記を定義します。有効な大文字/小文字の形式は次のとおりです。

- M (大文字/小文字の混合表記)
- U (すべて大文字)

デフォルトは M です。

SLUADMIN の定義文

注 – 特定の HSC および VTCS コマンドでは、追加の文が必要な場合があります。このドキュメントでは、これらの文について適用可能なコマンドとともに説明します。

一般的な定義文

次の定義文は、常に必要です。

STEPLIB

ELS モジュールを含むリンクライブラリを指定します。

SLSPRINT

ユーティリティーの出力 (テキスト) 先を指定します。

SLSIN

SLUADMIN への入力データ (ユーティリティーのコマンド名とパラメータ) を指定します。

SLSOUT

SLUADMIN のアクションメッセージの出力先を指定します。

CDS 定義文

次の 1 つまたは複数の CDS 定義文は、HSC が稼働していないホストで実行されるユーティリティーコマンドでは**必須**です。これらの文は、プライマリ CDS を指定し、オプションで、セカンダリおよびスタンバイ CDS を指定します。

注 – これらの文は、HSC が稼働しているホストで実行されるコマンドについては省略できます。これらの文が省略された場合、ホスト上で稼働している HSC によって使用されているデータセットがアクセスされます。

SLSCNTL

プライマリ CDS を指定します。この文は、HSC が稼働していないホストで実行されるユーティリティーコマンドでは**必須**です。

SLSCNTL2

セカンダリ CDS を指定します (省略可能)。

セカンダリ CDS が存在する場合は、この文を含めます。切り替えが発生してセカンダリ CDS が稼働するようになった場合に、データベースの整合性を維持するために CDS を並べ替えることができるようにするためです。

SLSSTBY

スタンバイ CDS を指定します (省略可能)。

スタンバイ CDS が存在する場合は、この文を含めます。切り替えが発生してスタンバイ CDS が稼働するようになった場合に、データベースの整合性を維持するために CDS を並べ替えることができるようにするためです。

CDS 定義文を指定するときは、次の条件が適用されます。

- 指定する DD 文の数は、SET TECHNIQ コマンドによって定義された数と等しくなければなりません。SET TECHNIQ コマンドを実行するとき、定義する DD 文の数は、この新しい方法によって示される数に等しくなければなりません。
- プライマリ、セカンダリ、およびスタンバイ CDS のバージョンを選択する際の規則は、HSC サブシステムによって使用されている規則と同じです。CDS の構成の詳細については、『HSC および VTCS の管理』を参照してください。
- 「読み取り専用」のユーティリティー (VOLRpt など) では、1 つの DD (SLSCNTL) を指定することができ、内部または外部の名前検証は実行されません。

UUI 出力定義文

統合ユーザーインターフェース (UUI) の要求を通して追加されるほかの種類 of 出力を生成するときは、次の 1 つまたは複数の定義文が必須です。これらの種類の出力の要求の詳細については、[663 ページの「SLUADMIN 出力の要求」](#)を参照してください。

SLSCSV

ユーティリティーのコンマ区切り (CSV) 形式の出力の宛先を指定します。

SLSCSVX

CSV の例外の出力先を指定します。

SLSXML

ユーティリティーの構造化 XML 形式の出力の宛先を指定します。

SLUADMIN 出力の要求

SLUADMIN は、テキストに加え、統合ユーザーインターフェース (UI) の要求を通して追加されるほかの種類もサポートします。UI によってサポートされているコマンドとユーティリティーの一覧については、『ELS Programming Reference』を参照してください。

出力の種類は、SLUADMIN JCL で定義される DD 文によって制御されます。出力の種類は次のとおりです。

■ プレーンテキスト

テキスト出力は常に作成され、前のリリースから変更されていません。出力は SLSPRINT 定義文によって指定されているデータセットに書き込まれます。

■ 構造化XML

この出力はオプションで、SLSXML 定義文が指定されている場合にのみ生成されます。出力はこの文によって指定されているデータセットに書き込まれます。

構造化 XML は、XML ヘッダタグ、XML データタグ、および XML データ要素の内容からなる整理された XML データストリームです。すべての UI 要求の XML のタグ名と構造については、『ELS Programming Reference』を参照してください。

■ コンマ区切り値 (CSV)

この出力はオプションで、CSV コマンドと SLSCSV 定義文が指定されている場合にのみ生成されます。

CSV 出力はカスタマイズできます。XML データタグ名のテンプレートは、出力するデータ値を指定するためにユーザーが入力できます。出力データは、CSV ヘッダ行 (1 行) とそれに続く CSV 詳細行です。

CSV ヘッダ行は要求された XML データタグ名のリストで、各名前がコンマで区切られます。各 CSV 詳細行は指定された一定数のデータ値で、コンマで区切られます。この種類の出力は、スプレッドシートやカスタマイズ可能なレポートライターへの入力として容易に流用できます。

注 – VOLRpt VOLDATA パラメータは、ボリュームフラットファイルを作成します。このオプションは引き続きサポートされていますが、今後のリリースではサポートされなくなる可能性があります。詳細については、『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。

XML 出力の要求

SLSXML DD 文が存在する場合、UI インターフェースをサポートするすべての SLUADMIN コマンドに対して構造化 XML 出力を指定する必要があります。

XML が生成されると、各要求の最後で、そのヘッダタグ、<exceptions> の下に例外が生成されます。各例外は、<reason> タグを使用して報告されます。詳細については、『ELS Programming Reference』を参照してください。

CSV 出力の要求

SLSCSV DD 文が存在する場合、UI インタフェースをサポートするすべての SLUADMIN コマンドに対してコンマ区切り (CSV) 形式の出力を指定します。

SLSCSVX DD 文が存在する場合は、CSV の例外が報告されます。SLSCSVX DD 文は、SLSCSV DD 文が指定されている場合にのみ有効です。CSV の例外は、要求に対して CSV コマンドが有効な場合にのみ生成されます。

この DD のデフォルトの DCB 情報は、SLSPRINT、LRECL=121、RECFM=FB と同じです。

CSV コマンド

CSV コマンドは、CSV 出力処理を制御します。

各 CSV コマンドには、コンマで区切られた CSV 要素定義のリストが含まれます。各 CSV 要素定義には、オプションの XML 構造化タグとサブスクリプト値とともに XML データタグ名を指定します。ELS の XML タグの詳細については、『ELS Programming Reference』を参照してください。

構文

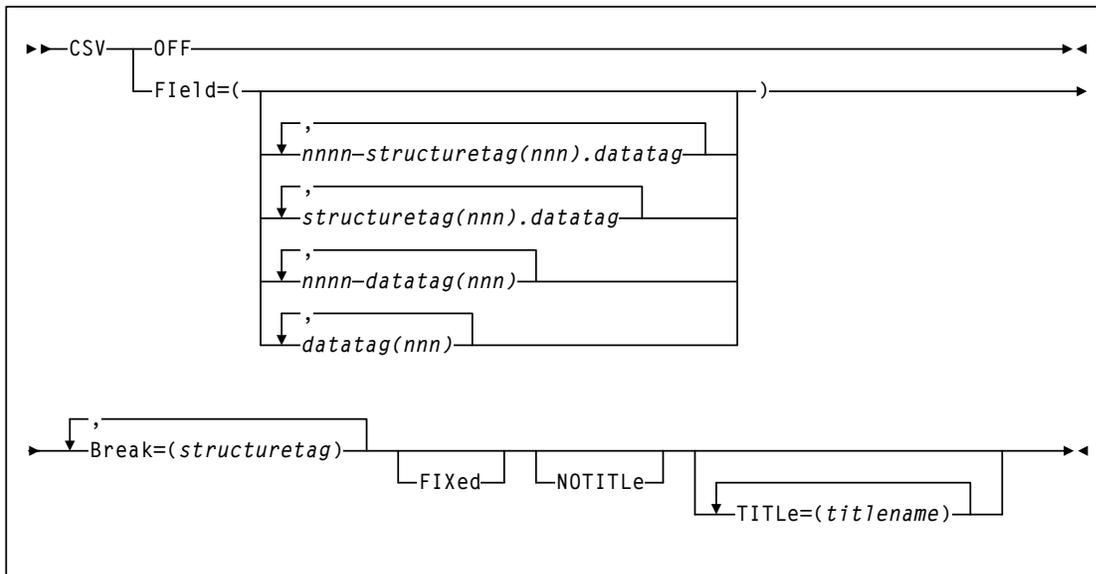


図 5-1 CSV コマンド

パラメータ

OFF

後続の要求の CSV 処理を無効にします。

注 – OFF は、ほかのどの CSV パラメータとも一緒に指定できません。

Field

OFF が指定されていない場合は必須です。

nnnn-

1 - 4 つの数値の後にダッシュを含むオプションのフィールド名接頭辞。フィールド名に接頭辞「*n(nnn)-*」が付いている場合、フィールドの CSV 出力は常に、指定された文字数ちょうどが含まれます。数値フィールドは右詰めされて、もっとも左側の桁が切り捨てられ、その他のフィールドは左詰めされて、もっとも右側の文字が切り捨てられます。指定された値が実際の値よりも長い場合、数値フィールドの場合は左側に空白文字がパディングされ、その他のフィールドの場合は右側に空白文字がパディングされます。

次に例を示します。

- 8-acs_status は acs_status 値を 8 文字に切り捨てます。
- 12-acs_status は acs_status 値に空白文字をパディングして 12 文字にします。

nnnn の最大値は 1024 です。「*nnnn-*」の指定は、パラメータ `FIXed` も指定されている場合にのみ有効です。

structuretag(nnn).datatag

オプションの XML 構造化タグとデータタグはペアです。XML 構造タグは、ほかの要素が含まれるが内容の値はない要素です。ELS の XML タグの詳細については、『*ELS Programming Reference*』を参照してください。

XML 構造化タグ/データタグのペアは、複数の構造化タグ内にデータタグが存在するときのみ指定します。たとえば、`DISPLAY LSM` の要求データタグの `free_cell_count` は、`LSM` の空きセル数の合計が含まれるようにするには構造化タグの `lsm_data` の下で使用し、パネルの空きセル数が含まれるようにするには構造化タグの `panel_data` の下で使用します。`lsm_data.free_cell_count` を指定すると、`lsm_data` 構造化タグに空きセル数が要求されます。`panel_data.free_cell_count` を指定すると、`panel_data` 構造化タグに空きセル数が要求されます。複数の構造化タグの下に発生するデータタグについて構造化タグがコード化されない場合、生成された XML 内で最初に出現するデータタグが使用されます。

nnn

CSV 出力に含められる複数の XML データ値の数を決定するオプションのサブスクリプトです。

サブスクリプトは、1 つの要求の構造化 XML データに同じ名前の複数の XML 構造化要素が含まれるときのみ指定します。これは、「`Maximum Occurrences`」というラベルが付いた列が 1 より大きい場合は常に、`requestXML` の説明に示されます。サブスクリプト値は構造化タグ名とデータタグ名の両方に指定でき、次に例を示します。

```
CSV FIELD=(mvc_instance(4).volser,+
mvc_instance(4).partition_id(2))
```

これは 12 個のフィールドを持つ CSV 出力が作成され、mvc_instance volser の 4 つのオカレンスの後に、最初の MVC volser に関連した partition_id 値を表す 2 つのフィールドが続き、次に 2 番目の MVC に関連した partition_id 値を表す 2 つのフィールドが続く、というようになります。

datatag(*nnn*)

オプションの XML データタグです。

データタグが要求内で複数の構造化タグの下にならない場合、構造化タグ修飾子を指定する必要はありません。

nnn

CSV 出力に含められる複数の XML データ値の数を決定するオプションのサブスクリプトです。

サブスクリプトは、1 つの要求の構造化 XML データに同じ名前の複数の XML 構造化要素が含まれるときにのみ指定します。これは、「Maximum Occurrences」というラベルが付いた列が 1 より大きい場合は常に、requestXML の説明に示されます。

注 – XML タグ名は大文字小文字を区別しないため、大文字と小文字を任意に組み合わせ指定できます。

BReak

OFF が指定されていない場合は必須です。分離タグは、入力要求に対して定義された有効な構造化タグでなければなりません。出力プロセスで分離タグに一致する後続のタグが見つかるたびに、新しい CSV レコードが作成されます。有効な分離タグの例を次に示します。

- DISPLAY CDS の場合 - cds_data または host_data
- VOLRPT または Display Volume の場合 - volume_data

FIXed

固定形式の CSV 出力を生成します。CSV 出力の各フィールドには、一定数の文字が入るようにブランクが埋め込まれます。このオプションは、お客様によって指定された形式のレポート用フラットファイルを作成するために使用します。

NOTITLe

CSV のタイトル行が作成されないように指定します。このキーワードを省略すると、各 CSV 要求の最初の行がコンマ区切りのタグ名が含まれるタイトル行となります。

TITLe

TITLe を指定すると、指定されたタイトル名は XML タグ名の代わりにタイトル出力で使用されます。タイトル名が省略された場合は、FIELD パラメータの指定された XML タグ名がタイトルで使用されます。

JCL の例: CSV 出力

次の SLUADMIN JCL では、CSV 形式のすべての MVC で使用可能なスペースの割合のレポートを作成するために、MVCRPt コマンドが実行されます。ジョブの実行後、CSV 出力ファイルをスプレッドシートアプリケーションに FTP で転送できます。

この例で使用される構造化タグとデータタグについては、『ELS Programming Reference』を参照してください。

```
//MVCREPT JOB x,CHRIS,CLASS=A,MSGCLASS=E
//*
//*
//*
//MVCRPT EXEC PGM=SLUADMIN,
// PARM='MIXED,XMLDATE=YYYY-MM-DD'
//STEPLIB DD DSN=your.sea.LINKLIB,DISP=SHR
//SLSCNTL DD DSN=your.sea.CLUSTER.CDS,DISP=SHR
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SLSCSV DD DISP=(,CATLG),DSN=hlq.MVCREPT.CSV,
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=4096,BLKSIZE=32000),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(x,y))
//SLSIN DD *
CSV FIELD=(mvc_data.volser,mvc_data.percent_available)+
BREAK=(mvc_data)+
NOTITLE
MVCRPT
/* /**
//
```

図 5-2 JCL の例: MVCRPT コマンドの CSV 出力

SLUADMIN プログラムのリターンコード

SLUADMIN プログラムでは、ジョブステップの実行のための戻りコードが [図 5-1](#) で定義されているように設定されています。

各ユーティリティ機能のリターンコードは、メッセージに表示されます。リターンコードが 0 以外の場合は、追加メッセージにエラー状態の詳細と説明が表示されます。表示されるメッセージについては、『ELS Messages and Codes』を参照してください。

表 5-1 SLUADMIN のリターンコード

リターンコード	説明
0	制御文を介して要求されたユーティリティ機能が正常に完了しました。
4	少なくとも 1 つのユーティリティ機能で異常な状況が発生しましたが、そのユーティリティ機能や後続のユーティリティ機能の終了には至りませんでした。
8	少なくとも 1 つのユーティリティ機能でそのユーティリティ機能を継続できなくなるエラー状況が発生しましたが、制御文で表された後続のユーティリティ機能はどれも試行されました。
12	ユーティリティ機能を開始できなくなるエラー状況、またはアクティブなユーティリティ機能を終了させ、後続のユーティリティ機能を処理できなくなるエラー状況が検出されました。

注 – HSC CDS またはジャーナルファイルが原因でリターンコードが表示された場合は、その問題を解決しなければ HSC を安全に初期設定することができません。

ユーティリティコマンドによって作成されるレポート

いくつかのユーティリティコマンドは、実行するとレポートが作成されます。これらのレポートは、追加のユーティリティ機能です。次のユーティリティコマンドでレポートが作成されます。

- LIBGen
- ACTivities
- AUDit
- BACKup
- MOVE
- VOLRpt

レポートヘッダー

レポートヘッダーには、次の情報が含まれます。

- レポートの日時
- ページ番号
- ホストのソフトウェアのバージョン番号
- 実行するユーティリティー機能の名前

SLICREAT

SLICREAT プログラムでは、ライブラリ制御データセットが作成され、ライブラリーボリュームの容量が確認メッセージに表示されます。

これらのライブラリ制御データセットは、SLICREAT のデータセット初期設定 JCL で指定するデータセット定義に基づいて作成されます。

SLICREAT を使用するには、次の手順に従います。

1. SLICREAT プログラムを使用して、データセット初期設定 JCL にデータセットの定義を作成する。
2. SLICREAT プログラムを実行してライブラリ制御データセットを作成します。
3. SLICREAT プログラムが正常に終了したことを検査し、確認メッセージに表示されるライブラリボリュームの容量を確認する。

これらの手順については、以降の項で説明します。ライブラリが稼働する前に、これらの手順を行う必要があります。

注 -

- SLICREAT を使用する前に、まず LIBGen を作成し、アセンブルおよびリンクする必要があります。詳細については、『Configuring HSC and VTCS』を参照してください。
 - SLICREAT を使用して、ご使用の HSC SLSJRNnn ジャーナルファイルを再フォーマットすることができます。詳細については、『ELS Legacy Interfaces Reference』を参照してください。
-

制御データセット初期設定 JCL の作成

ライブラリ制御データセットの定義の作成は、SLICREAT という名前のジョブファイルで JCL をコード化して行います。

次の例は SLICREAT プログラムに対する JCL の使用例です。この例は、HSC SAMPLIB にメンバー JCLCRT としても組み込まれています。

```
//SLICREAT JOB (account),'programmer',CLASS=A
//CREATE EXEC PGM=SLICREAT, CDS CREATE MODULE
// PARM='libgen-load-module-name',
// REGION=0M
//*
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=* MESSAGES
//*
//*****
/* LIBRARY PRIMARY CONTROL DATASET (CDS)
//*****
//SLSCNTL DD DSN=SLS.SLSCNTL, PRIMARY CDS
// SPACE=(4096,s,,CONTIG,ROUND), REPLACE 's' WITH YOUR
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE), SPACE CALCULATIONS
// UNIT=SYSDA
//*****
/* LIBRARY SECONDARY CONTROL DATASET (CDS)
//*****
//SLSCNTL2 DD DSN=SLS.SLSCNTL2, SECONDARY CDS
// SPACE=(4096,s,,CONTIG,ROUND), REPLACE 's' WITH YOUR
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE), SPACE CALCULATIONS
// UNIT=SYSDA
//*****
/* LIBRARY STANDBY CONTROL DATASET (CDS)
//*****
//SLSSTBY DD DSN=SLS.SLSCNTL3, STANDBY CDS
// SPACE=(4096,s,,CONTIG,ROUND), REPLACE 's' WITH YOUR
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE), SPACE CALCULATIONS
// UNIT=SYSDA
//*****
/* LIBRARY JOURNAL DATASET (INITIAL)
//*****
//SLSJRN01 DD DSN=SLS.SLSJRN01, INITIAL JOURNAL
// SPACE=(4096,u,,CONTIG,ROUND), REPLACE 'u' WITH YOUR
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE), SPACE CALCULATIONS
// UNIT=SYSDA
//*****
/* LIBRARY JOURNAL DATASET (ALTERNATE)
//*****
//SLSJRN02 DD DSN=SLS.SLSJRN02, ALTERNATE JOURNAL
// SPACE=(4096,u,,CONTIG,ROUND), REPLACE 'u' WITH YOUR
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE), SPACE CALCULATIONS
// UNIT=SYSDA
//*****
/* ONE PAIR OF JOURNALS ARE REQUIRED FOR EACH GENED HOST
//*****
/*
```

図 5-3 SLICREAT の JCL の例

DD 文

ライブラリ制御データセットを定義するには、次の JCL DD 文を使用する必要があります。

SYSPRINT

出力メッセージ

制御データセットおよびジャーナルデータセットを割り振る際には、次の条件を参照してください。

- DCB 文を指定しない。HSC は、必要なブロックサイズ (4K) を設定します。
- データセットは1つの連続する範囲に割り振る必要がある。
- SLICREAT プロセスの実行より前に、レコードを含む既存のデータセットを CDS に入れない。
- CDS をほかの CDS や入出力が頻繁に行われるほかのデータセットと同じボリュームにはできるだけ置かない。

SLSCNTL

プライマリライブラリ制御データセット。

これは、HSC 内のすべてのアクティビティを制御したり、同期させるのに使用される最初のデータセットです。自動または手動のいずれにしろ、データセットの制御がセカンダリに切り替えられないかぎり、HSC によって使用されます。

SLSCNTL も SLICREAT プロセスを制御します。SLICREAT を実行する際に、SLSCNTL DD 文を含めないと、次のようになります。

- CDS がフォーマットされない。
- PARM 文に含まれる LIBGEN ロードモジュールのサイズ要件 (ブロック単位) が計算され、報告される。また、ジャーナルフォーマットが試行される。

SLSCNTL2

プライマリ制御データセットのセカンダリコピー

これは、SLIRCVRY マクロの TECHNIQ パラメータが SHADOW、STANDBY、BOTH、または ALL の場合にのみ必要です。

SLSSTBY

スタンバイ制御データセット。

このデータセットは、SLIRCVRY マクロの TECHNIQ パラメータが STANDBY または ALL の場合にのみ必要です。セカンダリデータセットは、スタンバイ制御データセットが指定された場合に必要になります。このデータセットは、STBYONLY 処理にも必要です (674 ページの「SLICREAT を使用したスタンバイ CDS のみの作成」を参照)。

SLICREATプログラムの実行

SLICREAT プログラムを実行してライブラリ制御データセットを作成します。

SLICREAT EXEC 文

SLICREAT プログラムを実行するには、次の EXEC 文を使用します。

```
EXEC PGM=SLICREAT,PARM=' libgen-load-module-name '
```

PARM= 値は、LIBGEN ロードモジュール名を示します。steplib 文は、現在 LIBGEN ロードモジュールがある適切なライブラリーを示す必要があります。

注 -

- SLICREATには、リリースLINKLIBと同じレベルのマクロでアセンブルされた LIBGENロードモジュールが必要です。HSC の以前のリリースで作成された LIBGEN ロードモジュールを、SLICREAT の以降のリリースへの入力として使用することはできません。
- SLICREAT (SLSCNTL、SLSCNTL2、および SLSSTBY) で作成された CDS ファイルは、フォーマット前に空のデータセットであることが確認されます。SLICREAT がこれらのファイルのいずれかでレコードが含まれていると認識すると、エラーメッセージが表示され、作成プロセスは終了します。この場合は、別のデータセットを割り当てるか、またはデータセットを削除してから再定義し、SLICREAT を再実行してください。

SLICREATプログラムの正常な完了の検証

SLICREAT プログラムを正常に完了すると、ライブラリの状態と容量を示すメッセージが生成されます。次に例を示します。

```
SLS0557I DATABASE SUCCESSFULLY INITIALIZED; TOTAL CARTRIDGE  
CAPACITY: DDDDDDDDDDDD VOLUMES
```

カートリッジ容量の見積り - SL8500 および SL3000

メッセージSLS0557Iは、ライブラリのカートリッジ容量の合計を示します。**SL8500 および SL3000 ライブラリの場合**、まずライブラリをオンラインにし (Vary AC S コマンド)、ライブラリの最大容量ではなく、ライブラリの実際の容量を確認する必要があります。ライブラリをオンラインにするまでは、最大容量は、LIBGENで定義した数値ではなく、HSCで定義できるパネルの最大数に基づいて示されます。

ライブラリをオンラインにした後、Display Acs コマンドまたは Display Lsm コマンドを発行し、ライブラリの実際の容量を確認します。

SLICREAT のほかの使用法

SLICREAT を使用したスタンバイ CDS のみの作成

SLICREAT を使用して、さらに CDS を作成することができます。HSC がスタンバイ CDS なしであらかじめ導入されている場合、SLICREAT プログラムを実行してこれを作成することができます。

この方法では、プライマリ CDS のバックアップは作成されません。追加の CDS がフォーマットされ、CDS Enable コマンドで有効にすることができます。

スタンバイ CDS を作成する SLICREAT EXEC 文

スタンバイ CDS を作成するには、SLICREAT EXEC 文で PARM='STBYONLY' を次のように指定します。

```
EXEC PGM=SLICREAT, PARM='STBYONLY'
```

注 -

- SLICREAT の STBYONLY オプションを実行する前にプライマリ CDS が必要です。
- システムがスタンバイデータセットを認識するには、PARMLIB の CDSDEF 文により定義する必要があります。

SLICREAT を使用した DASD スペースの計算

SLSCNTL や SLSJRNN DD 文を指定しなくても、SLICREAT を実行して CDS に必要な最小 DASD スペースを算出することができます。HSC は、4096 バイトブロックという必要最小スペースを示すメッセージを生成します。SLICREAT を実行する際は、これらのデータセットのそれぞれに、少なくともこの最小サイズと同じ大きさのブロック数を指定する必要があります。

注 - 複数の CDS (SLSCNTL2、SLSSTBY) を指定する場合は、定義する際にご使用のデータセットのすべてに同じだけスペース (ブロック単位) を割り当てることをお勧めしています。

データセットが異なるスペースの割り振りで定義されると、HSC は、最も小さなデータセットのサイズを使用して、CDS に使用する 4K ブロックの数を判断してしまいます。ほかの CDS データセットに余分なスペースがあっても、HSC はそれを使用しません。

必要最小スペース (SLICREAT による) と最小 CDS コピーのサイズとのスペースの差は、CDS 空きブロックとしてフォーマットされます。

スクラッチ変換ユーティリティ (SLUCONDB)

SLUCONDB プログラムは、CA-1、CA-DYNAM/TLMS、DFSMSrmm、および Zara テープ管理システムからのスクラッチ変換、または SMC SMCUDBX ユーティリティによってクライアントシステムから抽出されたファイルからのスクラッチ変換を生成します。

注 – SMCUDBX ユーティリティの詳細については、[642 ページの「Tape Management Extract \(SMCUDBX テープ管理抽出\) ユーティリティ」](#)を参照してください。

SLUCONDB は独立型ユーティリティとして実行し、SLUADMIN に対する入力のスクラッチ変換を生成することができます。また、ホストで稼働中の HSC システムで実行したり、SLUCONDB LIBONLY パラメータを使用して、稼働中の HSC システムに直接送信される UUI スクラッチ変換を生成したりすることができます。SLUCONDB は、クライアント/サーバーシステムで、TAPEPLEX パラメータを使用して、別のホスト上の HSC システムにアクセスして CDS データを取得したり、UUI スクラッチ変換を送信したりすることができます。

警告 –

- SLUCONDB は、ほかの SCRAtch、UNSCratch、または REPLaceall アクティビティとともに実行しないでください。
 - SLUCONDB はソースとして配布されるわけではありませんが、SLUCONDB のコードは**変更しないでください**。スクラッチ処理と SLUCONDB でサポートされていないテープ管理システムを同期する場合は、配布された SLUCONDB テープ管理インタフェースモジュールのいずれかを、SLUDRINF インタフェース形式を使用するように変更します。
-

構文

SLUCONDB は、プログラムパラメータを使用して、呼び出すテープ管理システムインタフェース (SLUDR*) ルーチンと操作方式を決定します。これらのルーチンの詳細については、付録 C 「テープ管理システムインタフェース (SLUDR*) のルーチン」を参照してください。

SLUCONDB ユーティリティを実行している場合、JCL EXEC 文で PARM パラメータの値を次のように指定します。

注 - パラメータは指定された順序で入力し、省略するパラメータにはコンマを使用する必要があります。

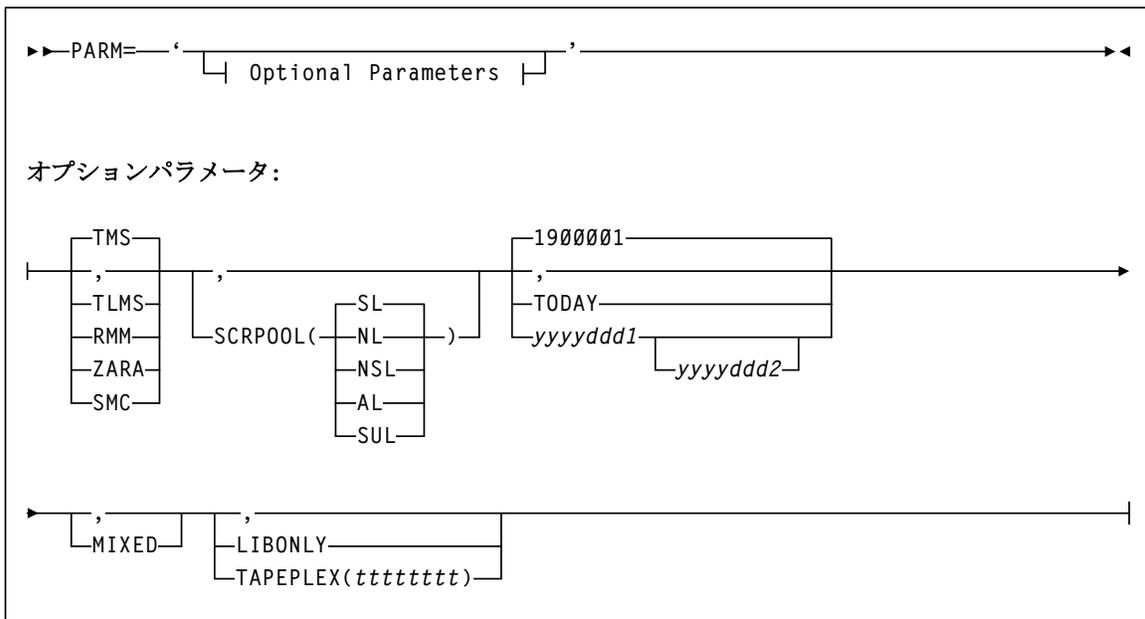


図 5-4 SLUCONDB PARM パラメータの構文

パラメータ

PARM=

JCL の PGM パラメータで示されるプログラムによって後続のパラメータにアクセスできるように指定します。

PARM のデフォルトは次のとおりです。

- TMS
- すべてのラベルタイプ
- 1900 年 1 月 1 日から現在のシステム日付までのすべてのスクラッチ
- 大文字のみ
- スクラッチトランザクションを生成します (直接更新はなし)。

PARM のキーワードは定位置指定です。システムのデフォルトを受け入れる場合は、PARM もコード PARM=" も指定しません。

TMS

CA-1 テープ管理システム (TMS) を指定します (省略可能)。これはデフォルトです。

TLMS

TLMS: CA-DYNAM/TLMS テープ管理システムを指定します (省略可能)。

RMM

DFSMSrmm テープ管理システムを指定します (省略可能)。

ZARA

ZARA テープ管理システムを指定します (省略可能)。

SMC

SMC ユーティリティ SMCUDBX からの抽出ファイルを指定します (省略可能)。

SMC が指定されている場合、ラベルと日付のパラメータは使用できません。(ラベルと日付の選択は、SMC ユーティリティによって抽出ファイルが作成されるときに実行されます。)

SCRPOOL

ライブラリで使用されるスクラッチプールのラベルタイプを指定します (省略可能)。有効なラベルタイプ値は、次のとおりです。

(SL)

標準ラベル (デフォルト)

(NL)

ラベルなし

(NSL)

非標準ラベル

(AL)

ANSI ラベル

(SUL)

標準ユーザーラベル

1900001

日付として 1900 年 1 月 1 日を指定します (省略可能)。これはデフォルトです。

TODAY

現在のシステム日付を示します (省略可能)。

yyyyddd1

「開始」日付です (省略可能)。「終了」日付は、デフォルトで現在のシステム日付になります。日付はすべてユリウス暦表記で指定します。

yyyyddd1-yyyyddd2

ボリュームがスクラッチ化された日付の範囲です (省略可能)。これらの日付はどちらも現在のシステム日付よりも後にすることはできません。

MIXED

すべてのヘッダーとメッセージが大文字/小文字の混合表記で印刷されるように指定します (省略可能)。

注 – コンマが指定されている場合や、このキーワードが指定されていない場合は、デフォルトで大文字が使用されます。

LIBONLY

UII インタフェースを通してスクラッチ状況にボリュームが配置されるように指定します (省略可能)。LIBONLY を指定する際は、HSC が稼働中である必要があります。SLUCONDB が APF 許可ライブラリから SLUCONDB が実行される必要があります。

TAPEPLEX

CDS ボリュームを抽出して UII スクラッチコマンドを実行するために使用される SMC tapeplex の名前を指定します (省略可能)。

ttttttt

TapePlex 名です。

指定する tapeplex は、SLUCONDB と同じホストで実行されているローカルの HSC であっても、SMC クライアントサーバー機能を介してアクセスされる別のホストの HSC サブシステムであってもかまいません。TAPEPLEX パラメータを指定する際は、SLUCONDB ホストの SMC システムと TapePlex の HSC システムが稼働中である必要があります。SLUCONDB が APF 許可ライブラリーから SLUCONDB が実行される必要があります。

JCLの必要条件

SLUCONDB JCL には次の定義が適用されます。

SLSTMS

ユーティリティに、CA-1 TMC、CA-DYNAM/TLMS Volume Master File (VMF)、または DFSMSrmm レポート抽出ファイルの形式で入力します。この文は必須です。

SLSSOUT

Scratch Update (スクラッチ更新) ユーティリティ制御文を指定するユーティリティからの出力。この文は、LIBONLY も TAPEPLEX も指定されていない場合に必要です。

JCL で「DSN=」の一時的または永続的なデータセットを指定する場合は、適切な DCB 情報 (すなわち、LRECL=72) を含める必要があります。

SLSPRINT

ユーティリティプログラムからの出力メッセージ。この文は必須です。

注 – スクラッチ変換ユーティリティでは、CDS からボリュームおよび VTV レコードを抽出するために、UUI が使用されます。UUI では、JCL の文からの、または稼働中の HSC からデータセット情報を取得することによる、CDS への読み取りアクセスが必要です。SLSCNTL、SLSCNTL2、および SLSSTBY DD 文は、稼働中の HSC が同じシステム上で実行されている場合はオプションです。SLSCNTL、SLSCNTL2、および SLSSTBY DD 文は、LIBONLY または TAPEPLEX パラメータが指定されている場合は許可されません。

SLSCNTL

プライマリ制御データセット。この文はオプションです。

SLSCNTL2

セカンダリ制御データセット。この文はオプションです。

SLSSTBY

スタンバイ制御データセット。この文はオプションです。

JCL の例

次の例は、スクラッチ変換の生成と HSC CDS の直接更新の両方を示したものです。

次の例の「your.sea.smp/e.loadlib」というライブラリは、ELS のインストール中に生成される SEALINK ライブラリを指しています。このライブラリには、TMS インタフェース (SLUDR*) モジュールが含まれています。これらのモジュールを再アセンブルすると、このライブラリはリンクエディットの出力となります。

注 - UNIT、SPACE、および DCB パラメータ設定は、ユーザーが決定します。

稼働中の HSC でテープ管理データベースを処理し、スクラッチ更新トランザクションを生成する JCL

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1      EXEC PGM=SLUCONDB,
//            PARM=('TLMS,,MIXED')
//STEPLIB    DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS     DD DSN=TMS.MASTER.FILE,DISP=SHR
//SLSSOUT    DD DSN=&&SCUPINPT,DISP=(NEW,PASS),
//            UNIT=,SPACE=,DCB=
//SLSPRINT   DD SYSOUT=*
//*
//STEP2      EXEC PGM=SLUADMIN,COND=(4,LT,STEP1),PARM=MIXED
//SLSIN      DD DSN=&&SCUPINPT,DISP=(OLD,DELETE)
//SLSPRINT   DD SYSOUT=*
//
```

HSC CDS の DDname で TMS データベースを処理し、スクラッチ更新トランザクションを生成する JCL

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1      EXEC PGM=SLUCONDB,
//            PARM=('',2009100-2009110,MIXED')
//STEPLIB    DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS     DD DSN=TMS.MASTER.FILE,DISP=SHR
//SLSSOUT    DD DSN=&&SCUPINPT,DISP=(NEW,PASS),
//            UNIT=,SPACE=,DCB=
//SLSPRINT   DD SYSOUT=*
//SLSCNTL    DD DSN=primary.control.dataset,DISP=SHR
//SLSCNTL2   DD DSN=secondary.control.dataset,DISP=SHR
//SLSSTBY    DD DSN=standby.control.dataset,DISP=SHR
//*
//STEP2      EXEC PGM=SLUADMIN,COND=(4,LT,STEP1),PARM=MIXED
//SLSIN      DD DSN=&&SCUPINPT,DISP=(OLD,DELETE)
//SLSPRINT   DD SYSOUT=A
//
```

直接スクラッチ更新によって DFSMSrmm データベースを処理する JCL (ホストで稼働中の HSC)

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1 EXEC PGM=EDGHSKP,PARM='RPTEXT,DATEFORM(J)'
//MESSAGE DD DSN=rmm.message.dataset,DISP=SHR
//REPTTEXT DD DSN=rmm.report.extract,DISP=SHR
//*
//STEP2 EXEC PGM=SLUCONDB,
// PARM=('RMM,,,MIXED,LIBONLY')
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS DD DSN=rmm.report.extract,DISP=SHR
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

SMC の抽出ファイルを処理する JCL

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1 EXEC PGM=SLUCONDB,PARM='SMC,,,MIXED,LIBONLY'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS DD DISP=SHR,DSN=your.smc.extract.file
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

SMC からリモートの TapePlex までを処理する JCL

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1 EXEC PGM=SLUCONDB,
// PARM=',,,MIXED,TAPEPLEX(PRODPLX)'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS DD DSN=TMS.MASTER.FILE,DISP=SHR
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

出力の説明

SLUCONDB の出力には、次の内容が含まれます。

- 構文エラーが発生した場合の、該当するメッセージと入力コマンドのリスト
- SLUCONDB プロセスでのエラーに関するメッセージ
- ボリュームスクラッチの試行が失敗した場合の、エラー状態に関するメッセージ (LIBONLY または TAPEPLEX パラメータを使用)
- スクラッチ入力トランザクション (LIBONLY も TAPEPLEX も指定されていない場合)

```
StorageTek Enterprise Library Software Scratch Conversion Utility      Page 00001
Time 12:15:39                                                    Date 2010-03-31

SLS4723I Volume (VTV) 400021 used after SLUCONDB start or TODATE
SLS0286I 000005 volumes have been selected
SLS0155I Condition code for utility function is 0
```

図 5-5 スクラッチ変換ユーティリティの出力例 - LIBONLY も TAPEPLEX もない場合

```
StorageTek Enterprise Library Software Scratch Conversion Utility      Page 00001
Time 12:15:39                                                    Date 2010-03-31

SLS2321I Volume A00020 successfully added to VSM as scratch
SLS2321I Volume A00023 successfully added to VSM as scratch
SLS0167I Volume FB2110 successfully added to library as scratch
SLS0167I Volume TIM021 successfully added to library as scratch
SLS2280I Volume 400021 selected after SCRATCH command USETOKN
SLS1312I 000004 volumes successfully scratched
SLS0155I Condition code for utility function is 4
```

図 5-6 スクラッチ変換ユーティリティの出力例 - LIBONLY または TAPEPLEX がある場合

パラメータ

MVCid

ボリュームに変換するVTVを含んでいるMVCを指定します。このボリュームは、VTVの実テープバージョンになります。

volser

MVCのvolser。

INUNIT

入力テープデバイスに割り振る名前です。MVSデバイスアドレス、エソテリック名、ジェネリック名を指定することができますUNIT=JCLパラメータと同じ値が有効な値になります。

name

ユニット名です。

VTVid

任意選択により、変換するVTV (1つ以上) を指定します。

volser, vol-range, または vol-list

VTV(1つ以上)のvolserです。

ALLVTVS

任意選択により、指定した MVC にあるすべての VTV について最新のコピーを変換します。つまり、指定された MVC に VTV の複数のコピーがある場合は、RTV は VTV の最新のコピーのみを変換します。

注 – VTVidおよびALLVTVS は互いに排他的です。

CPYVOLID

任意選択により、VTV から出力ボリュームの VOL1レコードへ VTV 内部 VOLSER をコピーします。デフォルトでは、VTV VOLIDへのコピーは行われません。

注意 – CPYVOLID パラメータは十分に注意して使用してください。出力テープのVOLSERは、VTVのVOLSERに変更されます。出力デバイスに外部ラベルがある場合、またはほかのVTVに出力される場合には、ラベルが一致しなくなるため、予期しない結果が発生する可能性があります。

注 –

- 出力デバイスにラベルがない場合、あるいは標準のテープラベルが付いている場合には、このVTVの圧縮解除でCPYVOLIDが自動的に指定され、出力デバイスに標準のテープラベルが作成されます。
 - RTV は、標準または ANSI ラベル付きで作成された VTV をサポートします。CPYVOLIDを指定しない場合は、[図 6-1](#) で説明するように、RTVはこれらのラベルタイプを処理します。これはVOL1レコードにのみ適用されることに注意してください。HDR1/HDR2 ラベルは、常に処理されたすべてのVTVごとに、RTVによってVTVからコピーされます。
-

表 6-1 RTV ラベルの種類

VTV ラベルの種類	標準ラベル出力	ANSI ラベル出力	ラベルなし出力
標準ラベル	VOL1 ラベルはコピーされません	WTORが発行されます	VOL1 ラベルがコピーされます
ANSI ラベル	WTORが発行されます	VOL1 ラベルはコピーされません	VOL1 ラベルがコピーされます

図 6-1 に記載の、WTORは以下のとおりです。

SWSRTV - Label mismatch - Reply RELABEL,RETRY,or CANCEL

操作員の応答により、次の結果になります。

RELABEL

RTV を復元して、出力ボリュームの VOLSER を無効にします。

RETRY

別の出力ボリュームをマウントして、作業を再試行します。

CANCEL

RTV を復元しません。

LISTONLY

指定されたMVCのVTVをリストします。変換は行われません。使用方法の詳細については[692 ページ](#)の「RTV LISTONLYの出力」を参照してください。

BLOCKID

MVC上のVTVの開始位置の論理ブロックID。

nnn

論理ブロック ID (8桁の16進数)

ヒント – [692 ページ](#)の「RTV LISTONLYの出力」のLISTONLYパラメータ指定によりリストに含まれるブロックIDの値は、RTVユーティリティを使用してVTVをボリュームに変換する場合の入力として使用できます。

FILEnum

MVC上のVTVの論理データセット数。

nnnnn

論理データセット数 (1から5桁の10進数)。

注 -

- LISTONLY、BLOCKid、およびFILEnum は相互に排他的です。また、ALLVTVs パラメータを指定した場合、または VTV のリストまたは範囲を指定した場合には、FILEnum および BLOCKid パラメータは無視されます。
- BLOCKid 値を指定しない場合、大容量メディアでの実行時間が非常に長くなる場合があります。BLOCKid は、MVC 上の VTV への位置指定を高速に行うために使用します。

DUMP

VTVの圧縮解除ができなかった場合にS0C3異常終了ダンプを生成します。DUMPを指定した場合には、ダンプを収集するSYSMDUMP DD JCL文を作成してください。

OUTUNIT

出力テープデバイスに割り振る名前です。MVSデバイスアドレス、エソテリック名、ジェネリック名を指定することができますUNIT= JCLパラメータと同じ値が有効な値になります。LISTONLY を指定しない場合には、このパラメータは必須です。

name

ユニット名です。

VALIDATE

RTV ユーティリティが、出力テープを作成せずに、指定の VTV を正しく処理できるか検証します。

JCLの必要条件

RTVユーティリティを実行するJCLに必要な文とオプションの文を次に示します。

STEPLIB

RTV モジュールを含むリンクライブラリ (SLSLINK) を指定します。

SLSPRINT

RTV ユーティリティレポートの出力先を指定します。

SLSIN

SWSRTVプログラムへの入力 (RTVユーティリティ名とパラメータ) を指定します。

SYSMDUMP

ダンプを収集するためのDD (オプション)。

注 – RTV ユーティリティは、出力デバイスのテープ標準ラベルを書き換え、入力デバイスにラベル情報を記録する必要があるため、動的割り振りを行なってテープボリュームに対するラベル処理のバイパス機能 (BLP) を呼び出します。この操作を行うには、SWSRTV 実行可能コードを含むライブラリが APF 許可されていなければなりません。

RTV ユーティリティレポートメッセージ

RTV レポートには、次のメッセージが表示されます。

Block number too large in compressed data

説明: VTV の処理中に圧縮されたデータレコードでエラーが見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Chunked record logic error

説明: VTV のチャンクデータレコードの処理中にエラーが見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Decompress invalid length parameter

説明: プログラムの論理エラーです。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Decompress invalid parameter list

説明: プログラムの論理エラーです。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Decompress logic error

説明: プログラムの論理エラーです。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Decompress pointer to work area is zero

説明: プログラムの論理エラーです。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Dynamic allocation error.Reason Code = xxxx-xxxx

説明: INUNIT または OUTUNIT デバイスの動的割り振りの試行中にエラーが発生しました。動的割り振りの理由コードについては、IBM ドキュメント『*MVS Authorized Assembler Services Guide*』を参照してください。

FILEnum of zero is invalid

説明: 説明 FILEnum() の値 0 は無効です。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

I/O error on input MVC

説明: MVC の読み取り時に I/O エラーが発生しました。処理は停止します。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

I/O error on output volume

説明: 出力 VTV の書き込み時に I/O エラーが発生しました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Invalid compressed data block read

説明: この VTV の処理時に無効なデータレコードが見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Invalid VTV page number encountered

説明: VTV の処理中に圧縮されたデータシーケンスエラーが見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Invalid VTV record encountered

説明: VTV の処理中に圧縮されたデータレコードでエラーが見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

MVC volser # does not match requested volser #

説明: 入力 MVC としてマウントされたボリュームが MVCid() パラメータの指定と異なります。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

MVC record length error

説明: VTV の処理中に圧縮されたデータレコードで、長さエラーが見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Incorrect algo byte

説明: 説明: VTV の処理中に圧縮されたデータレコードでエラーが見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

No HDR1 record found for requested VTV

説明: BLOCKid() 文で位置が指定されていますが、必要な位置に HDR1 レコードが存在しません。BLOCKid 文を削除して、ユーティリティを再実行してください。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

No HDR1 record found on input MVC

説明: MVC としてマウントされたボリュームに HDR1 レコードがありません。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

No UHL1 record found on input MVC

説明: MVC としてマウントされたボリュームに UHL1 レコードがありません。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

No VOL1 record found on input MVC

説明: MVC としてマウントされたボリュームに VOL1 レコードがありません。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

NULL input buffer pointer

説明: プログラムの論理エラーです。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

NULL output buffer pointer

説明: プログラムの論理エラーです。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Requested VTV not found on MVC

説明: VTVID() パラメータで指定された volser が MVC 上にありません。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

Spanned length final error

説明: VTV のスパンデータレコードの処理中にエラーが見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Spanned length intermediate error

説明: VTV のスパンデータレコードの処理中にエラーが見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Unexpected request on input I/O

説明: プログラムの論理エラーです。処理は停止します。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

Unexpected end of tape on output volume

説明: 出力 VTV の書き込み中に、テープ終了条件が発生しました。VTV を複数の出力ボリュームに書き込むことはできません。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Unexpected request on output I/O

説明: プログラムの論理エラーです。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

Unexpected tape mark on input MVC

説明: MVC で予期しないテープマークが見つかりました。処理は停止します。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

VTVid range parameter is invalid

説明: VTVid() に無効な範囲が指定されています。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。

VTV logical data check encountered

説明: VTV の処理中に圧縮されたデータレコードで、データチェック標識が見つかりました。この VTV の処理は停止します。この VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマーク付けされています。ユーティリティは、必要に応じ別の VTV の処理に進みます。

VTV #VOLSER # does not match requested volser #

説明: BLOCKid() または FILEnum() 文が指定されましたが、VTV volser が VTVid() パラメーターと一致しません。ユーティリティは、リターンコード 12 を戻して終了します。BLOCKid または FILEnum() 文を削除して、ユーティリティを再実行してください。

RTV LISTONLYの出力

次の図に、RTV の出力例を示します。これは、LISTONLYパラメータを指定した場合に生成されます。

```

SWSRTV          (1.0.0)          StorageTek VTCS RTV Utility
PAGE 0001
TIME 14:23:33          Control Card Image Listing
DATE 01.12.00
RTV MVC(C83107) LISTONLY
SWSRTV          (1.0.0)          StorageTek VTCS RTV Utility
PAGE 0002
TIME 14:23:33          MVC C83107 Contents Report
DATE 01.12.00
VTV      File   Block          <----Created-->          <---Migrated--->          VTVPAGE  VTV
Volser   #      ID              Date      Time      Date      Time      Size      Status
VV6825   1      00000000      20060Nov30  12:07:56  20060Nov  12:15:56  Large
                                                30
VV6863   2      92005F0F      20060Sep27  12:57:54  20060Sep  12:59:54  Large
                                                27
VV6893   3      92005F18      20060Aug18  08:57:26  20060Aug  08:59:26  Large
                                                18
VV0403   4      92005F21      20060Aug18  08:57:26  20060Aug  08:59:26  Large
                                                18

```

図 6-2 RTV LISTONLY の出力例

このレポートには、次のVTV情報が出力されます。

- Volser
- MVC上の論理ファイル数
- MVC上のブロックID
- 作成およびマイグレーションされた時刻
- VTVPAGE サイズ – STANDARD または LARGE
- 状況 -Not Current。空白の場合には、VTVは最新です。

RTV圧縮解除の出力

次の図に、RTV の出力例を示します。これは、LISTONLY パラメータを指定しない場合 (RTV で VTV をボリュームに変換する場合) に生成されます。

SWSRTV (1.0.0) StorageTek VTCS RTV Utility								
PAGE 0001								
TIME 14:28:33			Control Card Image Listing				DATE 31.01.10	
RTV MVC(C8228) VTV(VV6800-VV6900) CPYVOLID								
SWSRTV (1.0.0) StorageTek VTCS RTV Utility								
PAGE 0002								
TIME 14:28:33			MVC C83223 Contents Report				DATE 31.01.10	
VTV	File	Block	<---Created--->		<---Migrated--->		VTVPAG	VTV
							E	
Volser	#	ID	Date	Time	Date	Time	Size	Status
VV6070	1	00000000	20060Nov30	12:07:56	20060Nov30	12:15:56	Large	
VV0874	2	2B001384	20060Sep27	12:57:54	20060Sep27	12:59:54	Large	
VV0772	3	A3002707	20060Aug18	08:57:26	20060Aug18	08:59:26	Large	
VV6828	4	9B002AB9	20060Aug18	08:57:26	20060Aug18	08:59:26	Large	Not current
VV6828	5	9B002AC2	20060Aug18	08:57:26	20060Aug18	08:59:26	Large	
VV6826	6	9B002ACB	20060Aug18	08:57:26	20060Aug18	08:59:26	Large	
SWSRTV (1.0.0) StorageTek VTCS RTV Utility								
PAGE 0003								
TIME 14:28:33			MVC C83223 Decompress Report				DATE 31.01.10	
VTV	Mounted				Final		Decompress	
Volser	Volser				Volser		Status	
VV6826	XX0772				VV6826		Successful	
VV6828	XX0773				VV6828		Successful	

図 6-3 RTV 圧縮解除の出力例

136 ページの図 67 のフィールド以外に、137 ページの図 68 に示す圧縮解除の出力では、次の VTV 情報が出力されます。

- 最初にマウントされたときの出力ボリュームのVOLSER
- 出力ボリュームの最終的なVOLSER。CPYVOLIDが指定されている場合は、最終的なVOLSERはVTV VOLSERと同じになります。それ以外の場合には、最初にマウントされたときの出力ボリュームのVOLSERと同じになります。
- 圧縮解除の状態

MEDia、RECtech および MODel の値

本付録では、MEDia、RECtech および MODel パラメータの値について説明します。これらのパラメータを使用して、ドライブおよびメディアの特性を指定します。これらのパラメータは、様々な ELS コマンドや制御文で指定します。

注 –

- SL8500 ライブラリでは、T9840A/B/C/D、T9940B、LTO、SDLT、および T10000A/B/C のメディアタイプおよび記録方式のみがサポートされています。
- SL3000 ライブラリでは、T9840C/D、LTO、SDLT、および T10000A/B/C のメディアタイプおよび記録方式のみがサポートされています。
- LTO および SDLT ドライブは、MVS 環境ではサポートされません。これらのドライブは HSC で認識されますが、アクセスできるのは LibraryStation を使用するオープンシステムのクライアントのみです。

メディアタイプ (MEDia)

メディアタイプは、データセットに対して使用される目的のメディアのタイプを指定するために使用します。これは次の ELS コマンドおよび制御文で指定されます。

SMC

- POLicy オペレータコマンド
- TAPEREQ 制御文

HSC/VTCS

- Display Drives コマンド
- Display SCRatch コマンド
- Display THReshld コマンド
- Eject コマンド
- SCREdist コマンド
- Warn コマンド
- VOLPARM 制御文

次の表に、有効なメディアタイプを示します。

表 A-1 メディアタイプ

メディアタイプ	説明
LONGitud	Standard または拡張 (ECART) カートリッジを示します。
ZLONGI	標準、拡張 (ECART)、または追加拡張 (ZCART) 容量のカートリッジです。
Standard	標準の長さの 3480 カートリッジを示します。これはどの水平記録方式のドライブでも読み取れます (4480、4490、9490、または 9490EE)。データは 36トラックモードで 4490、9490、または 9490EE ドライブに書き込めますが、18トラック (4480) ドライブでは読み取ることができません。別称として、CST、MEDIA1、STD、1、3480 が使用される場合もあります。
ECART	3490E、すなわち拡張容量カートリッジを示します。これは 36トラックドライブ (4490、9490、または 9490EE) 上に限り使用できます。別称として、E、ECCST、ETAPE、Long、MEDIA2、および 3490E が使用される場合もあります。
ZCART	3490E、すなわち追加拡張容量カートリッジを示します。9490EE ドライブ上に限り使用できます。ZCART は Z と省略表記できます。
Virtual	VTD (仮想テープドライブ) にマウントされる VTV (仮想テープボリューム) です。
HELical	ヘリカルカートリッジです。ヘリカルカートリッジは、RedWood ドライブ専用です。次のサブタイプおよび省略形はヘリカルカートリッジを指定します。 DD3 は、DD3A、DD3B、または DD3C のいずれかのヘリカルカートリッジです。 DD3A または A は、10G バイトのメディア容量のヘリカルカートリッジです。 DD3B または B は、25G バイトのメディア容量のヘリカルカートリッジです。 DD3C または C は、50G バイトのメディア容量のヘリカルカートリッジです。 外部ラベルの 7 番目の位置は、カートリッジタイプ (つまり A、B、または C) で符号化されます。
STK1	任意の T9840 カートリッジを示します。
STK1R	T9840 データカートリッジを示します。外部ラベル中のメディア標識が、カートリッジタイプ (R) でコード化されます。STK1R は R と省略表記できます。 T9840 カートリッジメディアの容量は、20G バイト (T9840A および T9840B)、40G バイト (T9840C)、または 75G バイト (T9840D) です。
STK1U	T9840A、T9840B、または T9840C クリーニングカートリッジです。STK1U は U と省略表記できます。
STK1Y	T9840D クリーニングカートリッジです。STK1Y は Y と省略表記できます。

表 A-1 メディアタイプ (続き)

メディアタイプ	説明
STK2	任意の T9940 カートリッジを示します。
STK2P	T9940 データカートリッジを示します。STK2P は P と省略表記できます。 T9940 カートリッジメディアの容量は、60G バイト (T9940A) または 200G バイト (T9940B) です。
STK2W	T9940 クリーニングカートリッジです。STK2W は W と省略表記できます。
LTO-10G	LTO 10G バイト容量カートリッジを示します。
LTO-35G	LTO 35G バイト容量カートリッジを示します。
LTO-50G	LTO 50G バイト容量カートリッジを示します。
LTO-100G	LTO 100G バイト容量カートリッジを示します。
LTO-200G	LTO 200G バイト容量カートリッジを示します。
LTO-400G	LTO 400G バイト容量カートリッジを示します。
LTO-400W	LTO Generation 3 WORM のカートリッジを示します。
LTO-800G	LTO 800G バイト容量カートリッジを示します。
LTO-800W	LTO Generation 4 WORM のカートリッジを示します。
LTO-1.5T	LTO 1.5T バイト容量カートリッジを示します。
LTO-1.5W	LTO Generation 5 WORM のカートリッジを示します。
LTO-CLN1	LTO type 1 のクリーニングカートリッジを示します。
LTO-CLN2	LTO type 2 のクリーニングカートリッジを示します。
LTO-CLNU	LTO ユニバーサルクリーニングカートリッジを示します。
SDLT	SDLT 160G バイトカートリッジを示します。
SDLT-2	SDLT 125G バイトカートリッジを示します。
SDLT-S1	SDLT Generation S1 カートリッジを示します。
SDLT-S2	SDLT Generation S2 カートリッジを示します。
SDLT-S3	SDLT Generation S3 カートリッジを示します。
SDLT-S4	SDLT Generation S4 カートリッジを示します。
SDLT-4	SDLT Generation 4 カートリッジを示します。
T10000T1	最大容量 500GB の T10000A カートリッジまたは 1TB の T10000B カートリッジです。 T10000T1 は T1に省略可。

表 A-1 メディアタイプ (続き)

メディアタイプ	説明
T10000TS	小型容量 120GB の T10000A カートリッジまたは 240GB の T10000B カートリッジです。T10000TS は TS に省略可。
T10000CT	T10000A または T10000B クリーニングカートリッジです。T10000CT は CT に省略可。
T10000T2	最大容量 5T バイトの T10000C カートリッジです。T10000T2 は T2 と省略表記できます。
T10000TT	小型容量 1T バイトの T10000C カートリッジです。T10000TT は TT と省略表記できます。
T10000CL	T10000A、T10000B、または T10000C クリーニングカートリッジです。T10000CL は CL と省略表記できます。

注 - T10000C ドライブは、T10000T1 または T10000TS メディアの読み取りはできませんが、そのメディアへの書き込みはできません。T10000C ドライブは、T10000T2 または T10000TT メディアに対してのみ書き込みが可能です。

MEDia パラメータが指定されていない場合は、RECtech パラメータの値に基づいて、デフォルトが選択されます。次の表は、MEDia が省略されている場合のデフォルト値です。

表 A-2 デフォルトのメディアタイプ

入力される RECtech :	MEDia デフォルト
18track	Standard
36track、36Atrack、36Btrack	LONGItud
36Ctrack	ZLONGI
LONGItud	LONGItud
DD3、ヘリカル	DD3A
STK1R、STK1R34、STK1R35 STK1RA、STK1RA34、STK1RA35 STK1RB、STK1RB34、STK1RB35 STK1RAB、STK1RAB34、STK1RAB35 STK1RC、STK1RC34、STK1RC35 STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、 STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、 STK1RDE5	STK1R

表 A-2 デフォルトのメディアタイプ (続き)

入力される RECtech :	MEDia デフォルト
STK2P、STK2P34、STK2P35 STK2PA、STK2PA34、STK2PA35 STK2PB、STK2PB34、STK2PB35	STK2P
T10K、T10KN、T10KE T10KA、T10KAN、T1A34、T1A35、 T10KAE、T1AE34、T1AE35 T10KC、T10KCN、T1C34、T1C35、 T10KCE、T1CE34、T1CE35	T10000T1*
Virtual	Virtual

* T10000C ドライブは、T10000T1 または T10000TS メディアの読み取りはできますが、そのメディアへの書き込みはできません。T10000C ドライブは、T10000T2 または T10000TT メディアに対してのみ書き込みが可能です。

記録方式 (RECtech)

記録方式 (RECtech) を用いて、データセットに応じてテープ表面にデータトラックを記録する際の記録方式を指定します。次の ELS コマンドや制御文で指定します。

SMC

- POLicy コマンド
- UNITAttr コマンド
- TAPEREQ 制御文

HSC/VTCS

- Display Drives コマンド
- Display SCRatch コマンド
- Display THReshld
- Eject コマンド
- SCREdist コマンド
- Warn コマンド
- VOLPARM 制御文

次の表に、有効な記録方式を示します。

表 A-3 記録方式

記録方式	説明
LONGItud	水平記録方式を使用するデバイスを示します。デバイスには 4480、4490、9490、および 9490EE ドライブが含まれます。
18track	4480 ドライブを示します。
36track	4490、9490 または 9490EE ドライブ (36 トラックモードで記録するあらゆるデバイス) です。
36Atrack	4490 (Silverton) ドライブを示します。
36Btrack	9490 (Timberline) ドライブを示します。
36Ctrack	9490EE ドライブです。
HELical	ヘリカル記録方式を使用するデバイスです。
DD3	ヘリカル記録方式を使用するデバイスです。
STK1R	任意の T9840 ドライブを示します。
STK1R34	3490E イメージの T9840 ドライブです。
STK1R35	3590 イメージの T9840 ドライブです。
STK1RA	任意の T9840A ドライブを示します。
STK1RA34	3490E イメージの T9840A ドライブです。
STK1RA35	3590 イメージの T9840A ドライブです。

表 A-3 記録方式 (続き)

記録方式	説明
STK1RB	任意の T9840B ドライブを示します。
STK1RB34	3490E イメージの T9840B ドライブです。
STK1RB35	3590 イメージの T9840B ドライブです。
STK1RAB	任意の T9840A または T9840B ドライブです。
STK1RAB4	3490E イメージの T9840A または T9840B ドライブです。
STK1RAB5	3590 イメージの T9840A または T9840B ドライブです。
STK1RC	任意の T9840C ドライブを示します。
STK1RC34	3490E イメージの T9840C ドライブです。
STK1RC35	3590 イメージの T9840C ドライブです。
STK1RD	任意の T9840D ドライブを示します。
STK1RDE	暗号化が有効な T9840D ドライブです。
STK1RDN	非暗号化が有効な T9840D ドライブです。
STK1RD34	非暗号化が有効な 3490E イメージの T9840D ドライブです。
STK1RD35	非暗号化が有効な 3590 イメージの T9840D ドライブです。
STK1RDE4	暗号化が有効な 3490E イメージの T9840D ドライブです。
STK1RDE5	暗号化が有効な 3590 イメージの T9840D ドライブです。
STK2P	任意の T9940 ドライブを示します。
STK2P34	3490E イメージの T9940 ドライブです。
STK2P35	3590 イメージの T9940 ドライブです。
STK2PA	任意の T9940A ドライブを示します。
STK2PA34	3490E イメージの T9940A ドライブです。
STK2PA35	3590 イメージの T9940A ドライブです。
STK2PB	任意の T9940B ドライブを示します。
STK2PB34	3490E イメージの T9940B ドライブです。
STK2PB35	3590 イメージの T9940B ドライブです。
T10K	任意の T10000 ドライブを示します。
T10KN	すべての T10000 非暗号化ドライブを示します。
T10KE	すべての T10000 暗号化ドライブを示します。

表 A-3 記録方式 (続き)

記録方式	説明
T10KA	任意の T10000A ドライブを示します。
T10KAN	非暗号化が有効な 3490E または 3590 イメージの T10000A ドライブです。
T1A34	非暗号化が有効な 3490E イメージの T10000A ドライブです。
T1A35	非暗号化が有効な 3590 イメージの T10000A ドライブです。
T10KAE	暗号化が有効な 3490E または 3590 イメージの T10000A ドライブです。
T1AE34	暗号化が有効な 3490E イメージの T10000A ドライブです。
T1AE35	暗号化が有効な 3590 イメージの T10000A ドライブです。
T10KB	任意の T10000B ドライブを示します。
T10KBN	非暗号化が有効な 3490E または 3590 イメージの T10000B ドライブです。
T1B34	非暗号化が有効な 3490E イメージの T10000B ドライブです。
T1B35	非暗号化が有効な 3590 イメージの T10000B ドライブです。
T10KBE	暗号化が有効な 3490E または 3590 イメージの T10000B ドライブです。
T1BE34	暗号化が有効な 3490E イメージの T10000B ドライブです。
T1BE35	暗号化が有効な 3590 イメージの T10000B ドライブです。
T10KC	任意の T10000C ドライブを示します。
T10KCN	暗号化されていない 3490E または 3590 イメージの T10000C ドライブです。
T1C34	暗号化されていない 3490E イメージの T10000C ドライブです。
T1C35	暗号化されていない 3590 イメージの T10000C ドライブです。
T10KCE	暗号化が有効な 3490E または 3590 イメージの T10000C ドライブです。
T1CE34	暗号化が有効な 3490E イメージの T10000C ドライブです。
T1CE35	暗号化が有効な 3590 イメージの T10000C ドライブです。
Virtual	VTD (仮想テープドライブ) にマウントされる VTV (仮想テープボリューム) です。

RECtech パラメータが指定されていない場合は、MEDia パラメータの値に基づいて、デフォルトが選択されます。次の表は、RECtech が省略されている場合のデフォルト値です。

表 A-4 デフォルトの記録方式

入力される MEDia :	RECtech デフォルト
LONGItud	LONGItud
ZLONGI	LONGitude
Standard	LONGItud
ECART	36track
ZCART	36Ctrack
DD3A、DD3B、DD3C、DD3D	DD3
STKR、STK1U、STKY	STK1R
STK2P、STK2W	STK2P
T10000T1、T10000TS、T10000CL	T10K
T10000CT	T10KA + T10KB
T10000T2、T10000TT	T10KC
Virtual	Virtual

MODel タイプ (MODel)

モデルタイプを用いて、トランスポート (ドライブ) またはドライブのモデル番号を指定します。MODel は RECtech と同じ種類の情報を提供しますが、ユーザーにとっては、記録方式ではなく、モデルを指定する方が簡単な場合があります。

注 – MODel と RECtech は、いずれか一方しか指定できません。

次の ELS コマンドや制御文で指定します。

SMC

- POLicy コマンド
- UNITAttr コマンド
- TAPEREQ 制御文

HSC/VTCS

- Display Drives コマンド

次の表に、有効な MODel タイプを示します。

注 –

- SL8500 ライブラリでは、T9840、T9940 および T10000 シリーズのドライブに関連付けられているモデルタイプのみがサポートされます。
 - このパラメータには、複数の値を指定できます (コンマ区切り)。
-

表 A-5 モデルタイプ

モデルタイプ	説明
4480	4480 (18トラック) ドライブです。
4490	4490 (36トラック Silverton) ドライブです。
9490	9490 (36トラック Timberline) ドライブです。
9490EE	9490EE (36トラック Timberline EE) ドライブです。
SD3	SD-3 (RedWood) ドライブです。
9840	3490E イメージの T9840A ドライブです。
984035	3590 イメージの T9840A ドライブです。
T9840B	3490E イメージの T9840B ドライブです。
T9840B35	3590 イメージの T9840B ドライブです。
T9840C	3490E イメージの T9840C ドライブです。
T9840C35	3590 イメージの T9840C ドライブです。

表 A-5 モデルタイプ (続き)

モデルタイプ	説明
T9840D	非暗号化が有効な 3490E イメージの T9840D ドライブです。
T9840D35	非暗号化が有効な 3590E イメージの T9840D ドライブです。
T9840DE	暗号化が有効な 3490E イメージの T9840D ドライブです。
T9840DE5	暗号化が有効な 3590E イメージの T9840D ドライブです。
T9940A	3490E イメージの T9940A ドライブです。
T9940A35	3590 イメージの T9940A ドライブです。
T9940B	3490E イメージの T9940B ドライブです。
T9940B35	3590 イメージの T9940B ドライブです。
HP-LTO3	HP LTO Generation 2 ドライブを示します。
HP-LTO2	HP LTO Generation 3 ドライブを示します。
HP-LTO4	HP LTO Generation 4 ドライブを示します。
HP-LTO5	HP LTO Generation 5 ドライブを示します。
IBM-LTO2	IBM LTO Generation 2 ドライブを示します。
IBM-LTO3	IBM LTO Generation 3 ドライブを示します。
IBM-LTO4	IBM LTO Generation 4 ドライブを示します。
IBM-LTO5	IBM LTO Generation 5 ドライブを示します。
SDLT-600	SuperDLT モデル 600 ドライブを示します。
DLT-S4	Quantum DLT-S4 ドライブを示します。
T1A34	非暗号化が有効な 3490E イメージの T10000A ドライブです。
T1A35	非暗号化が有効な 3590 イメージの T10000A ドライブです。
T1AE34	暗号化が有効な 3490E イメージの T10000A ドライブです。
T1AE35	暗号化が有効な 3590 イメージの T10000A ドライブです。
T1B34	非暗号化が有効な 3490E イメージの T10000B ドライブです。
T1B35	非暗号化が有効な 3590E イメージの T10000B ドライブです。
T1BE34	暗号化が有効な 3490E イメージの T10000B ドライブです。
T1BE35	暗号化が有効な 3590 イメージの T10000B ドライブです。
T1C34	非暗号化が有効な 3490E イメージの T10000C ドライブです。
T1C35	非暗号化が有効な 3590 イメージの T10000C ドライブです。

表 A-5 モデルタイプ (続き)

モデルタイプ	説明
T1CE34	暗号化が有効な 3490E イメージの T10000C ドライブです。
T1CE35	暗号化が有効な 3590 イメージの T10000C ドライブです。
Virtual	VTD (仮想テープドライブ) にマウントされる VTV (仮想テープボリューム) です。

CAP、パネル、行、および列の値

この付録では、LSM タイプに固有の、CAP、パネル、行、および列要素を示すために使用する 1 桁または 2 桁の 10 進値を示します。これらの値は、さまざまな ELS コマンドや制御文で指定します。これらの要素は、コマンドまたは制御文に応じて、個別に、またはリストの一部として指定できます。

CAP の値

cap-id

1 つまたは複数の CAP を示します。cap-id の形式は AA:LL:CC で、AA:LL は LSMid、CC は LSM タイプに固有の次のいずれかになります。

00

- 4410 および 9310 LSM の場合、21 セルの標準 CAP、または右側の 40 セルの拡張 CAP
- 9740 LSM の場合、固定ラック 14 セルまたは 10 セル取り外し可能マガジン CAP
- SL3000 LSM の場合、234 セルの AEM CAP
- SL8500 LSM の場合、13 セルの取り外し可能マガジン 3 個で構成される CAP

01

- 4410 および 9310 LSM の場合、左側の 40 セル拡張 CAP
- SL3000 LSM の場合、13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション CEM CAP
- SL8500 LSM の場合、13 セルの取り外し可能マガジン 3 個で構成されるオプション CAP

02

- 4410 または 9310 LSM 拡張 CAP の優先 CAP (PCAP)
- SL3000 LSM の場合、13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション CEM CAP
- SL8500 LSM の場合、13 セルの取り外し可能マガジン 3 個で構成されるオプション CAP

03, 04, 05

- SL3000 LSM の場合、13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション CEM/DEM CAP

06

- SL3000 LSM の場合、13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成される唯一の必須 BDM CAP

07, 08, 09, 0A

- SL3000 LSM の場合、13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション CEM CAP

0B

- SL3000 LSM の場合、13 セルの取り外し可能マガジン 18 個で構成される右側の AEM CAP
- SL3000 LSM の場合、234 セルの AEM CAP

パネルの値

panel-list

各 *panel-list* 要素は 1 桁または 2 桁の 10 進数で、LSM タイプに固有です。

- **LSM モデル 4410 および 9310 PowderHorn**
 - 外部ウォールパネルの場合は0から11
 - 内部ウォールパネルの場合は 12 から 19
- **LSM モデル 9360 WolfCreek**
 - モデル 9360-050 の場合は 0 から 2
 - モデル 9360-075 の場合は 0 から 3
 - モデル 9360-100 の場合は 0 から 4
- **LSM モデル 9740 TimberWolf**
 - 0から2 (オプションのセルがある場合はパネル3も含みます)
- **LSM モデル SL3000 ライブラリ**
 - Access Expansion Module (AEM はオプション) - パネル 0 から 1 および 22 から 23 はライブラリの両端に配置され、このリリースではライブラリの終了 CAP としてのみ動作します。
 - Base Drive Module (BDM が必須) - パネル 12 から 13
 - Drive Expansion Module (DEM はオプション) - パネル 10 から 11 が BDM の左側に配置されます。
 - Cartridge Expansion Module (DEM はオプション) - パネル 2 から 9 が BDM またはオプションの DEM の左側に配置されます。
 - Cartridge Expansion Module (CEM はオプション) - パネル 14 から 21 が BDM の右側に配置されます。
 - Parking Expansion Module (PEM) - デュアルロボットのみ - パネル番号は、その場所が BDM の右側か左側かに応じて、置き換えられる CEM と同じパネル番号になります。

注 – SL3000 ライブラリは、フル構成の場合、一番左側のバックパネル (パネル 0) から始まって一番右側のフロントパネル (パネル 23) で終わる静的なパネル番号があります。パネル番号は BDM (唯一の必須モジュール (パネル 12 および 13)) から始まり、左方向や右方向へ外に向かって番号が付けられます。

- **LSM モデル SL8500 ライブラリ**
 - 基本ライブラリ
 - 2-10
 - 1 つの拡張パネル付き
 - 2-18 (拡張パネルは 8-15)
 - 2 つの拡張パネル付き
 - 2-26 (拡張パネルは 8-23)
 - 3 つの拡張パネル付き
 - 2-34 (拡張パネルは 8-31)

行の値

row-list

各 *row-list* 要素は 1 桁または 2 桁の 10 進数で、LSM タイプに固有です。

- **LSM モデル 4410 および 9310 PowderHorn**
 - 外部ウォールパネルの場合は 0 から 14
 - 内部ウォールパネルの場合は 0 から 5 および 8 から 14
 - 最大リストは、4 行です (約 100 個のセル)。
- **LSM モデル 9360 WolfCreek**
 - 0 から 41 (全モデル)最大リストは、20 行です (約 100 個のセル)。
- **LSM モデル 9740 TimberWolf**
 - パネル 0、2、および 3 では 0 から 41
 - パネル 1 では 36 から 41

注 -

- パネル 2 の列 3 では、行 28 から 41 のみが指定できます。
 - パネル 3 のセルは任意指定です。
-

- **LSM モデル SL3000 ライブラリ**
 - Access Expansion Module - パネル 0 から 1 と 22 から 23 (この初期リリースではセルなし)
 - Base Drive Module (BDM) - パネル 12 (バック)
 - 8 台のドライブがインストールされた 12 から 47
 - 16 台のドライブがインストールされた 23 から 47
 - 24 台のドライブがインストールされた 35 から 47
 - Base Drive Module (BDM) - パネル 13 (フロント)
 - フロントパネルの場合は 0 から 51
 - Drive Expansion Module (DEM) - パネル 10 (バック)
 - 8 台のドライブがインストールされている場合は 12 から 47 が使用可能
 - 16 台のドライブがインストールされている場合は 23 から 47 が使用可能
 - 24 台のドライブがインストールされている場合は 35 から 47 が使用可能
 - 32 台のドライブがインストールされている場合は使用可能な行はなし
 - Drive Expansion Module (DEM) - パネル 11 (フロント)
 - フロントパネルの場合は 0 から 51 が使用可能
 - Cartridge Expansion Modules (CEM) - 全パネル
 - フロントパネルとバックパネルの両方の場合は 0 から 51 が使用可能
 - Parking Expansion Module (PEM) - 全パネル
 - バックパネルとフロントパネルの場合は 0 から 51 が使用可能
- **LSM モデル SL8500 ライブラリ**
 - 標準パネルの場合、0 から 26
 - ショートパネル (パネル 4、6 から 7) では 0 から 12
 - PTP パネル (パネル 5) の場合、6 から 12

列の値

column-list

各 *column-list* 要素は 1 桁または 2 桁の 10 進数で、LSM タイプに固有です。

- **LSM モデル 4410 および 9310 PowderHorn**
 - 外部ウォールパネルの場合は0から23
 - 内部ウォールパネルの場合は 0 から 19
- **LSM モデル 9360 WolfCreek**
 - 0 から 5 (全モデル)
- **LSM モデル 9740 TimberWolf**
 - パネル 0、2、および 3 (オプションのセルがある場合) では 0 から 3
 - パネル 1 では 0 から 2
- **LSM モデル SL3000 ライブラリ**
 - Access Expansion Module (AEM) パネル 0 から 1 および 22 から 23
 - 初期リリースでは使用可能な列はなし
 - Base Drive Module (BDM) - パネル 12 (バック)
 - CEM または DEM が BDM の左側に追加された場合は、0 が使用可能
 - 8 台のドライブがインストールされている場合は 行 12 から 47 で 1 から 5 が使用可能
 - 16 台のドライブがインストールされている場合は 行 23 から 47 で 1 から 5 が使用可能
 - 24 台のドライブがインストールされている場合は 行 35 から 47 で 1 から 5 が使用可能
 - Base Drive Module (BDM) - パネル 13 (フロント)
 - BDM の左側に拡張がある場合は 0 が使用可能
 - BDM の右側に拡張がある場合は行 39 から 51 で 5 が使用可能
 - CAP がインストールされている場合は 行 0 から 38 で 1 から 3 が使用可能
 - CAP がインストールされている場合は 行 39 から 51 で 1 から 4 が使用可能
 - オプションのウィンドウ / 操作パネルがインストールされている場合は 行 9 から 16 で 1 から 3 が使用不可
 - Drive Expansion Module (DEM) - パネル 10 (バック)
 - DEM の左側に拡張がある場合は 0 が使用可能
 - 8 台のドライブがインストールされている場合は 行 12 から 47 で 1 から 5 が使用可能
 - 16 台のドライブがインストールされている場合は 行 23 から 47 で 1 から 5 が使用可能
 - 24 台のドライブがインストールされている場合は 行 35 から 47 で 1 から 5 が使用可能
 - 32 台のドライブがインストールしている場合は使用可能な列はなし
 - Drive Expansion Module (DEM) - パネル 11 (フロント)
 - 左側の DEM に拡張がある場合は 0 が使用可能
 - CAP がインストールされている場合は 行 0 から 38 で 1 から 3 が使用可能
 - CAP がインストールされている場合は 行 39 から 51 で 1 から 5 が使用可能
 - ウィンドウがインストールされている場合は 行 9 から 16 で 1 から 3 が使用不可
 - 標準 DEM パネルの場合は 行 0 から 51 で 1 から 5 が使用可能

- Cartridge Expansion Module (CEM) - パネル 2、4、6、8 (バック)
 - 左側に拡張がある場合は 0 が使用可能
 - 標準 CEM バックパネルの場合は 1 から 5 が使用可能
- Cartridge Expansion Module (CEM) - パネル 3、5、7、9 (フロント)
 - 左側に拡張がある場合は 0 が使用可能
 - CAP がインストールされている場合は 行 0 から 38 で 1 から 3 が使用可能
 - CAP がインストールされている場合は 行 39 から 51 で 1 から 4 が使用可能
 - 標準 CEM フロントパネルの場合は 1 から 4 が使用可能
- Cartridge Expansion Module (CEM) - パネル 14、16、18、20 (バック)
 - 標準 CEM バックパネルの場合は 0 から 5 が使用可能
- Cartridge Expansion Module (CEM) - パネル 15、17、19、21 (フロント)
 - CAP がインストールされている場合は 行 0 から 38 で 0 から 3 が使用可能
 - CAP がインストールされている場合は 行 39 から 51 で 0 から 5 が使用可能
 - 標準 CEM フロントパネルの場合は 0 から 5 が使用可能
- Parking Expansion Module (PEM) - 左側の PEM
 - 2 つ目のロボットがインストールされているバックパネルとフロントパネルの場合は 3 から 5 が使用可能
- Parking Expansion Module (PEM) - 右側の PEM
 - 2 つ目のロボットがインストールされているバックパネルとフロントパネルの場合は 0 から 2 が使用可能
- LSM モデル SL8500 ライブラリ
 - 全パネルタイプで 0 から 1

注 - すべての SL3000 列には、0 - 5 (左から右) の番号が付けられています。

テープ管理システムインタフェース (SLUDR*) のルーチン

この付録では、HSC SLUCONDB ユーティリティーと SMC SMCUDBX ユーティリティーによって呼び出される TMS (テープ管理システム) インタフェースのルーチンについて説明します。これらのユーティリティーでは、使用されているテープ管理システムに基づいて適切なルーチンが呼び出されます。

ルーチンには次のものがあります。

- SLUDRCA1
- SLUDRRMM
- SLUDRTLMM
- SLUDRSMC
- SLUDRZAR

これらのルーチンは、ELS のインストール中に生成された SEALINK ライブラリに含まれています。これらのルーチンから戻されたデータは、SMC スクラッチ抽出ファイルのフォーマットに使用されます。

SLUDRCA1

SLUDRCA1 ルーチンは、CA-1 がテープ管理システムとして定義されている場合に、CA-1 Tape Management Catalog (TMC: テープ管理カタログ) を読み込むために呼び出されます。SLUDRCA1 は、CA-1 マクロを使用して CA-1 TMC のレイアウトをマップします。

CA-1 TMC をマップするマクロの名前はリリース 4.9 からリリース 5.0 で変更されました。どちらのマクロも SLUDRCA1 ルーチンの末尾に配置され、CA-1 Release 4.9 マクロという注釈が付いています。SAMPLIB で提供されているバージョンの SLUDRCA1 は、CA-1 リリース 5.0 のマクロを使用し、このマクロを使用してアセンブルされています。

- CA-1 リリース 4.9 以前を使用している場合は、リリース 5.0 のマクロをコメントアウトし、リリース 4.9 のマクロの列 1 のアスタリスクを削除して、このモジュールを再アセンブルする必要があります。アセンブルの SYSLIB 連結で適切な CA-1 マクロライブラリが使用されていることを確認してください。
- ローカルで修正せずに CA-1 リリース 5.0 を実行している場合は、このモジュールを再アセンブルする必要はなく、このモジュールに対して行うことはありません。ローカルで修正を加えた場合は、このモジュールを再アセンブルする必要があります。

SLUDRRMM

SLUDRRMM ルーチンは、DFSMSrmm がテープ管理システムとして定義されている場合に、DFSMSrmm レポート抽出ファイルを読み込むために呼び出されます。

SLUDRRMM は、DFSMSrmm EDGRVEXT マクロを使用してレポート抽出ファイルのレイアウトをマップします。

抽出ファイルに読み込まれるフィールドには次のものがあります。

- RVTYPE (レコードタイプ)
- RRVOLSER (volser 番号)
- RVLCDATE (最終変更日付)
- RVNAME (デバイスタイプ)
- RVSTATUS (ボリューム状況)
- RVEXPDT (ボリュームの有効期限)
- RVEXPDTO (ボリュームの元の有効期限)
- RVLABEL (ボリュームのラベルタイプ)

SLUDRRMM は、抽出ファイル进行处理し、ボリュームレコード情報を SLUCONDB に渡します。SLUCONDB は SLUADMIN に入力するスクラッチカードイメージを構築します。そのあと、ボリュームスクラッチ状況 (スクラッチ/非スクラッチ) が、抽出ファイルのボリュームレコードごとに CDS で更新されます。

RMM レポートの日付は、ユリウス暦の日付形式である必要があります (EDGHSKP が PARM 'DATEFORM(J)' で実行されます)。RMM レポートに一覧表示される有効期限のないテープは、SLUDRRMM ではスキップされます。

SLUDRSMC

SLUDRSMC ルーチンは、SMCUDBX ユーティリティーによって作成された抽出ファイルをクライアントのテープ管理システムから読み込むために呼び出されます。このファイルには、抽出されたスクラッチボリュームごとにレコードが 1 つずつ含まれ、そのレコードにはボリュームのシリアル番号と抽出が実行された時間が含まれます。

実行中は、スクラッチ抽出実行の時刻 (GMT 形式) とボリュームの「最後の選択時間」を一致させることによって、適切なスクラッチ同期が提供されます。スクラッチ選択の実行後に選択されたすべてのボリュームは、SLUCONDB 処理でスキップされます。

SLUDRTLM

SLUDRTLM ルーチンは、CA-DYNAM/TLMS がテープ管理システムとして定義されている場合に、CA-DYNAM/TLMS Volume Master File (VMF: ボリュームマスターファイル) を読み込むために呼び出されます。SLUDRTLM は、CA-DYNAM/TLMS COPY メンバーを使用して VMF のレイアウトをマップします。

TLMS リリース 5.4 を実行している場合や、ローカルで修正を加えた場合は、SLUDRTLM を再アセンブルする必要があります。このモジュールを再アセンブルする場合は、アセンブルの SYSLIB 連結で適切な CA-DYNAM/TLMS ソースライブラリが使用されていることを確認してください。

SLUDRZAR

SLUDRZAR ルーチンは、Zara がテープ管理システムとして定義されている場合に、Zara のデータベースを読み込むアプリケーションプログラミングインタフェース (API) を開始するために呼び出されます。

用語集

この用語集では、このマニュアルで使用される用語や略語を定義します。

A

ACS library (ACS ライブラリ) 各ライブラリは、カートリッジドライブに取り付けられている 1 つまたは複数の自動カートリッジシステム (ACS: Automated Cartridge System) と ACS 内のカートリッジで構成される。

ACS ルーチン (ACS routine) 自動クラス選択ルーチンを指す SMS 用語。HSC 用語の ACS(自動カートリッジシステム) と混同しないこと。

ACS 「Automated Cartridge System (自動カートリッジシステム)」を参照。

ACS-id LIBGEN プロセスで使用する、16 進数 (00 - nn) による ACS の識別方法。

address (アドレス) ハードウェア ID、データの着信先または送信元を符号化によって示したもの。

allocation (割り振り) 特定のタスクにリリースを割り振ること。

AMT 自動マイグレーション限界値 (Automatic Migration Threshold)。

APF 許可プログラム機能 (Authorized Program Facility)。

APPL HSC 用の VTAM APPLID 定義。

asynchronous transmission (非同期転送) 文字処理型のデータ伝送方式 (IBM のブロックモードの伝送と比較)。

AUDIT(audit) VSMAUDIT(HSCAUDIT とは異なる) では、VTV および MVC の情報の再構成が行われる。

Automated Cartridge System (ACS: 自動カートリッジシステム) カートリッジストレージと取得ライブラリサブシステムから成る完全な自動処理システムで、パススルーポートに接続される 1 つまたは複数のライブラリストレージモジュール (LSM: Library Storage Module) で構成される。

Automated Cartridge System Library Software (ACSLs、自動カートリッジシステムライブラリソフトウェア) UNIX® ベースのライブラリ制御システムを実行するライブラリ制御ソフトウェア。

automatic mode (自動モード) LSM と、接続されているほかのホストとの関係を指す。自動モードで動作している LSM は、オペレータによる介入なしに、カートリッジ処理を行う。このモードは、オンラインで変更されている LSM の通常の運用モードであり、逆の状況は「手動モード」。「**manual mode (手動モード)**」を参照。

automatic mode (接続モード) ホストと ACS が通信できる関係にある (ACS に対して少なくとも 1 つの端末がオンラインになっている) モード。

B

back-end capacity The capacity of the VTSS disk buffer, in bytes, as defined in disk arrays excluding space for system overhead.

bar code (バーコード) 一連のさまざまな幅の縦線から構成されるコード。このコードは、カートリッジの背に添付されている外側のラベル上に表示され、ボリュームシリアル番号 (volser) と同じ。このコードは、ロボットのマシンビジョンシステムによって読み取られる。

BISYNC (Binary Synchronous Communications) IBM によって開発された、同期通信リンク上でのデータ伝送用の初期の低レベルプロトコル。送信側の端末と受信側の端末で生成されるタイミング信号によって、文字の同期化を制御する伝送方式。

C

CAP 「カートリッジアクセスポート」を参照。

CAPid CAPid は、LSM 内に常駐する CAP の位置を個別に定義する ID で、CAPid は「AAL」という形式で表され、「AA」は acs-id で、「L」は LSM 番号。

Cartridge Access Port (CAP: カートリッジアクセスポート) このアセンブリから、オペレータによる介入なしに、複数のカートリッジを LSM に着脱できる。

cartridge drive (CD: カートリッジドライブ) 2-4 個のカートリッジトランスポート、関連電源、および空圧源で構成されるハードウェアデバイス。

cartridge tape I/O driver (カートリッジテープ入出力ドライバー) カートリッジサブシステムにコマンド (読み取り、書き込み、巻き戻しなど) を発行するオペレーティングシステムソフトウェア。特定の種類の制御ユニット (Oracle の StorageTek CARTLIB 製品など) を接続する際のソフトウェアの中核となる部分。

cartridge transport (ライブラリカートリッジトランスポート) 「transport (トランスポート)」を参照。

cartridge (カートリッジ) プラスチック製テープ収容筐体。約 4 インチ (100 ミリ) x 5 インチ (125 ミリ) x 1 インチ (25 ミリ) サイズ。テープは、トランスポートにロードされると、自動的に装着される。自動装着用にプラスチック製ローダーブロックが付属している。カートリッジの背には、VOLSER (tape volume identifier: テープボリューム ID) を示す OCR/バーコードラベルが表示される。

CAW 「チャンネルアドレスワード」を参照。

CDRM クロスドメインリソース管理プログラムの定義 (既存の CDRM を使用しない場合)。

CDRSC クロスドメインリソース定義。

CDS 「制御データセット」を参照。

CE チャンネル終了 (Channel End)。

cell (セル) 1 つのカートリッジを収容する LSM 内の容器。

CFT カスタマーフィールドテスト。

CGI Common Gateway Interface (共通ゲートウェイインタフェース)

channel (チャンネル) ホストとメインストレージを、入出力デバイスの制御ユニットに接続するデバイス。全二重チャンネルには 2 つのパス (2 本線、または 2 種類の周波数信号を備えた 1 本線) が備わっている。半二重チャンネルの場合は、1 つのポートから送信している間、もう一方のポートから受信する。

channel-to-channel (CTC: チャンネル間) チャンネル間アダプターの両端のプログラム間で行われる通信 (データ送信) を指す。(I)

CI コンバータ/インタープリタ (Converter/Interpreter)(JES3)。

client link (クライアントリンク) LCS とクライアントの間の通信リンク。

client (クライアント) ライブラリ制御システムが提供する ACS サービスを利用する最終的なユーザー。

client-server (クライアントサーバー) 分散型システムにおける対話モデル。1 つのサイトのプログラムが、別のサイトのプログラムへの要求を処理し、応答を待機する。要求を行う側のプログラムをクライアント、要求を満たす側のプログラムをサーバーと呼ぶ。

coaxial cable (同軸ケーブル) 同期通信ネットワークでのデータ伝送に使用する伝送媒体。非同期 RS-232 通信には、ツイストペアケーブルが使用される。

complex (コンプレックス) ACS サーバースystemやクライアントシステムなどのほかのシステムで構成される複合システム。

connection number (接続番号) 通信パスでのサーバーの固有 ID。接続番号は、サーバーノードとサーバー上の特定ポートの間、およびクライアントノードとクライアント上の特定ポートの間の固有の通信を識別するため、TCP/IP によって割り振られ、通信の継続中、保持される。

console (コンソール) システム上のセッションを制御する主な入出力デバイス。

control data set (CDS: 制御データセット) ホストソフトウェアが自動ライブラリ機能を制御するために使用するデータセット (別称「ライブラリデータベース」)。

Control Path Adaptor (CPA: 制御パスアダプター) ホストプロセッサのブロックマルチプレクサチャンネルとローカルエリアネットワーク間の通信を可能にする、Bus-Tech, Inc. 製のハードウェアデバイス。

Control Unit (CU: 制御ユニット) マイクロプロセッサを土台にしたユニットで、チャンネルと入出力の間に設置される。チャンネルコマンドをデバイスコマンドに変換し、デバイスの状態をチャンネルに送信する。

coupling facility channel (結合機能チャネル) 結合機能と、同機能に直接接続されている中央処理デバイスコンプレックスとの間のデータ共有に必要な高速接続を提供する高帯域光ファイバチャネル。(I)

coupling facility (結合機能) シスプレックス環境で、高速キャッシングやリスト処理、ロック機能を提供する特殊な論理パーティション。(I)

coupling services (結合サービス) シスプレックス環境で、1 つまたは複数の MVS システム内の 1 つのグループに属するメンバー間で、データや状態を転送する XCF 機能。(I)

cross-system coupling facility (XCF: システム横断結合機能) XCF は、シスプレックス環境で実行される認証済みプログラム間の協働をサポートする機能を提供する、MVS のコンポーネント。(I)

CSE カスタマーサービスエンジニア (Customer Service Engineer)。

CSI 統合システム目録 (Consolidated System Inventory)。

CSL カートリッジスクラッチローダー (Cartridge Scratch Loader)。

CSRC Central Support Remote Center。「Remote Diagnostics Center」を参照。

CSW チャネル状況ワード (Channel Status Word)。

CTC Channel-to-channel (チャネル間)

CU 「制御装置」を参照

D

DAE ダンプ分析重複回避機能 (Dump Analysis Elimination)。

DASD 直接アクセス記憶デバイス。

data set (データセット) 1 つの単位としてスレッド化されている一連の記録。

data sharing (データ共有) 並列サブシステムまたはアプリケーションプログラムが、データの整合性を保持しながら、同じデータに直接アクセスし、変更できる能力。(I)

DBU ディスクバッファ使用率。

DCB データ制御ブロック (Data Control Block)。

device number (デバイス番号) プロセッサに接続されているデバイスを固有に識別する、4 桁の 16 進数で示される番号。

device preferencing (デバイス優先度) 特定の 36 トラックトランスポートタイプを別の 36 トラックトランスポートタイプより優先するプロセス。

device separation (デバイス分離) 「drive exclusion (ドライブ除外)」を参照。

DFSMS Data Facility Storage Management Subsystem (データ機能ストレージ管理サブシステム)

direct access storage device (DASD: 直接アクセス記憶デバイス) ディスクドライブ記憶デバイスを示す IBM の用語。

directed allocation (指示割り振り) 「drive prioritization (ドライブ優先化)」を参照。

disconnected mode (切断モード) ホストと ACS が通信できない関係にある (ACS に対してオンラインになっている端末がない) モード。

DOM された 実行中は強調表示されていたが、現時点では通常表示になっているコンソールメッセージについて使われる用語。

dotted-decimal notation (小数点付き 10 進数表記) 4 つの 8 ビットの 10 進数字をピリオド (小数点、ドット) で区切った 32 ビットの整数を示す統語表示。TCP/IP では、インターネットアドレスが小数点付き 10 進数で示される。

drive panel (ドライブパネル) テープトランスポートが収容される LSM の壁面。T9840 トランスポートのドライブパネルには、10 または 20 個のトランスポートを収容できる。非 T9840 トランスポートのドライブパネルには、最大 4 個のトランスポートを収容できる。

Dual LMU (デュアル LMU) 冗長 LMU 機能を提供するハードウェア/マイクロコード機能。

dump (ダンプ) t 時のメインストレージ内容の表示表現。デバッグ目的で使用される。

dynamic server switching (動的サーバー切り替え) アクティブなサーバーでシステム障害が発生した場合、サーバープロセッサを切り替える機能。

E

ECART Enhanced Capacity Cartridge (拡張機能カートリッジ)

EDL 「使用可能デバイスリスト」を参照

Enhanced Capacity Cartridge (拡張機能カートリッジ) 36 トラックトランスポート (4490、9490、9490EE) 専用の 1100 フィート長のカートリッジ。

Enterprise Systems Connection (ESCON) 光ケーブルを伝送媒体として使用し、動的な接続環境を提供する一連の製品およびサービス。(I)

EOT テープの最後 (End of Tape) マーカー。

EPO 非常電源切断 (Emergency Power Off)。

ERDS エラー記録データセット (Error Recording Data Set)。

EREP 環境記録、編集、印刷プログラム (Environmental Recording, Editing, Printing)。

ERP エラー回復手順。

error codes (EC: エラーコード) メッセージに表示される、エラーの発生原因の種類を示す数値コード。

error recovery procedures (ERP: エラーリカバリー手順) デバイスのエラーを隔離し、可能な場合はリカバリーを支援する手順。

ESCON Enterprise Systems Connection

esoteric name (エソテリック名) 同じデバイスタイプのトランスポートに割り振られる名前。

Ethernet (イーサネット) 様々なコンピュータを共通のシールド付き同軸ケーブルに接続する、バストポロジーによる LAN アーキテクチャ。イーサネットアーキテクチャは IEEE 802.3 標準規格と同様。

event control block (ECB: イベント制御ブロック) 処理の終了時、完了コードの保存領域を提供する。

ExPR エキスパートパフォーマンスレポーター (Expert Performance Reporter)。

F

File Transfer Protocol (FTP: ファイル転送プロトコル) TCP/IP を介して接続されているマシン間のファイル転送方法を提供する TCP/IP コマンド。

file (ファイル) 1 つの単位として取り扱われる一連の関連記録。

foreign socket (外部ソケット) TCP/IP 接続指向プロトコルの 2 つの終端の一端。サーバーに接続できる外部ホストのアドレスを示す。

G

GB 1,073,741,834 バイトのストレージ。

GDG (世代別データグループ) MVS データセットの命名規則。基本データセット名に通し番号を付けることによって、そのデータセットが作成された世代をたどれるようにする。

GTF (汎用追跡機能) ソフトウェアの機能とイベントをトレースするための MVS 機能。

H

handshake (ハンドシェイク) 1 つのプロセスから別のプロセスに送信される制御フロー信号。

HDA ヘッド/ディスク機構 (Head/disk assembly)。

helical cartridge (ヘリカルカートリッジ) 50GB の非圧縮データを記録できる、高容量のヘリカルスキャン方式のカートリッジ。RedWood (SD-3) トランスポート専用。

host computer (ホストコンピュータ) ネットワークで接続されている複数のコンピュータを制御するコンピュータ。

Host Software Component (HSC: ホストソフトウェアコンポーネント) ACS の機能を制御する LCS プロセッサ上で動作するソフトウェア。

HSC 「Host Software Component (ホストソフトウェアコンポーネント)」を参照。

HSM 階層記憶管理プログラム (Hierarchical Storage Manager)。

HTTP Hypertext Transfer Protocol (ハイパーテキスト転送プロトコル)。

HWS 最高水準設定 (High Watermark Setup)。JES3 で、テープトランスポートの割り振りのために設定されるチェーンに関する用語。

ICRC 「カートリッジ圧縮記録機能」を参照。

ID 識別子または識別。

IDAX (インタープリター動的割り振り出口) これは、要求されたデータセットの管理のためにDFSMS ACSルーチン呼び出すために、MVS JCLインタープリターと動的割り振り機能が発行するDFSMS/MVSサブシステム要求 (SSREQ 55) の副次機能である。

IEEE 802.3 IEEE によって策定され、世界的に普及している、CSMA/CD (Carrier Sense Multiple Access with Collision Detection) 方式のローカルエリアネットワーク向けの標準規格。

IML 「初期マイクロプログラムロード」を参照

initial program load (IPL: 初期プログラムロード) マシンリセットをアクティブ化するプロセス。

Interactive Storage Management Facility (対話型ストレージ管理機能) — DFSMS/MVS ストレージグループとクラスを定義する一連のアプリケーション。

Internet (インターネット) 仮想ネットワークとして動作する TCP/IP を用いる一連のネットワーク。

Internet address (インターネットアドレス) TCP/IP 通信用のネットワーク上で、ネットワークまたはホストを識別するために使用する付番方式。標準的なインターネットアドレスは、小数点付き 10 進数で示される。

Internet Protocol (IP: インターネットプロトコル) 2 つのネットワークがメッセージを交換する際に使用する正式なメッセージおよび規則の記述方式。

ISMF Interactive Storage Management Facility (対話型ストレージ管理機能)。

IVP インストール検査プログラム (Installation Verification Programs) ライブラリのインストール後に、ライブラリが正しく機能することを確認するためにユーザーが実行するプログラムパッケージ。

J

JCL 「ジョブ制御言語」を参照。

JES Job entry subsystem (ジョブ入力サブシステム)。(I)

JES2 システムへのジョブの受信、内部フォーマットへの変換、実行対象のジョブの選択、出力処理、システムからのページを行う MVS サブシステム。複数のプロセッサが装備されている場合、各 JES2 プロセッサは自身のジョブ入力を個々に制御/スケジューリング/出力処理する。JES3 も参照。(I)

JES3 システムへのジョブの受信、内部フォーマットへの変換、実行対象のジョブの選択、出力処理、システムからのページを行う MVS サブシステム。緩やかに結合されている処理ユニットから成るコンプレックスの場合、グローバルプロセッサがローカルプロセッサを集中管理し、共通のジョブキューを介してジョブを分配するよう、JES3 プログラムがこれらのプロセッサを管理する。JES2 も参照。(I)

L

LAN 「local area network (ローカルエリアネットワーク)」を参照。

LCS processor console (LCS プロセッサコンソール) ライブラリ制御システムのプロセッサコンソールを使用して、(VM ベースの LCS 用) VM オペレーティングシステムを制御する。

LCS 「Library Control System (ライブラリ制御システム)」を参照。

LCU 「Library Control Unit (ライブラリ制御ユニット)」を参照。

LIBGEN HSC に対してライブラリ構成を定義するプロセス。

library cartridge transport (ライブラリカートリッジトランスポート) 「transport (トランスポート)」を参照。

library complex (ライブラリコンプレックス) ライブラリコンプレックスは、1 つの HSC Control Data Set (CDS: 制御データセット) と、最大 256 個の Automatic Cartridge System (ACS: 自動カートリッジシステム) で構成され、各 ACS には最大 24 個の Library Storage Module (LSM: ライブラリストレージモジュール) を収容できる。

library control component (ライブラリ制御コンポーネント) ACS へのカートリッジのマウント/マウント解除を制御するソフトウェア。

library control platform (ライブラリ制御プラットフォーム) ライブラリ制御システム向けの適切な環境を整備するハードウェアとソフトウェア。

library control processor (ライブラリ制御プロセッサ) ライブラリ制御システムの運用を支援する、適切に構成されたコンピュータハードウェア。

Library Control Software (ライブラリ制御ソフトウェア) ライブラリ制御コンポーネント、クライアントシステムインタフェース、およびライブラリユーティリティー。

Library Control System (LCS: ライブラリ制御システム) ライブラリ制御プラットフォームとライブラリ制御ソフトウェア。

Library Control Unit (LCU: ライブラリ制御ユニット) ロボットの動作を制御する LSM の部分。

library database (ライブラリデータベース) 取り外し可能なメディアボリュームの位置や状態 (セルの位置やスクラッチ状態など) に関する情報を含むファイルまたはデータセット (別称「制御データセット (CDS: control data set)」)。

library drive (ライブラリドライブ) ACS 内のカートリッジドライブ。スタンダード型のカートリッジドライブと区別される。

Library Management Unit (LMU: ライブラリ管理ユニット) 1 つまたは複数の LSM/LCU の動作を調整するハードウェアおよびソフトウェア製品。

library mode (ライブラリモード) 4400 自動カートリッジシステムの一部を成す 4480 カートリッジサブシステムの運用を指し、オペレータがトランスポートにカートリッジを装着する「手動モード」と区別される。「manual mode (手動モード)」を参照。

Library Storage Module (LSM: ライブラリストレージモジュール) 標準 LSM (4410) は、12 面構造で、最大約 6000 本のカートリッジを収容する。ストレージセルと付属トランスポートの間でカートリッジを移動するビジョンシステム付きの自立型ロボットアームが備わっている。「PowderHorn」、「StreamLine SL8500」、「WolfCreek」も参照。

library (ライブラリ) 「TapePlex」を参照。

LibraryStation MVS ホストとクライアントシステムによる ACS 機能の共有を可能にするソフトウェア。

LMU 「Library Management Unit (ライブラリ管理ユニット)」を参照。

local area network (LAN: ローカルエリアネットワーク) 小規模 (ローカル) なエリア内のネットワーク。

local port (ローカルポート) TCP/IP 対応のホストプロセッサで利用できる特定のアプリケーションやプロセスの着信先。

local socket (ローカルソケット) TCP/IP 対応のホストのネットワークアドレスと、アプリケーションプロセス専用ポートのアドレスの組み合わせ。

logical port (LP: 論理ポート) クライアントシステムとインタフェースする CLS ソフトウェア。CLSLP は、クライアントシステムと VM/HSC の間でデータをやり取りする際に使用するソフトウェアコンポーネント。

LP 「logical port (論理ポート)」を参照。

LSM number (LSM 番号) LSM を識別する方法。LIBGEN の実行中に SLIACS マクロ LSM パラメータを定義すると生成される。このパラメータに最初に表示される LSM に LSM 番号 00 (16 進数)、2 番目の LSM に番号 01 が割り振られることにより、すべての LSM が識別される (番号は最大 24、または 16 進数の 17 まで)。

LSM 「Library Storage Module (ライブラリストレージモジュール)」を参照。

LSM-id LSM 番号と ACS ID を連結して生成される。

M

manual mode (手動モード) ACS から独立した、カートリッジドライブの運用。「library mode (ライブラリモード)」を参照。

master LMU (マスター LMU) デュアル LMU 構成で、現在 ACS の機能を制御している LMU。

mixed configuration (異種混在構成) 手動モードおよびライブラリモードで、異なる種類のカートリッジドライブが混在している構成。

modem (モデム) アナログ伝送機能を介して、デジタルデータの伝送を可能にする装置。

multi-client (マルチクライアント) 複数 (同種または異種) のクライアントシステムが 1 つの LCS に接続されている環境。

MVS system console (MVS システムコンソール) MVS/CSC では、MVS システムコンソールを介して、オペレータインタフェースが提供される。

O

OCR label (OCR ラベル) 光学式文字認識 (Optical character recognition) ラベル。カートリッジの背に添付されている、人間にもマシンにも読み取れる形式の外部ラベル。

operating system (OS: オペレーティングシステム) 全体的なシステムの運用を促進するプログラムの実行を制御するソフトウェア。

operator console (オペレータコンソール) このドキュメントでは、MVS クライアントシステムのコンソールを指す。

P

PARMLIB 制御文 (PARMLIB control statements) パラメータライブラリ (PARMLIB) 制御文を使用すると、HSC 初期化時に有効なさまざまな稼働パラメータを静的に指定できる。システムの要件を確認してから適切な制御文を指定することで、使用データセンターに合わせて HSC をカスタマイズできる。

Pass-thru Port (PTP: パススルーポート) 複数の LSM を備えた ACS 環境で、1 つの LSM から別の LSM へ、カートリッジを移動させるメカニズム。

physical port (物理ポート) サーバーとクライアントのリンクをサポートするために必要な通信用ハードウェア。

physical volume (物理ボリューム) 物理的に関連付けられているデータファイルメディアの単位。「cartridge (カートリッジ)」を参照。

PowderHorn (9310) 標準 LSM の高性能バージョン。

pre-configured package (事前構成済みパッケージ) ベンダーが用意したすべてのハードウェア、ソフトウェア、構成パラメータ設定が同梱されているストレージサーバーパッケージ。

product change request (PCR: 製品変更依頼) 製品の機能拡張に関する依頼。通常、この依頼はクライアントから寄せられるが、オラクルが提出する場合もある。

program temporary fix (PTF: プログラム一時修正) 1 つまたは一連の不具合を修正するためにリリースされるソフトウェア。

program update tape (PUT: プログラム更新テープ) MVS/CSC システムソフトウェアの更新や新バージョンを含む 1 つまたは複数のテープ。

protocol (プロトコル) 2 台以上のマシン間がメッセージを交換する場合に従わなければならないメッセージフォーマットと規則の正式な記述方式。

PTF 「プログラム一時修正」を参照。

PTP 「パススルーポート」を参照。

PUT 「プログラム更新テープ」を参照。

R

RACF 「リソースアクセス管理機能」を参照。

recovery (リカバリー) サーバーシステムの障害を自動処理または手動で修復するプロセス。

reel-id (リール ID) 特定のテープボリュームの ID。ボリュームシリアル番号 (VOLSER) と同じ。

request (要求) テープ関連の機能を実行するよう、4400 ACS に対して発行されるコマンドを表す用語。

RTD 「実テープドライブ」を参照。

S

scratch tape subpool (スクラッチテープサブプール) すべてのスクラッチテープの定義済みサブセット。サブプールは、物理特性 (ボリュームタイプ、つまりリールまたはカートリッジ、リールサイズ、リール長、物理的な位置など) が似通った 1 つまたは複数の **volser** で構成される。インストール状況によっては、ラベルタイプなどのほかの特性によって、スクラッチプールがさらに細分化されている場合がある。

scratch tape (スクラッチテープ) 所有しているユーザーがいらないため、あらゆるユーザーが使用できるテープ。

SD-3 Oracle StorageTek 製のヘリカルカートリッジトランスポート (「RedWood」とも呼ばれる)。

SER ソフトウェア拡張要求 (Software Enhancement Request)。

SMP システム修正変更プログラム (System Modification Program)。

SMP/E 拡張システム修正変更プログラム (System Modification Program Extended)。

SMS システム管理記憶方式 (System Managed Storage)。

socket (ソケット) ネットワーク上の固有アドレスと、ノードアドレス、および特定のネットワーク上の特定のアプリケーション ID を組み合わせたもの。TCP/IP で使用される抽象概念。

SPE 小規模なプログラミング機能拡張 (Small Programming Enhancement)。

standard capacity cartridge (標準容量のカートリッジ) 水平方式のあらゆるトランスポート (4480、4490、9490、9490EE) で使用できるカートリッジ。

standby LMU (スタンバイ LMU) デュアル LMU 構成で、マスター LMU に障害が発生した場合や、オペレータによって SWITCH コマンドが発行された場合に、引き継ぎを行う準備が整っている冗長 LMU。

standby (スタンバイ) デュアル LMU ACS 構成で、オンラインになっているが、スタンバイ LMU に接続されている端末の状態。

station (端末) ホストコンピュータと LMU の間のハードウェアパス。VM/HSC と LMU は、このパスを介して、制御情報を送信する。

storage server (ストレージサーバー) 異種システムが混在しているコンピュータシステムで、自動テープカートリッジライブラリサービスを使用できるようにするための一連のハードウェアおよびソフトウェア製品。

switchover (引き継ぎ) スタンバイ LMU がマスター LMU の機能を引き継ぐこと。

synchronous LAN (同期 LAN) 同期通信上に構築されているローカルエリアネットワーク。

synchronous (同期) 「BISYNC」を参照。

sysplex (シスプレックス) お客様の作業負荷を処理するため、特定のマルチシステムハードウェアコンポーネントとソフトウェアサービスを介して相互通信し、協働する一連の MVS システム。(I)

Systems Network Architecture (SNA: システムネットワークアーキテクチャ)
ネットワークの構成と運用を制御し、ネットワークを介して情報ユニットを伝送するための論理構成、フォーマット、プロトコル、および運用シーケンスを記述したもの。

T

tape drive (テープドライブ) 1 つのキャビネット内に最大 4 つのトランスポートを収容するテープ処理デバイス。1 つのドライブが個々のトランスポートを指す場合もある。

tape library management system (TLMS: テープライブラリ管理システム) このドキュメントでは、TLMS は、CA-1 ではなく、テープライブラリ管理システムを指す。

TapePlex 以前の「ライブラリ」で、単一の Oracle StorageTek ハードウェア構成。通常は単一の HSC 制御データセット (CDS) で表される。TapePlex には、複数の自動カートリッジシステム (ACS) と仮想テープストレージサブシステム (VTSS) が含まれる場合があります。

TCP/IP Transmission Control Protocol/Internet Protocol (伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル)。

trace event type (トレースイベントタイプ) トレーシングが有効になっている場合に、システムを通じてトレースされるイベントの種類。

trace file (トレースファイル) システムのデバッグに有用な情報が含まれているファイル。

transaction (トランザクション) 特定プロセスの実行をトリガーする特定の一連入力。

Transmission Control Protocol (TCP: 伝送制御プロトコル) 全二重ストリームサービスを提供するネットワーク間の標準プロトコル。

transport (トランスポート) テープのスレッド化や配置、テープからの読み込み、テープへの書き込みに使用する電気機械デバイス。

U

UCB Unit Control Block (ユニット制御ブロック)。

userid (ユーザー ID) 「VM userid」とも呼ばれ、特定の「仮想マシン」のユーザーまたはクライアントを識別する名前。

utility (ユーティリティー) コンピュータシステムの主機能に付随している補助機能を実行するプログラム。

V

virtual machine (VM: 仮想マシン) コンピュータと関連デバイスの機能のシミュレーション。各仮想マシンは、適切なオペレーティングシステムによって制御される。

Virtual Storage Manager (VSM) メディアやトランスポートの用途を向上させるため、VTSS バッファ内のボリュームやトランスポートを仮想化するストレージソリューション。ハードウェアには、DASD バッファである VTSS と RTD がある。ソフトウェアには、VTCS、HSC ベースのホストソフトウェア、および VTSS マイクロコードが含まれる。

virtual storage (仮想ストレージ) プログラムでの必要に応じて、メインストレージ要求がセグメント (またはページ) 別に割り振られることにより、無制限または仮想上のストレージが存在するように見せる OS の機能。

Virtual Tape Storage Subsystem (VTSS: 仮想テープストレージサブシステム) 仮想ボリューム (VTV: virtual volume) と仮想ドライブ (VTD: virtual drive) を擁する DASD バッファ。VTSS は、トランスポートのエミュレーションを可能にするマイ

クロコードを備えた STK RAID 6 ハードウェアデバイスである。RAID デバイスである VTSS は、「テープ」データのディスクからの読み取りとディスクへの書き込み、そのデータの RTD からの読み取りと RTD への書き込みを実行できる。

Virtual Telecommunications Access Method (VTAM: 仮想通信アクセス法) IBM ホストに常駐する、通信のための共通インタフェースとして機能する通信ソフトウェア。

volume serial number (VOLSER: ボリュームシリアル番号) 物理ボリュームの ID。

volume (ボリューム) 1 つの単位として、マウントまたはマウント解除されるテープカートリッジ (データキャリア)。

VSM 「Virtual Storage Manager」を参照。

VTCS 「仮想テープ制御システム」を参照。

VTD 「仮想テープドライブ」を参照。

W

WolfCreek (9360) 標準 LSM よりも小さい容量の高性能 LSM。

WTM 「テープマーク書き込み」を参照。

WTO オペレータへの書き込み (Write?to?Operator)。

WTOR 応答付きオペレータへの書き込み。

X

XCF Cross-system coupling facility (システム横断結合機能)。

Z

ZCART より薄型のメディアを使用し、拡張容量 (ECART) カートリッジの 2 倍の容量を提供する追加拡張容量のカートリッジ。このカートリッジは、2200 フィート長で、TimberLine 9490EE の 36 トラックトランスポート専用。

あ

アーカイブ (archiving) バックアップファイルと関連ジャーナルを保存すること。通常は一定期間保存される。

アクセス方式 (access method) 主記憶デバイスと入出力デバイスとの間でデータを転送するための技術。

い

イジェクト (eject) 操作員は、LSM ロボットによってカートリッジアクセスポート (CAP) に置かれたカートリッジをイジェクトする。

異常終了 (abend) ソフトウェアまたはハードウェア障害が原因で、コンピュータ処理中のタスクが中断すること。

インデックス (index) カートリッジローダーの機能。入力スタックまたは出力スタック内でカートリッジを特定のカートリッジ位置へ移動する。ローダーは連続した複数のインデックスを実行できる。

え

エキスパートパフォーマンスレポーター エキスパートパフォーマンスレポーターは、パフォーマンスデータを収集して、Oracle StorageTek Nearline ACSs に関するレポートや VTSS の状況およびパフォーマンスに関するレポートを生成する。エキスパートパフォーマンスレポートには、MVS コンポーネントと PC コンポーネントが 1 つずつ含まれる。

か

改良カートリッジ記録機能 (ICRC) 1/2 インチカートリッジの記録容量を拡大する圧縮/圧密機能。

拡張 CAP (enhanced CAP) 拡張 CAP は、40 セルマガジンスไตล์ CAP が 2 つと、1 セル優先 CAP (PCAP) を持つ。40 セル CAP はそれぞれ、10 のセルを持つ取り外し可能なマガジンを 4 つ保持している。拡張 CAP が装備された LSM アクセスタブには、カートリッジ格納のためのセルはない。拡張 CAP は、部品番号 CC80 で注文できる(「Cartridge AccessPort (CAP)」、「標準 CAP」、「WolfCreek CAP」、「WolfCreek オプション CAP」も参照)。

仮想サムホイール (virtual thumbwheel) 物理的に書き込み保護されていないボリュームに対して、読み取り専用でアクセスできるようにする HSC の機能。

仮想テープ制御システム (VTCS) VTSS、VTV、RTD、MVC に関する情報や動作を制御する基本ホストコード。

仮想テープドライブ (Virtual Tape Drive: VTD) VTSS 内の物理トランスポートのエミュレーション。VTD へ書き込まれたデータは、実際には DASD へ書き込まれる。VTSS には、VTV の仮想マウントを行う 64 の VTD がある。

仮想テープボリューム (Virtual Tape Volume: VTV) オペレーティングシステムからは実テープボリュームとして認識される DASD バッファー。データは VTV に書き込まれ、VTV から読み取られる。また、VTV を実テープへマイグレーションしたり、実テープからリコールすることもできる。

き

強制マイグレーション (demand migration) 管理者が VT MIGRATE コマンドを使用して実行する、MVC への VTV のマイグレーション。

強制リクレーム (demand reclaim) 管理者が VT RECLAIM コマンドを使用して実行する、MVC スペースのリクレーム処理。

強制リコール (demand recall) 管理者が VT RECALL コマンドを使用して実行する、VTSS への VTV の呼び戻し。

く

クライアントシステム LCS が Oracle StorageTek Automated Cartridge System へのインタフェースを提供するシステム。

クライアントシステムコンポーネント (CSC) クライアントコンピューティングシステムのオペレーティングシステムと、Oracle StorageTek Library Control System (LCS) の間にインタフェースを提供するソフトウェア。

クラスター Clink パスによって物理的に接続された 2 つの VTSS であり、CONFIG では 1 つのクラスターとして定義される。クラスターは、プライマリ VTSS およびセカンダリ VTSS によって構成される。複製の属性が付いた VTV は、マウント解除後すぐにプライマリからセカンダリへコピーされる。

クラスターリンク 1 つのクラスターにおけるプライマリ VTSS とセカンダリ VTSS 間のパス。Clink パスは、プライマリからセカンダリへの複製された VTV のコピーに使用される。

け

形式 (format) データメディアにおけるデータの構成やレイアウト。

サーバー HSC などの NCS ライブラリ制御システム。SMC で、サーバーは、指定の TAPEPLEX に対して、指定の SERVER パスによって表される。HTTP サーバーソフトウェアコンポーネントは、遠隔ホストのミドルウェアとして要求されるのに対し、サーバーは SMC に関する限りでは、遠隔ホストで動作する NCS ライブラリ制御システム。

再統合 プライマリまたはセカンダリがオフラインになってから、クラスターが再び確立されたときに開始される自動処理。再統合により、複製された VTV に関してプライマリとセカンダリのコンテンツが確実に同じになる。

実テープドライブ (Real Tape Drive:RTD) LSM に接続している物理トランスポート (9490、SD-3、または 9840)。トランスポートは 1 つの VTSS へのデータ経路を持つ。また、MVS やほかの VTSS へのデータ経路を持つこともできる。

自動マイグレーション (automatic migration) VSM によって自動的に開始、制御される VTV の MVC へのマイグレーション。

自動マイグレーション限界値 (automatic migration threshold: AMT) 仮想テープボリュームのマイグレーションの開始時期と終了時期を決定するパーセント値。VTV マイグレーションは、VTSS バッファが上限 AMT に達すると開始され、下限 AMT を下回ると終了する。この上限値と下限値は、すべての VTSS に適用される。

自動リクレーム (automatic reclaim) VSM によって自動的に開始され制御される、MVC スペースのリクレーム処理。

自動リコール (automatic recall) VSM によって自動的に開始、制御される、VTSS への VTV のリコール処理。

ジャーナル (journal) ジャーナル処理に関連するログ。データセットに格納されているこのログには、最新のバックアップが作成された時点以降に完了した処理や制御データセットの変更内容が記録されている。

ジャーナル処理 (journaling) 回復手法の 1 つ。データセットの変更 (トランザクション) すべてを対象としたログの管理や、バックアップ制御データセットの作成を行う。

従来のトランスポート RTD として VSM に定義されていない HSC が制御するトランスポート。

使用可能デバイスリスト (eligible device list) 割り振り要求に対応できるテープドライブのリスト。

小規模なプログラミング機能拡張 (Small Programming Enhancement: SPE) リリース済みプログラムへの機能の追加。複数の製品やコンポーネントに影響する場合がある。

初期マイクロプログラムロード (IML) マシンリセットを起動するプロセス。

ジョブ制御言語 (JCL) オペレーティングシステムに対してジョブの処理要求を記述するために開発された問題解決型の言語。

す

ストレージ管理コンポーネント (SMC) IBM の z/OS オペレーティングシステムと Oracle StorageTek の実際のテープハードウェアおよび仮想テープハードウェアとのソフトウェアインタフェース。SMC は ELS ソリューションのために割り振り処理、メッセージ処理、および SMS 処理を実行する。

ストレージクラス (storage class) データセットのパフォーマンス目標や可用性の要件を識別する記憶属性の名前付きリスト。SMS ストレージクラスは、VSM ストレージクラスとは異なる。

ストレージグループ (storage group) 記憶管理責任者によって定義された記憶ボリュームと属性の集まり。この SMS の概念であり、VSM の概念ではない。

せ

制御データセット回復域 (control data set recovery area) CDS の一部分。複数の CDS ブロックに影響する更新で整合性を維持するために使用される。

制御データセットサブファイル (control data set subfile) CDS の一部分。関連情報が格納されているデータブロックとポインタブロックからなる。

制御データセットデータブロック (control data set data blocks) ライブラリとその構成または環境に関する情報が格納されている CDS ブロック。

制御データセットディレクトリ (control data set directory) CDS の一部。下位区分をサブファイルにマップする。

制御データセットポインタブロック (control data set pointer blocks) サブファイル内にあるマップデータブロックを指し示すポインタが格納されている CDS ブロック。

制御データセット割り振りマップ (control data set allocation map) 各ブロックが、使用中であるかまたは未使用であることを示す CDS サブファイル。

セカンダリ クラスタを構成する 2 つの VTSS のうちの 1 つであり、CONFIG 内でセカンダリとして指定されている VTSS。通常操作では、セカンダリは複製された VTV のコピーを受信および格納し、そのあとすぐに MVC 上でマイグレーションコピーを作成する。

ち

チェック (check) エラー条件が検出されること。

チャンネルアドレスワード (Channel Address Word: CAW) 記憶域内の 1 領域で、主記憶装置内のチャンネルプログラム開始位置を指定する領域。

て

データ (data) 何らかの意味が与えられている、あるいはその可能性があるあらゆる表現。文字またはアナログ量などによって表わされる。

データ圧縮 (data compaction) ホストからのデータを符号化して、符号化しない場合より少ない容量で保存する、アルゴリズムによるデータ縮小技術。符号化前のデータは、デコンパクションという逆のプロセスで復元される。

データ圧縮率 (data-compaction ratio) ホストデータのバイト数を符号化したバイト数で割ったもの。データ圧縮率は、処理されるデータの性質によって異なる。データストリームがランダムであるほど、圧縮が難しくなる。

データクラス (data class) 割り振り属性およびスペース属性の集まり。記憶管理責任者によって定義され、データセットの作成に使用される。

データストリーミング (data streaming) 特定の形式を使って、文字または 2 進数で送られる連続したデータの流れ。

データ制御ブロック (Data Control Block: DCB) アクセスルーチンがデータの格納や取り出し時に使用する制御ブロック。

データパスアダプター クライアントコンピューティングシステムのデータプロトコルを、Oracle StorageTek 制御ユニットまたは IMU のデータプロトコルに変換するハードウェアデバイス。一例として、DEC の TC44-AA/BA STI から 4400 ACS へのインターコネクトがある。

テープマーク書き込み (Write Tape Mark: WTM) テープに特別な磁気マークを記録するための操作。この磁気マークによって、テープ上の位置が識別される。

ディスクバッファ使用率 (disk buffer utilization: DBU)VTSS バッファ容量全体に対する使用容量の割合。

と

動的デバイス再構成 (Dynamic Device Reconfiguration: DDR) ジョブを異常終了させたり、初期プログラムロード手順を繰り返すことなく、マウント解除可能なボリュームを移動し、必要に応じて別デバイスに割り振る機能。

ドライブ除外 (以前の呼称は「*device separation* (デバイス分離) 」) SMC 除外条件に基づいて、ドライブを割り振り対象から除外する、SMC の機能。

ドライブ優先度 (以前の呼称は「*directed allocation* (指示割り振り)」) ボリューム位置などの割り振り条件に基づいて、特定のドライブを優先的に選択する SMC の機能。

ドレイン (drain) MVC からのデータの削除。MVC がリクレームされないようにするため、ドレインとともに「仮想」イジェクトが行われることもある。

は

バッファー (buffer) デバイス間でデータが転送される際に、データフローの速度差やイベントの発生時間差を補うために使用されるルーチンまたは記憶域。

ふ

複製 1 つのクラスター内で、複製された VTV をプライマリ VTSS からセカンダリ VTSS にコピーすること。VTV の複製が完了すると、1 つはプライマリ、もう 1 つはセカンダリに、合計で 2 つの VTV が存在することになる。

複製 VTV マネージメントクラス文によって複製の属性が付けられた VTV。

プライマリ クラスターを構成する 2 つの VTSS のうちの 1 つであり、CONFIG 内でプライマリとして指定されている VTSS。通常操作では、プライマリはホストのワークロードを処理し、複製された VTV をセカンダリへコピーする。

ブロック (block) 1 つの単位として記録された、連続レコードの集まり。ブロックはブロック間隔によって区切られる。各ブロックには、1 つまたは複数のレコードが格納されている。

ほ

保護ファイル (file protected) 読み取り専用のテープボリュームについて使われる用語。読み取り専用テープボリュームでは、データの書き込みやデータの消去はできない。

ホスト間回復処理 (cross-host recovery) あるホストで障害が発生した場合に、別のホストが回復処理を行う機能。

ま

マイグレーション (migration) VTSS から RTD への VTV の移動。RTD では、VTV が MVC へスタックされる。「自動マイグレーション」および「強制マイグレーション」を参照。

マネージメントクラス (management class) 管理属性の集まり。これらの属性は記憶管理者によって割り当てられ、データセット内でのスペースの割り振りや用途を制御するために使用される。SMS マネージメントクラスは、VSM マネージメントクラスとは異なる。

マルチボリュームカートリッジ (Multi-Volume Cartridge: MVC) LSM 内に存在する物理テープカートリッジ。マイグレーションされた複数の仮想テープボリューム (VTV) が格納されているか、あるいは VTV スタック用に選択可能なボリュームとして識別される。

め

メディア容量 (media capacity) 格納メディアに保存できるデータの容量を、バイト単位で表わしたもの。

ゆ

有効記録密度 (Effective Recording Density) 記録メディアの単位長当たりのユーザーバイト数。

よ

要求割り振り (demand allocation) ユーザが特定のデバイスに対して要求したことを意味する MVS の用語。

容量 (capacity) 「メディア容量」を参照

り

リクレイム (reclaim) MVC スペースリクレイム処理に関する用語。自動リクレイムおよび強制リクレイムを実行する場合、VTCS では MVC 上で断片化されている空き領域の容量と、移動する必要がある VTV データの量に基づいて、スペースリクレイム処理が必要かどうかを判別される。

リコール (recall) VTV を MVC から VTSS へ戻すこと。自動で行われる場合と要求に応じて行われる場合がある。

リソースアクセス管理機能 (Resource Access Control Facility: RACF) データセットへのアクセスを制御するセキュリティソフトウェア。

ろ

ロードされたドライブ (drive loaded) テープカートリッジがドライブに挿入され、テープがテープ開始位置に装着されているテープドライブの状態。

論理イジェクト (logical ejection) LSM からボリュームを物理的に取り出すことなく、制御データセットからボリュームを取り外すプロセス。

数字

2 次記録 (secondary recording) 回復方法の 1 つ。制御データセットとそのコピー (2 次) の管理などが行われる。

802.3 「IEEE 802.3」を参照。

3270 IBM 製の同期、ブロックモード、半二重端末。IBM 370 および関連マシンとの併用向け。

3270 protocol (3270 プロトコル) IBM メインフレーム上で 327x CRT をサポートする通信プロトコル。

3274 ACS で、プロセッサと LMU の間の通信に使用する端末制御ユニット。

3480 IBM 製 18 トラック 1/2 インチカートリッジテープドライブモデル。

3490 IBM 製 36 トラック 1/2 インチカートリッジテープドライブモデル。

3590 128 トラック記録方式をサポートする、IBM 製の最新カートリッジテープドライブモデル。

4400 Automated Cartridge System (ACS: 自動カートリッジシステム) 完全な自動処理による、カートリッジベースの 18 トラックストレージおよび取得ライブラリ。4400 ACS は、1 - 256 個の LMU で構成され、各 LMU は 1 - 24 個の LSM に接続される。

4410 標準ライブラリストレージモジュール (LSM)。

4411 ライブラリ制御ユニット (LCU)。

4480 StorageTek 製 18 トラック 1/2 インチカートリッジトランスポート。

4480 カートリッジサブシステム StorageTek 製 4480 カートリッジサブシステムは、制御ユニット (CU) とカートリッジドライブ (CD) で構成される。

4490 StorageTek 製 ESCON サポート付き 36 トラックロングテープカートリッジトランスポート。(「Silverton」とも呼ばれる)。

4780 4480 と同じだが、IBM 製以外の特定のコンピュータ用。

8380 StorageTek DASD システム。

9310 標準 LSM (4410) の PowderHorn 高性能バージョン。

9360 WolfCreek、標準 LSM (4410) よりも小さい容量の高性能 LSM。

9490 StorageTek 製 36 トラックカートリッジトランスポート。(「TimberLine」とも呼ばれる)。

9490EE StorageTek 製 36 トラックカートリッジトランスポート。(「TimberLine EE」とも呼ばれる)。

9740 大規模なカートリッジトランスポートをサポートする StorageTek 製の小型 4 面ライブラリー。このライブラリーは、構成により、326 本または 494 本のカートリッジを収容できる。

SL3000 200 - 3,000 のカートリッジスロットをスケーラブルに備えた StorageTek 高性能ライブラリー。

SL8500 最大 70,000 のテープスロットを備え、29 テラバイトから 70 ペタバイトまでスケーラブルな StorageTek 高性能ライブラリー。

T9840A 9840A カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。

T9840B T9840B カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。

T9840C T9840C カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。

T9840D T9840D カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。

T9940A 60GB T9940A カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。

T9940B 200GB T9940B カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。

T10000A 120G バイトまたは 500G バイトの T10000A カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、StorageTek 製の大容量カートリッジトランスポート。

T10000B 240G バイトまたは 1T バイトの T10000B カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、StorageTek 製の大容量カートリッジトランスポート。

T10000C 1T バイトまたは 5T バイトの T10000C カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、StorageTek 製の大容量カートリッジトランスポート。

索引

A

ACTivities コマンド

- 構文, 174
- 説明, 174
- そのほかの JCL の必要条件, 176
- パラメータ, 175

ACTMVCGN コマンド

- 構文, 177
- 説明, 177
- そのほかの JCL の必要条件, 178
- パラメータ, 178

ALLOCDef コマンド

- 構文, 66
- 説明, 66
- パラメータ, 67

ALLOCJob コマンド

- 構文, 72
- 説明, 72
- パラメータ, 73

ARCHive コマンド

- 構文, 179
- 説明, 179
- パラメータ, 179
- レポート, 181

AUDit コマンド

- 構文, 186
- 説明, 185
- レポート, 191
- レポートメッセージ, 192

B

BACKup コマンド

- 構文, 195
- 説明, 195
- そのほかの JCL の必要条件, 196
- パラメータ, 196

Base サービスレベル。SRVlev コマンドで開始します。 , 567

C

CANcel コマンド

- 構文, 197
- 説明, 197
- パラメータ, 197

CAPPref コマンド

- 構文, 198
- 説明, 198
- パラメータ, 199

CAP の値, 707

CDSData コマンド

- 構文, 203
- 説明, 203
- パラメータ, 203

CDSDEF コマンド

- 構文, 205
- 説明, 205
- パラメータ, 205

CDs コマンド

- 構文, 201
- 説明, 201
- パラメータ, 201

CLean コマンド

- 構文, 207
- 説明, 207
- パラメータ, 207

CMDDef コマンド

- 構文, 76
- 説明, 76
- パラメータ, 76

COMMPath コマンド

- 構文, 209
- 説明, 208
- パラメータ, 210

COMMtest コマンド

- 構文, 77
- 説明, 77
- パラメータ, 78

CONFIg コマンド

CLINK 文

- 構文, 235
- 説明, 235
- パラメータ, 236

CLUSTER 文

- 構文, 234
- 説明, 234
- パラメータ, 234

GLOBAL 文

- 構文, 215
- 説明, 215
- パラメータ, 216

HOST 文

- 構文, 238
- 説明, 238
- パラメータ, 238

MVCVOL 文

- 説明, 225

RECLAIM 文

- 構文, 223
- 説明, 223
- パラメータ, 223

RTD 文

- 構文, 229
- 説明, 229
- パラメータ, 229

TAPEPLEX 文

- 構文, 239
- 説明, 239
- パラメータ, 239

VTD 文

- 構文, 232
- 説明, 232
- パラメータ, 232

VTSS 文

- 構文, 226
- 説明, 226
- パラメータ, 226

VTVOL 文

- 説明, 224

構文, 212

説明, 212

- パラメータ, 213

CONSolid コマンド

構文, 241

説明, 241

- パラメータ, 241

レポート, 242

D

DEComp コマンド

構文, 244

出力, 245

説明, 244

- パラメータ, 244

DELETSCR コマンド

構文, 247

説明, 247

- そのほかの JCL の必要条件, 249

- パラメータ, 248

- レポート, 249

DIRBLD コマンド

構文, 250

説明, 250

- パラメータ, 250

DISMount コマンド

構文, 251

説明, 251

- パラメータ, 251

Display DRive コマンド (SMC)

構文, 80

説明, 80

- パラメータ, 81

Display RC コマンド (SMC)

構文, 83

説明, 83, 85

- パラメータ, 83

Display Volume コマンド (SMC)

構文, 85

- パラメータ, 85

Display コマンド (HSC/VTCS)

Display AcS

構文, 254

説明, 254

- パラメータ, 254

Display ACTive

構文, 256

出力, 256

説明, 256

- パラメータ, 256

Display ALI

構文, 263

説明, 263

Display ALLOC

構文, 264

説明, 264

Display Cap

構文, 265

出力, 266

説明, 265

- パラメータ, 265
- Display CDS
 - 構文, 267
 - 説明, 267
- Display CLInk
 - 構文, 268
 - 出力, 268
 - 説明, 268
- Display CLUster
 - 構文, 271
 - 出力, 271
 - 説明, 271
- Display CMD
 - 構文, 274
 - 説明, 274
 - パラメータ, 274
- Display COMMPath
 - 構文, 275
 - 説明, 275
 - パラメータ, 275
- Display CONFIG
 - 構文, 276
 - 出力, 277
 - 説明, 276
- Display DRives
 - 構文, 280
 - 説明, 280
 - パラメータ, 280
- Display EXceptns
 - 構文, 283
 - 出力, 284
 - 説明, 283
 - パラメータ, 283
- Display FEATures
 - 構文, 286
 - 説明, 286
- Display LMUPDEF
 - 構文, 287
 - 説明, 287
- Display LOCKs
 - 構文, 288
 - 出力, 288
 - 説明, 288
- Display Lsm
 - 構文, 290
 - 出力, 291
 - 説明, 290
 - パラメータ, 290
- Display Message
 - 構文, 292
 - 説明, 292
 - パラメータ, 292
- Display MGMTDEF
 - 構文, 293
 - 説明, 293
- Display MIGrate
 - 構文, 294
 - 出力, 296
 - 説明, 294
 - パラメータ, 294
- Display MIGrate AUTO
 - 出力, 298
- Display MIGrate DELAY
 - 出力, 298
- Display MIGrate DETail
 - 出力, 297
- Display MNTD
 - 構文, 299
 - 説明, 299
- Display MONitor
 - 構文, 300
 - 説明, 300
 - パラメータ, 300
- Display MVC
 - 構文, 301
 - 出力, 301
 - 説明, 301
 - パラメータ, 301
- Display MVCPool
 - 構文, 307
 - 出力, 308
 - 説明, 307
 - パラメータ, 307
- Display OPTion
 - 構文, 310
 - 説明, 310
- Display Queue
 - 構文, 311
 - 説明, 311
 - パラメータ, 311
- Display REPlicat
 - 構文, 312
 - 出力, 313
 - 説明, 312
- Display Requests
 - 構文, 314
 - 説明, 314
- Display RTD
 - 構文, 315
 - 出力, 316
 - 説明, 315
 - パラメータ, 315
- Display SCRatch
 - 構文, 319
 - 説明, 319

- パラメータ, 319
- Display SEN
 - イベント, 324
 - 構文, 323
 - 説明, 323
 - パラメータ, 323
- Display SERVER
 - 説明, 325
- Display SRVlev
 - 構文, 326
 - 説明, 326
- Display Status
 - 構文, 327
 - 出力, 327
 - 説明, 327
- Display STORCLas
 - 構文, 328
 - 出力, 329
 - 説明, 328
 - パラメータ, 328
- Display STORMNgr
 - 構文, 330
 - 説明, 330
- Display TASKs
 - 構文, 331
 - 説明, 331
- Display THReshld
 - 構文, 334
 - 説明, 334
 - パラメータ, 334
- Display Volser
 - 構文, 337
 - 出力, 338
 - 説明, 337
 - パラメータ, 337
- Display VSCRatch
 - 構文, 339
 - 説明, 339
- Display VTD
 - 構文, 341
 - 説明, 341
 - パラメータ, 341
- Display VTSS
 - 構文, 344
 - 出力, 345
 - 説明, 344
 - パラメータ, 344
- Display VTV
 - 構文, 350
 - 出力, 351
 - 説明, 350
 - パラメータ, 350
- 概要, 252

- DRAIn コマンド
 - 構文, 354
 - 説明, 354
 - パラメータ, 354
- DRIVemap コマンド
 - 説明, 86
 - パラメータ, 87
- DRTEST コマンド
 - DRTEST CREATE
 - 構文, 357
 - 説明, 356
 - そのほかの JCL の必要条件, 359
 - パラメータ, 358
 - DRTEST PRIMEprd
 - 構文, 361
 - 説明, 361
 - DRTEST RESET
 - 構文, 363
 - 説明, 363
 - DRTEST START
 - 構文, 364
 - 説明, 364
 - DRTEST STOP
 - 構文, 365
 - 説明, 365
 - オプション, 355

E

- EDTOX レポート、JES3 構成, 636
- EETOX レポート、JES3 構成, 634
- EEXPORT コマンド
 - 構文, 366
 - 説明, 366
 - パラメータ, 367
- EJect コマンド
 - 構文, 370
 - 説明, 369
 - パラメータ, 371
- ENter コマンド
 - 構文, 374
 - 説明, 374
 - パラメータ, 374
- EXECParm コマンド
 - 構文, 376
 - 説明, 376
 - パラメータ, 376
- EXPORT コマンド
 - 構文, 378
 - 説明, 378
 - そのほかの JCL の必要条件, 380
 - パラメータ, 379

EXTOD レポート、JES3 構成, 635
EXTOE レポート、JES3 構成, 633
EXTON レポート、JES3 構成, 632

F

FEATures コマンド

構文, 381
説明, 381
パラメータ, 381

FMTLOG コマンド

構文, 382
説明, 382
そのほかの JCL の必要条件, 382

H

HSC

オペレータコマンド, 173
制御文, 173

HTTP コマンド

構文, 88
説明, 88
パラメータ, 89

I

IDAX コマンド

構文, 91
説明, 91
パラメータ, 92

IMPORT コマンド

構文, 383
説明, 383
そのほかの JCL の必要条件, 385
パラメータ, 384

INITialize コマンド

構文, 386
説明, 386
そのほかの JCL の必要条件, 388
パラメータ, 387

INVENTORY コマンド

構文, 389
説明, 389
パラメータ, 390
リターンコード, 391
レポート, 392

J

JES3 構成レポートユーティリティー
(SMCUPJS), 631

L

LIBGen コマンド

構文, 393
出力, 394
説明, 393
そのほかの JCL の必要条件, 393

LlSt コマンド (SMC)

構文, 94
説明, 94
パラメータ, 94

LMUPATH 制御文

構文, 397
説明, 397
パラメータ, 397

LMUPDEF コマンド

構文, 395
説明, 395
パラメータ, 396

LOGUTIL コマンド

FOR_LOSTMVC 文
構文, 401
説明, 401
パラメータ, 401

GENAUDIT 文

構文, 403
説明, 403
パラメータ, 403

LOCATE_VTV 文

構文, 404
説明, 404
パラメータ, 404

UNDELETE 文

構文, 406
説明, 406
パラメータ, 406

構文, 399

説明, 399

パラメータ, 400

LOG コマンド

構文, 96
説明, 96
パラメータ, 97

LOOKUP イベントのトレース, 574

LSM 内のスクラッチボリュームを調整する, 519

M

MERGEcds コマンド

構文, 407
説明, 407
そのほかの JCL の必要条件, 409

- パラメータ, 408
 - MERGMFST コマンド
 - 構文, 413
 - 説明, 413
 - そのほかの JCL の必要条件, 413
 - パラメータ, 413
 - MGMTclas 制御文
 - 構文 (拡張), 422
 - 構文 (基本), 416
 - 説明, 416
 - パラメータ (拡張), 423
 - パラメータ (基本), 417
 - MGMTDEF コマンド
 - 構文, 414
 - 説明, 414
 - パラメータ, 415
 - MIGrate コマンド
 - 構文 (形式 1), 445
 - 構文 (形式 2), 447
 - 説明, 445
 - パラメータ (形式 1), 445
 - パラメータ (形式 2), 447
 - MIGRSEL 制御文
 - 構文, 427
 - 説明, 427
 - パラメータ, 427
 - MIGRVTV 制御文
 - 構文, 430
 - 説明, 430
 - パラメータ, 430, 432
 - MNTD コマンド
 - 構文, 448
 - 説明, 448
 - パラメータ, 449
 - MODel タイプ (MODel) の値, 704
 - MODify コマンド
 - 構文, 455
 - 説明, 454
 - パラメータ, 455
 - Modify コマンド、MVS, 59
 - MONitor コマンド
 - 構文, 99
 - 説明, 99
 - パラメータ, 100
 - MOUNTDef コマンド
 - 構文, 103
 - 説明, 102
 - パラメータ, 104
 - Mount コマンド
 - 構文, 458
 - 説明, 458
 - パラメータ, 459
 - MOVE コマンド
 - 構文, 462
 - 説明, 462
 - パラメータ, 463
 - MSGDef コマンド
 - 構文, 107
 - 説明, 107
 - パラメータ, 108
 - MSGJob コマンド
 - 構文, 110
 - 説明, 110
 - パラメータ, 111
 - MVCATTR 制御文
 - 構文, 432
 - 説明, 432
 - パラメータ, 432
 - MVCDRain コマンド
 - 構文, 465
 - 説明, 465
 - パラメータ, 466
 - MVCMaint コマンド
 - 構文, 468
 - 説明, 468
 - そのほかの JCL の必要条件, 471
 - パラメータ, 469
 - リターンコード, 472
 - レポート, 473
 - MVCP LRPT コマンド
 - 構文, 474
 - 説明, 474
 - パラメータ, 474
 - レポート, 476
 - MVCRPt コマンド
 - 構文, 482
 - 説明, 482
 - そのほかの JCL の必要条件, 484
 - パラメータ, 482
 - レポート, 484
- O**
- OFFload コマンド
 - LOGFILE
 - 構文, 492
 - 説明, 492
 - そのほかの JCL の必要条件, 493
 - パラメータ, 492
 - 説明, 491

OPTION TITLE 制御文

- 構文, 494
- 説明, 494
- パラメータ, 494

OPTion コマンド

- 構文, 495
- 説明, 495
- パラメータ, 496

P

PIITCOPY コマンド

- 構文, 500
- 説明, 500
- そのほかの JCL の必要条件, 501
- パラメータ, 500

POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティリ ティール (SMCUTRQ), 637

POLicy コマンド

- 構文, 115
- 説明, 113
- パラメータ, 116

POOLPARM 制御文

- 構文, 559
- 説明, 559
- パラメータ, 560

R

READ コマンド

- 構文, 124
- 説明, 124
- パラメータ, 124

RECall コマンド

- 構文, 502
- 説明, 502
- パラメータ, 503

RECLaim コマンド

- 構文, 504
- 説明, 504
- パラメータ, 504

RECONcil コマンド

- 構文, 506
- 説明, 506
- パラメータ, 507
- レポート, 509

RECover コマンド

- 構文, 513
- 説明, 513
- パラメータ, 513

RELease コマンド

- 構文, 514

説明, 514

パラメータ, 514

REPLaceall コマンド

- 構文, 515
- 出力, 515
- 説明, 515
- パラメータ, 515

RESTore コマンド

- 構文, 516
- 出力, 518
- 説明, 516
- そのほかの JCL の必要条件, 517
- パラメータ, 516

RESYNChronize コマンド

- 構文, 126
- 説明, 126
- パラメータ, 126

Route コマンド

- 構文, 127
- 説明, 127
- パラメータ, 127

RTV ユーティリティー

- JCL の必要条件, 687
- RTV LISTONLY の出力, 692
- RTV 圧縮解除の出力, 693
- 構文, 683
- 説明, 683
- パラメータ, 684
- レポートメッセージ, 688

S

SCRAtch コマンド

- 構文, 518
- 出力, 518
- 説明, 518
- パラメータ, 518

SCREdist コマンド

- 構文, 520
- 説明, 519
- パラメータ, 520

SENter コマンド

- 構文, 523
- 説明, 523
- パラメータ, 523

SERVer コマンド

- 構文, 129
- 説明, 128

SET TCHNIQE の手順, 553

SET コマンド

- SET CLNPRFX
 - 構文, 525
 - 説明, 525
 - 手順, 526
 - パラメータ, 525
- SET COMPRFX
 - 構文, 527
 - 説明, 527
 - パラメータ, 527
- SET DRVHOST
 - 構文, 529
 - 説明, 529
 - パラメータ, 529
- SET EJCTPAS
 - 構文, 530
 - 説明, 530
 - パラメータ, 530
- SET FREEZE
 - 構文, 531
 - 説明, 531
 - パラメータ, 531
- SET HOSTID
 - 構文, 533
 - 説明, 533
 - パラメータ, 533
- SET HSCLEVel
 - 説明, 534
 - パラメータ, 534
- SET LOGFILE
 - 構文, 535
 - 説明, 535
 - パラメータ, 536
- SET MAJNAME
 - 構文, 537
 - 説明, 537
 - パラメータ, 537
- SET MIGOPT
 - 構文, 538
 - 説明, 538
 - パラメータ, 538
- SET NEWHOST
 - 構文, 540
 - 説明, 540
 - パラメータ, 540
- SET RMM
 - 構文, 541
 - 説明, 541
 - そのほかの JCL の必要条件, 542
 - パラメータ, 541
- SET SCRLABL
 - 構文, 542
 - 説明, 542
- パラメータ, 542
- SET SLIDRIVS
 - 構文, 543
 - 説明, 543
 - 手順, 547
 - パラメータ, 544
- SET SLISTATN
 - 構文, 548
 - 説明, 548
 - パラメータ, 548
- SET SMF
 - 構文, 550
 - 説明, 550
 - パラメータ, 550
- SET TAPEPlex
 - 構文, 551
 - 説明, 551
 - パラメータ, 551
- SET TCHNIQ
 - 構文, 552
 - 説明, 552
 - 手順, 553
 - パラメータ, 552
- SET VAULT
 - 構文, 554
 - 説明, 554
 - パラメータ, 554
- SET VAULTVOL
 - 構文, 556
 - 説明, 556
 - パラメータ, 556
- SET VOLPARM
 - POOLPARM, 559
 - VOLPARM, 564
 - 構文, 557
 - 説明, 557
 - そのほかの JCL の必要条件, 558
 - パラメータ, 558
 - 説明, 524

SIMulate コマンド

- 構文, 133
- 出力, 135, 136
- 説明, 133
- パラメータ, 134

SL8500 ライブラリ

- パネル 0 と 1 の AUDIT, 188

SLICREAT ユーティリティー

- DD 文, 672
- JCL, 671
- 検査, 673
- 実行, 673
- 説明, 670

ほかの用法, 674
SLSMERGE 制御文
 構文, 410
 説明, 410
 パラメータ, 411
SLUADMIN ユーティリティ
 起動, 658
 実行パラメータ, 659
 出力, 663
 説明, 60, 658
 定義文, 661
 リターンコード, 668
SLUCONDB ユーティリティ, 675
SLUDR* のルーチン, 713
SLUDRCA1 ルーチン, 713
SLUDRRMM ルーチン, 714
SLUDRSMC ルーチン, 714
SLUDRTLML ルーチン, 715
SLUDRZAR ルーチン, 715
SMCUDBX ユーティリティ, 642
SMCUPJS ユーティリティ, 631
SMCUSIM ユーティリティ, 649
SMCUTRQ ユーティリティ, 637
SMCUUUI ユーティリティ, 622
SMSDef コマンド
 構文, 138
 説明, 137
 パラメータ, 138
SRVlev コマンド
 構文, 567
 説明, 567
 パラメータ, 567
STOPMN コマンド
 構文, 568
 説明, 568
 パラメータ, 568
STORclas 制御文
 構文, 434
 説明, 434
 パラメータ, 435
STORLST 制御文
 構文, 437
 説明, 437
 パラメータ, 437
STORSEL 制御文
 構文, 438
 説明, 438
 パラメータ, 438

SWitch コマンド
 構文, 569
 説明, 569
 パラメータ, 570

T

Tape Management Extract (SMCUDBX テープ管理抽出) ユーティリティ, 642

TAPEPlex コマンド
 構文, 144
 説明, 143
 パラメータ, 145

TAPEREQ 制御文
 構文, 158
 説明, 157
 パラメータ, 159

TCPIP コマンド
 構文, 147
 説明, 147
 パラメータ, 148

TMS インタフェース (SLUDR*) のルーチン, 713

TRACELKP コマンド
 概要, 574
 構文, 574
 説明, 574
 パラメータ, 574

TRace コマンド
 構文, 151, 572
 説明, 150, 572
 そのほかの JCL の必要条件, 574
 パラメータ, 152, 572

TREQDef コマンド
 構文, 155
 説明, 155
 パラメータ, 155

U

UEXIT コマンド
 構文, 577
 説明, 576
 パラメータ, 577

UEXit コマンド
 構文, 165
 説明, 164
 パラメータ, 165

UNITAttr コマンド
 構文, 168
 説明, 167
 パラメータ, 168

UNSCratch コマンド

構文, 579
説明, 579
パラメータ, 579

UNSElect コマンド

構文, 580
説明, 580
パラメータ, 581

USERMsg コマンド

構文, 171
説明, 171
パラメータ, 171

UII シミュレーションユーティリティー (SMCUSIM), 649

V

Vary コマンド

構文, 583
説明, 582
パラメータ, 584

View コマンド

構文, 587
説明, 587
パラメータ, 588

VOLPARM 制御文

構文, 564
説明, 564
パラメータ, 565

VOLPCONV コマンド

構文, 592
説明, 592
そのほかの JCL の必要条件, 593
パラメータ, 592

VOLRpt コマンド

構文, 594
説明, 594
そのほかの JCL の必要条件, 600
パラメータ, 595

VTAM 通信, 210

VTCS

オペレータコマンド, 173
制御文, 173

VTSSLST 制御文

構文, 440
説明, 440
パラメータ, 440

VTSSSEL 制御文

構文, 442
説明, 442
パラメータ, 443

VTVMaint コマンド

構文, 601
説明, 601
パラメータ, 602
リターンコード, 604
レポート, 605

VTVRPrt コマンド

BASIC
構文, 607
説明, 607
パラメータ, 607
レポート, 609

COPIES

構文, 612
説明, 612
パラメータ, 612
レポート, 614

概要, 606

VVAUDIT コマンド

構文, 616
説明, 616
パラメータ, 616

W

Warn コマンド

構文, 617
説明, 617
パラメータ, 618

い

イベント通知、使用可能, 498

か

カートリッジ

位置の表示, 337
スクラッチカートリッジが自動的に選択するかどうかを制御, 452

き

行の値, 710

記録方式 (RECtech) の値, 700

こ

構文

ACTIvities コマンド, 174
ACTMVCgn コマンド, 177
ALLOCDef コマンド, 66
ALLOcJob コマンド, 72
ARCHive コマンド, 179
AUDit コマンド, 186
BACKup コマンド, 195

CANcel コマンド, 197
 CAPPref コマンド, 198
 CDs コマンド, 201
 CLean コマンド, 207
 CMDDef コマンド, 76
 COMMPath コマンド, 209
 COMMtest コマンド, 77
 CONFIg CLINK 文, 235
 CONFIg CLUSTER 文, 234
 CONFIg GLOBAL 文, 215
 CONFIg HOST 文, 238
 CONFIg RECLAIM, 223
 CONFIg RTD 文, 229
 CONFIg TAPEPLEX 文, 239
 CONFIg VTD 文, 232
 CONFIg VTSS 文, 226
 CONFIg コマンド, 212
 CONSolid コマンド, 241
 DEComp コマンド, 244
 DELETSCR コマンド, 247
 DIRBLD コマンド, 250
 DISMounT コマンド, 251
 Display Acs, 254
 Display ACTive コマンド, 256
 Display ALL, 263
 Display ALLOC コマンド, 264
 Display Cap コマンド, 265
 Display CDS コマンド, 267
 Display CLInk コマンド, 268
 Display CLUster コマンド, 271
 Display CMD コマンド, 274
 Display COMMPath コマンド, 275
 Display CONFIg コマンド, 276
 Display DRives, 280
 Display DRive コマンド (SMC), 80
 Display EXceptns コマンド, 283
 Display FEATures コマンド, 286
 Display LMUPDEF コマンド, 287
 Display LOCKs コマンド, 288
 Display Lsm コマンド, 290
 Display Message, 292
 Display MGMTDEF コマンド, 293
 Display MIGrate コマンド, 294
 Display MNTD コマンド, 299
 Display MONitor コマンド, 300
 Display MVCPool コマンド, 307
 Display MVC コマンド, 301
 Display OPTion コマンド, 310
 Display Queue コマンド, 311
 Display RC コマンド (SMC), 83
 Display REPLICat コマンド, 312
 Display Requests コマンド, 314
 Display RTD コマンド, 315
 Display SCRatch コマンド, 319
 Display SEN コマンド, 323
 Display SRVlev コマンド, 326
 Display Status コマンド, 327
 Display STORCLas コマンド, 328
 Display STORMNgr コマンド, 330
 Display TASKs コマンド, 331
 Display THReshld コマンド, 334
 Display Volser コマンド, 337
 Display Volume コマンド (SMC), 85
 Display VSCRatch コマンド, 339
 Display VTD コマンド, 341
 Display VTSS コマンド, 344
 Display VTV コマンド, 350
 DRAin コマンド, 354
 DRIVemap コマンド, 86
 DRTEST CREATE コマンド, 357
 DRTEST PRIMEprd コマンド, 361
 DRTEST RESET, 363
 DRTEST START コマンド, 364
 DRTEST STOP コマンド, 365
 EEXPORT コマンド, 366
 Eject コマンド, 370
 ENter コマンド, 374
 EXECParm コマンド, 376
 EXPORT コマンド, 378
 FEATures コマンド, 381
 FMTLOG コマンド, 382
 IDAX コマンド, 91
 IMPORT コマンド, 383
 INITialize コマンド, 386
 INVENTORY コマンド, 389
 LIBGen, 393
 LIst コマンド (SMC), 94
 LMUPATH 制御文, 397
 LMUPDEF コマンド, 395
 LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文, 401
 LOGUTIL GENAUDIT 文, 403
 LOGUTIL LOCATE_VTV 文, 404
 LOGUTIL UNDELETE 文, 406
 LOGUTIL コマンド, 399
 LOG コマンド, 96
 MERGEcds コマンド, 407
 MERGMST コマンド, 413
 MGMTDEF コマンド, 414
 MIGrate コマンド (形式 1), 445
 MIGrate コマンド (形式 2), 447
 MIGRSEL 制御文, 427
 MNTD コマンド, 448
 MODify コマンド, 455
 MONitor コマンド, 99

MOUNTDef コマンド, 103
Mount コマンド, 458
MOVE コマンド, 462
MSGDef コマンド, 107
MSGJob コマンド, 110
MVCDRain コマンド, 465
MVCMAINT コマンド, 468
MVCPLRPT コマンド, 474
MVCRPt コマンド, 482
OFFload LOGFILE コマンド, 492
OPTION TITLE 制御文, 494
OPTion コマンド, 495
PITCOPY コマンド, 500
POLicy コマンド, 115
POOLPARM 制御文, 559
READ コマンド, 124
RECall コマンド, 502
RECLaim コマンド, 504
RECover コマンド, 513
RELease コマンド, 514
REPLaceall コマンド, 515
RESTore コマンド, 516
RESYNChronize コマンド, 126
Route コマンド, 127
SCRAtch コマンド, 518
SENter コマンド, 523
SERVer コマンド, 129
SET CLNPRFX コマンド, 525
SET COMPRFX コマンド, 527
SET DRVHOST コマンド, 529
SET EJCTPAS コマンド, 530
SET FREEZE コマンド, 531
SET HOSTID コマンド, 533
SET LOGFILE コマンド, 535
SET MAJNAME コマンド, 537
SET MIGOPT コマンド, 538
SET NEWHOST コマンド, 540
SET RMM コマンド, 541
SET SCLABL コマンド, 542
SET SLIDRIVS コマンド, 543
SET SLISTATN コマンド, 548
SET SMF コマンド, 550
SET TAPEPlex コマンド, 551
SET TCHNIQE コマンド, 552
SET VAULTVOL コマンド, 556
SET VAULT コマンド, 554
SET VOLPARM コマンド, 557
SIMulate コマンド, 133
SMSDef コマンド, 138
SRVlev コマンド, 567
STOPMN コマンド, 568

STORclas 制御文, 434
STORLST 制御文, 437
STORSEL 制御文, 438
SWitch コマンド, 569
TAPEPlex コマンド, 144
TAPEREQ 制御文, 158
TCPip コマンド, 147
TRACELKP コマンド, 574
TRace コマンド, 151, 572
TREQDef コマンド, 155
UEXIT コマンド, 577
UEXit コマンド, 165
UNITAttr コマンド, 168
UNSCratch コマンド, 579
UNSElect コマンド, 580
USERMMsg コマンド, 171
Vary コマンド, 583
Vlew コマンド, 587
VOLPARM 制御文, 564
VOLPCONV コマンド, 592
VOLRpt コマンド, 594
VTSSLST 制御文, 440
VTSSSEL 制御文, 442
VTVMaint コマンド, 601
VTVRPt BASIC コマンド, 607
VTVRPt COPIES コマンド, 612
VVAUDIT コマンド, 616
Warn コマンド, 617

し

重要イベント通知 (SEN) 機能
使用可能, 498

重要イベント通知 (SEN) 機能の使用可能化, 498

す

スクラッチサブプール 0, 118

スクラッチ変換ユーティリティ
(SLUCONDB), 675

せ

制御データセット (CDS)

使用可能, 201

使用不可, 202

制御データセットの拡張, 202

つ

通信、VTAM, 210

と

統合ユーザーインタフェースユーティリティ
(SMCUUUI), 622

ね

ネイティブ IP サポート, 235

は

パネル凍結の考慮事項

SET SLIDRIVS ユーティリティ, 544

パネルの値, 709

ひ

表記法

制御文, 38

表記法, 34

ふ

プログラム式インタフェース

移動要求の状況の表示, 300

め

メッセージ

AUDIT レポート, 192

大文字または大文字小文字の組合せによる表示, 497

メディアタイプ (MEDIA) の値, 695

メディア保証期限 (MWL), 338, 596, 598

ゆ

ユーティリティ

HSC

SLICREAT, 670

SLUADMIN, 60, 658

スクラッチ変換ユーティリティ

(SLUCONDB), 675

SMC

JES3 構成レポートユーティリティ (SMCUPJS), 631

POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティリティ (SMCUTRQ), 637

Tape Management Extract (SMCUDBX テープ管理抽出) ユーティリティ, 642

UUI シミュレーションユーティリティ (SMCUSIM), 649

統合ユーザーインタフェースユーティリティ (SMCUUUI), 622

VTCS

RTV ユーティリティ, 683

ユーティリティのリターンコードおよびメッセージ、SMC, 622

り

リターンコード

INVENTORY, 391

MVCMaint, 472

SMC ユーティリティ, 622

VTVMaint コマンド, 604

れ

例

EDTOX レポート, 636

EETOX レポート, 634

EXTOD レポート, 635

EXTOE レポート, 633

EXTON レポート, 632

列の値, 711

レポート

CONSolid, 242

DELETSCR, 249

INVENTORY コマンド, 392

MVCMaint コマンド, 473

MVCPLRPT コマンド, 476

MVCRPt コマンド, 484

RECONcil コマンド, 509

VTVMaint コマンド, 605

VTVRPt BASIC コマンド, 609

VTVRPt COPIES コマンド, 614

レポート、JES3 構成, 632

